

四を示し、湿度の如きも平均七七%にして多少北陸型を帯ぶ。本市は中仙道道分驛より分岐する北國街道の一驛善光寺として起り、また中仙道洗馬驛より岐る、北國西街道即ち善光寺街道も丹波島を経て又こゝに會するを以て、古來宿驛としても相當の賑を呈せしが、のち長野町となり、殊に明治二十一年信越本線の開通するに及び今の本市の區域に長野・吉田の二驛を置き、次いで明治三十三年には篠ノ井線の開通によりて南信地方との交通も容易となり、賽客に一層の便を與へたり。此外、社線長野電鐵の電車は長野驛構内に發して市内に權堂・善光寺下・信濃吉田の四驛を置き、川中島平野を東に進み千曲川を渡り、河東地方に交通の便を與へ、最近には社線善光寺白馬鐵道の電車ありて、裾花川に沿ひて西に向ひいま善光寺温泉に至る。その他バスは川中島平野の各都邑に通じ交通頗る便利なり。本市の一部は善光寺の門前として善光寺領たりしも、その餘は多くは松代藩の領内たり。明治維新後長野村と稱せしが、廢藩置縣後は長野縣のこの地に置かれ北信六郡を管し、明治九年筑摩縣を廢して長野縣に合するに及び、長野村は一躍信濃一國を管する官廳の所在地となり。同十一年郡區編制法の發布せらるるや長野町と稱す。同二十二年町村制の施行の際に、最寄の西長野町・南長野町・茂野村・鶴賀村を併合して、町域を擴大

す。同三十年市制を布き長野市となる。大正十二年隣接せる吉田町・三輪村・芦田村・古牧村の一町三箇村を合併して現在の區域となる。本市は佛都として一面信仰の中心たると共に信濃一國の行政上の中心なるを以て、諸官衙學校もこゝに集まり、縣立の女子專門學校・師範學校(男子)をはじめ、中學・高女・商業・工業・農業等の各種の中等學校、市立の實科高女・女子青年學校等ありて教育文化の中心をなし以て南信の松本市と相對立す。善光寺仁王門前の大通はこれを大門町と稱し、夫より稍東南に長野驛に向ふ緩傾斜の大通はこれを中央通と稱し、謂はゆる長野銀座とも稱すべき近代の街路にして旅館・商店兩側に櫛比し、大通りの西方は主として諸官衙學校の地區をなし、東方は主として商業地區たると共に娛樂地區をなす。(善光寺)元善町にあり。八宗兼學。本尊は信濃國の人本田善光が難波の堀江より持歸りしといふ一光三尊阿彌陀如來にして、皇極天皇即位元年こゝに伽藍を建立して安置せしにけじると傳ふ。此の阿彌陀如來は欲明天皇朝、百濟の聖明王より獻せられしものにて、伽藍には白雉五年四門四號の勅額を賜ふ。即ち東門を定額山善光寺、西門を不捨山淨土寺、南門を南命山無量壽寺、北門を北空山雲上寺といふ。往昔、本寺は東向せしも今は南門を定額山といふ。伽藍は前後十數度に互り東上せしがその

都度再建せらる。武田信玄の濃を略するや永祿年間本尊を甲斐に移し善光寺を營む、天正十年織田信長甲斐を略し本尊を取去りしが翌年これを復す。慶長二年豊臣秀吉本尊を取りて京都の方廣寺に安置せしが、翌年秀吉薨去してまた信濃に復すといふ。慶長六年徳川家康寺領一千石を寄す。現本堂は元祿火災後寶永年間再建にて、永井伊賀守眞敬・眞田伊豆守信房、幕命を奉じて土木の工を督し四箇年の歳月と諸國に募緣せし約一萬三千兩を費して竣工すといふ。本堂は奥行約二四米、桁行約五四米、高さ約二七米、三棟造檜木形二重層屋根入母屋檜皮葺の大建築にして國寶に列せらる。境内宏闊諸堂巍然として聳立し、山内には天台宗に屬する塔頭二十五院・淨土宗に屬する塔頭十四院を連れて壯觀を極む。本尊の阿彌陀如來及び兩脇土立像(金剛造)三尊・釋迦涅槃像(銅像)一軀は何れも國寶に列す。山門は金堂(本堂)の前面にあり二層の樓門にして樓上に釋迦・文殊・四天王の木像を安置し、輪王寺歡喜心院宮の御染筆「定額山」の額を掲ぐ。仁王門は炎上後久しく缺けたりしが、大正七年復興、定額山の額に伏見宮貞愛親王の御筆、二王尊及び背面の三寶荒神及び大黒天は高村光雲・米原雲海の力作なり。なほ山内には寶曆九年の築建なる一切經を藏する經堂、寛文七年鑄造の梵鐘を約る鐘樓、國寶金剛の釋迦涅槃像を安置する

釋迦堂、源義經の忠臣佐藤嗣信・同忠信の遺髪を葬る佐藤兄弟の墓、日清・日露以來の護國の英靈全部を佛式に祀れる忠靈殿等あり。本寺の寺務を執掌するには大勸進及び大本願あり。前者は善光寺別當職にして山門の傍にあり。天台宗。境内に萬善堂・無量壽殿・厄除不動堂・寶物館・紫雲閣・學寮等あり、また明治天皇御駐蹕の地として史蹟に指定さる。後者は善光寺寺務職にして、仁王門外にあり、淨土宗。境内に本誓殿・光明閣・奧書院・寶物館・明照殿等あり、住職は代尼公を以て定められ、明治の初より永く久我警圓尼公(伏見宮邦家親王第三王女)在住せられたり。之等の大勸進の僧正、大本願の尼公上人は毎朝午前五時より行はる、朝事に參堂勤行さるゝを以て打集ふ善男善女、行交ふ一山の僧尼を以て堂内は頗る賑ふ。(城山公園)善光寺の東に接し、分離せる丘陵上にあり、東は斷崖を以て川中島に臨むを以て眺望開闊、脚下に千曲・犀の二川の間に甲越兩雄の争鬪の地を瞰下するを得。此地はまた假巖ヶ丘とも呼ばれ、村上氏の將横山信濃守居城の址にて故に城山の稱あり。今は櫻花の名所として知られ、園内には健御名方富命彦神別神社をはじめ、明治天皇駐蹕の碑、長野縣商品陳列館、長野調候所、市公會堂なる城山館、市營の球場、長野放浪局、東洋第一と稱せらるる、大噴泉、長野縣師範教育の恩人龍勢榮寺

等あり。「花岡平」善光寺の北方、大峰山の中腹にある小平地。善光寺草創時代四百年の間この地にありしと傳へられ、多数の五輪塔を發掘さる。附近には弘法大師の遺跡、上杉謙信物見の松等あり。若しそれ本市の北西連山の中腹を走る蜿蜒四軒の廻遊展望道路にバスを走らせんか、往生寺・歌ヶ丘(淺井冽作信濃國の歌を刻せる碑あり)・花岡平、納骨堂を巡覽するを得。(健御名方富命彦神別神社)城山に鎮座。縣社。祭神、健御名方富命彦神別命。崇神天皇の七年勅して八十萬の群神を祭り、天社・國社・神地・神戶等を定められし事あれば、本社に蓋し其一ならん。往昔は式内名神大社に列せられし大社たりしもその後衰頹し、近世は善光寺如來の年神堂と稱へ、用度は善光寺領千石の内三十六石を以て之に充つ。例祭、十一月一日。「妻科神社」妻科に鎮座。郷社。祭神、八坂刀賣命。古來當地の産土神にして、また松代藩主累代の崇敬社たり。例祭、十月一日。「長池神社」郷社。祭神、健御名方命。口碑に、古牧村(今の地)開拓の時の勸請にして石像を神體とすと云ふ。古來當處の産土神たり。例祭、九月二十四日。「往生寺」西長野町にあり。淨土宗。安樂山菩提心院といふ。刈萱道心親子往生の舊址なりと傳へ、俗に刈萱堂の名を以て喧傳せらる。仁安二年刈萱道心(等阿法師)骨肉の羈絆を脱し、石童丸と別れて此地に來り

て、建保二年遂にこゝに入寂、のち道念(石童丸)亦この地に來り建保四年往生を遂ぐと云ふ。寺寶に地藏尊二軀(刈萱、石童丸作)・大日如來像(傳行作)等あり。「寛慶寺」東之門町にあり。淨土宗。壽福山無量院。當國水内郡高天神堀内城主栗田入道範覺の開創に係り、もと其城郭内にありて栗田寺と號し天台宗を奉ず。寛安の時(永正元年)大いに堂宇を改修し洞譽奉虎を請じて開山とす。維新に際し末寺虎石庵(岩石町にありて曾我祐成の妾大磯虎女の住庵として開ゆ)を合併す。「觀音寺」中御所にあり。淨土宗。嘉曆三年の創建。開山を圓頓坊と稱す。寺内に磐馬頭觀世音・厄除正觀音を安置す。靈驗顯著なりとて賽者多し。(世尊院)釋迦堂)箱清水にあり。天台宗。善光寺山内寺院の一。圓融天皇朝天延三年越後國古多濱にて海中より得たる圓淨檀金等身の釋迦如來涅槃像を、はじめ附近の寺院に納めしが、のち善光寺に遷して當寺釋迦堂に安ずといふ。寛政九年善光寺別當等願大僧正禁裏に參内し當釋迦如來を天拜に供へ奉る。これ即ち今の本尊にして鎌倉時代の作なるべく現に國寶たり。「佛尊寺」若里にあり。淨土宗。壽永中に熊谷次郎直實薙髮して蓮生と號し諸國を行脚す。直實の女玉鶴姫は侍女皓月と共に出家し父を尋ねて善光寺に詣つ。時に玉鶴こゝに病歿す。いま姫塚といふは其の墓なり。のち蓮生坊この地に來りて

玉鶴の爲に本寺を創建す。寺寶に善光寺如來の化身細曳阿彌陀如來・玉鶴姫像・法然上人筆六字名號等あり。「長野電鐵」社線。長野縣埴科郡埴生村の省線信越本線屋代驛より須坂驛(上高井郡須坂町)・信州中野驛(下高井郡中野町)を経て下高井郡木島村の木島驛に至る五〇・四軒と、須坂驛より長野市の省線信越本線長野驛に至る一二・六軒及び信州中野驛より下高井郡平穩村の湯田中驛に至る七・六軒とより成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連帶運輸。「長野村」靜岡縣遠江國磐田郡の南部。中泉町の西南方掛塚町の東北方、何れも約二軒を隔つ。三河平野の中央を占め土地平坦肥沃にして水田に富む。農業を主生業とし米の産額多く次いで麥・蔬菜・繭の産あり、また牧畜も盛にて工業も行はる。掛塚・中泉間に道路通じバスの便あり。本村及び十束村は和名抄、長下郡長野郷の地にして、長野村大字前野に延喜式長下郡長野神社あり。「八王子神社」大字前野に鎮座。郷社。祭神、天津日子根命等五男三女神。式内長野神社なりといふ。もと東八王子社と稱し、江戸時代朱印領十五石を有せり。例祭、十月十八日十九日。「長野村」三重縣伊勢國安濃郡の西部。津市の西方約一二軒、東は高宮村・辰水村に隣り、南は一志郡神原村に、西は阿山郡阿波村に界す。面積二七・五方軒。

布引山脈の東斜面にて西南境上に笠取山(八四五米)、東北境上に細ヶ峰(八二〇米)聳え、山地廣きも雲出川の支流長野川西北境長野峠(四七五米)の東南隅に發して東南流し、それに沿ひ村の東南隅に低地ありて田畑拓く。米・麥・繭を産し、山地は木炭を始め林産多く外に畜産・工業あり。東方の津市より延びる伊賀街道は長野川の谷を溯り長野峠を経て阿山郡に出づ。津市へ定期バスあり。大字北長野に長野氏の城址あり、延應中、工藤祐長(一に前政とす)長野庄地頭とあり、子孫相繼で此地に住す。藤原に至りて國司北畠氏に屬す。興國三年高師秋來り會すや藤原これに従ふ。北畠顯能これを攻めて殺し其邑を領す。正平七年、仁木義長來り攻めて本城を取り、藤原の子豊藤を置く。のち永祿五年藤原死して嗣なく北畠具教の子藤教を以つて嗣とす。是に於て長野氏兩黨分立するに至り、氏部政壽、織田信長の弟信包を迎へ長野氏を冒して家を立つ。藤教永く支ふる能はずして多藪に走り北畠氏に倚り長野氏滅亡す。「長野」近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄、愛智郡に長野郷あり、その地今の愛知郡愛知川町・日枝村の邊なるべく、愛知川町の大字長野はその遺稱なるべし。「長野」滋賀縣甲賀郡信樂町の舊稱。もと長野町と云ひしが、昭和五年信樂町と改む。「長野町」大阪府河内國南河内郡の西南

部。大和川の支流石川上流の谷に位し、面積僅に四・三五方軒、ほぼ人字形をなし東北富田林町と相距る約六軒、南は三日市村・高向村に、西は天野村に接す。郡の南境を東西に連る葛城山脈の北麓にて、その紀伊見峠より下る石川、蔵王峠より北流する西條川の複合扇状地に位し土地概ね平坦、水田と果實園よく拓く。米を主とし葡萄・蜜柑・梨等の果實の産少からず。石川に沿ひて南下する東高野街道・社線大阪鐵道(電車)と堺市より天龍川谷を経て来る西高野街道・社線南海鐵道(電車)高野線との二街道・二電車線の接合點をなし、長野驛(明治三十一年開業)あり。郡の南部の物資の集散地たり。この地は和名抄、錦部郡百濟郷の内にして中世は高向庄と稱せし地なり。往時、百濟人の聚落この附近にあり、中世に高野街道の要衝として行旅の客にて賑へり、上原の八幡宮の傍に用明天皇の孫高向王の墓あり。(橋樂寺)大字吉野にあり。融通念佛宗。錫溪山。元亨元年、時宗中興法明、宗門弘通のため當國巡錫の勅、攝河二州に建立せし六別寺の一。いま當宗中本山にして郡内の名刹たり。寺内に藥師堂あり、聖德太子開創の温泉寺の遺蹟なりといふ。

九年まで長野村と稱せり。仲哀天皇の惠我長野西陵は藤井寺町に存す。
【長野村】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西北部。田邊町の東北方約八軒の山村にてこれと萬呂・三栖二村を隔つ。面積二二方軒餘。東境の横山(七九六米)、西境の高雄山(六〇六米)の山地にて、會津川の支流三栖川北流に發し西南流して西部の山谷を下り、西南部に小低地をつくる。米・葡萄・柑橘等の農産あるもその額多からず、外に林産あり。田邊町より東方に向ふ熊野街道の中邊路は東南部の山背に通じ東隣栗栖川村に出づ。交通概して便ならず。
【長野】豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に企救郡長野郷あり、その地今の小倉市の一部及び曾根町の邊に當る。
【長野】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に怡土郡長野郷あり、奈加乃と訓す。その地今の絲島郡長嶽村の邊に當り、大字長野はその遺稱なり。
【長野村】續紀、聖武紀に見ゆる筑紫直賀島の古村名。天平十二年十一月太宰府にありて叛きたる藤原廣嗣が逃れて捕へられし地。直賀島とは今の五島列島の總稱なるが、長野村は何れの邊なるか明かならず。

ナカノウミ 中海

【中海】鳥根縣と鳥取縣との境にある入海。宍道地帯の東部に位し、湖岸は鳥根縣能登郡・八束郡及び鳥取縣西伯郡に

亙る。東は砂嘴の南東より斗出する夜見ヶ濱半島により美保灣を距て、僅に鳥根半島との間なる中江瀬戸により外海に通ず。西は大橋川により宍道湖に通ず。湖岸線の延長九五・八三軒、面積一〇一・六方軒。もとは美保灣より西方杵築灣に通ずる海峡の一部なりしも、其後、地盤の運動、河川の沖積作用、波浪の堆積作用等により現在の形をなし、中に玄武岩の噴出により生ぜる大根島・江島浮ぶ。湖の西岸より北岸に沿うて湖盆は急斜し、湖畔に接し深度六米に達する溝状の區域あり、中江瀬戸にも深度七・九米の深溝あり、中海の排水及び潮流の遺流により掘られ局部的に深さ一四米の處あり。水温は夏季表面二九度、底部二五度。鹽分は中江瀬戸にて直接外海に通ずるを以て海水は常に往來し従つて鹹水なるも、宍道湖の排水を受けるを以て大體海水の三分の二位といふ。透明度は三・四米。プランクトンは多く夏には赤潮を生ずといふ。水産物としてはオゴノリ・アカガモが主なるもの、底質は黒色腐泥なり。湖奥に米子、排水口に堤の港あり、湖上の舟航盛んなり。
【中海】↓中海(備後)

ナカノオクニ 中野小國嶺山

秋田縣由利郡内村の土小國を中心とし隣村小出村にまで及ぶ石油山。嶺區二あり、一は院内にありて五・二〇〇坪、他は院内・小出に跨り八五・二〇〇坪と

す。本嶺山は所謂小國油田に屬し、地質は第三紀の上層及び中層より成る、即ち上層一八〇米は砂岩層にして中層約二七〇米は頁岩と砂岩との互層とす。油層は三ありて、上層は約一〇一・一三〇米の箇所に、中層は約一八〇―二二〇米の箇所に、下層は約三八〇―四五〇米の箇所に存在す。本嶺山は明治十一年手掘にて開掘せられたるに端を發し、大正十三年綱式第一號井より日産一〇軒ありといふ。現在は中野興業株式會社の經營にて昭和十年の産額は四〇、七七二軒、この價格一三四萬餘圓、我國の主要嶺山に屬し、同年六月末の使用鐵夫一三一人とす。

ナカノオネ 中ノ尾根山

石山脈西南餘脈に隆起する一峯。靜岡縣榛原郡上川根村と周智郡水窪町の境上に位す。標高二二九六米。北麓は鶴冠山・池口岳連り、南麓は黒澤山・丸盆岳を経て黒法師岳に續く。

ナカノカミ 中野上村

和歌山縣紀伊國那賀郡の西南部。貴志川の曲流部に跨り、西は海南市との間に海草郡興村を挟み、北は北野上村、東は東野上村、南は南野上村に隣る。面積僅に三・一六方軒なるも、東北部と西北部に丘陵性山地ある外は概ね平坦にて田地よく拓け、米を主とし葡萄・柑橘等の農産あり、また工業頗多し。龍神街道及び海南市への縣道通じ、社線野上電氣海南市方面より來り

て沖野々・野上中との二驛(大正五年設置)ありて交通便なり。本村出身の歴史的人物に、井澤彌兵衛(蘭從五位)あり、江戸中期の水利家にして徳川吉宗に仕ふ。武藏國足立郡見沼藩の新田開發を命ぜられ、周圍十餘里の沼地の渾水を荒川に通じ、新田を開き利根川用水を引きて漕漑の重大事を起し遂に竣工す。其他に中川の開鑿、美濃・越後・近江・下總の諸國に開發疏水の工事をなす。

ナカノカミ 長上(郡)

遠江國(靜岡縣)の古郡名。續紀、和銅二年紀に長田郡を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・磐沼・壹志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屢々變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りしも、固より和銅の舊城にあらず。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

ナカノカワ 中ノ川村

福島縣岩代國大沼郡の中部。高田町の西方約一三軒。西境に北より湯ノ嶽(七二九米)、岩淵山(八七六米)、志津倉山(一一二〇九米)、東境に猿倉ヶ嶽(九〇七米)、博士山(一四八二米)あり。瀧谷川は村の中央部を峡谷をなして北流し、北方只見川に合す。北部溪流に沿ひて荒湯・瀧ノ湯等の温泉湧出す。米・木炭等を産す。道路は

ナカノ——ナカノ

村の中央部を南北に通ずるも交通便ならず。いま東川村と組合村をなし役場を本村に置く。【中ノ川温泉】無色透明の食鹽泉。療養向。瀧谷川の兩岸に湧き、神ノ湯・中ノ湯・瀧ノ湯・下ノ湯・新湯・老澤・養老・荒湯等に分る。

ナカノゴ 中郷村

鳥取縣因幡國氣高郡の西北部。青谷町の南にあり。東は日置谷・日置二村に、南は勝部村に界し、西は東伯郡泊村に隣す。面積一二・二五方軒。中國山脈の北斜面の海に臨む所ありて全村二・三〇〇米の山地をなして傾斜し、中央の谷を縱貫して青谷川北流し、流域に稍々平地ありて水田拓かれ米作多し。また山麓にては養蠶業を營み、山地よりは木材を出す。青谷町より來る國道(山陰道)は北境中央部より西北を掠めて西走し、省線山陰本線青谷驛へは約四軒、バスの便あり。この地古くは和名抄、氣多郡勝部郷の内なり。【神前神社】大字鳴瀧に鎮座。郷社。祭神、猿田毘古神・天字受賣命。例祭、四月十九日。

ナカノゴ 中之郷・中ノ郷

【中之郷】東京市本所區の地名。大横川の東西に亙り、吾妻橋の東なる元町・瓦町・竹町・原庭町など中之郷の名を冠したる邊の稱。源森堀を以て小梅と稱す。大震災後は町名を更め、向島飛地に中郷町の名残る。【中之郷村】東京府八丈支廳八丈島の南

。北は三根村、東北は末吉村、西は雁立村に隣接し、南は南に臨む。複式コニテ火山なる東山(三原山)の東南斜面にして、東南は小岩戸ヶ鼻の突出となり、三原山の裾野とは陸路をなす。海岸は斷崖をなして海に臨み、小岩戸ヶ鼻の西に藍ヶ江港あり。四時温暖にして冬季にて霜雪を見ること稀なり。年降水量も多く三〇〇〇耗以上に達し、夏秋の候には颱風の襲來あり。耕地面積は昭和十二年には九一・六町にして田は一八町、畑は七三・六町なり。米(約九千圓)・麥類(大麥・小麥約二千圓)の農産物の外に鯛・鯉・鱒・鱈・飛魚の漁獲あり、なほ東山の急斜面には椿・赤松・椎・楠等の自然林ありて薪炭材となる。街道は裾野を縫うて通じ自動車の便あり、藍ヶ江港には定期船の寄航あり。村内に弘化四年本島に流罪せられ島民の教育に盡力せし梅辻飛騨の墓、明和年間の大飢饉の餓死者七百餘名の冥福を祈りし冥福の碑、及び大御堂・長樂寺等あり。

【中ノ郷】靜岡縣加茂郡にありし村。明治二十四年中川村と改稱す。
【中ノ郷】滋賀縣伊香郡余呉村の大字。北陸本線の中ノ郷驛(明治十五年設置)を置く。
【中ノ郷】鳥取縣岩美郡にありし村。昭和八年鳥取市に編入す。

ナカノコヤ 中野小屋村

新潟縣越後國西蒲原郡の北部。曾根町の北方、

内野町の南に接す。東部に田湯を含み、略中央を西南より東北に西川貫流し土地一般に低濕にして水田多く、米産量かなり。東部低濕地帯に花卉・果實等の栽培行はる。西部を省線越後線貫通し越後曾根驛(曾根村)へ約四軒、バスの便あり。縣道は村内を西南東北に貫定す。

ナカノサワ 中ノ澤

北海道膽振國山越郡長萬部村の大字。函館本線の中ノ澤驛(明治三十七年設置)を置く。

ナカノシマ 中之島・中乃島・中ノ島

【中之島村】新潟縣越後國南蒲原郡の西部。信濃川の右岸にて、長岡市の北方約五軒。東西を信濃川と支流刈谷田川に挟まれし三角地帯を占む。北と西は信濃川を境に西蒲原郡及び三島郡に、南は古志郡に接す。越後平野の西南部を占め、土地平坦、灌漑よく水田拓く。農業を主生業とし越後米の主要なる産地なり。其他に蔬菜・果實の産あり。東南部を國道貫通し、これより北と西へ縣道を分岐し長岡市へバスの便あり。省線信越本線東南部を掠め押切驛(明治三十四年設置)を置く。幕末の勤王家高橋竹之助(贈正五位)及び江戸末期の蘭醫學者入澤恭平(贈從五位)は共に此地の人とす。
【中之島村】新潟縣越後國南魚沼郡の中部。信濃川の支流魚野川を境に鹽澤町の

ナカノ——ナカハ

南に接す。南側に上田富士(一一二米)聳立し、西部・北部に平地開く。西境を魚野川は東北に流れ、中央を大里川、東北境を登川、つれも北流し魚野川に合す。山地は概ね森林にして平地には水田拓かる。米作を主とし、次いで養蠶・林業が行はる。省線上越線豊原駅へ約二軒、縣道を通ず。

【中乃島村】石川縣能登國鹿島郡の北部。七尾灣内に横ばる能登島の中を占む。東島・西島の中間最狭部を占め、七尾灣の北灣・南灣を界す。一帯に丘陵性にして古來駿馬の産を以て著し、彼の有名な宇治川先陣の池月はこの地の産といふ。蒲穂・燐を産し、また漁業盛にして海鼠・真珠の産あり。外海よりは鱒その他の漁獲物多し。島を東西に走る一條の縣道貫通し、七尾港より定期通船の便あり。

【中之島】 ↓大阪府

【中ノ島】和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に編入す。

ナカノシマ

中野島村 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。北は那賀川を隔て、羽ノ浦町・平島村に、西は大野村に、南は長生・寶田二村と富岡町に隣す、面積五・八九方軒。北境には那賀川が、東南方には桑野川が流れて、その下流の沖積平地を占め、土地肥沃、水利また良く耕作盛に行はる。米・麥・藁等の産多く、その他に農作物多し。徳島より南下して

高知市へ至る國道は西部を縦貫し、東部にはこれと並行して縣道通じ富岡町に至る、また國道に沿うて牟岐線南走し、村界の那賀川を隔て、羽ノ浦町に古庄驛あり。

ナカノシモ

長下(郡) 造江國(靜岡縣)の古郡名。もと長田郡を和銅二年に上下二郡に分け、長上・長下と稱せしものなり。故に正しくはナカノシモと稱すべきなり。萬葉集卷二〇にも國造丁長下郡物部秋持とあり。和名抄は大田・長野・貫名・伊筑・幡多・大楊・老馬・通熊の八郷を置く。地は天龍川の下流の北岸に亘るも、河道の變更によりて境域定まらず。何れの時にか隣接せる敷智郡・豊田郡・長上郡の間に分割合併せられて郡名を失ふ。

ナカノシヨ

中庄・中之庄 廣島縣備後國御調郡の南方海上、因ノ島の中央部にあり。東は三浦村に、南は三庄・土生・田熊三村に、西は重井村及び海を挟みて生口島に對し、北は大濱村及び内海に面す。面積七・六四方軒。高取三十四百米の山岳各地に蟠居し、中央部と東北部に稍々平地ありて耕作を營む外は平地殆どなし。海岸は入江をなして小港灣を開く。海岸及び中央の平野は農作行はれ、米・麥・藁及び果實を栽培し、蜜柑の産額も多し。東北部海岸には鹽田ひらけて製鹽する外に漁業も盛にして、鰯・鮪等の産少からず。豊田

郡生口島の名荷村へは渡船の便あり。

【中之庄村】愛媛縣伊豫國宇摩郡の北海岸。盤灘に面し三島町の西に接す。面積五・三七平方軒。東南は中曾根村、西は寒川村に接し、南北に長き地形なり。南境に翠波峰(八九三米)聳え、南半部はその北麓にして高峻。北方に傾き、海岸に平野あり、耕地拓けたるも、海岸線は平滑遠淺にして漁業行はれず。製紙及び米・麥・藁を産す。國道三島町に通じ、バスの便あり。

ナカノシヨ

中之條 群馬縣上野國吾妻郡の東部。【中之條町】群馬縣上野國吾妻郡の東部。榛名山の北麓にて、吾妻川と四萬川との合流點にあり。北境附近に嵩山(七八九米)ありて、町の北半はその斜面をなし、南部には南嶺を東流する吾妻川附近に平地ありて米・麥を産し養蠶盛にて藁を多産す。縣道は町の南部を西走し草津町及び四萬温泉方面に通じ、四萬温泉へは濫川發の群馬自動車會社四萬線通す。また草津町へは省營自動車吾妻線通す。古くは和名抄、吾妻郡伊參郷の地か。舊郡役所の所在地とす。

ナカノシヨ

長登嶺山 長野縣信濃國埴科郡の南部。千曲川の右岸。坂城町の南に接し東より南へかけて小縣郡に界し東南隅に太郎山(一一六四米)聳立し上田市を隔つ。東南境に一〇〇〇米餘の山脈連互し西に傾斜す。千曲川は西境を北流し河岸に平地開く。山地は概ね森林なるも、山裾には桑

ナカノハラ

長野原町 群馬縣上野國吾妻郡の南部。淺間山の東北麓にて吾妻川に沿ふ。面積一三四・三七方軒。東北部は町境にある高間山(一三四二米)の南斜面をなし、西北の一部には本白根山(二二六五米)の山裾の一部を占む。これ等山地の南を吾妻川東流し川の南の廣き部分の西半は淺間山の斜面を占め、東半は東境なる淺間山(一七五七米)・菅峰(一四七三米)等の西斜面を占む。吾妻川の支流熊川は兩山地の楊合を北流して本流に合す。吾妻川附近には狭き平地ありて米・麥を産す。山地一帯は牧場多く、西部に吾妻牧場・淺間牧場等あり。長野街道で吾妻川に沿ひて北部を西走し、西境附近にて北方草津町及び南方長野縣輕井澤町への縣道を分つ。省營自動車吾妻線は群馬郡淺川町よりこの街道を走りて長野縣に通じ、また草津町にも通ず。社線草津電氣鐵道は輕井澤町より來り西部を北走して草津町に通じ、二度上・栗平・北輕井澤・吾妻・小代の各驛を置く。當町は小驛を成せしを以て古くより町と稱せらる。大字林は延喜式の拜志牧の遺稱ならんといふ。また大字羽根尾はもと羽尾に作り海野氏の一族の地に居し羽尾氏を稱せしが、その勢次第に強大となりて遂に吾妻氏に代るといふ。【川原湯温泉】泉質は無色透明の硫黄泉。地は金鷲山の中段にして、吾妻川の溪谷を前に控へ附

ナカノ——ナカハ

ナカノホ

中之保村 岐阜縣美濃國武儀郡の東南部。美濃町の東北方約七軒の山村なり。全村五〇〇米前後の丘陵起伏し、西部を長良川の支流なる神保川南流す。農産・林業を主とし米・麥・藁・木材を出す。村内には中央を東西に貫通する縣道ありて、西部にて神保川に沿ふ他の一條と合し美濃町へ通ず。バスの便あり。【若栗神社】郷社。祭神は不詳なるも、尾張國神名帳所載の從三位若栗大神と同神にして、即ち天押帶日子命なりといふ。例祭、四月八日。

ナカノホ

中之方村 岐阜縣美濃國惠那郡の西部。大井町の西北方約九軒。北より西へかけては加茂郡に界す。全村高原性山地にして中央を南へ木曾川の一支流る。河岸に多少の水田ありて米麥の産ある外に木材・藁を産す。中央を南北に貫通する縣道あり、省線中央本線の大井驛へ約一〇軒バスの便あり。

ナカノマタ

中ノ俣岳・中俣岳 日本北アルプスの一峯。槍ヶ岳(三一七九米)の北西方約一一軒に位し、岐阜縣吉城郡上寶村阿曾布村と富山縣上新川郡大山村の境上に峙つ。黒部川源流地の南西嶺なり。また双六川は南東斜面より發源して南西流す。標高二八三九米餘を算し、山體は片麻岩より成る。越中・信濃にては黒部五郎岳とも云ふ。

ナカノマタ

中野俣村 新潟縣越後國古志郡の南部。栃尾町の南方約七軒。南は北魚沼郡に界す。東山丘陵の一部を占め、全村三十四百米の高原性にして西北へ刈谷田川の一小支流を源流す。概ね山地をなすも西部には田畑拓げ、米・藁の産あり、次いで林業行はれ薪炭をも出

ナカノマチ

中ノ町村 靜岡縣遠江國濱名郡の東部。天龍川の右岸。濱松市の東北方約五軒。東は天龍川を境に磐田郡に界し、三河平野の中央部を占め土地平坦肥沃なり。米・麥・蔬菜類の外に染織工業盛にして織物類の産多額に及ぶ。村の南部を東海道線東西に貫き天龍驛に近く、中央を東西に貫通する縣道ありて濱松・中泉間のバス通す。古くは和名抄長上郡碧海郷の地ならんか、而して大字大見はその遺稱ならん。もと豊田郡に屬せしが明治二十九年濱名郡に入る。

ナカノハギ

中萩村 愛媛縣伊豫國新居郡の東部。新居市市の南約二軒に連り南は四國山脈の笹ヶ峰(一八六〇米)を以て高知縣に界す。面積四一・九一平方軒。南北に細長き北形を有し、南部は高峻なる山嶽地勢なるも北方に傾き、南部に平地展げ海岸平野に連る。米・麥・藁・酒類を産し、南部山地には森林繁茂して林産少からず。省線豫讃本線の中萩線(大正十年設置)は隣村なる大生院にあり、東部に社線住友別子鐵道土橋驛(昭和四年設置)を置く。明治二十二年中萩と萩生村を合併して本村を建つるの際、各々その一字をとりて中萩村と稱す。【瀧神社】大字中に鎮座。郷社。祭神、高靈神外二

神。古くより本村の鎮守なり。例祭、十一月六日。

【長濱町】滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

ナカハ——ナカハ

【中畑】 能登國(石川縣)の古地名。和名抄に能登郡長濱郷あり奈加波萬と訓す。その地今の鹿島郡崎山村・南大谷村・北大谷村の邊なるべく、萬葉集第十七卷の「珠洲郡より發船して治布に還りし時、長濱灣に泊りて月光を仰ぎ見て作れる歌一首、珠洲の海に朝びらきして漕ぎ來れば長濱の灣に月照りにけり 家持」とある地なり。

ナカハタ 中畑

【中畑村】 福島縣磐城國西白河郡の東北。矢吹町の東南に隣る。西南部及び東北部には二百—三百米餘の丘陵起伏し、阿武隈川の一分支泉川は南部を北流し、西北部丘陵間にある池より發する小川を合流し、中部丘陵の末端、龍山の裾にて流路を東南に變ず。流域は低地ありて畑田開

け、米・藁を産す。矢吹町に至る縣道は中部を通じ、また省線東北本線は西部を掠め、矢吹驛(矢吹町)へはバスを通ず。此地は中世に石川庄行方野の内に於て、秀郷流の白河氏の一族、この地に中島氏を稱す、白河氏没落の後ば蒲生氏郷に従ふと云ふ。

【中畑】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年に外一町および西野町村の大字貫・奥津村大字七と共に合併し、新たに平坂村を置き、平坂村は大正十三年町制を布く。

ナガハタ 長幡村

【長幡村】 埼玉縣武蔵國兒玉郡の西北部。本庄町の西方約五里、兒玉町の北方約四里にて、神流川の東岸にあり。西は川を隔てて群馬縣多野郡の一部と隣す。全村平地にて畑地多く中部に水田あり。米・藁を産す。縣道は本庄町及び兒玉町に通じ、南隣丹莊村には省線八高線丹莊驛ありて縣道を通ず。此地はもと長幡郷丹之庄に屬せり。〔菅原神社〕 大字帯刀に鎮座。郷社。祭神、武夷鳥神・火雷神・菅原道真公。天曆三年の創立と傳ふ。地頭伊東氏の崇敬あり。建武二年再建す。もと天滿宮と云ひ、明治維新の際に現社に改む。

ナカハマ 中濱村

【中濱村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西北端。夜見ヶ濱半島の中部を占め、東は美保灣に、西は中海に面し、北に餘子村に、南は大津津村に界す。面積六・五六方新。夜見ヶ濱半島に殆ど砂浜

半島となし三條の砂丘併列す。本村はその一部を占めて中約三軒、東より西に防砂林・街道省線・境線・湖岸街道石垣等ならび、その間に桑畑・水田廣く拓かれて墾墾發達す。また水産業行はれ鯛・鰻等の漁獲ありて、半農半漁の村なり。北方の境港にバスを通ず。〔日御崎神社〕 大字小幡津に鎮座。郷社。祭神、大日靈貴尊外二神。古くより附近四ヶ村と共に當村の氏神として尊崇せらる。例祭、十一月十九日。

ナガハマ 長濱

【長濱郡】 樺太大泊支廳三部中の一。中知床半島の大部分を占め、南北約七〇軒あり。西北部は鈴谷山脈の南縁に當り畝登山(四七二米)・奥鉢山等聳え、東部には知床山脈走り、北端に三角ヶ岳(五〇三米)ありて漸次南方へ鷹泊山・釣鐘岩山・金華山(五四五米)・知床山等を起して中知床岬に盡く。これ等兩山地帯間に即ち遠瀧低地帯にして池邊・和愛・遠瀧の三大湖を始め多数の小湖・沼澤連り、土地豊饒にして農牧に適し、一部開墾せらる。河川は知床山脈を分水嶺として西に内音川・赤岩川・彌瀧川等、東に皆別川・乳根川等あるも流程は長きものも二〇軒に過ぎず。海岸は東岸に皆別岬・乳根岬等の突出ある外は、單調にて泊津に乏しく、殊に中知床岬附近は顯著なる岩石海岸を成す。また此岬の附近は寒暖兩海流の衝突によりて激瀾起り、夏期三箇月の

海霧總日數五—六十日に及び、樺太にて最も多霧なる地域の一とす。産業は農を主とし、粟・豌豆・馬鈴薯等を産し、牛馬中央部には美田炭坑ありて石炭に出し、知床半島の海岸には石灰岩露出しパルプ製造用として採掘せらる。水産は亞庭灣の鱈・鱒・蟹・昆布等を主とす。道路は大泊より亞庭灣岸に沿うて長濱・遠瀧・彌瀧に至る幹線道路あり、彌瀧より東方約一〇軒の美田炭坑へ炭坑用馬車軌道を通ず。墾墾は亞庭灣岸の北部に散在し、東海岸の謂はゆる外知床地方は人煙最も稀薄なり。行政上、長濱・遠瀧・知床の三村に分つ。

【長濱村】 樺太大泊支廳長濱郡の西北部。亞庭灣の北岸にて、大泊町の東約二〇軒。海岸に臨みて鈴鹿山脈に屬する奥鉢山・畝登山聳え、西部は山地丘陵連るも、東半部は遠瀧低地帯の南縁にて池邊・和愛の二大湖あり、湖畔に低地拓く。池邊湖は南北へ袋状をなし、湖岸口によりて大小の二湖に分たる、湖岸線の長さ約二〇軒、面積一・二方新、最深處七・七米。朝日川・藻岩川・花江川等これに流入し、湖尻は亞庭灣と相通じ湖面海拔〇米にて鹹水なり。和愛湖は前者の東に横はり、湖岸線の延長約三〇軒、面積三四方新にして最深點六・四米。農業は湖岸低地及び西部の段々別耕地地等を中心に行はれ、馬鈴薯・豌豆・粟等を産し、また馬・牛の飼養行はる。亞

方軒に過ぎざれども、町は機業盛にして演繹編の産を以て著る。省線北陸本線と北國街道南北に貫通し、長濱驛(明治十五年設置)あり、縣道は四方に通ず。演繹編は實曆中に東淺井郡大里村大字藤波の人中村林助・乾庄九郎の二人が丹後を巡回し、その製織法を習得して村民に傳へ製品を京都に賣出せしに始まり、寶曆九年以後は彦根藩の保護を受け大いに發達し製品は多くは長濱に集まり、こゝより輸出さるるを以て、長濱縮編または演繹縮編と稱せらる。年額約六百萬圓。長濱はもと今濱と云へるを、天正中に羽柴秀吉この地を領するや長濱と改むといふ。爾來城下町として榮え、徳川氏の頃は内藤氏五萬石の城下町たり。(長濱城)永正年中、京極高清の將上坂景重初めて當城を築き、のち淺井亮政は攻めて之を抜く。天正元年織田信長の淺井長政を滅ぼすや、此地を羽柴秀吉に與ふ。秀吉の中國經營に赴くや、天正十年本能寺の變に乘じ、淺井長政の舊臣阿閉長之は長濱を襲ひてこれを奪ひ、以て明智光秀に應ず。光秀敗死の後、信長の遺臣等織田氏の遺領を分ち、長濱は柴田勝家これを收め、義子勝豊をして守らしむ。秀吉、勝豊の勝家と隙あるを見、勝豊を招致し、賤ヶ岳の戦となり、遂に秀吉の大勝を以て終る。徳川氏統一の後、慶長十一年内藤信成長濱五萬石を賜はり、城地の改築をなす。寛永五年信成、陸奥棚倉城に

【長濱町】 滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

【長濱町】 滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

【長濱町】 滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

【長濱町】 滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

【長濱村】鳥根縣石見國那賀郡の西北部。日本海に臨める一箇地。濱町の西にあり、美川村の北に位し、西は周布村に隣す。面積四・六一方軒。一方軒六三二人を算し、本郡中第三位の人口稠密なる村なり。高約三〇〇米の山地を以つて三方を圍まれ、傾斜稍々急にして海岸に面せる所に僅に低地を開く。よりて殆ど平地なし。農業は丘陵地耕作を督めど盛ならず、米・蕎麥等を産す。山地よりは木村を出しまた牧牛を督む。舊は日本海に臨む小港に過ぎざりしが明治五年の中國大地震に依り良港となり、漁船輻輳す。従つて水産業盛にして鯛・鮭・鰯・魚等の魚獲多し。濱町より来る國道(山陰道)は海岸を通りて西走し、それに交錯して省線山陰本線西走し、石見長濱驛(大正十一年設置)を設く。

【長濱町】岡山縣備前國邑久郡の東部海岸。北は玉津村に、西は本庄村に、南は鹿忍町に界す。面積六・二八方軒。東南方に牛窓半島ながく海上に突出して彎曲に富む海岸をつくる。村はその北西部を占めて良漁港をなし、古より牛窓・鹿忍兩港と共に一要津をなせり。漁獲物少からず。また村内田畑よく拓け米・蕎麥を産し蕎麥・生柿・薄荷等の産も多し。西部に縣道縱走して牛窓町に至る。鹿忍町及び岡山市へバスの便あり。

【長濱】岡山縣見島郡にありし村。明治四十年に下津井町に編入す。

置き、昭和八年に中原町に併合し編入す。

【中原村】岐阜縣飛騨國益田郡の南部。下呂町の西南に接し益田川に沿ふ。西の一部は美濃國郡上郡に、東南の一部は美濃國加茂郡に界す。東西に山脈連互し、ほぼ中央を北より西南に益田川貫流し、中山七里谷溪谷の一部をなす。益田川および東より合流する一支流に沿ひ僅かの平地ありて養蠶・農耕行はる。益田川右岸を縣道、左岸を省線高山本線南北に走り、焼石驛(昭和四年設置)を置く。別に東方へ一條の縣道を分岐す。村内に益田川を利用せる瀬戸水力発電所あり。

【中原村】三重縣伊勢國一志郡の東南部。松阪市の西北に近く、これと米之庄村を隔てて、北は豊田村、西と南は阿坂村に隣る。面積五・二一方軒の小村なるも、伊勢平野の南部を占めて地形平坦、地味肥沃、田畑よく拓け、西北隅は隣接豊地村に互る崎野の一部にて松林あり。米・蕎麥を産し綿布機業も盛なり。東北部に縣道走りて東方天白村にて參宮道に連絡し、社線參宮急行電鐵はこれと交叉して東部を通過し、大字津屋城に參宮中原驛(昭和五年開業)あり、また省線名松線の権現前驛(豊田村内)にも近く交通便なり。この地古くは和名抄、壹志郡須可郷に屬す。

ナカハ——ナカハ

【中原村】廣島縣安藝國安佐郡の東部。太田川の中流に沿ふ可部町を抱き、東北

【長濱町】愛媛縣伊豫國喜多郡の西部。飯川河口の右岸にあり、北方約一三軒の海上にある青島(青島参照)を含み、西北は伊豫灘に臨む。面積は二・〇一方軒の本郡最小の町なり。三―四百米の山地は海・河岸に迫り平地に乏しく、西部に僅に低地ありてここに聚落發達す。なほ飯川河口に臨む所は船舶の碇泊に適し、その長濱港は内務省指定港となる。本町は魚業・商業相半ばす。特に飯川上流は木村の集散地として知られ松・杉・檜・梅・樺等の木材を主とし、年産額は百七八十萬圓に達す。この外主要物産に砂利(一九・五萬圓)・製材(一六・八萬圓)・木蠟(一〇萬圓)・清酒(八萬圓)・鯛(五萬圓)・其他の魚類(五・五萬圓)あり(以上昭和十年)。長濱港は瀬戸内海交通の要衝に當ると共に、大洲・内子町等の後背地を有するため、商港として取引頗る盛にして、移出總額は約七三萬圓、移入總額は六四七萬圓餘に達す。移出の主要物産は生糸・木材・木炭・牛・木製品・蠟・鮮魚介・和酒・乾鰯・繭・砂利・和紙等にて、主要移入品は礦油・綿織物・機械類・人造肥料・金屬・絹織物・米・化粧品・酒類・セメント・砂糖・豆糟・石灰等なり。縣道は飯川に沿うて通じ、省線豫讃本線は大正七年に開通し、伊豫長濱驛(大正七年設置)を置く。なほ飯川の水運、長濱港による瀬戸内海の交通よく開く。人口も大正九年四六八四人、同十四

年五二五六人、昭和五年五三一人、同十年五九七一人と増加し、同十年の一方軒の人口密度は二九七一人にして、縣下にも最も稠密度を持つ。町内に島坂城址あり、永祿十一年、村上河内守吉繼これを守りし際、土佐一條頼房は伊豫より本城を攻めしことあり。

【長濱町】高知縣土佐國吾川郡の東南隅。高知市の南に接し、南は土佐灣に面す。面積一・〇一平方軒。東は浦戸灣に臨み、灣岸の出入發達し龍玉岬海中に突出して、對岸三里村の種崎と相對して浦戸灣口を抱く。防波堤の頭部に長濱港燈臺あり。南部に平地を存し、北境に鷲尾山(三一〇米)ありて東南に傾く。中部に長濱川東流して浦戸灣に注ぎ、流域に耕作行はる。米・蕎麥・酒類・醬油等を産し、また鰯・鮭・鱈等の漁獲あり。海岸平野は蔬菜の達成栽培盛なり。縣道四通し高知市にバス通じ、浦戸灣に巡航船の便あり。明治二十二年長濱・横濱・瀬戸・藻洲湯の四村を合併して長濱村となり、昭和四年町制を布く。(若宮八幡宮)長濱に鎮座。郷社。主祭神、應神天皇。市杵島姫神外三神。相殿神、惡源太義平外一柱。創建年代不詳。社傳には石清水八幡宮を勧請後に義平を合祀すと云ふ。東鑑・文治元年十二月三十日の條にも石清水を勧請し、中原元光弟秀最阿闍梨を別當職に任ぜし事見ゆ。中世に社僧を置き別當を若一山長聖院と稱す。天正十九年

【中原村】熊本縣肥後國鹿託郡の西部。白川の河口にあり、熊本市西南約五軒、小島町の南に隣接す。面積一・五六方軒の小村。全村土地低平、熊本平野の西邊に當り田畑よく開け、米・蕎麥・蔬菜類を産す。街道は白川に沿うて走りバスを通ず。人口は大正九年八五四人、同十四年八七五人、昭和五年一〇六八人、同十年八三六人と、昭和五年までは増加を示せしも其後は減少し、昭和十年には一方軒の人口密度は五三六人、全國平均一八一人より遙かに多し。中島村・沖新村と共に組合村を成して、中島村に役場を置く。

【中原村】佐賀縣肥前國三養基郡の西北部。久留米市の西北方約六軒、東は鳥栖町との間に麓村を隔て、西部は神埼郡香坂村に、北は福岡縣筑紫郡南畑村に界す。土地南北に長く一九方軒。香坂山塊の東南面にて、東境はその石谷山(七五四米)、西境は坂本峠の山脚共に南方に延び、村の北半は山地なるも、南半は筑紫平野の一部を占めて地形平坦にして田畑よく拓く。米産額多くまた蕎麥・菜種等をも産す。南部には長崎街道と省線長崎本線東西に走り、後者は中原驛(明治二十四年設置)を置き交通便なり。古の緯部にして、長崎街道の小驛とす。古くは東肥前に於ける要塞の中心地帯たり。大字原古賀字綾部に綾部城址あり。延元元年、仁木義長が足利尊氏の命を受けて始めて

長曾我部元親の新願所と定め、社領を寄せ、文祿三年社殿を建立す。慶長五年山内氏は社領・祭米を寄せ、造替等すべて藩費を以てし、その祈願八社の一に加ふ。例祭、六月十五日・十一月六日。(雪隠寺)大字長濱にあり。臨濟宗妙心寺派。高福山或は小林山と號す。四國八十八所第三十三番札所なり。延暦年間空海の草創に係る。のち一時廢絶せしが、慶長年中、領主長曾我部元親伏見に卒するや、盛親その遺骨を當寺に葬り、月峯を請じて中興の祖とし、寺領百石を寄進す。本尊藥師如來(木造)及び日光・月光兩脇侍像三軀(附十二神將立像十軀)・毘沙門天および脇侍吉祥天・善財童子立像三軀は何れも國寶たり。御詠歌「旅の道うへしも今はかうふく寺後のたのしみ有明の月」

【長濱町】肥前國鹿託郡の官軍に備へしところにして、その後は久しく一色・今川・澁川等の九州探題の本據となれる所なり。

【中原村】熊本縣肥後國鹿託郡の西部。白川の河口にあり、熊本市西南約五軒、小島町の南に隣接す。面積一・五六方軒の小村。全村土地低平、熊本平野の西邊に當り田畑よく開け、米・蕎麥・蔬菜類を産す。街道は白川に沿うて走りバスを通ず。人口は大正九年八五四人、同十四年八七五人、昭和五年一〇六八人、同十年八三六人と、昭和五年までは増加を示せしも其後は減少し、昭和十年には一方軒の人口密度は五三六人、全國平均一八一人より遙かに多し。中島村・沖新村と共に組合村を成して、中島村に役場を置く。

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

【長濱町】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西部。田邊町の西北約三軒にて西は日高郡南郡町・上南郡村に隣接す。西部及び東部南北に百―二百米の丘陵性山地連互し。中部を芳養川曲流して南に流れ、流域に低地ありて耕地開く。米・蕎麥の外に蜜柑を産す。街道は芳養川に沿うて南北に通ずるも交通便ならず。中世の芳養莊の一部にして湯淺氏の所領たり。

【中芳養村】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西部。田邊町の西北約三軒にて西は日高郡南郡町・上南郡村に隣接す。西部及び東部南北に百―二百米の丘陵性山地連互し。中部を芳養川曲流して南に流れ、流域に低地ありて耕地開く。米・蕎麥の外に蜜柑を産す。街道は芳養川に沿うて南北に通ずるも交通便ならず。中世の芳養莊の一部にして湯淺氏の所領たり。

【中原村】熊本縣肥後國鹿託郡の西部。白川の河口にあり、熊本市西南約五軒、小島町の南に隣接す。面積一・五六方軒の小村。全村土地低平、熊本平野の西邊に當り田畑よく開け、米・蕎麥・蔬菜類を産す。街道は白川に沿うて走りバスを通ず。人口は大正九年八五四人、同十四年八七五人、昭和五年一〇六八人、同十年八三六人と、昭和五年までは増加を示せしも其後は減少し、昭和十年には一方軒の人口密度は五三六人、全國平均一八一人より遙かに多し。中島村・沖新村と共に組合村を成して、中島村に役場を置く。

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

【中原村】滋賀縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に葛籠尾崎の突出ありて中央は深く村内に彎入し、湖岸は概ね斷崖をなす。東・西境は何れも五〇〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主生業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に縣道走り、湖上には舟楫の便あり。中世この邊を大浦庄といふ。※大浦(稱福寺)大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

ナカハ——ナカフ

米・麥等を産す。福岡・飯塚兩市を繋ぐ...

の農作物も多く、牛の家飼盛なり。山地...

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

河床に残したるものにして、河水の徒徒...

ナカハント 中判田

大分縣大分郡 判田村の大字。豊肥本線の判田驛(大...

ナガヒサ 長久村

鳥根縣石見國安 濃郡の西北部。大田町の西にあり、北は...

ナカヒメ 中姫

香川縣三豊郡にありし村。昭和四年に廢されて、その地域...

ナカフカミ 中深見村

新潟縣越 後國中魚沼郡の南部。信濃川の支流中津...

ナカフシキ 中伏木

富山縣射水郡 新湊町の大字。新湊線の中伏木驛(大正...

ナカヒラタ 中平田村

山形縣羽 後國飽海郡の西南部。酒田市の東部に接...

ナカヒラナイ 中平内

青森縣東 津輕郡にありし村。昭和三年に小湊町と...

ナカヒロカワ 中廣川村

福岡縣筑後國八女郡の西北部。久留米市...

越後七不思議の一として著名なり。釜川...

岩を穿ち瀑布急流をなす。つつと建ち上り...

ナガフチ 長瀧

筑前國(福岡縣)の 古地名。和名抄に上座郡長瀧郷あり、奈...

ナカフナノ 中富良野村

北海道 石狩國上川支庁空知郡の西北部。富良野...

ナカホーヨー 中北條村

鳥取縣伯耆國東伯耆郡の北部。天神川口左...

ナカマ 中間町

福岡縣筑前國遠賀 郡の南部。遠賀川下流に跨り、東は折尾...

ナカホリ 長堀

大阪府南區・西區に 亙る地名。長堀川の兩岸に沿うて通じ、...

ナカヘイ 中閉伊(郡)

↓下閉伊 郡 那賀市 長穂村 山口縣周防國都濃...

ナカフ——ナカマ

福岡市の式内熊籠神社も舊に宮區にあり...

ナカマ——ナカマ

炭 名	炭 區 所 在 地	炭 區 坪 數	年 産 額	指 定
新 手	中間町・香月町	五二、七四坪	一四、〇〇八	重
岩 崎	中間町・香月町	四六、〇五坪	九三、〇〇五	重
大 殿	中間町・香月町・八幡市	八八、六三坪	四七、一〇〇	重
大 辻	中間町・香月町・八幡市	一、六五八坪	八八、四〇〇	重
鞍 手	中間町・香月町・八幡市	七、〇〇〇坪	一、八七〇	重
高 松	中間町・折尾町・水巻村	一、二六、〇〇〇坪	三、八二〇	重
中 鶴	中間町・折尾町・香月町・水巻村・八幡市	二、三三、五〇〇坪	四一、一三〇	重
名 前	中間町	一〇〇、四三三坪	三、六四四	重
填 生	中間町	一〇〇、三六〇坪	三、六八八	重
深 坂	中間町・香月町・八幡市	七四、四八坪	八七、〇八六	重

(昭和十年調査—重は重要炭山、準は準重要炭山)

稲田姫命・天照大神。創立年代詳かならずれども、古くより郡内七社の一とせられ、大永年中に麻生氏社殿再建す、江戸時代、秋月藩主黒田氏及び郡奉行の崇敬を受く。例祭、十月二十日。

ナカマイズル 中舞鶴 京都府加佐郡にありし町。明治三十五年餘内村の大字餘部上・餘部下・和田・長濱を割きて獨立し餘部町を設け、大正八年に中舞鶴町と改稱。昭和十三年八月に新舞鶴町・倉梯村・奥保呂村・志樂村と合併して東舞鶴市を建つ。

ナカマキ 中牧村 山梨縣甲斐國東山梨郡の西部。旧下郡町北方約四軒の山村。南部に掛き平地あり北西部に山

ナガマツ 永松嶺山 山形縣最上郡大蔵村と西村山郡白岩町とに跨る金銀湖。嶺山名は大蔵村大字南山宇永松に因む。嶺區の地質は、粘板岩及び凝灰岩を主とし外に石英粗面岩及び安山岩發達す。嶺床は粘板岩・凝灰岩・石英粗面岩中に脈胎せる鐵脈にして、母岩には鐵物の浸染多く殊に硫化鐵の小品を認む。本嶺山は古く天和の初年頃、大阪の商人泉屋吉左衛門によつて開掘せらるゝ傳へ、現在は古河鐵業の經營に屬し、昭和十年には金三、六八八瓦、銀九三六、九八七瓦、銅五六九、一一七瓦、この總價額五十萬餘圓にして、我國の重要鐵山に屬す、同年六月末現在の使用鐵夫三九二人とす。

ナカマル 中丸村 埼玉縣武蔵國北足立郡の北部。鴻巣町の南隣にあり、全村平地にて畑地多く、東境附近は一部沼田をなす。藁・米・麥を産し、棉織物の製造行はる。中山道は村の西部を北走し省線高崎線また之に沿ひ北本宿驛(昭和三年設置)を置く。

ナガミズ 永水村 熊本縣肥後國阿蘇郡の中部西偏。阿蘇谷の西南部にて、東は黒川村、南は長陽村、北は尾ヶ石村に隣り、西南は菊池郡瀬田村・平前城村に接す。東南半部は中央火口丘の一なる島帽子嶽(三三七米)・杵島嶽(一三二二米)の西北斜面にして緩く傾き、西半は外輪山の東側にて、頗る急傾斜をな

す。中央部は火口原阿蘇谷の西南部にて土地平坦、白川の支流なる黒川蛇曲南流し耕地よく拓く。米を主産し、牧畜も盛なり。豊後街道は中部を、内ノ牧に至る縣道は西北に通じ、省線豊肥本線また前者に並走し、赤水驛(大正七年設置)を置く。いま村域の全部は阿蘇國立公園の内とす。

ナカミドリ 中緑村 熊本縣肥後國他託郡の南部。東北方の熊本市西南部へ約四軒、川尻町の西に隣り、南は緑川下流によりて下益城郡杉合村と界す。面積僅に三・三三方軒、熊本平野の一部にて土地平坦、耕地よく發達して米・麥・藁を産す。省線鹿兒島本線川尻驛に近く交通不便ならず。もと中無田・美登里二村の地、のち合併して一村を建て中緑村となりしもの。

ナガミネ 長峰 福岡縣筑後國八女郡の西北部。福岡市の北に接す。面積僅かに四・六方軒。東北隅に耳納山塊西南端部の末端部あり、その他は筑紫平野につゞき土地概ね平地なり。米・麥等の農産多く副業に兼置行はる。福岡町と北方久留米市とを結ぶ縣道中央を貫きてバスを通じ、社線九州鐵道(電車)の甘木・福岡間に當り、交通便なり。(乗馬古墳) 指定史蹟。一に奈良山古墳ともいふ。長峰丘陵の最高所に築かれたる前方後圓墳なり。前方部は西面してその上に墓地あり。後圓部

日。(慶徳寺) 臨濟宗。初め景徳院と稱し、のち興國元年に夢窓國師中興す。次いで慶徳庵と改稱したるも、また現稱に替ふ。

INDEX

ナカマチ 中町 大阪市北區堂島の町名。一丁目・二丁目に分る。もと堂島新地といふ。元禄元年に開拓、遊女町となり、中町・北町・南濱筋・裏町の四つに分れしものの一。心中二枚繪草紙、下「通ひぐるまの規川、變る瀬枕沈む瀧、思ひ二つの中町や、更けて苦む待宵に、明るくわびし別れ路の、憂さなつぎ木の梅田橋、うめて冷せど色茶屋の、色の出花の里ぞとは、醒めめ花香をくみて知れ」

ナカマサワ 中崎澤 釜石線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣上閉伊郡崎澤村にあり。

ナカマタ 中俣村 新潟縣越後國岩船郡の北部。東及び北は山形縣東田川・西田川兩郡に界す。出羽丘陵南端部に屬し、第三紀層の高原地にして東部に發源し西へ流る、小俣川・中繼川の流域一帯を占む。全村概ね山林にて平地に乏しく僅に河岸に農耕・養蠶行はる。兩河に沿ひ西方府屋より縣道來り、省線羽越本線府屋驛へ約八軒、交通不便なり。もと黒川俣村と共に單に黒川俣と稱せしが、明治二十二年町制施行の際に分離して中俣村と稱す。

ナカマタマ 中眞玉村 大分縣豊後國西國東部の北部。高田町の東北約六軒を隔て、南に西眞玉村、東に上眞玉村あり、西は周防灘に面す。面積七・一七方軒に過ぎず。兩子火山西側の一放射谷の西北部を占め、東北境に路群山(四五八米)ありて東半は山地なるも西半は概ね平坦にして耕地拓け、南半は田、北半は畑地をなす。米・麥・藁等の農産少からず。高田町・竹田津町間の道路、海岸に沿ひて走り高田町へはバスの便あり。古くは鹿式庄の一部とす。

にある石室は前後二室より成り、兩室とも壁面に同心圓、三角形等を朱・白・緑の三色を用ひて描き、奥室の奥壁には朱色の細き線を以て描ける靉の圓象あり。この古墳よりは墳輪・圓筒の破片を發見せらる。(岩戸山古墳) 道路を隔て、乗馬古墳と相對せる前方後圓墳。長軸二二一米、後圓部高さ一四米、頂上に大神宮社あり。墳丘及び土壘上より墳輪・圓筒を發見せられ、また石人・石盾等多く發見さる。更に大正十三年に多数の石人・石盾・石馬・齋瓮等が南方の祠堂の邊より出上せり。

【長峰村】 大分縣豊前國宇佐郡西北部。東方四日市町との間に横山村を挟み北は天津村に接し、西は下毛郡に界す。面積一六方軒餘。南半は耶馬溪熔岩臺の北縁にて高さ約三百米の山地ありて緩く北方に低下し、北半は豊前平野の一部にて土地平坦耕地よく拓け、南部山地の谷には灌漑用の池塘多し。米・麥・大豆・甘藷等の農産多く林産もあり。北部には大分街道東西に通じ、西は中津市、東は四日市・宇佐方面へバスの便あり。古くは和名抄、宇佐郡廣山郷の内とす。大字清水は養老元年に僧仁開の開基と傳ふる清水寺あるよりその名出づ。寺内に小松内大臣重盛の墓と稱するものあり。蓋し重盛の家人が壽永の戦塵を避けて遺骨を此地に葬りたるものか。(大根川神社) 大字大根川に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。

例祭、十二月十日。

ナカミノワ 中箕輪村 長野縣信濃國上伊那郡の西北部。天龍川の西岸。伊那町の北方約五軒。西境に木曾山脈の一支脈連互し、東境を天龍川南流す。村は西より東に傾斜し東半は伊那谷の一部にして段丘發達す。更に中段を南北に天龍川に貫流し、その沿岸及び下段河岸に近き部分には水田拓け他は桑園多し。藁及び米を主産とす。東部を社線伊那電鐵及び三州街道南北に貫通し、前者の深・伊那松島・木下の三驛(大正十二年設置)を置く。この地は和名抄、諏訪郡良郷の内なるべし。中世は箕輪郷と稱せし地なり。

【箕輪南宮神社】 大字中町に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。口碑によれば文安年中に箕輪義雄の創立といひ、初め一ノ宮原にありしを、慶長中に小笠原秀政領主たるの時、現社地に再興遷祀せしむ。例祭、八月十七日。

ナカミヨ 中名 鹿兒島縣揖宿郡喜入村の大字。省線指宿線の中名驛(昭和九年設置)を置く。

ナカムサシ 中武藏村 大分縣豊後國東國東郡の中央部。西は西武藏村、東南は武藏町に接す。兩子火山東南側の一放射谷の西北半部を占め、東北境と西南境には谷地を限る山稜あり、中部低地を武藏川東南流し、これに沿ひて田畑拓け米麥の産あり。山地は薪炭の供給地なり。川に沿ひて道路走るも交通なほ便な

ナカマ——ナカマ

ナカム——ナカム

らず。社線東鐵道の武蔵驛へ出づるを最も便とす。古くは和名抄、國崎郡武蔵郷の内となす。大字吉廣はもと吉弘と稱し、中世に田原直貞の第二子又三郎この地に居して吉弘氏を稱す。

ナカムトへ 中八人部村

京都府丹波國天田郡の東南部。福知山市の東南方にてこれと北隣の下八人部村を隔て、東は上八人部村、西と南は氷上郡の東北部と界す。面積一三三方軒餘。南境の山地は高度五百米内外ありて北方に緩く傾斜し概ね山地なるも、北部には西隣竹田村より来る竹田川ありて、その附近に田畑拓く。米・麥を産し養蠶行はれ、また薪炭・木材を出す。北部に道路ありて上八人部の山陰道に連る。此地古くは和名抄、天田郡六部郷に屬す。

ナカムラ 中村

【中村】 出羽國(羽後國、秋田縣)の古地名。和名抄に雄勝郡中村郷あり、其地は今の雄勝郡横堀町・院内町・須川村・小野村・秋ノ宮村の邊に當る。

【中村町】 福島縣磐城國相馬郡の東北部。本縣濱通りに於て平市に次ぐ名邑。阿武隈山地の太平洋斜面上に屬し、西部に低き山地ある外概ね平坦なり。宇多川は町の南部を東流し、沿岸はその沖積平野にして耕地拓く。米・藁を産す。また製絲業行はれ、中村製絲場あり。名産に相馬鹿あり。陸前濱街道は町の東部を南北に通じ、市街はこの街道に沿ふ。北方宮城

縣、南方原ノ町へはバスの便あり。省線常磐線中村驛(明治三十年設置)を置く。人口密度一方軒につき八一人なり。此地は山上村・八幡村と共に和名抄宇多郡仲村郷にて、本町名は郷の遺稱なるべし。

相馬氏の城下町にして名所舊蹟多く、舊郡役所のありし所なり。この松川浦は景勝の地にして謂ゆる十二景あり。また原釜は海水浴場として知らる。(相馬燒)慶安年間藩主相馬義胤の臣田代源五右衛門(後に清治右衛門)の創始。砂質の素地に銅綠色のひび袖を掛けたるもの。二代目に至り狩野尚信の描きし略畫の走馬を寫し取りしと傳へらる。駒燒の名ある所以なり。(中村城) 妙見山にあり。足利氏の頃、相馬氏ここに據り、近隣の敵と争ふ。天正十八年、相馬氏、豊臣氏に通じて封を全ふし、徳川氏の時、また此地を安堵し、子孫相繼ぎ明治維新に至る。藩校、育英館は文政五年に相馬益胤の創立なり。(中村神社) 大字中村に鎮座。祭神、天御中主命。平將門或は相馬師常の勧請する所と傳ふ。古は下總國相馬郡守屋城に鎮祭ありし相馬家累代の鎮守なりしを、のち慶長十六年和胤の中村城に入るに際しこの地に遷座す。相馬氏の舊封なる宇多・行方・標葉三郡の總鎮守にして、社領十六石餘を有せり。例祭、七月十一日より三日間。(八幡神社) 大字坪田にあり。北高島家の將、白川直忠、萬能社計のため此地に八幡神を勧請

せりと傳へ、今の社殿は元禄八年に相馬昌胤の改築せしものなり。(二宮尊徳墓) 碑並に僧慈隆墓。尊徳の墓碑は安政四年に中村藩士が其の遺徳を慕うて營みしもの。慈隆は日光山の僧にして幕末多事の際、中村藩に聘せられ尊徳の遺教を弘め文武の講習に努め、維新の際に當藩をして歸順せしむ。

【中村】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡中村郷あり、その地今の鹿島郡中野村の邊に當る。

【中村】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に秩父郡中村郷あり、その地今の秩父郡秩父町の邊に當る。

【中村】 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に匝根郡中村郷あり、その地今の香取郡中村の地なるべし。

【中村】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に餘綾郡中村郷あり、その地今の足柄上郡中井村の邊に當る。

【中村】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に石川郡中村郷あり、その地今の石川郡中井村・中興村・松任町・一木村の邊なるべし。

【中村】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡中村郷あり、その地今の綴喜郡青谷村の邊に當り、大字中村はその遺稱なるべし。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南島郡忍海村の邊なるべし。前日本紀に島下

【仲村】 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄に磐井郡仲村郷あり、其地今の西磐井郡涌津村・花泉村の邊に當る。

【仲村】 陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に新田郡仲村郷あり、その地今の栗原郡高清水町、清瀧村・藤里村の邊に當る。

【仲村】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

ナカモト——ナカモト

せりと傳へ、今の社殿は元禄八年に相馬昌胤の改築せしものなり。(二宮尊徳墓) 碑並に僧慈隆墓。尊徳の墓碑は安政四年に中村藩士が其の遺徳を慕うて營みしもの。慈隆は日光山の僧にして幕末多事の際、中村藩に聘せられ尊徳の遺教を弘め文武の講習に努め、維新の際に當藩をして歸順せしむ。

ナカモト 中本

大阪府東成郡にありし村。もと中本村と云ひしが明治四十五年に町制施行し、大正十四年に大阪市東成區に編入す。

ナカモリ 中盛岳

南アルプス赤石山脈の一峯。一名、大澤丸岳。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡上村の境上に跨る。鬼岳(二七九九米)と赤石岳(三二〇〇米)の中間に介在す。赤石岳との間に百間洞露地・百間平あり。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南島郡忍海村の邊なるべし。前日本紀に島下

【中村】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に餘綾郡中村郷あり、その地今の足柄上郡中井村の邊に當る。

【中村】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に石川郡中村郷あり、その地今の石川郡中井村・中興村・松任町・一木村の邊なるべし。

【中村】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡中村郷あり、その地今の綴喜郡青谷村の邊に當り、大字中村はその遺稱なるべし。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南島郡忍海村の邊なるべし。前日本紀に島下

【仲村】 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄に磐井郡仲村郷あり、其地今の西磐井郡涌津村・花泉村の邊に當る。

【仲村】 陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に新田郡仲村郷あり、その地今の栗原郡高清水町、清瀧村・藤里村の邊に當る。

【仲村】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

ナカヤ——ナカヤ

郡國中村とあるも、同じ地なるべし。【中村町】 高知縣土佐國幡多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具同村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地域は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最高に米・麥・藁・瓜類・豆類等の産出多し、縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に幡多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は広大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主要たり。文明の昔、一條氏下國として西方の要領たりしが、一條氏滅びて秦氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。秦氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康豐ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の姿をなせしが、元和年間一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

ナカモト 長森

高山本線の一驛(大正九年設置)。岐阜縣稲葉郡南長森村にあり。

ナカヤ 中屋村

岐阜縣美濃國羽島郡の東北端。木曾川右岸。岐阜市の東南方約六軒。北より東へは稲葉郡に、東南隅は愛知縣丹羽郡に界す。東西に細長く土地平坦にて南部を木曾川西流す。河岸は砂洲多けれど北部には耕地拓く。主生業は織物業にて絹織物・人絹織物の産多し、縣道縱横に村内に交錯し、岐阜市へバス通す。省線高山線那加驛(約三軒)。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南島郡忍海村の邊なるべし。前日本紀に島下

【中村】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に餘綾郡中村郷あり、その地今の足柄上郡中井村の邊に當る。

【中村】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に石川郡中村郷あり、その地今の石川郡中井村・中興村・松任町・一木村の邊なるべし。

【中村】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡中村郷あり、その地今の綴喜郡青谷村の邊に當り、大字中村はその遺稱なるべし。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南島郡忍海村の邊なるべし。前日本紀に島下

【仲村】 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄に磐井郡仲村郷あり、其地今の西磐井郡涌津村・花泉村の邊に當る。

【仲村】 陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に新田郡仲村郷あり、その地今の栗原郡高清水町、清瀧村・藤里村の邊に當る。

【仲村】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御墨瀬村・諸木村の邊なるべし。

ナカヤ——ナカヤ

約七軒。南と西は兵庫縣水上郡及び朝来郡に界す。南部には五〇〇米程度の山脈東西に連り、東北部にも三〇〇米程の丘陵地帯が。西北方より来る山良川支流の牧川中央を東南流し沿岸に稍低地あり、西北部には平野廣し。米麥の産の外、養蠶盛にして繭を出し、また工業・林産・畜産もあり。中央には山陰道及び省線山陰線東西に通過し、西北約一軒に後者の上夜久野驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、天田郡夜久郷の内なり。

ナカヤス

中安村

兵庫縣播磨國佐用郡の南部。千種川の中流に跨り、北は佐用町・徳久村に、西は久崎村に接す。面積一三・七方軒。中部以南は丘陵性山地起伏し最高處は四〇八米を示す。千種川は西北部を西南に貫流し公文川は東隣大廣村より来て之に合し、これ等の川沿に低地ありて耕地開く。産物に米・繭・麥・蔬菜・菓製品・鶏卵・木製品・瓦等あり。西北部に縣道ありてバスを通じ、北隣徳久村には省線姫新線の播磨徳久驛ありて交通不便ならず。播磨風土記に柏原里とあるは本村の地ならんといふ。

ナカヤス

長安

鳥根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤマ

中山

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。梅太豊原郡川上村にあり。

【中山】長野縣信濃國東筑摩郡の東部。松本市の東南に接し、東隣は針伏山の一

す所、同時にまた陸中・陸奥の國境なす所にて、馬淵川と岩手川との分水嶺なり。標高四二六米。陸羽街道及び東北本線が通じ、奥中山驛あり。附近一帯は牧場をなし、軍馬補充部派出部あり。

【中山】出羽國(羽後國、秋田縣)の古地名。和名抄に河邊郡中山郷あり、その地今詳かならざるも由利郡玉米村・下郷村の邊か。

【中山村】埼玉縣武藏國比企郡の東南部。川越市の北約五軒、西南は荒川の一支越邊川を距てて入間郡三芳野村に對す。荒川と越邊川との中間にあり、土地平坦、越邊川に近き地域には未だ荒地あるも田畑よく開け米・繭を多産す。縣道は越邊川に沿うて走り熊谷市にバス通ず。此地は和名抄、比企郡羽後郷の内なり。永祿・天正の頃は比企左馬助の所領にして、比企能員父子は頼朝・頼家に仕へて忠節を盡し、北條時政を除かんとして事顯れ誅せられ、子孫ここに住す。

【中山】千葉縣東葛飾郡の南部にありし町。昭和九年十一月市川市に合併す。日蓮宗の中山法華寺あるを以て著はる。附近に競馬場あり。總武本線の下總中山驛(明治二十八年設置)を置く。

【中山】神奈川県東海郡新治村の大字。省線横濱線の中川驛(明治四十一年設置)を置く。

ナカヤマ

名香山村

新潟縣越後國中頸城郡の南部。南は長野縣に界す。妙高山東麓を占め關川に沿ふ。西に妙高山(二四四六米)・赤倉山(二二四一米)聳立し、東(廣大なる裾野を引く。關川はこの山麓に沿ひ西南境より村の東部を流れて北に下る。東部には八〇〇米餘の丘陵横たはつて右岸に迫り、左岸は田切の地形を呈す。火山灰堆積地帯にして草原・森林多く、河岸に水田・桑園拓かる。農業・養蠶を主とし、牧畜・林業次いで行はる。この附近一帯は冬季多雪地として西に赤倉を初め關・燕の温泉を控へて理想的スキー場として聞え、夏季は避暑客を以て賑ふ。關川の左岸に沿ひ、村の略中央を南北に貫通する北國街道、省線信越本線あり、後者の田口驛(明治二十一年設置)を置く。大字關川は近世に信越の州界はこゝを流れる關川に依りしを以て高田藩の番所を置かれし地とす。天正十年六月、織田氏の將義勝藏この地にて越後勢と合戦す。村内には妙高・池ノ平・赤倉の諸温泉ありて浴客にて賑ふ。(明治天皇關川行在所跡)指定史蹟。大字關川字上町にあり。明治十一年北陸・東海御巡幸の際、九月十日御駐泊あらせられ

九二八米)を以て諏訪郡に界す。東に一五〇〇米前後の山脈連し西に傾斜し、全村平原性丘陵をなす。耕地は中央より西北部にかけて拓け、米・麥・繭等を主産物とす。松本市へ縣道通じバスの便あり。此地古くは和名抄、筑摩郡山家郷に屬す。(千鹿頭神社)大字千鹿頭山に鎮座。郷社。祭神、千鹿頭神・伊弉諾尊・伊弉册尊等五柱。千鹿頭神は健甕名方神の御子と傳ふ。鎌倉時代以後、小笠原・武田氏等の崇敬篤し。諏訪本宮に倣ひて七年毎に御柱祭を執行し、之を千鹿頭祭と稱して有名なり。(保福寺)臨濟宗妙心寺派。金峰山。當國巡禮三十三所中第四番の札所。正平二十二年の創建にして圓明證智を開山とす。慶長年中松本城主小笠原秀政これを再興し、天桂和尚を請じてこれに住せしむと云ふ。

【中山】愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年に福江町・清田村と共に廢して新たに福江町を置く。

【中山】大阪府(徳島縣)廣島市の東北隅にて、北は戸坂村に、東は瀧品村に界す。面積二・七一方軒の小村。西北は丘陵地にして東南に展けて低平なる耕地拓け農牧行はる。米・麥・繭の産多し。牛・馬を飼育す。他に林産・工業業等も少からず。廣島市と北方三次町を繋ぐ省線徳島線に中央部を設け

たる處にして、建物は明治十八年五月焼失せり。御座所跡は空地のみ、保存せらる。郡内に御座水の井あり。(明治天皇二侯御小休所跡)指定史蹟。大字二侯字西原にあり。明治十一年北陸・東海御巡幸の際、九月十一日御小休所となりたる處にして、建物は明治三十四年五月焼失す。御座所跡は空地のみ、保存せらる。邸内に御座水の井あり。(妙高温泉)妙高山の麓、關川の流に臨みたる臺地にあり。泉質は無色透明の弱食鹽泉、峻嶺重疊の間にありて風光優る。附近一帯は十二月より四月までの長期間にわたリスキーの適地にして、至るところに緩急幾多のスキー場を持つ絶好のスキー場なり。(赤倉温泉)妙高山の東麓海拔七五八米の高地に於て、東に妙高の雄姿眉宇を歴して峙ち、斑尾山の麓には野尻湖の水光あり。東北には米山山脈蜿蜒として連り、北方ひとり開けて頸城平野を見、遠く日本海を臨む。温泉場として本邦屈指の展望美を具有す。泉質は無色透明の弱食鹽泉、微弱アルカリ性反應を呈す。冬季は日本有数のスキーの適地として雑沓す。(池ノ平温泉)海拔約七〇〇米の高地にあり。温泉は妙高山より引湯せしものにして、冬季はスキー場として賑ふ。

【中山町】愛媛縣伊豫國伊豫郡の南部。南は喜多郡大瀬・立川・滿穂の三村に界す。面積四五・五三方軒。北部に秦皇山(八七四米)、西北部に黒岩嶽(六九九米)聳立し、四周に高取六・八百米の高峰を繞らし、中部を取川の一支中山川南流して流域に僅に耕地あり。養蠶業を第一とし米・麥の農作物をも出し、外に木材・木炭も多し。なほ街道による交通上の利を占め附近諸村の買物町をなす。北方郡中町より南方内子町・大洲町(喜多郡)に至る國道中山川に沿うて通じ、バスの便あり。古くは和名抄、浮穴郡出部郷に屬せしもの如し。明治四年に中山村・出瀨村を合併して中山村を置き、大正十四年町制を布く。大字出瀨は中世に出瀨盛景の居りし伊福城址あり。

【中山川】愛媛縣周桑郡にある川。櫻樹村の西南部に發源し山合を繞りて東北流し、中川村に入るや沿岸廣く開け、小松町の北を過ぎりて新居郡に入り敷新にして疑難に入る。流程約三〇軒。一に宮ノ下川・長野川といふ。小流なるも下流は舟楫の便あり。

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

【中山村】高知縣土佐國安藝郡の中南部。安田町の北に接し安田川に沿ふ。北は馬路村、東は北川村、西は東川・伊尾木二村に界す。面積三七・〇五平方軒。四圍山脈に圍繞され、北部より西境に連し、山脈最も高くは北に接し、安田

ナカヤ——ナカヤ

川は中部山間を南流して溪谷を作る。山林多し。木材・米・麥・繭・牛・馬を産す。安田町より馬路村に至る縣道中央を貫通し交通の便よし。本村出身の歴史的人物に幕末尊攘の志士清岡治之助あり、有志と共に尊攘を唱へ屢々建言す。元治元年禁裏に觸れ遂に斬せらる。年三十九、從四位を贈らる。(北寺(樂師堂))大字別所にあり。古義貞言宗。弘泉院。大同年間空海の草創に係ると傳ふ。本尊樂師如来坐像(木造)一體及び釋迦如来立像(木造)・菩薩形立像(木造)五軀・持國天立像(木造)一軀・增長天立像(木造)一軀等は總て國寶なり。

【中山村】熊本縣肥後國下益城郡の中部。東は年輪村、北は豊里村に隣り、北と東北は上益城郡乙女村・甲佐町に、南は八代郡に下益城郡に界す。土地南北に長く面積一九方軒餘。南半は九州山脈支脈の山地にて四一五〇米を示すも、北半は西北隅の西山(二七四米)一帯の丘陵地を除けば概ね低平なり。緑川は東北境を北流す。農業を主業とし全戸數八五一戸のうち農作(五八六戸)・養蠶(四戸)・商業(二二五戸)その他にて、米(一四萬圓)・繭(二〇萬圓)を主産物とす。西方の省線鹿兒島本線松橋驛より東北方の上益城郡濱町を結ぶ縣道北部を横斷し省管バス(佐俣線)之を通じ、また社線熊延鐵道佐俣驛(東隣年輪村内)へ近く交通不便ならず。中世は阿蘇社領甲佐宮の荘園内なりしもの

ナカヤ——ナカヨ

七里の勝なり。この地域は花崗岩質斑岩の卓越せる地方にて、益田川は之を侵蝕して峽谷をなし、兩岸の絶壁愈々高く、河床には花崗岩質斑岩の侵蝕に抗せしもの亂立して白泡を躍らせ、或は深淵をなし、沿岸の老杉影を投じ、秋は紅葉によく、殊に屋根に石を置きたる民家の點綴する景觀は將に天下の絶勝にて、三淵附近はその最たるものなり。

ナカヤマジユク 中山宿 磐越西線の一驛(明治三十一年設置)。福島縣安達郡高川村大字中山にあり。

ナカヤマダイラ 中山平 宮城縣陸羽東線の一驛(大正六年設置)。宮城縣玉造郡鳴子町大字中山にあり。

ナカヤマデラ 中山寺 福知山線の一驛(明治三十年設置)。兵庫縣川邊郡長尾村にあり。

ナガユ 長湯村 大分縣豊後國直入郡の北部。竹田町の北方約一〇軒、西は郡野村、東北は下竹田村にて大野郡西大野村に接す。南部は龜ヶ岳西北面の山地にて、北半は久重火山群の一峰なる里嶽(一五五六米)東側の傾斜面にて高原状をなす山地なり。中央部の谷地を芹川東北流し、市狭き耕地あり。米を主とし、麥・甘藷・粟等の産産、木材・竹材等の林産あり。久住より大分方面への中道を西南より東北に通じ、井川岸の湯原温泉より長湯を経て竹田町へバスが通じ、古くは長湯一に竹田町の内とあり。

古くは日笠明神と稱す。祭神の長江津津彦神は孝元天皇の御子武内宿禰の子にして、玉手臣・的臣阿蘇那臣等が祖なりと古事記にあり。さればこの何れかの族人が當地に居住して其祖神を祀れるものなり。例祭、十月十六日。

ナガラ 長良

【長良川】 岐阜縣を流るる木曾川の一支流。源を美濃・飛騨の境なる大日岳(一七〇九米)の東北麓に發して古生層山地を南流し、右岸より板取川・武儀川、左岸より吉田川・津保川等を合せ、流路を西南に轉じて濃美平野に出で、岐阜市の北部を迂回し、更に南流に轉じ、羽島・安八兩郡及び愛知縣中島郡との境に於て木曾川に入る。下流をまた温侯川ともいふ。流路延長一三〇軒、其間、約〇〇軒は山地を峽谷をなして流るるも、左岸に八幡町・美濃町・關町等あり、此等を連ねて越美南線および越前街道通じ、岐阜市の下流約三〇軒には舟楫の便あり。古來水害のため下流の河道屢々變じて現形に至る。岐阜市附近の鵜飼は有名にて、古く延喜年間に行はれたるもの如く、其後、幾變遷を経て仁平年間よりは大いに盛となり、鎌倉時代には毎年幕府に鮎鮎を獻する例あり、永祿七年には織田信長、元和元年には徳川家康この鵜飼を觀覽せしことあり、禁裏及び江戸幕府へも屢々鮎鮎を獻せり。明治以後は明治天皇の天覽を始め、各宮殿下の台覽、外國皇

ナカラ——ナカリ

と湯原村と稱し、のち長湯村と改む。いま村の一部は阿蘇國立公園の一部とす。【長湯(湯原)】 海拔九五〇米の久住高原の裾野に位す。泉質炭酸泉。温泉は御前湯・薬師湯・長生湯・不老湯・天満湯などに分れ、夏は蚊の棲息せざる好適なる避暑地とす。

ナカユキキ 中結城村

茨城縣下總國結城郡の中部。結城町の南約六軒。東は眞壁郡川西村に接す。鬼怒川と飯沼川の中間にあり、西南部にやや高きも土地平坦、鬼怒川の分流は北東部を貫流してその流域に湯田あり、西南部は未だ雜木林残る。縣道は中部を東西に通じバスの便あり。續日本紀に見ゆる小鹽郷は蓋し此地とす。

ナカユイベツ 中湧別

北海道北見國紋別郡湧別村にあり。

ナカヨ 長吉

肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に基津郡長吉郷あり、長谷は長吉郷の誤なるべし。いま三養基郡田代町大字に永吉あり、即ち此地なり。

ナカヨ 長興村

長崎縣肥前國西彼杵郡の中部東偏。南は長崎市の北部との間に西浦上村を隔て、北は大村灣南岸に臨み、東は伊木力村、西は時津村なり。面積二八方軒餘。東境に琴尾山(四五一米)・雷見岳(三六四米)の山嶺連り、南境に丘陵東西に延び、南部と西側に市街を低地開けて耕地あり。琴尾山の北段

族の觀覽あり、益々盛となりて現在に至る。鵜飼に使用する鵜はもと愛知縣津島河岸にて捕獲せしが、近年は茨城縣多賀郡棚形村の海岸にて捕獲せるを用ふ。鵜飼漁業は鮎のや成長を遂げたる頃、五月十一日より十月十五日まで、満月の夜と雨後濁水の時を除く外、毎夜これを行ひ、上弦には月の入るを待ち、下弦には月の出でざるに先ち、上流より漸次下流に狩り下すものにして、鵜船一艘には鵜匠一人、中鵜使一人、船夫二人乗組み、船先に篝火を焚きて水面を照し、鵜匠は鳥帽子を冠り腰裏につけ軸先にありて十二羽の鵜を使ひ、中鵜使は中央にありて四羽の鵜を使ふ。鵜飼觀覽の遊覧船は岐阜市直營にて、金華山の麓より出發し長良橋まで下る。

ナガラ 長柄

【長柄】 岐阜縣稲葉郡にありし村。昭和七年に岐阜市に編入さる。

ナガラ 長柄

【長柄】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に邑樂郡長柄郷あり、この地今の邑樂郡小泉町・長柄村の邊に當る。

ナガラ 長柄

【長柄(郡)】 上總國(千葉縣)の古地名。萬葉集卷二十にも延喜式神名帳にもその名見ゆ。和名抄は奈加良と註し刑部・菅見・車持・兼施・柏原・谷部の六郷を管す。平安時代の季、私かに南北に分け長南・長北といひ、鎌倉時代の記録には應南・應北の字を充つ。近世に至り舊稱に復す。明治三十年四月に上埴生郡と合し

ナカヨシ 永吉村

鹿児島縣薩摩國日置郡の西部。鹿児島市の西約一〇軒、西部は海に臨む。東西約九軒に及ぶ細長く、百乃至二百米の丘陵性山地連なり、東部山中に發する永吉川は中部をほぼ西流し、流域に低地ありて耕地開く。米・麥・甘藷等を産し木材をも出す。縣道は西を南北に通じ、社線南薩鐵道これに並走し永吉驛(大正三年設置)を置く。此地は舊日置南郷の地にて、近世、國主の一門島津中務の食邑たり。村内に南郷城址あり。桑波田氏世々の居城なりしも、大永年中に出水の島津實久に驚して島津忠良に抗敵せしため、天文の初め遂に忠良のため擊破せられて亡ぶ。(久多島神社)大字吉永に鎮座。郷社。祭神玉依姫命。天文十七年島津久光の創建といふも詳ならず。例祭、十一月九日。

ナカヨシ 長吉村

大阪府河内國中河内郡の南部。西北部は大坂市住吉區の東南隅に接し、北は龍華町に隣り、南は大和川によりて隔らる。地形極めて低平にして、面積僅に三・七五方軒。多くは水田をなし、米を主としその他の農産あり。大阪市に接し近時は工業も榮えて各種の工業少からず。東南方古市町方面へ延びる府道中央を通過し、大阪市へバスを通じ、北は奈良街道にも近く交通便なり。(志紀長吉神社)大字長原に鎮座。祭神、長江津津彦神・事代主命。

ナカヨシ 長吉村

【長柄川】 淀川下流の一支の古名。今の大阪市を流る、新淀川の河道に當る。淀川即ち山城川は河内川を入れて後、堀江川(いまの天満川・大川)及び長柄川(中津川)に分れて難波の海に入る。のち三國川(神崎川)を淀川に通じ即ち三派となる。長柄川は長柄豊碓宮(孝徳天皇の皇居)の附近を流る、こと恰も唐都長安城の附近を流る、渭水の如きなるべし。ここに架けたる長柄橋は有名なり。長柄川即ち中津川は明治に至りて新淀川の閉塞せらるるや大部分その河道となる。

ナカヨシ 長柄村

【長柄村】 丹波國(兵庫縣)の古地名。延喜兵部省式に、丹波國長柄縣馬八疋とあり。其の地詳かならざるも、多紀郡城南村の大字野中と同稱を長柄といへりといふ。さすれば驛址は凡そ此の邊に求むべきか。夫木集卷三二に見ゆる鳥羽天皇天仁の大警會主基方の歌に「ばる／＼と年もばるかに見ゆるかな長柄の村のなかひこの稻 藤原正家」とある長柄も、また此地なるべしといふ。

ナカヨシ 長柄

【長柄】 大阪府東淀川區の東南部、新淀川と大川との分岐點附近の地名。もとば攝津國西成郡豐崎町と稱し中津川即ち古の長柄川の南に位す。孝徳天皇の長柄豊碓宮に因みて建てし名稱なり。舊中津川の河邊に通せる新淀川の橋を今も舊名を

ナカヨシ 永吉村

【長柄】 櫻井線の一驛(大正三年設置)。奈良縣山邊郡朝和村兵庫にあり。

ナカヨシ 中龍門村

奈良縣大和國吉野郡の東北部。上市町の東北約三軒、西北部は宇陀郡神戶村に接す。西北境に龍門岳(九〇四米)あり、東南境には三百乃至五百米の山嶺連り、吉野川の小支山間を何れも西南に流れるも概ね谷深く、僕に沿岸に低地ありて耕地開け食用農産物を作り、外に木材・木炭の産あり。街道は龍門岳の麓を縫うて走りバスを通ず。古くは和名抄、吉野郡賀

美郷に属せるもの如し。

ナカリヨケ 中領家 廣島 縣甲奴郡にありし村。大正二年に外四ヶ村と共に廢され、その地域を以つて領家村を置く。

ナガレタ 流田 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に多氣郡流田郷あり、奈加藤田と訓ず、この地今の多氣郡東黒部村の邊に當る。

ナカレヤマ 流山

【流山町】千葉縣下總國東葛飾郡の西部。江戸川の東岸。西は川を隔てて埼玉縣北葛飾郡と相對す。東北部は低き臺地をなすも他は全部低地にして水田よく拓く。明治初年頃までは江戸川の水運により東京との交通頻繁に行はれ、また茨城地方よりの物資の集散地として重きをなし商業發達を極め、特に味噌の醸造を以て著はる。然るに水運は交通機關の變革に伴ひて廢れ、且つ江戸川の洪水のため一時頗る衰頹せり。最近に至り江戸川改修工事成り、水害を除き、また大東京市の隣接町となり、町勢振ふに至れり。殊に味噌に年産約百萬圓に達し、また焼酎もその額少なからず。省線常磐線馬橋驛よりは社線流山鐵道通じ、町内に蘇ヶ崎(大正五年設置)・赤城(昭和八年設置)・流山(大正五年設置)の三驛を置く。古くは史實の徵すべきものなきも、中世は八木郷と稱せし地なり。大字加はもと加村といひ、明治二年葛飾縣を置きし處、また

加は和名抄、葛飾郡桑原郷の詛れるものならんと云ふも詳ならず。

【流山鐵道】社線。千葉縣東葛飾郡にあり。馬橋村の省線常磐線の馬橋驛より流山町の流山驛に至る五・七軒。大正五年開通。軌間一・〇六七米、動力は蒸氣ガソリン・木炭瓦斯、省線と連帶運輸す。

ナガワ 奈川村

【奈川村】長野縣信濃國西筑摩郡の西北部。北は上高地にて有名なる南安曇郡安曇村に接し、西は岐阜縣益田郡高根村に隣る。面積一九・五五方軒の大村なり。西境には日本アルプス乗鞍嶽の連峰連り、鎌ヶ峯(二二二二米)あり、東境には八森山(二四四六米)・小八森山(二二七四米)聳立し、南境・北境にも二千米内外の山嶺ありて四周高山に圍繞され、梓川の一支出用はその山地の水を集めて北流し、谷深きも沿岸にやや低地ありて田畑開く。而して四周の山地は林相美に富み、西部に黒川御料林、南部に奈川御料林、東部に裏針伏御料林あり。かく深山き山村なるも松本盆地より來る野麥街道は奈川に沿うて走り、西境中部の野麥峠(一六七二米)を越えて飛驒に入り、木曾街道となる。

ナカワカ 長若村

【長若村】埼玉縣武藏國秩父郡の中部。秩父町の西隣にあり。關東山脈の一部を占め、森林多く、林産あり。北境を東北に流るる赤平川の附近のみ狭き平地ありて耕地をなす。多米を産し、栗・松茸行はれて商を産す。村の東北を

ナキサワ 哭澤社

【哭澤社】香久山村(奈良縣)

ナキシン 今歸仁村

【今歸仁村】神戶縣磯城郡國頭郡の西北端。名護町の北に接し、北は海に臨む。東北海上に浮ぶ古宇利島を含む、面積四一・五六軒なるも本郡最小の村。南部には古生層にて構成される山地もあるも高度は大ならず。東部は大井川北流し海岸一帯には低地あり、東境には運天港運河あり、また海岸には隆起珊瑚礁連る。米・甘蔗・甘蔗を産し製糖の産多く、水産も盛なり。山地には亞熱帯植物繁茂す。街道は山地北麓及び大井川沿ひに通じ、名護町に自動車を通ず。運天港より各地に汽船便あり。人口は大正九年一四一五九人、同十四年一二六〇九人、昭和五年一三〇五七人、同十年一二六八九人にて増減を示すも、大正九年に最も多し。併し昭和十年の一方軒の人口密度は三〇六人にて本郡にて本郡村に次で人口稠密なり。字今泊に今歸仁城(北山城)址あり。今より六百年前、中山祖英王の次男、今歸仁按司に封ぜられて當城に居せしも、數代ののち帕尼芝の奪ふ所となり、のち更に尙巴志の率ゐし聯合軍に破られて滅亡す。かくして北山王國は凡そ一世紀にして中山に併せられ、其後、第一尙王統、第二尙王統共に王子を派遣して北山監守に任せしも、寛文五年に至り王命に依りて首里へ引上ぐ。城は海拔約九〇米にして、險阻要害かつ山川秀麗の

經て縣道秩父町に通ずるも、他は村道あるのみにて一般に交通不便なり。(法性寺(般若堂)・大字般若にあり。曹洞宗。石船山。開山は眼應、中興開山は宗察なり。秩父三十四所第三十二番札所たる般若堂を管理す。本堂は僧行基の創建と傳へ、本堂に聖觀音を安置す。

ナカワタ 中和田村

【中和田村】神奈川縣相模國鎌倉郡の西部。戸塚町の西北隣。西は高座郡の一部と隣す。多摩丘陵の西部を占め、西境を境川南流す。丘陵間に畑地多く、農業行はれて麥・甘蔗・粟・馬鈴薯・蕎麥等を産し養蠶も盛なり。縣道は戸塚町及び西南隣高座郡六倉村に通じ、六倉村には小田原急行鐵道江ノ島線新長後驛ありてバスを通ず。

ナカワツカ 中和東村

【中和東村】京都府山城國相樂郡の中部。木津川北岸に沿ひ東南部は笠置町に、西南は加茂町に接し、西北隣は舞臺郡田原村に界す。東部は笠置山脈の北部にて高さ四一五米前後の山地をなし、西北境も鷲峰山の西嶺にて四百米臺を示す。東北隣東和東村より來る和東川は中部を西南流して西隣西和東村に出で、その沿岸に僅に低地ありて田地をなし米麥と産し、山地の斜面には茶畑折かれて茶を出す。縣道は川に沿ひて通じ木津より湯船に至るバスの路線をなす。此地は中世の和東莊の内。本村出身の歴史的人物に田村清兵衛あり、世々郷士にして多額の土地山林を所有す。其

ナギハラ 風原

【風原】千葉縣安房郡にありし村。明治二十六年郡古町と改稱す。郡の東南端。御座半島の頸部に當る地を占む。面積六方軒餘。大王崎は東、太平洋に突出して其北西に波切港を抱き、東岸及び南岸一帯は斷崖汀に迫る。西北部は對岸立神村との間に灣入する英虞灣の東支に臨む。中央部は高度五〇米内外の臺地にして四周に巾狭き低地入り込み、そこに田地あり。水産類(約七七萬圓)最も多く、外に米・麥・茶・鶏卵等の農産(六・六萬圓)及び少額の工業・畜産・林産あり。北方鳥羽港へ道路通じてバスの便あり、社線志摩電鐵の志摩神明驛(神明村)にも近く、また鳥羽港へ定期航路を有す。大王崎上には閃紅白交光、光速距離一八哩の燈臺設けらる。昭和三年町制施行。和名抄に英虞郡名雜郷と云ふは本町及び立神村・船越村に當る。一に名切・菜切とも書く。戰國の頃は九鬼氏この地を領し海上に雄飛せり。(波切神社)郷社。祭神、國狹狹命。例祭、四月申日。(赤城神社)大字流山に鎮座。郷社。祭神大己貴命・豐受命。元和六年造營の旨を記せる棟札を藏す。古くより當村の鎮守として崇敬せらる。例祭十月二十日。

ナギハラ 波切町

【波切町】三重縣志摩國志摩郡の東南端。御座半島の頸部に當る地を占む。面積六方軒餘。大王崎は東、太平洋に突出して其北西に波切港を抱き、東岸及び南岸一帯は斷崖汀に迫る。西北部は對岸立神村との間に灣入する英虞灣の東支に臨む。中央部は高度五〇米内外の臺地にして四周に巾狭き低地入り込み、そこに田地あり。水産類(約七七萬圓)最も多く、外に米・麥・茶・鶏卵等の農産(六・六萬圓)及び少額の工業・畜産・林産あり。北方鳥羽港へ道路通じてバスの便あり、社線志摩電鐵の志摩神明驛(神明村)にも近く、また鳥羽港へ定期航路を有す。大王崎上には閃紅白交光、光速距離一八哩の燈臺設けらる。昭和三年町制施行。和名抄に英虞郡名雜郷と云ふは本町及び立神村・船越村に當る。一に名切・菜切とも書く。戰國の頃は九鬼氏この地を領し海上に雄飛せり。(波切神社)郷社。祭神、國狹狹命。例祭、四月申日。(赤城神社)大字流山に鎮座。郷社。祭神大己貴命・豐受命。元和六年造營の旨を記せる棟札を藏す。古くより當村の鎮守として崇敬せらる。例祭十月二十日。

ナギハラ 風原

【風原】千葉縣安房郡にありし村。明治二十六年郡古町と改稱す。郡の東南端。御座半島の頸部に當る地を占む。面積六方軒餘。大王崎は東、太平洋に突出して其北西に波切港を抱き、東岸及び南岸一帯は斷崖汀に迫る。西北部は對岸立神村との間に灣入する英虞灣の東支に臨む。中央部は高度五〇米内外の臺地にして四周に巾狭き低地入り込み、そこに田地あり。水産類(約七七萬圓)最も多く、外に米・麥・茶・鶏卵等の農産(六・六萬圓)及び少額の工業・畜産・林産あり。北方鳥羽港へ道路通じてバスの便あり、社線志摩電鐵の志摩神明驛(神明村)にも近く、また鳥羽港へ定期航路を有す。大王崎上には閃紅白交光、光速距離一八哩の燈臺設けらる。昭和三年町制施行。和名抄に英虞郡名雜郷と云ふは本町及び立神村・船越村に當る。一に名切・菜切とも書く。戰國の頃は九鬼氏この地を領し海上に雄飛せり。(波切神社)郷社。祭神、國狹狹命。例祭、四月申日。(赤城神社)大字流山に鎮座。郷社。祭神大己貴命・豐受命。元和六年造營の旨を記せる棟札を藏す。古くより當村の鎮守として崇敬せらる。例祭十月二十日。

ナギハラ 波切町

【波切町】三重縣志摩國志摩郡の東南端。御座半島の頸部に當る地を占む。面積六方軒餘。大王崎は東、太平洋に突出して其北西に波切港を抱き、東岸及び南岸一帯は斷崖汀に迫る。西北部は對岸立神村との間に灣入する英虞灣の東支に臨む。中央部は高度五〇米内外の臺地にして四周に巾狭き低地入り込み、そこに田地あり。水産類(約七七萬圓)最も多く、外に米・麥・茶・鶏卵等の農産(六・六萬圓)及び少額の工業・畜産・林産あり。北方鳥羽港へ道路通じてバスの便あり、社線志摩電鐵の志摩神明驛(神明村)にも近く、また鳥羽港へ定期航路を有す。大王崎上には閃紅白交光、光速距離一八哩の燈臺設けらる。昭和三年町制施行。和名抄に英虞郡名雜郷と云ふは本町及び立神村・船越村に當る。一に名切・菜切とも書く。戰國の頃は九鬼氏この地を領し海上に雄飛せり。(波切神社)郷社。祭神、國狹狹命。例祭、四月申日。(赤城神社)大字流山に鎮座。郷社。祭神大己貴命・豐受命。元和六年造營の旨を記せる棟札を藏す。古くより當村の鎮守として崇敬せらる。例祭十月二十日。

ナギハラ 風原

【風原】千葉縣安房郡にありし村。明治二十六年郡古町と改稱す。郡の東南端。御座半島の頸部に當る地を占む。面積六方軒餘。大王崎は東、太平洋に突出して其北西に波切港を抱き、東岸及び南岸一帯は斷崖汀に迫る。西北部は對岸立神村との間に灣入する英虞灣の東支に臨む。中央部は高度五〇米内外の臺地にして四周に巾狭き低地入り込み、そこに田地あり。水産類(約七七萬圓)最も多く、外に米・麥・茶・鶏卵等の農産(六・六萬圓)及び少額の工業・畜産・林産あり。北方鳥羽港へ道路通じてバスの便あり、社線志摩電鐵の志摩神明驛(神明村)にも近く、また鳥羽港へ定期航路を有す。大王崎上には閃紅白交光、光速距離一八哩の燈臺設けらる。昭和三年町制施行。和名抄に英虞郡名雜郷と云ふは本町及び立神村・船越村に當る。一に名切・菜切とも書く。戰國の頃は九鬼氏この地を領し海上に雄飛せり。(波切神社)郷社。祭神、國狹狹命。例祭、四月申日。(赤城神社)大字流山に鎮座。郷社。祭神大己貴命・豐受命。元和六年造營の旨を記せる棟札を藏す。古くより當村の鎮守として崇敬せらる。例祭十月二十日。

じて大庄屋・大年寄等に擧げらる、その地は朝廷直領に屬して、代々皇室御用を奉じ、忠勤怠らず、嘗て白柄・石寺兩村(いま西和東村の大字)の山間に新田開發の許可を受く、元祿九年起工し日夜工夫を奮し耕地十一町五反歩餘を得、佃民二十三名を移し一部落を設け田村新田と名づく、寶永二年に至り開墾全く成る。これより御料米の増收を來たし、明治八年まで百七十餘年、禁裡歲入の窮乏を補足せるに至る。寛保三年歿す、從五位を贈らる。(正法寺)大字南にあり。臨濟宗永源寺派。瑞泉山。天平年中、聖武天皇安積皇子の冥福を祈らん爲に本寺を創建し僧行基を開基とす。往時は寺運盛大な極め地方稀有の名藍たりしが、中世に衰頹、寛文五年に至り東福門院、諸堂を建立し、爾來皇室の勅願所となす。

ナカワラシナ 中藥科村

【中藥科村】靜岡縣駿河國安倍郡の南部。安倍川支流の藥科川の右岸。靜岡市の西に接し、西は志太郡に界す。南に丘陵連互し北境を東流する藥科川の谷に向ひて傾斜す。河岸に多少の平地あるも砂土多く耕作にあまり適せず。傾斜地は茶・桑の栽培に利用せられ農産を主とし、米・茶・蕎麥を産す。林業これに次ぐ。北部を東西に貫走する縣道あり、省線東海道本線靜岡驛(約三軒餘)バスの便あり。

ナキ 名木之河

【名木之河】萬葉集に見ゆる河名。和名抄に見ゆる山城國久世郡那紀郡にある河名。仁徳紀に大溝を山背國那紀郡に開り、以て田を潤はすとある粟限溝の一部を稱せしものか。その河址未だ詳かならざるも、今の京都府久世郡富野村より木津川を導き巨椋沼に至る水道に當るか。萬葉・九「衣手の名木之河邊を春雨にわれ立ち流ると家念ふらむ。」

ナキ 那岐

【那岐】鳥取縣八頭郡にありし村。昭和十年に智頭町・山形村・土師村と共に廢され、その區域を以つて智頭町を建つ。

ナキ 那紀

【那紀】山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡那紀郷あり、その地今の久世郡小倉村の邊なるべし。

ナキ 那紀

【那紀】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に上道郡那紀郷あり、其地いま詳ならずも上道郡御休村の邊に當るか。

ナキ 名木

【名木】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に在田郡奈耆郷あり、一本に奈耆に依るも郷名二字の制より考ふれば脱字なること明かなり。書紀通證は奈耆なるべしといふ。今これに従ふ。書紀、持統天皇三年に「禁斷漁獵、於紀伊國阿提那那耆野」と見ゆ。その地今の箕島町・田栖川村の邊に當る。

ナギサ 渚

【渚】岐阜縣大野郡久々野村の大字。高山本線の一驛(昭和九年設置)を置く。

ナクサ——ナコ

利高氏の將南宗繼の領地となり代々その所領たり。南氏は紀州名草より起りしものといふ。もと北郷村の大字なりしが、大正十一年獨立して名草村を建つ。

【名草(郡)】紀伊國(和歌山縣)の古郡名。書紀神武紀に天皇熊野に向はせ給ふ時、名草邑に於て名草戸時を討平げ給ふとあるが最も古く、國郡制定の時、名草郡置かれ國府の所在地たり。續紀養老七年紀に郡名はじめて見ゆ。和名抄は奈久佐と註し大屋・直川・苑部・大田・大宅・忌部・斷金・藤家・野鹿・荒賀・大野・且來の十二郷及び津麻・有賀・大屋・日前・須佐・鳥の神戸を置く。中世には郡内神地・神戸たきを以て神郡とも云へり。

【名草驛】紀伊國(和歌山縣)の古地名。日本後紀、「弘仁三年四月、廢紀伊國名草驛、更置三藏原驛」と見ゆ。名草驛は和名抄に見ゆる名草郡驛家郷の地なるべく、中世には山口莊と稱せり。いま海草郡山口村大字里はその址にして、雄山峠の南麓にありしを、平安遷都以後雄山道を廢して専ら紀見峠越の新道、即ち高野街道を通せしを以てかくは名草驛を廢して三藏原驛を置かれしなり。

ナクサ 名種山・七草山 兵庫縣神戶市

【名草山】(名草郡) 紀伊國(和歌山縣)の古地名。日本後紀、「弘仁三年四月、廢紀伊國名草驛、更置三藏原驛」と見ゆ。名草驛は和名抄に見ゆる名草郡驛家郷の地なるべく、中世には山口莊と稱せり。いま海草郡山口村大字里はその址にして、雄山峠の南麓にありしを、平安遷都以後雄山道

て南流し、東流は同じく南流する市川の流域地たり。

ナクサ 名久田村

群馬縣上野國吾妻郡の東部。中之條町の東北隣にあり。北は利根郡に、南には群馬郡の一部と隣す。西境附近に蟻川岳(八五三米)、東境に十二ヶ嶽(一一〇一米)あり。東北境附近にも一一〇〇米餘の山ありて、三方より村内に傾斜し、村の中部はその場合にて、吾妻川の支流流西南に流る。川沿ひに狭き耕地ありて米・麥を産す。縣道は川沿ひに中之條町に通す。古くは和名抄、吾妻郡長田郷の内とす。村内に大塚温泉(微温湯)あり。泉質は硫酸泉。旅舎は名久田川に臨み野趣に富む地方的の温泉場なり。【吾妻神社】大字横尾に鎮座。郷社。祭神、大穴牟遲神・大山祇命・磐田別命等五十二柱。地方の古社にして領主眞田氏の崇敬せる外、吾妻全部の信仰を鎮む。

ナクラ 名倉村

神奈川縣相模國津久井郡の西部。吉野町の西南にある小村にて桂川の南岸にあり、面積四・三五方町。西は山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一部を占め、森林・草地あり。北境を東流する桂川の谷沿ひに耕地ありて麥・甘藷・馬鈴薯等を産し養蠶も行はる。川沿ひに村道ありて山梨縣に入り、北都留郡上野原町に通す。【石橋尾神社】郷社。祭神、日本武尊。式内小社にして當國十三社の一。例祭、九月一日。

ナクラ 名倉村

神奈川縣相模國津久井郡の西部。吉野町の西南にある小村にて桂川の南岸にあり、面積四・三五方町。西は山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一部を占め、森林・草地あり。北境を東流する桂川の谷沿ひに耕地ありて麥・甘藷・馬鈴薯等を産し養蠶も行はる。川沿ひに村道ありて山梨縣に入り、北都留郡上野原町に通す。【石橋尾神社】郷社。祭神、日本武尊。式内小社にして當國十三社の一。例祭、九月一日。

ナクラ 名倉

【名倉村】愛知縣三河國北設樂郡の西北部。田口町の北に隣る。西境に岩岳(一〇五九米)・寒狭山(九四五米)、東境に高山(一〇五四米)等の連峰は共にほぼ南北に走り、西境山地の傾斜急なるも東境山地は傾斜緩やかにして、中部を名倉川南に流れ、その流域に樹状に田畑開けるも、田畑は東部山地によく発達す。米を産する外に木村・木炭あり。街道は名倉川に沿うて南北に走りバスを通す。【八幡神社】大字東納車に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古來、本村の産土神として崇敬せる。例祭、九月十五日。

ナクラ 名藏灣

沖繩縣八重山郡石垣島西岸の灣。灣口は北の大崎、南の觀音崎を以て扼され約六軒、灣入約五軒の大灣なるも、水淺く泊舟に便ならず。【名倉】和歌山縣伊都郡にありし村。明治四十三年高野町と改む。

ナクラ 名栗村

埼玉縣武蔵國入間郡の西端部。名栗川の流上にある大村にて、北より西は秩父郡、南は東京府西多摩郡の一部と隣す。面積五八・七二六方町。關東山脈中の一部を占め、西南境には有間山(一一二四米)、その東北に蔵山(一一〇三三米)あり。また東北境には伊豆ヶ嶽(八五一米)あり。村の東部はこれ等兩山地の結合にて名栗川東南に流る。山地一帯森林多く、木材の産出多し。また

名栗川の谷に沿ふ聚落には養蠶行はれて繭・生絲を産し農産物には麥あり。縣道は川沿ひに東方飯能町方面に通じバスの便あり。他は山地のため交通不便なり。本村は大正十年秩父郡より本郡に編入さる。村内に名栗鐵泉あり。單純泉にして行樂向なり。

ナクルミ 吳桃

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に利根郡吳桃郷あり、奈久留美と訓す。その地は今の利根郡新治村・桃野村・川田村の邊に當る。

ナグワシ 名細村

埼玉縣武蔵國入間郡の北部。川越市の西北方に、間に田面澤村・山田村の一部を挟み、入間川の西岸にあり。面積一一・三二平方町。入間川は村の東北隅にて越邊川と合流し、全村平地にて東部は水田、他は畑地をなす。米を産し養蠶行はれて繭・生絲を産す。川越市に縣道を通じ、社線東武鐵道東上線は川越市より來りて村の西南部を西北に走るも、村内に驛なく南隣霞ヶ關村に霞ヶ關驛を置く。此地は和名抄、入間郡安刀郷の内なり。

ナコ 那古町

千葉縣安房國安房郡の西海岸。館山灣に臨み、館山北條町の北隣。面積八・六二方町。北半は丘陵地にて森林あり。南半は低地にて、南境を平久里川西流す。水田多く米を主産し他に麥・蠶を産す。海岸は單調なる砂浜をなし海水浴場をなす。縣道は北條郡那古町より來り海軍附近を南流して館山北條町に

通す。主なる聚落は之に沿ひて発達す。省線房総西線また之に沿ふも町内に驛なく、北條郡形町の南部に那古船形驛を置く。此地は和名抄、平群郡長門郷の内なり。明治二十六年に風原村を那古町と改稱す。古來、那古寺あるを以て知らる。【諏訪神社】大字正木に鎮座。郷社。祭神、武御名方尊。延喜元年、信濃國の諏訪大神を勧請せるところといふ。例祭、九月二十七日。【那古寺】大字那古にあり。新義真言宗智山派。補陀落山千手院と號し坂東三十三所第三十三番札所。養老元年行基の草創、承和十四年圓仁の再興と傳ふ。建久年中、源賴朝平家討滅祈願成就の報賽として諸堂建立す。佛寺領百九石。詠歌「補陀落は餘所にはあらず那吳の寺岸うつ浪も法の聲々」

ナコ 名兒山

萬葉集に見ゆる地名。いまの福岡縣宗像郡田島村と勝浦村との間の丘陵にして、即ち官幣大社宗像神宮の西に當る。萬葉・六「大汝 少彦名之神こそは 名づけ始めけ 名のみを 名兒山と負ひて 吾が戀の 千重の一重も 慰めなくに」

ナコ 名護

【名護町】土地にてはナガと呼ぶ。沖繩縣國頭郡の中部。本部半島の南部より名護灣に沿うて西南に彎曲する地を占む。面積約六七方町。人口約一萬四千。北部には沖繩島最高の八重岳(於茂登岳、約五〇〇米)と古來より琉球第一峰を以て

ナコ——ナコソ

稱せらるる喜津字岳(約四五〇米)等連なり、東南部には島の香染山脈走りて久志岳聳ゆ。此等の山地は古生層より成り、山腹には亞熱帯性植物繁茂し、森林の行はるる所少からず。中部の名護灣頭にはやや廣き沖積地ひらけ、田畑連なる。農産は米・甘藷・甘藷を主とし、製糖行はれ、また名護港を中心として、漁獲物多く、山地には木材・薪炭を産出す。前記沖積地の南偏に市街あり、町内人口の半數は此處に集中し、農事試験場支場・税務署・縣立第三中學校・同第三高等女學校・銀行等あり、以前は郡役所の所在地たり。繁華なる大通は藩政時代の馬場にして、梅檀・木麻黄等の街路樹その風致を添ふ。名護公園あり。町の西北安和には鍾乳洞あり、南方には數久田蕪の巨澤あり。名護灣に沿ひて那覇より縣道通じバスの便あり交通不便ならず。

ナコ 奈古村

山口縣長門國阿武郡の西部。萩市の東北方にあり、北は宇田郷村に、東は福賀・紫福二村に、南は大井村に界し、西は日本海に臨む。面積三八・四方町。東部中央に聳立する三ヶ岳を主峰とし、東北から西南の方向に數條の

ナコエ 名越切通

↓鎌倉町 村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

ナコシ 名越

愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

山脈連なりして併走して西方に傾斜し、斷崖を以て海に臨み、西北端海岸には遠緑山屹立して小磯鼻・モドロ岬・大平瀨・ビシヤゴ瀨等の岬角を突出し附近は絶壁をなす。その南方奈古港附近は良好な灣入をなし漁港発達す。大字奈古附近には平地稍ありて耕地拓かれ米・麥・藪等の産あり。山地は林産に富み海岸は漁業盛にして鯛・鮪・柔魚等の漁獲多し。縣道は海岸に沿うて走り萩市に至り、バスを通す。省線山陰本線木與驛(昭和六年設置)・奈古驛(昭和四年設置)あり。また北方須佐村へは海上一四哩、定期の便船あり。この地古くは和名抄、阿武郡阿武郷の内に屬す。和歌の名所として知らるる誰其森は大字市部の地といふ。夫木・森「さ夜ふけて誰其森のほととぎす名のりかけても過ぎぬるかな 行家」(八幡宮) 大字奈古に鎮座。郷社。祭神、品陀別尊・帶仲津彦尊・息長足姫命。天曆年間、山城國石清水より分祀すといふ。例祭、九月二十二日。

ナコエ 名越切通

↓鎌倉町 村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

ナコシ 名越

愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

ナコソ 勿來

福島縣磐城國石城郡の東南端。植田町の南方約四・五町。東は太平洋に面し、南は茨城縣に接す。面積一八・八

ナコソ 勿來

二方町。地形南部に高く北方に傾斜し、北部は平坦なり。窪田川は町の略中央部を東流す。海岸はいま松川磯と稱し景勝の地たり。米・麥を産し石灰を出す。また魚業行はる。陸前濱街道は海岸を南北に通じ、北方植田町へはバスの便あり。これに並行して常磐線通じ、勿來驛(明治三十年設置)あり。此地は和名抄、菊多郡酒井郷の内にして、勿來園址あるを以て知らる。もと窪田村と稱せしが、大正十四年勿來園址の歴史を重んじ勿來町と改稱す。大字窪田に長者屋敷と呼ぶ地あり。上古、菊多園造の治所ならんといふ。【日支勿來炭山】鐵區は勿來町の内にありて二十二萬六千二百坪。昭和十年の産額は塊炭二、九六三噸、粉炭二二、五〇一噸、切込炭五、四九九噸、粗炭四、二〇五噸にして、この總價額約十七萬八千圓、我國の準重要鐵山に屬し、同年六月末現在の使用鐵夫二五九人にして日支炭鐵汽船株式會社の經營たり。(東海炭山) 鐵區は勿來町・川部村・錦村の三箇町に跨りて六十九萬餘坪、昭和九年の産額は三一、二六七噸にて我國の準重要鐵山に屬し、現在大日本炭鐵株式會社の經營とす。(勿來炭鐵) 福島縣石城郡の勿來町・川部村・錦村の三箇町に互る。鐵區二あり、一は勿來・川部二村に互りて三十八萬一千餘坪、他は勿來・川部・錦に互り約九十九萬坪とす。炭鐵區は常磐炭田の略中央に位し、地層は第三紀層に

ナコソ 勿來

ナコヤ—ナコヤ

(年一十和昭) 場工別数職

職工別数	工場									
	紡績工業	金工工業	機械器具工業	窯業	化学工業	製材木製品工業	印刷製本工業	食品工業	電気工業	其他ノ工業
總数	六〇五	六〇四	八五三	三三八	一四三	五九	三〇三	四〇〇	三	七三
五人以下	二七三	二六三	三三三	一〇八	一〇	一	一	一	一	一
十人以上	三三二	三四一	五二〇	二五〇	一三三	五八	三〇二	三九	二	七二
二十人以上	一五〇	一〇八	一〇	一	一	一	一	一	一	一
五十人以上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

多く、商業一〇％餘にてこれに次ぎ他は之等に比し遙に少し。これを東京・大阪・京都の三大都市に比較すれば工業は東京(二四・三%)・京都(一六・四%)・大阪(二六・七%)に比し工業率よく、これに反し商業は東京(一三・二%)・京都(一四・二%)・大阪(一四・八%)よりもその率悪く、即ち本市は東京・大阪・京都の三市よりも工業化著しきを證す。市の生産總額は昭和五年の統計によれば、二七四萬圓、うち工業額は二六八萬圓餘(總額の九七%)に達し、農産額一八九萬圓、畜産額一五三萬圓、水産額二二八萬圓等これに次ぐ。即ち工業額が總對に

多くその他のものは云ふに足らざる状態なり。本市の工業の盛なることは阪神地方・京濱地方・北九州地方と共に我國四大工業地域の一と稱せらる。昭和十一年中に於ける市内の工場数(使用職工五人以上)は四一七三を算し、前年に比し工場数一六五(四・一%)、職工数七三七八人(七・三%)、生産額四七四七四圓(一・四%)の各増加を示す。此の激増は時局の影響を多分に反映し、軍需關係工業の勃興と、爲替低落に依る輸出貿易の盛況に恵まれたによる。各工業別工場を見れば、謂はゆる重工業たる金工工業及び機械器具工業合して、工場数二九、

六%に當り斷然首位を占め、之に次ぐは紡績工業の一四・五%、製材及び木製品工業の一四・三%、食品工業の一〇・一%の順となる。職工数は一〇八一二六六人にて、一工場當り職工数は二六人となる。各工業別にすれば、金工工業及び機械器具工業の四三・八五人(職工總数の四〇・五%)最も多数を占め、之に次ぎ紡績工業の二七三七三人(二五・三%)、窯業の一二一五五人(一一・三%)の順となる。更に昭和十一年中に於ける生産總額は六〇八、四六〇、五五六圓にて、之を前年の五五五、八九八、九九〇圓に比すれば五二、五六一、五六六圓、即ち九・五%の増加を示す。また之を事業別に見れば紡績工業の三九・二%が首位を占め、機械器具工業の一九・二%、其他の工業の八・三%、化学工業の五・四%、製材及び木製品工業の四・八%が之に次ぐ。之等の激増も主として對外貿易、軍需工業の活況等に基因して、従つて重工の躍進が窺はれる。次に生産額中製品別に見ると生産額一千萬圓以上のものは紡績の八六二一五、七九二圓を首位に、織物の五八二六九、〇八七圓これに次ぎ車輪・製粉・陶磁器・製材・木製品・印刷・菓子・パン及び水筒等あり。工業製品としては機械染工工業盛にて、其のうち織物の生産が多し。織物にても綿織物が最も多く今は大阪市を凌ぎ、我國第一の地位を占め、これに隨伴して毛織物が興り、これも我國

(圓千位單) 額 産 生

總	工場									
	紡績工業	金工工業	機械器具工業	窯業	化学工業	製材木製品工業	印刷製本工業	食品工業	電気工業	其他ノ工業
總	一六四、六八	一七、七〇	一〇九、八五	三三、三三	一三、四二	二八、六〇	一三、三六	四四、四七	九、一五	四六、七八
其他ノ工業	三、七〇	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六

最大の産地となるに至れり。其他に絹織物・絹織物等あり。綿織物も甚だ盛にて、その生産は大阪市と覇を争ふ状態にあり、莫大小・製絲業も盛なり。食品工業には麥粉・菓子・麥酒・漬物・清酒・船等の産多し。化学工業には陶磁器・薬品及び賣薬品・醫料材料品・人造肥料・セメント・炭酸・硝子・漆器及び一團張等の生産多く、中にて陶磁器はもと單に市の東北方の山中に産せし瀬戸物の市場にすぎざりしも、今や産業組織の變遷と交通の利便が合して本市に於ても斯業の勃興を促し、我國第一の生産地となり、僅に瀬戸地方を凌駕し而も海外に廣く販路を擴張し、則武製(市内則武町に製陶會社)による此業あり。

として世界的名産を博す。七寶燒は花類・置物等を主とし歴史的に高く海外へ國産美術品として輸出されるもその産額は多からず。機械器具工業にては諸機械類・車輪・自轉車及び部分品・時計・電気機械器具等を産し、機械類の中には豊田式自動織機は名高く、その發明は名古屋を我國第一の製織都市たらしめし有力な一因をなせり。車輛にては汽車の製造が特に著はれ、時計は産額東京市に次ぎ我國第二位の生産地にて愛知時計の名産は頗る廣く知らる。錐工業としては箱類を第一とする各種の木製品・扇子を第一とする紙製品・玩具・佛壇佛具・帳帳・文房具等の製造多し。以上各種工業の外に、軍用上甚だ重要な各種軍需品の製造所あり、飛行機・軍用自動車等の製作が盛に行はれ、わが國に於ける斯業の中心地となる。要するに本市の工業の主體をなし、且つ我國にて第一位を占むるものは綿織物・毛織物及び陶磁器の三大工業にて、何れも産額は斷然頭角を顯はし前二者の盛大なることは實に日本に於けるランカシヤであり、同時にヨーロッパなりとの稱あり。工業地帯は中央部の市街地を巡りて四周に發達するも、主なるものは大觀すれば、堀川筋を中心として凡そY字形に群り、特に南部地域が最も工業的色彩濃厚にて、都市計畫に於てもまた此の地域を工業地域と指定す。次に此の如き工業の盛大を來せし要因の主な

るものを舉ぐれば、交通の至便なることと、第二に豊富にして且つ低廉なる電力を近距離より得られること等により。本市は石炭の産地に遠きも、木曾川を主とする電力の供給を受けるには甚だ恵まれた位置にあり、現在工業の原動力となる大部分は即ち木曾川の發電所よりの送電による。なほ労働力の得易き事も一要因となる。本市の後背地たる濃尾平野・伊勢平野及び三河平野は人口密度大にして絶好の市の労働力供給地となる。本市の土地分類表を見れば、田・畑面積は逐年減少しこれに反し宅地面積は増加す。昭和十二年の田の面積は約四七〇〇ヘクタール、畑は約一八五〇ヘクタール。之等の耕地面積より米麥を産するは勿論、米の生産率の如きは遙に他地方より大なり。而し最大の特徴は近郊式農業の盛に行はれることにて、即ち茄子・大根・漬菜・葱・越瓜等の蔬菜類の栽培多く、これはまた當然郊外まで延長され我國有数の蔬菜栽培地域をなす。市の西北部の枇

杷島には古來有名なる青物市場あり、市場は單に當市のみならず、遠隔の地方まで蔬菜類を輸送し、特にこの守口大根は廣く世に知らる。畜産は牛・豚の屠殺相當多きも本市の特色あるものは養鶏業なり。當地を中心として發達する養鶏業は斷然全國第一の地位を占め、その分布は、大體都市を中市として圓周狀に發達す。水産業は餘り盛ならざるも製造業は稍々盛なり。たゞ縣内及び三重縣の漁船が多く漁獲物を齎し、それを取扱ふ大魚市場が熱田にあり。

設會社の營業種別を見るに、工業を營むもの二六八社を首位に、商業を營むもの一九五社これに次ぎ、運輸業一六社・銀行二社となる。金融方面は當市に本店を有する銀行は、特殊銀行一・普通銀行五・貯蓄銀行一行にして、その支店が市内にあるもの五八、本店が當市外に所在の支店は二を算し、本支店銀行の總数は八七行なり。此の如き商業の發展は鐵道の各地方に通ずるに至り、次第に商業の勢力範圍即ち商圏はその鐵道沿線地域に侵入し、従来の東京・大阪の二大商圏内に屬する地域が漸次市の商圏に屬するに至り、現在にては東京・大阪の二大商圏に對してその中間部に我國第三の商圏を確立するに至れり。その區域は濃尾平野を中心とする伊勢海沿岸地域は、東は靜岡縣西部たる濱松市附近にて東京の商圏と相接し、省線中央線に沿うては長野縣鹽尻附近にて東京の商圏と接し、西は關ヶ原の峽隘を越え、近江の湖北地方及び北陸の南部へ侵入して大阪の商圏と交り、西南は沿岸傳ひに紀伊半島南端に至りて大阪の商圏と相接す。なほ當市に産する特産は全國的の商圏を有することば勿論とす。これ等の商圏内に對する貨物の輸送は鐵道に負ふ所多きも、また名古屋港を通じ水運による輸送も少からず。鐵道による發送總量の多きは名古屋港・名古屋・熱田・白鳥の諸驛にして、到着は名古屋・熱田・熱田・名古屋港・千種

ナコヤ—ナコヤ

昭和三	宅地				同
	田	畑	其他	總面積	
同	二八、二六	五、三三	四、〇〇	三、〇八	同
同	二九、九二	五、四四	三、〇七	三、〇八	同
同	三六、〇六	四、九二	一、九五	四、八四	同
同	四九、二六	一、九五	四、八四	五、三三	同
同	五八、五二	一、五二	四、九二	五、三六	同

杷島には古來有名なる青物市場あり、市場は單に當市のみならず、遠隔の地方まで蔬菜類を輸送し、特にこの守口大根は廣く世に知らる。畜産は牛・豚の屠殺相當多きも本市の特色あるものは養鶏業なり。當地を中心として發達する養鶏業は斷然全國第一の地位を占め、その分布は、大體都市を中市として圓周狀に發達す。水産業は餘り盛ならざるも製造業は稍々盛なり。たゞ縣内及び三重縣の漁船が多く漁獲物を齎し、それを取扱ふ大魚市場が熱田にあり。

設會社の營業種別を見るに、工業を營むもの二六八社を首位に、商業を營むもの一九五社これに次ぎ、運輸業一六社・銀行二社となる。金融方面は當市に本店を有する銀行は、特殊銀行一・普通銀行五・貯蓄銀行一行にして、その支店が市内にあるもの五八、本店が當市外に所在の支店は二を算し、本支店銀行の總数は八七行なり。此の如き商業の發展は鐵道の各地方に通ずるに至り、次第に商業の勢力範圍即ち商圏はその鐵道沿線地域に侵入し、従来の東京・大阪の二大商圏内に屬する地域が漸次市の商圏に屬するに至り、現在にては東京・大阪の二大商圏に對してその中間部に我國第三の商圏を確立するに至れり。その區域は濃尾平野を中心とする伊勢海沿岸地域は、東は靜岡縣西部たる濱松市附近にて東京の商圏と相接し、省線中央線に沿うては長野縣鹽尻附近にて東京の商圏と接し、西は關ヶ原の峽隘を越え、近江の湖北地方及び北陸の南部へ侵入して大阪の商圏と交り、西南は沿岸傳ひに紀伊半島南端に至りて大阪の商圏と相接す。なほ當市に産する特産は全國的の商圏を有することば勿論とす。これ等の商圏内に對する貨物の輸送は鐵道に負ふ所多きも、また名古屋港を通じ水運による輸送も少からず。鐵道による發送總量の多きは名古屋港・名古屋・熱田・白鳥の諸驛にして、到着は名古屋・熱田・熱田・名古屋港・千種

驛に多し。また名古屋港よりの国内移出の価格は外国貿易の価格より大なり。その海上輸送による商賈、即ち陸上交通の不便な志摩半島以西の沿岸地帯は最も明かなものにて、縣内の沿岸各地にも海運による移送額は少からず、なほ臺灣・朝鮮等との間にも海運による輸送が相當多額に上ることを見のがし難き事とす。外国貿易は名古屋港の明治四十年開港以來飛躍的發展をなし、なほ最近名古屋港修築工事の進捗に伴ひ、内外汽船の出入繁く、近年貿易の躍進は目覺しきものあり。いま昭和十一年中の貿易額は、内國貿易は約四百萬噸・二三四百萬圓、外國貿易は約五百萬噸・四七四萬圓を算し、貿易額は神戸・横濱・大阪の三港に次ぎ第四位の貿易港をなす。神戸及び横濱の兩港に比すれば未だ少くも、開港當時の明治四十一年の貿易額が輸出一七一萬圓・輸入七二萬圓、總額二四三萬圓なるに比し躍進的增加をなす。また昭和十年に比し内國貿易は噸數に於て六五四七五八噸、價額に於て二七九七六〇五圓を増し、外國貿易は噸數に於て六二一八六噸、價額に於て一五二七三三九圓の増加を示し、昭和十一年は開港以來の最高額を挙げ、殊に海外輸出は著しき増進をなし綿布・陶磁器を最とし、其他、諸品の海外各地への進出旺盛を極め、巨額の輸出を見たる結果、大正十一年以降連年の入超

Table with 4 columns: 驛名, 發送, 到着, 單位, 數量. Rows include 名古屋, 熱田, 千種, 大曾根, 八田, 白鳥, 堀川, 名古屋港, 計.

輸移出入價格 (單位圓)

Table with 2 columns: 輸移出, 輸移入. Rows include 外國貿易, 内國貿易.

額を昭和九年に至り一躍二七百萬圓、十年には三四百萬圓の出超額に轉ずる活況を呈するに至れり。而して輸移出入額を品種別に見れば、内國貿易に於ける移出品は陶磁器・雜穀・肥料・石灰・木材・小麦粉等にして、移入品は石炭及び木炭・砂糖・米・鐵・木材・洋紙等なり。外國貿易に於ける輸出品は綿織物・陶磁器・雜貨等にて、輸入品は羊毛・人絹用パルプ・木材・石炭等を主とする。之等貨物の取引先は對内關係方面にて

(年一十和昭) 品入移要主

Table with 3 columns: 品名, 數量(噸), 價格(圓). Rows include 米, 豆, 砂糖, 鐵及鐵製品, 木材, 原石, セメント, 煉瓦及瓦, 洋紙, 石炭及木炭, 肥料, 總數.

また此方面に勢力を奪はれし感あり。而し本町筋には舊來の情力による開屋・卸賣の大商店が多く交通は相當頻繁なり。現在交通量の多きは廣小路通にて東京の銀座に相當す。次に運輸交通を見れば、昭和十一年度に於ける省線市内各驛の乗客人員は七五七一人、之が運賃六七〇五・八千圓、降車人員七四一一人。一日平均降車人員は二〇七四三人、前年に比し乗車及び降車人員總數に於て各々約四〇萬人の増加を示すは特に博覽會開催に伴ひしものなり。市内に於ける交通

ナコヤ——ナコヤ

(年一十和昭) 品出輸要主

Table with 3 columns: 品名, 數量(噸), 價格(圓). Rows include 小麦粉, 箱酒, ベニヤ板, 毛織物, 綿織物, 陶磁器, 車輻, 玩具, 紡織機, 毛織物, 鐵製品, 總數.

機關は市營電車とバスにして、昭和十一年中に於ける市營電車の營業料程は單線延長一五四軒、車輛數三一六、乗車人員七六〇七八人、一日平均乗車人員は二〇八四三六六人にして市内交通機關の第一位を占む。電車の補助機關たるバスの營業料程は一五六軒、乗車人員五二九〇四千人、一日平均乗車人員は一四四千人、なほ在籍車輛數は民間バスの買収に伴ひ前年度の三四六臺に比し、一四三臺増車す。市營統制は第一次を昭和十年度、第二次として昭和十一年中村電氣軌道を買収し、第三次として新三河鐵道・築地電

(年一十和昭) 品入輸要主

Table with 3 columns: 品名, 數量(噸), 價格(圓). Rows include 小麦, 豆, 羊毛, 木材, 石炭, 人絹パルプ, 採油用種子, 鐵, 肥料, 鐵, 鐵, 鐵, 總數.

氣軌道及び下一色電氣軌道の三社を買収し、民營交通事業は殆んど市營事業となる。而して之等の交通網は舊市内たる市街地に密にて新市内には極めて粗にて、兩者の對照は著し。附近都市との連絡線として北の岐阜市、東南の岡崎市及び豊橋市、南の常滑市との間には社線名古屋鐵道あり、東の瀬戸市とは社線瀬戸電氣鐵道にて連絡し、之等の地方の交通上の焦點となる。次に遠隔地との交通關係は道路は東海道が岡崎市方面より北上し來り、市の南部熱田に達するも市の主要部は貫通せず、直に西走して桑名方面に去

年度に完成して、爾來、東郊連絡線の新設、豊王山線の擴張及び第二期街路事業の實施等著々道路網の擴充に努め、最近また名古屋驛の改築に伴ひ同驛より大津町に至る幹線道路の完成を見るに至る。昭和十一年末現在本市道路は國道・縣市道を合して延長三一・九二・三軒、面積一三〇四九・六平方軒、本市總面積に對する道路面積の割合は約八割に當る。江戸時代の大通りは市の中央を南北に貫く岐阜街道の本町筋なりしも、名古屋驛開通後は廣小路通りの發展に隆盛を奪はれ、更に榮町より電車熱田線が開通してより

(年一十和昭) 品出移要主

Table with 3 columns: 品名, 數量(噸), 價格(圓). Rows include 米, 雜穀, 小麦粉, 鐵, 木材, 箱板及膠板, 陶磁器, 石炭, 肥料, 總數.

る。また中山道も本市に來らず、たゞ東海・中山兩街道を連絡する岐阜街道が本町筋を南北に貫通せるに過ぎず。而し明治十九年省線東海道本線が敷設され、名古屋驛が市の西部に設けられ、次に舊東海道筋の交通系として省線關西線が市より起りて西に向ひ、直接大阪に(明治三十四年全通)更に明治三十五年より漸次中央高地との連絡が省線中央線により結ばる。かくて名古屋驛は交通上の一大中心となり、東京・大阪二驛に次ぐ重要驛となる。また此の陸上交通の中樞をなす點が市の商工業をして今日あらしめし地理的要因の一とす。市内には東海道本線の名古屋驛・熱田驛(共に明治十九年設置)を初め、中央本線には、大曾根驛(明治四十四年設置)・千種驛(明治三十四年設置)・鶴舞驛(昭和十二年設置)あり。關西本線には、八田驛(昭和三年設置)を置き、貨物専用驛としての白鳥驛(大正五年設置)・名古屋港驛(明治四十四年設置)・堀川口驛(昭和三年設置)あり。水運は淺海のため小船舶のみ泊せし名古屋港もその後の築港工事により一萬噸以上の大船をも碇泊せしめ得るに至り、本市をして一大工業地帯の發生を見るに至らしめたり。

に工業地帯を有す。人口は人口表の如く江戸時代には久しく五萬餘と推算され、明治初期にも七萬餘にすぎず。然るに封建時代の停滞人口は明治以後市勢の隆盛と共に躍進的増加と變じ、昭和五年第三回國勢調査によれば九〇七、四〇四人となり、明治初年の人口に比すれば約十三倍となり我國第三位の大都市となる。その間市域の擴張が行はれ、その都度新市域の人口を包含せしと雖も偉大なる發展をなせしものなり。昭和十二年十月の推定人口は一一八六、九〇〇人にして、昭和十年より一〇四、〇八四人の増加を示し、また同十二年現在の愛知縣總人口は二九八五、五〇〇人にて本市はその三九、七%を占む。更に區別人口表によれば、中區・東區最も多く、西區これに次ぎ昭和中區・中村區・千種區等の順となる。人口密度は昭和十年國勢調査の結果は七二二一人にして、京都市の三七四四人より大なるも東京市の一〇六六六人、大阪市の一六一五一人よりは遙に少なく、未だ發展性が推定さる。なほ區別にみれば中區最も多く、東區・熱田區・西區等これに次ぐ。

〔文化施設〕 中京名古屋は産業的に重要な地位を占むる外、文化的方面に於てもまた一勢力を有す。官衙には陸軍兵器支廠・憲兵分隊・第三師團司令部・聯隊區司令部・歩兵第五旅團司令部・備前兵第三大隊・陸軍病院・歩兵第六聯隊・野

年 號	人 口
承徳 三年	五四、九三三
寛文 四年	五四、九九九
延寶 二年	五六、六六六
元祿 五年	六三、三四四
享保 六年	四二、三三三
天保十一年	七五、七九九
慶應 元年	七三、六三三
明治 四年	七二、六八八
明治 六年	二六、八〇八
明治 二十年	一四四、三三三
明治 三十年	二四八、九九九
明治 四十年	三五四、三三三
大正 元年	四三三、三三三
大正 九年	六〇八、二二二
大正 十四年	六八六、六六六
昭和 五年	九〇七、四〇四
昭和 十年	一、〇八六、九〇〇

校として未だ綜合大學の實現を見ざるも名古屋醫科大學・第八高等學校・名古屋高等商業學校・名古屋高等工業學校の直轄學校存し、此等の諸學校は市の東南部に集合し學校區を形成す。各種の中等學校は約五十餘校に達し、市内至る所に散在す。公園には鶴舞公園・中村公園あり。水道は木曾川の水を大山町より引き、年給二

七・〇五六・三七四立方メートル昭和十一年調査の能力を有し、昭和十一年末の市内上水道給水戸數一七、一六七八戸なり。〔名古屋港〕 もと熱田港と云ふ。本港はもと淺海のため小船のみ容れしが明治二十九年より現在に至る四期に互る築港工事を行ひ一萬噸級の大船を碇泊せしめ得るに至り、内國航路の重要港たるのみならず、我國に於ける重要貿易港の一となる。元來この港は木曾川等の三角洲の先にあるを以て、約三〇軒西南に立地せる四日市港が本市の外港をなす。即ち海は四日市に至り初めて自然的の良港をなし、恰も東京と横濱、大阪と神戸の如き關係を示す。今は熱田港は名實共に名古屋港となり、築港工事の結果四日市港の隆盛を奪ひ、且つ偉大なる工業地帯が直接背後に控へ大阪港をも凌ぎ、神戸横濱兩港の壘を靡するも遠きにあらずとさへ云はる。第一期工事は熱田港築港工事と稱し、明治二十九年より同四十三年度に亘り、總噸數三千噸級船舶を標準として修築す。第二期工事は名古屋港擴張工事と稱し、明治四十年より大正八年度に亘り總噸數六千噸級船舶を標準とす。第三期工事は總噸數一萬噸級船舶を標準とし、大正九年度より同十五年に亘る。第四期工事は昭和二年より同十三年まで、總工費二一、二萬圓、汽船運面積は約九〇萬坪、水深は一五尺より三〇尺に淺深、埋立は埠頭埋立その他にて

面積約二五萬坪を造成す。木材船溜防波堤は延長八〇〇間、繫船岸壁は總延長約一七〇〇間、同時に一萬噸級以下二〇隻を繋留し得、一大港灣となるに至る。而して港と名古屋を連絡する中川運河は完成し、益々その便を増し、爰にまた大工業地帯の發生を見るに至るべし。〔沿革〕 名古屋の文字、古は名古屋野・那古屋・名護屋に作り、必ずしも一定せず。世、或は三河猿投神社所藏、養老元年の尾張國古圖といふものに據りて浪越となす説あるも、圖は固より信するに足らざれば、浪越と充つることの失當たるや勿論なり。那古野の名稱の史上に現はれたるは、岩崎男爵家文庫所藏「江家次第」裏書建春院法花堂領尾張國那古野庄領家職相傳系圖には、藤原顯頼(久安五年歿、五十五歳)が同庄の開發領主たること明かにして、從來、傳へらるる貞治三年より遙に古きものなること判明なり。那古野庄とは、もと古井村・杉村・大曾根村に亘り、南は前津小林村・廣井村・日置村・古渡村に續き、西は中野村・高島村・押切村・榮村・枇杷島村に至り、北は田橋村・西志賀村・兒玉村を限りとする一帯の地にて、今悉く名古屋市内に入る。慶長の築城開市によりて名古屋の地域擴大せしも、なほ那古野の村名を城外西北の地に遺して、那古野と稱せし事あり。即ちこの邊が恐らくは那古野の本據なりしものなるべし。かくて那古野

といふ文字は、入定勝決記のほかに、應永六年、同十一年の成書にこの字を用ひ、また熱田神宮所藏の神寶中大永二年の作にかゝる刀には、今の如く名古屋と刻してあり。されば古へば色々に書きしものなるも、その名古屋の文字を用ふるに至りしは、寛永以後の制定によるといふ一般説あるも、難助集には文政十一年三月の規定なりと見ゆ。さて貞治・應永頃の名古屋につきは何等徴すべきものなきも、降りて永正に至りて那古野築城のこと見ゆ。尾張は元來、室町幕府三管領の一として重きをなしたる斯波氏の守護たる地にて、その宰職織田氏が守護代として治めしも、斯波義隆の時に至り、永正十一年駿河・遠江の守護今川氏親の軍と遠江に戦ひて大敗したる時、氏親は同姓(源氏)の好みを以てこれを憫み、子氏豊を附して義隆を尾張に護送せしめたる上、氏豊には那古野に城を築き、柳丸城と稱し清須の斯波氏に對抗せしむ。この地は恰もいまの名古屋城二之丸に當り、當時の家中は、今市場・中市場・下市場として、方八町四面なりしと稱せらる。この後、織田信秀の漸く勢ひを得るや、天文元年謀を以て氏豊を逐ひ、自ら移りて那古野に居ると傳へらるるも、確證の徴すべきもなし。其後、信秀は古渡城を築きこれに移り、天文三年子信長の生るるに及びて之を名古屋城に居らしめたりとあれば、當時、古渡・那古屋兩

城の間、やや街筋の形をなせしものならんも、天文十七年、信秀は古渡城を廢して名古屋の東方末森山に城を移り、やがて信長の繼ぐに及び、清須に移り、これよりその勢力を得るに從ひ城地を移せしより、名古屋城は廢城に歸し、市區の如きもはや見る能はざるものとなりしならん。さりながら尾張は東海道の要樞の地にて、東西二大勢力の必ず相接する處なりしより、豊臣秀吉は先に織田信雄を伊勢長島に置き尾張を治せしめ、ついでその姪秀次に與へ、更に福島正則を清須に封じて三河以東徳川氏の抑へとせり。關原役後、家康はその子松平忠吉を特に清須に封じて上方の抑へとし、慶長十二年その歿するや、同年その弟徳川義直を甲府より移して清須に封じり。然るに此地は五條川を帯び大水氾濫の虞あるを以て、家士山下氏勝の議により、家康の裁許によりて遂に城を名古屋に移す事に決し、慶長十五年大いに城地を營みてこれに移り、清須の町民も大抵は名古屋に移り、茲に名古屋に新市街が經營せられたるものなり。これを清須越といひ、またこの年を以て名古屋遷府の年として記念するに至る。清須越の町は本町・福井町・富田町・玉屋町・鐵砲町・長者町等六十五切にして、遷府以前よりありし町は堀詰町・東町・納屋町・茶屋町・伏見町等凡て十町なり、かくて城下の經營が成りしものなるが、尾張一國並に美

濃・三河・遠江・長津等の豊地、及び信濃木曾の材木代等すべて七十萬石餘の大藩に加ふるに、その土地は豊饒にして物資餘りある程なりしより、新田の開發は勿論、諸國商人の來るもの次第に多く、開市の年より四十五年目即ち承應三年には人口五萬四千五百三十二人を算せり。慶長三年名古屋藩を置き、明治四年名古屋縣となり、翌五年愛知縣となり、同十二年市制を施行す。市制實施以來、商業頓に興り人口増加の趨勢は市域の擴張を促し、明治二十九年以降屢々市域の擴張を行ひ、同四十九年全市を東・西・中・南の四區に分ち、また大正十年隣村十六箇町村合併され、更に昭和十二年庄内町・下之一色町・萩野村の三箇町村を合併し、同年十月全市を十區に分ち、茲に本市發展に備ふるに至る。

〔名古屋城〕 西區にあり。もと柳丸城と稱せし廢城の地に、慶長十五年、徳川家康が前田・淺野等二十二の大諸侯に命じ、加藤清正を御城門築總大將として築造せしめしものにして、其後、三百年間尾州侯居城たりき。丘陵の空端を利用して築かれ、西北の二面は高き石垣を築きて、周圍に濠を繞らし、南東に深き空濠を繞らす。本丸に天守閣、藩主の居館及び隅櫓殘存し、二の丸及び三の丸址はいま兵營たり。天守閣は當時築城法に妙を得たりと云はる。加藤清正が、自ら誇うて築造せしものにして、宏壯なる石壘の

命。延喜式の制、國幣小社に列す。例祭
二月上の未日・十一月上辰日。

〔淺間社〕中川區下之一色町に鎮座。
郷社。祭神、木花咲耶姫命。古來當村の
産土神にして、天正六年・寛永七年・貞
享元年等に造替せらる。例祭、六月十九
日・七月二十六日・八月二十四日。

〔朝日神社〕中區榮町に鎮座。郷社。
祭神、天照大神・天兒屋根命。もと春日
井郡朝日村に鎮座せられしを、慶長十六
年徳川義直名古屋に封ぜらるゝや、今の
地に奉遷し、廣小路朝日神明宮と稱せり
といふ。例祭、十月十五日。

〔熱田神社〕熱田區熱田新宮坂町に鎮
座。官幣大社。祭神、天照大神・天照大御
相殿神、天照大神外四神。草薙劍は長く
も三種神器の一。初め素戔嗚尊八咫大蛇
より得たる神劍(天叢雲劍)を天照大神に
獻じ大神これを天孫降臨の際、天照大神に
實として授けられしが、景行天皇朝、皇
子日本武尊東夷征討の途次、伊勢に於て
皇妹倭姫命より之を授かり、のち駿河國
にて草薙劍と稱す。尊は東夷平定の後
薙せらるゝや、紀宮養媛命は社を建て、
神劍を奉安せらる。これ本社創立の起源
なり。天智天皇七年、新羅國の僧道行
かか神劍を盗みて歸國せんとせしが、風
波のため難波に漂着し殺さる。爾來、神
劍は皇座に止められしが、朱鳥元年天武
天皇御不例に際し、卜占によりて神劍の

遷しめらる。之より社守七人を置き尾
張氏人を神主視せらる。神位は漸次累
進して貞觀年中に正一位を授け奉り、醍
醐天皇延喜の制名神大社に列る。斯の如
く熱田神社は尊嚴極りなく、伊勢神宮に
亞ぐ御社として歴代皇室の崇敬厚く、各
時代を通じて武將の尊崇また他の神社と
自ら異なるものありき。社領は仁明天皇以
後歴代寄進の地頗る多く、中世には三百
五十貫文餘ありしが、豊臣秀吉に没收せ
られ、のち徳川幕府より七百餘石の朱印
領を寄せらる。社殿の造替は應永十六年
足利義持、長祿二年同義政、永正十四年同
義晴、元龜二年織田信長、天正十九年豊
臣秀吉、慶長五年徳川家康、貞享三年同
綱吉何れも修造を加へ、爾後享保・延享・
寛政・文政・天保・慶應の修造は藩主徳
川家これを掌り、木曾山の木材を用ひ、
修造免田畑三百八十五町餘歩の收納を以
て本宮及び攝末社の修造に充つ。明治二
十六年國庫の費用を以て現今の社殿に改
造せらる。之より先、明治元年勅使を差
遣せられて太刀七口を獻せしめ大政復古
の報告を爲しめ、更に同年天皇御東行
に際し八劍宮に泊御あり、天皇親しく本
宮に奉幣あらせらる。神宮建築は伊勢大
廟と等しく謂はゆる唯一神明造にして我
邦建築史上第二段に現はれし様式なり。
素朴なる構造の内には甚重純朴清淨の趣を
なす。殊に海上門・齋宮門は國寶にして

前者は元龜二年織田信長の改築と稱し、
簡明勁拔なる八脚門は何等複雑な裝飾的
手法を用ひず、形状よく整ひ然も後世改
竄の跡を示さず。後者は慶長五年加藤清
正の造替なり。社寶中、舞樂面十一面(木
造)・法華經涌出品(紙本着色)一卷・太
刀一口金銅兵車鎮・手宮一合菊蒔繪・後
花園天皇宸翰(紙本着色)一幅・刀(宗吉・
兼光・國信・國俊等)十八口は何れも國寶
たり。別宮に八劍宮あり。其他、境内攝
末社二十三、境外攝末社十九を有す。例
祭、三月二十一日。

〔兩宮神社〕中川區中郷町字西中郷に
鎮座。郷社。祭神、高麗神・天照皇大神・
志那都比古神。古來當所の産土神にして
もと兩宮といへり。例祭、十月九日。
〔伊奴神社〕西區庄内町に鎮座。郷社。
式内社。祭神、稚靈神・倉魂魂神・早玉
男神外五神。天武天皇御宇、勅によりて
此地に百稻を取らせ給へる頃の創立と傳
ふ。依りて當社を伊奴神稻荷とも書くと
云ひ、社地を稻荷山と稱すと傳ふ。
〔片山神社〕東區移村町に鎮座。郷社。
祭神、安閑天皇等二柱。和調二年の創立
と傳ふるも詳かならず。式内社。例祭、
九月十日・十一日。
〔片山八幡神社〕東區大曾根町に鎮座。
縣社。祭神、天照大神外二神。口碑に繼
體天皇五年の勸請といひ、延喜式山田郡
片山神社に載せらる。名古屋城の鬼門に
當り鎮座の祈禱所として藩主徳川家より

遷す。
〔富士淺間神社〕中區門前町に鎮座。
郷社。祭神、木花咲耶姫命・瓊々杵命・
大山祇命等六柱。領主牧氏・尾張藩主徳
川氏の崇敬あり。本殿・祭文殿・神樂殿・
土藏等あり。
〔若宮八幡宮〕中區末廣町に鎮座。縣
社。祭神、仁徳天皇・應神天皇・武内宿
禰。文武天皇御宇の勸請といふ。醍醐天
皇延喜年中再替を加へ、のち神宮寺安養
寺を建て凡そ十二坊あり。豊臣秀吉二百
石を寄す。慶長中、徳川氏名古屋に築城
するに當り、神座を下して現地に遷し、
名古屋總鎮守となし藩主徳川氏の氏神と
崇む。例祭、五月十六日。
〔綿神社〕西區西志賀町字觀音前に鎮
座。式内社。郷社。祭神、神功皇后・玉
依比賣命・應神天皇。例祭、十月十日。
〔愛知別院(高田本坊)〕西區善地町に
あり。眞宗高田派。正保四年、專稱院義
越玄恕、皆戸町に之を創建す。元文三年
松溪院再興し、高田山高田本坊(もと臨
江山信行院)と改む。
〔圓通寺〕熱田區熱田新宮坂町にあり。
曹洞宗。秋葉山。此地もと秋葉三尺坊垂
迹の靈地として一字あり。弘仁年中、弘
法大師は一寺を創建して自刻の十一面觀
音を安置す。現に曹洞宗の認可僧堂にし
て雲納一百餘人に餘る。
〔願興寺〕中川區野立町にあり。眞宗
大谷派。尾頭山。もと天台宗に屬せしが

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

ナコヤ——ナコヤ

〔上智我麻神社〕熱田區熱田市場町に
鎮座。官幣大社熱田神宮攝社。祭神、乎
止與命。式内小社。
〔川原神社〕昭和區御器所町に鎮座。郷
社。祭神、日神・埴山姫神・阿象女神。
式内社。例祭、九月十七日。
〔神明社〕東區山口町に鎮座。郷社。
祭神、天照大神。創立年代詳かならず。
寛永五年再興す。本殿・祭文殿・拜殿の
外に渡殿・神饌所等あり。例祭、十月十
六日。
〔神明社〕中川區牧野町字宮裏に鎮座。
郷社。祭神、天照皇大神。古來當所の産
土神たり。本殿・拜殿・祭文殿等有す。
〔洲崎神社〕中區天王崎町に鎮座。郷
社。祭神、須佐之男神・五男三女神・稻
田比賣命。もと牛頭天王社と稱す。古來
當所の産土神たり。例祭、六月十五日。
〔高平神社〕千種區千種町字元古井に
鎮座。郷社。祭神、高皇產靈神・神皇產
靈神・應神天皇。成務天皇御宇の創建と
傳ふ。式内社。例祭、十一月一日。
〔津賀田神社〕昭和區瑞穂町に鎮座。
郷社。祭神、仁徳天皇・天照大御神。も
と若宮八幡とも、井戸八幡とも稱せり。
例祭、九月一日。
〔土江神社〕中川區日比津町字鹽幸に
鎮座。縣社。祭神、少彦名神。例祭、十
月五日。
〔東照宮〕西區笠寺町二丁目に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

〔那古野神社〕西區茶屋町二丁目に鎮
座。縣社。祭神、速須佐之男神・櫛稻田
姫神。延喜十一年勅命によりて舊名古屋
城内三ノ丸に創建す。別當を安養寺と稱
す。天文元年那古野合戦にて焼亡、同七
年織田信秀再興す。同十六年徳川家康齡
六歳にして信秀に拘禁され當社別當の坊
舎にあること三年なり。文祿中に豊臣秀
吉社領三百四十八石を寄せ、慶長十五年
名古屋城を築きてより、徳川氏との關係
密にして代々國主の崇敬厚し。例祭、七
月十六日。
〔七所社〕中川區岩塚町字上小路に鎮
座。郷社。祭神、日本武尊・宮養姫命・
乎止與命等七柱。創立年代詳かならざる
も、熱田神宮の神領地なるの故に因りて
發せる神社なり。江戸時代、尾張藩主徳
川氏の崇敬篤し。
〔七所神社〕南區笠寺町字天滿に鎮座。

室町中期に住持圓正は本願寺蓮如に歸依して改宗再興す。

【地藏院】熱田區熱田中町にあり。新義眞言宗豊山派。金寶山。花園天皇御宇熱田祭主牧氏の室の開基、開山は全海法印、中興を政喜法印とす。騎馬武者像一幅(絹本着色、傳足利尊氏像)は國寶。

【性高院】中區門前町一丁目にあり。淨土宗。大雄山。天正十七年松平忠吉の開基にて、滿譽玄道を開山となす。もと武藏國にありしが、慶長年中に徳川義直名古屋移城の時、現地に轉す。表門は國寶なり。

【聖徳寺】東區富澤町にあり。眞宗大谷派。七寶山。寛喜年中に親鸞の命により其弟子なる閑善これを美濃國大浦郷に建立す。爾後三轉して現地に移る。

【新福寺】西區庄内町にあり。天台宗。稻生山と號す。創建年代は不詳。本尊は行基作の薬師如来及び日光月光の兩菩薩なり。境内に五輪塔あり。中に應仁元年のものあり。往古は一山十二坊を有せしといふ。

【普願寺】熱田區旗屋町にあり。淨土宗西山派。享祿二年日秀尼の建立。爾來從君、崇源院御齋所等の歸依濃く、住職は世々紫衣を勅許せられ熱田上人と稱せらる。地は源頼朝の誕生地にて寺内に産湯の池・白旗の碑・頼朝の祠あり。

【徳興寺】中區裏門前町にあり。臨濟宗妙心寺派。豊山。はじめ伊勢國大島村にありて安國寺と稱す。天正十一年織田信雄の開基にて、勤請開山を虎關國師とす。豊臣秀吉朱印若干を寄す。

【長久寺】東區長久寺町にあり。新義眞言宗智山派。東岳山一乘院。慶長六年徳川忠吉武藏國忍より尾張清洲に移封の時、本寺も從ひて同地に到り、慶長十五年徳川義直名古屋移城の時、また現地に移り、爾後徳川家代々の祈願所たり。

【長母寺】東區矢田町にあり。臨濟宗東福寺派。靈鷲山。治承三年の創建に係り、開基は山田次郎源重忠、開山は僧觀勝なり。もと天台宗たりしが、のち山田道圓坊再興し臨濟宗に改め、無住國師を開山とす。無住和尚像(木造)一軀は國寶なり。

【東泉院】中區小林町にあり。曹洞宗。醫王山。往昔は三論宗たりしが、南北朝の中頃現宗に轉す。寛政年間に善來師賢これを中興す。

【七寺(長福寺)】中區門前町にあり。新義眞言宗智山派。稻園山長福寺。天平年間僧行基の創建と傳へ、もと尾張國中島郡七寺村にありしが、延暦六年秋田城介河内權守維廣の男光廣は父を慕ひて當地に來りしも天折す。時に七歳、維廣即ちその冥福を祈らんとため七堂伽藍を建立す。七寺の稱ここに始るといふ。近世は尾張後代々の祈願所なり。本堂・本尊阿彌陀如来及び觀音勢至兩脇侍像(木造)三軀外三點は國寶なり。

【西本願寺別院】中區門前町七丁目にあり。眞宗本願寺派。明應年中蓮如の息蓮淳の創建に係り、のち織田信雄清洲の地に再興し、慶長藩府の時に現地に再建せられしものにして、現本堂は近年の再興にて、境内廣く、本堂の後方に徳川家梅呂院廟所あり。近世、寺領百三十九石餘。伽藍宏壯を極む。

【日蓮寺】千種區田代町にあり。覺王山。明治三十一年英領北印度ヒツプラーグに於て英人ウイリアム・ベツペ、釋尊の眞靈骨を發掘し英國政府に獻ぜしが、英國政府はこれを更に暹羅國政府に寄贈す。同三十三年暹羅國政府は靈骨の一部を我國に配與すべき旨を通牒し來りたるを以て、各宗管長は協議會を開き、同年六月奉迎の使節を遣はし佛舍利および暹羅國王贈呈に係る釋迦牟尼如来像を京都に迎へ妙法院に假本安す。次で各宗聯合の大菩提會を組織し、會の議決を以て靈骨奉安の地を名古屋市東郊なる東山村(當時の名稱)と定め、同三十六年同地に假本堂を建立し之を奉遷す。是より着々工を起して本建築を進め、遂に今日の盛觀を見るに至る。昭和二年、暹羅國王王更に内務佛なる圓浮檀金の釋迦像を寄せ給ふ。いま各宗交互に之を管理す。

【東本願寺別院】中區下茶屋町にあり。眞宗大谷派。天正九年に京都二條泉龍寺の諸賢、海部郡額江村に自院の支持を建立し、のち之を富市に移せるを以て、當

【名護屋村】佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。東松浦半島の北端西部にて、東は呼子町・打上村に、南は佐賀村に隣り、西北は豊後海峽に面す。北方海上に浮ぶ加唐島・松島等の屬島を加へ面積一九方軒餘、丘陵性山地南北に延びて北端は波戸岬、西北端は串崎となり海中に突出して斷崖をなし、東岸に名護屋浦の狭長の灣ありて村は一の半島をなす。低地少きも米・麥・甘藷等の農産あり、漁業また築ゆ。縣道東部を南北に通じて東南方唐津市に向ひ、海上は發動機船の便あり。古くは名護屋・那久野等に作り近世専ら名古屋に作りしも、大正十一年名護屋と復稱す。海東諸國記に那護野泉寺源祐位が每歲船一艘を遣はす事を朝鮮と約せる由見ゆれば、既に早く名護屋の地が朝鮮にも知られし事を知る。蓋しこの地最も船泊するに便なりし爲ならん。天正十九年豊臣秀吉の征韓役を起すに當り、此地をその本營とし徳川家康・伊達政宗等諸將の陣營を置き、以て駐屯久しきに互るの準備をなさしめたり。これよりこの地の名普く世に知らるゝに至る。抑々この地は鎌倉時代より地頭たりし名護屋肥前守經基の子孫が代々居せしところにして、第十代名護屋越前守經基が豊公に

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

院の濫觴となす。元祿三年本山掛所となす。現本堂は文政六年の再建にて雄大な建築なり。明治十一年、同十三年、同二十一年に明治天皇の御座所にあてらる。

【寶生院(大須觀音)】中區門前町にあり。新義眞言宗智山派。北野山眞福寺。南北朝の頃能信和尚の開創に係る。もと中島郡大須郷にありしにより大須觀音と俗稱せられ、古來靈名高し。文和元年任僧法親王入りて三世を興ひ給ふ。當時院房寺家十五箇寺、寺領三千石に及び寺運隆盛を極め、歴朝の御勸依また厚かりしも、中古兵亂に遭ひて衰頹す、のち織田信長寺領五百石を寄せ、國主徳川義直諸堂を再營す。涅槃圖一幅(絹本着色)・楠逸勢筆漢書食貨志一卷外二十四點の國寶を藏す。

【本遠寺】熱田區熱田中町にあり。日蓮宗。妙光山。熱田神社宮境内に存せし法華堂を以て當寺濫觴とす。阿福長者或は最澄の建立と傳へ、また日蓮この堂に參籠して立宗の祈願をなせりといふ。建造物中、樓門は國寶なり。

【萬松寺】中區裏門前町にあり。曹洞宗。龜岳山。天文九年織田信秀の開基にて、大雲水端を以て開山となす。爾來、領主歴代の信仰厚く寺運隆昌たりしが、のち一時衰頹し、元文四年再興せらる。

【徳興寺(覺寺觀音)】南區覺寺町にあり。新義眞言宗智山派。天林山。尾雲四郎普賢の。聖武天皇天武年間善光上人

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

【名護屋村】大分縣豊後國南海部郡の中

部南端。東は蒲江町に接し、南は日向灘に臨み、西は宮崎縣東臼杵郡北浦村に界す。村内は山岳重疊し、西境には馬照山(六六一米)・津島山(五〇六米)・陣ノ峰等の連嶺連り、陣ノ峰の東肢は南境を限りて遠見山(三二七米)となり、その東脚は宇土崎となりて海に没す。海岸はリヤス式の陥落海岸にて、中央に細長き名護屋崎の半島あり、その西に丸市尾灣を抱く。また宇土崎の東南方海上に深島の屬島横はる。山地海に迫りて至る處森林をなし、耕地面積乏し。水産物少からず。陸上交通不便にして、普通は海上發動機船便による。

ナコヤ 那古野 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十一年に廢されて名古屋市に編入す。

ナサ 奈佐村 兵庫縣但馬國城崎郡の中部。豊岡町の西方約二軒に位し、南方約二軒に日高町あり。東西兩境に山脈連り西境に矢次山(五六八米)あり。面積二七・七八方軒。圓山川中央を東北流し沿岸に平野開く。米・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實・裸麥・大麥・小麥等の農産の外に鶏卵・紙・皮革製品・紙製器・双物・漆製品・柁柳等の産出あり。豊岡町へバスの便あり。和名抄に城崎郡奈佐郷と云ふは本村及び五莊村に當る。

ナサ 那射 上野國群馬縣の古地名。和名抄に甘栗郡那射郷あり、その地今の北甘栗郡古田村・馬山村の邊に當る。

(一三〇九米)・蝦夷富士(一八九三米)・昆布嶺(一〇四五米)・有珠山(活)(七二五米)・登別倶多樂(五四九米)・徳舜尊山(三三二米)・檜前山(活)(一〇二四米)・風不死嶽(一〇三米)・惠庭嶽(一三二〇米)・阿女嶽(一〇一四米)等の謂ゆる蝦夷富士火山群を形成し、この内部には多くのカルデラ及びカルデラ湖を包含す。赤井川カルデラ・支笏湖・洞爺湖等は即ちそれなり。ついで渡島半島の先端より奥羽の北端にかけて駒ヶ嶽火山群を繋ぎ、これに屬する火山體には駒ヶ嶽(活)(一一四〇米)・惠山(六二〇米)・忍山(活)(八〇四米)・八甲田山(一五八五米)・岩木山(活)(一六二五米)と、渡島西南の海上に大島(活)(七一四米)・小島の二火山體あり。駒ヶ嶽火山群の南方には岩手火山群あり、岩手山(二〇四一米)はその盟主にして、附近に西岳(一〇一八米)・七時雨山(一〇六〇米)・御目山(九五四米)・茶臼嶽(一五七八米)・焼山(一三六六米)・駒ヶ嶽(一六三七米)・荷葉嶽(一二五四米)・烏帽子嶽(一四七八米)・森吉山(一四五四米)と田澤湖のカルデラあり。その南方の須川岳(栗駒山)(一六二八米)・荒雄嶽・船形山(一五〇〇米)・蔵王山(活)(一八四一米)・不忘山(七〇五米)・青森山等は奥羽脊梁山脈上の火山體なり。ついで磐梯火山群その南部を占めて噴出し、西吾妻山(二〇二四米)・東吾妻山(活)(一九七五米)・

ナス——ナス

ナサイ 那西(郡) ↓那賀郡(徳島縣)

ナサカ 浪逆浦 茨城縣の南隅、千葉縣との境界附近、北浦と利根川との中間にある湖。嘗て北浦・霞ヶ浦・小貝川浦等と共に鏡子方面に續く大なる入江なりしが、利根川の沖積作用、特に島嘴状の自然堤防により填充せられて分離し、現在の浪逆浦は西の内浪逆浦と東の外浪逆浦とに分たる。外浪逆浦は面積六・六方軒、湖岸一八・六軒、内浪逆浦は面積二方軒、深度一・二米。外浪逆浦は大部分淺きも、北浦との瀬戸なる徳島附近にては一〇米、排水口なる一本松附近にては九米の深さあり、この間の湖の中央にも深さ四・五米の狭き溝あり。以前は利根川の本流が外浪逆浦の南より注入し居たりしが、現在は河川改修工事にて絶縁せられ、北浦の水は鰐川により内浪逆浦の水は鮎川により、霞ヶ浦の水は北利根により、また與田浦・市和田浦の水も附洲より來りて乘り、大野水池となりて東方に排し、暫く利根川と並行し、遂に賣山附近にて之に合流す。高度一米に位するも湖沼の干満を感じ、時としては鹹水の侵入あり、漁獲は淡水魚・海産魚何れも豊富なれど、舟行は自由ならず。古くは奈左可能字美・浪逆之浦といふ。常陸風土記に流海とあるは今の内浪逆浦附近の稱なるべし。萬葉・一四・常陸なるなきかの海の水瀧こそ引けば絶えぬれ何とぞ絶えせむ。

ナサキ 名崎村 茨城縣下總國結城郡の西部。飯沼川の東岸にあり。西は川を隔て、猿島郡の一部と隣す。全村平地にて農業を主とし米麥を産す。また茶・甘藷・煙草の栽培も盛にて副業に養蠶も行はる。縣道は北方結城町、東方眞壁郡下妻町方面に通じ、下妻町へはバスの便あり。古くは和名抄、結城郡餘戸郷の内なるべし。村名は明治二十二年恩名・尾崎の二部落を合併して村制施行の際、各一字を取つて命名せるものなり。

ナシキ 梨木 ↓黒保根村(群馬縣)

ナシゲ 七重 愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年に外三村と共に廢されて石野村を置く。

ナシハ 成羽 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に下道郡成羽郷あり、奈之波と訓す。この地今の川上郡成羽町・宇治村・中村・吹屋町の邊なるべし。

ナシハ 梨葉 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に沼田郡梨葉郷あり、奈之波と訓す。その地今の豊田郡沼田西村・南方村・下北方村・上北方村の邊に當る。延喜兵部省式の梨葉驛馬廿二とあるは此地なり。

ナシハラ 梨原 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に栗本郡梨原郷あり、奈之波良と訓す。今の栗本郡津波村・草津町の邊なるべし。枕草子に「藤はなしはら」とありは、古より名譯たるらし。古今六帖「君はかりおぼゆるものにはなし原

安達太郎山(活)(一七〇〇米)・香梯山(活)(一八一九米)・彌陀山(一四〇四米)はこの火山群に屬す。關東北部より信越國境及び奥羽の南端は我國に於て最も廣大なる火山噴出地域を形成し、那須・淺間火山群を繋ぎ、いづれも隔没地域を生ぜしもの如く、那須嶽(活)(一九一七米)・高原山(一七九五米)・男體山(二四八四米)・赤城山(活)(一八二八米)・榛名山(一四四八米)・淺間山(活)(二五四二米)・烏帽子岳(二〇六六米)・四阿山(二三三三米)・飯綱山(一九一七米)・黒姫山(二三三三米)・妙高山(二四四六米)・草津白根山(二二六二米)・日光白根山(二五七八米)・博士山(一四八二米)・淺草嶽(一五八六米)・守門山(一五三八米)・米山(九九三米)・武尊山・苗場山(二二四五米)・毛無山・岩菅山等はこの火山群に屬す。以上、那須火山帯は多くの火山群に分たれ、その北部は千島火山帯に接し、南部は我國中部に於て富士火山帯に交りて、其間に新舊多數の火山體を噴出せしむ。

【那須嶽】 栃木・福島兩縣境に聳ゆる火山。那須火山群の盟主にて且つ北日本の中軸火山帯たる那須火山帯の盟主なり。この火山の先驅は石英安山岩の流出に始まり、ついでこれを貫き小白森・大白森・二股山のトロイア火山體を噴出せり。次第に活動の中心は南に移り、旭火山(一八三五米)の噴出となり、ついで謂ゆる

のうまやいてこむたくひなきかな」

ナシミ 南志見村 石川縣能登國鳳五郡の東北部。輪島町の正北約二〇軒の海上にある七ヶ島も本村に屬す。輪島町の東約七・五軒、北は日本海に臨む。南境に三百乃至四百米の山嶺連り、西境に延びて海に迫り、南志見浦に僅に砂浜あるも平地に乏しく、東北部を西北流する南志見川の溪流沿ひに低地ありて耕地開く。米・蕎麥を産し漁業も盛なり。縣道は海岸に沿うて走り、東北部にて南志見川沿ひに南下する縣道を分ち、バスを通ず。七ヶ島は北東より南西に約三哩に互り散在し、正北邊に輪島町に屬する輪倉島を望む。北東端の大島を最大とし荒三子島・御厨島・龍島・烏帽子島・狩又島より成る。全島樹木なく蘆荻のみ生ず。能登漁夫の鮑・海草等の採取場となる。此地古くは和名抄、鳳五郡男心郷の内なるべく、近世は大屋庄に屬したり。

ナシミ 男心 能登國(石川縣)の古地名。和名抄に鳳五郡男心郷あり、今の鳳五郡鶴巻村・南志見村の邊なるべし。

ナス 那須 關東北部より奥羽の脊梁山地を縱斷し、北海道の西岸をほぼ南北の方向に連なる大火山帯。北端は北海道の禮文・利尻の二火山島となり、ついで渡島半島嶺部に當る山(二二二二米)・岩登(一一五四米)・ニセコアツツヤ山

頭・鳥山・黒嶽・墨崎・西那須野・川西・佐久山・蘆野・小川の十町外二十ヶ軒を含む。本郡は古くは那須國と稱せし地にして、國造本紀に「景行帝時、以建沼河命孫大臣命、爲那須國造」とあり、此地に早く著名なる那須七黨は藤原氏と稱するも、那須國造の裔なるべし云ふ。國を郡となしたるは大化政新の時なるべし。延喜式に郡名見え和名抄は那須・大筒・熊田・方田・山田・大野・武茂・三和・全倉・大井・石上・黒川の十二郷を載す。いま奈須國造碑は本郡の湯津上村大字湯津上にあり、本邦最古の金石文として廣く世に知らる。那須氏の本據は本郡の那珂村大字小川の地に於て、天治二年那須權守資家この地に築き、那須郡を領す。屋島に名を擧げたる與一宗高は、實に其の直裔なり。戰國の時七黨を率ゐて勢漸く張る。豊臣秀吉の小田原征伐の時、那須資晴は連參の故を以て那須本領の地八萬石を悉く其一族家人等に分與し、資晴に福原(同郡佐久間町大字初原)を與へ、五千石を給す。徳川氏に至り、資晴一萬五千石を賜ひ、資景の時、鳥山城に治し、貞享二年、資晴の時除封せられ、その養子資徳、更に一千石を此地に賜ひ、交代寄合に准ぜられ、僅に家名を存す。那須氏は伊玉野・千本・太田原・大關・福原・蘆野・岡本の諸氏にして、徳川氏の時、大關・太田原の二家は諸侯に列し、伊玉野・岡本は廢絶し、更に那

須・福原・蘆野・太田原(分家)の四家となりて那須衆と稱す。
 【那須村】 栃木縣下野國那須郡の北部。北は福島縣西白河郡と隣り面積二五七・四七方科。西部に那須嶽(一九一七米)を始めとし、朝日嶽(一九〇三米)・南月山(一七七六米)・茶臼嶽等の諸火山聳え、遠く裾野を開き東南に傾斜し、當村はそれに續く高原地帯を占む、那珂川の支流はこれ等の山地に發源し、數多の溪谷をなして東南に流る。東南部の河川流域には農業・養蠶行はれて米・麥・蕎麥を産す。村内に温泉頗る多くな風光佳良にて名所多し。一帯に高原地帯なるため、夏涼しく避暑地としても知らる。陸羽街道は東部を北走し、省線東北本線これに並行して走り、黒田原(明治二十四年設置)・下野豊原(明治二十年設置)の二驛を設けり。那須嶽東南麓の那須湯本へは黒田原驛より縣道通じバスの便あり。此地は古くより温泉場として著く人口に膾炙せらる。正倉院文書天平十年駿河國正税帳に從四位下小野朝臣が那須湯にて病を癒せし由見ゆれば、かく古くより貴神の湯治に下國せし由を知る。温泉は湯本・北・辨天・大丸・三斗小屋(高林村)・高雄股・板室を總べて古くより那須七湯と稱せし、近年は八幡・旭・新那須・飯盛など新たに展げ、特に那須御用邸が設けられてより別荘地帯の發展、ホテル場開設などありて一層面目を改む。那須嶽の噴煙、那

須野ヶ原の展望に加へて、九尾の狐に絡る傳説を有する殺生石もあり、那須嶽一に因縁深き温泉神社もあり。春の鶯鳴、秋の紅葉の美觀もあり、浴泉・觀賞・登山・旅行者の心を牽くべき多きを有す。
 【湯本】 那須諸湯の物資集散地なり。泉質は硫化水素含有酸性明礬泉にして、俗に天然六百六號の稱ありて花柳病・皮膚病等に特效あり。元湯には草津と同じく時間湯の浴法がありなほ、湯たゞれを治療するには別に喜樂湯あり。また湯泉プールもあり。附近には日蓮上人に因み深き喰初庵、鶯鳴の名所の東公園の勝地あり。(八幡) 湯本よりおだん茶屋を経て二軒、那須高原の中央にありて、その展望は那須諸温泉中の第一とす。泉質は單純泉なり。附近一帯は晚春鶯鳴にて掩はれ、冬はスキー場として賑ふ。(北) 湯本より八幡を経て、北四軒半、余笹川に臨み那須第一の紅葉の勝地とす。温泉は目の湯・天狗の湯・相の湯あり。泉質は單純泉にして温泉プールの設備もあり。(旭) 八幡より二軒餘、北温泉へ行く途中より左折したる所にあり。(辨天) 湯本より西北三軒半、おだん茶屋の處より八幡への道と別れて左折して行く。旭より約一軒あり。泉質は單純泉にして温泉プールの設備あり。(大丸) 湯本より西北四軒、辨天より約六〇〇米、白土川に臨み河の湯の天然プールを以て知らる。泉質は單純泉にして、御用邸に引かると、

もこの温泉なり。また近年西北半軒に郭公温泉も開かれたり。(三斗小屋) 高林村地内。湯本より西北一二軒、那須最奥、最高の温泉にして茶臼嶽と、朝日岳の間の分水界を越えて行く。泉質は單純泉。地名は牛背によるも三斗以上の重量品を運搬するは不可能なりといふ意味なり。(高雄股) 湯本より西北二軒、單純泉にして温度低く夏期以外は加熱す。近くに紅葉池あり。(飯盛) 湯本より西北六軒、高雄股川の上流にあり。山の湯の氣分横溢し、附近には布瀧・五色岩の勝あり。(殺生石) 湯本の北方二〇〇米、那須岳の寄生火山御段山の東腹、湯川の溪谷に面する處にあり、九尾の狐と玉藻前と玄能和尚にまつばる傳説は謠曲・芝居等に著く世に知らる。石は黝色を呈する輝石安山岩の大塊にして木柵を繞らす。殺生石の附近南北一二米東西八米の間は噴氣のために岩石著しく分解し、灰白色を呈し、且つ玉葱の皮のやうに割裂し、或は分解し土砂となる。こゝには硫の昇騰なきも、硫化水素の臭氣紛々とし、硫質噴氣孔の老衰せしものと認めらる。噴出の瓦斯の性質及び種類明かならざるも、動物のその氣に觸れて死するもの少なからず。毒瓦斯は石そのものより發生するにあらずして、附近の噴氣孔より發するものなり。色葱の匂に「毒氣」の雲ばかりなる石の上(奥の細道)。(温泉神社) 大字湯本に鎮座。神社。祭

神、大己貴命・少彦名命・譽田別命。舒明天皇御宇郡司狩野行廣の創建といふ。貞觀十一年從四位上に叙せられ、延喜の制官社に列し下野十一社の一たり。例祭陰曆九月二十九日。
 【那須】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に那須郡那須郷あり、その地今の那須郡川西町・金田村の邊なるべし。
 ナズカワ 撫川 岡山縣都窪郡にありし町。もと撫川村と云ひしが明治三十七年町制施行。昭和十二年に吉備郡鹿野町と合併して吉備町(都窪郡)を建つ。
 ナスキ 名次山 兵庫縣西宮市内廣田にある官幣大社廣田神社の西方の丘陵の稱。萬葉・三「吾妹子に猪名野は見せつ名次山角の松原いつか示さむ 高市連 黒人」
 ナスノ 那須野ヶ原 栃木縣の北部、那珂川の上流及び那須川沿岸の廣漠たる原野を那須野ヶ原といふ。原野は南北に長く、二五軒前後の幅を有す。その西側の北部には那須の五嶽が聳え、ついで高原火山が、その基底に横ばる熔岩臺地の末端を露出し、斷崖の如き急斜面をなして平原を瞰下す。東側には鷲ノ子・八溝の山地が蜿蜒と連なり原野を限る。原野の北部は、阿武隈川の流域の低地帯に通じ、南方は何等の地形的境界を有せずして鬼怒川沿岸の關東平野に連る。この低地帯は舊き地帯なり。八溝・鷲ノ子の古生層山地の西邊を限る黒川・島山の南北

嶽と、蘆原・彌太郎兩山地の東側を限る關谷一板室嶽に沿うてその中間が廢没して生ぜし地帯にして、その表面は那須火山群に屬する諸火山の噴出物質が厚く被覆す。いま海拔二〇〇—三〇〇米の標高を有し、波浪狀の丘陵性平野と化せり。那珂川・那須川の沿岸は厚き砂礫層に被はれ垣々たる平原となり、稻荷山・權現山・二室山等の小丘陵は泥濘原上に埋れ残されし舊山地の頭部なり。那須野ヶ原の地質は粗鬆なる火山砂礫層にて、河川は深き峡谷を穿ちて流る、故に、灌漑の便悪しく、廣大なる原野も何等利用さる、事なく放棄されしが、明治十三年當時福島縣令たりし三島通庸が、栃木縣令を兼任してより開拓の業を起し、爾來政府の補助を得て那珂川の水を西岩崎より西那須野に引く水路を開き、同二十年にその工了す。かくてこゝに三島農場・千松本附近の松方農場・黒磯西方の青木農場、其他に毛利農場、戸田・藤田・鍋島・山縣・大山・平田等の諸氏の明治元勳を地主とする大農場が開拓され、東北本線もこの農場を一直線に貫き、茫漠たる原野の間にも縱横に道路が設けられ、西那須野・黒磯等の新開町村を生じ面目を一新して今日に至る。

マキス海産物をなし、海岸には宮古崎・摺子崎・赤崎・梵論崎等の突出及び名瀬の灣入あり。小河川ありて各灣頭に注ぎ、灣頭に小デルタを形成し、耕地開く。名瀬港は三方を山にて圍繞され、北方に開口し冬季の季節風には風浪や、高きも、大島唯一の良港にして内務省指定港たり。年平均気温は二一度にして最高気温は三四・六度、最低気温は六・六度にして冬季は殊に暖かく、夏季にても内地に比しや、高きのみ。年降水量は二六四〇・二耗にて琉球列島中にも多雨地帯に屬す。降雨は年中ほぼ平均するも夏季の颱風季節に最も多く、例年夏秋の候には颱風に襲はれ被害を蒙ることあり。産物は砂糖・大島綿及び鯨骨は廣く知られ、また田麩・蘇鐵羊羹・白百合・同葉用蘇鐵等あり。名瀬港の移出總額は約七三〇萬圓、移入總額は約七五〇萬圓に達す。移出品の主なるものは絹織物を第一とし生絲・米・鯨骨・焼酎・砂糖等にて主要移入品は絹織物・米・生絲・鯨骨・焼酎・製造煙草・砂糖等なり。而して奄美群島に産する織物類・鯨骨・砂糖等を集めて鹿兒島・大阪・神戸等に送り米・生絲等の食料日用品および織物原料を鹿兒島・大阪より求めて奄美群島の各地に送る。縣道は北部海岸に沿うて走り、西南古仁屋町に至る縣道を分ち、バスを通す。また名瀬港には大阪・鹿兒島・那覇間の定期汽船寄航す。町内に大島支廳・

尼務署・區裁判所・警署等置かる。(高千穂神社) 大字金久に鎮座。神社。祭神、天津彦火瓊杵尊・八幡大神。明治二年金久村矢ノ脇に鎮座ありしが、同二十年現地に移轉す。例祭、九月十九日。
 ナタ 名太 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に席田郡名太郷あり、その地は今の本巢郡席田村の邊なるべし。
 ナタ 那谷村 石川縣加賀國江沼郡の東北部。大聖寺町の東方約九軒。東は能美郡に界す。加賀山脈の餘脈東南部に連り、全村四五百米の丘陵をなし北部に僅かの平地あるのみ。面積二二・六三方軒。農業・林業を主生業とし米・木炭・木材・繭の産あり、次いで、工業も行はる。西北部を社線温泉軌道東西に走り那谷寺驛(貨物驛、大正三年設置)あり、縣道また之に沿ひ北陸本線の動橋・栗津二驛へバスの便あり。この地は名刺那谷寺あるを以て知らる。芭蕉がその紀行奥の細道に「石山の石より白し秋の風」と吟じたるは此處なりといふ。(那谷寺) 大字那谷にあり。古義眞言宗。自生山と號す。養老元年養澄法師の草創に係る。花山法王紀伊の那智、美濃の谷汲の各一字をとって現寺號に改め給ひ、佛像を納め勸願所の繪旨を賜ふ。正保元年藩主前田利常再興す。(那谷寺庫裡庭園) 指定名勝。寛永年間庫裡と同時に築造さる。もと廣大にして東方澤所在部に達せしが近年縮少せらる。歩石を布置し處々石を立

て西方に茶室、東方に小池あり。北界に近くの大樹あり、東方に池を挾みて杉の巨樹亭立す。庭石は主に瑪瑙石を用ひ蘇苔青々、老樹蒼鬱、景趣幽邃なり。
 ナタ 名田村 和歌山縣紀伊國日高郡の西南海岸。印南町の西に隣り、西南は海に臨む。東北境に黒岩山(二四二米)・高城山(二四〇米)の山嶺連り、山麓は海に迫りて平地に乏しく、海岸に沿ひ僅に低地ありて耕地開く。米・繭・柑橘等を産し除蟲菊は殊に多産す。西北方御坊町より印南町に至る街道は海岸に沿うて走りバスを通す。大字野鳥の海濱を古くは阿胡根浦と云ひ、和歌の名所。萬葉・「吾が欲りし野鳥は見せつ底ふかき阿胡根の浦の珠を拾はむ」
 ナタ 灘 岐阜縣大野郡にありし村。大正十五年に高山町(昭和十一年市制施行)となる。
 【灘】 兵庫縣の大阪灣北岸、東方は武庫川より西方神戸市生田川口に至る海岸地帯の總稱。大別して東より今津郷(今津町)・西宮郷(西宮市)・東郷(深江・青木・漁崎)・中郷(住吉・御影・石屋・六甲)・西郷(新在家・大石・岩屋・東明)を灘の五郷といふ。西宮以東は武庫川のデルタの末端部にて頗る低平なる沖積地帯なるが、西半部は六甲山脈の階段狀斷層の下に發達せし山麓より海岸まで、一軒乃至二軒の複合扇狀地の地帯より成

り、海岸に向つて緩傾斜をなし、海岸は花崗岩質の六甲山地より搬出の砂土によつて、白砂青松の海濱をなし、風光頗る明媚にて、前者とその景観を著しく異にす。即ち後者は理想的住宅地帯をなし、殊に扇状部より山麓にかけて豪壯または瀟洒な住宅多し。臨海地帯は古來有名なる日本一の銘酒灘酒の醸造地として一般に知らる。灘酒造の勃興は寛永年間伊丹の人兼屋文右衛門が、西宮に移住して醸造を業とせしに端を發し、以後百年間に於て灘地方に酒造業を起す者多く、享保九年の調査によれば灘五郷の酒造家は一三七人の多きに達し、うち西宮は八二人にて過半数を占め、伊丹は五四人、池田は二七人、酒造の中心は既に灘五郷に移れり。其後、天保年間に魚崎の山田邑太郎左衛門は原料米、特に原料水の改良を以て酒質を高めたり。先輩の伊丹・池田地方の酒造業を凌駕したるは、當時の販路が江戸を第一とせしため、船運が前者に比して便利なるも、水質優良の西宮の宮水(宮水は硬度五度内外の硬水)を用ひたること、播磨・攝津の良質米と、これを精白するに六甲斷層崖の流水を動力とせし水車の利用及び酒桶材として香高き吉野杉の使用並びに丹波杜氏の優秀なる技術等の好條件の調和と、京・阪・神の大都市を近く控へる等の諸條件による。

淡路島の南端を占め論鶴羽山脈の南斜面に位し、東々北より西々南に細長く延びて、殊に西南端は著しく狭長となりて遠く西南端湖灣に終る。北境中央に論鶴羽山聳え、それより東々北及び西々南に連る山嶺は北境を限り、南方海岸に急斜して平地乏しく海岸單調なり。西南端海岸は遙かに西にのびて岩石地多く、淡路島西南端、即ち鳴門海峡南口の東南に當る湖灣に盡く。沼島灘を隔て、南方海上には沼島を望む。米・裸麥・小麦・果實・食用農産・蔬菜・花卉・鶏卵・菓製品等の産あり。福良町へは山嶺を越えて西北約六軒にして交通不便なり。附近町村と共に要寒地帯に屬す。

占め全村二三百米の丘陵起伏し、南部に多少の平地あり水田拓く。米を主産物とし他に藁・木炭等の副産あり。東西に貫通する縣道ありて中島・富來間のバス通す。省線七尾線能登中島驛へ約三軒。此地古くは和名抄、能登郡熊來郷の内なるべし。(藤津比古神社)大字藤津に鎮座。郷社。主祭神、級津比古命・岩衝別命。相殿神、速玉男命(熊野社)外二神。合祀神、健御名方命(諏訪神社)。景行天皇御宇の創建と云ひ、歴代皇室の尊敬厚く勅使の奉向等あり。のち當國領主の祈願所となる。天正の頃上杉氏の兵火に罹り全く舊觀を失ひしも、元祿十四年に本殿の改修を行ふ。寶永年中、神主伊勢守清重は攝末社十五社を氏子各部落に附與して社殿を興さしめて支社となす。例祭九月十五日。

設置)を設く。四國街道は西北隅を是に交錯して通り縣道は鐵道に並行す。明治三十九年灘村及び彦崎村の一部を廢して本村を置く。

ナタチ 名立

【名立町】新潟縣越後國西頸城郡の東北端。名立川の河口を扼し北西は日本海に面し、東は中頸城郡に界す。面積七・七三方軒。妙高火山群の餘波を受け三十四百米の丘陵北に傾斜す。名立川東部を西北に流れ海に入る。河岸及び海岸に僅かの平地ありて耕作行はるゝのみ、他は山林なり。米・藁の産多しあるも町は漁港として榮つ。東北隅島ヶ首岬は風光明媚を以て知らる。國道(北陸道)及び省線北陸本線海岸に沿ひて走り、後者の名立驛(明治四十四年設置)あり。延喜名簿式(明治四十四年設置)あり。延喜名簿式に見ゆる名立驛は即ち此地なり。實情

ナタチ 那智

【那智町】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東南部。西北那智山中より出でて南流する那智川の流域一帯に及び東南勝浦町を包みて無野灘に臨む造の斜面を占め、東北方新宮市との間に宇久井村を挟む。面積三七方軒に近き那智川に沿ふ市狭き平地ある外は殆ど那智山に屬する山地にて森林多し。米・麥・柑橘等を産し林産も多く工産・水産等もあり。海岸近くに熊野街道走り途中天満より熊野街道中邊路分岐しバスを通す。省線紀勢中線また熊野街道に並走し、那智驛・紀伊天満驛(以上大正元年設置)湯川驛(昭和十年設置)あり。此地は熊野三山の一なる熊野那智神社の門前町として發達せる所。古より史上に顯はれ、殊に中世は列聖の行幸屢々あり、附近は名勝舊蹟に富む。昭和九年町制を布く。※熊野。(那智山)大雲取山(九六六米)、その東南の烏帽子山(九〇九米)・光ヶ峰(六八六米)及び妙法山(七五〇米)等の山嶽の叢集せる山地の總稱。砂岩・泥板岩等の第三紀層に屬する岩石より成り壯年期の山貌を呈し、全山は杉・檜の美林に蔽はれ、山中に熊野那智神社・飛龍神社・那智觀音等あり、また那智の瀧あり。熊野街道は那智山中の妙

ナタチ 灘手村

【灘手村】鳥取縣伯耆國東伯耆郡の中部。倉吉町の西北方、北は下北條・大誠二村に、南は社村に、西は榮・高城二村に界す。面積一二・五五方軒。東北と西南部には一〇〇—一五〇米の丘陵性の山地蟠居するも、廣く耕作行はれて桑畑多し。村の中央を南北に河川流れてその流域は水田廣く米産多し。山地は牛馬を牧畜し林産物も多し。東南方より河に沿うて縣道通じ由良町に至る。倉吉・由良二町にバスを通じ交通便なり。

【那智山】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東南部。西北那智山中より出でて南流する那智川の流域一帯に及び東南勝浦町を包みて無野灘に臨む造の斜面を占め、東北方新宮市との間に宇久井村を挟む。面積三七方軒に近き那智川に沿ふ市狭き平地ある外は殆ど那智山に屬する山地にて森林多し。米・麥・柑橘等を産し林産も多く工産・水産等もあり。海岸近くに熊野街道走り途中天満より熊野街道中邊路分岐しバスを通す。省線紀勢中線また熊野街道に並走し、那智驛・紀伊天満驛(以上大正元年設置)湯川驛(昭和十年設置)あり。此地は熊野三山の一なる熊野那智神社の門前町として發達せる所。古より史上に顯はれ、殊に中世は列聖の行幸屢々あり、附近は名勝舊蹟に富む。昭和九年町制を布く。※熊野。(那智山)大雲取山(九六六米)、その東南の烏帽子山(九〇九米)・光ヶ峰(六八六米)及び妙法山(七五〇米)等の山嶽の叢集せる山地の總稱。砂岩・泥板岩等の第三紀層に屬する岩石より成り壯年期の山貌を呈し、全山は杉・檜の美林に蔽はれ、山中に熊野那智神社・飛龍神社・那智觀音等あり、また那智の瀧あり。熊野街道は那智山中の妙

ナタチ 灘分村

【灘分村】鳥取縣出雲國簸川郡の北東部。東は宍道湖に面し、北は平田町に、西は國富村に、南は出東村に界す。面積八・三六方軒。北西より東南に走る十六島斷層の凹地と、斐伊川河口の沖積平原にて合成せる簸川平野の東端の地を占め、土地低濕にして、斐伊川の分流多く流れて灌溉の便よろし。従つて沃野をなし耕地よく發達し、また裏作には特有の高畦耕作行はる。米作を第一とし養蠶・養鶏業も盛なり。名産に宍道湖の公魚あり。西北境を掠め社線一知輕便鐵道走り平田驛に近く、省線山陰線直江驛へは約七軒、バスの便あり。此地は和

ナタチ——ナチ

【名立村】新潟縣越後國西頸城郡の東北部。名立町の南、東は中頸城郡に界す。名立川流域を占め南北に細長く、南隅に妙高火山群の一峰不動山(一四三〇米)聳立し、その餘脈東西境を連互し名立川の谷を狭む。面積五八・六二方軒。衆落は名立川に臨み、河岸に狭き耕地拓げ、米を主産とす。上流に沿ひ石油坑あり、下流及び東西へ國道を通す。交通概して不

寄進なる石概あり。(龜山院御率都婆建設址)大宇市野々那智瀧の附近にあり。弘安四年龜山上皇御幸の際に年月日を記載せし旅筆の率都婆を賜はりしが、いま熊野夫須美(那智)神社に所蔵し、模造の碑建つ。(熊野那智神社)熊野夫須美神社(大宇市野々に鎮座。官幣中社。祭神、家津御子神・熊野速玉命・熊野夫須美神。創建年代を仁徳天皇五年(又は五十八年)と言ひ、或は更に降りて文應元年とも云ふ。新抄格勅符抄に收むる大同四年の際に、天平神護二年熊野率須美神に紀伊國神封四戸を充てし事見ゆればその草創は或はそれ以前にあるべし。社殿は十三殿あり、第一殿は祭神大己貴命、舊稱を瀧宮神社と云ふ。第二殿より四殿までを古来より熊野三所大神と號す。第五殿(祭神、天照大神)と第一殿を總括して五社と稱す。第六殿より第十三殿までの八殿を中下八社と稱し、第二殿より第十殿に至るものを熊野十二所大神と總稱す。古來合せて三十有六社と稱するもの即ち之なり。また熊野本宮・新宮と合せて熊野三山・或は三所權現と稱し、中世に神佛混淆の砌は専ら佛徒の掌握に歸して、社側に那智山青岸渡寺を建立して供僧坊となす。俗に那智觀音と稱せるは即ち之にて、現に西國三十三所第三十三所第一番の札所として世に聞ゆ。古より列聖の御崇敬厚く行事も少なからず、修造の如きも國費を以て充てたりと云ふ。武

家幕府の世に至りても代々尊崇し相繼ぎて修營を行ひ、徳川吉宗は社殿修築後、資金若干を寄せこれが利殖を以て修營の費に充てしむ。往昔は社殿完備、壯麗を極めしも今は面影を止めず。明治六年縣社に列し熊野夫須美神社と稱し、大正十年官幣中社に列し現社號に改稱す。現在の社殿は嘉永四年の重修にて謂はゆる熊野造なり。附近は名勝舊蹟に富む。社寶中、古銅印・金銀裝寶劍拵の二點は國寶なり。例祭、七月十四日。(飛瀧神社)大宇市野々に鎮座。郷社。祭神、大己貴神。神武天皇五十八年、天皇は富國荒坂津に至りて舟敷戸咄を誅し給ふや皇軍痲痺に觸れて起つこと能はず。時に一條の神光那智山東峰に現はれて皇軍を導く、天皇怪しみてその神光の馳するところを見せしめ給ふに瀑布の底に沈む。依りて勅してその中に大己貴神を鎮祀せしめ給ふ、これ當社の起原なりと云ふ。中世列聖の熊野社に幸し給ふや、必ず風聲をこの瀑下に駐めて幣帛を奉らせ給ひきと云ふ。當社はこの大瀑布を神體となし故に本殿と稱するものなく、僅かに拜殿あるのみ。境内一萬八千六百坪。例祭、七月十四日。(那智發掘遺物)大正七年、飛瀧神社附近に於ける前後二回の發掘あり。その後大正十三年にも一回あり。遺物は佛像・小塔・鏡・三味線形・佛具・經筒・眞鍮・支那古錢その他、凡そ二百五十點餘。此等の製作年代の大略は

奈良朝及びそれ以前、藤原期最も多く、鎌倉・室町頃のものと見受けらる。この遺跡は藤原以降、鎌倉・南北朝・室町時代にかけて次第に埋加されし大規模の經塚にて、而もその最初の埋經に際しては經塚の意味を擴張して佛像大壇關係佛具その他を含めたる埋納供養の行はれしものと報告さる。發掘遺物中、奈良朝の佛像はこの時代に文獻を缺くこの地の考古學的資料として特に大切なり。密教修法具と藥師彌陀像等とは、古昔の眞言・天台兩宗を語ると共に、觀音像の最も多きことは、この信仰の傾向を物語る。山來熊野三社は神佛混合の例行はれ、神名と佛名と並び稱せられたるもの如し。かくて那智一山の古昔に於ける信仰は以上の如く、殊にこれ等の發掘遺物はその實際を示して餘りあらん。(阿彌陀寺)妙法山上にあり。眞言宗。弘仁年中應照上人の中興に係る。本尊釋迦如來は大寶三年、唐國天台山蓮藏大士の贈る所といふ。のち荒廢せしが近世再興し、近年境内の展望雄大なること周知さる、や賽者登山者は頓に増加す。(青岸渡寺(那智觀音))大宇市野々にあり。天台宗。那智山または那智觀音と俗稱す。西國三十三所第一番の札所。往昔熊野浦に舟漂着し七客中六人は歸國せしも、裸形仙人のみ留りて練功を積む。のち那智山上よりそて瀧より圓浮橋金の如意輪觀音像を感得し一草堂に之を安置す。仙人歿後、世

に顯れ、推古天皇勅して伽藍を造營せしめ給ふ。爾來歷朝の崇敬厚く、殊に花山法皇は當山に三年間參籠し給ふ。豐臣秀吉の崇敬また厚く、その盛時は七箇寺三十六坊を有せしも維新後舊觀を失ふ。本堂は室町末期の建築にて現に國寶たり。御詠歌「補陀落や岸うつ波は三熊野の那智の御山に響く瀧津瀧」(補陀落寺)大字瀧宮にあり。天台宗。白華山と號す。天福年間智定房の草創に係ると傳ふ。智定房はもと源賴朝の家臣たりしが、のち南海補陀落山に渡り歸りて本寺を創すといふ。本尊手觀音は無雙の靈佛と稱せらる。(湯川温泉)湯川瀨の邊りに涌出す。無色透明單純泉。入海の岸に櫻樹多く花期賑ひを呈す。入海の口に青松林立して波靜かなる二河の大瀨あり、夏期海水浴行はる。(那智浦)和歌山縣東牟婁郡の海岸。宇久井村の駒崎より太地村の鷺ノ巣崎に至る海岸の稱にして、宇久井村・那智町・勝浦町・下太田村・太地村の諸村に互る。海岸は概ね崖をなすも屈曲に富み、岬・灣・小島あり、勝浦港は特に良港として知られ、漁業盛なり。また沿海には温泉の湧出あり、景勝に富むを以て遊覽客の訪るる者多し。昔この浦にて平糶盛入水すと傳ふ。ナチツク 諸島 Natchik 大宇市野々に鎮座し、大宇市野々の略中央に位す。洋群島東カリン群島の略中央に位す。ナチツク支那の管下にして、ナチツク島の西

南約一五〇軒。珊瑚礁によりて圍まれし數箇の小島より成り、カナカ族居住す。年數回、南洋艦の命令による離島巡視の汽船寄港す。ナツ 那津 ↓那可(出羽國) ↓横須賀市

南洋群島防備隊司令部置かれたり。島名はわが海軍の命名にかゝる。ナツイ 夏井 夏井村 岩手縣陸中郡九戸郡の東部。久慈町の北に接し、東南は一部久慈灣に面す。村の南部・北部には東西に互る丘陵あり。夏井川は村の中央部を東流し、久慈川に合して久慈灣に注ぐ。沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆・稗・馬鈴薯を産す。九戸街道は村の東部を西北に通じ、南方八戸線久慈驛へバスの便あり。同線の陸中夏井驛(昭和五年設置)を置く。夏井村 福島縣磐城郡田村郡の南端。小野新町の東南に隣り、南及び東は石城郡、西は石川郡に隣接す。阿武隈山地に屬し、東北境に矢大原山(九六五米)、西境に十石山(七一八米)あり、西南は海拔約六〇〇米にして各中央部に傾斜し、東北部は斷崖をなす。夏井川は村の中央部を西北より東南に流る。米・藁・木炭を産す。磐城街道は村のほぼ中央部を北より東南に通じ、西北方の小野新町に至る。これに並行して磐城東線通じ、夏井驛(大正六年設置)あり。本村大字田原井はもと田原谷に作り、野史に「天正十一年、岩城常隆、取田原谷、樋口二碧」とあり。戊辰の役には平城を攻め落してより本村を通じ賊兵を拂へり。郷社諏訪神社の境内の翁杉・姫杉は約千五百八十年を經し古木にして、翁杉は直徑約五・七米、姫杉は約六米、共に周圍一三米餘

あり、東北第一と稱せらる。(諏訪神社)大字北田原井に鎮座。郷社。祭神、武御名方命・下照比賣命。社傳に寶龜十一年從三位藤原繼繩は勅を奉じて東夷征討の時に勸請鎮祭すといふ。爾後、代々領主の崇敬社。例祭、九月三日。夏井村 福島縣磐城郡石城郡の東部。平市の東方約五軒。東は太平洋に面す。南部及び西部に低き丘陵地あり、北部及び東部は平坦なり。夏井川は北境を東流して太平洋に注ぎ、沿岸に耕地拓く。海岸は砂濱をなす。米の産多く、魚業また行はる。道路は村の中東部を略南北に通じ、北方常磐線草野驛へは約三軒あり。此地は和名抄、磐城郡磐城郷の内なるべく、村内に名所舊蹟多し。(甲塚古墳)指定史蹟。平地に築かれたる圓墳にして封土高さ約八・二米、徑約三六・四米に及ぶ。當地方最も良く保存せられたる古墳の一なり。(大國魂神社)大字菅渡に鎮座。祭神、事代主命外二神。延喜式磐城郡七座の一にして上代國造の勳請に係るものならん。桓武天皇延暦年間坂上田村麿東夷征討の際、本社に戦捷を祈願し、賊平定の後、本社を築造して報賽となす。爾後代々領主の尊崇厚し。例祭、八月一日。(尊稱寺)大字山崎にあり。淨土宗。梅福山と號す。良就證賢の草創にして關東十八檀林の一。延徳二年第六世良大仰觀の時に勸願所の繪旨を賜はり奥州一宗の總本山となる。近世は朱

に顯れ、推古天皇勅して伽藍を造營せしめ給ふ。爾來歷朝の崇敬厚く、殊に花山法皇は當山に三年間參籠し給ふ。豐臣秀吉の崇敬また厚く、その盛時は七箇寺三十六坊を有せしも維新後舊觀を失ふ。本堂は室町末期の建築にて現に國寶たり。御詠歌「補陀落や岸うつ波は三熊野の那智の御山に響く瀧津瀧」(補陀落寺)大字瀧宮にあり。天台宗。白華山と號す。天福年間智定房の草創に係ると傳ふ。智定房はもと源賴朝の家臣たりしが、のち南海補陀落山に渡り歸りて本寺を創すといふ。本尊手觀音は無雙の靈佛と稱せらる。(湯川温泉)湯川瀨の邊りに涌出す。無色透明單純泉。入海の岸に櫻樹多く花期賑ひを呈す。入海の口に青松林立して波靜かなる二河の大瀨あり、夏期海水浴行はる。(那智浦)和歌山縣東牟婁郡の海岸。宇久井村の駒崎より太地村の鷺ノ巣崎に至る海岸の稱にして、宇久井村・那智町・勝浦町・下太田村・太地村の諸村に互る。海岸は概ね崖をなすも屈曲に富み、岬・灣・小島あり、勝浦港は特に良港として知られ、漁業盛なり。また沿海には温泉の湧出あり、景勝に富むを以て遊覽客の訪るる者多し。昔この浦にて平糶盛入水すと傳ふ。ナチツク 諸島 Natchik 大宇市野々に鎮座し、大宇市野々の略中央に位す。洋群島東カリン群島の略中央に位す。ナチツク支那の管下にして、ナチツク島の西

南洋群島中、東カリン群島のトラツク諸島中の一島。わが委任統治區域のほぼ中央に位し、北は春島、西南は秋島、南は冬島と相對し、此等の島群によりて四季諸島を構成す。トラツク支廳所在地。面積約九方軒。島は比較的古き時代の噴出に成る霞石玄武岩より成り、島周に珊瑚よく發達す。昭和十一年四月現在の人口は邦人男五三三、女三六三、計九三三にして工・漁・商・農業各種の産業に従ひ、土人は悉くカナカ族にて一・二七人、主として農業に従事す、外に外國人四名居住す。農産はタロ芋・コブラ・甘藷・甘蔗・蔬菜及び各種の果實にして、水産は鱈・鮪・海鼠の漁獲多く、また高瀬貝・玳瑁を産し、鯨節の製造行はる。内地及び群島中の諸島との間に定期航路ひらけ、交通比較的便なり。島には支廳の外、トラツク醫院・郵便局・小學校・公學校等あり、郵便局には無線電信を設置す。此島は附近各島と共に一六八〇年頃西班牙人の發見に係るといひ、近世は獨領時代官憲の駐在せし地、大正三年わが占領後、同十一年に至る間わが

南洋群島防備隊司令部置かれたり。島名はわが海軍の命名にかゝる。ナツイ 夏井 夏井村 岩手縣陸中郡九戸郡の東部。久慈町の北に接し、東南は一部久慈灣に面す。村の南部・北部には東西に互る丘陵あり。夏井川は村の中央部を東流し、久慈川に合して久慈灣に注ぐ。沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆・稗・馬鈴薯を産す。九戸街道は村の東部を西北に通じ、南方八戸線久慈驛へバスの便あり。同線の陸中夏井驛(昭和五年設置)を置く。夏井村 福島縣磐城郡田村郡の南端。小野新町の東南に隣り、南及び東は石城郡、西は石川郡に隣接す。阿武隈山地に屬し、東北境に矢大原山(九六五米)、西境に十石山(七一八米)あり、西南は海拔約六〇〇米にして各中央部に傾斜し、東北部は斷崖をなす。夏井川は村の中央部を西北より東南に流る。米・藁・木炭を産す。磐城街道は村のほぼ中央部を北より東南に通じ、西北方の小野新町に至る。これに並行して磐城東線通じ、夏井驛(大正六年設置)あり。本村大字田原井はもと田原谷に作り、野史に「天正十一年、岩城常隆、取田原谷、樋口二碧」とあり。戊辰の役には平城を攻め落してより本村を通じ賊兵を拂へり。郷社諏訪神社の境内の翁杉・姫杉は約千五百八十年を經し古木にして、翁杉は直徑約五・七米、姫杉は約六米、共に周圍一三米餘

あり、東北第一と稱せらる。(諏訪神社)大字北田原井に鎮座。郷社。祭神、武御名方命・下照比賣命。社傳に寶龜十一年從三位藤原繼繩は勅を奉じて東夷征討の時に勸請鎮祭すといふ。爾後、代々領主の崇敬社。例祭、九月三日。夏井村 福島縣磐城郡石城郡の東部。平市の東方約五軒。東は太平洋に面す。南部及び西部に低き丘陵地あり、北部及び東部は平坦なり。夏井川は北境を東流して太平洋に注ぎ、沿岸に耕地拓く。海岸は砂濱をなす。米の産多く、魚業また行はる。道路は村の中東部を略南北に通じ、北方常磐線草野驛へは約三軒あり。此地は和名抄、磐城郡磐城郷の内なるべく、村内に名所舊蹟多し。(甲塚古墳)指定史蹟。平地に築かれたる圓墳にして封土高さ約八・二米、徑約三六・四米に及ぶ。當地方最も良く保存せられたる古墳の一なり。(大國魂神社)大字菅渡に鎮座。祭神、事代主命外二神。延喜式磐城郡七座の一にして上代國造の勳請に係るものならん。桓武天皇延暦年間坂上田村麿東夷征討の際、本社に戦捷を祈願し、賊平定の後、本社を築造して報賽となす。爾後代々領主の尊崇厚し。例祭、八月一日。(尊稱寺)大字山崎にあり。淨土宗。梅福山と號す。良就證賢の草創にして關東十八檀林の一。延徳二年第六世良大仰觀の時に勸願所の繪旨を賜はり奥州一宗の總本山となる。近世は朱

に顯れ、推古天皇勅して伽藍を造營せしめ給ふ。爾來歷朝の崇敬厚く、殊に花山法皇は當山に三年間參籠し給ふ。豐臣秀吉の崇敬また厚く、その盛時は七箇寺三十六坊を有せしも維新後舊觀を失ふ。本堂は室町末期の建築にて現に國寶たり。御詠歌「補陀落や岸うつ波は三熊野の那智の御山に響く瀧津瀧」(補陀落寺)大字瀧宮にあり。天台宗。白華山と號す。天福年間智定房の草創に係ると傳ふ。智定房はもと源賴朝の家臣たりしが、のち南海補陀落山に渡り歸りて本寺を創すといふ。本尊手觀音は無雙の靈佛と稱せらる。(湯川温泉)湯川瀨の邊りに涌出す。無色透明單純泉。入海の岸に櫻樹多く花期賑ひを呈す。入海の口に青松林立して波靜かなる二河の大瀨あり、夏期海水浴行はる。(那智浦)和歌山縣東牟婁郡の海岸。宇久井村の駒崎より太地村の鷺ノ巣崎に至る海岸の稱にして、宇久井村・那智町・勝浦町・下太田村・太地村の諸村に互る。海岸は概ね崖をなすも屈曲に富み、岬・灣・小島あり、勝浦港は特に良港として知られ、漁業盛なり。また沿海には温泉の湧出あり、景勝に富むを以て遊覽客の訪るる者多し。昔この浦にて平糶盛入水すと傳ふ。ナチツク 諸島 Natchik 大宇市野々に鎮座し、大宇市野々の略中央に位す。洋群島東カリン群島の略中央に位す。ナチツク支那の管下にして、ナチツク島の西

ナツタ

南都田村 岩手縣陸中郡... ナツタ 南都田村 岩手縣陸中郡... 深部の西部。水澤町の西に隣る。北境を東北流する北上川の一支出深川によりて構成せられたる鹽澤川扇狀地上にあり。地は平坦にして六五米より九〇米の高度を示す。此間、鹽澤川よりの用水として北に三堰、中部に茂井羅堰、南に壽安堰を開鑿して耕地の灌漑に便せしめ水田卓越し、全耕地の七割以上を占む。全戸數六八二のうち六三五は農家より成る農村にて、米(約三二萬圓)・麥(約二萬圓)・大豆(約七千圓)の外に馬鈴薯・蘿蔔・繭を産す(昭和十二年)。中部を東西に縣道増田線通じ水澤町にバス通ず。大字都島に角塚あり、貴人の墳墓なるべく、近年に塚の一端を掘りしに墳輪の破片發掘せらる。村名は村制施行の際に南下市・都島・柳田の三箇村を合し、その各一字を取り南都田村と命名せるもの。

ナツトマリ 夏泊崎 青森縣東津輕郡にある岬角。陸奥灣の南部に斗出する小湊半島(夏泊半島)の高崖地の尖端にして、その北西に更に大島の一岩嶼ありて沙嘴連接す。灣岸はこの突出の爲にW字形を描き、北方下北半島の牛頸崎と相對し、灣を東の野邊地灣と西の青森灣とに分つ。岬の西南に久慈ノ濱つゞき、岬よりの眺望絶佳なり。附近はヤマツバキ多く、ツバキ自生北限地帯をなす。※小湊町

ナツミ 夏見 伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に名張郡夏見郷あり、その地名の名賀郡箕田村に當り大字夏見はその遺稱なるべし。

ナツメ 裏村 福井縣越前國坂井郡の西部。福井市の西北約一〇軒、西北は日本海に臨む。南部には鷹巢山(四三一米)の山地あり、海岸には砂丘帯ありて謂はゆる三里濱の一部をなし、東北部に低地ありて水田開く。米・甘藷・繭の外に薪炭を産出し、また穂戸數の一割弱は漁業を専業とし、鱈・鮭・鰯等を獲る。なほ大字石新保より別所石、大字市ノ瀬より瓦を産出す。鮎川街道は中部をほぼ東西に通じ、砂丘の内側を北上する街道を分ちバスを通ず。裏は古くは郷名にも呼ばれ鷹巢村をも統べたり。大字小幡は木幡または居波多とも書き意富々村一族の姓名なりと云ふ。大字兩橋屋に土器塚あり。朝倉義景が犬追物の時、士卒に酒を給ひし廢邊を埋めし所と云ふ。また大字川尻には運如上人の御文等に有名なる性光坊あり。性光坊とは原佛心宗の僧侶なりしが運如上人に歸依して弟子となり、其の寺をも性光坊と號す。眞宗大谷派、縣下第一の古刹にて元和八年十二月七日即座素相の寺跡となり、後四世巡年後素相となる。寛文五年(名蹟考は慶安年中とす)七世善秀は寺を都下鎌倉村米ヶ原に移し西光寺と號す。今は川尻に堂宇(西光寺の塔中)と墓所と殘る。

ナツヨシ 夏吉 福開縣田川郡伊田町の大字。田川驛の夏吉(明治三十二年設置)を置く。

ナツミ 夏身・夏實 【夏身乃浦】志摩國(三重縣)の古地名。萬葉集に見ゆ。志摩郡答志島の南方にある島の夏身の浦に寄する浪間もよみて昔が島の夏身の浦に寄する浪間もよみて昔が

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

ナテ 名手町 和歌山縣紀伊國那賀郡の東北部。紀ノ川北岸に沿ひ、粉河町の東方約一軒。面積僅に一・二二方軒。紀ノ川流域の沃地を占め地形低平にして、米・繭・柑橘等の農産及び工業あり。大和街道の一宿驛として發達せし所にて地方的商工業の中心地をなし、省線と歌山線の名手驛(西南隣王子村)に近く、交通便利なり。大正三年町制施行す。この地は和名抄、那賀郡名手郷の地にして中世は名手莊に作る。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

ナト 名東(郡) 那珂郡(徳島縣) 奈洞(面) 朝鮮慶尙南道晋州郡の西南部。晋州邑の西南に隣り、南は泗川郡に接す。南部に最高一八五米の丘陵連りその他處々に低丘起伏するも、北境を劃する徳川江(南江)の沿岸は低平なり。産物は米・大豆・棉・大麻等を主とし、また樹苗を出す。東部を慶全南部線と晋州・三千浦間二等道路と並走し後者にバスの便あり、交通比較的便利なり。篤山里に永和興業株式會社あり。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

ナトリ 名取 宮城縣(陸前國)の中南部。北は仙臺市・宮城郡、西は山形縣、南は柴田郡に接し、東南は阿武隈川を隔てて瓦理郡に對して、東は太平洋に面す。面積

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

ナツヨ

ナツヨ 夏身・夏實 【夏身乃浦】志摩國(三重縣)の古地名。萬葉集に見ゆ。志摩郡答志島の南方にある島の夏身の浦に寄する浪間もよみて昔が島の夏身の浦に寄する浪間もよみて昔が

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

【名取】陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に名取郡名取郷あり、郡家のありし處。その地は今の仙臺市長町・郡山の邊なるべし。

ナノウ——ナナエ

ナノウラ 七浦

【七浦村】千葉縣安房國安房郡の南端。千倉町の南隣にて太平洋に臨む。大部分丘陵地にて森林あり。北部の高塚山(約二〇〇米)を主とす。東部の海岸附近は平地をなす。米・麥・鵜卵を産す。海岸は岩礁多く崖をなす所あり。縣道は千倉町より來りて海岸附近を西南に走り、粟落は主にこれに沿ひて發達す。省營バス北倉本線はこの縣道を通り、白間津・七浦・安房平磯の三停留所を置く。この地は和名抄、安房郡健田郷の内なるべし。江戸時代の儒者にしてまた尊攘の志士、島山新三郎(贈從五位)は本村の出身者なり。

【七浦村】佐賀縣肥前國藤津郡の東部。經ヶ岳(一〇七六米)の東北麓を占め、有明海に臨み、濱町の南に接す。西南方に聳ゆる經ヶ岳の東北部中腹より山麓一帯を占むる爲め、地形東南部に高く約六〇〇米の高度を有す。東北部の有明海岸は稍屈曲あるも低地とぼし。放射谷に沿ふ低地に田、高地に畑、山地は概ね山林をなす。米・滿・麥の産多し。縣道有明海岸に沿ひて南北に走り自動車を通す。

ナナエ 七重村

【七重村】茨城縣下總國猿島郡の中部。岩井町の北隣に位置す。全村平地にして西境に鶴戸沼あり。畑地多く、所々林を交へ、小麥・大麥・米を産す。村民の生計は農業に依存して、全戸數六一九戸あり、農五七〇戸、商三六

戸・工五戸その他十戸とす。縣道は岩井町及び西北方の境町に通す。古くは和名抄、猿島郡塔地郷の内なるべし。もと牛谷・富田・駒庭・借宿・上出島・三・寺久の七村なりしが、明治二十二年市町村制後に合併して七重村と名づく。

ナナエ 七會

【七會村】茨城縣常陸國西茨城郡の北部。笠間町の北方にて、其間に北山村を挟み、東より北は東茨城郡、西は栃木縣芳賀郡の一部と隣す。面積六三・八五軒の大村。八溝山脈中の一部を占め、全村山地にて西境に花香月山(三七八米)・鶴足山(四三〇米)あり。森林多きために木炭を産す。東部及び南部の山間に狭き耕地ありて米・麥を産す。縣道は南走して笠間町、西走して栃木縣茂木町に通じ、粟落は主としてこれに沿ひて發達す。他は山間に村道あるのみなり。

【七會村】茨城縣常陸國新治郡の中部。土浦町の北方約五軒。北境は西北方筑波山に續く低き山地の東部をなして村内に傾斜し、南部は低き臺地をなして畑地あり。この山地と臺地の中間には狭き低地にて水田をなす。農業行はれて、米・大麥・小麥を産す。陸前濱街道は中央を北走し、南方土浦町、北方右岡町に通す。またこれより分れたる縣道は北走して柿岡町に通す。土浦町・柿岡町へはバスの便あり。大字上・中・下佐谷ともと稱し、佐谷と稱せられ、中世に大塚氏の一族

ナナエハマ 七重濱

【七重濱】江蘇縣上海縣の東部。北境は北走して柿岡町に通す。土浦町・柿岡町へはバスの便あり。大字上・中・下佐谷ともと稱し、佐谷と稱せられ、中世に大塚氏の一族

ナナオ 七生村

【七生村】東京府武蔵國南多摩郡の東北部。八王子市の東隣、日野町の南隣にて、東に多摩川を隔て、北多摩郡の一部と隣す。淺川は西より來りて村内を東北に流れ、村の東北隅にて多摩川に合す。淺川より南は多摩丘陵の一部にて森林あり。淺川流域より北境にかけては平地にて水田・畑地あり。農業行はれて麥・米・柿を産し、養蠶盛にて繭を産す。府道は八王子市および日野町に通す。省線中央本線は村の西部を西南に走るも村内に驛なく、社線京王電氣軌道は淺川に沿ひて西走し、百草園・高幡不動・南平・平山の四驛を置く。この地は和名抄、多摩郡石津郷の内なるべく、古くより百草の阿彌陀像・高幡不動尊あるを以て知らる。大字平山は武蔵七黨中の西黨に屬せし平山氏發祥の地にして、季重最も著る。〔吉富八幡宮(八幡神社) 村社。祭神、應神天皇。社寶の阿彌陀如来坐像一軀は國寶なり。〕金剛寺(高幡不動堂) 大字高幡にあり。新義新言宗智山派。高幡山明王院。大寶以前の創建といふ。のち圓仁留錫し、清和天皇の勅願所となり、また平圓の再興して陽成天皇の勅願所となるといふ。足利氏の崇敬亦厚く、殊に滿兼より莊園三百町を寄せらる。

ナナエ 七飯村

【七飯村】北海道渡島支廳龜田郡の北部。函館市の北方約六軒より駒ヶ岳の南麓に及ぶ大村にして、西は宿野邊川を以つて茅部郡に、東南は龜田村に接す。面積二一六・〇二平方軒。北部はコニエ大山駒ヶ岳の南斜面の一部を占め、その裾に大沼・小沼・尊菜沼あり。宿野邊・菊池・軍川等の諸川注ぎ附近一帯は大沼公園と稱し、風光の美を以て鳴る。東西の湖畔は平地展げ粟落多し。南部は一般に山地を以て占められ、西南界に大野村につゞく小平地あり。大沼・小沼兩湖間を省線函館本線通過して、七飯(明治三十五年設置)・軍川(明治三十六年設置)・大沼(明治四十一年設置)の三驛あり。また社線大沼電鐵は大沼驛より分岐東走して池田驛を置く。米・馬鈴薯・澱粉・酒類を産し、また養蠶業行はる。明治十二年以前は七重村と飯田郷の二部をなす。同年にこれを合併して各一字を取つて七飯村と名づく。〔大沼〕本村の北部にある沼。西南方なる小沼と水を通じ、その西北にある尊菜沼とは宿野邊川によつて相連絡す。大沼・小沼の二湖は宛々鰻の如くその中間接続地頭をセバツトと稱す。沼の長さ約五軒幅二軒。湖岸線の延長約二〇軒、海抜一三〇米、最深部も六・四米に過ぎず。面積五萬軒の小湖なるも、中に大小百二十六の島嶼點在し、悉く樹木を以て蔽はれ、十二

この地に佐谷氏を稱す。

ナナオ 七尾

【七尾町】石川縣能登國島郡の東部。七尾灣南側の南岸に位し、邑知潟地溝帯の東北部を占む。産物に酒・セメント・水産物・木材・建あり。七尾港は北に能登島を控へ西に大松崎突出し、港内は水深く、波靜かにして大艦巨船を泊すべき良津なり。滿洲より豆粕、米國より木材、南洋・エチオピアより燐礦石を輸入し、輸出を見るべきものなし。しかれども北海道・北鮮・能登半島各港等への移出は盛にして年額一千萬圓を越ゆ。港は古き歴史を有し島山氏この地を領せし頃より世に知られ、その頃より大船を持ち海外に航海し支那・朝鮮と通商せしもの如く、安政五年幕府が米國と通商條約を締結するに及び北國地方の貿易港として此處を指定する事となり、堀越部正を此地に派遣し實地調査をなさしめ能登島を居留地とするため、天領四十三箇村と交換せん事を計りしも藩は種々詭辯を弄し、暗礁多く到底大船巨船の碇泊に適せずと幕吏を歸す。これが爲め天興の良港も大いに發展を阻害せられたり。もし當時充分の調査をなし貿易港として開港せば現今日本屈指の大貿易港たりしものならん。然れども明治三十二年開港場に指定され、同四十三年最も危険なりし森田礁を除去し、のち屢々補修工事をなし、今は水深ほぼ七八米にして、棧橋を架し四千噸級を二隻・一千噸・二千噸のもの三隻

を作る。殊に地獄淵・池田灣・鏡子口灣・蓬萊巖・鞍掛巖等名あり。地獄淵は大沼の北岸駒ヶ岳の南麓にある入江にして、屈曲に富み、風景佳なり。湖底白色を帯び、其處を衝けば異臭を放ち冬季も亦結氷せずといふ。蓋し湖底處々に温泉の湧出するに由るものにて、底の白きは即ち湯垢の爲なりと云ふ。鏡子口灣は即ち折戸川の排水する鏡子口附近の入江をいひて、風光絶佳附近一帯低平にして沼澤をなせる處少なからず。宿野邊川は北方より、軍川・菊池川は南方よりこの間に注ぎ、東北方鏡子口より折戸川となつて太平洋に排水す。折戸川は又發電に利用し函館市及び大沼電鐵に供給せらる。湖中に鯉・鮎・鯉等を生す。大沼は駒ヶ岳噴火の際の噴出物即ち泥流・熔岩流等の堆積して山麓の溪流を堰塞し、水流次第に漲水して成れる謂ゆる堰塞湖に屬するものなり。〔尊菜沼〕大沼公園中、小沼より小沼山を隔てて北にあり、駒ヶ岳の泥流に堰止されて形成されしもの。海抜一五六米、湖岸は屈曲多く面積〇・七五平方軒、湖岸線は七・二五軒、深度五米。水温は夏季表面二五度、底部二三度、冬は底部三度となり厚き氷に覆はる。水は褐色にて濁り透明度は一米前後なり。固形物一立中七〇底、溶解性酸素は夏季の兩倍増多しかなり減少す。沼中尊菜を産す。この沼は沼名これより出づ。本沼は悪臭を化して富養型に屬せるものなり。

一時に繁栄、荷役可なり、また大正十三年に東方遠征の海濱一帯の地を町營貯材場となし、引込線を敷設し海面より運河を以て連絡せしめ、木材荷役に便を計り、將來益々木材港として期待さる。町は能登第一の都邑にして省線北陸本線津輕驛より七尾驛を分岐し、本町に旅客驛の設けなきも、東隣矢田郷村に七尾驛(明治三十一年設置)ありて乗降に便し、また貨物驛七尾港驛(明治三十一年設置)は町内矢田新にあり。金澤・富山縣方面へは縣道通す、また海上は宇津津・穴水・飯田各港を初め、北鮮・北海道・能登島等へ定期航路の便あり。この地は和名抄、能登郡加島郷の内にて往昔より香島津と稱し舟運の便あり。七尾の地名は應永五年島山藩則能登守に補せられ、今の矢田郷村の古城に築城し、舊七尾城は石動山の尾にて、此山の尾を菊尾・龜尾・松尾・竹尾・梅尾・龍尾・虎尾に分け、この七山の尾を合せて七尾と名附く。其後、藩則より義春に至る八世百八十年の久しき間、島山氏が婚居せしが、戰國時代に入り天正五年上杉謙信の爲に滅ぼさる。同九年前田利家の領地となり利家は城を所口(現在の丸山公園)に移し、城下の家屋も其附近に移らしめて舊七尾と稱す。金澤藩となり城塞を廢し奉行廳を置かれ、その後數度の改革により町制を布かれ、現在の盛況を見るに至れり。〔七尾城〕七尾町の東方約四軒、矢田郷村大字古城

ナナエ——ナナオ

ナナオ——ナナキ

に其地あり。天元四年、能登守源順以下この國の守・守護、みな此處に館す。應永五年、高山滿則守護に補せられてより此處に築き、七尾城と稱す。或は永享の頃とも云ふ。子孫相承けて此處に在りしが、天正四年二月、その裔義隆殺し遣臣遊佐續光、上杉謙信に内應し、同五年九月遂に上杉氏の有となる。同七年、温井景隆、上杉氏の將有坂備中等を此處に攻めて之を奪ふ、同八年、織田氏の有に歸す。同九年、前田利家、封を此地に受くるに及び、城を所口の小山(矢田郷村の大字)に移してより、舊七尾と云ひ、また松尾山麓にあるを以て、松尾山城とも云ふ。人口に餘るせる上杉謙信の「霜滿軍營」秋氣清の詩は、天正五年、この城を取りし時の作にて、將の襟懷を語るものなり。〔小丸山城〕天正十一年前田利家七尾の舊城をここに移し、同十一年加賀金澤に移るに及び、慶長四年同族利政を封す。寛永十六年に至り廢す。〔光徳寺〕大字所口にあり。眞宗本願寺派。木越山と號す。乾元元年僧宗性の開創。藩主前田利家の歸依を得て、當時寺運盛衰を極めしといふも、今は振はす。〔七尾軍艦所跡〕字出崎にあり。嘉永年間所謂黒船の來訪によりて、幕府は海防を敷にすべき事を諸藩に命ずるや、加賀藩即ち發機・李百里・齋藤等の汽船及び帆船等を買入れし、何れも武裝して沿海の警備に當る。本所はその軍

港にして鎮守府たりし所なり。

【七尾線】省線北陸線の一。石川縣の能登半島に通ず。河北郡中條村の北陸本線津幡驛より羽咋驛(羽咋郡羽咋町)・七尾驛(鹿島郡矢田郷村)を経て、風至郡輪島町の輪島驛に至る一〇七・九軒、及び七尾驛より鹿島郡七尾町の七尾港驛に至る二・一軒を分つ。羽咋驛にて社線能登鐵道に連絡す。

【七尾】 ↓七尾町

【七尾灣】能登半島の東部。富山灣に面して開口する灣にて、邑知湯地灣の東北部に位置する沈降谷なり。灣内には中央に能登島あり、北部を七尾北灣、南部を七尾南灣、西部を七尾西灣といふ。北灣は大日瀬戸によりて外海に通ず。南灣と西灣とは屏風瀬戸、西灣と北灣とは三ヶ瀬戸によりて互に通ず。七尾港は南灣の南部に位置し港深し、また灣を圍繞して和倉温泉・穴水町・中居町等發達す。

【七尾村】滋賀縣近江國東淺井郡の東南隅。姉川の右岸。長濱町の東北方約七軒にあり、東及び南に坂田郡に界す。東半は七尾山(六九一米)の西南斜面を占め、西半に平野開く。農業を主産業とし米、菜種の産多し。其他に石灰・ピロドの工業多少あり。西部には、縣道縱横に走り、北國脇往還に沿ふ。省線北陸本線鹿島驛へバスの便あり。村名は七尾山より起り、七尾山は七つの尾根を有する爲め

に名附けしものならんと云ふ。この地は元龜元年姉川古戦場の一部にして淺井長政の陣所たり。

【七折村】宮崎縣日向國西臼杵郡の東北隅。五箇川の北岸に沿ひ高千穂町の東に接し、東は東臼杵郡に界し。全村山地をなし、東北隅には釣鐘山(一三九六米)の峻嶺聳え、東北隅は北方岩戸村と東臼杵郡との間に突入して、そこに鹿納山・日隠山等屹立す。中央に戸川岳(九五五米)、東南部に丹助嶽等聳居す。五箇瀬川は西及び南境を峽谷となして東南流し、東境の東臼杵郡との間の齋谷を南下する綱瀬川に入る。中央には日ノ影川の峽流ありて南へ貫流し五箇瀬川に合す。農を主産業とし農作七分、林業三分の割にて全戸数一〇二〇戸中、六五〇戸は農業に従事す。主産物は米・椎茸なり。五箇瀬川の峽谷に沿ひて縣道東方延岡市に至り川の便あり。明治十年西南ノ役の激戦地としてその名知らる。

【七折嶺(洞)】指定天然記念物。大字徳富にあり。時代未詳の粘板岩・千枚岩・砂岩の累層中に挟まれる石灰岩中に開口し本洞及び支洞の二部に分れ、總延長一四〇米に及び。數多の石鐘乳・石筍・石柱・石幕等の外に菊花狀をなせる方解石の針狀結晶の放射晶群を有すること、洞底に多量の粘土を堆積せることは、該洞窟の大部分が水を以て充填せられしことを證するものにして、石灰洞としては稀に見る現象とす。〔宮水神社〕大字宮水に鎮座。郷社。祭神、大山祇命。社傳に正親町天皇の天正十五年の勸請といふ。舊稱を北山大明神と稱し、村民崇敬の社たり。例祭、十一月三日。

【七尾山】日本北アルプス後立山山脈南方部の一峯。長野縣北安曇郡平村と富山縣上新川郡大山村の境上に峙つ。標高二五五一米。南側は大絶壁となりて高瀬川枝深不動澤に下る。故にこの山を不動澤の頭とも呼ぶ。

【七倉岳】日本北アルプス後立山山脈南方部の一峯。長野縣北安曇郡平村と富山縣上新川郡大山村の境上に峙つ。標高二五五一米。南側は大絶壁となりて高瀬川枝深不動澤に下る。故にこの山を不動澤の頭とも呼ぶ。

【七座村】秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鷹巣町の西方約六軒。西は山本郡に接す。村の西北境には海抜約三百餘米の山地連りて南方に傾斜し、西南境には七座山(二八七米)あり。米代川は村の南部を西流す。前山川は東北境に發源して南流し、米代川に合流す。村の南部に平地ありて米を産す。道路は中南部を東西に通じ、東方奥羽本線鷹巣驛、西方ニツ井驛へは各約七軒。バスの便あり。村名は村内に七座山あるにより起りしものなるべし。明治十四年、明治天皇山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。(七座神社)大字小繋に鎮座。縣社。祭神、國常立尊・宇比地邇尊・角織尊・大斗能地神外八神。創建年次詳ならざるも式外の社として早くより知らる。一説に齊明天皇の頃の創建と傳へ、聖武天皇の御代に諸國の大神に寺僧を置きて、國分寺神宮寺と稱し山伏をして奉祀せしめし名祠の一。爾來坂上田村麿を始め織田信雄・佐竹氏累代等尊崇し、近隣の諸侯もまた奉幣相踵ぐとの跡なりといふ。

【七郷村】茨城縣下總國猿島郡の東南隅。利根川の北岸にて岩井町の南隣にあり。東は北相馬郡、南は利根川を隔て、千葉縣東葛飾郡の一部と隣す。全村平地にて東境に菅生沼あり。農業行はれて米・小麦・大麦を産す。縣道岩井町に通ず。古くは和名抄、猿島郡石井郷の内とす。石井郷は平將門の鶴都の跡なりといふ。

【七越峠】高城山脈を南北に乘越す峠の一。大阪府東北部南嶺山村と和歌山縣伊都郡四郷村との境上に最高點(八三五米)を置く。

【七崎】美濃國(岐阜縣)の古地名。和抄名に大野郡七崎郷あり、いま本集郡に入り川崎村の邊なるべし。

【七里】埼玉縣武藏國北足立郡の東部。大宮町の東方約四軒にて、綾瀬川の西岸にあり。東は川を隔てて南埼玉郡の一部と隣す。全村平地にて水田・畑地あり。米・麥・甘藷・やまと芋を産し、また酒の製造行はる。大宮町より南埼玉郡岩槻町に通ずる縣道は北部を東走しバスの便あり。社線總武鐵道これに沿ひ、北部に七里驛(昭和四年設置)を置く。

【七里】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七郷村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片倉根山(七二八米)、西境に鞍掛山(七九三米)・黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・葉煙草・蕎麥・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國狭魂命。當社

ナナク——ナナサ

【七久保村】長野縣信濃國上伊那郡の南部。天龍川右岸の山地を占め、南は下伊那郡に、西隅は念丈ヶ嶽(二二九一米)を境に飯田市の北隅に界す。西部に木曾山脈の一部重疊し、東部には河岸段丘發達し北境を與田川東流す。伊那谷の略中央に位し、謂ゆる田切の地形を表はせる地方なり。山地には森林多く、東部段丘上は概ね桑園なり。養蠶を主産業とし、農業・林業これに次ぐ。東部段丘上を南北に社線伊那電鐵及び三州街道貫通し、前者の高遠原・七久保の二驛(大正七年設置)を置く。本村は町村制施行の際、片桐村外舊二箇村を合して置

きたるもの。村内に千人塚・上原於三の墓等あり。

【七倉岳】日本北アルプス後立山山脈南方部の一峯。長野縣北安曇郡平村と富山縣上新川郡大山村の境上に峙つ。標高二五五一米。南側は大絶壁となりて高瀬川枝深不動澤に下る。故にこの山を不動澤の頭とも呼ぶ。

【七座村】秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鷹巣町の西方約六軒。西は山本郡に接す。村の西北境には海抜約三百餘米の山地連りて南方に傾斜し、西南境には七座山(二八七米)あり。米代川は村の南部を西流す。前山川は東北境に發源して南流し、米代川に合流す。村の南部に平地ありて米を産す。道路は中南部を東西に通じ、東方奥羽本線鷹巣驛、西方ニツ井驛へは各約七軒。バスの便あり。村名は村内に七座山あるにより起りしものなるべし。明治十四年、明治天皇山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。(七座神社)大字小繋に鎮座。縣社。祭神、國常立尊・宇比地邇尊・角織尊・大斗能地神外八神。創建年次詳ならざるも式外の社として早くより知らる。一説に齊明天皇の頃の創建と傳へ、聖武天皇の御代に諸國の大神に寺僧を置きて、國分寺神宮寺と稱し山伏をして奉祀せしめし名祠の一。爾來坂上田村麿を始め織田信雄・佐竹氏累代等尊崇し、近隣の諸侯もまた奉幣相踵ぐとの跡なりといふ。

【七郷村】茨城縣下總國猿島郡の東南隅。利根川の北岸にて岩井町の南隣にあり。東は北相馬郡、南は利根川を隔て、千葉縣東葛飾郡の一部と隣す。全村平地にて東境に菅生沼あり。農業行はれて米・小麦・大麦を産す。縣道岩井町に通ず。古くは和名抄、猿島郡石井郷の内とす。石井郷は平將門の鶴都の跡なりといふ。

ナナサ—ナナタ

所蔵の元祿年間の鐘の銘に據れば、社頭もと堂山の遺址なりと云へば、恐らく本殿もこの寺内の一字なりしならん。社殿は桃山時代の剛健なる特色を傳へ國寶たり。

【七郷村】埼玉縣武蔵國比企郡の北部。小川町の東北方にて、間に八和田村を挟み、北は大里郡の一部と隣す。大部分低き山地をなし、東境に二ノ宮山(一三二米)あり。西境を荒川の支流市ノ川、東境を同滑川東南に流れ、その附近のみ狭き平地ありて、水田をなす。農業・養蠶行はれて米・藁・麥を産す。縣道は小川町及び東北方面谷市へ通じ、小川町には社線東武鐵道東上線及び省線八高線小川町驛あり。熊谷市へはバスの便あり。

【七郷村】岐阜縣美濃國本郡の東南部。北方町の東に隣し、岐阜市の西南方約三軒。東は稲葉郡に界す。濃尾平野の北部に位し、土地平坦肥沃にして水田多し。農業を主生業とし米・蔬菜を産す。社線名古屋鐵道の川部橋・又丸(共に大正三年設置)の二驛を置く。縣道南北・東西に通じ交通便なり。此地は和名抄、方縣郡村部郷の内なるべし。大字開田は清和源氏、木田氏の族、開田氏の居りし所なり。(若江神社)大字西改田、東改田入會に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二神。延喜式神名帳方縣郡二座の一。例祭、三月十五日。

隅。豊川の上流三輪川の左岸。東は静岡縣磐田郡に、東南は静岡縣引佐郡に、北は北設楽郡に、西は三輪川を隔て、南設楽郡に界す。赤石山脈の餘脈を負ひ全村五、六百米の山岳重疊す。平地に乏しく河岸に僅かの耕作行はる。養蠶・林業を主生業とし、藁・木材・木炭の産出あり、米も多少産す。河沿いに別所街道通じ、對岸に社線風來寺鐵道通す。本村は明治三十九年に高岡・井代・能登瀨・名號・名越・細川・陸平の舊七箇村を廢し新たに本村を置く。南設楽郡長峯村に跨りて馬瀬岩あり、いま天然記念物に指定せらる。↓長峯村

【七郷村】滋賀縣近江國伊香郡の南部。木之本町の南に接し近江盆地の北部を占む。北部に僅かの丘陵ある外は概ね平坦にして水田多し。農業を主とし米の産ある外に機織も行はる。縣道四通し、省線北陸本線の木之本・高月の兩驛に近し。此地古くは和名抄伊香郡伊香郷に當り、物部氏の祖伊賀色許命の族の河内國交野郡伊香郷より移住せし所といふ。伊香郡の郡家置かれし地なるより、中世は郡庄といへり。大字磯野は戰國の頃、江北の磯野磯野氏居城の地なり。

【七郷村】高知縣土佐國幡多郡の東部。土佐灣西南岸に位し、下田町の北方約六軒に在り。南は海に面し、東は白田川村に、西南は田ノ口村、北は山を以て富山村に界す。面積三七・〇二平方軒。北境を主生業とせり、近時相織物工場興りその産一〇〇萬圓を突破するに至り、次第に活氣を呈す。副業として農業・養蠶行はる。省線七尾線宇ノ氣・横山兩驛に近く、縣道通じ各部落を連絡す。

山脈は七百米前後の高さにて連互し、村内概ねその斜面に屬し高峻なるも、漸次海岸に向ひて低下す。海岸に平野展げ耕地存す。海岸線は砂濱にして平滑、漁業繁落を見ず。南部平野を東西に縣道通じ中央は早崎の繁落にて北方に分岐す。バス通じ交通便なり。村民の大部は農に従ひ頗る良質の米を産し、また麥・養蠶・繭を出す。

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半圓を以て狭がれる部分と、その西南部なる七瀧川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には膳棚山(一〇一〇米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發荷峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀧川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部から南に延び毛馬内町と小坂町へバス

羊を遊ばし農師の小屋ありたるに因りて小屋山の別名あり。

の便あり。十和田湖畔へは毛馬内町よりバス通す。大字上向は十和田湖國立公園の内にて、十和田湖と奥入瀬溪流は本村青森縣及び青上北郡十和田村にあり。名勝、天然記念物に指定さる。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。緑川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀧あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・麥・豆・藁等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西方御船町と東方濱町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀧あるを以て村名とすと云ふ。七瀧は落口に突出する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀧ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】新潟縣越後國中蒲原郡の西南隅。信濃川の支流加茂川の支流を占む。西より南へかけては南蒲原郡に界し加茂町の東南隣をなす。南境・西境は越後山脈の一支脈連互し、東北部には白山(一〇二米)其他の山岳聳え、東へ仙見谷川、西北へ加茂川を源流す。西北部最も低く二百三十米の丘陵をなし河岸には多少の平地あり。農業・林業を主とし、米の産第一に木材・薪炭。

ナナツ 七・七七

【七ツ森】七峯(宮城縣)の別名。福島縣南會津郡荒海村と檜澤村との境上に位す。標高一六三六米。北斜面より檜澤川發源して北東流し、南方より荒海川源流して北東流し、檜澤川と合流す。南西方は西流する館岩川の水源地なり。

【七ツ峰】赤石山脈の一支脈に屬する一峰なり。大井川の左岸、静岡市の北東方二六軒前後、静岡縣安倍郡大川村と志太郡東川根村との境上にあり。標高一五三三米。山體は秩父古生層より成る。南東方は安倍川の一分支科川の源流地にして南東流し、西麓には大井川長蛇の如く南流す。

ナナツイシ 七ツ石山

關東山脈の一峰。多摩川の左岸、東京府西多摩郡米川村と山梨縣北都留郡丹波山村の境上に峙ち、標高一七五七米。この山より北方の小雲取を経て雲取山(二〇一八米)へは防火線通じ、縱走面白し。山麓には七ツ石神社鎮座す。

ナナツカ 七塚

【七塚村】石川縣加賀國河北郡の西北海岸。高松町の西南に接す。加賀海岸砂丘の一部を占め、聚落は海岸に散在し漁業

ナナツガマ 七釜村

長崎縣肥前國西彼杵郡の北部。西彼杵半島の西北岸に位し、東南部に僅に瀬戸町東北隅に接す。全村山地重疊して東境に小松嶽・白嶽等あり。東北境に源流する小河中央を西南流す。海岸は多く斷崖をなし西北部には呼子ノ鼻あり。西南岸は小屈曲に富み一衣帯水を隔てて南北に細長き名串島前面に横はりて風景佳し、主生業は農業にして米・蔬菜等を産す。西部に縣道南北に走り、自動車を通ずれど其他は一般に交通不便なり。この地は要塞地帯の一部に屬す。村に鍾乳洞ありて、七釜鍾乳洞といふ。全長五〇〇米。洞穴は丘陵の中央部に位置し、入口は北面して高さ一・八米、幅一・五米の結晶片岩より成り、洞口の前には洞底より清水湧出して、溪流を成す。

【七塚】庄原縣の一驛(大正十二年設置)。廣島縣比婆郡山内東村にあり。

ナナツコヤ 七ツ小屋山

越後山脈清水山塊の一峰。清水峠(一四四八米)の西方に續く山。群馬縣利根郡水上村と新潟縣南魚沼郡土樽村の境上に位す。標高一六七五米。緩徐なる山容を存し、上部は一面熊笹に覆はる。曾てこの山に鈴

ナナトリ 七取村

三重縣伊勢國桑名郡の東北端。揖斐川下流の西岸に沿ひて、南は桑名市北郡と野代・深谷二村を隔て、西北は岐阜縣海津郡石津村に、東北は揖斐川を隔て、同大江村・西江村に界す。面積僅に五・七方軒餘。土地極めて低平にして至る處乾田をなし、米を主とし麥・鶏卵・鶏等を産す。急急行電鐵養老線の多度驛(西隣多度村内)に近く交通不便ならず。

【七塚村】山梨縣甲斐國北都留郡の中西部。上野原町の西約七・五軒、西は東山梨郡神金村に接す。面積一一〇・六二方軒の本郡第一の村。東境に権現山(一三二二米)・扇山(一一三九米)あり、西部に小金澤山(一九八八米)・姥子山(一五一四米)の二千米に達する高山あり、中

ナナホ 七保

【七保村】山梨縣甲斐國北都留郡の中西部。上野原町の西約七・五軒、西は東山梨郡神金村に接す。面積一一〇・六二方軒の本郡第一の村。東境に権現山(一三二二米)・扇山(一一三九米)あり、西部に小金澤山(一九八八米)・姥子山(一五一四米)の二千米に達する高山あり、中

ナナタニ 七谷村

新潟縣越後國中蒲原郡の西南隅。信濃川の支流加茂川の支流を占む。西より南へかけては南蒲原郡に界し加茂町の東南隣をなす。南境・西境は越後山脈の一支脈連互し、東北部には白山(一〇二米)其他の山岳聳え、東へ仙見谷川、西北へ加茂川を源流す。西北部最も低く二百三十米の丘陵をなし河岸には多少の平地あり。農業・林業を主とし、米の産第一に木材・薪炭。

【七保村】三重縣伊勢國度會郡の中部北偏。宮川中流の南岸に位し北西は川を隔てて多氣郡川添村・三瀬谷村に對す。面積六四方軒餘あるも西境の淺間山(七三四米)・南境の三谷山、東境の獅子ヶ鼻の西嶺等による山地にて、平地に乏しくただ宮川の岸と中部を北流する支流の谷に巾狭きものあり。米・藁・麥を産し山地は木材・薪炭の産多し。村道は四圍の各町村と結び、また省線紀勢東線原野・川添驛(共に川添村内)に近きも、交通なほ便ならず。

ナナヤマ 七山村

佐賀縣肥前國東松浦郡の東北部。香振山脈西部の南斜面を占め、唐津灣津波崎町の東方約三軒にあり。東は小城郡に接し、北は山脈を隔て、福岡縣糸島郡に界す。全村山岳を繞らし、北境には羽金山(九〇〇米)・女獄

ナナツ—ナナヤ

ナニワ——ナニワ

(七四九米)・浮岳山(八〇五米)・十坊山(五三五米)等連なり、西南境に「椿山(七六〇米)」聳え村内山嶽重疊す。東境に源流する玉島川中部を西流し、沿岸西部に、僅かに耕地拓く。米・蕎麥等を産す。玉島川に沿うて濱崎町より東南方佐賀市へ通ずる道路走り、西方四軒餘に省線筑肥線の濱崎驛あれど、交通概して不便なり。古くは和名抄、松浦郡大沼郷の内なるべし。大字湊川に觀音ノ瀧あり。高さ四六米、巾四米。その瀧の上に觀音堂あり。瀧ノ觀音とて秋季彼岸中日には近郷よりの參詣者頗る多し。

ナニワ 七和

【七和村】 青森縣陸奥國北津輕郡の東南部。五所川原町の東南約八軒。東と南は東津輕郡に接す。東境に梵珠山(四六八米)・鎮撞堂山(三一七米)あり、西南方に傾斜し、村の西南部は津輕平野に屬して平坦なり。前田野目川は東北部に發源して西南に流れ十川に合す。十川は村の西南境を西北に流る。山麓には所々に池沼あり。米・林檎を産す。道路は村の中央部を東西に通じ、西方の五能線五所川驛、東方の奥羽本線大澤驛へは、各バスの便あり。〔松倉神社〕大字前田野目に鎮座。郷社。祭神、大山祇命外二神。社傳に當社は大同二年に坂上田村麻呂の再建といふ。例祭、七月十七日。【七和村】 三重縣伊勢國員神郡の東南部。東境の北中に桑名市西北部に、南半

ナニワ 七二會村

長野縣信濃水上内郡の南部。犀川の北岸に沿ひ南は川を隔て、更級郡に界す。北境には陣場平山(二五八米)聳え南に傾斜し、全村丘陵性にして平地に乏し。養蠶農業を主生業とし、蕎麥・米・麥・大豆を産す。南部河沿に縣道通じ、長野市へ約九軒にてバスの便あり。〔守田神社〕守田に鎮座。郷社。祭神、守邊神外五神。日神によれば、守邊神は當地開拓の神なるを以て地主神として祭り、天平元年に

ナニワ 浪速

【難波・浪速】 今の大阪地方の舊稱。神武天皇御東征の時、瀬戸内海より東に進んで御船の地に到り、更に流れに遇つて河内に進まると、浪速かりしが故に「浪速」と稱し、後に「ナニハ」と訛ると傳へらる。この地は古今甚しく形勢を異にし、今の大坂城のある上町一帯の丘陵以西は、近く三四百年前までは殆ど海面に没し、その東にも古くは入海が深く灣入し、謂はゆる難波江を成せり。蓋しこの上町の丘陵は南方より北に延びて内海の口を擁し、謂はゆる難波崎を成せしかば、淀川・大和川・河内川等より流下する土砂が、漸次その入海に堆積して處々に砂洲を造り、その數甚だ多かりしために、難波の八十島の名と呼ばれしほどなりき。またその夥しき砂洲の附近には蘆荻叢生して難波江の景物をなし、難波の蘆の名は常に落穂とともに古歌に讀まる。然るにその八十島も次第に發達して遂に一續きの陸地となり、今の大坂平野をなせり。難波津は海路の要津として古くより必要の地となり、殊に三韓我國に屬して海外との交通、漸く開くに及びては、益々その用途を加へしものと見え、應神天皇に既に難波の大島に難宮

れをなし、和氣貴賤がこれに倣はんとし、失敗せしものなり。難波の堀江即ち堀江川が出來しものは、もとの淀川の本流は長柄川と呼ばれ、却つてその支流の如き形となり、ここに古く有名な長柄の橋が架してあり。孝徳天皇の大化改新の際して都を難波に遷し、これを長柄の豊埼宮と呼ぶ。その皇居は恐らく今の長柄の地にありしものと思はる。〔難波京〕孝徳天皇の皇居。天皇は大化改新の際して交通不便にして且つ傳統の力の強き大和の地を離れて都を難波に遷し給ひ、これを長柄の豊埼宮と呼ぶ。此の皇居の位置に就きては諸説あるも、唐都長安を模せる新式の都城なりしなるべく、その位置は凡そ今の大阪市東淀川區の南部より淀川以西の北區の地の邊にありしものなるべし。長柄も豊崎も現に東淀川區に地名に遺る。この宮の地にはのち奈良時代に至りて難波離宮が設けられしは、伊呂波字類抄に引用せる古文に「豊前宮坐攝津難波長柄、今造離宮是也」によりても明かなる如く、豊崎の故宮を用ひ給ひしものならん。書紀、大化二年の條に始めて京師を修む、凡そ京は坊ごとに長一人を置き、四坊に令一人を置くことを見ゆ。都城内に於て各條ごとに四坊を置ける事は爾後の藤原京・平城京・平安京みな然らざるなし。さればこの豊崎宮は實に唐制を模して造營されたる最初の京と云ふべ

ナニワ——ナニワ

と。長柄の豊崎宮が白雉三年に至りて工事殆ど成り、其壯麗を想はしめしが、天皇の崩御によりて宮は僅に七年にして廢せられ、都は再び飛鳥に復せらる。天武天皇の御代八年に至りて再びこれを改修し、防備を鞏固にするため難波の京を周りに難波を設け給ひしこと書紀に見ゆ。蓋し天皇は此處に都を遷さんとせられしも飛鳥京の勢力の反對によりて遂に其の具現を見るに至らず、僅に帝都の一として難波京を指定し給ふに過ぎざりき。しかして此の宮は一旦炎上せしもまた復興成り、天武天皇・元正天皇・聖武天皇等は數回この宮に行幸あり、殊に聖武天皇は藤原宇合を知造難波宮司に任じて大いに造營の工を起し給ふ。昔こそ難波田舎といはれけり今は都とそなはりにけり」と詠める宇合の得意の歌は萬葉集・三に見ゆ。天皇は天平十六年に一旦此處に都を奠め給ひしが久しからずして再び平城に復し給ふ。これが爲に攝津の國は大化以來引續き國司を置かず帝都に準じて特に攝津職を置きてこれを支配せしむる例たり。然るに桓武天皇は都を長岡に移し給ふに及びて攝津職を廢して攝津國となし、諸國と同一の行政廳を置く。ここに至りて難波の京は名實共に永久に廢せらるるに至る。

【難波堀江】 仁徳天皇の難波に開かせ給ひたる水路。天皇十一年詔して曰く「今朕この國をみるに、郊澤曠遠にして田園少なく、且つ河水横に流れて流木早からず、此が霖雨に遇へば海潮溢に上り、巷里船に乗り、道路泥す。故に群臣共にこれをみて、横源を探り海に通じて流木を塞ぎ、以て田宅を全ふせよ」と。かくて宮北の郊原を掘りて南水を西海に入る。よつてその水を名づけて堀江といふとあり。これは今の大阪舊市内を流るる天満川に當るものにて、その以前は南水、即ち大和・河水の諸水を集めし河内川が、北に流れて淀川に注げり。これによつて自然水の疏通悪く洪水の被害多かりしために、その害を除かんとしてこの堀江を掘らしめたり。これより淀川の水は却つてこの堀江に流れこみ、これが淀川の本流の如き形となれり。いはゆる堀江川なり。欽明天皇の十三年百濟王の佛像を獻するや、蘇我大臣稻目これを信ぜんと請ひ、物部大連尾與、中臣連鎌子これに反對し、遂に佛像を難波の堀江に流し棄て、火を寺に放ちてこれを焼き盡せり。また敏達天皇の御代にも物部守屋が、中臣勝海と共に蘇我馬子の佛法信仰に反對し、寺塔を焼き、佛像を難波の堀江に投ずるとあるも、共にこの川のことならん。俗説或はこの佛像を投棄せし難波の堀江を以て、大和の飛鳥地方にあるものの如くにいふは、もとより取るに足らず。但しこの佛像投棄は、實は前後二度に行はれしものにてはなく、法王帝説の裏書に

を設け給ふ。ついで仁徳天皇は上記の上町丘陵の北端、恐らく今の大阪城の地に難波の高津宮を營む。當時淀川は東北より來りて今の新淀川の流路を取りて海に注ぎ、また河内川は大和川の水を合してこの丘陵の東に沿つて北流し、淀川に合流せり。然るに上砂の堆積によつて河口が次第に淺くなりしため、流水の疏通悪く、霖雨の際には河内川の水逆流して附近の田園を没し、その被害甚しく、これによつて天皇は命じて宮北の郊原を掘らしめ、南水即ち河内川の水を西に向つて直ちに海に注がしむ。謂はゆる難波の堀江なり。これがために附近は洪水の氾濫より免れしのみならず、淀川の流水は、この河内川下流の水路を逆流してこの堀江に注ぎ、難波の堀江川と呼ばれて遂に淀川の本流の如き形勢となり、難波の地理一變するに至れり。然るにそれも年を経るとともに川尻に土砂が堆積して、再び水の疏通が悪くなりしため、延暦七年和氣清麻呂攝津職の大夫のとき、荒陵即ち今の天王寺の南に於て上町丘陵を横斷する水路を造り、以て南水を直ちに海に注がしめんと試みしが、工事困難にて二十三萬人の人力を役して遂に完成せず、爾來河内の平野には洪水の慘害甚しく、元祿年間に新大和川を開き、大和・河内の諸水を今の堺市の北にて海に注がしむるまで、この洪水の被害は繼續せしむるなり。新大和川は嘗て仁徳天皇が、こ

抄に風早郡難波郷あり、その地今の温泉郡難波村・淺海村の邊に當る。

ナヌカイチ 七日市村

鳥根縣石見國鹿足郡の東南部。津和野町の東南約一〇軒、東北は美濃郡見上村に隣接す。西南より東北に細長く約一八軒、面積六三・二六方軒。西北境に安藏寺山(一二六三米)・香仙原(一〇五六米)・彌十郎山等連り、東南境にも築山(一〇〇七米)等の千米内外の山嶺あり、西部にも鈴ノ大谷山(一〇三六米)あり、中部を吉賀川の上支北流し、東北境山地に發し西南流し來る小川を大字七日市にて合す。比較的高山に圍繞されるも河川流域にやや廣き低地ありて盆地状をなす。米を多産し用材・木炭を出し清酒も醸る。縣道は河川に沿うて走りバスを通ず。中世、吉村莊の内に屬す。

ナヌカマチ 七日町

福島縣若松市の町名。會津線の七日町驛(昭和九年設置)あり。

ナノカイチ 七日市村

秋田縣羽後國北秋田郡の中部。鷹巣町の西南約六軒。面積一三七・三五方軒。東南境に龍ヶ森(一〇五〇米)・小繋森(一〇一〇米)・南境に高島帽子山(七六四米)・石倉山(五七〇米)ありて西北方に傾斜し、小繋部川は東南境に發源して西北に流れ、東境より奥見澤、西南部より品川川を合し、坊澤村に於て米代川に合す。全村概ね山地にて、東南部は仙石澤岡有林な

り。小猿川沿岸には耕地拵け、米・木炭を産す。道路は西北部を南北に通じ、西北方奥羽本線鷹巣驛へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき二四人。村名の起原に就き傳説あり、昔、當村に長岐なる人(南部の臣)あり。或時、嘉成右馬頭(本郡の阿仁城主にて、南朝の忠臣葛西清重の後裔、城は米内澤にあり)に使用する中、此地を横きり、この村他日よき村になると信じ、後日、主より暇を請ひ、七日を費して此處に至り、終に住居と定めしより七日市と稱すと云ふ。

ナノカマチ 七日町村

新潟縣越後國刈羽郡の東部。東は北魚沼郡小千谷町に隣接す。東部には三百米内外の小山嶺南北に連り、西に緩やかに傾く。西境には澁海川が北流し、流域は小國郷の一部なる低地にして田畑開く。米作を主とする農業にして、冬季は積雪多く戶外労働は不可能となるを以て出稼に出る者あり。他の町村に通ずる幹線街道なく交通便ならず。人口は僅少なる増加を示すも昭和十年の人口は八九六人なり、而して面積四・三五方軒の小村なるにより、一方軒密度は二〇六人となり、全國平均の一八一人より多し。

ナノカワ 名野川村

高知縣土佐國吾川郡の西南隅。仁淀川上流左岸の山中に在り、高國郡越智町を距る西方約一二軒なり。西は中津山(五四一米)の連峯を以て愛媛縣に界し、東北は池川町、

東は大崎村に接し、南は川を隔てて高國郡に對す。面積五〇・三一平方軒。高峻なる山嶺地帯を占め、北境に一二二六米の國境山脈連り、南境を仁淀川東流し沿岸に深谷を作る。支流なる名野川は中部山間を東流し東南にて本流に合す。附近に縣營の仁淀川發電所あり。縣道は南境を川沿ひに通じ、松山市・高知市にバス通ず。村内養蠶業行はれ、また楮・三極・酒類・醬油・米・麥・木材・淡水魚の産あり。大字下名野川の村社二所神社境内に、いちひ樫の巨木あり、地上一・三米、周圍一〇米、樹高二二米、推定樹齡は約五百年にして、此種の代表的巨樹と稱せらる。(菜野川神社)大字名野川に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。日碑に據れば、昔時、菜野川寒神の城主片岡上總守の嫡子同前左衛門尉光綱の勸請なり。附近二十八ヶ小村の崇敬神にして、當村の産土神たり。例祭、六月十五日・十一月十五日。

ナノクニ 倭國・奴國

筑前國精屋・筑紫・早良の諸郡に互る地方の古地名。日本書紀、仲哀天皇紀に熊襲御親征の際、倭國に至り櫛日宮に在ますといふ記事あり。倭國は即ち、倭國にて、櫛日はいま香椎に作り精屋郡中に現存す。また宣化天皇紀に屯倉を那津に造らしむとあり、齊明天皇紀にも那津の名出づ。天皇はこれを長津と改め給ふ。これ等の那津は都に何れも呼ばず、倭國の津津

ナノニシ 名西(郡)

↓名西郡(徳島縣)

ナハ 那波

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に甘樂郡那非郷あり、その地今の安藝郡奈半利町・田野町・北川村の邊に當る。

ナハ 那覇

沖縄縣の首都。沖縄島の西南隅に在り、東は島尻郡眞和志村、南は小祿村に接し、西方一帯は海に面す。面積五方軒強、人口は約六萬五千にして本縣人口の一刻以上を占む。市の大部分は隆起珊瑚礁上にあり、東方は第三紀層より成れる丘陵地に在り、南部には國場川、鴨波川の河口が北水として生ずる那覇灣が

東南に侵入し、灣内には奥武山島等を冠す、北はほぼ安里川によつて限らる。外海に面する部分には崖壁發達し、中部の波ノ上附近には石筋崖あり、その東方には鹽田(約二〇ヘクタール)發達す。那覇灣は隆起珊瑚礁、及びその基底の地層を浸蝕して生ぜし谷の沈水によりて成れるものにて、國場川等より注入する淡水のため樹産の發達遅く、狭長なる水道を残せしが、近年これを改修して第一・第二兩棧橋を建設し、今は三十四噸級の汽船を繋留し得るに至れり。灣口には三重城とヤラザ城と相對して關門をなし、三重城には燈臺設けらる。港の西岸丘上に中央氣象臺沖繩支臺ありて電力十キロワットの無線電信を裝備し、一日六回氣象實況並に警報を放送し、颱風等の發生に際しては、その中心示度・進行方向・速度・位置等を刻々放送して、日本近海一帯に航海中の艦船に警報を與ふ。同所の觀測による昭和十年中の計数を摘記するに氣温は平均二二・〇度、最高三一・五度、最低一〇・〇度、湿度八一、日照時四七％、降水量は總量二二六九糎、その最大日量一〇一糎、また風速は平均五・五米、最大二七・三米、快晴日数は一二日、降水日数二〇八日なり。産業は工業を第一とし、牧畜業・水産業・農業等これに次ぐ。工業は織物・夏帽子・陶器・漆器・泡盛等いづれも著はれ、砂糖工場以外の諸工場は殆どみな當市に集中すと

いひ得べく、水産に蟹・鮫・魚・食鹽等あり。商業は古來海外貿易の要地たりしがいま縣内物産の集散地たると共に、縣下唯一の開港たる那覇港によりて鹿児島・神戸・大阪はもとより臺灣・福州・香港等との間に交易行はる。但し後背地の貧弱なると、運輸費の關係等により貿易額は著しからず、且つ輸入に比し輸出は極めて少なし。最近の輸出入額を表示するに次の如し。而して輸出品は砂糖(黒糖・分蜜糖・白下糖)・水産物・帽子・絹糸布・泡盛等を主とし、重要輸移入品には米・絹綿布・金物・煙草・肥料・大豆・石油・茶等ありて日用必需品の各種に互り、從つて殆ど一方的貿易の觀あり。縣營鐵道は下泉町の那覇驛(大正三年設置)に起り、南郊の古波藏驛(眞和志村)を経て一は與那原、一は嘉手納に至り、別に棧橋荷扱所(大正六年開業)へ支線を出すほか、棧橋より市街を縫ひて首里市へ電車を通じ、其他、名護・糸満等へも乗合自動車の便あり、海上は鹿児島・阪神(直航)・臺灣・大島等の間に定期航路

Table with 3 columns: Year (昭和六年, 七年, 八年, 九年, 十年), Output (輸出), Input (輸入). Values are in thousands of yen.

ひらけ、交通便利なり。市街は那覇灣の南北兩岸に發達するも、那覇アロバは北岸に在り。主なる官公衙に縣廳・地方裁判所・區裁判所・縣警司令部・稅務署・税關支署・鹿児島專賣局出張所・營林署・無線電信局・中央氣象臺支臺等、其他縣立病院・縣立師範學校・女子師範學校・水産學校・縣立圖書館・日本勸業銀行支店等あり。市中最も繁華なるは見世の前通りにて、此處を中心に商舖櫛比し、西新町及び西本町には旅館・砂糖問屋・自動車會社等多く、若狭町に漆器製造の、壹屋町には陶器(琉球球・泡盛容器等)製造の家多く並び、市場は東町に集中す。「三重城」那覇港の北端にあり、入江を隔ててヤラザ森城と相對す。この兩城は共に尚清王の時代、倭寇を防禦する爲に築きし砲臺にて、いま小遊園地となる。三重城燈臺(明治三十三年設置)あり、燈臺は不動白光(紅光分氣)にして、光達一哩なり。「久米村城」久米町にある舊城址。慶長十四年島津氏の軍當城を攻むるや、城將鄭道は防戦して敗れ、遂に降る。「奥武山公園」港内の島にあり、明治三十四年東宮御成婚記念として開設。北面して大クラウランドあり。西端は御物城址にして、もと海外貿易の物産を蔵むる公倉たり。「波上宮」若狭町に鎮座。官幣小社。祭神、伊弉諾尊・事解男命・速玉男命。往時、崎山子なる人この海岸にて漁せしに、一靈石あり、神託

を指せしものなり。倭國は支那の書物には奴國と稱す。即ち後漢書・東夷傳に光武帝の中元二年に倭奴國朝貢し、光武帝がこれに印綬を賜ふと見ゆ。天明四年に筑前の志賀島より掘り出せし金印の文に、「漢委奴國王」の五文字あり。委奴は即ち「倭」ならんといふ説あるも非なり。蓋し委とは倭と同じ意にて、我が日本を稱したるもの、奴國とは即ち倭國と同じなり。これ後漢書にある如く、倭國人が私に支那に入朝し、後漢の光武帝より金印を受けしものならん。

して那覇現なる事を告ぐ。即ち王に請ひて此地に祀る。のち尚清王の時、嘉靖年中に日秀上人は自ら三社權現の本地なる彌陀・藥師・觀音の三尊を刻す。同十八年尙豐王、神應寺の住持頼慶和尚を日本内地に遣して垂迹の三尊を求めしむ。其時、祝部の一人和尚に隨ひて鹿児島に至り佐藤權大夫に就きて神道傳授し、和尚と共に還りて當社を再興す。舊時は護國寺の鎮守なりしも、琉球八社中の最上位にあり。然るに明治二十三年内地に準じて神佛分離に際し同年一月二十七日官幣小社に列せられ、同時に熊野神社に則り右三祭神を宮内省より奉遷す。舊制を改め宮司・禰宜・主典を置き、その維持費は國庫の供進と基本金の利子を以てす。社寶中、銅鐘一箇は國寶に指定せらる。顯徳三年在銘の朝鮮鐘にして寛永年間近海より浮び出でしと云ふ。例祭、五月十七日。波上は方言ナンミンと稱し、周圍の珊瑚礁と慶良間の馬齒山の風光とを併せ眺望雄大ななり。古來、觀月涼納の名所として著聞し、また海水浴場たり。「尙家靈廟(崇元寺)」崇元寺町にあり。通稱靈德山崇元寺として知らる。此廟は、舜天王以下歴代國王の神靈を祀る所にして國廟の稱あり。其創立は宣徳年間の尙巴志王代と云ひ、或は成化年間尙國王代とも傳ふるも未だ確證なく、門前に「嘉靖六年(我が大永七年)丁亥七月二十五日」の記年ある下馬碑あるにより

その以前の創立なることを察知し得るのみ。第一門は三口の拱孔を貫通せる大なる直方體形の石門、また左右掖門は各一口の拱孔を開ける小なる直方體形の石門にして、一室の間隔を保ちて一直線上に並列し、其間を連結するに厚き石階を以てするのみにして、概形一見單純素朴なる如きも、仔細に觀察せば各直方形の大さ並に其等の長厚の比例よく整ひ、且つ實體と空孔の權衡よろしきに適ひ、洗練熟達せる意匠に成りしものなる事を知り得、之等より考ふれば尙圓朝初期(約四五百年前)頃の築造ならんか、特にその石垣は琉球獨特の頗る堅牢なる石積法に依る。本堂は歴代諸王が當寺に於て一代一度の親祭を行ふに當り加修し來りたるものなるが、殊に清の順治十六年(我が萬治二年)尙質王の修築は大規模にして現在の建築材料は多く此時の補修の如し。其後、康熙二十一年(我が天和二年)に從來の薄板葺なりし廟寢の寢根を瓦に改葺せり。尙ほ現在本堂の軒先の瓦下方に柿葺の軒付残存するが、恐らく康熙改葺前の柿の遺材の一部ならん。建築の外郭は總て黒塗とし格子窓等隨處を赤塗とするのみにて、外觀簡素なるも内部は之に反し内陣柱には金龍を畫き壁の後壁に於ける柱を春慶塗とし、其他、壁面・天井面等に至るまで豊麗なる彩色色の繪畫及び模様の畫き目も絢爛なるものあり。更に建築體形に入母屋の立所深く屋根の傾

斜緩かにして低平安定の觀を呈し、内外共に恰も藤原時代の古建築を見るが如き趣致を表はす、國寶たり。廟内に一の古欠あり、土人傳へて鎮西八郎爲朝の遺物なりといふ。(護國寺(波上寺))若狹町にあり。眞言宗東寺派。波上山と號す。明代の初めに日本僧頼重來りて本寺を創す。古くは玉の祈願寺たり。舊寺領五十石。鎮守に熊野權現を祀れる波上宮ありしが、明治二十三年兩者分離して波上宮は官幣小社となれり。境内に沖繩唯一の天滿宮あり。また匈牙利の醫師にして當寺に住し貧民の救療に盡し琉球語の聖書翻譯をなし、一八五四年ベルリの船にて渡米せるベッテルハイムの記念碑、明治四年宮古島實船が歸島の際暴風に流され臺灣東岸に漂着、生蕃に殺害されし五十四名を祀る臺灣遺難者之墓あり。寺の東に天宮廟あり。(眞教寺)西町にあり。眞宗大谷派。明治七年東本願寺僧小栗栢香頂が支那開教に赴きしが、その途次に沖繩布教の等閑視すべからざるを知り、同九年田原法水を渡航せしめて布教に従事せしめしが、當時、琉球一國は薩藩の眞宗嚴禁の法を遵守せしより布教頗る困難を極めしが、明治十一年遂に説教所の設立を見、現寺の基礎を固む。(臨海寺(沖寺))住吉町にあり。眞言宗東寺派。梵鐘の銘に天順三年(長祿三年)鑄造の事見ゆれば、古刹たるを知るべし。歴代王家の祈願所。もと沖宮の別當寺にして寺

鎮三十石を有せり。

【那覇港】 ↓那覇市

ナハ 難波 讚岐國(香川縣)の古地名。和名抄に讚川郡難波郷あり、その地は今の大川郡松尾村・富田村・五名村の邊に當る。

ナハ 那波町 兵庫縣播磨國赤穂郡の東南部。奥深く突入せる相生灣頭に位し、南は相生町に、西南は坂越町に接し、東北は揖保郡揖西・神部二村に界す。東北より西南にやや細長く、面積約一五・八方軒。全村二百米内外の丘陵性山地起伏し、中央南部の相生灣頭附近と東部とに低地開く。米・麥・蔬菜・食用農産・果實・鶏卵・繭等の農産、瓦・木製品・薬製品・履物等の工業を産す。國道(山陽道)東部を横ぎり、縣道これより分岐し相生灣北岸を経て坂越・赤穂に向ひてパスの便あり、省線山陽本線また國道を並走し、那波驛(明治二十三年設置)を設く。

ナハキ 南白龜村 千葉縣上總國長生郡の東北海岸。茂原町の東北約七軒、北は山武郡白里村に接す。九十九里濱の一部海濱にて、海岸一帯は砂濱をなすも他の殆どは土地低平、南白龜川は南境を東南流し灌漑の便よく水田發達す。米の裏作に麥を多く作り養蠶も行はれ、庭の産物も多し。また本村は牛農漁にして、繭・蠶等も多く、海岸には濱宿納屋・牛込納屋・刺金納屋の漁業營業あり。街道は

に由りて發達す。村道は黒磯町に通じ、同町に省線東北本線黒磯驛を置く。古くは和名抄、那須郡黒川郷の内なるべく、近世は奥州路の小驛とす。鍋掛は鍋を掛けるの義にて一家を建てたるの意。鎌倉時代の末頃、武人の土着し家屋を建て謂はゆる鍋を掛けたるより土地の名にも呼ぶに至りしものなりと。水谷家記に據れば慶長五年徳川家康、秀忠と共に上杉景勝を征伐する際、佐竹右京大夫義宣その隙を窺ひ江戸に攻上らんとせしを、水谷勝後この地に陣して、義宣の兵に備ふと見ゆ。明治九年明治天皇皇弟御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休遊ばさる。

ナハカムリ 鍋冠山 日本北アルプスの一峰。大瀧山(二六一五米)の東、長野縣南安曇郡烏川村と安曇村との境上に位す。犀川一支の烏川と梓川一支の烏谷との分水嶺をなす。前者は北斜面より東流し、後者は南斜面より南流す。夏季、北西方の常念岳より大瀧山を経て縱走する者あり。

ナヘコシ 鍋越山 飯豊山塊の一峰。山形縣南置賜郡中津川村と西置賜郡津川村の境上に位す。標高二二六九米。

ナヘシマ 鍋島村 佐賀縣肥前國佐賀郡の西部。佐賀市の西北に隣り、西は小城郡三日月村に接す。嘉瀬川は西境を南流し全村土地低平、筑後平野の西部に位し水田よく發達す。米・麥の外に蔬菜

中部を通じパスの便あり。此地は近世に一ノ莊南白龜郷と稱せし地なり。

ナハシ 名橋 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に佐位橋名橋郷あり、奈波之と訓じ、有「桐原牧」とあり。その地今の山田郡大間々町の邊なるべく、大字桐原は牧名の遺稱なるべし。

ナハリ 隱・名譽 伊賀國(三重縣)の古地名。書紀孝德紀には名譽に作る。天武天皇の元年紀に隱驛と見え、萬葉集にも隱の山あり。隱山は名譽郷(いま名賀郡)の山にして、驛址はこれを今の阿山郡上野町の邊に求むべきか。萬葉・四「吾背子は何處行くらむ奥つ藻の隱の山を今日かこゆらむ 富麻呂之妻」

ナハリ 名譽 飛騨國(岐阜縣)の古地名。和名抄に荒城郡名譽郷あり、その地今の吉城郡國府村に當る。

【名譽(那)】 伊賀國(三重縣)の古地名。孝德天皇の大化新政に畿内の境を定め給ふ時、名譽河を以て東を限る、とある地にして天武紀の三年には隱の名出で、續紀天平十二年紀に名譽の郡名初めて見ゆ。和名抄は奈波利と註し周知・名譽・夏身の三郷を載す。明治二十九年四月伊賀郡と合して名譽郡と稱す。

【名譽町】 三重縣伊賀國名譽郡の西南部。名譽盆地の中心に位置し、阿山郡上野町の南方約一六軒、西隣は山地を隔てて奈良縣山邊郡と接す。面積僅に三・二九方

軒。長瀬川南境を西流し、東南方の奈良縣宇陀郡より來る宇陀川と合して名譽川となり西部を貫き北境の東宇を東流す。町はこの二川の作る盆地の中心を占め、土地平坦にして田地よく拓け、米・繭・麥・茶・鶏卵等の農産の外、工業また多し。名譽街道中央を西南より東北に貫き北方上野町へ向ひ、大和街道は東北方阿保町を経て東境を越え、津市に向ふ。社線參宮急行電鐵通じて名譽驛(昭和五年開業)を置き、またその支線伊賀線本線の伊賀神戶驛より分岐し來りて八丁。西名譽の二驛(大正十一年開業)を設け、交通上の一中心地をなす。和名抄に名譽郡名譽郷と云ふは本町の邊を指せるものならん。然し延喜式に隱驛家とあるは今の上野町邊ならんと云はる。中世は梁瀬莊に作る。慶長の初め筒井氏の將松倉重政八千石を領し、梁瀬城を築き之に居りしといふ。藩政の頃は藤堂氏の支府を置きし處。郡制實施に當り郡役所の所在地となる。(宇流宮志願神社)縣社。祭神、宇奈根神・武甕槌命・經津主神外三神、別に相殿三神。天武天皇二年始めて祭禮を加へ主田を奉じ、同四年八月十七日放生會を行ふと傳ふれば、その創建年代詳かならざるも古社なるを知るべし。延喜の制小社に列す。源頼朝は神田百六石を寄進す。天正年中織田信雄の兵燹に罹り爲に社運傾けるも、藤堂高吉の入都に依りその崇敬厚く神事を再興す。例祭、十

月二十一日。
【名譽川】 奈良・三重・京都の一府二縣を流る川。淀川の支流なる水津川の上流にて、宇陀川・長瀬川を主なる水源とし共に奈良縣宇陀郡内に發す。宇陀川は三重縣に入り赤目四十八瀬の下流を合せ黒田川の稱あり、長瀬川とは名譽町にて合し、これより下流京都府に入りて伊賀川と合するまでを名譽川といふ。此間、流程約五〇軒、そのうち奈良縣を貫流するところ月瀬の梅林あり。

ナヘ 鍋村 熊本縣肥後國玉名郡の南部。高瀬町の西南約四・五軒、南は有明海に臨む。全村海拔一〇乃至一五米餘の低地にして、西境を小川南流し、東南部にやや大なる入江あり、本村前面の海は遠淺にして埋立をなすに適す。北部には田畑よく開け米・麥・甘藷を産し、また鹽田あり。北部を縣道東西に走りバスを通す。

ナヘカケ 鍋掛村 栃木縣下野國那須郡の中部。黒磯町の東隣にあり。中央を那珂川東南に流れ、それを境として東北半は山地をなし、西南半は那須野ヶ原の一部をなす。農業行はれて米・麥・菜類を産し、また養蠶をなすも、現在は村況不振にて貧農點々たる状態なり。舊陸羽街道は大田原町より來りて東部を北走し、棄落は主としてこれに沿ひて發達す。徳川時代初期には活況を呈したるも明治十九年鐵道(東北本線の前身)の開通

ナハリ—ナハリ

ナヘタ——ナマイ

米) 峠つ。山は樹林に包まれ、山頂部は美しき草原をなす。山頂より雲仙・御池・伊吹の諸山の眺望美し。

ナヘタ 鍋田村

愛知縣尾張國海部郡の南部。鍋田町の南に隣り、東は浅川を距てて飛鳥村に、西は鍋田川を距てて三重縣桑名郡木曾町に相對し、南は伊勢灣に臨む。木曾川下流のデルタ上あり、東北境を分流浅川が東南流し、西境を鍋田川が南流し、此の二川に隔まれし輪中聚落にて土地卑濕、灌漑排水の便を計り、米・蕎麥を産し織物の産も多し。交通は輪中聚落なるため便ならず。本村は明治三十九年、兩國・大藤の二箇村を廢し、その區域と鍋田村の一部とを以て置けるものなり。〔彦九田神社〕大字稻元新田に鎮座。郷社。祭神、繼體天皇。當地の産土神として古く、もと藏主権現社と云へり。例祭、十月一日。

ナヘヤウエノ 鍋屋上野

愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に外一村と共に廢され東山村を置き、東山村は大正十年に名古屋市に編入さる。

ナヘヤマ 鍋山村

鳥根縣出雲國飯石郡の東北。東は一宮村・三刀屋町に、南は中野・多根・東須佐の三村に界し、西および北は飯川郡に隣す。面積二三・八七方軒。高距三百米程度の山岳重疊して山林に富み、東部を刀屋川北流して流域に低地僅に折れて耕作行はる。農業を主業として米・蕎麥の産あり、草履

を特産とす。山地は牧牛を營み、また林産物を出す。北方の今市町・松江市より來る縣道は刀屋川に沿うて南走し、遠く廣島縣三次町に通ず。東方の省線木次線木次驛(大原郡斐伊村)へ約一〇軒、北方今市町へは約一八軒、何れもバスの便あり。村名は鍋山あるより起り、鍋山は出雲風土記に奈倍山と見ゆ。

ナホナホ

臺灣臺東廳大武壠にある蕃社。ナホナホ山の東面中腹、カナルン溪上流右岸に位し、パイワン族の大麻里蕃に屬する高砂族の部落。戸數一〇、人口五二(昭和十一年調査)。

ナホヤマ 那富山

聖武天皇の神龜五年九月、皇太子二歳にして薨去し給ひこの山に奉葬。御墓は圓墳にして、いま奈良市法蓮町大字黒芝にあり。

ナホリ 名欲山

萬葉集に見ゆる山名。その地審かならず。或はいふ、名欲山は豊後國直入郡にある山を稱せるにはあらざるかと。萬葉・九「明日よりは吾は戀ひむな名欲山石ふみ平し君か越え去なば」

ナマ 名間庄

臺灣臺中州南投郡の西南隅、濁水溪中流域北岸に位置し、東は中寮庄及び新高郡集々庄、西は員林郡下社頭・田中二水の三庄、北は南投街に各々境を接し、南は濁水溪を隔て、竹山郡竹山庄と相對す。東部は中央山系の延長なる第三紀層の丘陵性山地によりて占められ、西部は海成丘陵たる大肚山脈の南

延洪積臺地(八卦山脈)の東南端に當り、平野は東西兩山地間に介在して南北に細長く縱走し、南邊濁水溪沿岸に及びて僅かに展開す。中央部の平野は地味肥沃にして水田開け、丘陵帯は概ね緩傾斜をなすため大方耕作せられて甘蔗・果樹其他各種農作物の栽培に利用せらる。農産物は甘蔗の産額最も多く、水稻・甘藷・陸稻これに次ぎ、鳳梨・柑橘・芭蕉・茶・蔬菜・落花生等の産出も尠からず。畜産には豚・水牛・黄牛・山羊等の家畜及び鶏・鶯・鶯等の家禽類多く、勞役用の水牛・黄牛を除く外は一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。山地には造林行はるゝも面積大ならず、少額の薪炭・竹材・粗製茶・落花生油及び煉瓦の製造工場を有し、また家内副業に竹細工の製造行はる。縱貫線二水驛より分岐せる集々線は濁水溪沿岸に沿ひて、西隣二水庄より來り、東走して東隣集々庄に入る。濁水驛を設置す。明治製糖の社線たる南投線は北隣南投街より南下して中央部を一直線に貫き、濁水溪岸に至りて西轉し、集々線と平行して二水驛に達す。以上二鐵道線に沿ひて指定道路あり、各々乗合自動車便を有す。他に部落道路縱横に開けまた濁水溪對岸の竹山庄との間には昭和製糖經營の輕便軌道(手押臺車)を通ず。管内の内、東北邊の番子寮・下新厝・田子・新街・大庄の五大字は、もと南投縣

ナマゼ

兵庫縣有馬郡瀨濱村の大字。福知山線の生瀨驛(明治三十一年設置)を置く。

ナマムキ

生麥。↓横濱市

ナマリ

生瀨町。兵庫縣淡路國津名郡の東部。大阪灣に臨み、北の佐野町と南の志筑町とに挟まる。北部に摩耶山(三六〇米)聳えて周圍に山地を繞らし、東南部海岸に平野開け小河南流して海に入る。海岸は殆ど直線狀の長汀にして港をなさざれども船舶に便にして停船所たり。米・麥・蕎麥・果物等の農産、及び鶏卵・畜産・林産・水産・水産製造物等の産多く、また工業盛にして燐寸の産額夥しく、メリヤス製品・薬製品・瓦・双物等の産も多し。海岸沿ひに四國街道走りて聚落これに沿ひて市街地をなしバスの便あり。また沿岸汽船の便もあり。昭和三年三月町制施行す。古くは和名抄、津名郡志筑郷の内に屬す。中世は生瀨莊と云ひ、保安三年の記文に、加茂別當社領四十二所の一なり。貞應中、田四十町、島若干、浦一所とあり。〔賀茂神社〕大字生瀨に鎮座。郷社。祭神、別當大神。相殿に春日大神・貴船大神・白鹿大神を祭る。延喜の制小社に列す。例祭、三月十九日。

ナマイ

生井村。栃木縣下野國下都賀郡の南部。間々田町の西南隣にして、茨城縣猿島郡古河町の北方にあり、思川と巴波川との合流點を占め、土地低平にて南部は廣き沼地の一部をなす。農業を主にて米麥等を産し、特産物として蕎麥を多産す。間々田町及び古河町に鐵道を通じバスの便あり。間々田町の省線東北線間々田驛に近し。古くは和名抄、寒川郡池邊郷の内か。大字に桐戸あり、小山系國に寒川時光の舍兒を桐戸十郎朝村といふと見ゆ。桐は網の誤にして蓋し此地に屬して名を負へるもの。東鐵には桐戸郷を寒川尾(即ち朝村の祖)に給はる由見え、今も大字桐戸の通行道標等に

ナマイタ 生板村

茨城縣常陸國稻敷郡の南部。利根川の北岸にて西は北相馬郡の一部と隣し、南は利根川を隔て、千葉縣印旛郡安食町と相對す。全村低地にて東北部は沼田をなし他は水田多し。米を主産し他に大麥・小麥を産す。縣道は西北方の龍ヶ崎町に通じ、また新利根川は村の中央を横斷し利根川と共に舟運の便多し。

ナマエ 名前炭礦

福岡縣遠賀郡中間町にある石炭山にて準重要礦山に屬す。礦區十萬餘坪。昭和十年には塊炭四、五二八噸、粉炭一六、〇六五噸、切込炭九、七二四噸、粗炭三二七噸、この總價額十九萬餘圓を出す。同年六月末の使用鐵夫は二九〇人とす。

ナマカパン

臺灣臺中州新高郡にある蕃社。新高・竹山兩郡境界に聳ゆる五又崙山の山麓なる陳有蘭溪左岸に位し、約二〇〇年前戸數二〇、人口三〇〇人に依り形成されたる部落なり。ツオウ族のロフト藩とアメン族の群藩とに屬する高砂族にて、現戸數約九〇、人口約一三〇〇(昭和十一年調査)。

ナマシナ 男信

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に利根郡男信郷あり、奈萬之奈と訓す。いま利根郡川場村の邊なるべく、大字生品に郷の遺稱なるべし。

ナマズ 生津村

岐阜縣美濃國本巢郡の南部。岐阜・大垣兩市の略中間

ナマイ——ナミ

ナマイ 寺に朝村の墓を存す。

に位し、長良川右岸に沿ふ。面積三・八三方軒の小村。瀨尾平野の一部を占め、土地平坦肥沃、農産物に富む。米・麥を始め、菜種・紫雲英の種等の農産に次いで、養蠶盛にて繭の産も相當額に及ぶ。村内縱横に縣道交錯して走り、岐阜市へバスの便あり。また省線東海道本線穂積驛に近し。本村は百鍊抄、寛喜二年六月十日の條に「去八日、美濃國生津庄内、雪降委地二寸許」とある地なり。今昔物語にも生津御社の名見ゆ。而して始め宇治殿頼通の庄園にして、のち近衛房嗣の所領たり。徳川氏の頃には大部分は天領となる。明治二十二年、村民西堀彌市は丹波より杞柳種を求め、河岸に移植せしに甚だ好成績を得、同三十一年より柳行李製造を創め、當時年三萬圓の産額ありしと云ふも今は行はれず。

ナマズエ 鮭江

大阪府東成郡にありし町。もと鮭江村と云ひしが明治四十三年町制を施き、大正十四年大阪市東成區に編入す。

ナマズタ 鮭田

福岡縣飯塚市及び嘉穂郡瀧田・庄内・稻築の三村に跨り、本邦重要礦山の一。礦區二二九萬餘坪にして地質は主に砂岩・頁岩の互層より成り第三紀夾煤層に屬す。炭質は低硫黄にして粘結性は中等度、發熱量六、八〇〇カロリー以上を有し火付頗る迅速なり。本礦名は飯塚市の大字鮭田に因るものにて、明

ナマゼ

治十三年藤生太吉によりて開墾せらるるといふ。いま三菱製鐵株式會社の經營に屬し、昭和十年には塊炭五五、三一八、粉炭四二八、六二六、切込炭一二九、八四六、粗炭一七、七三八、この總價額五六七萬餘圓を出す。同年六月末の使用鐵夫は二、〇八三人とす。

ナマセ 生瀨村

茨城縣常陸國久慈郡の北部。大字町の東方にて、間に袋田村を挟み、東北は福島縣東白川郡の一部と隣す。面積五五・七一方軒の大村。阿武隈山脈の一部を占め、南邊に白木山(六一五米)・高崎山(五九六米)・鍋足山(五二四米)あり。村内も又これ等に續く山地にて森林多く、中部の裾合を久慈川の支流瀧川西流し、その附近のみ狭き平地をなす。山地よりは木炭等の林産あり。平地には農業行はれて米・麥・烟草を産す。川沿ひに走る縣道は西走し、袋田村を経て大字町に通じ、袋田村に省線水郡線袋田驛を置く。この縣道は一方南走して太田町方面に通ずるものなり。江戸氏の臣野口氏は代々この地に居せしが、其子孫は天正の末に佐竹義重に滅さる。村名はこの地本縣最高の土地にして他村より流入する水なく、本村は全く水源地なるより生瀨の名起りしものといふ。

ナマミ

奈美。山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡奈美郷あり、その地今詳かならざるも、久世郡御牧村の邊な

るべし。

ナミアイ 浪合村 長野縣信濃郡下伊那郡の西部。飯田市の西南方に當り、天龍川の支流和合川上流を占む。村境は恵那山脈中の諸峰連り何れも千米餘の山岳に圍繞され、中央を和合川南北の水を聚めて東南流し人字形の谷を作る。谷沿に多少の耕地あり、他は山林繁茂す。林業を主生業とし、米・麥・藁等の農産物も多少あり。東北より西南に三州街道走り、飯田市へバスの便あり。明治二十二年市町制施行の際、波合・平谷の二部落を合併して波合村とせしが、昭和九年波合村を廢し平谷を平谷村とし、波合を浪合村として今日に及ぶ。古くは波合にも作り足助街道の宿驛たり。この地は後醍醐天皇の皇孫伊良親王、應永三十一年八月上野岡落合城より三河國に赴き給ふ途次、賊の爲に襲はれ戦死し給へる所と傳へ、いま親王の御墓あり。波合神社の參道を登り詰めし丘上にあり、圓墳状をなし木柵が圍らされ、宮内省の管理に屬す。波合宿は天正元年四月武田信玄、三河遠征の陣中に病を得て歸途この宿にて歿すとの傳説により名高し。なほ波合關ありて行人を檢閲せりと云ふ。(波合關址) 本村郵便局南より西南に進み、深澤部落を過ぎ、深澤と稱する溪流を渡ると直に關所址に達す。この關は室町時代の末、弘治年間武田氏によりて新設され、其後、織田・豊臣二氏を経て徳川氏の終

ナミウチ 浪打

に至るまで繼續し、信州の南端を警戒せし關所なり。明治維新の際、關所の建造物は破却されしが、幅二間の道路、その左右に石垣の一部分、番所址及び南門の礎石等遺存す。

【浪打】 東北本線の一驛(大正十三年設置)。青森市造道町にあり。【浪打村】 岩手縣陸奥國二戸郡の東部。一戸町の東に接し、東は九戸郡伊保内村に境す。東境に北上山地に屬する小倉岳(六五二米)・傾城峠(七三六米)あり、肢脈は西に延び西北境に浪打峠(三〇二米)あり。全村概ね山地にして馬淵川は南部の子守川、北部の平船川を入れて西境を北流す。木炭・大豆を産し、また黒御影石の産もあり。國道陸羽街道は西北部を南北に通じ、南方東北本線一戸驛へは約一軒あり。浪打峠は一戸町より北方の福岡町に至る街道上にあり、馬淵川の右岸に位し古くより末の松山に擬せらる。併し之は坂路羊腸たること左右の岩石波濤狀の層をなす砂岩中海産介類の化石を包含せるにより「末の松山波越さ」とはの古歌に附會せしものならん。※末之松山。大字根反は蒲生氏郷記に「穴太井の近邊、根曾利といふ城云」とあるは此處なり。根反の大陸化木は天然記念物に指定さる。明治九年、明治天皇皇孫御遊幸の際、同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせら

津町に木更津驛、西南隣の周西村に周西驛を置く。

ナミオカ 浪岡村

青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧状をなして東西に廣り、その長さ約一六軒中約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を置く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北畠國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北畠親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟親信の後といふ。天正六年七月顯村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

ナミカワ 並河

京都府南桑田郡大井村の大字。山陰本線の並河驛(昭和十年設置)を置く。

ナミキ 並木

埼玉縣北足立郡にありし村。明治二十四年三橋村と改稱す。

ナミクラヤマ 連庫山

近江國にあり。連庫は竝座の義にして、駱駝の背の如き形狀の山の意。即ち比叡山を指せしものならん。近江の南部より見れば其の頂き駱駝の背の如く見ゆるを以てなり。萬葉・七「さゝ波の連庫山に雲あれば雨ぞ降るちふかへり來吾が夫」

ナミシバ 浪柴乃野

萬葉集に見ゆる古地名。其地詳ならず。大和志には吉隱村(磯城郡初瀬町の内)の上方猪飼山の野を浪芝野といふとあり。凡そ此地なるべし。萬葉・一〇「吾が門の浪芝色づく古隱の浪柴の野のみち散るらし」

ナミタテ 並建村

熊本縣肥後國飽託郡の西南部。熊本市西南部より約四軒西南方にあり、面積〇・七一方軒の小村。西は島口村を隔てて有明海に近し。地形概ね低平にして耕地發達し米・麥・蔬菜類を産し、西瓜の特産物あり。人口密度は一方軒八八五人を算す。近時は交通著しく發達し熊本市へは自動車を通ず。濱田村・白石村・島口村と共に組合村をなし、本村に役場を置く。

ナミノ 波野

茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の東北隣にて鹿島灘に臨む。大部

ナミカ——ナメカ

分は低き臺地にて畑地をなし、東部の海岸附近に低地ありて水田をなす。農業を主とし米・麥を産す。副業としては漁業・養蠶業・養豚・養鶏・製菓業行はれ蠶・蠶・繭・蠶・吹類を産し、また菓業行はれて少量の蠶繭を産す。晩秋より季節的に出稼をなす者多し。海岸は鹿島浦の一部にて單調なる砂濱をなす。鹿島町に縣道を通ず。古くは和名抄、鹿島郡宮前郷の地にして、大字小宮作はその遺稱なるべし。

【波野村】

熊本縣肥後國阿蘇郡の東部。阿蘇火山外輪山の東山頂より中腹の地を占め、東は大分縣直入郡に接す。地形西部に高く西南境に火口丘の一なる根子岳(一四〇九米)聳ゆ。山地は東西に延びる幾多の淺谷を造りつゝ次第に東方に傾斜し、大分縣へ低下す。東南部に萩嶽(八四三米)あり。原野一帯にひらけ約五千ヘクタールにして山林は約二千ヘクタール・畑約四千ヘクタール・田約三〇ヘクタールなり。北部に東西に横斷する縣道ありて熊本市・大分市往復のバスの通過頻繁なり。省線豊肥本線は、中央を貫きて波野驛・瀧水驛(共に昭和三年設置)あり。

ナミハナ 浪花村

千葉縣上總國夷隅郡の東海岸。大原町の南隣にあり。全村丘陵地にて森林あり、北部のみ稍低地ありて耕地をなし、米・麥を産し養鶏も行はる。大字岩船は外洋に面し有名なる

る。(鳥越觀音)鳥越山にあり、山中松杉の古樹多く、其間に楓樹を交へ、その紅葉の殊に鮮麗なるを以て名高し。觀音堂は絶壁の中程なる集塊岩窟内にあり、觀音の小像を安置す。慈眼大師を開祖とし大同二年勧請せるものと云ふ。江戸時代以前の作なるべし。

ナミエ 浪江町

福島縣磐城國雙葉郡の東北部。新山町の北方約五軒。阿武隈山地の太平洋斜面にあり。室原川は北境を、高瀬川は南部を各東流し、幾世橋村に入り、合して請戸川となり太平洋に注ぐ。町は二川の沖積平野に屬して平坦なり。米・藁・麥等を産し、また陶器を出す。陸前濱街道は東部を南北に通じ、北方の小高町、南方の新山町へはバスの便あり。また西方室原、東方請戸へはバス通す。省線常磐線浪江驛(明治三十一年設置)は町のほぼ中央部にあり。明治三十三年町制を布く。此地は和名抄、標葉郡磐瀨郷の内、戊辰の役に官軍この地に屯集せし城軍を征討せり。

ナミオカ 波岡村

千葉縣上總國君津郡の西部。東京灣に臨みて、木更津町の南に隣る。全村丘陵地にて森林多く、中部の丘陵間および西部の海岸沿ひに狭き平地ありて米・麥を産し、養鶏・養蠶も行はる。海岸は單調なる砂濱にて淺淺なり。縣道は木更津町より來りて南方に通じ、バスの便あり。省線房総西線は西部を南走するも村内に離なく、木更

ナメイシ 滑石村

熊本縣肥後國下名郡の南部。菊池川河口西岸に位し、西部は有明海に面す。菊池川沖積地を占むる爲め地形低平にして、耕地よく拓けく。米産多し。省線鹿兒島本線高瀬驛は東北方約一・五軒にしてバスを通す。

ナメカタ 行方

【行方】 陸奥國(陸前國宮城縣)の古地名。和名抄に登米郡行方郷あり、その地今の登米郡寶江村・吉田村の邊なるべし。

【行方(郡)】 磐城國(福島縣)の古郡名。養老二年陸奥の標葉・行方等六郡を以て石城國を置く、のち十年を経て石城國は廢せられ再び陸奥國行方郡となる。和名抄は吉名・大江・多珂・子鶴・眞歌・眞野の六郷を管す。明治二十九年宇多郡と合して相馬郡を建て郡名を失ふ。中世、相馬氏は本郡及び宇多郡を領し、よつて此地を相馬領と稱せしことあり。

ナメカタ 行方

【行方郡】 茨城縣十四郡の一。常陸國の東南部。設ケ浦・北浦の中間區域にて、南部は北浦より利根川に續く水郷の一部をなす。大部分は低き臺地をなして林あり。設ケ浦・北浦の沿岸及び臺地間に樹木に發達せる低地ありて水田をなす。米麥等の農産及び林産、湖水より産する水産等あり。縣道は湖岸に沿ひて走り、又東西に横斷してこれを連絡するものあり。社線鹿島參宮鐵道は北部を横斷して鹿島郡に入り、設ケ浦・北浦共に舟運の

ナメカカ——ナメリ

便大なり。郡内に麻生・潮来・玉造の三町外十七ヶ村を含む。常陸風土記によれば白雉四年に茨城・那珂二郡を割きて行方郡を置くことあり。和名抄は奈米加多と註し、提賀・小高・藝都・大生・當麻・遠鹿・井上・高家・麻生・八代・香澄・荒原・道田・行方・曾爾・板来の十六郷、餘戸一を載す。文祿年中、一部を鹿島郡に割き、一部を茨城郡より得て以後大變化なし。

【行方村】茨城縣常陸國行方郡の西部。霞ヶ浦の東岸にて麻生町の北方にあり、間に小高村を挟む。中部より東部にかけては低き臺地にて畑地あり。西部の霞ヶ浦沿岸は低地にて水田をなす。米を主産し他に蓮の特産あり。縣道は西部を縦走し麻生町及び北方玉造町へ通ず。麻生町へはバスの便あり。古くは和名抄、行方郡行方郷の地にして、蓋し郡家のありし所とす。中世は八甲村とも稱したり。大塚平氏吉田清幹の二子忠幹、平四郎と稱し、行方郷に移居して行方氏を稱す。

ナメカカ 滑川

【滑川】山形縣 千葉縣下總國香取郡の西北隅。利根川の南岸にて、西南に印旛郡の一部と隣し、北は川を隔てて茨城縣稻敷郡の一部と相對す。東中は丘陵地にて森林あり。西中は低地にて南部は水田及び沼田をなし、北部の利根川堤防附近は畑地をなす。米・蕎麥を主産す。

ナメサ 滑狭

【滑狭】出雲國(島根縣)神門郡の古地名。出雲風土記に、那家の南西八里、もと南佐に作りしが神龜三年滑狭に改むとあり。和名抄にも郷名見ゆ。その地審かならざるも、いま飯川郡西濱・江南・神西諸村の邊を云ふか。

ナメツ 滑津

【滑津村】福島縣磐城國西白河郡の東部。矢吹町の東南約六・五軒。東及び東南は阿武隈川を隔て石川郡に隣接す。面積一・九一平方軒。北部及び西部に低き丘陵地ある外は概ね平坦にて泉川は略中部を東流し、阿武隈川に合す。米・麥・蕎麥等を産す。道路は西部を南北に通じ、北方の矢吹町、南方の棚倉町へはバスの便あり。此地は和名抄、白河郡松戸郷の

内。天正年中の文書に南面津に作る。

【滑津】小海線の一驛(大正五年設置)。長野縣北佐久郡中込町にあり。

ナメトコ 滑床山

【滑床山】一に鬼ヶ城山とも云ふ。宇和島市の東嶺にて、愛媛縣北宇和郡來村と清瀬村にも跨る。標高一四二米。山體は花崗岩より成る。この山を中心とする附近の溪谷は耶馬溪を凌駕すと稱せらる。

ナメハサマ 滑谷崗

【滑谷崗】大和國(奈良縣)の古地名。書紀に皇極天皇の元年十二月、舒明天皇をこの崗に奉葬、更に翌二年に押坂陵に葬り奉ると見ゆ。滑谷崗の位置明かならざるも、三才圖會によれば高市郡冬野村にありと云ふ。冬野はいま高市村の大字なり。滑谷崗の地は或はこの邊ならんか。

ナメミ 菅見

【菅見】駿國(静岡縣)の古地名。和名抄に有度郡菅見郷あり、今の安倍郡の内ならんも詳ならず。

ナメリ 滑川

【滑川町】富山縣越中國中新川郡の北部。富山灣に臨む。東水橋町の東に接し、西北は海に面す。土地平坦にして海岸は砂浜をなす。郡内第一の商工業及び漁業繁盛の郡邑にして工場数も多く、賣炭・石灰・炭物産表・漆・醤油の産あり。

ナメリカワ 滑川

【滑川町】富山縣越中國中新川郡の北部。富山灣に臨む。東水橋町の東に接し、西北は海に面す。土地平坦にして海岸は砂浜をなす。郡内第一の商工業及び漁業繁盛の郡邑にして工場数も多く、賣炭・石灰・炭物産表・漆・醤油の産あり。

四六〇

次いで水産物多く養魚の特産は有名な。近海諸港との取引盛にして海産物肥料・鹽・乾魚類等の移入額三〇萬圓餘、米・薬工品・賣炭・雜貨等の移出額一七萬圓餘に及ぶ。有名な辰氣樓も當町附近に多く出現す。北陸道に沿ひ縣道を四方へ分岐し、また社線富山電鐵の中滑川驛(大正三年設置)もありて交通至便なり。此地は和名抄、新川郡大刺郷の地なりといふも詳ならず。壽永年間既に存在せる漁村にして興國七年、吉見氏將が將軍章氏の教書を以て國士普門俊清と戦ひし爲め兵火に罹り、其後、永正元年、國土府久呂藤右衛門尉兼久が始めて本町に築城し、翌年兼久は長尾爲景の爲めに敗れる。のち天文七年既に人家二百七十七棟の小郡邑となり、次いで謙信が侵し、景勝が攻めて終に天正十一年佐々成政の所領となり、以後、幾變遷を経て明治維新に至る。もと郡役所の所在地。いま縣水産講習所・滑川氣象觀測所・女學校・商業學校あり。明治十一年、明治天皇北陸東海道御巡幸の際この地に御小休あらせらる。【養魚場】指定天然記念物。富山灣中、特に本町及び魚津・水橋は養魚場の漁獲地として知られ、鱈氣樓と並稱して、富山灣に於ける二大奇觀と稱せらる。この島は俗にマツイカと云ひ、開の長さ約六・五軒の小島にして、特殊の發光器を有す。發光器は腹面の皮膚及び眼側にあるも、腹側の先端にある三點

が光力強く、その光力區域は直径三三三メートルに及び、夜間漁獲の際には海中イサナ・ミノーゴンを見るの觀あり。漁獲期は四月上旬より六月上旬までにて、來觀者少なからず。世界的の珍動物なり。【標原神社】神明に鎮座。縣社。祭神、素戔鳴尊。社記に成務天皇御宇の勸請と云ふ。延喜の制に式内小社に列し當國三十四座の内たり。大寶二年社殿再興、貞觀年中に官幣の儀あり。往古より武將の崇敬厚く、殊に織田信長の寄進せる神寶多かりしも、元龜年間上杉謙信の兵燹に罹り社殿と共に烏有に歸す。領主前田氏もまた信仰ありて社役免除す。例祭、六月十六日。【加積雪島神社】大字西町に鎮座。郷社。祭神、大山咋命。源義經、奥州下向の際に當社に參拜し拜殿に香を遺されたりと傳ふ。例祭、五月二十三日。【養照寺】大字領家にあり。眞宗大谷派。藤谷山と號す。僧惠道の開創に係る。もと天台宗。東本願寺十二世教如より宗祖の眞影を寄す。教如寂後、その分骨を受けて寺内に安す。

ナモ

【滑川】省線北陸本線の一驛(明治四十四一年設置)にして、社線富山電氣鐵道の接續點なり。富山縣中新川郡濱加積村にあり。

ナモ

【諸島】Kamui I. 南洋群島の内マーシャル群島の中部西偏に位す。ヤルト島の西北約二五〇軒。凡そ北西—東南に並ぶ數箇の小島より成り、環礁

ナメ——ナヨシ

を成す。行政上ヤルト支廳に屬す。ナモカン 社 臺灣花蓮港玉里郡にある蕃社。大里仙山東南山麓にしてクラク溪流域に位し、アヌ族の糧養に屬する高砂族の部落。戸口二〇、人口一四六昭(昭和十一年調査)。

ナモリ 名森村

【名森村】岐阜縣美濃國安八郡の東部。長良川の西岸に沿ひ大垣市の東南方約四軒にあり。地形平坦にして東境に長良川南流し、西方約一軒に掛斐川南流す。その河川の間の謂ゆる輪中の一帯を占めて沃野廣く、米・麥・蔬菜を産しまた堤防の斜面地には桑を栽培して養蠶行はれ繭を出す。明治三十八年木曾川・長良川・掛斐川の分流改修工事完成し水害を根絶し耕地増加す。北部を東西に縣道走る。大垣市・豊後町へバスの便あり。【名木林神社】大字大森に鎮座。郷社。祭神、天照大神。美濃國神名帳に安八郡十九社正五位とある古祠にして、軍俗神明宮とも稱す。例祭、十月五日。

ナモリツク 島

【島】Kamori I. 南洋群島のうちマーシャル群島の南部、ヤルト島の西約一五〇軒にある小島。行政上ヤルト支廳に屬し、住民はカナカ族なり。南洋聯合命令の汽船は年數回この島に寄港す。

ナモルツク 島

【島】Kamori I. 南洋群島のうち東カロリン島中の一小島にして、トラック諸島の東南約二〇〇軒にあり、東南は約七〇軒を隔ててモートロ

【名好郡】樺太泊居支廳四郡中の一。邦領樺太の西北端に位し、南は鶴城郡、東は敷香支廳・元泊支廳に接し、北は露領と境界し、西は日本海に面す。南北約一・二〇軒、東西二〇—三〇軒。東部に本島の脊梁をなせる樺太山脈南北に走り、北より猿津岳・敷香山(一三七五米)・幌登岳(一三八二米)・新間山・惠須取山等連る。これ等の山嶺は中生代の白堊紀層より成り、その西側に下部第三紀層あり。中央山脈は漸次西方に低夷するも餘脈起伏して平地に乏し。河川は北の沃内川・西棚丹川、南の惠須取川を主なるものとし、何れも西流して海に入り、惠須取川下流に於てやや廣き平地を見、その北方には雄武湖・塔路湖の潟湖横はる。海岸は極めて單調にして僅に惠須取・名好・安別等の泊港を見るのみ。但し深度は大に於て海岸を距る一〇—一五軒の沖合に於て百米線に、更に同距離を隔てて二百米線に達す。産業は鑛業及び水産業を主とす。即ち中部を南北に走る下部第三紀層には有望且つ優良なる石炭層を包含し、北より西棚内・猿津炭田、惠須取炭田あり、特に後者の太平・天内兩炭鑛は著はる。林業や盛にしてエゾマツ・トドマ

ナヨシ 名好

【名好郡】樺太泊居支廳名好郡の北部。樺太西海岸の北端にあり、露領を境し、南は惠須取町、東は脊梁山脈を隔てて敷香郡敷香町に接し、西は間宮海峽に面す。國境區分十七のうち、第十三界標より第十七界標まで本村の區域に屬す。東部に樺太山脈南北に走りてやや高く、北端に逢見山(一〇一〇米)、南に猿津山等聳え、漸次西に向つて低夷し、前記山脈中に發する北名好川を始め諸津川・猿津川・西棚丹川・沃内川・親鶴川・安別川等いづれも西流して海に入り、下流沿岸に低地ひろく。中部には脊梁山脈と並行して南北に走る第三紀層ありて、良質の石炭を埋藏するところ多し。海岸は極めて單調なる砂濱にて、海岸線延長六〇軒に達し、北端に安別、南に名好の諸地あり。住民は林業・鑛業・水産業に従事す

ナヨシ 名好

【名好村】樺太泊居支廳名好郡の北部。樺太西海岸の北端にあり、露領を境し、南は惠須取町、東は脊梁山脈を隔てて敷香郡敷香町に接し、西は間宮海峽に面す。國境區分十七のうち、第十三界標より第十七界標まで本村の區域に屬す。東部に樺太山脈南北に走りてやや高く、北端に逢見山(一〇一〇米)、南に猿津山等聳え、漸次西に向つて低夷し、前記山脈中に發する北名好川を始め諸津川・猿津川・西棚丹川・沃内川・親鶴川・安別川等いづれも西流して海に入り、下流沿岸に低地ひろく。中部には脊梁山脈と並行して南北に走る第三紀層ありて、良質の石炭を埋藏するところ多し。海岸は極めて單調なる砂濱にて、海岸線延長六〇軒に達し、北端に安別、南に名好の諸地あり。住民は林業・鑛業・水産業に従事す

四六一

るも、農業は振はず。北名好川・西橋丹川の流域には伐木盛に行はれ、此等の河口附近はその流送材に満たされ、これ等は恵須取工場に送られてパルプ工業原料となるもの多し。鑛産は西橋内・猿津炭田に属する石炭あり、安別炭鑛は昭和十年産額八三九〇噸、また名好炭鑛は同年の試掘に於て二五〇九噸を採炭し、その炭質は概ね強粘結性にて、固定炭素五四%、揮発分三六%あり、發熱量七〇〇〇カロリー以上にて、有望視せらる。道路は海岸に沿ひ西部縦貫幹線道路通じ、名好・猿津・恩内・計連・北宗谷・親鶴・妻内の諸集落を経て國境の安別に達し、名好よりは東方山脈を踰えて敷香町保意に至り半田街道に接続する路線あり、また名好・安別に定期航路船の寄港あるも、交通未だ便ならず。名好は北名好川河口の左岸に位し、附近の伐木業勃興と共に急激に發達せし部落にて、郵便局・簡易觀測所・漁業組合等あり。北名好川上流には温泉湧出す。安別は西海岸最北端の漁村にして、露領ヒレオと近接し亞港方面航海の要津なり。天淵國境標第四號と中間境界標第十七號とに近く、樺太名物の一として見學に來るもの多し。ここに樺太廳觀測所支所あり、また山葵の特産あり。本村は露領時代に名好を中心としてスラブ族の居住する者多く、約一萬を數へし、わが領有後は漸減して殆どその跡を絶つに至り。當時は名好附近

近にザイム村を置き、その南方はコルサコフ・アレクサンドロフ兩州の境界をなせり。明治四十一年名好に名好支廳を置きしが、大正二年六月に久春内に移る。

治三十九年四月漁民の移住を見、同四十年十月智來を土人收容地に指定、内地人は名寄に收容せり。同四十三年名寄植民地を開放し、大正三年豊澤植民地を設く。大正十一年四月自治制施行、昭和四年七月二級町村制施行す。〔大榮炭鑛〕本島中部炭田に屬し、名寄川の主流にあり、樺太鑛業株式會社の經營に屬す。炭層は厚さ約一・五米のもの一枚にして、下部夾炭層群に屬し、走向は東西または南北、傾斜は緩にして、南北または東西に十度内外なり。炭質は瀝青炭に屬し、深黒にして光澤あり、不粘結性にして灰分多く、發熱量大(七三〇〇)カロリー以上)なるを以て汽機及び家庭用炭として好適す。出炭の大部分は泊居及び野田製紙工場として供給せられ、残餘は附近町村の家庭用炭として販賣せらる。採炭は一六軒の輕便鐵道及び三軒の架空索道により泊居に搬出す。昭和十年の産額は八四〇五二噸。

名寄盆地を形成す。名寄町は合流地域に發展し農耕・交通の中心地たり。農業を主とし工業・林業また盛なり。米・馬鈴薯・大豆・甜菜・亞麻・牛・馬を産す。宗谷本線の名寄驛(明治三十六年設置)あり、これより名寄線を分岐し西名寄・初茶志(共に昭和三年設置)の二驛を置く。町内に名寄區裁判所・帝室林野局旭川支局出張所・名寄中學・名寄高等女學校・名寄女子職業學校等あり。明治四十二年多寄村より本村を分割し、上名寄村と稱し、大正四年上名寄村を名寄町と改稱、同十三年一部を割きて下川村を置く。名寄はアイヌ語ナイオロツア(河の傍なる川口)の轉訛せるものなりと云ふ。

【名寄本線】 省線名寄線の幹線。北海道天淵國上川郡名寄町の省線宗谷本線名寄驛より北見國に入り興部驛(紋別郡興部村)・清濱驛(同郡清濱村)・中湧別驛(同郡上湧別村)を経て紋別郡遠輕町の省線石北線遠輕驛に至る一三八・一軒、及び中湧別驛より下湧別村の下湧別驛に至る四・九軒の支線より成る。興部驛にて省線興濱南線、清濱驛にて省線清濱線に連絡す。

【名寄町】 樺太泊居支廳泊居郡の北部。本島中央の地峽部に當り、東は元泊郡白縫村に接す。東部は樺太山脈に屬する山地にして、奥車峠山(六一・六米)・東條山・大榮山(四〇・五米)等聳え、支脈數條西方に出でて、南境には鷹岡山(四三・三米)等あり。河川は中央分水嶺の鍋山(七一〇米)附近に發する東條川と雲突山(七五三米)に發する西條川は略並行して西北に流れ、下流に於て合流して名寄川となり、流域に平地拓け、本地方に於ける主要農業地帯を構成す。南部には智來川あり。海岸線延長約一五軒に及ぶも頗る單調にて、良津を缺く。産業は農を主とし名寄川下流に植民地あり、燕麥・馬鈴薯を産す。南部の豊澤に大榮炭鑛あり、附近に大榮・萬年町等の集落發達す。海岸に近く名寄山附近には日本石油試鑛場あり。其他に苗圃・酪農場等あり。水産は振はず。海岸に沿ひ西部縦貫幹線道路通じて和良・名寄・琴年・宅田・智來等を連れ、北は久春内・南は泊居町に至るほか名寄より西條川を潤り豊岡・大榮・平澤に至る道路あり。海上は名寄に樺太廳命令航路の寄航あり。本島古領當時は名寄に當人と土民僅に七戸散在せしが、明

【名寄町】 北海道天淵國上川支廳上川郡の北部。天淵川・名寄川の合流地域を占め、西は空知支廳、南は多寄村を挟みて土別盆地・土別町に對し、東方は名寄御料地に續く。面積二〇五方軒餘。東西の北見・天鹽二山脈は中央部に傾斜し、天鹽川兩山地の裾を北流して平地を拓き、更に東山中を西流し来る名寄川を合して

【名寄川】 北海道天淵國上川支廳管内東北部にある川。北見・天鹽・石狩國境山地の間に、棚澤山(八五・二米)あり。名寄川この北流に發して北流し、下川村にて西に屈し省線名寄線とほぼ並行して北見山脈の山中を西流し名寄町東部に出づ。山地を外れて名寄盆地に出づるや急に北流し、名寄町北方約四・五軒の地點にて天鹽川に合す。名寄町の發展は即ち此の二川合流に負ふところなり。流程約六〇軒、上流に於てはサンル・パンク・ペンク等の支流を集め、流域に河谷を拓きて交通・産業に資す。

【名寄本線】 省線名寄線の幹線。北海道天淵國上川郡名寄町の省線宗谷本線名寄驛より北見國に入り興部驛(紋別郡興部村)・清濱驛(同郡清濱村)・中湧別驛(同郡上湧別村)を経て紋別郡遠輕町の省線石北線遠輕驛に至る一三八・一軒、及び中湧別驛より下湧別村の下湧別驛に至る四・九軒の支線より成る。興部驛にて省線興濱南線、清濱驛にて省線清濱線に連絡す。

西北は大坂府と接し、西南は和歌山縣、東と東南は三重縣に隣り、海岸線皆無なり。面積三六八九方軒。人口六二〇四六一。大和一國より成り、奈良市および添上・生駒・山邊・磯城・宇陀・高市・北葛城・南葛城・宇智・吉野の十郡(二九町、二二村)に分れ、縣廳は奈良市に置かる。〔地勢〕本縣は大和の語原の如く山處にて、唯一の平地たる奈良盆地を圍繞して階壁の如き山地見らるるも、これを構造上より紀ノ川・橿田川を結ぶ中央線に依り二分され、地形もまた南北の二地形區に大別する。即ち南半は紀伊脈状山地の一部にて吉野山地と概稱され、その中央には南北の方向に火山岩噴出し、山上ヶ岳・佛經岳・釋迦ヶ岳の峻峻なる連嶺は大峰山脈と總稱され、また大和アルプスの名稱を獲にし、その東に北山川を隔てて古生代硬砂岩より成る大臺ヶ原山が對峙す。三津河落山・日の出嶽・經ヶ峰の連嶺にて、前輪廻に屬する丘陵性平坦面を有することによりて知られ、また十津川を隔てて、西境には伯耆子岳・鉾尖岳・護摩ノ壇山等を主峰とし、十津川・北上川はこれ等山地の間を横谷を形成しつづ南流す。吉野川(紀ノ川の上流)の構造谷を隔つる北半區は、更に大和高原・奈良盆地・金剛山脈に三分さる。大和高原は更にその北半をなす笠置高原・室生火山群を伴ふ高見傾動地塊・宇陀盆地・龍門傾動地塊に細分され、金剛山脈

は、更にその生部にて生駒地壘・生駒階層谷・矢田傾動地塊・富雄階層谷・西ノ京丘陵に分けられ、南部には二上火山群・金剛地壘とに分かる。奈良盆地は大部分單調なる平坦地なるも、周縁には馬見丘陵等の洪積層台地が見られ、南部には天ノ香久山などの鳥狀丘陵點在す。〔氣候〕奈良盆地にては冬(約五度)と夏(約二八度)との氣候の較差はやや大にして、年降水量は一五〇〇耗内外。大和高原は前者より気温やや低きも、年降水量はやや大にて一六〇〇耗内外。吉野山地は最も低温なるも年降水量二五〇〇耗内外に及び、特に北山川の河谷及び十津川の小森以南は、氣候最も温和にて降水量も多く、大臺ヶ原の如きは年降水量四六〇〇耗に達す。〔産業〕昭和十年の生産總額は一九九五萬圓にして、工業・農産・林産・畜産・水産・鑛産の順位、主要物産は米の二二〇七萬圓を首位とし、賣藥・綿絲紡績・酒類・杉用材・繭・麥類・全市・蚊帳・檢用材・蠶糸・莫大小・蠶・西瓜等は、いづれも一〇〇萬圓を越ゆ。農業戸数は六萬四千餘にて總戸数の五二%に當り、耕地面積は四五〇〇ヘクタールにて大部分奈良盆地に所在し、その七四%までは田が占め、單位面積に對する收穫量は各府縣中常に優位を占む。西瓜は盆地の到る處に栽培さるるも、本場は中央部の田原本町附近にて、優品として知られ、周縁丘陵帯には蜜柑・柿・

柿・梨・葡萄・茶等も少からず。郡山町を主とする金魚の養殖は注目し、觀賞用としてアメリカ等にまで輸出さる。綿絲紡績は大日本紡績會社の高田・郡山工場にて生産され、蚊帳地は奈良市に最も多く、莫大小は生駒郡・奈良市・高市郡最も多く、大和賣藥は製造戸數約六〇〇、高取町を中心とする高市・南葛城諸郡を主とす。その他、奈良市の蠶蠶・漬物・木彫人形・團扇・磯城等、高市の諸郡に於ける鈕釦、磯城郡三輪町を主産地とする素麩、郡山町附近の赤膚焼などは特色ある産物なり。大和高原は田畑よく開け、南部山邊部の養蠶、北部添上郡の茶・速成胡瓜・柿等が盛にして、特に凍豆腐の産多し。吉野山地の吉野杉・吉野桐の名は古來著名なり。而して南半の十津川・北山川流域のものに主として建築材にて新宮町に流送され、北半の吉野川流域のものは主として桶木・樽木・洗丸太・丸太に利用され、古來、灘・伏見等の醸造家に賞用さる。吉野川藍谷の下水町は杉箸の製造を以て知られ、五條町の東亞製綱會社のマニラロープも産額少なからず。鑛産は貧弱なるも、宇陀山地の水銀及び金剛山脈中の二上火山麓の金剛砂は注目に値す。〔墾務分布〕奈良盆地の墾務分布の特色は昔の條里制に基づく規則正しき集村の分布にて、稗田・井戸野・千代等、垣内式の遺蹟明かなるものあり。田原本町が盆地の中央に在るを除

ナラ

【奈良・平城・寧樂・那羅・平】 奈良市(舊武藏國大里郡)の東部。熊谷市の北隣にて、東は北埼玉郡の一部と隣す。全村平地にて水田多く、西南部は畑地をなす。農業發達行はれて、米・繭・麥を産す。縣道は熊谷市に通じバスの便あり。此地は和名抄、播磨郡那珂郷の内なるべし。江戸末期の治水家・開墾家たる吉田市右衛門(贈正五位)はこの地の人なり。

【奈良ヶ岳・奈良岳】 白山火山群の一峰。石川縣石川郡岸川村・吉野谷村と富山縣東礪波郡上平村の境上に位す。標高一六四四米、山體石英粗面岩より成る。

【那羅】 山城國(京都府)の古地名。三代實錄元慶六年に奈良野の名見え、和名抄には久世郡に那羅郷あり、此の地は後世綴喜郡に入りしもの、如く、いま綴喜郡都々城村の邊を云ふか。同村の大字上奈良・下奈良はその遺稱なるべし。

【奈良縣】 近畿地方の一縣。北は京都府

き主要都市は例外なしに周縁地帯に見らる。即ち東縁の奈良市・帶解・櫻井・波市・柳本・三輪・櫻井、北縁の郡山・龍田・王寺、南縁の八木・今井・畝傍、高取・御所・新庄の諸町これなり。また宇陀川谷には榛原・松山・初瀬、吉野川谷には上市・下市・大流・五條等の諸町あり。我が國家發祥の地にして、永き間皇居の所在せしこの縣には名所・舊蹟特に多く、これらの諸郡邑の多くがそれに關係し、遊覽都市として色彩の濃厚なるが一特色なり。殊に畝傍・生駒・吉野の諸町の如きは全然遊覽客に依存するものなり。〔交通〕奈良盆地の道路網は條里制の遺物として南北及び東西に走れるもの多き特徴をなす。省線關西本線は盆地の北縁を走り奈良・郡山・王寺等を過ぎて大阪に至り、和歌山線は王寺より分岐し高田・吉野口・五條等を通り和歌山に達し、櫻井線は奈良より分岐し丹波市・櫻井・畝傍・高田を結び、社線大和鐵道は盆地を斜に走りて王寺・田原本・櫻井を連ね、遊覽地の多きことは社線電氣鐵道の發達を著しく助長して、奈良と大阪とを結ぶ大阪電氣鐵道は分岐して西大寺より郡山・田原本・畝傍・高取を経て吉野に至り、その支線は丹波市をも連ね、奈良と京都の間には奈良電氣鐵道あり、參宮急行電鐵は大阪と宇治山田を結ぶ最短路にて盆地の南縁を經、宇陀川の諸谷を横切、大阪電氣鐵道は久米寺・高田と大阪

とを連ぬ。生駒山及び信貴山には登山ケーブルカー設けられ、兩者を結ぶ信貴生駒電軌も開通す。〔沿革〕明治元年五月大和國に奈良縣を置き七月にはこれを改めて奈良府とせしが、翌二年七月には再び縣に復す。三年二月には五條縣を置き紀伊の高野山をも管す。四年十一月、當時大和國にありし奈良縣・五條縣を始め舊藩所在地にして縣と改稱せる郡山・小泉・柳生・田原本・高取・柳本・芝村・橿原の八縣を悉く廢して更に奈良縣を添上郡奈良町に置き大和國を管したるを以て今日の奈良縣の起原とす。然るに同九年四月奈良縣を廢し和泉國堺町に置かれたる堺縣に併せ、十四年二月に堺縣の大坂府に併合さるゝ及び大阪府の管下に移りしも、同二十年十一月奈良縣を復活して大和國一國を其管下とす。同三十年四月一部の併合を行ふ、即ち添下及び平群の二郡を合して生駒郡を置き、式上・式下・十市の三郡を合しこれを磯城郡とし、葛下・廣瀬二郡を合して北葛城郡とし、葛上・忍海二郡を合して南葛城郡を置き、翌三十一年二月、奈良市は添上郡より獨立して、一市十郡を以て今日に至る。

春日山・三笠山・若草山等ありて海拔五百米に近きものあり。北部には佐保山あり、海拔百米前後の丘陵とす。これ等の山麓即ち市の西南部は平地にて第四紀古層及び新層發達し主街此處に存し、また佐保・串・能登の三川(何れも大和川の支)この間を流れて都市には珍らしくも約五百町歩の水田發達す。〔氣象〕昭和六年乃至同十年の五箇年間に於ける氣象を見るに、氣温最低零下四・八度―六・五度、最高三六・〇度―三八・〇度にして年平均は一六・〇度―一六・六度とす。平均氣温は那羅・臺北・八丈島等には及ばざるも、其他の内最も暖き地即ち鹿兒島にほぼ匹敵す。されば盛夏八月に於ける平均氣温は左の如く、

昭和六年 同七年 同八年 同九年 同十年

一月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
二月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
三月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
四月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
五月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
六月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
七月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
八月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
九月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
十月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
十一月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
十二月	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇

同十四年との間に年平均約三・四%の増加を見たるは主として市域の擴張に依るものとす。大正十四年乃至昭和五年の間に全國の市部の平均と全く等しき率即ち一・六%の増加率なるが、次の五箇年は全國市部平均一・五四%に對し一・二%たり。なほ人口密度全國市部平均は四、四四九人(昭和十年)なるに、當市が僅に一、八七八人なるは、北部及び東部に丘陵乃至山地の存在するに因る。また男女の数の比を見るに、女百人に對し男九七・二五人なり。全國一般として市部には男多し郡部には女多きを普通とすれど、當市は觀光客多き地なるため接客に従事する婦人多きことが、上記の如き男女比を見る主なる原因にして、其外の原因として觀光地の當として婦人の土産物の販賣者あること、また織布業・女高師の存在を指摘し得べし。なほ當市の世帯数は一一、八四〇(昭和十年)なるが、一戸當り平均四・四三人にして、全國平均五・一三のみならず都市平均四・九一と比較するもなほ少人数なり。〔産業〕當市の産業は價額としては左表の如くなるが(表は昭和十年調、なほ以下数字は總て昭和十年とす)、この内、工産價額は全産業の九割四分を占む。工産中の主なるものは被服二三〇萬餘圓、第一一九萬

餘圓、精巧工業品一〇〇萬餘圓、絹織物九三萬餘圓、畜産一五、五五六、筆八六萬餘圓、メリヤス製品六八萬餘圓、麻織物四八萬餘圓等とす。右の内、麻織品數額を含むは、奈良の特産物として古くより製造せられしが、その盛になりしは永祿年間より事とす。昔時は冠裳束その他禮服用として廣く用ひられ江戸幕府は奈良に麻布會所を設け、此處にて品物を検査の上、販賣に供せしむといふ。古來より奈良の特産物なる墨は、楠正成九世の高松井道珍が天正年中にこれが製造を創むと傳へ、筆は空海が唐にて習得したるものを業人に傳へ、今の奈良筆は高市郡今井町にて多く製造行されしが、江戸時代に奈良に移植せられしものといふ。其外の特産物として嚴酒・奈良漬・團扇・扇子・木彫人形(一刀彫)・漆器・角細工などを挙げ得べし。次に農業はその産額としては少額なるも都市には珍しく自作・小作を合して五三五戸ありて、耕作反別は田四八八六反歩、畑六〇二反歩、主要農産物は米及び麥とす。畜産は主として牛と鶏にして、水産といふは何れも養殖なり。以上は製造方面より見たる産業状態なるが、之に伴ふ商業あり、觀光都市の小賣店としては土産物

販賣店多く、この外、遊覽客が旅館・料理店等に消費しゆく額も著しく少からざるべし。〔交通〕省線關西本線は當市三條通の西端に奈良驛(明治二十三年設置)を置き、此處より北方は木津を経て京都に至る奈良線あり、南方の高田に至る櫻井線あり。外に大阪より大軌電車來り、京都より奈良電車來り、何れも當市の油阪驛に於て省線の奈良驛と連絡す。市内の交通としては、奈良驛前より油阪・春日神社・聯隊前行等のバス出で、大軌奈良驛前より郡山・法隆寺・木津行等のバス出で、また外に春日奥山周遊自動車などありて名所巡りに便利なり。なほ道路としては盆地を南下する上中下の三街道、京都方面に至る奈良坂越(京街道)、大阪方面に至る三條暗越街道などあり。〔沿革〕一、ナラの名義 ナラは漢字に那羅・乃樂・諾樂・寧樂・檜・平・平城・奈良・名良・那良の字を充て現今は奈良の字を用ふ。その名義は日本書紀に崇神天皇の御代、武埴安彦の叛するや、皇軍これを大和・山城國境の丘陵に攻めて軍士その山を踏み平せしが爲に、爾來この山をナラ山と名づくこと云ふ地名傳説あり、或は平坦なる山地即ち平せる山地と云ふ意味よりナラ山の名起れるものか。近時、外國語を借りて其起原を尋ねんとする學者あれども未だその定説を見ず。二、奈良以前の奈良地方 古來ナラと稱せらるる土地は時代によりて同一ならず、

平城宮都以前には、今の奈良市の西に接する地方即ち今の郡跡村にある宮城址を中心とせる地方を稱せしものゝ如し。これナラの原地にして、之に對して現在の奈良市の地域に當る大部分の土地を春日と呼びたり、これ開化天皇御陵を春日率川坂上陵と稱せるによりて見るべし。こゝに奈良以前の奈良地方とはナラの原地及び平城京地並に現在の奈良市の地域を包含せるものゝ如し。而して此等の地方は恐らくは大化改新頃よりか添(曾布)と總稱せられたり。而してその添の名は曾布縣より轉せるものにて、古へ大和には皇室御料地として六箇の御縣が設置せられ、曾布縣は實にその一なり。三、平城京 奈良朝七十餘年間の帝都、平城京は開化天皇率川の邊に皇居を築め給ひしを起原とし、元明天皇の御代和銅三年都を藤原宮よりこの地に遷させ給ひ、發展の國家の帝都として大規模なる平城京を建設し給ひしに始まる。之より先き、歴代の帝都は、凡そ飛鳥の地方に置かるるを例とせり。飛鳥は漢民族の移住の根據地として、我國に於ける支那文化及び佛教の播種地たり。これが爲に帝都も何時しかまた飛鳥地方に固定せらるるに至り、そのために代々の政府はこの傳統力の掣肘を免るゝを得ざりき。こゝに於て孝徳天皇の難波遷都、天智天皇の大津遷都の如く屢々都を大和以外の地に遷して、そ

の固定せる舊勢力の屬群より脱出し、自由の新地に理想の新政を行はんと試みたること一再にして止まらず、しかも常に飛鳥の勢力の反抗に遇ひて、失敗に終り、帝都は久しからずして再び舊地に復するの已なき状態なりき。殊に天武天皇は飛鳥の勢力を背景として近江朝廷と争ひ遂に勝利を得られし爲に、當然都を飛鳥の淨御原に復し給ひしが、而も天皇もまた永くこゝに留らせ給ふこと能はず、或は都を奈良盆地の北部に遷さんと思召され、爾後、屢々遷都の計畫を廻らせしも孰れも實行に至らず、最後に飛鳥郊外に於て唐制を模倣せし新式の都城を經營し給ふ事となり、天皇の崩後その皇后たる特統天皇の御代に實現せられしもの即ち藤原京なり。併しかる姑息的なる政策は到底永續せらるべきにはあらず、次の文武天皇の御代の晩年に至り、再び遷都の御計畫あり、これが元明天皇に至り平城京の實現を見るに至る。この實現には右大臣藤原不比等(鎌足の子)の計畫興りて力ありしものなり。蓋し大化改新以來、歴代朝廷は常に飛鳥の漢民族の壓迫に力を致せるを以て、當時はその勢力も漸次衰へ居り、且つ不比等は藤原氏の氏寺たる興福寺を始めとして飛鳥舊都に於て勢力多かりし大官大寺・元興寺・藥師寺等の諸大寺をも續々新京に移轉して巧みにその反抗を豫防せしが爲に、從來の遷都の常に失敗に終りしものとは趣な

異にし、無事にこの遷都の完成を見たると考へらる。爾來、平城京は佛都として日本文化史上に重要な位置を占むるに至り、青丹よし奈良の都は咲く花の匂ふが如く今盛りなり」と萬葉歌人はこの都の盛時を讃へたり。平城京は奈良盆地の北部にありて、北に山城の境上に連なる奈良坂の丘陵を負ひ、南は廣く平野を望み、東は飯盛・若草・三笠・春日・高圓の諸山連立し、西は一帶の丘陵矢田山に連り所謂「四禽園」に叶ひ三山嶺を作し龜策並び從ふの地にして正に天子南面の相に相當するの好地たるのみならず、西南の難波・東方の東海道・北方の東山・北陸・山陰等の諸道に通ずるにも至つて便なり。この盆地には、恐らく大化以前より南北に貫通せる三條の大道ありて、その一なる下津道、即ち今の中街道は、北は奈良坂即ち今の歌麈越より、南は故傍山の東麓に向ひて南北に通じて、平野を東西に兩分せしものにて、平城京はこの大道の北端なる奈良坂南麓の好地をとり、宮城の地を定め、唐都長安の制に則りし都城を經營せしものなりき。その規模は當時の「大寶令」所定の尺度の制に基きて、東西八里、南北九里の城を占め、その中央を南北に貫通せる朱雀大路によりて京は左右二つに分れ、兩京とも各一里ごとの距離を以て縱横に大路を開き、南北各九條、東西各四坊に分たる。蓋しその各坊はもと一里四方を以て單位

として設計せられしものなり。また各大路の間に更に三條づゝの小路を開きて各坊を十六の坪に分つ。その各坪を町といふ。かくて京内の位置を示すには北は一條より數へて南は九條に至り、またその各條は左右兩京とも各朱雀大路に接する坊を起點として、左右に數へて一坊より四坊に至り、更にその各坊は左京にありては西北隅より、右京にありては東北隅より順次南に坪の數を數へ、更に北に戻り、再び南に進みこれを反覆して一ノ坪より十六ノ坪に至る。各坪の廣さは、大寶尺度の制、地を度るには大尺五尺を一歩となし、三百歩を一里となすの法により、その一里より道路數を除いて四等分せしもの、即ち四十丈四方を單位とせしものなりき。蓋し當時の大尺五尺は、後の六尺に相當し、その三百歩は即ち百八十丈なりし故、そのうちより大路の幅八丈、小路三條の幅各四丈、合して二十丈の道路數を除き、その餘の百六十丈を四等分せしものなり。この町割はのちの平安京にもそのまゝ襲用せられ、後世の謂はゆる京間の起原をなす。以上は當初の設計に成れる平城京の規模なるも、その條坊も時代と共に場所によりて殷盛の程度を異にし、特に左京にては東方京外に興福寺・元興寺・東大寺・春日神社等の有力なる社寺設けられし爲に、次第にこの方面に發展して遂には東京極東に於て二條より五條に至るまで各三坊宛の擴

張を見るに至る。興福寺の舊境内と東大寺の舊境内との間を通ずるいまの道具通は、その擴張せられし左京の東京極に當り、また今の櫻井線の驛名の京終はその南京極の名を傳へたるものなり。また右京に於ても、その西北隅に西大寺・西陸寺等の設けられし爲、その北京極外にも二坊・三坊・四坊に互りて、南北各二町づつ擴張を見るに至る。これを一條北邊といふ。かくて當初は規則正しき長方形の都城も實際には頗る不規則なるものとなれり。宮城の敷地は京城の北部中央にあり、左右兩京に互りて各一條・二條の坊の地を占めて、すべて八町四方、四周に土塔と塹濠とを繞らし、各邊に三門、通じて十二の門を開く。その正南の門を朱雀門といふ。また京城の周圍にも土塔と塹濠ありてこれを羅城といふ。その朱雀大路の南端なる正門を羅城門といふ。此等の制度は總て後の平安京に踏襲せらる。この平城京は萬世を期すべく豫想されたるも、爾後、權臣の政權争奪の結果時に遷都の企あるを免れざりき。遷都後、三十二年なる天平十三年に於ける藤原氏の遷都の如きは、その著しきものなり。蓋し平城遷都以後は藤原不比等の勢力極めて盛んにして、その死後によりては不比等の四子相並びて攝關の地位を占め、又その女は臣下の女として始めて皇后となるの先例を開き、政權は殆ど藤原氏一家の専斷に歸するの有様なりしが、

たまたま天平九年龜倉流石の爲に、その兄弟四人年を同じうして此の世を去り藤原氏の勢力これがために一頓挫を來し、光明皇后の同母兄橘諸兄これに代りて勢力を得るに至れり。こゝに於て藤原氏の一族平かなる能はず、天平十二年藤原廣嗣太宰府によりて叛旗を翻し、諸兄はこれを機として天皇を奉じて一時東國に行幸せしめ奉り、その歸路を擁して天平十三年山城の藤原に遷都せり。これがため平城宮は一時荒廢し當時の歌人をして藤原の敷をなさしめし程なりしも、この遷都は結局藤原氏勢力の恢復ともいふに失敗に終り、都は一旦近江の紫香樂京に、ついで攝津の難波京に遷り、最後にもとの平城京に復都するに至る。其後、天平寶字年間に至り惠美押勝(藤原仲麻呂)權力を擡にするに及び、その五年を以て一時淳仁天皇が孝謙上皇を奉じて近江の保良宮に遷りしことありしが、久しからずして押勝の失脚のため中止となり遷都を見るに至らざりき。奈良時代の末に至りては僧道鏡の專横によりて華美の風流に甚しく、宮城の造營もために相踰いで行はれしものと見え、特に造宮省まで設けられしほどなるも、稱徳天皇崩御の後、光仁天皇位に即ち給ひて前代の弊政改革に盡力し給ひ御一代開始と行政・財政の整理に没頭し給ひ、ついで桓武天皇位を繼ぎ給ひに及び、更にその方針を繼承せられ、延暦元年(今に宮室居るに堪へた

り)との理由を以て他の幾つかの官署と共に造宮省をも廢せらる。然るに意外にもその後わづかに一年を経て延暦三年に至り、俄に長岡遷都のこと發表せられ、平城京は永く廢都となる。この長岡遷都は、藤原種繼が桓武天皇の御信任を得て外戚秦氏の財力に依頼し秦氏の根據地たる山城に都を遷し、權勢をこの新天地に開拓せんがためなりし事と察せらる。平城京廢せられし後は、その舊都の地は荒廢して田圃と化せしが、しかも當時の大路小路の跡は通路、村界或は土地の小字の境界等によりて保存せられ、千百數十年後の今日なほその遺影を留め、その舊京内に於ける坪割の尺度は、京外の條里との間に明かに京間と田舎間との區別の存在を示し居れり。たゞ時に左京京外に擴張されし地域の條坊は、平城遷都の後に於ても興福寺・元興寺・東大寺、謂ゆる南都諸大寺の勢力が引續き保存せられしために、他の部分に荒廢し田圃と化せしに拘はらず、この地域のものは凡そ舊時の繁榮を維持し、今に至りて奈良市街としてほゞその條坊の跡を保存す。宮城内の諸建築物は、一部分は長岡遷都の際に新京に移されしが、宮殿その他そのまゝに保存せられしもの少からず、平城天皇位を嵯峨天皇に譲り給ひて後、藤原仲成の上皇の復讐計畫の陰謀によりて或はこゝに復都を見んとするの形勢なりしが、仲成の陰謀愈々露顯して、舊宮殿は唐招提

寺・超昇寺・不忠寺等に寄進せられ爾後荒廢に歸す。しかし宮殿の土壇は多くはそのまゝ保存せられて、今なほ田圃の間に芝地となりて存在し近年史蹟として指定保存せらるゝに至る。今その土壇の位置及び土地の字名等によりて當時の宮殿配置の状態を考へるに、朝堂院は宮城内や、東部に片寄りて存在し、その北部に大極殿あり、左右に東西兩廂あり、南方には十二堂左右に併列し、更にその南に東西の朝集殿ありし趣が、大體として後の平安京宮城内の朝堂院に於ける諸殿、諸舎の配置を髣髴せしむ。しかし細に觀察すれば異同なきにあらず。即ちその西方、即ち宮城の中央に當りて天皇の宮殿なる内裏がありしものゝ如し。即ち平城京に於ては天皇の宮殿なる内裏が宮城内の主位を占め、政治の府たる朝堂院その東に片寄りて存在し、平安京に於て朝堂院が朱雀門の正面、即ち宮城中央の位置を占め、内裏は却つてその東に片寄りて存在するものとは、頗るその輕重を異にする。蓋し我國に於ては古代には宮中府中の別なく天皇の宮殿即政治の府なりし所のものか、後に宮中府中の別を生ずるに至りても、なほ平城京造營の頃までは宮中が宮城内に於て主たる地位を占め、それが平安京に移るに及びて、兩者その地位を轉倒し、宮城内に於て政治の府たる朝堂院が中央の位置を占め、天皇の宮殿たる内裏その東方に片寄るといふ現象

を呈するに至りしものにして、これによりて宮中府中に關する時代の思想の變遷が窺はれる。四、平安京遷都後の奈良平安京以來、奈良の都が衰頹し、整備せる都城は忽ち桑田に變じたるも、なほ藤原氏の氏寺たる興福寺、氏神たる春日神社が存在し、また聖武天皇が國力を盡して建立し給へる東大寺を始め、皇室の尊榮淺からぬ諸大寺には香華の絶ゆる事なく依然として宗教界の中心たるは天平の昔と敢て變ることなし。されば平安京に於ける貴族の崇佛心と、南部の自然美とが相俟つて南都と京都の間は人馬往來は絶ゆる事なく、南都の諸大寺は都が平安京に移りし後も尙ほその勢力を振へり。いま奈良市となれる地域は平城京の東郊外、謂はゆる京東班田及びその東の地に於て、春日神社や東大・興福・元興諸寺の壯大なる堂塔伽藍多く、當時はこれ等社寺關係の人々の住居せし地にて、實に今日の奈良市の發達はこれら社寺の門前町たりしに起れるものなり。併して此等南都の社寺が有する莊園は實に廣大にして豊富なる財源たり。南都の僧兵、春日の社人等が永く活躍し得しも、これが爲なり。源賴朝の覇を鎌倉に開くや、寺社の所領は謂はゆる守護不入とて武士の權力も之に及ばず、その上に公家側と雖も寺院領に關與せざる方針なりし爲め奈良は自然一つの小獨立都市の觀を呈せり。其後、世の亂るに及び大伽藍にも幾多の

變遷あり。殊に應仁文明の亂以後、武士は尺寸の地を争ひ併吞を事とするの結果自然社寺の莊園等も亦その犠牲せらるゝ所となり、遂に寺院も衰微を極むるに至る。五、近世的都市への發展 中世の奈良は興福寺・東大寺あるの故に京・鎌倉と並んで南都と呼ばれ、田舎とは違へる委を維持せしも、併し今日の奈良市の中心を作れるものは商工業なり。近世の都市として奈良が發展する爲には宗教といふ要素の他に、産業が發達して町人が此地に集らねばならず、かうした意味の奈良の發達は吉野時代から室町にかけて著しく、吉野時代の南都にては興福寺が最も勢力強く、大和の商人に座を組織さして興福寺に隷屬させて奈良中の商業上の獨占權を興へたり。この座は室町時代に入つて益々發達し、興福寺兩門跡の一乘院・大乗院には長祿二年頃、既にソ木・オコシ・米・蛤・鹿・鹿・茶・鹽・油・槍物・火鉢・紺・塗・土器・昆蟲・糟・結・心太・ハジカミ等の産あり、かくの如く當時の商工業は一切、座といふ組織によつて行はれたり。これ等の座と、本所(座を保護する主體なる寺院)との關係は、大乗院座の眞寔座を見ると、毎年座役(營業税の如きもの)として、蓮十枚・油三升(錢三百文を以て代ふ)を大乗院に納むるを例とせり。座と並んで商業の發達を示すものに、室町時代に於ける市場の

後、これを改めて律院となし圓證寺と稱す。境内に順昭の石碑あり。文殊菩薩騎獅像(木造)一軀・普賢菩薩騎象像(木造)一軀は國寶なり。

【海龍王寺】法華寺町にあり。眞言律宗西大寺末。天平三年光明皇后の御願により、藤原不比等の邸宅を寺院としたるが即ち本寺にして、皇居の東北隅に當るを以て古く隅寺・隅院と稱す。天平七年僧玄昉の歸朝後、此の寺に住す、故に玄昉を開基とす。のち寺運一時衰微せしを、鎌倉時代に至りて西大寺の觀音堂宇を再興す。慶長七年徳川氏に至り、寺領約百石を寄す。特建物の西金堂・講堂、また文殊菩薩立像(木造)一軀・十一面觀音像(木造)一軀・傳聖武天皇宸翰額一面・毘沙門畫像一軀・鍍金舍利塔一基・五重塔形(木造)一基、いづれも國寶なり。

【元興寺】芝新屋町にあり。華嚴宗。東大寺末。本尊藥師佛・十一面觀世音菩薩。南都七大寺の一。聖德太子および蘇我馬子、物部氏を討平し給ふ祈誓として、太子は大阪の四天王寺を、馬子は飛鳥の地(今の高市郡)に法興寺を建立す。のち法興寺を今の如く改稱す。養老二年元正天皇勅して法興寺を新京に遷さしめて新元興寺といひ、故地に存せしを本元興寺と稱す。今の高市郡飛鳥村安居院の寺地は即ち本元興寺の舊地といふ。新元興寺は移轉と共に漸次堂宇を完成、寺田二千町を管せられて盛衰を極めし、今は南都

七大寺中、大安寺と共にその荒廢最も甚し。十一面觀音立像(木造)一軀・藥師如來立像(木造)一軀は共に國寶なり。

【元興寺塔址】指定史蹟。芝新屋町にあり。元興寺は養老二年飛鳥京より移建せられ南都七大寺の一なりしが、中世以降堂舎廢頽し大塔のみを残せしが安政六年焼失して今その塔址を存す。土壇は周圍石壁を繞らし上に十七個の礎石あり。礎石は表面に直徑約一握弱の圓形柱受並に直徑約二七握の大柄を彫り出せし形式にして心礎亦その形式相等しく形状や、大なり。礎石の配列によりて三間三南方約九・七米の塔址たることを知る。昭和二年九月、心礎周圍の地下約三・三握の深さにて勾玉・瑠璃玉・捻玉・丸玉・小玉等の玉類、和同開珎・萬年通寶・神功開寶等、奈良朝時代の遺物を發見せり。

【興福寺】登大路町にあり。法相宗の大本山。本尊釋迦如來。皇極天皇の四年、藤原氏の始祖藤原鎌足は蘇我入鹿の横暴にこれを誅伐の爲に丈六の釋迦像を作らんと祈願をこめ、首尾よく蘇我氏を滅亡してその像を作りしに、夫人鏡女王は山城に山階寺を建立してこれを安置せり。天武天皇の朝には、この寺を高市郡の厩坂に遷して厩坂寺と稱せしが、平城朝に及び鎌足の子不比等更に勝地を卜して現地に大伽藍を造營して興福寺と呼び、永く藤原氏の氏寺とす。應和三年には永く奈良六宗に長官たるべき旨を宣下され、

また白河院の御宇には和州一國の吏務を附せらる。徳川幕府の時代には寺領二萬五千石を有し、境内四萬アールを占めしが、前後七、八回の災禍のために今日に於ては伽藍殆んど古の傳なく、境内も漸次縮小せり。しかも尙ほ特建物四棟、北圓堂・三重塔・五重塔・東金堂あり。國寶には、繪畫に二天王像掛軸二幅・慈恩大師像一軸・護法善神圖掛軸二幅・工藤美術に華原管一基・鐘一口・鏡十箇、彌勒坐像(木造)一軀・菩薩立像(木造)二軀・乾漆四天王立像四軀を始め百點以上その他筆蹟・畫箱等頗る多し。

【興福院】法連町にあり。淨土宗。智恵院末。本尊阿彌陀佛。法連山と號し尼寺なり。初め右京區三條、今の生駒郡都跡村大字興福院の地に存せしが、寛文年中徳川家光の命により此地に移る。境内に大樹多く鬱蒼たり。いま寺内に奈良の茶人久保利世の茶室長閑堂のうつし及び其の碑あり。阿彌陀二十五菩薩來迎圖一幅、古葉略類聚鈔四冊は國寶なり。

【極樂院】中院町にあり。眞言律宗西大寺末。本尊阿彌陀佛。古は元興寺の子院なり。もと智光禪師の宅址にして、本尊は同法師感得の極樂曼荼羅に因みて極樂坊と呼びしが、その後頽廢、建久年間西行法師の再興といふ。本堂及び禪堂は特建物。阿彌陀如來坐像(木造)一軀・五重塔形(木造)一基、いづれも國寶。【西福寺】奈良坂町にあり。淨土宗。佛

西派本寺靈嚴院末。本尊阿彌陀如來立像(木造)一軀・藥師如來坐像(木造)一軀・彌陀如來坐像(木造)一軀・釋迦如來坐像(木造)一軀・不動明王立像(木造)一軀・毘沙門天立像(木造)一軀は何れも國寶。

【十輪院】十輪院町にあり。眞言宗報恩寺末。もと新元興寺の子院にして創建につきて異説あるも、一に飛鳥權少僧都成源の創立といふ。境内に空海の作なりと傳へる多数の石佛と朝野魚養の墓あり、魚養は空海の書道の師にして、當院の住職なり。本堂・南門・石佛龕は特建物にして不動明王(木造)及び脇侍二童子立像三軀は國寶なり。

【正倉院】北倉・中倉・南倉の三倉に分れ、古くは北倉・中倉が勅封にて、南倉は東大寺の桐封藏なりしが今は全部勅封たり。天平勝寶八年、孝謙天皇が御父聖武天皇の御遺物を東大寺の盧舍那佛に施入し御冥福を祈り給へるが勅封倉の始めにして、その後幾度か施入せられし御物をここに蔵す。この世界無比の大寶庫が幸ひ今日に至る迄、兵火・雷火の災を免れて天平のまゝの姿を傳ふるは、全く御皇室の御秘蔵によるものと云ふべく、保存その他の關係上、開扉は十月下旬の旬日に限られ、拜觀もまた有資格者へのみ限定せらる。

【新藥師寺(香藥師寺)】華嚴宗。東大寺末。本尊藥師佛。西京の藥師寺に對して新の字を冠す。天平十九年光明皇后、聖武天皇の眼病平癒を祈り、行基に命じて東大寺の餘材を以て本寺を建立し東大寺の別院となし給ふ。天平勝寶三年孝謙天皇、聖武上皇の御不豫を憂へ四十八僧に命じて當寺に於て祈念せしめ給ひしことあり。本堂・鐘樓・四脚門・地藏堂・東門は特建物なり。千手觀音立像(木造)一軀・十二神持立像(銅造)・藥師如來立像(銅造)一軀・藥師如來坐像(木造)一軀・不動明王二童子立像(木造)三軀・十一面觀音立像(木造)二軀・佛涅槃圖掛軸一幅(銅造)・鐘一口は國寶なり。

【傳香寺】小川町にあり。律宗。唐招提寺末。本尊觀世音。寶龜年中鑑眞の弟子思託の開創にかかり、天正二年に筒井順慶の母秀英禪尼の本願によりて本堂を再建し、唐招提寺の香華所たり。本堂は特建物なり。地藏菩薩立像(木造)一軀・聖觀音立像(木造)一軀は國寶なり。

【東大寺】雜司町にあり。華嚴宗の大本山。本尊盧舍那佛(金銅)。八宗兼學道場。

【知足院奈良八重櫻】指定天然記念物。東大寺の塔頭知足院奥庭の榊上にあリ。幹の目通周圍約八五握、傍らに元の朽株の遺れるもの及び幼幹の發生せるものあり。花は五月月上旬に開き、重ね厚く花舞

ナラケ—ナラハ

道を通ず。舊中山道は奈良井川の谷に沿ひ、名所の鳥居峠より木曾谷に出づ。今

ナラケチ 那良口 肥薩線の一驛

ナラザキ 檜崎村 山口縣長門郡豊

ナラサワ 七澤 玉川村(神奈川縣)

ナラシ 毛無乃岳・奈良思之岳

ナラズ 奈良津 廣島縣深安郡

ナラタ 奈良田 山梨縣南巨摩郡

ナラノ 奈良野 山城國(京都府)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

の岡にいつかきかむ 志貴皇子

ナラシツ 奈良志津・平等津 土

ナラシノ 習志野 また習志野原

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

奈良・下奈良邊の原野を云ふか。

ナラノナカ 檜中 大和國(奈良縣)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

ナラハ 檜原 陸奥國(磐城郡)

四六

南境に那須澤山(一〇四五米)、東北境に

小野嶽(三三三米)、中央部には高倉山

(一三〇八米)あり。姫川は西境に發源し

て南部を東流し大川に合す。大川は東南

境して東北に流る。米・藁・葉煙草・木

炭等を産す。道路は大川に沿ひて東北に

通じ、西南方田島町へはバスの便あり。

【八幡神社】 大字豊成に鎮座。郷社。祭

神、應神天皇外二神。會津神社に會津

八十九座の一に數ふ。例祭九月十八日。

【檜原】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名

抄に土岐郡檜原郷あり、その地いま詳か

ならざるも、土岐郡土岐津町・肥田村の

邊なるべし。

【檜原】 大和國(奈良縣)の古地名。和名

抄に葛上郡檜原郷あり奈良波良と訓す。

今の南葛城郡の吐田郷村の邊か。

【檜原】 奈良縣南葛城郡にありし村。大

正三年に外七ヶ村と共に廢され、大正村

を設く。

【檜原村】 岡山縣美作國英田郡の西部。

林野町の東北隅にあり、南は豊田村に、

東は江見町に、北は栗原村に界し、西は

梶並川を隔てて勝田郡豊岡村に對す。面

積一・五七方軒。西境を南流する梶並

川の流域には平地よく開けて肥沃なる耕

地を拓く。北東及び南部には高距約二

三百米の山地ありて緩傾斜をなし平地に

接す。山地は好牧場をなして多数の牛を

飼育しまた木炭及び木材を産す。平野は

農業よく行はれ米・藁の産物に多く、其

の産物より僅か五里を隔てし公津ヶ原に

墳を築きて修治す。論説も關はれ同三年

二月十四日將門謀に伏す。亂後、寛朝は

明王像を捧持して都に還らんとせしがそ

の重きに堪へず、弟子清壽・照有を留め

て守らしめ、獨り歸洛して事の由を伏奏

す。茲に於て朝廷は國司をして伽藍を造

營せしめ且つ新護新勝寺の寺號を賜ふ。

寛永二年寺地不便なるを以て現地成田に

四七

成田より僅か五里を隔てし公津ヶ原に

墳を築きて修治す。論説も關はれ同三年

二月十四日將門謀に伏す。亂後、寛朝は

明王像を捧持して都に還らんとせしがそ

の重きに堪へず、弟子清壽・照有を留め

て守らしめ、獨り歸洛して事の由を伏奏

す。茲に於て朝廷は國司をして伽藍を造

營せしめ且つ新護新勝寺の寺號を賜ふ。

寛永二年寺地不便なるを以て現地成田に

移建し東國鎮護の靈場となす。佐倉城主

稻葉・堀田兩氏また外護の誠をつくし、

正徳年中に照徳は伽藍を修めて大いに輪

奘の美を整へ、照徳また安政年中本堂を

改築し、明治維新後は石川照勳は鏡意寺

勢の伸張に努め、成田學園(感化院)・成

田中學校・成田高等女學校・成田圖書館・

成田幼稚園等を開設す。境内廣潤、堂塔

樓閣等を列ぬ。近時は境内の一部を公園

化し成田公園と名付く。講堂宇中、本坊

奥殿は二回明治天皇の行在所となり、水

行場は道譽・補天・松平樂翁公・二宮尊

徳等が水を浴びて祈願を籠めし所なり。

寺寶中、天國の寶劍・酒醉天神像等を初

め數多あり。

【成田線】 省線總武線の一。千葉縣北部

にあり。總武本線佐倉驛(印旛郡根郷村)

より成田驛を経て常勢線我孫子驛(東葛

飾郡吾孫子町)に至る四六・〇軒、及び成

田驛より分れ佐原驛を経て松岸驛(海上

郡椎柴村)に至る六二・三軒の二線より

成る。成田驛より東北約一軒に成田山新

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

五五

五六

勝寺(不動尊)、西方約四軒に宗吾堂あり、また社線成田鐵道と京成電車とはこの驛に於て接続し、佐原驛よりは水郷汽船航路に連絡す。

【成田鐵道】 社線。千葉縣印旛郡成田町の省線成田線の成田驛より三里塚を經由し、總武本線の八日市場驛(原郡八日市場町)に至る三〇・二軒、及び三里塚驛より岐れ總武本線の八街驛(印旛郡八街町)に至る一三・八軒。軌間一・〇六七米。動力は蒸氣及びガソリンにて、省線と連帯運輸をなす。

ナリタカ 成高山 葛城山脈の一峰。金剛山の南西方約二三軒、葛城山(八五七米)の南東嶺たり。和歌山縣伊都郡四郷村と、那賀郡上名手村の境上に位す。標高八一〇米。山體は和泉砂岩層より成る。南方脚下に紀ノ川を俯瞰す。

ナリハ 成羽町 岡山縣備中國川上郡の中部。高梁町(上房郡)の西方約七軒の地點にあり、北は宇治・松原二村に、東は落合・玉川二村に、南は日里村に、西は手莊・中二村に界す。面積三四・四九方軒。村内は高さ約四一五米の臺地性の山地より成り、最も典型的な準平原面をなす地域にして、中央を東西に成羽川流れ、高梁町の南方にて高梁川に注ぐ。河川の流域には氾濫原開け僅に水田の拓かる外は山地は廣く牧牛を營み、また木炭・生柿・薄荷・麥等の産も少からず。市街は成羽川に跨りて發達し、清濁

醸造業及び附近の牧牛の取引地として知らる。高梁町及び西北方吹屋町に縣道を通じバスの便あり。人口は五千五百人餘。中國山間の地方的中心地をなす。もと成羽藩のありし處。(成羽植物化石層)町の附近に發達せる砂岩・頁岩より成る累層。礫岩及び無煙炭層を介在し、トウサ類その他の植物化石極めて豊富なり。三疊系に屬す。【鶴首城】 大字下原にあり。一に成羽城ともいふ。文治年間三村宗親ここに居りしが、毛利氏に滅ぼさる。元和年間、山崎宗盛此處に封ぜられ三萬五千石を食みしが、寛永年間島原に移封。のち子孫絶えて除封されしが、一族の者に五千石を與へてその祀りを存せしめ此處に陣屋を置く。明治維新後に城廢す。明治元年四月山崎治藏の時、藩屏に列せられ成羽藩と稱し一萬二千餘石を食む。四年七月藩を廢して成羽縣とし次で十一月廢して深津縣に入る。(八幡神社) 大字成羽に鎮座。郷社。祭神、品多和氣命・倉稻魂命・高靈神等五柱。江戸時代、成羽城主山崎家の崇敬あり。古來附近數ヶ村の氏神なり。

ナリマツ 成松町 兵庫縣丹波國水上市郡の中部。加古川の上支なる佐治川に跨り、柏原町の西北に近く之と生野村を挟み、北は幸世村、南は沼貫村に接し、面積僅に四・二方軒。西南郡と西北郡は低き山裾あれど、其他は佐治川流域の神

積地にて田畑よく拓け米・麥類の外、蔬菜・食用農産・雜糧等を出し、蠶絲・製茶・瓦・瓦物・製菓品の工業もあり。福知山より姫路市方面への縣道に當り、省線福知山線石生驛(生野村)にも遠からず。大正元年に町制施行す。この地古くは和名抄、水上郡石前郡に屬せしものと云ふも詳ならず。成松は舊保名にて、鎌倉開闢寺文書に「嘉元四年丹州成松保正續院領」とあり。

ナリカ 鳴鹿村 福井縣越前國坂井郡の東南部。福井市の東北約六・五軒、東南は吉田郡淨法寺村、南は同下志比・五領ヶ島の二村に隣す。北部・東部には三乃至四百米の山地あり、南部には九頭龍川の沖積低地あり、九頭龍川の分流これを灌漑し田・畑開く。米・甘藷・絹織物・鮎等を産出し、特に鳴鹿鮎に知らる。縣道は山麓を繞りて走り、社線永平寺鐵道これに沿うて通じ樂間驛・鳴鹿驛(共に昭和四年設置)を置く。永正三年七月、一向宗徒、村内平泉寺川の右岸に陣し朝倉景職の軍に對抗す。大字上金屋には樹齡八百年を經し大樺あり、周囲約八米、高さ約一八米の巨樹なり。

積地にて田畑よく拓け米・麥類の外、蔬菜・食用農産・雜糧等を出し、蠶絲・製茶・瓦・瓦物・製菓品の工業もあり。福知山より姫路市方面への縣道に當り、省線福知山線石生驛(生野村)にも遠からず。大正元年に町制施行す。この地古くは和名抄、水上郡石前郡に屬せしものと云ふも詳ならず。成松は舊保名にて、鎌倉開闢寺文書に「嘉元四年丹州成松保正續院領」とあり。

ナリカミ 鳴神 和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に編入す。ナリキヨ 成清鐵山 大分縣速見郡の立石町・東山香村・中山香町の三箇町村に跨る金銀山にして我國重要な鐵山の。鐵區五十九萬餘坪にして昭和十年には金九、〇三〇瓦、銀三、二七三瓦、金銀鐵一五〇噸、この總價額三十萬餘圓を出し、同年六月末の使用鐵夫は六八人とす。鐵山名は經營者の姓を負へるものとす。

ナリゴ 鳴子町 宮城縣陸前國玉造郡の中部。南は加美郡宮城村に、西は山形縣最上郡東小國村に隣接す。北部に大柴山(〇八三米)・花瀧山(九八五米)・半俵山、西境に奥羽山(七六六米)、南境に國見山(六五四米)・鳥谷ヶ森山等聳立す。花瀧山と半俵山の間を南流し來る荒雄川は中部にて東流し來る大谷川を合して東流す。荒雄川・大谷川沿岸には氾濫原・沖積地ありて耕地開く。なほ鳥谷ヶ森山中に湯沼あり、湯沼の東北、荒雄川の右岸に胡桃ヶ岳(四六一米)聳ゆ。また荒雄川及び大谷川沿岸は謂ゆる玉造十二湯と呼ぶ一大温泉郷の中心にして、山紫水明、温泉は到るところに湧出し、且つその泉質の多種多様なること、湯量の豊富なることはその特色の一なり。大正六年陸羽東線開通以後、來浴者頗る激増し、最近に於ける浴客數は年四十萬に上ると云ひ、温泉旅館・土産物店等多く、

置く、笠寺村は大正十年に名古屋市に編入さる。【鳴尾村】 兵庫縣攝津國武庫郡の東南部。武庫川三角洲に立ち、大阪灣北岸に面し西宮市の東南部に接し、東は尼崎市と大庄村を隔つ。面積七・五方軒。地勢平坦にして海拔四米を越えず。武庫川の派流、西部の枝川・申川は共に廢川となり舊川敷は阪神電鐵の經營する甲子園運動場たり。田畑よく發達し葎・蔬菜及び花卉・米・食用農産物・觀賞植物・裸麥等の農産物多く、鵜飼や沿岸漁獲物も少からず。近時は工業地帯化し肥料・植物油を始め綿織物・水産製造物・木製品・蠶製品・蠶等の工業あり。北部には阪神國道、中部には舊國道横ざりまた社線阪神電鐵の國道線・本線及び甲子園線通じて交通至便なり。此地は鼓馬・野球を以て名高く、川西航空機會社其他の工場も多し。古くは和名抄、武庫郡曾根郷の地にして、いま大字に小曾根の名を存す。大字小松は孝徳天皇有馬の湯湯より還幸の時停駕ありし武庫行宮のありし處といふ。新拾遺「常よりも秋に鳴尾の松風はわけて身にしむもの」にそありける。西行法師「謠曲高砂」たかさこや此浦舟に帆をあけて、月もろともに出しほの、波の淡路の鳥影や、遠くなる尾の沖すきて、早すみの江に濱にけり云々と古來多く詩詠に入る。(岡太神社) 大字小松に鎮座。郷社。祭神、天孫中主命外合祀神五

ナルカ——ナルコ

柱。延喜式内の小社。例祭、十月十一日。【甲子園】 海岸近き所にあり。一帯は白砂青松の好景地なると共に、阪神電鐵の經營する甲子園クラブハウス・十數箇のテニスコート・大野球場・プール・陸上競技場等ありて運動諸機關完備す。またゴルフ場及び阪神競馬クラブの鳴尾競馬場あり、松林の間には兒童用遊遊器具等も設置せられ、阪神郊外の一大家ノーツ遊園地の觀を呈す。(甲子園野球場) 甲子園内にあり。東京明治神宮外苑内の神宮球場と共に我國に於ける最も著名なる野球場にて、夙に我國に於けるスポーツ漸く隆盛ならんとする大正十三年に阪神電鐵會社が百萬圓の巨費を投じて建造せしもの。その後昭和四年に至り約六十萬圓を以て大増築をなし、今や敷地面積三六〇アル餘、その内グラウンド二〇〇アル餘、コンクリートスタンド一一〇アル餘、土壘スタンド五〇アル餘、座席定員六萬人を算し、三層を數ふるメーインスタンドの内部に貴賓室・事務室・浴場・休養室・食堂・休憩室・記者室等の諸施設備はる。(甲子園南運動場) 球場と同じく阪神電鐵の經營にして昭和五年の開場に係る。敷地面積三三〇アル餘、内ラグビー場一五〇アル、トラック七〇アル餘、觀覽席五〇アル餘、その他六〇アル餘、座席定員二萬人を算す。(甲子園プール) 球場及びグラウンドと同じく阪神電鐵の經營に係り、昭和

ナルカミ——ナルコ

湯の街氣分噴溢し、町勢活氣を呈す。玉造十二湯とは川渡・田中・湯坂・赤湯・新赤湯・元車湯・新原湯・一の坂・多賀下・鳴子(湯元)・河原湯・中山の各湯にして從來は温泉村に屬せしが、大正十年温泉村を分割して鳴子町・川渡村に分ちし結果、川渡・田中・湯坂・赤湯・新赤湯は川渡村に、その他は鳴子町の管轄となり、鳴子町に屬する各湯を總稱して鳴子温泉とも云ふ。又もと玉造八湯と云へるは東より數へ川渡・田中・赤湯・元車湯・新車湯・鳴子・河原湯・中山の八湯を稱せしもの。由來「脚氣川渡かさ鳴子」と俗語に唄はれし程の鳴子なるも、決して梅毒患者のみの温泉場にはあらず、泉質の多種なるにより各方面の浴客にて賑ふ。鳴子の名稱は昔鳥谷ヶ森山が爆發の時、鳴子(湯元)温泉が噴出し、轟々たる響を立てし爲め此名起ると云ひ、いま湯出口の一なる瀧の湯は温泉神社の前の丘上より大樋にて疏湯せるものが軒下丈餘のところより輕微の音を立て、大浴槽に落下する様は各湯中第一の盛觀にして鳴子の名を思はせるものあり。一説には鳴子は一に啼兒に作り、その昔源義經北行の途偶々夫人分娩し辨慶これを笈中に養ひこゝに來りて始めて呱呱の聲が放つと、啼兒の由來これによると云ふも如何にや。交通は羽前街道は中部を東西に通じ、これに並行して省線陸羽東線通じ、大字湯元に鳴子驛(大正四年設置)、

大字中山に中山平驛(大正六年設置)ありて頗る便なり。古くは尿前と云ひ、奥羽山脈を横断する中山越(尿前越)の東麓に當り、古來奥羽兩國交通の要路に當るを以て、尿前關を設けて行人を檢せしこと芭蕉の紀行等に見ゆ。併し當時は人跡稀にして驛路の困難なりしものなるべし。關はいま中山平驛の附近ならんといふ。(鳴子峽)指定名勝。鳴子町に屬する荒雄川の支流大谷川の溪流が石英粗面岩質集塊岩の臺地を穿ちて、長さ四軒に亘り峽谷をなせるもの。崖の高さは八米乃至百米、幅十米乃至百米、標式的のU字谷をなし、曲折せる溪流は直立せる峭壁、亂立せる岩石と相俟ち、頗る溪谷美に富む。(鳴子(湯元)温泉)鳴子驛の南一一〇米。鳥谷ヶ森山の北麓にあり、玉造十二湯の湯元にして、大いに賑ふ。泉質は食鹽性硫酸・酸性泉・鹽性硫酸・泉等の各湯あり。仁明天皇の承和二年(約一千年前)鳥谷ヶ森山噴火して熱泉類に迸出し因つて温泉神社を祀り鳴聲の湯と名づけしと。(河原湯温泉)鳴子驛の東北約半軒。泉質は弱食鹽泉と炭酸泉。リウマチス・婦人病・腺病などに效くと云ふ。天和年間(約二百五十年前)の發見と傳へ、源義經奥州落着の時はここを通過すと云ひ、附近にそれに因む義經の跡止め、辨慶足跡などといふ遺蹟あり。また杜草子や八雲御抄などに見ゆる玉造の湯はこの湯を指せるものなりとす。

ナルセ——ナルト

【元車湯温泉】鳴子驛の東北約一軒。泉質食鹽泉。天明年間の發見と傳へ、當時は水車にて湯を汲み上げし爲めこの名起れり。【新車湯温泉】鳴子驛の東北約一軒。泉質食鹽泉、胃腸病・婦人病・リウマチス・腺病に效くと云ふ。(中山温泉)中山平驛の東一軒。泉質、單純泉。附近に芭蕉が「蚤虱馬の尿する枕もと」と詠じたる處と傳ふる尿前關址あり。(鳴子スキー場)鳴子驛の南約一軒。上野々の練習場あり、例年一月上旬より五十軒乃至一米の積雪、雪質もよく初心者にも熟達者にも興味あるスロープ多し。【中山平】中山温泉を中心とする高原地帯にして、東北の上高地として夏季は賑ひ、秋季、附近一帯の紅葉美は陸羽綠嶺一と稱せらる。(湯沼)鳥谷ヶ森山の山中にある沼。水面は海拔三〇六米、四周環壁を廻らし、火山分類上は「マル」と稱する種類に屬し、東北に胡桃ヶ岳を仰ぎ、風光よろし。

ナルサワ

【鳴澤村】青森縣陸奥國西津輕郡の中部。餘ヶ深町の東南に接し、東南は中津輕郡に界し、西北は日本海に臨む。岩木山の北麓に位し、南境に二ツ森山(二〇三米)あり北方に傾斜す。鳴澤川は南方より來り村の北部を西北に流れ、南方より湯舟川を合して日本海に注ぐ。米・林檎の産あり。道路は村の中部を東南より西北に通す。省線五能線鳴澤驛(大正十四年設置)あり。

ナルタエ

【鳴瀨川】宮城縣の北部にある川。加美郡の西南隅なる奥羽山脈中の東斜面に發源し諸水を棄めて東流、中新田町附近にては左岸より田川を、右岸より保野川・花川等を容れ、三本木町を過ぎ三本木川の稱あり、松山町の北にて南に轉じ、品井沼の水を容れて南東に向ひ、野蒜港に至りて石巻灣に注ぐ。流程約一〇〇軒。川は土砂の運搬盛にて、河口の堆積作用また著しく、上流の小野田以東の流域平野は本地方の主要農業地帯の一を成す。

ナルタキ

【鳴瀨】↓京都市(二一九三頁)【鳴瀨村】大阪府和泉國泉南郡の中部。東の信達村、西の榎井村、北の西信達村の三ヶ村の間に介在する小村にして、面積僅に〇・一五方軒。紀州街道と孝子越街道を繋ぐ道路に沿ひて市街をなし、綿工業榮ゆ。西方は社線南海鐵道(電車)本線の榎井驛、東南は社線阪和電鐵の阪和砂川驛(信達村)へ近く交通便なり。

ナルセ 成瀬村 神奈川縣相模國中郡の東北。伊勢原町の東北隣にて、北は愛甲郡南毛利・玉川二村と隣す。西半は丘陵地にて森林あり。東半は相模川流域平地の一部をなして水田多し。農業行はれて米・麥・甘藷・大豆・蕎麥等を産し養蠶も行はる。大山街道は東北方愛甲郡厚木町より來りて村の中央を過ぎ、伊勢原町に通ず。社線小田原急行鐵道また之に沿ふも村内に驛なく、伊勢原町に伊勢原驛を置く。此地は和名抄、大住郡石見郷の内とす。【高森神社】大字高森に鎮座。郷社。祭神、味須岐高彦根命・弟橘比賣命。延喜の制、國幣の小社に列す。當時高部屋神社、後に七社權現と稱す。例祭、四月九日。

ナルセ 鳴瀨 宮城縣の北部にある川。加美郡の西南隅なる奥羽山脈中の東斜面に發源し諸水を棄めて東流、中新田町附近にては左岸より田川を、右岸より保野川・花川等を容れ、三本木町を過ぎ三本木川の稱あり、松山町の北にて南に轉じ、品井沼の水を容れて南東に向ひ、野蒜港に至りて石巻灣に注ぐ。流程約一〇〇軒。川は土砂の運搬盛にて、河口の堆積作用また著しく、上流の小野田以東の流域平野は本地方の主要農業地帯の一を成す。【鳴瀨村】宮城縣陸奥國加美郡の東部。中新田町の東に隣り、東は志田郡に接す。陸前平野の西部にあり、全村概ね平坦にして鳴瀨川は西南境を東南に流る。米の産多く、また蕎麥等を産す。道路は西南部を西北に通じ、西北方中新田町へはパスの便あり。東北方陸羽東線中新田驛へは約三軒あり。此地は和名抄、色鹿郡安蘇郷の内なるべし。

ナルト 奈流門 山口縣周防國玖珂郡の南部。【鳴門村】山口縣周防國玖珂郡の南部。柳井町の西に位し、北は日積村に、東は神代村に界し、南は大島瀬戸を隔て、大島郡屋代村に對す。面積四・九方軒。西北隅に琴石山(五四六米)聳えてその山脚を東南に伸し海に迫り、極く僅かの砂濱地その山麓下に開くのみにて平地に乏しく概して山地をなす。主産業は牧畜にして畜牛に名あり、農産物は米・藪の外に蜜柑・きり柿等の果實を産し美味をもつて知らる。大島の棄置は東南隅にありて漁村をなし附近の海上にて鯛・鰯等の漁業を營む。省線柳井線は海岸を走りて柳井町に至り大島驛あり。東北由宇町及び柳井町へ縣道通じパスの便あり。廣島灣と周防灘とを隔る大島瀬戸は兩岸距ること一軒に足らず、潮流早く所々に渦巻を生ず、鳴子水門の意にて鳴門と呼ばれ、阿波の鳴門に對して大島鳴門といふ。用明天皇と筑紫の摩野の長者の女との間に生れ給ひし般若姫が上京の途次此處にて難船して溺死し給ふと傳ふ。古來多く詩藻に入り、萬葉卷十五に大島の鳴門を過ぎて再宿を經たる後、追ひて作れる歌「これやこの名に負ふ奈流門の渦潮に玉藻刈るとふ海人少女とも」後選・戀一に「人しれす思ふ心は大島のなるとばなしに歎くころかな」など見ゆ。本村出身の歴史的人物に僧月性あり、尊攘の大義を各地

の他の「がす」が集合して自然の「がすたんく」を造りたるまま之を包める熔岩流が全部冷却固結し「がすたんく」が洞穴となりて残りたるものにして、この種の洞穴には熔岩隧道の如く大規模のものなく形は概ね不規則なり。上記の諸洞穴は前者に屬し富士四近の如くこの種の洞穴が多數存在することは世界的に稀有なり。(鳴澤樹型)指定天然記念物。曾て富士山麓に森林をなしたる樹木の幹枝が富士山活動の際流出せる熔岩流に包まれ木質燒盡し幹枝の型像を熔岩冷却後に留めたるものなり。吉田胎内には樹型に倣うて天然木炭を發見す。火山活動の副現象として學問上殊に興味あり、且つ研究資料として有益なるものなりとす。【鳴澤岳】日本北アルプス後立山山脈の一峯。針ノ木峠(二五四一)の北方約四軒、長野縣北安曇郡平村と富山縣中新川郡立山國有林地城との境上に峙つ。標高二六四一。西方黒部川を距てて立山群峰對峙す。

に遊説、安政三年本願寺に召され、東山別院に寓し密に皇室回復義政矯正の策を計畫、安政五年布教中歿、年四十二、正四位を贈らる。

【鳴門海峡】徳島縣阿波國の東北端、板野郡鳴門村大毛島の東端孫崎と淡路行者ヶ嶽の門崎との間にある僅か一四〇〇米の狭き水道を云ふ。海峡には紀伊水道と播磨灘との陥没に際し残存せる東より中瀬・裸島、南方に飛鳥等の小嶼岩礁ありて、頗る狭き水道を更に堰き狭む。而してこの狭き水道は中瀬により二分され、徳島側を大鳴門、淡路側を小鳴門と稱す。大鳴門はその幅僅に五〇〇米にて孫崎の前面に横はる裸島と中瀬との間は最も重要な部分となし、その幅僅に三〇〇米なり、小鳴門はその幅一層狭く僅に二〇〇米に過ぎず。世界に稀なる鳴門の渦巻の現象は一大壯觀とす。潮の干満に際し海峡を通過する潮流がここに堰き止められ、内外水位に一一・五米の落差を生じ、同時に海峡の中央に凡そ三〇〇米の一大急流が狂奔す。潮流時速一四一・二〇米にて三百噸級の小汽船は押し流され航行困難なり。渦は直径一五―三〇米に及び表面漏斗形に凹み、輪轉する急流・水煙・渦巻は次より次へと新しく生じ蕩々蕩々相激し鳴門の大壯觀をなす。殊に新月・満月の大潮時、就中春の夕夕、夏の夕滿は最も壯觀にして、阪神地方より觀潮のため來遊する者多し。淡路の門崎に

は嘗て砲臺ありしが今は廢され觀潮遊園地となる。鳴門海峡附近は鯛及び和布の漁利に富み、鳴門鯛・鳴門和布として京阪神地方にて賞美さる。

【鳴門村】徳島縣阿波國板野郡の東北端。大毛・高島の二島よりなる。東北方の鳴門海峡を挟みて淡路島に對し西及び北は瀬戸町に、南は撫養町・里浦村に面す。面積九・四六方科。各島の土地概ね平坦にして中央に稍小丘あり、淡路島と相對する所は名高き鳴門海峡をなし潮流奔逸して頗る壯觀なり。海濱一帯は白砂青松相連り風景頗る良し。主産業は水産業にして鹽田廣く開け盛に製鹽をなし漁業亦頗る盛なり。農作物として米・麥の産あり。南端土佐泊浦より北端にバスを通じ孫崎の鳴門公園に至る。また土佐泊浦より淡路島の福良町までは海上約六里航路の便あり。大字土佐泊は大毛島の南端、南は小鳴門の水道を距て撫養町に對す。土佐日記の筆者紀貫之が歸京の際船を著けし所。今も小嶼地をなす。【鳴門公園】本村大毛島にある公園。鳴門海峡西岸の孫崎の突端展望臺の千疊敷和泉砂岩より成る丘陵を取入れし一帯の地にて、鳴門の渦巻の壯觀を眺むるに陸上唯一の絶好地をなし、足下に裸島・飛鳥を俯瞰し、前方近く淡路島の門崎を臨み、その間岩に激する潮流、急流を避けし岩陰の海水の小舟、また一方内海播磨灘の眺望等を志にするに好地地なり。

ナルト——成東町

千葉縣上總國山武郡の中部。北半は丘陵地にて森林あり。南半は九十九里濱沿岸平地の一部をなし水田多く、東部を東南に流る、境川の流域は沼田をなす。米を主産し他に繭・麥・植物油を産し丘陵の一部より石材を出す。縣道四方より集り葉落はその集合點に發達す。省線總武本線は町の中央を東走し成東驛（明治三十年設置）を置き、これより省線東金線を分岐す。この地は和名抄、武射郡新泉郷の内なるべく、成東は古文書に鳴渡・鳴戸・鳴土、たば成戸と書せるあり。元禄十三年下總國結城城主水野勝茂守勝長の領となり、世襲して維新に至る。明治元年水野親之助、版圖を本還し結城藩知事となり、同五年水更津縣管轄となり同六年千葉縣の所轄となる。本町は東金に亞ぐ郡内第二の市街地なるも住民は農業五割、商業三割なり。アララギ派の歌人伊藤左千夫は本町殿台の出身なり。【成東町肉食植物産地】指定天然記念物。成東町と豊成村の境を接する處にあり、一帯に濕潤なる沼野にして特異の濕生植物全部に互り發生し中に食蟲植物に屬する、いしもちさう・ながばのいしもちさう・まうせんこけ・こまうせんこけ・み・かきさき・むらさきみ・かきさき等を混じり、食蟲植物の種類に富み且つ多数に發生せるは稀有なることなるにより指定さる。【成東鎮】遺跡不動堂のある成東山麓にあり。

ナルハマ 鳴濱村

千葉縣上總國山武郡の東部。片貝町の北隣にて九十九里濱の一部をなす。全村平地にして西南境を境川東南に流れ水田・畑地多し。繭・米・麥を産し養鶏も行はる。海岸は單調なる砂濱をなし蠟の濱漁業行はる。縣道は片貝町及び西北方成東町に通じ成東町へはバスの便あり。

ナルミ 成美村

鳥取縣伯耆國東伯耆郡の西北部。北は赤碓町に、東及び南は以西村に、西は安田村に界す。面積二・三三方科。大山火山の北斜面にあり、南端は高里五百米余の船上山峠の北側にあり、山腹に沿うて傾斜し北部は百米以下に低下し、その北方を勝田川南北に横切る狭長なる村にて、河川の流域は耕地やや開けて米・繭その他の農作物を作る。また山腹は廣く牧場をなし牛・馬を飼育する外、林産物を多く出す。省線山陰本線は北隣赤碓町を東西に通過、赤碓驛へは約三軒半バスの便あり。明治三十一年豊定村・保安村を合併して本村を建つ。ナルミ 成實村 鳥取縣伯耆國西伯耆郡の西部。米子市の東南に隣接し、東は

ナルミ 鳴海町

愛知縣尾張國愛知

ナルミ——ナワ

那の西南部。西は天白川を距て名古屋市の西南に對し、西南は知多郡大高・有松二町に隣接す。東北部は一〇〇米餘の丘陵起伏するも、西南部の天白川流域には沖積地あり、名古屋市の平地に對し耕地よく開く。大名古屋市近郊町としての産業發達し、米・麥の産多く麥・鶏卵・蔬菜等の農産物に富み、また各種工業盛大となりつつあり。農業は大消費地名古屋市を控へ、また工業は名古屋工場地帯の隣接刺戟により益々發展を期待さる。社線名古屋鐵道は西南部を通じて鳴海驛・有松驛（共に大正六年設置）を置き、これに沿うて國道（東海道）通じ知多半島に至る縣道を分ち名古屋市にバス通じ交通便なり。また名古屋市に近接すると交通の便なるにより此地に鳴海大野球場を置かる。この地は知多郡有松町・大高町と共に和名抄、愛智郡成海郷の地にして、舊東海道の鳴海宿のありし所。また歌枕の名所として知らる。新古今集「浦人の日の夕暮なるみ湯歸る袖より千鳥啼くなり 通光」續古今集「あはれなれいかになるみの果なれば又あくかれて浦つたふらむ 光俊」更科日記「尾張國なるみの浦を過ぐるに、夕汐たみちて」明治天皇、明治元年九月、東京行幸の際、及び京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、並に同十一年北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。【成海神社】郷社。祭神、日本武尊・宮養媛命・健甕稻

ナレカワ 名連川村

熊本縣肥後國上益城郡の東北部。阿蘇火山外輪山の南斜面を占むる山村にして、西南部は濱町に接す。北は山嶺を隔てて阿蘇郡に界す。北境には阿蘇外輪山の一部約千米餘の高きに東西に連り、その山地次第に南方へ傾斜し全村斜面地を占め、中央に五郎瀧川・西御所川、東部に東御所川各々南流し、北に大矢宮林あり。林産多く外に椎茸・茶の産もあり。道路東西・南北に走り西方御船町へはバスを通ずるも交通概して振はず。

ナレシバ 馴柴村

茨城縣常陸國稻敷郡の西南部。龍ヶ崎町の西北隣にて、西は筑波郡、南は下總國北相馬郡と隣接す。西部に牛久沼あり。その東岸は低地にて水田あり。米を産す。東部は低き臺地に畑地あり。大麥・小麥を産す。陸前濱街道は牛久沼の東岸を北走し、省線常磐線これに沿ひ佐貫驛（明治三十三年設置）を置く。また同驛より龍ヶ崎町との間に社線龍ヶ崎鐵道通じ南中島（明治三十三年設置）・入地（明治三十四年設置）の二驛を置く。古くは榛谷郷の内なるべし。【金龍寺】大字若菜にあり。曹洞宗。太田山と號す。元弘元年新田義貞、天真自性を開山として開基す。のち新田

ナロ 社

臺灣新竹州竹東郡にある神社。油羅溪流域に位しアマヤル族のマリコラン前山番に屬す。明治四十三年ガオガン蕃の兇虐をらざるなき暴動に加擔し反抗せんとしたるを以て討伐を受けた。一時は銃器彈藥を提出歸順したれども、尙異心を抱き兇害を逞しうせんとしてを以て、再び大正元年討伐を受けたり。戸數六四、人口三八六（昭和十一年調査）。

ナワ 名和

群馬縣上野國佐波郡の南部。伊勢崎町の南にて利根川の北岸にあり。南は川を隔て、埼玉縣児玉郡の仁手村・旭村と對す。全村平地にて田畑拓く。農業行はれて米・麥を産す。縣道は伊勢崎町及び東方境町に通ず。また坂東大橋を経て埼玉縣児玉郡本庄町にも通ず。古くは和名抄、那波郡重東郷の地にして大字重探はその遺稱とす。高倉天皇の嘉永年間藤原秀郷の後裔那波二郎季廣この地に居し、其子太郎廣澄天曆元年木曾義仲に従ひ京畿に戰死す。次いで建久四年鎌倉幕府の重臣從五位大膳大江廣元の養子、那波掃部助政廣この地に封ぜられて那波城を築き、二十一代凡そ四百年間に及びしも遂に上杉謙信の攻略する所となる。その城址は大字堀口にあり。延寶九年大

宇戸谷塚は墓領となり、他は酒井氏伊勢時侯の領地となり以て明治維新に至る。

【名和】 愛知縣知多郡にありし村。明治三十五年、本村ほか三村を廢し、上野村を置く。

【名和村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の東北部。大山火山の北斜面地域を東南より西北に占め、東は光徳・逢坂二村に、西及び南は庄内・大山二村に、北は御來屋町に界し狭長の地形をなし、東北隅の少部分のみ海に面す。面積一七・五一方町。人口約一〇〇〇、一方町の密度僅に約七〇人。西南端は海拔七百米の山腹にありて北に傾斜し、北部は数十米の低地に下る。従つて殆ど山地よりなり、森林地及び牧場廣く開けて多數の牛・馬を飼育し山麓は桑畑・水田ひろく拓けて米作殊に多し。また大山西麓は名あり。省線山陰本線は東北隅を掠めて通り隣村光徳村の御來屋驛へは約七軒半バスを通す。和名抄に汗入郡奈和郷と云ふは本村及び御來屋町・庄内村の邊に當るものなるべし。延喜式に和奈驛とあるは奈和の誤にて即ち此地なりと。中世は名和莊と稱し名和長年の居邑なり。いま長年を首め一族將士を合祀せる別格官幣社名和神社あり。

ナワ 那波

【那波(郡)】 上野國(群馬縣)の古郡名。日本後紀、延暦十五年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は朝倉・朝田・田後・佐味・委文・池田・藤東の七郷を管す。朝倉郷及び朝田郷の半分は近世群馬郡に入る。明治二十九年四月佐位郡と合して佐位郡の新稱を建つ。

【那波泊】 土佐日記に見ゆる地名。土佐日記「九日(承平五年正月)つとめて大湊より那波のときりをおぼんとてこぎ出けり云々」と見ゆ。その地いま高知縣安藝郡奈半利町の奈半利川の河口の東の邊に在り。

【奈和】 名和村(鳥取縣)の古地名。その位置不明なるもナハは即ち難波にして、いまの大阪市の西部の邊を稱せしものならんと云ふ。またナハノツアラエ(圓江)とも稱し催馬樂にもその名稱見ゆ。萬葉・三ノナハのうらに鹽焼くけふり夕されば行きすぎかれて山にたなびくナワゼ 繩瀬 省線志布志線の一驛(大正十四年設置)。鹿兒島縣嶺南郡西志布志村にあり。

ナワテ 繩手

【繩手】 京都の地名。現今東山区繩手通、四條大橋の北、賀茂川の東岸、北は三條大橋・三條通に接す。長町女腹切・上ヤア此半七ののちのらめは、帳面も時明けず、今朝から爰へ面出しせぬ、何所へうせした、また祇園狂ひか宮川町か繩手か、朋輩共が知つてをろ、詮案せし。

【繩手村】 大阪府河内國中河内郡の東部。生駒山脈中部の西側に在り、西は布施市と三野郷村・若江村を隔て、東は山脈を隔てて奈良縣生駒郡平群村に界す。面積約九・四方町、東半は生駒山脈の西面に急傾斜をなすも、西半は肥沃なる平地にて、その西半は水田、東半は乾田よく拓け斜面の末には畑地あり。米・麥・蔬菜類を産し、また工業發達して工産少からず。中央には東高野街道ありて南北に貫通し、西北には新大阪電氣鐵道通じ、

ナワリ 奈半利町

【奈半利町】 高知縣土佐國安藝郡の中部海岸。奈半利河口左岸に在り、南は土佐灣に面す。室戸岬の西北約二〇町にあり。面積二七・九平方町。平滑なる海岸を底邊とし東北山中に延びたる三角の地形を有し、東南は山脈を以て羽根村に、西は奈半利川を隔て、田野町に界し、北は米岡の丘陵北川村に連る。村内概ね山地にして東北に高く西方河岸に向ひて傾く。流域に平地屈指耕地存す。海岸及び平野に集落集り農漁業を行ふ。米・麥・繭・蠶・鮭等の産あり。海岸に鐵道通じ高知市・室戸岬・中浦町間をバス往來し、また土佐汽船の寄港

ナン 南

【南庄】 臺灣新竹州竹南郡の東北隅。中港溪上流々城一帶の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三灣庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る奥地に在りて管内到る處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三灣庄に入る。地勢の關係上平野は殆どなく、田畑は中港溪畔及び丘陵間に散在するに過ぎず。米・茶・甘藷・蔬菜・果物類を主要農作物とす。畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・鶏その他の家畜家禽類にして、勞役用の水牛・黄牛を除き、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産は地勢上相當に注目すべきものあり、近時造林事業漸次隆盛に向ひ、木炭・木材・竹材を産出し、殊に木炭の産額多し。鐵産としては石炭あり、工業に製茶を除き見るべきものなし。此等の外、特殊産業として養蠶業行はれ、原蠶種殖事業により異常なる發達を來せり。交通は庄全體が山間の奥地なる關係上容易に發達せず、中港溪畔に沿ひ、郡の主要竹南より道路及び輕便軌道(手押臺車)を通じ、これによりて僅に外部との交通を保つに過ぎざるも、蕃地に入る要衝として重きを爲す。管内は總てと竹南一係に包括せられ、開拓は郡の西部海岸地方に比し遙に遅れて済の嘉慶初年までは尙未開の蕃界に屬し、同十年頃粵人黃新英なる者、蕃人に信を得て大字南庄に進入し、開墾に着手せしより漢人の移殖を企てる者漸く多きを加へたるも道光六年閩粵人の分類械闘に端を發する蕃擾等ありたる爲め、開墾事業は一時停頓し、同十二年に至りて漸く復活せり。爾後この一帯の開墾移殖著しく進行し、道光十三年の頃に大字南庄は既に一市場を形成せりといふ。明治二十八年帝國領土以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢し、南庄となり、新竹州竹南郡に編入せられ、現今に至る。

【南庄】 臺灣新竹州竹南郡の東北隅。中港溪上流々城一帶の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三灣庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る奥地に在りて管内到る處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三灣庄に入る。地勢の關係上平野は殆どなく、田畑は中港溪畔及び丘陵間に散在するに過ぎず。米・茶・甘藷・蔬菜・果物類を主要農作物とす。畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・鶏その他の家畜家禽類にして、勞役用の水牛・黄牛を除き、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産は地勢上相當に注目すべきものあり、近時造林事業漸次隆盛に向ひ、木炭・木材・竹材を産出し、殊に木炭の産額多し。鐵産としては石炭あり、工業に製茶を除き見るべきものなし。此等の外、特殊産業として養蠶業行はれ、原蠶種殖事業により異常なる發達を來せり。交通は庄全體が山間の奥地なる關係上容易に發達せず、中港溪畔に沿ひ、郡の主要竹南より道路及び輕便軌道(手押臺車)を通じ、これによりて僅に外部との交通を保つに過ぎざるも、蕃地に入る要衝として重きを爲す。管内は總てと竹南一係に包括せられ、開拓は郡の西部海岸地方に比し遙に遅れて済の嘉慶初年までは尙未開の蕃界に屬し、同十年頃粵人黃新英なる者、蕃人に信を得て大字南庄に進入し、開墾に着手せしより漢人の移殖を企てる者漸く多きを加へたるも道光六年閩粵人の分類械闘に端を發する蕃擾等ありたる爲め、開墾事業は一時停頓し、同十二年に至りて漸く復活せり。爾後この一帯の開墾移殖著しく進行し、道光十三年の頃に大字南庄は既に一市場を形成せりといふ。明治二十八年帝國領土以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢し、南庄となり、新竹州竹南郡に編入せられ、現今に至る。

ナン——ナン

【南庄】 臺灣新竹州竹南郡の東北隅。中港溪上流々城一帶の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三灣庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る奥地に在りて管内到る處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三灣庄に入る。地勢の關係上平野は殆どなく、田畑は中港溪畔及び丘陵間に散在するに過ぎず。米・茶・甘藷・蔬菜・果物類を主要農作物とす。畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・鶏その他の家畜家禽類にして、勞役用の水牛・黄牛を除き、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産は地勢上相當に注目すべきものあり、近時造林事業漸次隆盛に向ひ、木炭・木材・竹材を産出し、殊に木炭の産額多し。鐵産としては石炭あり、工業に製茶を除き見るべきものなし。此等の外、特殊産業として養蠶業行はれ、原蠶種殖事業により異常なる發達を來せり。交通は庄全體が山間の奥地なる關係上容易に發達せず、中港溪畔に沿ひ、郡の主要竹南より道路及び輕便軌道(手押臺車)を通じ、これによりて僅に外部との交通を保つに過ぎざるも、蕃地に入る要衝として重きを爲す。管内は總てと竹南一係に包括せられ、開拓は郡の西部海岸地方に比し遙に遅れて済の嘉慶初年までは尙未開の蕃界に屬し、同十年頃粵人黃新英なる者、蕃人に信を得て大字南庄に進入し、開墾に着手せしより漢人の移殖を企てる者漸く多きを加へたるも道光六年閩粵人の分類械闘に端を發する蕃擾等ありたる爲め、開墾事業は一時停頓し、同十二年に至りて漸く復活せり。爾後この一帯の開墾移殖著しく進行し、道光十三年の頃に大字南庄は既に一市場を形成せりといふ。明治二十八年帝國領土以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢し、南庄となり、新竹州竹南郡に編入せられ、現今に至る。

【南庄】 臺灣新竹州竹南郡の東北隅。中港溪上流々城一帶の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三灣庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る奥地に在りて管内到る處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三灣庄に入る。地勢の關係上平野は殆どなく、田畑は中港溪畔及び丘陵間に散在するに過ぎず。米・茶・甘藷・蔬菜・果物類を主要農作物とす。畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・鶏その他の家畜家禽類にして、勞役用の水牛・黄牛を除き、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産は地勢上相當に注目すべきものあり、近時造林事業漸次隆盛に向ひ、木炭・木材・竹材を産出し、殊に木炭の産額多し。鐵産としては石炭あり、工業に製茶を除き見るべきものなし。此等の外、特殊産業として養蠶業行はれ、原蠶種殖事業により異常なる發達を來せり。交通は庄全體が山間の奥地なる關係上容易に發達せず、中港溪畔に沿ひ、郡の主要竹南より道路及び輕便軌道(手押臺車)を通じ、これによりて僅に外部との交通を保つに過ぎざるも、蕃地に入る要衝として重きを爲す。管内は總てと竹南一係に包括せられ、開拓は郡の西部海岸地方に比し遙に遅れて済の嘉慶初年までは尙未開の蕃界に屬し、同十年頃粵人黃新英なる者、蕃人に信を得て大字南庄に進入し、開墾に着手せしより漢人の移殖を企てる者漸く多きを加へたるも道光六年閩粵人の分類械闘に端を發する蕃擾等ありたる爲め、開墾事業は一時停頓し、同十二年に至りて漸く復活せり。爾後この一帯の開墾移殖著しく進行し、道光十三年の頃に大字南庄は既に一市場を形成せりといふ。明治二十八年帝國領土以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢し、南庄となり、新竹州竹南郡に編入せられ、現今に至る。

【南庄】 臺灣新竹州竹南郡の東北隅。中港溪上流々城一帶の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三灣庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る奥地に在りて管内到る處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三灣庄に入る。地勢の關係上平野は殆どなく、田畑は中港溪畔及び丘陵間に散在するに過ぎず。米・茶・甘藷・蔬菜・果物類を主要農作物とす。畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・鶏その他の家畜家禽類にして、勞役用の水牛・黄牛を除き、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産は地勢上相當に注目すべきものあり、近時造林事業漸次隆盛に向ひ、木炭・木材・竹材を産出し、殊に木炭の産額多し。鐵産としては石炭あり、工業に製茶を除き見るべきものなし。此等の外、特殊産業として養蠶業行はれ、原蠶種殖事業により異常なる發達を來せり。交通は庄全體が山間の奥地なる關係上容易に發達せず、中港溪畔に沿ひ、郡の主要竹南より道路及び輕便軌道(手押臺車)を通じ、これによりて僅に外部との交通を保つに過ぎざるも、蕃地に入る要衝として重きを爲す。管内は總てと竹南一係に包括せられ、開拓は郡の西部海岸地方に比し遙に遅れて済の嘉慶初年までは尙未開の蕃界に屬し、同十年頃粵人黃新英なる者、蕃人に信を得て大字南庄に進入し、開墾に着手せしより漢人の移殖を企てる者漸く多きを加へたるも道光六年閩粵人の分類械闘に端を發する蕃擾等ありたる爲め、開墾事業は一時停頓し、同十二年に至りて漸く復活せり。爾後この一帯の開墾移殖著しく進行し、道光十三年の頃に大字南庄は既に一市場を形成せりといふ。明治二十八年帝國領土以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢し、南庄となり、新竹州竹南郡に編入せられ、現今に至る。

西流し来る忠西川を容れ、流域に些少の低地ありて農耕行はる。産物は粟・玉蜀黍等の雑穀及び大麻等の農産を主とし、また林産あり。西部は楚山大昌鎮山の鐵區の一部に當り金・銀・鉛を出し(※楚山大昌鎮山)、其他金滿鎮山・大興金鎮山・金・銀を、忠上金山より金を出す。東部を楚山・雲山間二等道路通じ、途中龍上河より忠西川に沿うて西方零下里に至る道路あり、交通便ならず。

【南面】朝鮮平安北道熙川郡の西南部。東北は熙川面に、西南は寧邊郡に接す。南部に妙香山脈の支脈連り、郡境に妙香山の最高峰なる昆崙峰(一九〇九米)を始め、香爐峰・法王峰(妙香山、一三九一米)等、昆崙峰の北段には芙蓉峰(一四三二米)等聳え、漸次西北に低夷す。清川江は東北より西南に域内中部を貫き、これと、東部山地及び西部の二〇〇—三〇〇米臺の臺地に發する支流との流域に狭長なる低地ありて田畑拓く。産物は大豆・粟・蕎麥・大麻・楮等を主とし、北部清川江左岸の安突鎮山より金・銀・鉛を出す。安突鎮山は蘇田鐵業會社の經營にして昭和十年中の産額は金・銀を合せて一八萬圓、同年六月末現在の使役人員一九七九なり。總督府鐵道滿浦本線は清川江の左岸を走り、熙川面界に近く富成驛(昭和九年設置)あり、安州邑より熙川邑に至る道路は河の野原に通じ、交通比較的便

なり。東部妙香山中は奇勝に富み、名勝舊蹟多し。

【南面】朝鮮平安北道宣川郡の南部。東萊江右岸の本陸部とその南方海上の身彌島及びその周圍に散在する洪建島・楸島・芝島その他十數箇の小嶼より成る。陸地部は東萊江の喇叭狀河口以西に横はる平地にして、北部に最高九〇米の低丘を見るのみ、耕地ひらけ農産に富む。身彌島は北は洪建島を隔てて本陸と相對し、西岸は宣川灣の東岸をなす。東北東—西南南の長さ一六軒餘、周圍約一〇〇軒に及ぶ大島。山脈南北に連り平地極めて少なく、中央に雲從山(三角山、五三三米)あり劍の如き奇形を呈す。島岸は屈曲に富み、特に西岸に著しき灣入ありて此處に泊港あり。桑落は灣首の身彌洞・東潭洞を主なるものとす。北端に堂後浦の泊地ありて、對岸へ渡船連絡あり。島は風光明麗、避暑に適し、近時外人の來遊する者多し。島の沿海は石首魚・蝦等の好漁場にて漁期には鮮肉は勿論、遠く内地より出漁する者多し。雲從山に將軍窟あり、嘗て明將毛文龍が鎮居し、のち李朝の將軍林慶業が屯營せしところ。身彌島の南端より南々西二六軒に蝦島あり、本面の最南端をなす無人の孤島にして、ウミノコ・ウツウ(善知鳥)・カラシラサギの類の群棲するを以て名高く、いま天然記念物に指定せらる。

【南面】朝鮮平安北道善川郡の中部南

し、水入川の一支出れを灌漑して平地の農耕行はる。産物は粟・粟その他雜穀を主とし、また蕎麥・蜂蜜を出す。春川・楊口・杆城を結ぶ改修道路は中部を東西に貫き、パスを通す。

【南面】朝鮮江原道平康郡の東南端。平康面の東南に隣り、東は金化郡に、西南は鐵原郡に接す。地は南端を頂點とする三角形をなす。鐵原高原の東縁に位し、中央に西方山(七一七米)聳るを最高とし、その西北に王在峰、北境に松羅山聳ゆ。漢灘川は東境を劃して南流し、この流域に狭長なる平地あり、王在峰の北麓高原地帯も近時耕地化されつつあり。産物は米・豆・大麻等の農産を主とし、また唐院金山等より金・銀を出す。社線金剛山電鐵南端を掠め亭淵驛あり、また平康・金化間二等道路、西北—東南に貫きパスを通す。

【南面】朝鮮江原道春川郡の西南部。春川邑との間に新南面を距て、南は洪川郡、西は京畿道加平郡に隣る。大白山脈の餘脈の成す山地にて北部の劍峰(五三〇米)を始め座防山その他五百米臺の山丘起伏し、北漢江は北境、次で西境を廻流し、洪川江は南境を蛇曲流し面の西端にて前者に合流す。之等の流域に僅に狭長の平地ありて耕地拓く。産物は粟・豆類・雜穀等の農産を主とし、洪川江の兩岸に跨る春洞金鎮山より金・銀を出す。北境の北漢江對岸に春川街道通ずるも城内の交通

偏。北方の泰川面とは川坊江を距てて相對す。南部に一〇〇—二〇〇米の丘陵連り、西端の林泉山(二四〇米)や著はるのみ。西境を黃河江流れて、北境を劃する川坊江に合し、その流域に廣き耕地拓く。川坊江は東北流し泰川邑の東方にて北江と合し、大寧江となりて再び面の東境に現はれ東南に去る。産物は米・粟・粟・大豆・棉等の農産を主とし、また漆の特産あり。安州より来る二等道路は南境の曲曲嶺(一五〇米)を踰え、中部を北走して泰川邑に至りパスの便あり、西部平地にも定州・青山市間の道路通じ、交通不便ならず。

【南面】朝鮮平安南道・黃海道を流るる河。大同江支流。平安南道陽徳郡の東部北大峰山脈中に發源し、南流して黃海道東北部を先行、谷山郡の中央にて西折、次いで平安南道と黃海道との境に深き峡谷を造りつつ西流を續け、湖川・栗里川等を合せ江東・中和郡を潤し、大同郡秋乙美面内に大同江に合す。流程約二〇〇軒。河口より一五〇軒間に舟楫の便あり、また下流流域は大同江平野の東縁をなして各種の農産に富み、また無煙炭・石灰石等の埋藏多く、何れも西鮮に於ける重要資源をなす。

【南面】朝鮮江原道東北部の河。金剛山の東南斜面なる新金剛に發源して南流、高城郡水洞内を廻流して流路を北に下流に於て松林寺西方より東の支流間に火田殘存す。産物は粟その他雜穀及び大麻等を主とし、また梨同嶽山ありて金・銀・硫・硫化鐵等を出す。地勢的關係上良路を通過せず、交通極めて不便なり。東南部の武徳里は桑落の最大なるものにて、定期に開く市場あり。

【南面】朝鮮江原道寧越郡の南部。寧越面に南隣し、西は忠清北道の堤川郡、南は同じく丹陽郡に接す。地東西に狭長にしてその長さ二二軒に及ぶも南北は最廣部に於て七軒、最狭部は一軒に過ぎず。域内に大白山脈の支脈連り東境に太華山(一〇二七米)聳え、北境を流るる平昌江の流域に低地を見るのみ。大麥・大豆・粟その他の雜穀と大麻・楮・煙草等を出し、煙草は寧越業と稱する良質のものにて郡中最多額を産す。副業に蕎麥・養蜂等行はる。寧越・堤川間の二等道路北部を東西に走りパスを通ずるも交通未だ便ならず。太華山に華山城址あり新羅時代の築城に係ると傳ふ。東部の廣川里附近に清冷浦と稱する處あり、李朝開國六十五年に端宗王その叔父首陽君に禪位後、此地に謫居す、平昌江に臨みてその遺址あり。

【南面】朝鮮京畿道漣川郡の南端。郡邑漣川の南二十餘軒、東と南は楊州郡に接す。北境に紺嶽山(六七五米)聳え北部は山地をなすも、中部以南は一〇〇—一五〇米の丘陵起伏するのみにて、漢灘川支流流域に耕地連る。産物は米・大麥・大

を容れ、次いで外金剛より来る神溪川と合し、高城邑を過ぎて海金剛の南縁にて日本海に注ぐ。流程六〇軒餘、上流及び支流流域は溪谷美を以て開え、楡岾寺・松林寺・神溪寺等の名刹、温井里温泉・三日浦等いづれもその沿岸にあり、中流の森林は大學演習林となる。

【南面】朝鮮江原道麟蹄郡の西部。麟蹄面の西南に隣り、西は楊口郡、南は洪川郡に接す。地は北に頂點を有する三角形狀をなし、南北の長さ二三軒、東西は南部に於て一五—一八軒あり。大白山脈の西斜面に當る山地にして、山岳丘陵起伏し、中部北偏を東より西に流るる昭陽江沿岸に狭長なる平地を見るのみ。住民は農を主生業とし、山地には處々火田を殘存す。産物は農産に蕎麥・粟・大豆・米・大麻等あり、山地より粟草を産し、また朴朝日金山・金富鎮山・三友金山(鐵區の一部)等ありて金・銀を出す。北部を春川・杆城間二等道路走り、途中冠峯里より西南洪川に至る路線を岐ち、何れもパスの便あるも、交通未だ便ならず。

【南面】朝鮮江原道楊口郡の東南部。楊口面の東に隣り、東は麟蹄郡、西南は春川郡に接す。南北の長さ二六軒に餘るも東西は平均五—六軒に過ぎず。大白山脈の支脈北より南に走り特に南半は山岳にして、その中央に烽火峰(八七五米)聳る。南麓を昭陽江東より西に流入蛇曲流す。龍山脈に北半部にては西に斜

豆・雜穀・蕎麥等なり。楡岾・楊州間の道路中部を縱走し、東方の京元嶺東豆川驛(楊州郡伊浪面)に近きも、交通未だ便ならず。

【南面】朝鮮京畿道加平郡の東南隅。郡邑加平の南約一〇軒。南は楊平郡に、東は江原道春川郡に隣る。南北一軒、東西平均五軒。西部は山地にて、西境に虎鳴山(六三二米)あり、東南に急斜し、東境、次いで南境を廻流する北漢江沿岸に僅かに低地あり。産物は粟・豆その他雜穀を主とし、北漢江に舟運の便あるも、道路は急坂多く交通便ならず。

【南面】朝鮮京畿道開豊郡の西部。開城府の西南約一〇軒。東部に五〇—八〇米の丘陵連るも西部は概ね低平にて耕地廣く横はる。而して西南部は漢江と禮成江との交會點に位し昌陵里の泊津あり。産物は米・粟・豆類・叭・藪等を主とし、また西北部は新塘金鎮の鐵區の一部に當り金・銀を出す。北境に近く京義本線走りその土城驛(中西面)に近く、交通不便ならず。

し軍浦場(明治三十八年設置)あり、東北境を京釜街道沿め、交通便なり。軍浦場は堂里附近の稱にて、昔軍兵を此處にて酒食せしめ慰勞せしにより軍他場と稱へたるを後轉じて現名とすといふ。此處より京城・水原にバスを通じ、また定期に開く市場あり取引活潑なり。

【南面】朝鮮忠清南道燕岐郡の中南部。鳥致院邑の南七軒、西は公州郡に接す。中部に百二十米の丘陵起伏し、轉月山(二六二米)・將軍峰等あり、美湖川(鶴川)は北より来りて東境を劃し、錦江に注ぎ、後者は錦南面との境を西南流しその右岸にやや廣き平地あり田畑拓く。産物は米・麥・棉等の農産を主とす。京釜街道中部を南北に走り鳥致院・公州・儒城の各地へバスの往來あり。街道に沿うて主邑燕岐あり、定期に開く市場ありて地方的中心をなす。

【南面】朝鮮忠清南道瑞山郡の西部。郡邑瑞山の西南約二〇軒。瑞山半島の主部より南に長く突出せる支脈にて、南端は白沙水道を隔てて安眠島と相對し、西に南海浦を擁して河口に居兒島・蔚美島等の屬島あり、東に淺水灣の北西支灣なる積老江を抱く。自華山の餘勢のびて造れる半島なるも、低平にて丘陵も五〇米を踰ゆるもの殆どなし。海岸はリヤス式海岸をなし、西岸には白沙濱を見るも、東岸は泥濘地にして、養蠶事業行はる。産物は米・麥・大豆等の農産、石首魚・鱈・鰯・鰪、太刀魚・食鹽等の水産あり。道路は泰安邑より南走して安眠島に達するものあれど、海岸には良泊を缺く。

【南面】朝鮮忠清南道扶餘郡の西部。鴻山面に南隣し、郡邑扶餘の西南一三軒。地東西に長く長さ約一〇軒、南北は二四軒に過ぎず。南境に一〇〇米臺の丘陵東西に連る外は頗る低平にて水田よく拓け、北部を東流する錦江支流金川と鴻山水利組合との灌溉の便を受け、農業頗る盛なり。産物は米・麥を主とし、酒・叭等の工産あり、東部は徳林金鑛の鑛區の一部に當り金・銀を出す。道路の改修よく行はれ、且つ鴻山邑に近きを以て、交通便なり。

【南面】朝鮮慶尙北道蔚陵島の東南部。島の中央に聳ゆる聖大峰(九八四米)の東斜面にて、海邊僅に低地あり。海岸は南端の國見崎より北端に至るまで概ね險岸にて、東北岸に近く竹島の屬島あり。産物は大豆・麥・馬鈴薯等の農産と鰻・鰪・鰯等の水産あり。また牧羊・養蠶行はる。東南岸の道河は島の主邑にして、元山・浦項及び嶺との間に定期航路開け、大豆・材木・鰻等を移出し、米・酒類・石油・織物等も移入す。蔚陵島廳・地方法院支廳・漁業組合等あり。島内の内地人は大部分此處に居住し、漁業・交通業・木工業及び仲買等に從事す。(蔚陵島神社)無格社。祭神、天照大神・大國主命・事代主命。昭和四年七月十九日創祀。

【南面】朝鮮慶尙北道金泉郡の東部。北は洛東江支流甘川を以て開寧面と對し、金泉郡の東五軒餘。地西北より東南に長し。東南境に金島山(九七七米)・鉢巖山(七八二米)屹立して、これより山肢三條西北にのび、西北部にはやや廣き低地ひらく。耕地はこの低地と東部窪谷に發達するも、窪谷は天井川を成し灌溉の利よろしからず。産物は米・麥・豆類・棉・藨等を主とし、また雲陽金鑛ありて金・銀を出す。北部を總督府鐵道京釜本線横ぎり大新(牙浦面)・金泉(金泉邑)の各驛に近く、釜山街道また城内を通じてバスの便あり。

【南江】朝鮮慶尙南道を流るる河。洛東江支流。道の西北境、小白山脈の徳裕山(二六〇八米)に發して南流、晉州郡西部にて東折し東北方に蛇曲流をつづけ、宜寧・昌寧・咸安の三郡界に於て洛東江に入る。流程約一八〇軒。支流の主なるものは上流より滄川・徳川江・順川江等あり。流域は咸陽・山淸・河東・晉州・宜寧・咸安等の諸郡に跨り、上流は森林地をなし、中流以下には沿岸に沃野拓けて道内主要農業地帯を成し、米・麥・棉の産多し。下流約七〇軒間に舟楫の便あり。沿岸は下流に總督府鐵道慶全南道線通ずる外、上流まで良路を通じてバス往來し交通不便なり。郡邑は晉州邑を第一とし、その上流には丹城・山淸・安義等の諸邑あり。

【南面】朝鮮慶尙南道東萊郡の中南部。東萊邑に南隣し、西は釜山府に接し、南は日本海に面す。東北部に三〇〇—四〇〇米の丘陵連り、西部釜山府との境にも二〇〇米前後の丘陵崎まるとも、北より来りて中部を貫き海に注ぐ水營江の沿岸と東部海邊とは概ね低平にして田畑拓く。農産は米を第一とし大麥・探麥・棉・大麻・甘藷・果實等あり、特に棉は耕作面積郡中第一なり。西部の廣安里には遺立女子棉作傳習所あり。養蠶・養蠶も盛に行はる。水産は鰻・鰪・鱈・蛤・布苔等を主とし、中里に漁業組合あり。總督府鐵道東海線は北より来り海岸に沿ひて水營・海雲臺の二驛(昭和九年設置)あり、海雲臺と釜山・東萊間にはバスの往復ありて交通便なり。海雲臺は豊富なる温泉の湧出によりて温泉プールを開設し、旅館設備完備し、避暑地を兼ねる温泉場として遊客多し。泉質、無色透明の鹽類泉。多量のラザウムを含有し、神經衰弱・婦人病・消化器病・皮膚病等に效あり。其位置海邊に臨み風光明媚、且つ海水浴場としても著はる。海雲臺は面中唯一の市街地にて人口二三三三、うち内地人二〇六(昭和十一年末)。水營も亦白沙淺淺の海水浴場にして設備よく、夏期浴客を以て賑ひ、附近にはゴルフリンクあり。

【南面】朝鮮慶尙南道南海郡、南海島の西南端にて郡邑南海の南七軒。北部に松

岷山(六一七米)を最高とする丘陵東西に連り、南部にも二—三百米の丘陵崎まるとも、中部に東西に長く低地を見る。海岸は險岸をなす所多く、東部に釜江海の灣入を擁するも良泊を缺く。産物は米・麥・棉等の農産、鰻・鰪等の水産を主とす。中部低地にバスを通ずる道路走るも交通未だ便ならず。

【南面】朝鮮全羅南道潭陽郡の南端。郡邑潭陽の南一五軒餘、東南は和順郡、西は光山郡に接す。小白山脈支脈の成す山地にて、西南方に無等山(一一六七米)聳え、餘脈城内に起伏し、東北境に國守峰(五五八米)あり、山肢東南に延びて郡界を成し、北端に發源する同福川支谷に狭長なる低地あり田畑拓く。なほ西部山地には甌若江の一支流れてこの流域にも些少の耕地あり。産物は米・麥・藨等。谷沿ひに光州・同福間の道路通ずるも、交通未だ便ならず。無等山麓の鶴仙里に唐成通五年の建設に係ると傳ふ石塔あり高さ三米餘、十層八門を有し彫刻巧妙なり、附近一帶は往昔開仙寺ありし地なるも、いま寺基のみを存す。

【南面】朝鮮全羅南道長城郡の東南部。長城面に南隣し、南は光山郡に接す。西部は丘陵地帯を成すも、中部以東は概ね低平にて榮山江支流これを灌溉し、地味肥沃、農産に富む。産物は米・麥・大豆・棉花・叭等を主とし、また煤成金鑛の鑛區の一部に當り金・銀を出す。京城・水

浦間の一等道路中部東偏を貫き、湖南本線の長城驛(長城面)または林谷驛(光山郡林谷面)に近く、交通便なり。

【南面】朝鮮全羅南道和順郡の東部。舊郡廳所在地同福面に南隣し、東は順天郡、南は寶城郡に接す。中部以東に東北より西南に走る山脈あり、東北順天郡との境の母后山(九一九米)を始め鶴峯その他四〇〇—五〇〇米の山連なり、西北境にはこれに並行して走る天雲山(六〇二米)・九峯山・天王山等を連ゆる山脈あり。寶城江支流なる同福川は北より来り中央に於て日變時に發する支流を併せて東部山地に横谷を穿ちて東南流し、流域に狭き平地ありて田畑拓く。産物は米・麥・棉・大麻を主とし、また薄荷・果實の産あり。同福川に沿ひ同福に至る道路の外、西北方の東面より来り城内を東南に横ぎりて棧橋邑へ出づる道路あり、何れもバスを通じ、交通不便ならず。

【南面】朝鮮全羅南道麗水郡の一面。麗水半島の南部に抱擁せらるる大灣、芻荻洋の南方にて、金鰲列島と、その北側なる金鰲水道によりて隔てらるる斗里島・禾太島・横千島等の諸島より成る。金鰲列島は南北一七軒の間に列なる金鰲島・安島・所里島の三大島と附近の大釜島・雁馬島・鶴島その他の諸島の總稱とす。金鰲島は列島中の北島にて主島を成し、北西—東南の長さ約九軒。樹木密茂し、北端に白山峰(龍頭山、約三九〇米)、南端

には望山(約三四〇米)あり、島岸は險崖をなすところ多し、南東の半尾浦、西岸の幹浦・斗母浦等に好碇泊地を有す。地味豊かにて米を除く外、雜穀を多く産し、養蠶盛なり。牛鶴里に面事務所あり、其他斗母里・心張里等を主要聚落とす。安島は磐城水道を隔てて金鰲島の南方にあり、類地によりて東西の二部に分け、山丘起伏し周圍は險崖なれど自今灣・以也灣等の良泊地あり。所里島は安島との間に新江水道と稱する深水道を以て距て、南北六軒餘、東西約二軒あり、南端に甌峯(約二五五米)屹立し、北側に驛浦灣、西側に吐明浦等の灣入あり、特に前者は灣内水深く碇泊に適す。南端に所里島燈臺(明治四十三年設置)あり、燈質は連四白光にて、六秒半を隔てて三秒半間に三閃光を發し、光達二三浬、霧信號装置あり、霧笛は五〇秒を隔てて四秒吹鳴し、なほ豫備霧鐘を備ふ。以上諸島の近海は好個の漁場多く鱈・鯛・鱈・鰻等の漁獲多からず。

【南面】朝鮮全羅南道長興郡の中南部。長興面に南隣し、西は康津郡に接し、東は得浪灣に臨む。もとの南上面と南下面を併合新設せし面にて、東西一五軒、南北七—一〇軒あり。西部に東北—西南に連る丘陵あり、北に徳佛山(五二四米)・廣春山、南に芙蓉山(六〇八米)聳え、東部にも老僧峰(三三九米)を最高とする丘陵あれども、其他は概ね低平にして、郡中

の主要農業地帯の一を成す。海岸は低沙濱を成し、南に叩馬島・長串島の屬島あり。産物は米・麥・棉・藨・叭・織物(苧布)あり、沿海には海苔の養殖行はる。中部を長興・竹川場間の自動車道路通す。

【南一画】朝鮮忠清南道清州郡の中部南端。清州邑との間に四州面を距つ。東部中央に甌峯(四三二米)・冠峰の二峰崎まり、その東南の裾を洗ふ無心川は一たび南隣加徳面に入りたる後、本面の西部を北流し、流域に田畑拓く。特に西部平地は清州平野の一部を成し地味肥沃、各種の農産に富む。産物は米・大麥・豆類・棉・煙草・蔬菜等を主とし、西部に住山金鑛の鑛區ありて金銀を出す。清州邑より文義・米院里に至る各三等道路通じバスの便あり、交通不便ならず。

【南一画】朝鮮全羅北道錦山郡の南部。錦山面の東南に隣り、南は鎮安郡、東南は茂朱郡に接す。南北一三軒、東西平均五軒の狭長なる地域を占む。南部は蘆嶺山脈に屬する山地にて、南境に鈞峰(六〇九米)あり、山肢一は東境にのびて徳基峰(五五八米)等を起し西に向つて急斜し、一は西境に二—三百米の丘陵を連ね、此等兩山地の間に錦江支流鳳凰川北流し沿岸に狭長なる平地ひらけ、農耕行はる。産物は米・麥等の外、煙草・楮・入蔘等の特用作物あり、また萬年・寶泉

ナン——ナンイ

等の各金銀の鑛區の一部に當り金・銀を
出す。谷沿ひに錦山・鎮安間三等道路通
じバスの便あり交通比較的便なり。

ナンエツ 南越鐵道 社線。福
井縣の北部にあり。新武生驛(南條郡武
生町)に起り栗田部を経て戸ノ口驛(今
立郡北中山村)に至る一四・三軒。新武
生驛にて省線北陸本線及び社線福武電車
に接続す。軌間一・〇六七米、蒸氣・瓦
斯倫運轉にて、省線とは連帶なり。

ナンカ 南下面 朝鮮慶尙南道居昌郡
の東南部。西は黃江を隔てて居昌面と相
對し、東南は陝川郡に隣接す。城内小白
山脈の支脈の成す山地にて、北境に金貴
峰(八四五米)、東境に朴儒山、中部に日
象峰(六二八米)・紺士峰等あり。洛東江
支流黃江西南境を劃して流れ、その支谷
と東南部の加川流域とに僅に低地ありて
耕地ひろく。産物は米・麥・棉・大麻等
の農産を主とし、養蠶・養豚行はれ、ま
た千歳鐵山ありて金・銀を出す。黃江に
沿うて陝川・居昌を結ぶ二等道路通じバ
スの便あるも、交通概して不便なり。黃
江左岸の梁項里に心蘇亭の勝景あり。

ナンカ 南化庄 臺灣臺南州新化
郡の東部。東及び東南は高雄州に接し、
西及び西南は楠西庄・玉井庄に、北は嘉義
郡大埔庄に、南は左鎮庄にそれぞれ隣接
す。地形は南北に狭長にして、管内は概
し山地、曾文溪の一支流、庄の東北方山
地に發源して中央を貫流し、西南より出

づ。即ち地勢は東部・西部高くして中央
會文溪に沿ふ處低し。住民は内地人・本
島人その他にて合計六一七一人を有し、
總戸口は一七四戸を有す。本庄は僻遠
の地に位置し、また地勢諸種の産業に適
せざるを以て庄勢甚だ振はず。農業は本
庄に於て最重要なる産業にして、甘蔗を
第一とし米・甘藷・落花生・胡麻等を産
し、他に芭蕉・龍眼・柑類・椪仔(マ
ンゴー)・柿・李・鳳梨等を産す。畜産は
専ら農家に於てする牛・水牛・豚・家禽
等にして、工業に於ては僅かに粗摺及び
精米業を見るのみ。交通は甚だ不便にし
て、主なる道路は僅かに、玉井(本郡)・

旗山(旗山郡)道路の本庄南部を通過する
あるのみ。公學校一、分教場一ある他、
社會教化機關として青年團・國語講習所
を有す。庄役場は大字南化にあり。本庄
の地は、清領當時建てられたる内新化南
里・楠梓仙溪東里・楠梓仙溪西里の各一
部を合したる地にて、其の開拓は地勢上
甚だ遅れ、道光年間に入り、其れ以前は
山番の跳梁に任せられたる地なり。上記
三里は我領臺後も其行政區劃として用ひ
られ來りしが、大正九年十月の地方制度
改正に際し、内新化南里中の南、中坑・
菁埔寮、楠梓仙溪東里中の阿里關・大邱
園の二庄、及び楠梓仙溪西里中の竹頭崎・
北寮の二庄を有したる地を以て一庄を建
て、南化庄とし、臺南州新化郡の管轄下
に屬せしめたり。同時に上記の各庄は南

新、外に支線として羽衣・高師濱間一・
四軒、天下茶屋・天王寺間二・四軒、橋
本・紀ノ川日間二軒の各線あり。軌間は
一・〇六七米、電車を通じ、省線と連帶
運輸をなす。

【南海浦】 朝鮮忠清南道西海岸の一灣。
瑞山半島の西南海岸にて、東側の一小半
島を以て淺水灣と相連て、右小半島の突
端なる鞍馬島より北西角の新津島までの
灣口一八軒、奥行約二〇軒。灣口に居兒
島・蔚美島等泛ぶ。灣奥は泥濘を成し、
一部鹽田に利用せられ、灣内東側は一帯
に低沙濱をなす。北西角の新津島對岸に
安興の良泊地あり。

【南海郡】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の
一。道の西南部に位する島郡。本郡は小
白山脈末端部の沈降の結果成りし地域に
て、道中第二の大島なる南海島を始め、
昌善島及び附近の島嶼より成り、北は水
道を経て泗川・河東の二郡と、西は麗水
海灣を以て麗水半島と相對す。面積三五
九・七方軒、道各郡中最小なり。南海島
は朝鮮叢島中、瓦濟島・珍島に次ぐ大島
にて面積二九七方軒餘、海岸線延長一七
二・五軒に達す。島の中央に於て地峽に
より殆ど二島に分たれ、その地峽の北に
南海灣(江津海)、南に蒼江灣の二大灣を
擁し、東南岸には彌助灣・木島灣等の好
泊地あり。彌助灣附近には島島・虎島・
鼓島等より成る彌助群島、その東北に馬
鞍島・豆島、蒼江灣口には橋島等の各島

化庄下の大字となり、南庄は南化、阿里
關は西阿里關、大邱園は西大邱園と改稱
せらる。

ナンカイ 南海

【南海村】 三重縣伊勢國度會郡の東南
岸。五ヶ所灣の西岸に沿ふ。北境及び西
境には高さ二百米臺の山嶺連り西南境に
局ヶ頂(三一米)聳ゆ。東岸には山脚
海に迫りて岬角突出し、その間に小支河
多く、その岸に中津濱浦・迫間浦・磯
浦・相賀浦等の聚落あり、全戸数の五割
は沿海漁業、二割は遠洋漁業を營み、生
産額の大部は漁業に依存し、殘餘の三割
は農業に従事し米・麥・藪等を産するも
その額多からず。海上による外、陸上交
通は不便なり。明治二十二年相賀浦・迫
間浦・磯浦の三部落を合併して村制施行
の際、南海村を建てミナミと呼びしが、
のち之をナンカイと改む。

【南海道】 畿内八道の一。畿内及び山陽
道の南に位し、文武天皇の朝全國を分ち
て五十八國二島とせし時以來、紀伊・淡
路・阿波・讃岐・伊豫・土佐の六國に分
れ、いま行政上は和歌山・兵庫・徳島・
香川・愛媛・高知の各縣の管轄に屬する
も、紀伊國の東部の二郡のみは三重縣の
管下にあり。南海道の名は早く文武天皇
の朝に顯はれ、使を本道に遣はして官民
の情況を視察せしめられたることあり。本
道のうち、紀伊は畿内と交渉深く、淡路
及び阿波・讃岐・伊豫の諸國は中國地方

の影響を受くること多し。本道の主要部
をなす四國島を全部略せば天正の頃
の土佐の長曾我部元親なり。されど豊臣
秀吉のために攻められ僅かに土佐一國を
保ち、秀吉は徳島に蜂須賀氏、高松に生
駒一正、伊豫松山に加藤嘉明、板島(い
ま宇和島)に藤堂高虎等の諸侯を置きし
が、關ヶ原役後、徳川家康は紀伊和歌山
に淺野幸長を、淡路洲本に脇坂安治を置
き、加藤嘉明を松山に、藤堂高虎を今治
に移し、宇和島に伊達氏を置き、山内一
豊を土佐に封じたり。大阪役後には洲本の
脇坂を伊豫の大洲に移し、池田忠雄をそ
の後に封す。のち元和年間には藤堂氏を
伊勢の津に移し、徳川頼宣を和歌山に封
じ、寛永年間には水戸の支藩松平氏を高
松に封す。爾後若干の轉封ありしも、幕
末に至り、紀伊には徳川氏があり、その
家老安藤氏は田邊、同じく家老の水野氏
は新宮に居りしが、明治維新後藩屏に列
せらる。徳島には蜂須賀氏、讃岐の高松
に松平氏、丸龜に京極氏、多度津には其
支藩京極氏があり、伊豫には松山に久
松氏、宇和島には伊達氏、大洲には加藤
氏、今治に久松氏、吉田に伊達氏、小松
に一柳氏、新谷に大洲の支藩の加藤氏等
の諸侯ありしが、これ等の藩は何れも明
治四年には廢合してその数を減す。即
ち、紀伊國は和歌山縣が主要郡の一部を
繼承して一國を管し、淡路・阿波は名譽縣

あり、また金・銀を産出し、沿海には北
嶺・船多し。南海道は面の中部東側に位
し、此地を中心として島内各主要地及び
北方河東等に何れもバスを通ず。南海郡
廳・地方法院出張所等の官衙を始め、公
立農業實修學校・酒造組合・金融組合等
あり。

ナンカイ 南涯 朝鮮江原道高城郡新
北面の里名。總督府鐵道東海北線郡の南
涯驛(昭和七年設置)あり。

ナンカバ 南樺鐵道 社線。樺太廳
鐵道東海岸線の新興驛(大泊郡千歲村)より
留多加驛(留多加郡留多加町)に至る一
八・六軒。軌間一・〇六七米、蒸氣運轉
にて、省線と連帶なり。

ナンカン 南串面 朝鮮平安
南道大同郡の西南部。平壤府の西南約五
軒。西は大同江を隔てて江西郡に、南は
その支流昆陽江を隔てて中和郡と相對
す。大同江平野中に位し、北部に二〇一
三〇米の丘陵起伏するのみ。大同江は面
の西部に於て幅員を増し約三軒に及ぶと
ころあり、江上には南北三軒、東西一
一・五軒の碧只島横はる。地味肥沃にし
て、米・小麥・大豆・棉等の農産に富
み、大同江には魚介の利あり。城内に幹
線道路を通ぜざるも西部に平壤・石陽里
(中和郡)間の道路走りてバスを通じ、大
同江の舟運と相俟つて交通便なり。北部
の大同江には謂ゆる樂浪古墳處々に散在
す。※樂浪

を徳島に置きこれを治め、更に六年二
月には讃岐國にありし香川縣を廢してこ
れを名東縣に合併して、讃岐國をも兼轄
することなれり。のち明治八年九月に
至り香川縣を再置し、更に九年八月に至
れば名東縣を廢して淡路國を兵東縣に移
管し、香川縣を廢して讃岐一國を愛媛國
の管轄に移し、阿波一國を高知縣の管下
に屬せしめしが、明治十三年三月徳島縣
を復活して阿波國を管し今日に至る。伊
豫國には松山以北の北豫には明治四年十
一月に松山縣を松山に置き、南豫には宇
和島縣を宇和島に置く。前者は翌五年二
月に石鐵縣と改め、後者は五年六月に神
山縣となりしが、更に六年二月には前記
二縣を廢して愛媛縣を置き伊豫一國を管
せり。同九年八月には既記の如く香川縣
を合せて愛媛縣は豫讃兩國を管せしが、
明治二十一年十二月香川縣を復活して讚
岐國を移管し今日に至る。土佐國は最初
より高知縣を置きて一國を管し、明治九
年より同十三年までは一時、阿波國をも
管せり。

【南海鐵道】 社線。大阪市を基點とし、
その附近及び和歌山市並に和歌山縣高野
山方面を連絡する鐵道。本線は大阪市南
區難波新地の難波驛より天下茶屋・堺・
岸和田を經由、和歌山線の和歌山驛に至
る六五・四軒、高野線は大阪市浪花區櫻
川町の沙見橋驛を基點とし、和歌山縣伊
都郡九度山町の高野下驛に至る五四・八

島あり。南海島は島内山嶺にて平地に
乏しく、最高點七八六米を有する翠雲山
は西部中央に、その南に松嶺山(六一七
米)、東方に風景絶佳を以て聞ゆる錦山
(六八一米)あり。南海島は郡内八面のうち
昌善(※昌善面)を除く七箇面に分た
る。本郡の主産業は農業にして米(八萬
石)・裸麥(七萬石)・棉(一四〇萬斤)・大
麥・粟・麻等を産し、特に麻は良質を以
て知られ、牧羊・養蠶も行はる。水産物
には鮪・鮪・太刀魚・鱈・石首魚・鰻・
牡蠣等あり、南海・彌助の兩港をその根
據地とす。鐵物には金・銀・銅・鉛等の
埋藏あれど採行中のものは少なし。工業
に織物あり。交通は島内主要聚落を結ぶ
自動車道路ありて不便ならず。本郡はも
と任那の地にて、新羅神文王始めて轉也
山郡を置き、景德王これを南海と改稱
す。李朝太宗王の時、河東に合して河南
縣と稱せしが、のち再び河東縣を置き、
晋州の一部を歸屬せしめて河陽縣と號
し、また南海と稱へ、李朝開國五百四年
(明治二十八年)に至りて郡と改め、以て
今日に及ぶ。

【南海面】 朝鮮慶尙南道南海郡のほぼ中
央。南海島の中北部なる江津海(南海灣)
に臨む。西に望雲山、南端に松嶺山等聳
ゆるも、東部海岸地帯は低平にて、農業
盛んに行はる。住民は農を主産業とし、
米・麥・棉等の農産多く、副業は養鶏特
に盛なり。工業は織物・蠶加工品・酒類

【南郷村】 靜岡縣遠江國小笠郡の中部。掛川町の南に隣り、西は西南郷村に隣接す。面積二〇四方軒の小村。南部に百米餘の丘陵起伏するも北部は連川による沖積低地にして田畑よく開く。米・茶を多産し繭も出す。縣道は西部を南北に通じて掛川に至り、國道(東海道)および省線東海道本線は北部を東西に走り掛川驛(掛川町)にはバス通す。人口は大正九年六五二人、同十四年七二九人、昭和五年七九六人、同十年八六三人と増加し、同十年の一方軒密度は四二三人にて全国平均の一八一人より多し。

【南郷村】 福岡縣筑前國宗像郡の南部。赤間町の西南に接し南は鞍手郡に界す。南の大半は丘陵山地起伏し西境に許斐山(二七二米)聳居す。北部は低地開けて釣川支流の小河西流し北境を出でて釣川に合す。低地に田畑ありて米・麥を産し林産もあり。省線鹿兒島本線赤間驛は北約一軒、東郷驛は西北約一五軒にありてバスを通す。古くは和名抄、宗像郡野坂郷の地とす。大字野坂字王丸はもと許斐といひ、許斐山に城址あり。宗像大宮司の家人許斐氏の據りし所とす。明治四十四年宮田・野坂兩村を廢し本村を置く。【熊野神社】 大字王丸に鎮座。郷社。祭神、事解男命外四神。文徳天皇天安元年熊野權現を勧請すと宗像社記に見ゆ。小早川隆景の崇拝社。例祭、五月五日。【南郷村】 宮崎縣日向國東臼杵郡の西南

隅。小丸川の水源地を占め、西は西臼杵郡に、南は兒湯郡にそれぞれ界す。境域には高峰峻嶺多くして地勢險しく即ち空野山(一二七米)・櫛鼻峠(二八九米)・三方嶽(一四七六米)・九俣山(一三七五米)・笹峠(一三四〇米)・高峰・加子山等南境より西境・北境及び東北境へ蜿蜒連りて村境を限り、西北に源流する小丸川迂曲しつゝ中央を東南流し、南部にはその支流渡川谷谷をつくりて東流し東南約四軒にて本流に合す。小丸川沿岸に稻耕地を見、畚谷には森林多し。農を主とし林業・商業行はる。主産物は米・木炭にして特産に椎茸あり。商業は二、三年前までには殆ど林業と同程度の勢を有したれど、椎茸方面の産物が凡て住友の百萬圓道路に奪はれてより急に衰へを示し物寂しき村と化せり。小丸川に沿ふ神門より發する縣道谷を下り、東方約二五軒にある省線日豊本線高橋に至るバスあり。【神門神社】 大字神門に鎮座。郷社。祭神、伊弉丹命・事解男命外六神。元正天皇の養老二年の創建にして、村民崇敬の社。例祭、陰曆十二月二十日。【南郷村】 宮崎縣日向國南那珂郡の東岸。油津町の南方約二軒にあり前面に大島横はる西境に鯛取山(三六七米)・鹿鳴山(三六二米)等ありて山地を繞らし、中央部に北は高上川東流して沿岸に低地をつくり、北部には細川川ありて平地をつくり、東北流し北陸郡田村に出で再び南

下して東北境にて海に注ぐ。東岸やや屈曲に富み北方より南方へ觀音崎突出し内側に外ノ浦灣を抱く。こゝに外浦灣ありて日向沿岸に於ては細島と共に最佳の泊所をなす。この灣の沿岸に低地廣し。東方海上には大島浮び北を外浦崎、南を鞍崎鼻と言ひこゝに燈臺あり。半農・半漁の村にして主産物は米・生魚にて特産物には榮松・日井津兩港の鮎(年産一、二萬圓)・蟹(一、二萬圓)・鱈(五萬圓)等あり。細川川に沿ひて縣道走り北方低肥町と西方志布志町間のバスを通す。古くは和名抄、宮崎郡低肥郷の内なるべし。村名は低肥南郷の謂にて建久岡田帳には島津庄寄郡、低肥南郷百十町と見ゆ。【ナンコダイ】 南湖大山 臺灣臺北州・臺中州・花蓮港廳の境上に峙つ。標高三七九七・三米。西稜はビヤナン鞍部を経て次高山に連り、南方は合歡山に續く。宜蘭濁水溪・タッキリ溪・大甲溪等いづれもその山脈に源を發し、四方に流下す。【ナンサツ】 南薩鐵道 社線。鹿兒島縣の南西部、薩摩半島にあり。鹿兒島本線の伊集院驛より起りて南に走り日置・伊作・阿多・加世田等を経て半島南岸に沿ふ枕崎に至る。加世田より西方海岸に近き萬世町の薩摩大崎町驛に通する支線(二・五軒)あり。また阿多驛に於て社線薩南中央鐵道に、枕崎驛に於て東方海岸線に山用町方面に通する省管バスに接

續す。軌間一〇六七米、動力は蒸氣・ガソリンにして、省線と連帶運輸をなす。【南山】 朝鮮咸鏡北道鐵城郡の北西部。鎮城面に南隣し、西は豆滿江を隔てて滿洲國開島省和龍縣と相對し、南は會寧郡に隣る。城内、小長白山脈の餘勢のびて山地をなし、南部には約五百米臺の臺地横はり、曲流する豆滿江岸に狭長なる平地を見るのみ。産物は麥・豆類・大麻等を主とす。滿鐵鐵道總局北鮮西部線江岸に沿うて南北に走り、鶴浦・新田・間坪・上三峰の各驛(何れも大正九年設置)あり、上三峰より豆滿江に架せる國際鐵橋(三峰橋)によりて滿洲國の朝開線に連絡し、龍井村・朝陽川等に至る外、龍井村へバスを通じ、また鐵道の東方に穩城・會寧間の二等道路通す。上三峰は三峰洞の一部にして、もと江畔の一農村なりしが、大正九年開闢鐵道(今の北鮮線)の開通により奥地開闢との交通の要衝となり、内鮮人の居住する者多きを加へ、昭和二年に國際鐵橋架設してより益々繁榮を來せり。現在戸數約八百、人口三千三百餘の都邑となり面事務所・憲兵分遣所・稅關支署等あり。京圖線南總線(朝開線)の廣軌改築後は新京と清津・京城方面とを繋ぐ交通の要點となり、軍事上、經濟上今後益々重きを加へんとす。對岸の開島省開山屯屯の間に貿易行はれ、昭和十一年中貿易額に轉移出八

七萬二千圓、轉移入一萬四千圓にして、果年産増の趨勢にあり。前記の三峰橋に延長三二一米、人道・軌道に分れ、日支合辦の出資により朝鮮總督府鐵道局に於いて架せるもの。上三峰驛の東北約一軒の山上に烽臺臺址あり。往時當地方の住民が三箇の烽臺を設け女眞族の侵寇に備へたるものにして、地名は蓋し之に因る。新田は三峰洞の南方江岸に位し僻村に過ぎざるも、間島大森洞と極めて接近し、警備上の要地として知らる。【南山】 ↓文山(朝鮮咸鏡南道) 【南山金山】 朝鮮忠清南道の鐵山。鎮區は公州郡灘川面と扶餘郡草村面とに跨る。鐵種は金及び銀とす。本山一帯の地質は複層片麻岩及び眼球片麻岩にして時に雲母片岩を介在し、また花崗岩及び煌斑岩の岩脈をなす。鐵脈は金石英脈にして黄鐵鐵・方鉛鐵等を隨伴し、稀に自然金を産することあり。鐵脈は通幅一米餘のものを始め大小十數條あり。本山は大正四年搗鐵製鍊を開始せしが、同十一年乃至昭和五年に藤田鐵業株式會社の所有に移り昭和七年三月稼行に再著手せり。主として徳太制により採業し、採鐵は論山驛に搬出し、元山藤田鐵業買鐵所に賣鐵す。【南山面】 朝鮮慶尙北道慶山郡の南部。郡邑慶山の東南約八軒、南部の清道郡との境及び西部に五〇〇—六〇〇米の丘陵連なり、餘脈北に數條の、東境には龍

山あり。平地は北部の琴湖江支流沿岸と中部の支谷間にあり、また丘陵地帯の間に灌漑用溜池を設く。農耕盛に行はれ米・大豆等いづれも眞實のものを産し、其他大麥・小麥・棉花・葉煙草・藪等の農産あり。東部を南北に通する道路あり北方慈仁に近きも、交通未だ便ならず。【ナンサン】 南山會 關東州金州民政署管區の西南端。金州地峽部の西北面に於て東北は金州會につづき、西南は大連民政署管内の大連灣會に隣り、西北は金州灣に臨む。地東北より西南に延び西南境上には大旺山(二三六米)・烟筒山(一〇五七米)の丘陵相連り、東北部に南山(一一七米)あるもその他は概ね平坦にして農業行はる。大連・金州間の道路中部を斜に走り、また滿鐵連京線の大房身驛(大連灣會内)・金州驛に近く交通不便ならず。南山は高からざるも金州地峽の中央部を扼する要害にて日露戰役に奥大將の率ゆる第二軍が筑紫・平遠・赤城・島海四艦の協力を得て死守する露軍を攻撃し惡戰苦闘遂に陥落せしめし古戰場として著はれ、當時露軍の掘鑿せし塹壕の趾は今も松林の内に残れり。山頂に戰蹟塔、附近に鎮魂碑建つ。【ナンシ】 南市 朝鮮平安北道龍川郡外上面の東北部に位する洞。總督府鐵道京義本線の南市驛(明治四十一年設置)あり。此地は鐵道開通以前は微々たる寒村なりしが、驛設置以來龍巖浦への最短經

路となり、更に大正水利組合、不二農場、總督府農田等の設置により移住者頗る増加し今日の盛況を見るに至る。海岸地帯の不二農場・南市鹽田の施設は全鮮稀に見る大規模の事業にて有名なり。【ナンシ】 南四面 朝鮮京畿道龍仁郡の西南部。郡邑金良場の南南西約一〇軒。北部には負見山の山脈數條城内に延びて一―二百米の丘陵地帯を成し、南東境にも同高の丘陵連るも、中部より西南部へ互りて振威川の流域に廣き平地あり田畑拓く。産物は米・麥・大豆・棉・蔬菜・牛酒類等を主とす。京釜本線島山驛に近く、同驛より金良場に至るバス路線城内を通じ、交通便なり。【ナンシ】 南百面 朝鮮慶尙南道昌寧郡の西南部。郡邑昌寧の南約一五軒。洛東江の曲流部に沿ひ北西―東南に長し。一―二百米の丘陵西北―東南に連なり、北部の九陣山(三二一米)、南部の道草山等やや著はる。洛東江に沿ひて平地あり、殊に南部の南百面を中心に廣き低平地横はり農業盛に行はる。城内處々に灌漑用溜池あり、東部の靈山面に近き部分には濕澤地をなす。産物は米・麥・棉・煙草・牛等を主とす。道路は南百面を中心に四通し、靈山その他の主邑地にバスを通じ、北部にも靈山より西走して洛東江右岸各地に至る自動車道路あり、洛東江の水運と相俟つて、交通至便なり。南百面は洛東江に臨める郡中の主要聚落の一にし

て、内地人居住者も相當あり、水利組合、金融組合、市場等あり。【ナンシ】 楠梓庄 臺灣高雄州岡山郡の略南に位置す。東南は仁武庄に接し、西南は左營庄に、東北は燕巢庄に、北は岡山街に、西北は彌陀庄に夫々隣接す。管内は概ね平地にして山と稱すべきものなく、處々に水田拓く。總戸數三二〇三、總人口一八六〇六。住民は内地人・本島人・支那人にして、本島人は總人口の約八割を占む。本庄下諸種産業中、大業をなすものは農業にして、その耕地面積は四千町歩に達せんとし、郡下第一の農業地帯なり。生産の主なるものは、米・甘藷・甘蔗・蔬菜・落花生とす。畜産は農に亞ぐ重要産業にして、農家に於て副業的に畜牛・養豚・養鶏を營むもの多く、管外搬出また著し。商工業に於ては北に臺南市、南に高雄市を控ふるを以て、本庄下に於て特に發達せるものなし。本庄に於ける交通状態は甚だ良好にして、縱貫鐵道は本庄を南北に通過して、管内に橋子頭(明治三十四年設置)・楠梓(明治三十三年設置)の兩驛を設け、道路また完備して自動車の運行自由なり。本庄は我領臺後大正九年十月、當時臺南廳に屬せし歡音中里下の五庄、半屏里下の一庄、仁壽下里下の七庄(以上何れも現大字)の地を合して建てられし一庄にして、庄役場の所在地なる大字橋子頭は、早くより一肆街を形成し、小店仔街と稱せり。

橋子頭の名は、續修臺灣府志に「小仔仔橋、在小店仔街、木梁長二丈許、與馬可通、俗呼橋仔頭」より出でしなるべし。また大字楠梓の地は、清の康熙中葉頃より福建の泉州人來り附近に繁茂せる楠梓樹の伐木に従ひて、一草店を形成し、爾來鳳山縣下の興隆莊の要路として發達し、楠梓坑街の名を以て知られたるも、我領臺後大正九年十月の地方制度改正に際し、楠梓と改められたり。

ナンシセン 楠梓仙溪

淡(臺灣南部) ↓下淡水

ナンシユ 南終面

朝鮮京畿道廣州郡の東北部。京安里の北一〇軒に位し、北は漢江を隔てて楊平郡と相對す。南境に最高五〇〇米臺の丘陵連り北に緩斜す。北部は漢江本流の曲流部に當り、また北漢江と小支度安川何れも北西境にて之に合流し、沿岸やや廣き平地をなし田畑拓く。産物は米・大麥・大豆等を主とす。西部に三等道路通じ、また漢江に舟運の便あり、交通不便ならず。街道に沿ひ主邑分院里あり、その北方江岸の牛川里は一泊津をなし、定期に開く市場あり。

ナンシヨ 南松面

朝鮮平安北道寧邊郡の北部。郡邑寧邊の東北約二〇軒、西北は雲山郡と境す。北部に狹隘嶺山脈の支脈延び來りて雲臺山(八三八米)聳え、東南境には元通山・天祭峰等あり、西方に低夷す。九龍江は西境を

劃して南流し、東部山地に發する支谷を容れ、その流域に低地ありて田畑拓く。産物は米・粟・大豆・玉蜀黍・棉等を主とし、また福徳鐵山・佐藤金山(何れも鐵區の一部)及び紫烟峰鐵山等より金・銀を、光龜金鐵(鐵區の一部)より砂金を出す。中部を西南(東北)に穿過し、熙川間の道路貫きバスを通じ、また東部には滿浦線の北新驛(北新觀面)に發して雲山郡の温井温泉に至る輕便鐵道通ずるも、交通未だ便ならず。

ナンシヨ 南上面

朝鮮京畿道居昌郡の南部。居昌面に南隣し、東は陝川郡に隣り、西は咸陽郡に接す。東南部に小白山脈に屬する六一七米の山脈連り南境に紺岳山(九五一米)あり、北西に低夷し、西境にも四一五米の支脈走る。河川は洛東江支流黃江東北境を流れ、西部山地間の谷間を流るゝ支流を容れ、その沿岸に狭長なる平地ありて田畑拓く。産物は米・麥・棉・繭・大麻・荊草を主とし養豚行はる。黃江對岸を居昌・陝川間の二等道路通じ、また北部の面邑茂村里と居昌間にバスの便あり、北部は交通不便ならず。

ナンシヨ 南條

千葉縣下總國匝瑺郡の西端。八日市場町の西方にある小村にて間に豊榮村を挟む。北は香取郡に接し、西は山武郡に隣す。北部には低き丘陵地あるも丘段間より南部にかけては低地ありて九

十九里濱沿岸平地の一部をなし、米・繭・麥を産し養鶏も行はる。縣道は八日市場町及び西南隣山武郡横芝町に通じ、省線總武本線また之に沿ひ東部を掠めて東北に走るも村内に驛なく、横芝町に横芝驛ありてバスを通ず。此地は和名抄、匝瑺郡石室郷の内なり。大字芝崎に芝崎城址あり、千葉系圖に岩室資胤の弟を小田部胤忠といひ、天正年間この城に居りしものなり。

ナンシヨ 福井縣(越前國)十一郡の一

北は丹生郡、東北は今立郡、西南は敦賀郡、東は岐阜縣掛兼郡、南は滋賀縣伊香郡に各隣接し、西は若狹灣に臨む。東境には南より三國ヶ嶽・三周ヶ嶽・美濃俣丸・笹ヶ嶽・金草岳等の千二百米以上の山嶺連り、南境には三國ヶ嶽より分れて上谷山・樺ノ木峠・鉢伏山等あり、北境にも段ノ岳・岩谷山・日野山等の支脈を出す。東部にはホノケ山・足谷山・矢良集岳・金カヅキ等の連山南北に連り、東端は海に迫りて斷崖をなしアマゴセ山(四〇〇米)著はる。郡内はかく山岳重疊し平地に乏しく、南部山地に發源し中部を北流する日野川流域に僅に沖積低地あり。氣候は多雨多雪の地にして宅良村の如きは三〇〇〇耗の年降水量あり、今莊村は越後の高田市と共に降雪地として著はる。然し海岸一帯は比較的暖く降雪量も大ならず。産物には製紙・織物・打刃物・蠶蠶・木材・薪炭あり、就中織物には平

地羽二重あり、製紙の鳥の子紙・墨流染紙も廣く知らる。南部山中には縣有模範林あり。海産物には蟹・雲丹・鱒・鯛・烏賊・鱒等あり、日野川の鮎も有名なり。國道北陸道は中部を南北に通じ、北部にて國道敦賀道と合す。省線北陸本線は北陸道に沿うて走り敦賀郡との境には山中越のトンネルを穿つ。郡名の起原は不詳。然れども東大寺文書に南七條二里とあれば南は國府(武生町か)の南方の義。條は條里の制の遺れるものと云ふ。源平時代以前に丹生・敦賀の二郡より分ちて一郡となし南條若くは南中條郡と號す。即ち、和名抄、丹生郡の岡本郷・從省郷及び敦賀郡鹿島郷の地なるべし。織豊時代に府中郡或は國中郡と稱せしは今の丹生郡の南部と本郡の北少部分の總稱なるべし。寛文四年の頃には南條郡と稱せり。しかれどもまもなく南條郡に復し、世俗間にては寛文年中と雖も南條郡と稱せしが如し。

ナンシ 讚岐國(香川縣)の古郡名阿野郡

を中世私に南條・北條二郡に分つ。蓋し綾川の下流を北條とし上流を南條郡と呼びしが、近世に至り寛文年中舊に復す。*阿野(郡)

ナンシ 南新面

朝鮮平安北道厚昌郡の西南部。厚昌面に南隣し、西北は慈城郡、西南は江界郡に接す。蓋馬高臺の北條部に當り、東部に同安峰(一四九七米)・雲山山・五佳山等、南境に楸洞山

ナンシケン 南新峴面

朝鮮平安北道寧邊郡の東北部。郡邑寧邊の東北約一三軒、西は九龍江を隔てて雲山郡と相對す。地東西に狭長にて東端の清川江岸より西端まで約二〇軒、南北は五一八軒あり。南部及び東部に妙香山脈の餘脈連なり、南境の耳山(五四二米)や著はれ、その西北なる楸洞山の山趾北に延びて一分水嶺を成し、以東の水は清川江に注ぎ、西部の水は九龍江に入る。主畑作農業行はれ、米・粟・大豆・玉蜀黍・大麻等の農産あり、また光龜金鐵(鐵區の一部)より砂金を、貴鮮金鐵より金・銀を出す。西部に寧邊・熙川間の三等道路走りバスを通ずるも交通未だ便ならず。

ナンセ 社

臺灣臺中州東勢郡にある神社。大甲溪右岸打鐵坑との合

ナンシ——ナンセ

ナンセ 南西

朝鮮平安北道朔州郡の中部西偏。朔州面の南に隣り、西は義州郡に接す。飛來峰山脈東西に走り、西南の郡界に天摩山(一一六九米)屹立し、北境には五峰山(八八二米)・界畔嶺・觀峰等東西に連り、漸次東南方に低夷す。これ等山地の諸水は聚まりて大寧江の上游をなし、その流域に狭き低地ありて田畑拓く。農産に米・大豆・玉蜀黍・粟・大麻等あり、また雲昌金鐵・摩南金山(鐵區の一部)・元昌金山等ありて金・銀・鉛等を出す。中部を南北に定州・朔州間の二等道路通じてバスの便あるも交通未だ便ならず。大寧江畔の新温湖に温泉湧出す。

ナンシ 朝鮮平安北道定州郡のほゞ中央

定州邑の西南に隣り、南は西朝鮮灣の一支灣に臨む。もとの南面及び西面を合せるものにて南北一三軒、東西八一〇軒あり。域内に老年性丘陵起伏して平地に乏しく、西境の臨海山(二〇一米)や、著はる。瑤川江東境を劃し南して海

ナンセ 南勢

臺灣總督府鐵道臺中線の一驛(大正三年設置)。新竹州苗栗郡苗栗街南勢坑にあり。

ナンセ 楠西庄

臺灣臺南州新化郡の北部。東は南化庄、西は烏山嶺を以て曾文郡官田・大内兩庄に、南は玉井庄、北は嘉義郡大埔庄に夫々隣接す。管内は周圍高く、中央低くして盆地をなし、南方に展く。河川の主なものは曾文溪にして、庄の北部より入り來りて中央を貫流し南より庄外に出づ。住民は内地人・本島人・支那人にして、總戸數八二五、人口四一五九人に過ぎず。本庄住民の生業をなすものは農業にして、庄總戸數の約八割は農業に従事す。其主産とする處は、米の約七萬圓、甘蔗の十五萬圓、甘蔗の三萬五千圓、落花生の五萬圓とす。其他園藝作物として、芭蕉・龍眼・鳳梨・椪仔・柑橘類の五萬圓あり。山地よりは木材・薪炭材・竹材等を出し、また官私立の造林地にはチーク・相思樹等の造林をなす。畜産は黄牛・水牛・豚・家禽等なるも、其大部分は農家に於て副

ナンセキ 南夕

朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和八年設置)。咸鏡北道吉州郡長白面にあり。

ナンセン 南川

朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。黃海道平山郡賣山面にあり。

ナンシ 朝鮮慶尙北道慶山郡の西南部

慶山面の南に隣り、西は達城郡、東は清道郡に接す。四境殆ど山を繞らし、東南境に龍角山(八九七米)・仙義山、西境に屏風山(五六八米)、北境に栢柴山・善岩山等聳え、南方郡境に發源して北流

する南川(琴湖江一支)の流域に僅に低地あり田畑ひらく。産物は米・麥その他雜穀を主とし、また西部は海昌嶺山の麓區の一部に當りて金・銀・ダンクステンの産あり。鐵道京釜本線は南部郡界に延長二・三軒(朝鮮最長)の隧道を穿ちて市内に入り、南川に沿うて北走し、中央に三省驛(大正十五年設置)あり、釜山街道これに並走し、交通や、便なり。

【ナンセン】 南先面 朝鮮慶尙北道安東郡の中部南偏。安東邑に南隣し、南は義城郡に接す。南部は大白山脈支脈のなす山地にて、南境に葛羅山(五七〇米)・騎龍山等聳え北方に低夷し、北境を半邊川東より來りて洛東江に合し更に西流するも、沿岸は砂地にて水田に乏し。耕地は丘陵斜面及び西部の眉川支谷に沿うて發達す。産物に米・大麥・豆類・棉・大麻・繭・牛等あり。道路は何れも坂路多く、交通不便なり。

【ナンセン】 灘川面 朝鮮忠清南道公州郡の西南隅。公州邑の西南約一五軒、西北は錦江を隔て、青陽郡に對し、南は論山・扶餘兩郡に接す。高車二百米前後の丘陵東北—西南に連り、北境に新起嶺あり、西北境を劃する錦江と、東部を流る、その支流の流域に平地ありて田畑拓く。産物に米・麥・豆類・棉・莞草等の農産を主とし、また新塔(鐵區の一部)・銅・三利(一部)・大成・加尺(一部)の産金ありて金銀を出し、龍城・發春の

本周囲の境に聳え、標高一八二米。北境は雄岳山(一一二八米)に續き、附近山中には上院寺をはじめ古刹多し。山の北面には酒泉江支流、南面には堤川川が發源す。

【ナンチュウ】 南中 朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和十年設置)。咸鏡南道甲山郡雲興面にあり。

【ナンテ】 南亭面 朝鮮慶尙北道盈徳郡の東南端。郡邑盈徳の南約一五軒。南は迎日郡に接し、東は日本海に臨む。西部に大白山脈に屬する高車五—六百米の山岳南北に連り、東方海岸に向つて傾斜し、海岸に近く鳳凰山(二七一米)あり、城内平地に乏し、海岸線延長一〇軒に近きも出入に乏しく概ね險崖をなし、良泊を缺く。産物に米・麥・雜穀等の外、鱈・鯉・太刀魚・海草等の漁獲あり。また寶鏡嶺山(鐵區の一部)・南震金礦ありて前者より金・銀・銅を、後者より金・銀を出す。海岸に沿うて盈徳・浦項間の二等道路通じバスの便あるも、西部は坂路多く交通便ならず。

【ナント】 南都 奈良の別稱。平安京を北京と云ふに對す。また叡山の北嶺に對し、奈良の興福寺を南都と稱せしこともあり。蓋し平安末期より興福寺は僧兵を蓄へ朝廷へ敬訴せしより叡山に相對してかくいへるなり。※奈良市

【南投郡】 臺灣臺中州中市十一郡中の

ナンチ——ナント

諸嶺山よりは金・銀・銅・鉛を産す。三角里より北方の公州、南方の扶餘・龍山里にバスを通じ、交通不便ならず。

【ナンソウ】 南倉 朝鮮慶尙南道蔚山郡温陽面の里名。總督府鐵道東海南部線の南倉驛(昭和十年設置)あり。

【ナンタイ】 南體山 一に二荒山。日光火山群に屬する新鮮なるコニデの火山體にて、標高二四八四米。山麓には堰塞湖たる中禰寺湖を湛へ、日光國立公園の主要部を形成す。日光火山群のうち赤蘆・女峯のコニデ火山の活動が止みてより最後に噴出せしものにて、華嚴灘・龍頭ノ瀧等を形成する熔岩流を噴出し、日光西部に臺地狀をなす。丹勢山もまた男體の熔岩流なり。男體火山の活動のうち最後のものは北麓の大眞名子・小眞名子・太郎・山王帽子・三ツ岳のトロイアを形成せるものなり。男體の山頂には北に傾し、噴火日あり。火山原形には今は數條の道が發達してコニデ火山の幼年

一州の南部中央に位置し、東は龍高・新高二郡、西は彰化・員林二郡に界し、南は一部新高郡に接し、一部濁水溪を隔てて竹山郡に、北は大部分烏溪(大肚溪の上流)を隔て、大屯郡に對し、四角狀の地形をなす。西部には大肚山脈の南延なる洪積層の臺地(八卦山脈)南北に走り、東半は中央山系の餘脈たる第三紀層の丘陵に依りて占められ、東境に火炎山・樟湖山・炭斗山・中心山・集々大山等の山岳聳立し、此等の連嶺は漸次西方に傾斜して丘陵となり、西部臺地との間に所謂南投盆地の沖積平地を擁す。東南の集々大山に發源する貓羅溪は途中軍功寮溪・二重溪等幾多小分流を合しつゝ大體西北流し、中央平野を灌漑して西北隅に至り、終に烏溪に注ぐ。地勢上平野狭少なるも、地味肥沃、且つ貓羅溪による灌漑の便ありて水田よく發達し、また丘陵地帯に概ね緩傾斜をなす爲め、普く開發せられて甘蔗・芭蕉・鳳梨・茶、其他の農作物の栽培行はれ、米・甘蔗・芭蕉・甘藷・蔬菜・鳳梨・柑橘・李・黃麻・落花生・茶・豆類等を主要農産物とし、殊に芭蕉は有名にて産額品質共に全島の首位を占め、内地・滿洲・朝鮮等に移輸出せられて廉價を博す。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・山羊・鶏・鶯・鶯等の家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に普く飼育せらる。林産にては薪最も多く、木炭・竹材・筍・竹皮これに次ぐ。

【南投街】 臺灣臺中州南投郡の主邑。郡の西部中央に位置し、東は中寮庄、西は員林郡下の員林街及び社頭庄、南は名間庄、北は草屯庄に夫々境を接し、東西九軒餘、南北八軒の四角狀地形を呈し、面積約七三方軒。西部は八卦山脈東麓の臺地、東部は中央山系餘脈の丘陵性山地によりて占められ兩者の間に謂ゆる南投盆地を介在せしむ。軍功寮溪及び二重溪は共に東隣中寮庄の東部山地に發源し、管内に入り中央部に會して貓羅溪となり、平野を灌漑しつゝ西北に流れて管外に去る。市街は大宇南投に在り、臺中を南に距ること二八軒餘、當方面に於ける政治・商業・交通等の中心として重きを爲し、市區計劃完成せしより街衢整然、近代都市として面目を一新せり。管内は地勢上平野比較的狭少なるも、貓羅溪による灌漑の便ありて、中央部には水田よく發達

期開折の標式的の狀態を示す。山上には二荒神社祀らる。中宮祠の背後より山頂へ登山道通じ、毎年八月一日より一週間は「お籠り」と稱し、登山者の白衣と六根清淨の聲、麓より頂まで續く。

【南大川】 朝鮮咸鏡北道南部の河。小長白山脈に屬する萬塔山(二二〇五米)の南面に發源して南流、ついで吉州地溝帯に沿うて南流をつづけ城津・吉州兩郡界に於て日本海に朝す。流程約一〇〇軒、流域面積一三〇〇方軒に及ぶ。江口より約四〇軒まで舟楫の便あり。沿岸に吉州邑あり。

【南大川】 朝鮮咸鏡南道東部の河。一に端川南大川。甲山郡の東南隅、赴戰嶺山脈に屬する天火嶺北方の山中に發源し、幾許もなく豊山郡に入りその東部を南流したる後、端川郡に入り東南に蛇曲流して端川邑南方にて日本海に注ぐ。流程一六〇軒、流域面積は二四〇〇方軒に及ぶも、山地を先行するを以て沿岸平地に乏しく、僅に河口に近く端川平野を拓くのみ。上流は密林地帯を成し、またマゲネサイトを始め各種の鐵産に富む。近時上流に大規模の發電事業起る。

ナンチ——ナント

【南大川】 朝鮮咸鏡南道東部の河。一に北青南大川。北青郡の北境なる赴戰嶺山脈南斜面に發源して南流し、車書川を合してより流路を東南に轉じ、新昌邑の中央にて日本海に朝す。流程六六軒、流域面積二〇〇方軒を超え、流域に平野拓け米・大豆の産多し。流路に沿ひ甲山街道及び鐵道北青線を通じ、沿岸に北青・新昌の諸邑あり。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

ナンチ——ナント

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

【南大川】 朝鮮江原道南部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之等の上流は蔚珍郡温井面の東部に合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流路延長約二〇軒。

ナンチ——ナント

方に係り、爾來拓殖の區域を擴張乾隆二十四年南投の市街に縣丞を新設せらるゝに到れり。明治二十八年帝國領臺後數次行政上の變遷を経、時に辨務署、時に廳を設置せられたるも、大正九年十月に至り地方制度の改正と共に清領時代より存続し來りし堡を廢して南投街となり、臺中州南投郡に編入せられたり。

【南島】 南島の稱。即ち多羅、拔久、奄美、度感等の薩南諸島を稱す。

【南洞面】 南洞面の稱。朝鮮京畿道富川郡の東部。仁川府の東約四軒。地南北に長く、南は江華灣の支灣に臨む。東北部には蘇萊山(二七九米)を最高とする丘陵連り、餘脈は南の半島部に延びて平地比較的乏しきも、中央部と海邊とは低平にて田畑拓く。海岸は遠淺にして、官營鹽田として利用せられ、謂ゆる朱安鹽田の主要部分にて、製鹽高頗る多し。農産に米・大豆・棉・荳・果實等あり。南部を社線朝鮮京東鐵道の水仁線(狹軌)走り、蘇萊・南洞の二驛あり。北部には仁川・水原間の道路通じバスの便あり。

【南斗日面】 朝鮮咸鏡南道端川郡の東北部。郡邑端川の北約二五軒。東は咸鏡北道咸津郡に境す。南北二五・三〇軒、東西一八一・二〇軒に及ぶ廣大なる地域を占む。東部に摩天嶺山脈走り郡境に龍潭山(一五九八米)・成林山

等連り、西部には天火嶺の餘脈走りて西下面との境に萬塔山(二〇〇三米)・赤木嶺・山崎山・覆蓋峰(一五六五米)など聳え、北隣の北斗日面より來る北大川は此等東西兩山間に縱谷を造りて南流するも、殆ど平地を見ず。住民は多く山間傾斜地に畑作農業を營み、傍ら養蠶・採薪等に從事す。農産は燕麥・馬鈴薯・大麻等を主とし、新興黒鉛鑛山より黒鉛を、雲松ニッケル鑛山(鐵區は北斗日面に跨る)より金・銀・銅・硫化鐵等を出す。中部峽谷を南北に三等道路通ずるも、改修進まず、交通不便なり。

【南屯庄】 臺灣臺中州大屯郡の西部中央。東は臺中市、西は大甲郡大肚庄、南は烏日庄、北は西屯庄に夫々境を接す。東西九軒餘、南北六軒餘の矩形をなし、面積三五方軒餘。西邊に海岸丘陵たる大肚山脈の低き臺地ある外は總て平坦にして、筏子溪は北隣西屯庄より來り中央部を南下して烏日庄に去る。面積比較的狭小なるも、平地多く、水利に恵まれて水田廣く展開し、純農村を形成す。農作物は水稻を主とし、米の産額壓倒的にして、他に甘蔗・蔬菜・甘藷・烟草等の栽培行はる。畜産は勞役用の水牛・黄牛の外、豚・鶏・鶩・鴛等の家畜・家禽類多く、消費都市たる臺中を東隣に控へて益々増加の趨勢にあり、一般家庭に於て副業的に蓄く飼育せらる。管内には都道道路四通八達し交通便利なり。本庄

は現行制度以前總て棟下堡に屬し、南屯は聖頭店街と稱し、初め平埔蕃族のゲアザガア(猫霧揀)社の占居地なり。康熙の末年以來漢族によりて開拓の緒を開かれ、爾來移來者年を逐うて多きを加へ、雍正年間、聖頭店街を爲すに至り、同九年には巡檢を設置せられたり。因みに聖頭店なる地名の起りは、地方開拓後、農業益々發達し農具たる「犁(鋤)の先の金具(臺灣語にて聖頭と稱す)を製造して販賣せし店多かりしによるといふ。乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)にその名見え、同五十一年林爽文の亂に際し全く兵燹に罹り、五十三年之を再建せしが、爾後街勢衰微せり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、聖頭店街を大字南屯と改稱し、十八大字を以て南屯庄となり、臺中州大屯郡に編入せられたり。

【南二】 南二の稱。朝鮮忠清北道清州郡の中西部。清州邑の西南約五軒、西端は忠清南道燕岐郡に接す。南部に高距約三〇〇米の丘陵東西に連なり鳳舞山(三四七米)や著はれ、餘脈北に延びて望日山・八峰山等を起す。西部の錦江一小支と東部の無心川交流流域とに低地あり、田畑拓く。農作物は米・麥・豆類・棉・煙草・繭等を主とし、また清州・鳳舞の兩山あり鳳舞、

丸成・安心・佳山の諸鐵山の鐵區の一部にも當り何れも金・銀を出す。清州・美江を結ぶ道路東部を貫きてバスを通じ、鐵道京釜本線の美江驛(芙蓉面内)に近く交通不便ならず。

【南二面】 朝鮮全羅北道錦山郡の南部。錦山前に南隣し、西は完州郡、南は鎮安郡に接す。域内大部分廣嶺山脈に屬する山地にて、北・西・南の三境には六・七・七・七の山嶺連り、東北部には進樂山(七三七米)馬耳山等峰より低地に乏し。西部の柏嶺時以南の連枝を一分水嶺としその西面に論山川の上支發し、以東の本は山間に東南に開析して鳳凰川となり、二者何れも本は錦江に合す。鳳凰川の沿岸と進樂山東麓とに僅かに低地ありて田畑拓く。農産は米・麥・人蔘・棉・楮等の農産を主とし、また寶泉・鳥項の兩鐵山の鐵區の各一部に當り前者より金・銀、後者より金・銀・亞鉛を産す。道路は何れも溪谷間を縫ひ又は峠を踰え、交通不便なり。進樂山の南麓に古刹寶石寺あり、朝鮮佛教三十二本山の一。

【南葉山】 蘇波山とも書く。高田市の南西方八軒前後、新陽縣中頸城郡金谷村・斐太村・桑取村・矢代村の境上に位する南北に長き山。この近くは本邦屈指の深雪地にして、近時高田市附近スキー場よりの長草驛コースとなり、スキー登山者夥からす。山頂より南に妙高を始め信濃の諸峠を展望し、北東は高

田市を俯瞰し、北は日本海の波濤を望見し、視野廣闊なり。

【難波】 大阪府西成郡にありし村。明治二十九年大阪府南區に編入す。社線南海鐵道の起點難波(明治十八年設置)は難波新地にあり。

【難波村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の北部。松山市の北方約一六軒、北條町の北に隣り、西は瀬戸内海瀕に面す。東部及び北部には高麗山塊に屬する山地連り、北境には惠良山(三〇五米)を起し、更に西に延びて波妻の鼻の小突出にて海に没す。西南部に南境を西流する立岩川の沖積地あり、地味肥沃なれば農業盛にして米・麥・繭の産多く、煙草・蜜柑・梨等も多く栽培す。その他水産業も盛にして鯛・鰯等の魚獲多し。西部を縣道南北に通じ、これに沿うて省線豫讃本線走り伊豫北條驛に近し。和名抄に風早郡難波郷と云ふは本村及び淺海村に當る。惠良城址あり、河野十八將の一人得房半右衛門の墟なりといふ。八五ひめあやめ自生南限地帯)指定天然記念物。大字下難波字腰折山にあり。えひめあやめは高尾科に屬する多年生草本にして、長さ一〇〇釐内外のもの多く、三月末より四月の始にかけて一〇釐内外の花莖を抽出してその頂に花を著く。本地方に於ては「こかきつばた」と呼稱す。

【南斗日面】 朝鮮咸鏡南道端川郡の東北部。郡邑端川の北約二五軒。東は咸鏡北道咸津郡に境す。南北二五・三〇軒、東西一八一・二〇軒に及ぶ廣大なる地域を占む。東部に摩天嶺山脈走り郡境に龍潭山(一五九八米)・成林山

等連り、西部には天火嶺の餘脈走りて西下面との境に萬塔山(二〇〇三米)・赤木嶺・山崎山・覆蓋峰(一五六五米)など聳え、北隣の北斗日面より來る北大川は此等東西兩山間に縱谷を造りて南流するも、殆ど平地を見ず。住民は多く山間傾斜地に畑作農業を營み、傍ら養蠶・採薪等に從事す。農産は燕麥・馬鈴薯・大麻等を主とし、新興黒鉛鑛山より黒鉛を、雲松ニッケル鑛山(鐵區は北斗日面に跨る)より金・銀・銅・硫化鐵等を出す。中部峽谷を南北に三等道路通ずるも、改修進まず、交通不便なり。

【南屯庄】 臺灣臺中州大屯郡の西部中央。東は臺中市、西は大甲郡大肚庄、南は烏日庄、北は西屯庄に夫々境を接す。東西九軒餘、南北六軒餘の矩形をなし、面積三五方軒餘。西邊に海岸丘陵たる大肚山脈の低き臺地ある外は總て平坦にして、筏子溪は北隣西屯庄より來り中央部を南下して烏日庄に去る。面積比較的狭小なるも、平地多く、水利に恵まれて水田廣く展開し、純農村を形成す。農作物は水稻を主とし、米の産額壓倒的にして、他に甘蔗・蔬菜・甘藷・烟草等の栽培行はる。畜産は勞役用の水牛・黄牛の外、豚・鶏・鶩・鴛等の家畜・家禽類多く、消費都市たる臺中を東隣に控へて益々増加の趨勢にあり、一般家庭に於て副業的に蓄く飼育せらる。管内には都道道路四通八達し交通便利なり。本庄

は現行制度以前總て棟下堡に屬し、南屯は聖頭店街と稱し、初め平埔蕃族のゲアザガア(猫霧揀)社の占居地なり。康熙の末年以來漢族によりて開拓の緒を開かれ、爾來移來者年を逐うて多きを加へ、雍正年間、聖頭店街を爲すに至り、同九年には巡檢を設置せられたり。因みに聖頭店なる地名の起りは、地方開拓後、農業益々發達し農具たる「犁(鋤)の先の金具(臺灣語にて聖頭と稱す)を製造して販賣せし店多かりしによるといふ。乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)にその名見え、同五十一年林爽文の亂に際し全く兵燹に罹り、五十三年之を再建せしが、爾後街勢衰微せり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、聖頭店街を大字南屯と改稱し、十八大字を以て南屯庄となり、臺中州大屯郡に編入せられたり。

【南二】 南二の稱。朝鮮忠清北道清州郡の中西部。清州邑の西南約五軒、西端は忠清南道燕岐郡に接す。南部に高距約三〇〇米の丘陵東西に連なり鳳舞山(三四七米)や著はれ、餘脈北に延びて望日山・八峰山等を起す。西部の錦江一小支と東部の無心川交流流域とに低地あり、田畑拓く。農作物は米・麥・豆類・棉・煙草・繭等を主とし、また清州・鳳舞の兩山あり鳳舞、

丸成・安心・佳山の諸鐵山の鐵區の一部にも當り何れも金・銀を出す。清州・美江を結ぶ道路東部を貫きてバスを通じ、鐵道京釜本線の美江驛(芙蓉面内)に近く交通不便ならず。

【南二面】 朝鮮全羅北道錦山郡の南部。錦山前に南隣し、西は完州郡、南は鎮安郡に接す。域内大部分廣嶺山脈に屬する山地にて、北・西・南の三境には六・七・七・七の山嶺連り、東北部には進樂山(七三七米)馬耳山等峰より低地に乏し。西部の柏嶺時以南の連枝を一分水嶺としその西面に論山川の上支發し、以東の本は山間に東南に開析して鳳凰川となり、二者何れも本は錦江に合す。鳳凰川の沿岸と進樂山東麓とに僅かに低地ありて田畑拓く。農産は米・麥・人蔘・棉・楮等の農産を主とし、また寶泉・鳥項の兩鐵山の鐵區の各一部に當り前者より金・銀、後者より金・銀・亞鉛を産す。道路は何れも溪谷間を縫ひ又は峠を踰え、交通不便なり。進樂山の南麓に古刹寶石寺あり、朝鮮佛教三十二本山の一。

【南葉山】 蘇波山とも書く。高田市の南西方八軒前後、新陽縣中頸城郡金谷村・斐太村・桑取村・矢代村の境上に位する南北に長き山。この近くは本邦屈指の深雪地にして、近時高田市附近スキー場よりの長草驛コースとなり、スキー登山者夥からす。山頂より南に妙高を始め信濃の諸峠を展望し、北東は高

田市を俯瞰し、北は日本海の波濤を望見し、視野廣闊なり。

【難波】 大阪府西成郡にありし村。明治二十九年大阪府南區に編入す。社線南海鐵道の起點難波(明治十八年設置)は難波新地にあり。

【難波村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の北部。松山市の北方約一六軒、北條町の北に隣り、西は瀬戸内海瀕に面す。東部及び北部には高麗山塊に屬する山地連り、北境には惠良山(三〇五米)を起し、更に西に延びて波妻の鼻の小突出にて海に没す。西南部に南境を西流する立岩川の沖積地あり、地味肥沃なれば農業盛にして米・麥・繭の産多く、煙草・蜜柑・梨等も多く栽培す。その他水産業も盛にして鯛・鰯等の魚獲多し。西部を縣道南北に通じ、これに沿うて省線豫讃本線走り伊豫北條驛に近し。和名抄に風早郡難波郷と云ふは本村及び淺海村に當る。惠良城址あり、河野十八將の一人得房半右衛門の墟なりといふ。八五ひめあやめ自生南限地帯)指定天然記念物。大字下難波字腰折山にあり。えひめあやめは高尾科に屬する多年生草本にして、長さ一〇〇釐内外のもの多く、三月末より四月の始にかけて一〇釐内外の花莖を抽出してその頂に花を著く。本地方に於ては「こかきつばた」と呼稱す。

ナンバ 南畑村 埼玉縣武藏國入

ナンバ 南武鐵道 社線。省線東海道本線濱川崎驛(旅客用電車は尻手驛尻手(横濱市鶴見區)より海岸に向ひ、東海道本線濱川崎驛(旅客用電車は尻手、新濱川崎間のみ運轉)に至る四・〇軒と、外に矢向と川崎河原間一・七軒、及び河原と市ノ坪間〇・七軒の二貨物支線を有す。軌間一・〇六七米にて、動力は蒸

汽・電氣・ガソリン、省線とは蒸氣運轉取扱をなす。分信河原驛(府中町)にて京玉電車と、立川驛にて省線中央本線及び社線青梅電氣・五日市鐵道と接続す。沿線よりの主要發達貨物は砂利・生甘藷・石材・綿織物及び航空機等にて、主要到著貨物は石炭・米・木炭・麥類・大豆・粕・人造肥料等。梅に名高き久地梅林は久地梅林日際附近、多摩川沿岸の櫻の名所稻田堤は登戸驛の西約一・五軒にあり。

【南部】 陸奥の南部侯所領地の通稱。文治年間、甲斐源氏の族、南部光行奥州を領し子孫この地に繁衍せり。天正年間信直の時、豊臣秀吉によりて封領を安堵す。はじめ難波(今の陸奥の北部より陸奥の東部を含む地、三戸に治す)に居りしが子利直に至り慶長年間盛岡に移る。これより盛岡を大南部と稱し、難波を古南部(小南部)ともいふ。岩手山を南部富士、馬を南部駒と稱しその他南部鐵瓶など今も南部の稱一般に通用する。後世南部といへば主として盛岡の南部氏所領の陸奥國の大部を稱す。

【南部坂】 東京市麻布區の坂名。廣尾より水川臺へ登る小坂。昔、南部信濃守の中屋敷ありしよりかく名附くと。長さ約六〇米。いま麻布區廣尾町より東に本村町にある南部邸前の坂をいふ。

【南部】 甲斐國(山梨縣)巨摩郡にありし地名。中世には南部御牧のありし所にし

栗面に南隣し、東南は信州郡に、西及び西南は松本郡に接す。東部に九月山脈南北に走り、信州郡用珍面との境にその主峰九月山(九五四米)聳え、西部には求王山(四五八米)の山肢連なり、南境には求王山(六五八米)そびえ、平地に乏しきも、中部漢川の流域は低平にして田畑拓く。産物は米・小麦・大豆・棉等の農産を主とし、東部山地には松茸・松茸を産す。また求王金嶺(嶺區の一部)・開泉嶺山等ありて金・銀を出す。中部を股栗・長瀬間の二等道路南北に縦走し、途中より九月山麓を廻りて信州に出づる三等道路を岐ち、何れもバスの便あり。(九月山麓)面の東境にあり。周囲四軒に及ぶ城壁今に存す。往時は城内に附近六ヶ郡の倉庫を設け兵器・武器・火薬等を貯蔵し、別將を置いて守護せしめ不時に備へたりといふ。城内に山城洞あり、部落民は耕作に従事す。山城の西麓二軒余に名刹停観寺あり景勝を以て聞え、また附近に龍淵瀑あり。

ナンヘー 南平面

朝鮮全羅南道羅州郡の東北部。羅州邑の東一〇軒余に位し、北は光山郡、東は和順郡に接す。南北一四軒、東西四一六軒。東北部に二一三〇米の丘陵連り東境に中峰山(三二〇米)等あり、西方に低夷し、西南部にも百米臺の丘陵南北に連る。これ等の丘陵地帯を東南より流れ来る低平江北西流し、沿岸に平地拓け、特に北部の南平は

附近は羅州平野の一部にて、地味肥沃、良田ひらく。産物は米・麥・棉・繭・臥等を主とす。總督府鐵道慶全西部線北方光州方面より來り、東北部の支谷に沿ひ南平驛(昭和五年設置)を経て東に去り、また京城・木浦間の一等道路北西部を貫く外、南平邑を中心として道路四通し、光州・羅州・綾州の各地へ何れもバスを通じ、交通便なり。南平邑は南平驛の西南三軒、低平江の左岸に發達せる市街地にて、もと郡廳の所在地。全南棉花の集散地として知られ、市況活潑なり。附近の低平江沿岸は景勝の地に、竹林寺の古刹、鶯林の奇觀、月延臺等あり。

ナンホ 南保村

富山縣越中郡新川郡の北部。泊町の東南に隣接して小川の右岸に沿ふ。東部は飛騨山脈の一部を境にして新潟縣西頸城郡に界す。西北部が僅かに平野に屬するのみ。他は山岳重疊し、森林繁茂す。聚落は西北部に稠密にして農業・林業を主産業とし、米・木炭の産多し、煙草紙の特産物あり。西南境小川に沿ひ一條の里道通じ、省線北陸本線泊驛へ約二軒なり。この地は古くは和名抄、新川郡大部郷の内なるべし。中世は大家庄または五箇庄に屬せり。盛衰記に南保氏(宮崎の一族)の名見ゆ。蓋し此の地の人とす。

ナンホク 南北

石川縣風至郡にあるアム島等の諸島を指して知らる。かく群島の地質はヤップ島のみ其岩を異にするも、他の珊瑚礁を母岩とするものは石灰質より成れる白砂にして、火山岩を母岩とするものは所謂熱帯粘土となり赤褐色または褐色の粘土質土壌を形成す。一般に南洋群島は海島多く棲息するを以て諸處に燐を産し、また至る處多少の燐酸分を含有するもの多く農作物及林木の成長良好なり。然し河川の見るべきものなく沖積土の肥沃なる土地極めて少し。加ふるに日光の直射強く、驟雨また烈しきを以て伐跡地其他山火災等の爲一度裸地となりたる處は、人工的に保護せざる限り地力減退して恢復難る困難なり。斯る理由により各島若干の無立木地ありて僅に羊齒類の繁茂するところ亦少からず。(氣象)本群島は其位置赤道に接し全管内悉く熱帯内に在るを以て、温帯地の如く四季の別なく一年を通じて温帯夏季の氣候にして所謂常夏の國なり。然し各島みな太平洋中に點在せる小島なるを以て、四面海風絶えず島上を吹き渡り純然たる海洋性氣候を現はし、其の晝夜の別に依る氣象變化も亦極めて少く、氣候概して適順といふを得べし。一、氣壓 群島各地共、低緯度に位するため總じて氣壓内地より低く其變化度合も亦少し。昭和十年度に於てはサイパン島附近に於て比較的低きを示し、パラオ島・トラフク島及びボナヘ島に於ては二月乃至

ナンマ 南摩村

栃木縣下野國上野賀郡の南部。鹿沼町の西南方約五軒。足尾山塊東斜面の一部を占め北境・南境共に四百米前後の山地連り、中央はその裾合にて南摩川東南に流れ粕尾川に合す。村の東南部は平地にて南流する大蘆川と東流する粕尾川とは東南境にて合流し小倉川となりて更に南流す。農業・養蠶行はれて米・麥・繭を産す。縣道鹿沼町に通じバスの便あり。

ナンヨ 南洋

赤道以北の太平洋中に散在する我が委任統治地マリアナ・カロリン・マーシャル三群島の總稱にして、行政上南洋羣これを管す。(位置)東經百三十三度より百七十五度、北緯零度より二十二度及び、北東は遙かに米領ハワイ島に對し、西はフィリッピン群島及び蘭領セレス島に、南はニューギニアに對し、北は小笠原諸島及び硫黄島に連る。其包容する海面は東西二千七百哩、南北千三百哩に互りその全島嶼の数は實に千四百餘を算するも、概れ礁島より成り其の總面積は僅に二千四百九十九方軒に過ぎず、我が東京府の面積と相伯仲す。是等諸島嶼の布置の状態を見るに、マリアナ群島は小笠原群島の南に連りて北より南に走り、カロリン、マーシャルの二群島は赤道に並行して東西に連り三群島の布置は略ぼ丁字形をなす。カロリン群島はこれを東經百四十八度にて東西カロリン群

島に分かつ。全群島の諸島嶼は孰れも狭小にして、最も大なるボナヘ島及びバベルダオア島(パラオ本島)の如きも漸く三百七十方軒に過ぎず。従つて各島内の地勢として特筆すべきものなきも、地質上火山岩より成るものと珊瑚礁より成るものとに依りて全く其の趣を異にす。即ちマーシャル群島は孰れも珊瑚礁にして水面上僅に五呎内外の低平なる陸地に過ぎざるも、マリアナ、カロリン兩群島は多くは火山岩を母岩とせるを以て地勢一般に急峻にして、中には全く耕地を有せざるがため無人島たるもの頗る多し。山嶽は概して低く七百五十米を越ゆるものなく、河川も亦溪流にして舟楫の便あるものなし。(地質)各群島は主として火山岩及び珊瑚礁より成るものにして、唯だヤップ島のみは古紀變質岩類系の結晶片岩類より成る。いまこれ等地質を分布的に見れば、イ、珊瑚礁 珊瑚礁は元來暖海に棲息する珊瑚蟲の石灰質骨格より成る岩礁にして、其部分的形態は千種萬様なるも形状及び位置に依り、之を線礁(又は楯礁と稱す)環礁及び環礁の三種に區別する事を得。線礁とは陸地(普通の土壌の陸地を指す)の周縁に沿うて高潮と低潮との汀線に發達するものにして群島中陸地あるところ必ずこれを見る。環礁は島と島との間に隔離し其間に海水を湛ふるものを稱す。東カロリン群島のトラフク島の如き其最も代表となるものに

して玄武岩質の幾多の小島より成れる島は各自其周囲に壯大なる環礁を帯し、更に其外廓に周延百二十哩餘に亘る一大環礁を有し、其線礁と環礁との間に廣大なる礁湖を形成す。環礁は陸地より全く獨立して海中に立てる珊瑚島にて、環状または不規則なる圓状を描きて發達し、其環の内部に一大礁湖を形成するもの、換言すれば中央に陸地を抱擁せざる環礁なり。マーシャル群島に多く其の例を見る。其最も世に知られたるはヤルト島にて其礁湖の長徑三十三哩に及ぶ。環礁は海抜極めて低く扁平なるを常とし、ヤルト島は高潮面五呎を越ゆるもの稀なり。ロ、隆起珊瑚礁 以上の珊瑚礁の外に隆起せる珊瑚礁あり。パラオ諸島及びマリアナ群島の南部に多く、サイパン島・テニアン島の如き數段のテレスを爲せるものは間歇的隆起作用に因るもの如し。ハ、火山岩類 火山岩類は玄武岩・安山岩の二種に分つを得。玄武岩はカロリン群島中、トラフク島・ボナヘ島及びクサイ島等に於て見る。比較的古き時代の噴出岩にして現に生存せる珊瑚礁の基底を成す。安山岩はパラオ諸島及びサイパン島に多く、これ等諸島は概れ安山岩を母岩とするもの、または隆起珊瑚礁との混成せるものにして稍々複雑なる構成を有するものなり。ニ、燐鐵 パラオ諸島に屬するアンガウル、ペリリュウ、トコベの三島及びヤップ支那管内に屬す

るアム島等は燐鐵地として知らる。かく群島の地質はヤップ島のみ其岩を異にするも、他の珊瑚礁を母岩とするものは石灰質より成れる白砂にして、火山岩を母岩とするものは所謂熱帯粘土となり赤褐色または褐色の粘土質土壌を形成す。一般に南洋群島は海島多く棲息するを以て諸處に燐を産し、また至る處多少の燐酸分を含有するもの多く農作物及林木の成長良好なり。然し河川の見るべきものなく沖積土の肥沃なる土地極めて少し。加ふるに日光の直射強く、驟雨また烈しきを以て伐跡地其他山火災等の爲一度裸地となりたる處は、人工的に保護せざる限り地力減退して恢復難る困難なり。斯る理由により各島若干の無立木地ありて僅に羊齒類の繁茂するところ亦少からず。(氣象)本群島は其位置赤道に接し全管内悉く熱帯内に在るを以て、温帯地の如く四季の別なく一年を通じて温帯夏季の氣候にして所謂常夏の國なり。然し各島みな太平洋中に點在せる小島なるを以て、四面海風絶えず島上を吹き渡り純然たる海洋性氣候を現はし、其の晝夜の別に依る氣象變化も亦極めて少く、氣候概して適順といふを得べし。一、氣壓 群島各地共、低緯度に位するため總じて氣壓内地より低く其變化度合も亦少し。昭和十年度に於てはサイパン島附近に於て比較的低きを示し、パラオ島・トラフク島及びボナヘ島に於ては二月乃至

八月の頃高く其他は低きを示す。群島内に發生したる低氣壓は總數三十九にして前年と略等しく前半は甚だ勢力弱きも後半に於て發達しつゝ北西に向ひ猛烈なる颱風となり各地に甚大なる被害を與へたり。二、氣温 全群島一般に殆ど氣温相等しく、また一年を通じて變化極めて少く、これを昭和十年度に就て見るにパラオ・サイパン・ボナヘ・トラフク島の四ヶ所を平均して大體平均攝氏二十六度四となり、其他最高平均二十九度二、最低平均二十四度一を測り全く海洋性氣候を表はす。三、風向及び風速 群島は廣漠たる海洋中に散在するを以て風向自から同じからざるも、殆んど全群島を通じて毎年十一月の候より翌年四月頃の候に至るまで北東乃至東の風吹き、風向一定して動かす謂ゆる貿易風なるものこれなり、五月より十月までは風向必ずしも一定せず、各島に依りて趣を異にす。風速は年平均二・九秒(ノット)にして、一二・三月及び十二月の頃強く七月・十月の間に於て弱し。四、雨量 全群島を通じて降水量極めて多く、各地多少の差あるもこれを平均して一年三〇〇乃至五〇〇〇を測る。これを内地の平均水量一七〇〇に比すれば其の如何に多きかを知らるに足る。就中ボナヘ島は全群島中最も雨量多き地方にして其一年間の降水量四〇〇〇耗以上に達するを常とす。その降雨状態は主として短時間の豪雨にして内地の驟

雨に似たり。これ謂ゆるスコールなるものにして熱帯の炎熱はこれあるがために緩めざる、こと多大なり。而して群島には乾濕期の劃然たる區別なく、概して七月乃至九月の頃を雨季とし、一月乃至三月の頃を乾燥期とするも年々の状況必ずしもこれに合致せず。(種族)南洋群島に居住する種族に關しては諸説區々にして一定せず。或は西方馬來半島より東遷したるものと傳へられ、或は東方ポリネシア族の西進したるものと稱せらるも固より一定せる型の存するにばあらずして、數種族の混血なることは推測に難からず。人類學上これをミクロネシア族と總稱しチャモロ族とカナカ族の二種に分つ。一、チャモロ族 本群島に於けるチャモロ族は白人及びカナカ族の混血なりと謂はれ、また全然別人種なりとも謂はれ定説なし。本據はマリアナ群島を主として西部カロリン群島に屬するヤップ、パラオ之に亞ぎ、其の他の群島には集團的居住を見ず。蓋し該族の祖先はガラム島にありといはるゝを以て、其の四周近距離の島嶼に移住したるに因るならん。往時西班牙領の頃にはサイパン、テニアンに移住し來れるチャモロ族極めて多かりしも、彼等相互間の争鬭及び飢饉に依る虐殺等に因り人口激減し、現今に在りてはサイパン、テニアン及びロタ三島を合して僅かに三千二百人、これとヤップ、パラオ其他を併せて總數漸く三千六百人

ニア、ロタ島に於ける南洋興發會社製糖原料運搬用のもの私設延長百九十軒あり。次いで港灣に就て見るに、本群島は天然の餘恵を受け各島とも大部分環礁を有し、防波堤の效用を成し比較的良港たるべき素質を有するも、蘇維陸地の四周に發達せるを以て商港たるの必須要件を缺き、相當の人工施設を加へざる限り完全なる良港を得ること不可能なり。これがため着々修築改善の進捗に努め、昭和十年末にはサイパン港の完成を見たり。現在三千噸級の船舶は晝間潮の干満を問はず臨時港内に出入碇泊し内一隻は接岸荷役可能なり。猶ほパラオ港も昭和十一年度より總工費二百萬圓を以て修築に着手したり。これが竣功の曉には六千噸級船舶二隻の接岸荷役可能なり。〔沿革〕本群島中のマリアナ群島は第十六世紀の初頃葡萄牙人に依りて發見せられ、次いで西班牙國の手に歸し比律賓及びグアムと相併せて其殖民的統治の目的物たりしも、其政策酷に過ぎし爲か土人の叛亂に遭ひて失敗に歸したり。次で十九世紀の末葉に方り獨逸のマーシャル群島を領有するや、當時カロリンの諸島が徒に西班牙領の名を保持して其實なきに乗じ之を略取せんとしたり。茲に於て西班牙政府狼狽して起ち其主權を争ひ、羅馬法皇の仲裁によりカロリン群島は全部西班牙の領有に決した。時に西曆千八百八十六年十一月一を去る五十餘年なり。〔千八

百九十九年に至り西班牙が米國との戦争により財政困難に陥るや、獨逸はこれを奇貨としマリアナ・カロリン兩群島の讓與を提議し、折衝の末同年六月遂にこれを買収す。然るに千九百十四年即ち我が大正三年歐州戦争勃發し日獨の國交破るるや、我が海軍の南遣隊は直に南洋を突き進み南洋群島を占領し、同時に軍政を布き臨時に治安の維持に任じたり。時に大正三年十月にしてこれを南洋群島に於ける帝國施政の聲とす。次で同年十二月臨時南洋群島防備隊條令發布せられ、司令部をトラック島に置き、全群島を分ちて五民政區となし各區に守備隊を配置し各守備隊長をして軍政廳長として民政事務を兼掌せしめ茲に軍政の基礎を確立するに至る。翌大正四年四月ヤップ民政區を設けヤップ分遣隊をヤップ守備隊と改めたり。超えて大正七年六月民政職員設置に關する勅令公布せられ、臨時南洋群島防備隊司令官の下に民政部を設け新たに民政部長及び事務官、其他の職員を任命し、従来の軍政廳を改めて民政署となし、事務官を以て民政署長に充て各管内の民政事務に當らしめ、守備隊長は専ら地方整備の任に當り茲に群島民政の端緒を開くに至れり。大正八年六月交戰國間に平和條約成立し、主たる同盟及び聯合國の決議其他に依り、南洋群島は委任統治地域となり帝國は委任國としてこれが統治の任に當ることとなれり。茲に於て帝

ナンヨ——ナンヨ

國政府は南洋群島に於ける施政制度を根本的に改革するの必要を認め、純然たる行政廳設置の準備として大正十年七月民政部を司令部と分離し、これをパラオ諸島中のコロル島に移轉せり。而して大正十一年三月従来の臨時南洋群島防備隊條令を廢し、軍隊を撤去すると同時に、四月新たに南洋廳を設置し、以て今日におよぶ。〔南洋廳〕南洋群島。〔南洋廳〕愛知縣尾張國海部郡の東南端。東は庄内川を隔てて名古屋市の西南部に對し、蟹江町の南に隣り、南は伊勢海に臨む。東境を庄内川が南流し、西南境を蟹江川東南に流れ、村内にも幾多の用水あり、土地卑濕なるも耕地よく開けて、米・麥・蔬菜を産し漁業も行はる。各河川には架橋し名古屋市に隣接するを以て交通便なり。本村は明治三十九年、福屋村・茶屋村・福田村を廢しその區域を以て新に置けるもの。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際、この地に御遊覽遊ばされ、いま明治天皇福田行在所として史蹟に指定さる。〔神明宮〕大字東福田に鎮座。郷社。祭神、國常立命。古來當地の産土神たり。例祭、十月一日。〔南陽〕朝鮮咸鏡北道穩城郡柔浦面の洞名。咸鏡道地局北鮮道の南陽驛(昭和七年設置)。

【南陽半島】朝鮮京畿道西南部の半島。北は女帝嶺の南支により、南は南陽灣の北支によりて殆ど大陸と分離せられたる半島にして、その最狭部約二軒。半島の基部中央に飛鳳山(二〇五米)聳え、山肢西南に走りて新里角に達し、一肢は西北に走り、北端には海梁山(二二六米)あるも、平地に乏しからず農業盛に行はる。西邊の馬山水道に面して顯著なる數箇の灣入を見、其他小出入多きも概ね泥堆干出するを以て良泊を缺き、僅に鹽田發達するのみ。半島の東縁に南陽邑(陰徳面)あり。〔南陽灣〕朝鮮京畿道、江華灣南東部に於ける一灣。水原郡西新面の南端なる新里角と、兩汀面の西南端なる古温里との間約一〇軒を灣口とし、北東に向つて深入ること約一五軒、その内部は南陽角によりて兩分せらる。その北支灣の北方に南陽邑あり。灣は低潮時に殆ど全部干出泥堆となり、新里角より南陽角附近に至る間、一條の水道を存するのみ。〔南陽面〕朝鮮慶尙南道泗川郡の東南部。三千浦邑に北隣し、西は長陽灣(泗川灣)に臨む。東北隅には高里約六百米の臥龍山聳えて西南に緩斜し、西南部にも二三百米の丘陵蟠まるも、西北部一帯は低平にして耕地連なる。灣岸は低沙濱を成す處多く、干潮時は泥堆露出するを以て良泊を缺く。産物は米・大豆・棉を主とし、養蠶行はれ、水産に牡蠣・海苔等あり。

り。中部を三千浦、吾列洞の二等道路走リバスの便あり、交通不便ならず。〔南陽面〕朝鮮京畿道南道高里郡の北部。高興半島の基部に當り、東は汝自灣、西は得浪灣の一支灣に臨む。南北に百米臺の丘陵連り、東北部には一小半島ありて中央には望珠山(三四九米)聳ゆ。丘陵斜面と沿海部には田畑よく拓け、米・麥・棉・大豆等を産し、牧牛また行はる。海岸は悉く泥濁にて良泊を缺くも、海苔・牡蠣の産や著はる。西部海岸寄りには高興・筏橋間の三等道路通じ、バスの便あり、交通比較的便なり。

ナンリツ 南栗面

朝鮮黄海道載寧郡の北部。北栗面の南隣にて、載寧邑の東北に續き、東は鳳山郡に接し、西は西江を隔てて安岳郡と相對す。載寧平野中に位し、南部に五〇米程度の丘陵起伏するのみ。載寧江は東部を曲流し、西境を劃する西江と相俟つて灌溉水利の便に富み、農産豊かなり。産物は米を第一とし小麦・大豆・棉・果實・莞草・叭等あり。南部は載寧鐵山の鑛區の一部に當る。載寧邑及び西江右岸の河港新換浦(西湖面)に近く、交通不便ならず。また載寧江左岸の海昌里も一泊津をなし、市場あり。

ナンワ 南和電氣鐵道

社線。奈良縣北葛城郡新城市の尺土驛より南葛城郡御所町の南和御所町驛に至る五・二軒。尺土驛にて社線大阪鐵道と連絡す。軌間一・〇六七米、電氣運轉にして、省線と

ナンヨ——ナンワ

ナンワン 南彎山系

日本列島南部にある山系。原田博士が舊日本即ち内地の地體を北彎・富士火山帶・南彎・琉球弧の四構造に分ちたる一單位なり。而して南彎山系を更に内帶と外帶とに分ち、その境界を諏訪湖―天龍川上流―豊川―楠田川の北方―國見山の南方―和泉山脈の北麓―淡路島の洲本―福良―讃岐山脈の北麓―松山―大分―餘川下流の線となす。外帶に屬する山地は赤石山地・紀伊山地・和泉山脈・淡路南部・四國山脈・讃岐山脈・九州南部山地・天草島・甌島にして、内帶に屬する山地は、木曾山脈・飛騨山脈・美濃飛騨高原・鈴鹿山脈・笠置山脈・葛城山脈・淡路島北部・讃岐半島・高繩半島・中國山地・佐渡(大佐渡・小佐渡)・能登・隱岐・壱岐・五島とす。而して外帶には外側より内側に中生層・古生層・片麻岩及び結晶片岩が帶狀に分布し、噴出岩少なきことを特色とし、内帶には古生層・中生層・新生層が存在し、種々の噴出岩によりて截斷さるるを特色とす。南彎山系は以上の如く東南に突出せる東北―西南の弧狀を呈するも、これは北彎内系と富士火山帶に於て對曲をなせる結果なりといふ。

二 似ノ島

↓廣島市

【新島】伊豆七島の一。大島の南々西四〇新に位し、北々東より南々西に狭長なる火山島(長徑一〇新、短徑一〇新)なり。行政上東京府大島支廳管下にして新島本島と新島若島の二村に分る。島の大部分は流紋岩質の熔岩及び浮石層に依りて構成せらる。熔岩は南部の向山、北部の宮塚山(四二八米)其他の鐘狀火山を形成し、浮石層は向山の外輪山に當る大峰山(三〇一米)を形成する外、中部東岸の羽伏浦に面する一帯の低地には謂ゆる「白マ」層として分布す。また北端近くの小區域にては玄武岩質砂礫層が舊期噴出の輝石流紋岩を蔽ふ。如上の山岳は何れも著しく峻嶒ならずして、中部には平坦なる熔岩臺地廣がり、西側には前浦の白砂連る。沿岸は根浮岬・旗城鼻・神渡鼻・鼻戸崎などの岬あるも比較的屈曲緩漫にして、且つ前浦・羽伏浦の外は殆んど海岸を成すを以て、良港に乏し。主邑本村部落及び若郷部落にはやや低地を見るも表土薄く土地瘦薄にして農産盛んならず。生業は殆んど漁業にして男子専らこれに従事し、鰯・鰯・干魚がその主

なる海産物とす。女子は老若の別なく島田簾に結び布にて鉢巻し農作と家事に従ふ。古契三姉「女房お品は伊豆の大島の生れ、新島村といふ所に鳥糞あきなふ者の娘なりしが、何故にや十一のとし、かな川の宿へ賣られ、いづみやといふうちへ抱へられ、女房は古郷忘しがたきや、一ちばん鹽、二ばん鹽とて鳥干魚の目利と、日和見の事の上手なるもおかしかりき」

【新村】長野縣信濃國東筑摩郡の西北部。松本市の西約二新、西北は梓川を距てて南安曇郡倭村に對す。松本盆地の中部に位し土地低平、西北境を伏流をなして梓川東北流し、氾濫原や廣し。土壌は砂質を帯び水を滲透するも田畑よく開け、米・蕎麥を多産す。縣道野麥街道は中部をほゞ東西に通じ、これに並走して社線松本電氣鐵道あり、下新驛・北新驛・新村驛(以上大正十年設置)を置く。人口は大正九年三〇二八八なりしも同十四年二九九二八、昭和五年二七八二八、同十年二六九八八と減少を示す。此地は和名抄、筑摩郡崇賢郷の内なり。中世新郷と稱せられ、慶長年間新村と改稱す。

二一イ 新井

【新井】遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に城河郡新井郷あり、爾比井と調す。その地今の小笠原郡大淵村・三枝村・三俣村の邊に當る。【新井】阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に名東郡新井郷あり、爾比井と調す。その地今の名東郡新居村の邊に當る。

抄に名東郡新井郷あり、爾比井と調す。その地今の名東郡新居村の邊に當る。

二一イ 新居

【新居】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に多珂郡新居郷あり、その地今の多賀郡磯原町・關南村の邊に當る。【新居】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡新居郷あり、その地今の鹿島郡内ならんも詳かならず。【新居】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に武射郡新居郷あり、その地今の山武郡二川村の邊に當る。【新居】武藏國(東京市)の古地名。和名抄に下總國葛飾郡新居郷あり、その地今の葛飾區新宿の邊に當る。【新居】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に不破郡新居郷あり、その地今の不破郡宮代村の邊に當る。【新居】伊豆國(静岡縣)の古地名。和名抄に田方郡新居郷あり、その地今の田方郡南村の邊に當る。【新居】駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に有度郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の安倍郡内ならんも詳かならず。【新居】駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に益頭郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の志太郡焼津町の邊に當る。【新居】近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に淺井郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の東淺井郡大淵村の邊に當る。

【新居】伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に新居郡新居郷あり、その地今の新居濱市・新居郡神郷村・多喜村の邊に當る。【新居】愛媛縣新居郡加茂村にあり、本邦重要鑛山の二。鑛區二十二萬四千六坪、昭和十年に實合銅硫化鐵二、八八九噸を出し、同年六月末の使用鐵夫五一人にして現在日本鑛業株式會社の經營に屬す。産物中銅分は直島製錬所にて合併製錬せられ、其他は鑛石のまま販賣せらる。

【新居】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に席田郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の福岡市席田の邊に當る。

【新居】筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に下妻郡新居郷あり、その地今の八女郡内ならんも詳かならず。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

【新居】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡諫早町の邊に當る。

大袋・川通の諸村と共に新方領と稱せし地に於て本村に領名の遺存なり。

二一ガタ 新潟

【新潟縣】北陸地方の一縣。越後・佐渡二國より成り、東北は山形縣及び福島縣と界し、南は群馬縣・長野縣に隣り、西南の一部は富山縣に接し、西北一帯は日本海に面す。その海岸線延長は四〇〇新に及ぶ。佐渡島・粟島は海上に浮び、佐渡島は日本海上の一大島として知られ、本土との最短距離は四三新に過ぎず。縣の面積は二、五七八・〇五方新にて全國第五位、人口は一、九九五、七七七人(昭和十年)、一方新の人口密度は一五九人にして全國平均密度一八一人より少く全國府縣中第三十一位とす。行政上新潟・長岡・高田・三條の四市と北蒲原・中蒲原・西蒲原・南蒲原・東蒲原・三島・古志北魚沼・南魚沼・中魚沼・刈羽・東頸城・中頸城・西頸城・岩船・佐渡の十六郡より成り、縣廳を新潟市に、佐渡支廳を佐渡郡相川町に置く。其形北東より南西へ延びて縦に長く、その趨勢と輪廓は本州島の縮圖を想はしむ。延長二七五新の長さ單調な海岸線に對し微斜行して北東より南西へ連する縣境の越後(北)及び三國(南)の兩山系、其前地山麓丘陵として雁行する東山系及西山系、其間を縱行或は横行する水系は、完全に縦を主とし、横を副とする越後の地理的現有景觀の原因をなす。佐渡もこれと同様とす。越佐の

二一カ—二一カ

地理相を語るものば先づこの山の分布が冬季の北西の季節風を防ぎ寒害を保護する象なることは特記すべきこととす。更に越後地方の高距分布を概括するに北西に低く南東に高し。之が北東南西系の新しき斷層によりて幾多縱列の斷層盆地を作り、更に之が今日地形性地方的氣候の原因となり、人文の上にも基調的影響を及ぼして居る。要するに縦の連続性と横の不連続性が高距分布の統制の下に雁行階段狀に分布せる所に越後の綜合的地理的特色あり。冬季の積雪の分布は此間の消息を物語るパロメーターなり。海岸と山間の斷層盆地に於ける多雪地との間には年間降雪を通じ千耗の降水量の相異あり。本縣の多雪地は(1)東頸城・西頸城の山間盆地帯、(2)魚沼三郡の各盆地帯(3)中越盆地帯、(4)東蒲原東部・岩船郡北東山間部なり。然し上雪(南)・下雪(北)と稱し、南部越後と北部越後に於ては降雪量に相違あり。之が海岸地方と山麓地方との間に於て生産分布上如何なる相違を來すか、生活様式の上にも如何なる差異を齎すか、想ひ半ばに過ぐるものあり。勞働統制の意味より山間部の住民が冬季出稼を爲すのも、或は山麓地方に特殊の織物工業の起るのも横の方向に於ける地理的差異の存在が齎せる所産とす。更に三次的に地質學上より越後の自然的特質を見、その人文的交渉を系統付けて見ん。地質學的には越後は、越後・三國・飛騨

の三山系區及び中央褶曲プロック區に分類せらる。前三者は山形・福島・群馬の縣境及び西越の國境を縱走し何れも高峻なる地壘山地をなす、主に花崗岩・閃綠岩を基盤とし歴古生層及び第三紀古期の綠色凝灰岩を伴ふ。中央褶曲プロック區は前三者の斜交地帯なる兩越國境より關田山系及びそれに雁行する數條の丘陵性山系として北東走し、國內に縱走蟠居する新第三紀層區域なり。是等は何れも斷層を伴ひ其中部を縱に流るる一大斷層谷信濃川を境とし東山山系及び西山山系とに大別さる。西山系の延長は北越の海上に浮ぶ粟島まで之を追跡し得。是等の第三紀層は概して洪積期の段丘に依り縁取られ、又歴第三紀時代の噴出にかかる火山岩を伴ふ。粟島・角田・彌彦・米山等は其例なり。尙ほ信越國境附近には妙高を始め幾多の新火山の噴起するあり。此附近が富士火山帯に關聯して著しき碎片地帯なることを圖示す。越後の一生命であり、之あるが爲に福岡に亞ぎ本邦第二の鐵産國たらしむる所の越後の石油は實に此褶曲プロック區の特産とす。又そののみを以て北海道に亞ぐ農業國の名をもち得たる越後の米は是等褶曲プロック山間を充填する沖積平野の特産なり。産額約三七九・四萬石(昭和十年)一人一年一石消費するとして越後の人口二百萬にては一七〇萬石の過剩を來す。其の餘りしものが年々東京を始め長野・北海道その他

へ移出さる。この米が越後人の自給を專ら持ちしことは面白き因縁なり。上移産物は米の自給自足を中心として北國に類を唱へ、徳川は米を通じての越後の經濟的潛勢力を、且つ頼み且つ惧れて封地の分割政策を取れり。是が越後人の調和性を如何に破壊せしかば想ひ半ばに過ぐるものあり。其米の多産地は信濃川縱谷に發達する越後平野と信越國境の碎片地帯の北方に壓迫する頸城平野とす。尤も兩平野とも海岸周縁に最高標高三〇米に及ぶ砂丘の發達著しく、之が爲その内面に湛水する河水の排水には古來農民の最も苦心せしところにして、今も砂丘に残る落堀川・加治川・新井郷川・阿賀川・内野新川等の人工的分水路は如實に當時の治水史を物語る。明治四十二年に起工、漸く大正十五年諸工事完了の大河津の大分水に幕を下せし越後治水史には幾多の血と涙の史實あり。而して水に苦しめられ乍ら國土に親しむ本邦治水文化の代表的縮圖がここに見らる。信濃川縱谷は越後の大動脈にて其の延長は地質學的には遠く粟島と蘆島山塊との間まで追跡し得べく、越後の横谷性一大河川阿賀川を初め、其以北の加治川・胎内川・荒川・三河川等は總て其信濃川縱谷より派生する横谷と稱するも過言ならず。其下流域域に越後平野が起り本邦第一の米の穀倉が胎胎す。縣下に於て信濃川の水系區に入らざるは刈羽と米山分水嶺以西の頸城にして前者

の主邑に本邦マアケシウム工業の發祥地にして石油に榮える工業都市柏崎、後者に高田・直江津・糸魚川、更に石灰工業により新興の青海あり。古來越後にては米山分水嶺以西の地を上越、それより以北東、阿賀谷までを中越、其以北を下越と呼ぶも、此分類には地理的妥當性あり。言語・風習・氣質の上にも異相を認むべく、孤島佐渡を合せて新潟縣の四地理區と稱し得べし。頸城平野は上越の中心にして上越米の産地として名高し。高田・直江津は其中心都市にして前者は上杉謙信の居城春日山を近郊に控へ、本邦スキーの發祥地、今日は軍都として名あり、怪傑支那の蔣介石もここに寄附せしことあり。直江津は新興工業に勃興せる要津、新潟と共に佐渡への定期航路をもつ。其の地理上古來上越は中越よりは寧ろ信州と因縁深かりしことも興味あることなり。上杉謙信が武田信玄に鹽を送りし鹽の移入路もここに在り。又江戸時代佐渡金山よりの金銀もここを通りて信州路に出で江戸に運ばれしといふ。總括的には越後は米・石油に深き經濟的意義を有するも工業方面も近年頗り勃興しつつあり。本縣の全生産總額中、工業はその四七・五%を占め農業の三五・一%を凌駕す。然しこの事は本縣の縣民生活が上記比率を以て工業に依存するものならず。農家は全戸数の五五%にして、依然農園の域を配せざることを證明す。又

本縣の融雪を通じての各河川は水量の豊富なることはその地形的優越性と相俟ちて、今や白炭國としての大越後を現出せしめつつあり。信濃川・阿賀川が全国的に發電文化に貢献せることは實に著明にて、又通信省發表によれば此の二大河川を中心とする今後の開發可能力も一、〇四七キロワットに上り、遂に他府縣を凌ぐ。此等の河川發電に於ては其河岸段丘が極めて有利な自然條件を提供す。信濃川本流に於て中魚沼郡内の河岸段丘地域に目下工事中の鐵道省直營の千手發電所の如き實に規模の雄大なものなり。これ以外に信濃川にては、支流中津川第一、第二、支流清津川よりの引水の湯澤・關山、支流破間川の須原、同支谷の平石川・黒又川の上條等主なるもの大小十九ヶ所の發電所見らる。阿賀川にては鹿瀬及び豊田の阿賀川第一第二發電所が著大にて、信濃・阿賀兩川にて其出力廿萬キロワット以上に達す。人造肥料工業の中、鐵物質肥料工業は、新潟縣が神奈川縣に亞いて本邦中第二位にあり約一六%を占むるも、又その工業に於て縣下僻地の地に在る西頸城郡青海及び東蒲原郡向原の僻村が二大工業地として時代の尖端を切りつつあるも豊富なる石灰岩と、水力電氣との供給に恵まれし立地要因を有せる爲なり。新潟市に於ける年平均気温は一・二・六度にて、最高極は八月の三五・五度、最低極は一月の一・四度とす。年

Table with 2 columns: 種別 (Agriculture, Forestry, Livestock, Industry, etc.) and 價額 (Value). Rows include 農産, 林産, 畜産, 工業, 總額.

右表中の農産の殆んどは米産にして、その作付反別は北海道に亞いで第二位なるも昭和十二年に於ける其米高は四、一四、六六、七、二、六五八、三、一

七四)にして實に我が國中第一位を占む。その三分の一は縣外(主に東京・長野・神奈川・北海道等)に移出せらる。然し從來田母木と呼ぶ特色ある稻架によりて乾燥するにも拘はらず、晩秋の候に雨天の多きことは著しく米質を低下せしめたり。縣當局に於ては鋭意如上の氣候に適應する新品種の發見に努めたる結果農林一號の如きを得、市場の廉價揚がり、特に加治川・荒川・西川・中越・上越・魚沼等の産米は斷然頭角を表はすに至る。而して獨り飯米のみならず糯米も亦大いに市場の歡迎を受くるに至る。然し深雪なる關係上二毛作田は極めて少なく、僅に佐渡に於て麥類・綠肥類の二毛作行はるゝに過ぎず。桑の栽培、蠶の飼育は山麓地帯に一般に行はるゝも見るべきもの少なし。然し中蒲原郡小須戸附近のチユリツブは世界的に有名にして、岩船郡村上町附近の製茶は我國に於ける經濟的茶樹の北限なり。その年産は六十萬圓程度なるも香味水色共に特徴あり。主に静岡地方に移出して彼地産品の混合品とせらる。柳葉・廣葉・捲葉など最も多く煎茶六分、番茶三分、玉露一分の製造割合なり。新潟市附近の砂丘上は西瓜・桃等によりて最もよく利用せられ、信濃川・阿賀川の下流域域には梨・葡萄等の栽培行はる。殊に梨は古來越後梨として著く著聞し、冬期貯藏に適する特質あるを以て、梨箱輸出の主要品として大いに

珍重せらる。種類は二十世紀・早生赤・大白・三吉等最も實味せられ、晩三吉は朝鮮・滿洲の市場を風靡す。これ等果實の年總額は百五十萬圓を算す。畜産は牛(約三萬六千頭)・馬(二萬七千頭)・豚(三萬一千頭)・鶏(約百萬羽)等あるも何れも微々たるものとす。牛は古來佐渡牛の名を以て知らるゝも、大佐渡の山地に於ける粗放的な放牧にして質・量共に見るべきもの少し。林産品の主なるものは木炭なり。年産四十萬圓に及び、岩船・佐渡・東蒲原の諸郡に最も多く、單に縣内の消費に止まらず、漸次中央市場にも販出せらるゝ状態にあり。桐も亦本縣の氣候風土に適し品質優良にして生育順調なるため盛んに栽培され、家具材・下駄材として大いに重きをなす。また佐渡の地は竹材に適し縣産の約八割を占め、竿竹として出す外各種の竹細工を作る。粟島竹は、桶・樽等の籠用として名高く竹質軟く且つ強靱なるため醸造家の推賞するところたり。水産は海岸線長く且つ漁港乏しからざるを以て見るべきもの多し。沿岸漁獲物としては鯛・鯖・鰯・鳥賊等、沖合漁獲物としては鯛・鯖・鰯・鮒等を挙げ得。また信濃川・阿賀川等による鮭・鱒の産も少なくなく、養殖魚としての鯉また見るべきものあり。かく魚類豊富なるを以て水産加工品として市場に搬出さるゝ高も少なからず。殊に佐渡の櫻鮓・城斗烏賊、出雲崎の烏賊鹽

Table with 2 columns: 種別 (Cotton, Silk, Wool, etc.) and 價額 (Value). Rows include 綿織物, 絹織物, 毛織物, 木製, 竹製, 肥料.

幸、柏崎の鋼の子製幸、笠島の手製幸等に著く知らる。鐵産は石油と金を以て殆んど占む。石油は新潟・東山・西山・頸城等の諸油田より採取せられ、昭和十一年度に於ける原油は三百九十九萬圓にして秋田に次いで第二位を占め、製油は千六百七十九萬圓にして第三位とす。然し昭和七年度に於ては全國産油量の六%を占め全國第一位たり。金は専ら佐渡にて採掘せられ、其歴史の古きことは著く知らるゝところ。昭和九年度に於ける金産額は八十二萬圓にて、最近相川町附近より砂金の採取を見ることとなりたれば、其産金額も増加を見るべし。その他銀・石材土石及び鐵水等あり。工業は頗る豊富にして昭和十一年度に於ける主なるものを舉ぐれば左表の如し。

む。舊は採取應用の宜民生地、船舶・特等、洋服袖裏地等何れも益々發展の趨勢を示しつつあり。綿織物は木綿織・夜具編等近年時代の變遷に依り生産額々減じたるも尙ほ東北・北海道地方に於て額を稱へつゝあり。また楊柳縮は時代の浪に乗り徐々に發展するの傾向にあり。麻織物は越後上布古くより著名にして、その産額は大ならざるも盛夏用高着尺として薩摩上布と共に天下の雙壁といはる。一般向としてはラミー糸應用の製品多く生産せられ、更に近年は婦人向模様の物に進出し新規輸品として好評を博しつつあり。組編業に就いて見るに本縣は元來積雪下に埋れる事約半歳に及ぶ自然的關係上、地方婦女をして手機に親しましめ、それが以上記述せる如き各種織物の濫觴となりしものなるも、時代の推移はこれ等をして漸次力織機に轉ぜしむるに至るや其經驗と熟練の手は副業としてパーテーションの産出を促し、その結果高田市の如きはアンドの産地として天下に冠たるの時機を現出せしめたり。然し現在殆んどテープ工業に轉向し、その製品の一部は海外へ輸出されつつあり。一方マニラ麻に依る眞田工業も近年益々發展の傾向にあり。また農業國だけ肥料の需要も亦莫大にて、その關係上人造肥料の産額少からず。就中過燐酸肥料・硫酸アモンニア等は盛んに縣外に移出し、其他鹽神柏・骨粉・鹽柏・玉筋魚神柏及び各

種品の油粕等縣内各地に製出さる。その他木製品・竹製品・酒類等何れも相當なるべきものあり。殊に酒は醸造米豊富なるため頗る盛んにして其年産は全國中第八位にあり。三條市の双竹、燕町の銅器、村上町及び新潟市の漆器、佐渡の無名異燧等も亦特色あるものとす。省線信越本線は南方長野縣より來り高田・直江津・柏崎・長岡・三條・新潟等を経て新潟に終り、北陸本線は西南方富山縣より入りて直江津に結び、新潟よりは羽越本線・岩越西線を分岐し、柏崎と新潟(白山)は越後線にて結ばれ、長岡に終る上越線は日本第一の長トンネルなる清水トンネルを経て群馬縣に通じ、その越後川口より分岐する十日町線は社線飯山鐵道と連絡し、その他赤谷線・彌彦線及び大糸北線あり。私鐵には新潟臨港・蒲原・長岡・栃尾・頸城等地方的の輕便鐵道あり。縣下には市街電車は皆無なるも、近年乗合自動車補助交通機關として活躍す。しかし積雪量を増せば杜絶することは勿論にして、權を以てこれに代へらる。海運としては我國にて最も古き開港場の一たる新潟港を控へ、佐渡の夷港を補助港として近年築港工事を完成せしむ概して振はず。然し新潟港よりは新潟北鮮間の命令航路が、日本海汽船會社の滿洲丸及び天草丸によりて毎日八往復して新潟と清津及び羅新を連絡し、旅客航路として相當重要性を有す。(沿革)明治の初め越

後府・新潟府・新潟縣等相次いで新潟市に置かれ、藩政以外の地を管せしむ、同四年に至り長岡藩以南の諸藩の縣となりしを廢して柏崎縣を置きて頸城・古志・魚沼・刈羽・三島の五郡を管し、北方諸藩を廢して置きし縣を新潟縣に併せ、津川郡(のち東蒲原郡)を除く蒲原・岩船二郡を管し、佐渡は相川縣の管轄とす。同六年六月に至り新潟縣は柏崎縣を合せ、更に八年四月相川縣を併せ、同十九年南蒲原郡を本縣の管轄に移して今日に至る。

【新潟市】新潟縣の北部。真日本に於ける屈指の大都市。信濃川の河口に跨り、北は日本海に面し、近く佐渡の翠岳を望み、東は中蒲原郡大形村、南は同郡島屋野村・石山村、西は西蒲原郡坂井輪村に接す。面積二〇・二四万軒。人口一三九、一〇〇人(昭和十二年)。信濃川により構成されしデルタ上に發達し、且つ信濃川は本市の中部を貫流するを以て川の左岸(江西新潟)・右岸(江東沼垂)に分ち、江西・江東は萬代橋にて結び、河口は新潟港となる。右岸は土地低平にして遙に背後の越後平野に續き、通船川は信濃川岸の燒島湯と阿賀川を結ぶ。左岸も地低平にして堀・運河縱横に通じ、運河の岸に植みられし柳は本市をして情緒ある都となし柳の新潟として知らる。併し海岸一帶には二〇乃至三〇米の砂丘列ありて市街と海を隔て、砂丘列の東北部に日和山

(二七米)、中部に松山(二六米)あり、海濱一帶は遠淺にして岩石藻類なく、白砂に映ゆる防砂林の綠美しく好適の海水浴場をなし寄居濱は特に著る。昭和十年の氣象を見れば、月別最高氣温は八月の二五・六度にて松本(二二・九度)より高く、名古屋(二六・五度)より低く、最低氣温は一月及び二月の一・五度にて名古屋の三・一度(一月)よりは低く松本の零下二度(一月)より高し、平均氣温は一・七度にして、松本(一〇・三度)より高く、名古屋(一四・四度)よりは低し。即ち表日本の名古屋よりは寒きも中央高地の松本よりは暖し。同年の最高氣温は三〇・五度なるも記録は明治四十二年八月六日の三九・一度、最低氣温は、零下一・四度にて記録は明治三十五年二月十三日の零下九・七度なり。雨量は冬季に多く十二月の二五・五を最多とし、年降水量は一七八一・一。快晴日数は一年を通じて廿一日、曇天日数は二百三日、降水日数は二百廿四日とす。平均初霜は十一月下旬にて終霜は四月初旬、雪は十一月下旬に初まり三月下旬に移る。平均風速は三・七米なるも冬季は五米内外の風となり、従つて降雪量は高田に比し遙かに少し。本市の職業人口構成率は商業三三・三に對して工業一にて必ずしも生産都市ならざるも、江東沼垂を中心とする工業生産に發達の著しきものあり。即ち燒島湯を中心とし左岸には北越製紙工場・日

表一第 工場及び職工數 (昭和十年以上)

種別	工場數	職工數
紡織工業	20	9,900
織工業	26	3,900
機械器具工業	1	1,900
窯業	3	1,600
化學工業	1	1,600
製材及木製工業	1	1,600
印刷製本業	3	1,600
食料品工業	3	1,600
電氣瓦斯工業	3	1,600
其他の工業	3	1,600
合計	63	24,100

本石油株式会社製油所、北岸には名古屋紡績株式会社・新潟電氣工業會社・大日本製材會社あり、信濃川に注ぐ新川沿岸に硫酸會社及び新潟鐵工所ありて濃刺たる工場地帯をなす。この工場地帯の發達

表二第 主要工業産額 (昭和九年)

種別	生産額(圓)
製紙及パルプ	7,430,495
製油	7,350,499
肥料	3,740,353
金屬及機械器具製品	3,440,555
印刷製本業	2,450,892
食料品	2,450,892
電氣瓦斯工業	1,200,000
其他の工業	1,200,000
合計	24,100,000

米の産出が酒の元となり、製製品となる。嚴寒は白玉粉の助長條件となり、雨多きは、及び近郊の梨の大産出が齎らすワイスキーの醸造等の特産物となり、多く北海道方面に送らる。商業は江西の下町に盛にして且つ近年新潟港の改修に伴ふ

は水陸運輸の至便にして、用水の潤澤なると、冬季の北西卓越風に對しても春夏を通じての卓越風ダシに對しても防煤煙的位置にあるによる。工場及び職工數は第一表の如く、昭和九年の生産總額は、約三・三千万圓、その主要工業品は第二表に示せるものにて之等は主に沼垂工業地域に生産され、其他全市を通じ指物・履物・醸造等あり。漆器及び佛壇生産の濫觴は越後に漆を多産せしこと、親鸞と共に佛師・繪師の越後に来りしことに因るといふ。また上杉藩の村材栽培の獎勵が國物及び村材製品を多産を由來し、

港の完成により盛況となり、昭和九年の外國貿易に於ける輸出額は約一五七四千圓、礦油・機械類・炭灰石灰・車輛等を滿洲國・關東州・中華民國に出し、輸入額は約九六七千圓、豆糟・石炭・原油及び重油・鑄鐵石・何料・骨粉・大豆等を滿洲國・中華民國・關東州・北米合衆國・南部アシア等より入る。之等が主として滿洲國・關東州・中華民國を取引先とするは本市の地理的位置による。内國貿易に於ける移出額は二四〇二八千圓、米・礦油・肥料・豆糟・金屬・漆・洋紙・綿

織物・豆類・機械類・製製品・砂糖等を主なるものとし、移入額は三九一八四千圓、米・砂糖・石炭・肥料・礦油・鹽・木材・金屬・鮮魚・豆糟・セメント・魚糟等を主要品とす。水産漁獲額は約三四〇千圓、蟹・鯛・鮭・鱒・鱈・鰯等を主漁獲物とし、水産製造物に蒲鉾・佃煮・イリコあり。なほ本市の野菜・魚の朝市は廣く知られ、野菜市は本町の五番町・六番町が古來本場となる。毎朝暗きうちより近郊の農民は街路の兩側に露店を開き、魚市は十一番町にあり、俗に助賣場または魚町と稱し古き歴史あるも、今は株式組織の魚問屋を中心に大規模の取引が行はる。交通は裏日本に於ける一中心にして、省線北陸本線・羽越本線に依り關西及び奥羽方面に通じ、上越線・信越本線・磐越線に依つて關東に通ず。信越本線は本市を終り、新潟驛(明治三十七年設置)沼垂驛(明治三十年設置)を置き、上越線急行によれば新潟・上野間は七時間より來りて終點白山驛(大正元年設置)及び關屋驛(大正二年設置)を置き、社線新潟電鐵は本市の東關屋驛(昭和八年設置)に初りて三條市隣村の西蒲原郡彌彦村に至り、東關屋驛よりは縣廳前軌道により縣廳前驛に至る。なほ省線と港を結ぶ社線新潟臨港は信越本線の上沼垂信號場より新潟臨港驛に至り、水陸交通に便せしむ。なほ越後線終點白山驛と羽越本

線新發田驛を連絡する自新鐵道も近き前工これが完成せば新潟は東日本直通線の一驛となりて鐵路交通上一新紀元を劃するに至らむ。海上交通は新潟港より大連・北鮮清津・羅新・雄基の各港、南鮮釜山・木浦・群山・仁川の各港及び北海道小樽港に定期航路の便あり。近く佐渡へは毎日二回の定期便船あり。また近年航空路の開闢あり、毎日東京へ一往復、所要時間二時間。市内交通機關は電車軌道の敷設なきも乗合自動車縱横に走り些の不便もなし。市街地をなす江西新潟は市區比較的整然とし、都市計畫のもとに發達せし商港都市たるを示す。即ち南北に走る東堀と西堀が道路の基本となり、榎谷小路を南北に切つて東西に並ぶ。之等の縱貫大通は更に榎谷小路と並行する横貫道路にて區劃され、南より北に一番町・二番町と續き十四番町に及ぶ。併し近年の膨脹附加區域は必ずしも市區整然とせず、例へば南新潟の一中心地として發展せし學校街道、西の砂丘に接し發展しつつある通などはこれなり。蓋し本市は堀直寄の都市計畫に發し、明暦の改修にて完成し、のち北漸せしもの、今は反對に西南に砂丘を追つて發展し、ここに山の手と下町とが區別されるに至る。山の手は最近に發展せし學校地域・住宅地域なり。醫科大學・高等學校及び師範學校その他中等學校ここに集中し、松林の中に校舎を連ね。土地高燥にして多年市民の

苦心になる砂防林は風食林を兼ね砂丘を大公園となす。下町は即ち堀直寄の都市計畫をなせし所、明和の頃、小島火事のため全市街の三分の二を燒き、葦葺屋根を木羽葺に改めしにより當時の遺物はなし。また明治四十一年の大火にて北國特有の版木の景観も失はれ、一部に廊架の數石のみ残る。古町附近にはビルディングが建ち並び、一流の店舗はここに軒を列す。古町の東と西の通を東堀・西堀といひ、兩岸に柳垂れ柳の新潟を現出し中にも西堀八番町・九番町附近は花柳の巷となる。市役所は榎谷小路と寺町の交叉點に警察署と相對し、自ら住宅區・商業區が東西に分る。市内を縦貫する運河は殆んどその用をなさざるも、今も東堀の多門川は船舶集し、兩岸には大商店軒を並ぶ。多門川と東堀との間の二大縱貫道路には銀行・會社・病院・大商店などあり、古町と共に氣品ある街路をなす。

〔沿革〕市街は元來信濃川の河口の砂洲上に發達せしもの、天正の頃には以前より在りし濱村と新らしき島村とが存在し上杉景勝の新潟攻めの頃は商家軒を並べ相當の港町を形成せしもの、如し、確實なる史料による現新潟發達の基礎は元和二年七月堀直寄が信州飯山城主より、長岡へ移封され、その領地たりし新潟を港町として繁榮せしめんとしして各種の制度を定めし時にあり、然るに間もなき元和四年四月直寄は村上城主に轉封せられ新

にあり、正門は瓦葺小路に面す。此の奉
行所を狭み西堀通に面して左右に諸役人
の屋敷並列せり。町吏の執務せる町會所
の正門は本町通七番町に、裏門は東堀通
七番町に面し、西南隅(現第四銀行入口)
に一箇の巨鐘を掲げし高樓ありて時報に
便せり。東新湯即ち沼垂の地名の古史に
見ゆるは新湯より更に古く遠く孝徳天皇
大化三年滄足の柵を置かれたるに於ても
今日其遺跡分明せず。現沼垂の町は古來
よりのものに非ずして古沼垂の遺跡は現
山の下の東方焼鳥湯を前にし砂丘を背に
したる王瀬山(沼垂)の地なるが、沼垂が港津
として發達せるは天文・天正以後とす。
然るに寛永以後頻々として水害を受け、
移居數次人民流亡して湊町津屋の業を失
ふに至れり。然るに天和二年更に便利な
る地域を占めんがため、長嶺馬越の栗の
木川の東岸に町割をなし三年を経て新市
街を成し、こゝに再び沼垂の復興を見る。
これを貞享甲子の移轉と稱へ、即ち現沼
垂の市街なり。江戸時代此地は新發田藩
藩口氏の領地として、其の治下にありし
が、貞享移轉後藩主は此地に郷中の穀倉
を置き米穀の集散地として市街の繁榮を
策せしが、是より前、寛文年間河村瑞賢
幕命を受けて東北沿岸廻航の行程を定む
るに當り、御城米廻漕の安全なる碇泊港
として新湯を指定せし後は海道の占有權
は殆ど新湯に移り沼垂は萎微衰はざるの
運命に陥れり。其後數度に互ひこの港津

權挽回のため新湯と争訟を起せしも遂に
目的を達せず、相宜利便な地の利を有し
乍ら爾來港津としての好運の機会を失へ
り。明治十二年四月中蒲原郡沼垂町とな
り、屢々新湯市と合併の議起りしも在來
の歴史的反感容易に解けずして成らず、
漸く大正三年四月新湯市と合併し、現新
湯の國際港としての諸設備はこの沼垂の
地に設けられ新湯發展の源泉地となる。
〔新湯港〕 新湯港は市の生命なるも其發
達は前記の如く後世に屬す。往古信濃・
阿賀の兩河は、河口を並べて海に注ぎし
が、其海港として最も古きは延喜式に見
ゆる蒲原の津なり。蒲原の津は阿賀・信
濃の交流する東南岸に位置し既に延喜以
前より越後一圓の貢米の集散地として夙
に繁榮を極めし其後河川の侵蝕を受け
て、江戸期以前既に凋落し沼垂之に代り
て港津の機能を發揮せり、然るに沼垂も
前記の如く水勢の變化につれて屢所換へ
の止むなきに至つて凋落を來し、貞享以
來現位置に居を定めて復活し一時新興新
湯と相拮抗せるも、遂に新湯に港津とし
ての權を奪はるゝに至れり。新湯は信濃
川の移動によつて水利の便を増し加ふる
に元和・寛永以後堀・牧野歴代領主の厚
き保護あり、市民また港を以て生命線と
なし極力其の保護發展に努力せし結果は
港津として日本海に覇を成すに至り元祿
享保の間に至りて其の全盛期を招來せり。
然るに享保十五年新發田藩主頼昌の開

發樂田を計畫して以來、阿賀川の本流は
直に海に注ぐに至る。從來、阿賀・信濃
の兩河の水流によつて港津の水深を保ち
し新湯港はこゝに流勢の一半を減じ流砂
沈滞して港門を埋む。こゝに於て、阿賀
川の水を信濃川に引きて水深を高めん
とせしも効なかりき。明治元年十一月幕
府開港の約に従つて佐渡の夷港を補助港
として五開港の一として開港せしも大なる
通商もなく市勢亦振はず、依てその後
港津修築につき度々計畫せられ、或は堤
防修築に或は河身河口の改修、東西防波
堤の築造等となりしもその効果は微々た
るに止り、一方日本海の巨濤は防波堤を
破壊する等市民の困憊を増せるのみ。然
るに明治四十二年上流大河津の分水工事
とともに河口修築工事が政府の直營事業
として起工され大正十五年其の完成を見
こゝに上流よりの流砂も減じ水深は深く
漸く港津としての面目を復活せり。一方
大正四年より縣營事業として埠頭岸壁工
事が始められ、同十五年その竣功を告げ
たり。なほ大正十一年八月新湯臨港株式
會社設立され、築港工事の認可を受け、
新湯築港と不離の重大任務の下に縣營築
港より更に河口に近く築港築堤を敷設
埠頭を整へ、一方臨港貨物の鐵路を敷設
し、沼垂譯にて信越本線に聯絡せしめ貨
物の運搬に便せり。斯て新湯港の設備は
大に整ひ大船の出入自由となり、港勢發
展の機運に向へり。然るに側濱河内國の

獨立成り東京北鮮滿洲間の再短距離にあ
るを以て一躍國際港となり、港津の設
備も完備擴充され、近き將來自新線の完
成せんか、北海鐵路の要驛ともなるを以
て、今後の新湯市の海陸の發展大に嚆矢
をなす。新湯港へ輸入さるゝ主なる物は石
炭・木材・油類・セメント・肥料等にて輸出
さるゝ主なる物は米穀・石油・果實等にて
昭和十一年度輸出入總計は一、四二二、九
三二噸、金額にて七六、三二一、二一九
圓に達し累年著しき増加の傾向にあり。
同年の入港せる船舶總計は次の如し。

船舶總計表

船種	噸數	内航船	外航船
噸數	八、四七六	一〇一	九、三六五
噸數	八、四七六	一〇一	九、三六五

り。現橋は長さ一四五米の陸橋につき二
七〇米、眼鏡橋をなし、無交式六連橋の
コンクリート製なり。幅は二二米。勾欄
は花崗岩の笠石を有する鐵筋コンクリ
トづくりにて、親柱は花崗岩を裝ひ美觀
を添ふ。橋の側面の拱肋は花崗岩モザイ
ック張りなり。全體の拱軸曲線は美しき
カーブを描き橋に重みと氣品とを與ふ。
〔明治大帝の御聖蹟〕 明治十一年九月十
六日明治大帝北陸御巡幸の際當市に行幸
あり。十七日・十八日兩日御在り、十九
日新發田に向け御發駕ありたり。其時の
行在所は新發田の富豪白勢成徳氏の當市
磯町の別邸なり。當時の建物は取り毀さ
れ白勢家の菩提寺新發田町長徳寺に移さ
れしが大正十三年東宮御成婚奉祝のため
市は其舊邸を購入して磯公園となし、其
御遺蹟方保存の方法を確立せり。今一つ
の御聖蹟は沼垂町の流作場阿部九二造邸
の風趾園なり。大帝其十九日白勢家を御
發信濃川を船にて渡御遊ばされ御上陸
後御小休あらせられし御遺蹟にて、現時
も舊態其の儘に保存さる。明治三十五
年御巡幸二十五週年に際し記念門を建設
して風趾園と名づく。以上二聖蹟はいづ
れも史蹟に指定せらる。〔竹内式部の墓
碑〕 寶曆事件に際して三宅島に獄死せる
江戸時代の勤王の大儒竹内式部は當市の
出身なり。その舊宅址は本町通六ノ町に
あり、大正五年有志の義舉に依つて白山
公園内に記念の大碑を建てられ、更に昭

和七年三宅島の墓地より遺骨を掘り、翌
八年日和山の下、松風嵐々たる丘に地を
相し其英靈を祀る。毎年十月五日墓前祭
行はる。〔戊辰の役の史蹟〕 市の西北常
盤ヶ丘にある招魂社は戊辰の役の官軍の
勇士三百五人の英靈を祀り、其傍老松の
下其墓碑並列せり。明治戊辰の際本市は
幕府直轄領たる關係上米澤・會津・庄内・
仙臺の各藩士此に據りしを以て官軍は海
路對岸新發田領大夫濱に上陸し、七月廿
七日沼垂より攻撃開始され二十九日攻略
さる。招魂社附近は南山と稱し、當時の
激戦地なり。慶應四年十月以來毎年祭典
を行ひ近年社殿改造さる。この時戦死せ
し敗將米澤藩の色部長門の記念碑建つ。
〔白山公園〕 公園は市の南西信濃川に沿
ひ、老樹枝を交へ泉石の雅見る可きもの
あり。以前は信濃の大流公園の堤下を洗
ひ、遠く角田の青山を眺めて眺望雄大な
りしも、現時は埋め立てられ市の綜合グ
ラウンド設けられて市民の體育向上に資
す。公園の西南隅に白山神社あり。なほ
公園内には、明治大帝の御聖蹟美由岐賀
岡、勤王の大儒竹内式部の大碑、明和の
義人浦井藤四郎・岩船屋佐次兵衛の碑等
あり。公園の東端には郷土博物館あり、
本縣内の石器時代以後の各種の遺品史料
常に陳列され好古の士の參觀をまつ。そ
の建物は舊縣會議事堂なるが明治三十五
年大正天皇東宮にまします頃當市行啓の
際御旅館にあてられし記念の建物なり。

更にその東方に巖然として聳え立つ洋館
は最近竣功せし市公會堂なり。〔日和山
公園〕 市の西北方の砂丘上にあり。大正
五年、今上陛下東宮にあらせられし頃行
啓遊ばされし際の御野立の記念碑あり。
この砂丘に立てば、渺茫限りなき北海の
彼方に佐渡・粟島の點綴するを觀ると共
に全市を瞰下して遠く越後の大平野を望
みうる市唯一の景勝地なり。昔、船見橋
があり、天候の驟雨をなし、出入船舶を遠
望し信號を傳へしにより此の名ありとい
ふ。〔白山神社〕 一番瀬通町に鎮座。縣
社。祭神、菊理比賣命・伊弉諾命・伊弉
冉命外四神。相殿神・祀神十六神。も
と船江神社と稱し古新湯(いま市内關屋)
にありしと云ふ。明應年中(一説に承應
年中)に現社地に移る。永祿・天正の兩
度災上し舊記悉く焼亡し創建年代不詳な
り。中世、神佛混淆の際には曼陀羅經十二天
の畫像を掲げて法要をなす。社領は黒印
地三十石、牧野忠成の寄進に係る。明治
元年神佛分離し同五年郷社にのち縣社に
昇格と同時に、境内社十一社を相殿に合
祀す。境内一萬二千餘坪、明治六年公園
に定めらる。例祭、七月十八日。〔白山
神社〕 沼垂に鎮座。郷社。祭神、菊理
媛命。用明天皇御宇に創建すと傳ふ。も
と美久里神社・白山妙理權現とも稱せり。
延喜の制に式内小社に列し蒲原郡十三座
の一、蓋し當附近の鎮守神たり。慶長三

年上杉管領村を本陣に移されし時、當社
の神寶・社器を携行せしと云ふ。のち清
日氏領主となるや除地三段歩を寄す。天
和年間津浪にて當社その害を蒙り下所
島に移り、のち現社地に遷座す。弘化三
年社殿大破せしが翌年再建さる。例祭、
八月十八日。〔淨光寺〕 西堀通十一番町
にあり。眞宗本願寺派。金波山鳥屋院。
俗稱、蒲原淨光寺。僧空海、蒲原郡鳥屋
野村にこれを創せしに始る。のち親覺當
地經題の初、住持印信其弟子となりて、
名を法爾と改め、眞宗の佛寺となす。承
久年間順徳上皇勸願所となし給ふ。寛文
十一年現地に轉す。〔長音寺〕 夕榮町に
あり。眞宗本願寺派。興徳山。嘉祥年間
慶圓の開基にして、その師親覺を開山と
す。もと加賀國森本村にありしが、のち
現地に移る。〔淨光寺〕 西堀通五番町に
あり。眞宗本願寺派。鳥屋院北院と號し
俗に親覺寺・北山淨光寺と稱せらる。承
元元年親覺、配所越後の國府より彌彦明
神に參詣の初、鳥屋野の里に當寺を創建
せしに始る。承久元年、順徳上皇佐渡遷
幸の初、こゝに駐紮し給ひて鳥屋院の勸
願、勸願寺の繪旨その他を賜はる。第三
世親念は、上皇の第三皇子善統親王なり。
なほ親覺が奇蹟を示せしといふ倒杖竹の
遺跡は世に知らる。〔勝樂寺〕 西堀通八
番町にあり。眞宗大谷派。隣陀山。文永
十年圓善房の開創に係る。もと越前國今
立郡和田村にありしが、文明三年加賀國

ニーカー——ニータ

能美郡安宅村に轉じ、慶長中、更に現地に移る。

【新潟村】新潟縣越後國南蒲原郡の西南部。三條市と長岡市のほぼ中間に位し、西は今町に、南は見附町に接す。東部に一〇〇米前後の丘陵僅にあり、他は肥沃なる越後平野に連る。平地は殆んど水田を成して、農業を主生業とし米の産額多く、桃・葡萄等を副産物とす。略中部を省線信越本線南北に貫通し、見附驛(約二村。見附町・三條市間の縣道通じバスの便あり。此地は維新史料によれば戊辰の役に東西兩軍轉戦の地なり。大字小栗山には當國第十七番の觀音堂あり。維新の勤王家にして北海道開拓者の大橋一藏(附從五位)は此地の出身なり。

ニーカーツ 新冠

【新冠村】北海道日高國日高支廳の中部。新冠川流域を占めたる南北に長き地形を有し、南は太平洋に面す。東北は高距離約二千米の山脈を以て十勝國に界し、東南は静内郡、西北は沙流郡に接す。面積五八四・五七平方村。新冠村一村にて新冠郡を形成す。北半は日高山脈の西南斜面に屬し地勢極めて高燥、諸川ここに發して新冠川に合流す。漸次海岸に向ひて傾斜し、南半は丘陵性山地起伏してその間中央に新冠川、西境に原別川の沖積平野展開す。海岸は單調にして小峯を認めず。南部に米・大豆・小豆・馬鈴薯等を

産し、北部に林産あり。また馬の産多し。省線日高線海岸を通じ節婦・高江の二驛(大正十五年設置)を置く。此地は寛文九年のシャラセン亂の時、松前軍の先陣佐藤權左衛門來り、和人の金掘するたため居住せる家四五軒に陣取り夷敵を破れり。もと高江村と稱せしが大正十二年新冠村と改稱す。いま帝室林野局札幌支局出張所あり。(水川神社)大字高江に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。萬延元年新冠郡民一同相議して、江戸赤坂の水川神社を勧請し、文久元年一祠を建立し、明治十五年今の地に奉遷す。爾來當所の鎮守たり。例祭、五月一日。

ニーカー 新川

【新川(縣)】明治四年十一月越中富山藩の縣となりし富山縣を廢し治所を魚津に置き越中國の礪波・新川・婦負三郡を管す。五年九月に至り能登の七尾縣所管の越中國射水郡を併せ管す。六年八月治所を富山に移し、九年四月には加賀國の金澤縣に併合。

【新川(郡)】越中國(富山縣)の古郡名。萬葉集に新河郡とあり、三代實錄貞觀九年紀に郡名見ゆ。和名抄は通布加波と註し、長谷・志麻・石瀬・布勢・大荆・丈部・車持・鳥取・布留・佐味・川枯の十一郷を管す。明治十三年五月に上下二郡に分ち、二十九年四月に至りて上新川郡を更に上中の二郡に分ち、合せて三郡となす。

ニーカー 新城

【新城】三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡新城郷あり、その地今の岩津町の邊に當る。

【新城】書紀天武紀に見ゆる古地名。天武天皇英明の資を以て都を飛鳥以外の地に奠め給はんとす。即ち天皇の五年十一月に「是年將都新城、而限内田崗者、不問公私、皆不耕而悉荒、然達不都矣」と見えて決行されず、その後十一年正月に「命玉野王及宮内官大夫等、遣新城、令見其地形、仍將都矣」とあるも御一代の間遂に飛鳥の地を離れ給ふこと能はざりき。新城の地毒かならざるも、大和志に従へば、新城宮は添下郡新木村とあり、即ち今の奈良縣生駒郡山町の大字新木がその遺名ならんといふ。

ニーカー 新分

【新分】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡新分郷あり、爾比較多と訓す。その地今の鞍手郡西川村の地に當り、大字新北は郷の遺稱なるべし。

ニーカー 新倉村

【新倉村】肥前國(長崎縣)の古地名。延喜式兵部省式に肥前國新分驛馬五疋と見ゆ。その地明らかならざれども、いま長崎縣北高來郡小長井村の地名に黒仁田あり、或は驛址はこの邊ならんか。

ニーカー 新倉村

【新倉村】埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。朝霞町の東隣に、荒川の南岸にある小村なり。南半は武蔵野臺地の一部をなすも、北半は低地に(八米)の北麓を占め、山陵北方に延びて根柢神となり、また西岸に堂丸崎、東岸に旗城鼻の突出あり、崎は概れ海崖をなすも、洞奥は砂濱をなし、西海岸に若郷の聚落あり。水田はなく畑僅に二九町あり、すべて牛農半漁にして農業を専業とするものなく、農を兼業とするもの五九戸、大麥を第一とし、小麥・稗麥(八二二圓)を産す。なほ黍(六六一〇圓)を飼ふ(昭和十二年)。併し漁業は盛にして、鮭・鯉・干魚の産多し。街道は新島本村に通じ、東京・新島本村間の定期船は月一回本村に寄航す。人口は大正九年四六三人、同十四年四九一人と増加し、以後減少し昭和五年には四七五人、同十年四七六人なり。※新島

ニーカー 新宿

【新宿】東京府南葛飾郡にありし村。昭和七年東京市に入り他町村と共に葛飾區をなす。

ニーカー 新堤

【新堤】埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年本村ほか六箇村を廢し新に七里村を置く。

ニーカー 新鶴村

【新鶴村】福島縣岩代國大沼郡の東北部。若松市の西方約一〇村。北方河沼郡坂下町、南方高田町よりは各五・五村。北は河沼郡、東は鶴沼川を隔て北會津郡に隣接す。會津盆地の西邊に屬し、西境は海拔約五〇〇米にして斷崖をなして東方に傾斜し、村の西半部は山地をなすも、東半部は會津盆地に屬して平坦なり。米・蕎麥・蔬菜・

荒川堤防の内側は水田多し。農業行はれて米・蕎麥を産す。朝霞町及び東方東京市に縣道を通じ、社線東武鐵道東上線の新倉驛(昭和九年設置)を置く。此地は和名抄、新座郡志木郷の内にして、近世は新倉郷と稱せし地、村名は蓋しこの遺稱なるべし。村上の牛房山上に新羅王の居跡と傳ふる所あり。

ニーカー 新座(郡)

【新座(郡)】武蔵國(埼玉縣)の古郡名。初めは新羅郡と稱せり。即ち持統天皇の朝以來新羅の歸化人を置き、奈良時代の天平寶字二年に新羅郡を建つ。延喜式には新座郡名見ゆれば平安時代の中頃新羅郡を改稱せるものならん。和名抄は爾比久良と註し志木一郷餘戸一を管す。後世ニイザとも稱す。

ニーカー 新里村

【新里村】群馬縣上野國勢多郡の東部。赤城山の東南斜面を占め、東南は山田郡大間々町、南は新田郡・佐波郡の一部と隣す。北境附近に長七郎山(一五八〇米)あり。それより次第に南方に傾斜して森林・草地多く、南部は山麓の平地をなして米・蕎麥を産し、藁置も盛なり。縣道は南部を東走して大間々町に通じ、また南に分岐して佐波郡伊勢崎町方面に通す。社線上毛電氣鐵道新田郡を東走し、武井・新川の二驛、昭和三年設置)を置く。村内の善昌寺は新田氏の菩提寺にて、義貞・義助及び義貞の臣にして此寺を建立せし善田義昌の墓あり。大字新里生澤にお角塚あり、高さ約一五米、

ニーカー 新田

【新田(郡)】陸奥國(宮城縣)の古郡名。名稱は、天平年間位置かれし新田郷に起る。續紀神護景雲三年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は通比多と註し山沼・仲村・貝沼の三郷及び餘戸一を管す。足利尊氏叛するや大崎家兼を奥羽の探題とす。家兼、新田郡名の尊氏の敵新田氏と同じきを以て私に大崎郡と稱せしより郡名を失ふ。

ニーカー 新田

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

ニーカー 新田

【新田(郡)】陸奥國(宮城縣)の古郡名。名稱は、天平年間位置かれし新田郷に起る。續紀神護景雲三年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は通比多と註し山沼・仲村・貝沼の三郷及び餘戸一を管す。足利尊氏叛するや大崎家兼を奥羽の探題とす。家兼、新田郡名の尊氏の敵新田氏と同じきを以て私に大崎郡と稱せしより郡名を失ふ。

ニーカー 新田

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

ニーカー——ニータ

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

【新田(郡)】續日本紀、天平九年四月に見ゆる陸奥國の城。多賀城の支鎮の一。その地詳かならざるも、いま宮城縣陸前

國登米郡の西端なる新田村の地にして、伊豆沼と長沼との間なる丘陵の上にその址を求むべしといふ。

【新田】 福島縣大沼郡にありし村。明治三十一年本村及び鶴ノ邊村を合併し新鶴村を置く。

【新田】 上野國(群馬縣)の古地名。續紀實錄二年十月に上野國新田見ゆ。延喜式兵部省式に新田傳馬五疋と見ゆるもまたこの地なり。和名抄に新田新田郷見え、郡家の所在地にして驛傳を兼ねるもの。中世は新田莊と稱し、上西門院領たり。源義重これが莊官たりしより世々新田氏を稱す。和名抄に那名を爾布太と註するも萬葉集に爾比多とあるを正しとす。中世以後専らニツタと唱ふ。郷城いま新田郡太田町・強戸村・鳥之郷村の邊に當る。

【新田山】 上野國(群馬縣)の古山名。萬葉集に見ゆ。いま新田郡の孤丘太田の金山一名松山がそれならんと云ふ。萬葉一四「爾比多夜麻嶺には著かな吾にそより聞なる兒等しあやに愛し」と

【新田】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に芳賀郡新田郷あり、その地今の鹽谷郡新田村の邊に當る。延喜式の新田郷も此地なるべし。

【新田】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に賀美郡新田郷あり、その地今の見玉郡仁手村の邊に當る。

【新田】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に保那郡新田郷あり、爾比多と訓す。その地今の保那郡勝原村・旭陽村・大津村の邊に當る。

【新田】 新多。薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に高城郡新多郷あり、この地今の薩摩郡水引村の邊に當る。

【新田】 新多。福岡郡鞍手郡小竹町の大字。省線筑豊本線の貨物驛(大正二年設置)あり。

【新田】 新飯田村。新潟縣越後國中蒲原郡の西部。三條市の北約六軒。西は中ノ川を境に西蒲原郡に、南は南蒲原郡に接す。越後平野の中央に位置するを以て、土地平低にして水田・果樹園多く、米の外、桃・梨・葡萄等の産を以て縣下に知られ、また清酒の産もあり。西部河岸を国道貫通し三條市・白根町間パスの便あり、中ノ川は水運の便よし。

【新高】 新高。臺灣中州二十市一郡中の一。州の東南端部、新高山以北にして濁水溪の上流たる陳有蘭・郡大・丹大・卡社諸流域の廣大なる山地帯を占む。東は中央山脈の分水嶺を以て花蓮港廳に接し、南は新高支脈を以て臺南州嘉義郡及び高雄州旗山・屏東二郡に連り、西は南投・竹山・嘉義の三郡に界し、北は卓社大山・大尖山等の稜線を以て能高郡に接す。海拔最低二一三米より最高三九四〇米に及ぶ高山地帯にして濁水溪北流を西流し、中央山脈より發する卡社・丹

【新高山】 本邦第一の高峰。蕃人はバツトングラン、支那人は玉山、ヨーロッパ人はモリソン山と呼べり。新高山とは明治三十年六月二十八日明治天皇の御命名にかかる。臺灣島の中央より稍南、北回歸線と脊梁山脈の交叉點附近に聳立し、新竹・臺中・高雄三州の境邊に跨る。山竹稜々として突起し、四邊を壓す。主峰は標高三九五〇米。これを中心に東西南北に稜線を走らせ、それぞれに東山(三八八三米)・西山(三五二八米)・南山(三八一五米)・北山(三八三三米)の四峰崛起し、十字形に規則正しく主峰を取巻いて對峙す。山體は第三紀層に屬する粘板岩と硬砂岩の互層より成り、山腹の斷崖にその著しく褶曲する状態を露出す。山中より陳有蘭溪等發して北流し、遂に濁水溪に合流し、芝濃溪・楠梓仙溪は南西流し、相合して下淡水溪となる。此等の河川は山腹を深く浸蝕す。氣候上山麓に於ける熱帯より暖帯・温帯を経て頂上における寒帯まで四帯の變化を完全に具有し、この點に於て本邦中その比を見ず。熱帯植物としては龍眼・マンゴウ・バナナ・椰子・檳榔樹等、暖帯植物としては樟・樺・シヒ・タイランマツ等、温帯植物としてはタイランツガ・ニヒタカアカマツ等、寒帯植物としてはニヒタカトドマツ・ニヒタカシヤクナグ・ニヒタカヒヤクシン等見出され、頂上には種々の高山植物生育す。温帯植物は一六七〇米前

後より二〇二〇米前後に互り、寒帯植物は二二〇〇米前後より始る。而して二二〇〇米前後までの點に達すれば寒帯的灌木の上に主峰の大岩石嶺々として突兀するを望み得らる。植物の外、動物も豊富にして生物學上甚だ興味深し。山頂は廣さ十萬坪許り、樹草は滋養されて殆んどなく、三角臺とささやかなる新高山祠あるのみ。雪線は缺くと云へ、冬季半歲降雪を見る。展望は雄偉廣闊にして、附近の山々は云々迄もなく、北方の次高山(三九三三米)、南方の大武山(三〇四二米)も遙に望見し得らる。山頂の南方一帯は今尙ほ莽蕪なる生蕃の住地にして、文化的に暗黒地帯をなす。登山路は三あり。即ち水裡坑口・阿里山口・玉里口なり。〔水裡坑口〕北口。縦貫線二水驛にて集々線に乗換へ水裡坑驛下車、水裡坑より臺車に乗り陳有蘭溪を廻行し、糖大山・群大山を左岸に仰ぎ、東埔まで約四一軒、七時間餘(下りは約四時間)を要す。東埔より溪谷の温泉地なる東埔宿泊所まで二軒二、第一夜を明す。これより道は次第に峻険となる。樂々の瀧・觀高を過ぎて蝦夷松の純林に包まれたる八通關に達す。ここに第二夜を明す。東埔より八通關まで一四・四軒、約七時間(下りは五時間)の歩程なり。八通關は二八一八米の高所に位し、老濃溪・陳有蘭溪・郡大溪の分水嶺をなす。八通關より約二時間

大・郡大の諸溪及び新高支脈に源を有する陳有蘭溪等、山間に深谷を刻みつつ之に注ぐ。西北邊に臺灣唯一の湖沼たる日月潭あり。山岳は日本第一の高山たる新高山(三九五〇米)を始め、三千米臺の靈峰實に三十有餘を算す。廣袤東西四九軒餘、南北五九軒、總面積一七二八方軒にして、集々・魚池の二庄及び街庄を置かざる蕃地に區分し、郡役所を集々庄に置く。行政區域は僅に西北隅二三三方軒餘に過ぎず、其他は總て蕃地をなし、總人口三萬七千四百餘のうち、蕃人五千四百餘、内地人一千五百餘にして爾餘は本島人なり。蕃人はアタン及びツオウの二種族なるも、後者は其だ僅少にして前者大部分を占む。地勢上平地は殆んど見られず、謂ゆる五城盆地(魚池一帶)を除きては、耕地は溪流の沿岸または山間に散在するに過ぎず、それも殆んど西北端の兩庄に限らる。此等農耕地の大部分は水利亦不便にして、農業は概して不振の状態にあり。農産物は米・甘藷・甘蔗・落花生・芋麻・芭蕉・茶等に於て、中にも芭蕉の栽培隆盛を極め、行政區域のみならず、蕃地方面にまで普及し、全山芭蕉を以て蔽はるゝ盛觀を呈する所多し。また茶は主として紅茶に製せられ、アッサム種と稱する高級品なり。畜産にては管内が牧畜等の好適地なるも未だ積極的施設なく、在來の家畜高類(牛・豚・鶏・鴨・鵝等)を一般家畜に於て副業的に飼

育するに過ぎず。林産は州下の首位を占め、森林は亞熱帯・暖帯・温帯・寒帯の各帯に跨り、林相複雑を極め、分布狀態一定せざるも、凡そ四五〇米以下は、榕樹・相思樹・龍眼・山黃麻・若棟・楓樹等の混成林にして、約四五〇米以上約一六六〇米以下は樟・檳榔・柯仔類・楠仔・櫛・赤狗・竹筒等の闊葉樹及び針葉樹混生し、約一六六〇米乃至約二〇〇〇米には紅檜・亞杉現れ、二二二〇米に五里扁柏の純林となり、更に二四二〇米以上に於ては臺灣檜・新高唐檜・高嶺五葉新高檜・新高松・新高石楠等の混生林なり。概算材積二七〇〇萬石を著積し、大規模の伐採事業は未だ行はれざるも、前途大に圖目せらる。副産物たる乾箱の産出多し。工業は地勢上發展の餘地なく、専賣事業に屬する製糖を除けば何れも小規模の工場にして、主なるものは製茶・舊式糖廠による製糖・粗摺精米・陶器及び瓦の製造・製油等なり。其他家内工業として木製品・竹細工の製造行はる。畜産物には農産物・林産物・狩獵品等あるも其の額僅少なり。交通は行政區域内には縦貫線二水驛より分岐せる集々線、外車道まで通じ、それより輕便軌道により埔里方面に連絡す。水裡坑驛より日月潭の勝地及び魚池を経て埔里に達する道路あり、乗合自動車の便を有す。蕃地には八通關道路・丹大方面道路・中の龍道路・萬大・卡社間道路等を有す。

登高すれば主峰下の大巖壁に墜す。蝦夷松の純林はこの附近にて盡き、石板石の碎片散亂し、その上に新高諸岳を仰望す。これより空氣は次第に稀薄となり、道は愈々困難を加ふ。岩角を攀ち、斷崖を辿り行けば主峰直下の大鞍部に着す。更に約一時間片麻岩の細片の飛散する峻坂を匍匐すれば絶頂に達す。この登路は山腹・溪谷を辿り行くに特色を有す。歸路は阿里山に出づるも興味深し。〔阿里山口〕西口。縦貫線嘉義驛下車、阿里山鐵道にてスパイラルを経て阿里山着。この間七二軒、六時間半を要す。阿里山より新高山を指呼し得られ、登山路も指示し得らる。阿里山より途中、祝山(二四八四米)の西斜面、鹿林山(二八七〇米)の北斜面を通過し、一三・九軒、四時間(下り三時間半)にてタリタカカ駐在所に着し、ここに一泊す。タリタカカより前山(三二二六米)・西山の南斜面をからみ、一一・七軒、五時間(下り四時間)にて新高下駐在所に達し、更に一泊す。新高下駐在所より約三・二軒、一時間半(下り一時間)にて登頂す。歸路は水裡坑口を取るもよし。この登路は、嘉義並に阿里山鐵道發達の爲に計畫せられ、大正十五年十一月完成を見たるものにして、尾根線走の箇所多し。〔玉里口〕東口。臺東線玉里驛より秀姑巒溪の一支流を廻行し、徒歩一〇六・二軒、通常四泊乃至三泊を要す。途中、水裡坑口と八通關に於

いて合し、頂上に達す。即ち、玉里より葉まで一軒、約一〇時間。葉よりトミリまで二〇・四軒、約八時間。トミリよりトマスまで二〇・六軒、約八時間。トマスより八通關まで二六・八軒、約九時間を要す。登山は宿泊設備・警備及び經費等の關係よりして、六月より八月までを適當とす。尙ほ、新高山は蕃地にあるを以つて豫め入蕃許可證の下附付を願ふを要す。

【新館】 新館。福島縣磐城國相馬郡の西部。原町の西方約一九軒。面積八二・五二方軒の大村。阿部隈山地主分水嶺の東斜面に屬し、西境に矢筈山(七〇七米)あり。東境は阿武隈山地の副分水嶺にして、海拔約六〇〇米あり。村の中央部は盆地をなし、新田川は西方主分水嶺に發源して東流し、村の中央部を渦状をなして東南に流る。中央部に耕地拓く。米・麥及び木炭を産す。道路は村の中北部を東西に通じ、西方伊達郡川俣町、東方原町に至る。人口密度は一方軒につき僅に三五人なり。この地は往時は草野村と稱す、いま大須村と共に組合をなし役場を本村に置く。〔綿津見神社〕大字草野に鎮座。同二年の神、綿津見神。社傳によれば大郷社。祭禮講とあれど、其由緒縁起を知らず。例祭、四月十九日。

【新館】 福島縣河沼郡にありし村。大正十二年、外四箇村と共に廢し、八幡村を

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

二一タ——二一タ

八八度。後田より約一三軒、自動車の便あり。(川古温泉)赤谷川の土流、赤谷川に臨み、高度九〇四米、後田より一八・八軒、大字相模まで自動車の便あり。食糧性硫黄泉、温度九〇度。深山南谷の地、附近に硫酸製造會社の工場あり。

〔法備温泉〕三國峠の南麓、赤谷川の支流西川の溪谷に臨む。海拔八〇七米、四面全く翠巒に圍まれ、盛夏、夏季蚊を知らぬ仙境なり。泉質單純、温度三九度。湯は弘法大師が上州より越後に巡錫の際発見せしものと傳へ、これより法師の名あり。浴槽は河床を利用せし原始的のものにて、湯は岩石の罅間より湧々と湧出す。大浴槽四、外に温の湯、温泉プールあり、温度餘り高からざるにより長浴に適す。後田より約二一軒、自動車通す。

【新治村】千葉縣上總國長生郡の北部。本納町の西隣にて、北は山武郡及び市原郡の一部と隣す。全村丘陵地にて森林あり。丘陵間の狭き平地には耕地ありて、米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。縣道本納町に通じ、同町の省線房總線本納駅に出づるに便あり。此地は和名抄、長柄郡邑陀郷と稱せし地にして、近世二ノ宮莊と稱せり。

【新治村】神奈川縣武藏國都築郡の中部。横濱市の西隣にあり。多摩丘陵の一部を占め、森林多し、北境を東流する鴨見川流域には低地ありて水田、畑地をなし、

米・麥・甘藷・馬鈴薯等を産し、養蠶も行はる。縣道横濱市に通じ、省線横濱線は北部を西走して中山驛(明治四十一年設置)を置く。此地は和名抄、都筑郡立野郷の内にして、近世小礼保に屬す。

【新穂村】伊吹山脈を越す峠の一。伊吹山(一三七七米)の北方約一三軒、設賀縣東邊井郡東草野村と、岐阜縣揖斐郡坂内村の境上に最高點(九一八米)を置く。琵琶湖に注ぐ姉川と揖斐川上支脈瀬川の分水界をなす。

【新穂村】新潟縣佐渡國佐渡郡の中部。小佐渡山系の西北斜面より西は國中平野の中部、北は加茂湖の南岸にまで及び大邑にして、村内東部に國府川・大野川發源し西流して平野に出で合して眞野澤に注ぐ。東半部は山林、西半部は平野にて、農業最も盛にて米の産五十萬圓に及び、工業・林業・牧畜之に次ぐ。佐渡島の略中央を占め縣道四通し兩津町へはバス・舟共に通じ交通上一中心地をなす。此地は和名抄、賀茂郡大野郷の内にして、管窺武藏に新保とあるも新穂に同じ。根本寺は日蓮上人が開目抄を著せざる處として知らる。大字湯上は加茂湖の西南岸に位し、中世本間氏の一族の地に湯上氏を稱す。(日吉神社)大字上新穂に鎮座。神社、祭神、大山咋命、大物主命、相殿に磐田別命を祀る。四條天皇天照元皇孫入彦尊の勳請する所と傳ふ。一に北陸大由王宮と稱し、別當

【新穂村】新潟縣佐渡國佐渡郡の中部。小佐渡山系の西北斜面より西は國中平野の中部、北は加茂湖の南岸にまで及び大邑にして、村内東部に國府川・大野川發源し西流して平野に出で合して眞野澤に注ぐ。東半部は山林、西半部は平野にて、農業最も盛にて米の産五十萬圓に及び、工業・林業・牧畜之に次ぐ。佐渡島の略中央を占め縣道四通し兩津町へはバス・舟共に通じ交通上一中心地をなす。此地は和名抄、賀茂郡大野郷の内にして、管窺武藏に新保とあるも新穂に同じ。根本寺は日蓮上人が開目抄を著せざる處として知らる。大字湯上は加茂湖の西南岸に位し、中世本間氏の一族の地に湯上氏を稱す。(日吉神社)大字上新穂に鎮座。神社、祭神、大山咋命、大物主命、相殿に磐田別命を祀る。四條天皇天照元皇孫入彦尊の勳請する所と傳ふ。一に北陸大由王宮と稱し、別當

を新延寺と云へり。明治七年日吉神社と改む。例祭、四月十四日。(牛尾神社)大字湯上に鎮座。神社、祭神、大己貴命、素戔鳴尊。祀祀、須勢理比咩命、稻名田比賣命。延暦十一年出雲大社より勸請せる所と傳ふ。もと、八王子牛頭天王と稱せしが、明治六年湯上神社と改め、翌七年更に牛尾神社と改む。例祭、六月十三日。

【根本寺】大字大野にあり。日蓮宗。原山。日蓮配流の遺跡、現に當宗四十四本山の一。日蓮こゝに配流の時古墳累累たる塚原なりしが、この地の三昧堂に開目抄を撰述す。これより三百年後、天文二十一年妙覺寺日蓮の法弟大泉坊日成、宗祖の靈蹟を參拜して痛くその衰頹を歎き、祖師堂を建立して宗祖を開山、日朗を二世とし、自らを八世となす。のち幾多の變遷を経しが、寛文十二年に至り日行本堂を創建、のち漸次講堂を造營し寺觀を一新す。講堂宇整然として藝を並べ境内に十勝あり。寺寶として日蓮自作の龍燈師像・眞筆細字法華經等を始めその遺品等頗る多し。(神宮寺)大字井内にあり。新義眞言宗智山派。寺寶中銅鐘一口は永仁三年九月日本施入の銘を存し國寶。

【新堀村】岩手縣陸奥國柳井郡の北部。西に北上川を距てて石鳥谷町に對し、北は磐城郡高田町に接す。東半部より北半部は高田町より三ノ木・花岡谷より成る庄

【新堀村】岩手縣陸奥國柳井郡の北部。西に北上川を距てて石鳥谷町に對し、北は磐城郡高田町に接す。東半部より北半部は高田町より三ノ木・花岡谷より成る庄

【新山村】京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

【新山村】京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

【新山村】京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

【新山村】京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

阿智郡の中部、高梁川左岸に沿つて、地形西部に南北に長く、南部は東南方へ延ぶ。西半は東北方より續き来る六百米餘の高く、東北境に黒髮山(六四八米)聳ゆ。西境に沿ひて高梁川が南流、更に東南流し、中部にて東北方より村を貫きて流るる一支流を合す。其合流點の南に市街地發達す。米・藁・麥・木炭の外、酒類・生柿・蒟蒻の特産あり。本町は市街地附近を中心として交通の要衝を占む。西部には出雲街道走り東南より西北に通じ、其他の道路四通八達し自動車の便よし。省線伯備線西南部を通過し、新見驛(隣村上村にあり、昭和三年設置)より省線新線分れて東北方へ河川に沿ひて走る。此地は和名抄、暫多郡新見郷(爾比美と訓す)の内にして舊出雲街道の一驛たり、中世は新見庄と稱し東寺の所領たり。本郡の中心都邑にして、江戸時代關氏の陣屋を置きし所。舊郡役所のありし所。明治二十九年町制を布く。(新見藩)元祿十年關長政この地を領し一萬八千石を食み子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩を廢して新見縣を置き間もなく廢して深津縣に入る。(八幡神社)大字新見に鎮座。祭神、品陀和氣命。古くより當村の産土神として崇敬さる。例祭、十月十五日。

【新見】尾張國(愛知縣)の古地名。延喜兵部省式に新見驛々

【新見】尾張國(愛知縣)の古地名。延喜兵部省式に新見驛々

【新谷村】愛媛縣伊豫國喜多郡の中部。内子町の西、大洲町の東北方。北には瀧穂・柳澤・三善の三村あり、南は菅田村と界す。面積二四・四二方軒。南境には高取七百米の山脈東西に連互して北に傾斜し、北部も數百米の山岳聳居し何れも南に傾斜し、歐川の支流東北部山地より南流して方向を轉じこの兩山地の間を西流し、その流域に平地を開き耕作行はる。米・麥・藁の産あり。山地より三極・楮その他の林産物を出す。省線内子線の新谷・喜多山(共に大正九年設置)の二驛あり。この地は大洲町・栗津村・三善村と共に和名抄、喜多郡新見郷の地なり。大正十一年本村と喜多山村を廢し新に新谷村を置く。延寶二年、大洲城主加藤泰興、弟直泰に舉田一萬石を分與し、此地に陣屋を置かしめ、子孫相續きて明治維新に至れり。世に新谷藩と稱す。(稻荷神社)大谷新谷に鎮座。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命外四神。舊新谷藩主加藤泰令代々の祈願所たり。明治四年一時新谷縣の縣社に列せしが、翌五年同縣廢せられしと共に改めて郷社に列す。例祭、九月五日。

【新谷村】愛媛縣伊豫國喜多郡の中部。内子町の西、大洲町の東北方。北には瀧穂・柳澤・三善の三村あり、南は菅田村と界す。面積二四・四二方軒。南境には高取七百米の山脈東西に連互して北に傾斜し、北部も數百米の山岳聳居し何れも南に傾斜し、歐川の支流東北部山地より南流して方向を轉じこの兩山地の間を西流し、その流域に平地を開き耕作行はる。米・麥・藁の産あり。山地より三極・楮その他の林産物を出す。省線内子線の新谷・喜多山(共に大正九年設置)の二驛あり。この地は大洲町・栗津村・三善村と共に和名抄、喜多郡新見郷の地なり。大正十一年本村と喜多山村を廢し新に新谷村を置く。延寶二年、大洲城主加藤泰興、弟直泰に舉田一萬石を分與し、此地に陣屋を置かしめ、子孫相續きて明治維新に至れり。世に新谷藩と稱す。(稻荷神社)大谷新谷に鎮座。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命外四神。舊新谷藩主加藤泰令代々の祈願所たり。明治四年一時新谷縣の縣社に列せしが、翌五年同縣廢せられしと共に改めて郷社に列す。例祭、九月五日。

【新野】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比夜と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。

【新野】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比夜と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。

【新野】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比夜と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。

【新野】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比夜と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。

【新野】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比夜と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【新山】岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蒟蒻の特産あり。中央に道路横斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

ニイワ 新和

【新和村】青森縣陸奥國中津輕郡の東北隅。岩木川の西岸に沿ふ。東北は岩木川を距て北津輕郡板柳町・鶴田村と相對す。東西三・五軒、南北九軒に亘る細長き形をなす。西境に山風森山(七〇米)の丘陵連るも、大部分は岩木川による沖積地にして、北境の廻堰大溜池を始め砂澤池等の池沼群及び大蜂川・大石川等により灌漑の便よく耕地よく開け米・林檎を多産す。街道は岩木川に沿つて通す。

【新和村】埼玉縣武藏國南埼玉郡の南部。越ヶ谷町の西方約四・五軒にて綾瀬川の北岸にあり。南は川を隔てて北足立郡の一部と相對す。北境には元荒川東流す。全村平地にして水田多く米を主産し他に麥・蕎麥を産す。縣道越ヶ谷町に通じ同町の社線東武鐵道越ヶ谷驛へバスの便あり。

【新居】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に河内郡新居郷あり、その地今の中河内郡枚岡村の邊か。

【新居】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に河内郡新居郷あり、その地今の中河内郡枚岡村の邊か。

【新居村】徳島縣阿波國名東郡の東北隅。別宮川の南岸にして徳島市の西北に隣る。地形平坦にして吉野川下流の分流別宮川北境を東流し徳島市の北境を流れて東南方約七軒にて紀伊水道に注ぐ。地味肥沃にして藪の産額最も多く米之に次ぎ麥も産す。讚岐街道中部を西北より東南に縦斷し自動車走りて徳島市に至る。この地は和名抄、名方郡新井郷に當る。東大寺文書に新島庄とあるは此地なり。

【新居郡】愛媛縣(伊豫國)十二郡の一。四國山脈の北斜面に位して燧灘に臨む。西南は上浮穴郡に接し南は高知縣土佐郡に界す。南境には四國山脈東西に連りて笹ヶ峰・寒風山・伊豫富士・東黒森山・西黒森山・瓶ヶ森山・伊吹山・岩黒山等屹立し、西南隅の石槌山は實に剣山に次ぐ四國第二の峻峰にて一九二二米あり。四國山脈の北には西赤石山・上兜山・黒森山・扇山等を含む法皇山脈東西に連りて降相接し實に南部は峻嶽重疊し峻險なる

【新居村】高知縣土佐國高岡郡の東北隅。仁淀川河口西岸を占め土佐灣に臨み西南に宇佐町にて東は吾川郡なり。西境には黒岩山(一七一米)聳居して丘陵をなせども、東部は地形平坦にして北方より南下し來り東北隅を流れる仁淀川は東境の僅か東を南流す。米・藪等の農産多く麥・茄子・西瓜・胡瓜・豌豆等あり。海岸は水産業發達す。北方伊野町・高岡町方面より來る縣道は中央を南へ貫きて海岸に出て西方宇佐町に至る。高岡町よりバス

ニイ——ニイタ

灣頭は奴加岳村に屬し、西岸は仁位村領内に於て東南方へ丘陵突出して仁位灣口を扼し、その周圍に鐵掛崎・一重崎等あり海上に小島嶼數多散在す。水産業を主とし、粟落は多く海岸に散點す。海上發動機船の便あり。此の地は和名抄、下縣郡玉調郷の地にして近世仁位郷と稱せらる。海東諸郡記に仁位郷とあるも此地なり。黒島・白銀島・多田島・鼠島を含む。

【新井村】兵庫縣丹波國水上郡の中部。柏原町の西に隣る。南境に五百餘米の山地ありて山肢北方に延び、村域概ね山地をなすも、北部を佐治川の一支西北に流れ、流域は卑濕地をなす。米・麥の外に木炭・木材を出す。幹線街道は本村内を通過せず交通不便なり。【新井神社】大字大新屋に鎮座。村社。祭神、高皇產靈神。本殿・拜殿・社務所・神輿庫等あり。

【新井】兵庫縣朝來郡山口村の大字。省線播但線の新井驛(明治三十四年設置)を置き。

【新居】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に汗入郡新居郷あり、その地今の西伯郡内ならんも詳かならず。

【新居村】三重縣伊賀國阿山郡の西部。伊賀川に沿ひ、上野盆地の西北部を占め、西北は滋賀縣甲賀郡に界す。西北境には七〇〇米餘の連嶺東北より西南に連り、南境には伊賀川に沿つて西南流し其東

【新居村】秋田縣羽後國河邊郡の西部。秋田市の南方約四軒。秋田平野に屬し、全村概ね平坦にして堆物川は西境を西北に流れ、その支流は南境を西流しこれに合す。北境に二ツ屋湯あり。米・蔬菜等を産す。羽州街道は村の東南より北に向ひ奥羽本線秋田驛及び羽越本線羽後牛島驛へは自動車の便あり。

【仁井田村】福島縣岩代國安達郡の南部。本宮町の南に隣り、南は安積郡に接す。面積二・八七方軒の小村。土地概ね平坦にして五百川は南境を東流して阿武隈川に合し、阿武隈川は東境をなして北流す。瀧野街道は中央部を南北に通じ、北方本宮町、南方郡山市へは各バスの便あり。東北本線は西部を南北に通す。人口密度は一方軒につき三十一人あり。【田中稻荷供養社】本村田中稻荷社の境内にあり、阿彌陀の種子を現はしたる觀應二年の石塔婆なり。また、本村五百川遠藤氏の宅地内にも阿彌陀の種子を刻したる石塔婆あり。その形状雄大、

【仁井田】省線島山線の一驛(大正十二年設置)。栃木縣鹽谷郡熟田村文挾にあり。

部沿岸に平地開く。米・藪・麥・茶・鶯卵・燕炭及其他の礦産・畜産・林産・水産・工業あり。省線關西線南部を通過して伊賀上野驛(東約〇・五軒)に近し。和名抄に阿拜郡新居郷と云ふは本村及び鳥ヶ原村の邊をも含めるもの。【高倉神社】大字西村に鎮座。郷社。祭神、高倉下命(手栗彦命・天香諸山命)。社記に重仁天皇御宇に當社祭神七世の孫なる俊得玉彦命この地に住し、祖先を鎮祀してその氏神とす。これ當社の創建と云ふ。神位從五位下。天正二年伊賀國守護職仁木長政は社殿を造營す。江戸時代以降は朝廷の御崇敬深し。明治二十四年には久通宮朝彦親王より御染筆の扁額を賜はる。社殿中、本殿と末社八幡社・春日社は國寶。例祭、十月十五日。【高倉神社の無蓋標】指定天然記念物。高倉神社の境内にあり。種子の乾燥するに従ひ、澁皮は離れて殼の内面に附着するにより、殼を割れば直ちに白色の種子露出するを以て無蓋標の名起る。同村西山の果樹寺にも同種のものありて天然記念物に指定せらる。【佛土寺】大字東村にあり。新義真言宗豊山派。藤原初期の創立といひ、もと伊賀國八代寺の隨一にして、塔頭十九院、寺領五百石を有する鎮護國家の靈場、天台宗の大伽藍たりき。阿彌陀如來坐像(木造)一軀は國寶。【廢補陀落寺町石】指定史蹟。字水上・豆土・鳥井出・中打。如山の地域に亘りて其數八基を存す。略

【仁井田村】秋田縣羽後國河邊郡の西部。秋田市の南方約四軒。秋田平野に屬し、全村概ね平坦にして堆物川は西境を西北に流れ、その支流は南境を西流しこれに合す。北境に二ツ屋湯あり。米・蔬菜等を産す。羽州街道は村の東南より北に向ひ奥羽本線秋田驛及び羽越本線羽後牛島驛へは自動車の便あり。

【仁井田】省線島山線の一驛(大正十二年設置)。栃木縣鹽谷郡熟田村文挾にあり。

【仁井田】秋田縣羽後國河邊郡の西部。秋田市の南方約四軒。秋田平野に屬し、全村概ね平坦にして堆物川は西境を西北に流れ、その支流は南境を西流しこれに合す。北境に二ツ屋湯あり。米・蔬菜等を産す。羽州街道は村の東南より北に向ひ奥羽本線秋田驛及び羽越本線羽後牛島驛へは自動車の便あり。

碑面また其美はしく「右志者爲合力諸人成佛乃玉法界衆生平等利益也文和四年乙未八月十三日敬白」の銘文あり。

【仁井田村】 福島縣岩代國岩瀬郡の東北部。須賀川町の西北約六軒。北は安積郡、東は阿武隈川を隔て田村郡及石川郡に隣接す。全村概ね低き丘陵地をなし、沿川は南部を東流して阿武隈川に合す。阿武隈川は東境を北流す。米・麥・大豆・蕎麥等を産す。道路は村の中部を南北及び東西に通じ、東南方須賀川町に至る。

【仁井田村】 高知縣土佐國高岡郡の南部。窪川町の北に接して北は久禮町に界す。東約一軒を距てて上ノ加江町あり。南北に狭長なる村落なり。四周山地を圍繞し西北境には大小権現山(六九三米)聳ゆ。中央には南下する川ありて西南部より窪川町に入り四萬十川上流松葉川に合す。沿岸に稍々低地開け南部僅に廣し。米・蕎麥の農産の外工業・林産あり。中央に縣道南北に走りて窪川町及び久禮町にバスを通じ南部には東西に走る縣道あり。此地は往時仁井田莊と稱せし地にして、村名は莊の遺稱なるべし。

【仁比山村】 佐賀縣肥前國神埼郡の中部。筑後川支流に跨り神埼町の北に接す。北半は香振山塊に屬する山地南麓の一部を占めて東北境に五〇〇米餘の高さを呈す。南半は筑紫平野一部の平坦地にして中央に河川南に貫流して約一〇軒南方に於て筑後川に合す。田

畑よく折けて米・麥の産多くまた養蠶も行はれて繭の産多し。中央を縣道南北に貫通し神埼町と北方福岡市へ通じ、交通至便なり。此地は和名抄、神埼郡三根郷の内なり。村内に菩提寺城址、盛福寺城址、朝日山城址等あり、大字城原には塚あり、中に陶器・金屬器ありきと。江戸時代の蘭醫學者、伊東玄朴(附從四位)は本村の人。(仁比山神社) 縣社。主祭神、大山咋命・日本武尊。合祀神、大己貴神外四柱。天平元年勅に依り松尾明神を勧請せるをその創祀とす。承和十一年勅によりて比叡山日吉山王の分靈を合祀して日吉山王と云ふ。歴代皇室の御祭崇を初め、中世に至りて武門の崇敬また淺からず。天文年間大友氏の亂に社頭兵燹に罹りて焼失す。舊藩時代藩主鍋島氏累代の崇敬社として社殿の營繕等すべて藩費を以て辨じ、毎年正月・九月の兩度必ず藩主代拜の事あり。例祭、四月二十六日。特殊祭禮に大御田祭あり。

【二運面】 朝鮮慶尙南道統營郡の東部。瓦溝島の東部に在り。南境に玉女峰聳え、山腹面の中部を北走し三百米前後の丘陵を連ね國土峰あり。東部は長く海中に突出して陽岩地嘴となり西に玉浦の入江を抱き、東南岸の小灣内に長承浦の良港あり。また玉浦頭頭玉浦里・場基・碇泊地をなす。主産業は漁業にして鰻・鱈・鱧・太刀魚・鰻・鰯等の漁獲多く、水産製鹽も行はる。農産は

の海や月の光のうつろへば浪の花にも秋に見えけり 藤原家隆 新勅撰・春上「にほの海や霞のかりに清く船の帆帆にも春の景色なる哉 式子内親王」

【二階堂村】 奈良縣大和國山邊郡の西端。丹波市町の西に接し、北は添上郡に、西北は生駒郡に、西及び南は磯城郡に界す。全村概して地形平坦にて西南部に初瀬川西北流し南部を西流する支流を合す。氣候溫和、地味肥沃なれば農業發達し丘陵地と雖も耕地開け殊に米の産額多し。外に麥・蕎麥を出す。西部に中街道南下し中央に之と交叉して東方及び西方に向ふ縣道あり、其交叉點附近に市街地あり南北に街村状をなす。奈良・和歌山間にバスの便あり。社線大阪電気軌道二階堂及び前栽の二驛(大正四年設置)あり。此の地は和名抄、山邊郡郡部郷に當り、大字嘉幡は郷名の遺稱なるべし。嘉幡に二階堂膳夫寺あるを以て村名とす。膳夫寺は初め香久山村(磯城郡)大字膳夫にあり、聖德太子妃膳夫姫の造立なり、二階堂と呼び、本尊は虚空藏菩薩、後世この地に移すといふ。(天泉神社) 大字備前に鎮座。村社。祭神、素戔鳴尊。文永九年の創建にて、沿革その他は總て不詳。社殿中、本殿は一間社春日造、椽根檜皮葺、應永三年の造營にていま國寶建造物。(光蓮寺) 大字田井庄にあり。眞宗興正寺派。一如山。明應年間高市郡高取城主慈智玄蕃頭の創建と

は米・裸麥・大豆・甘藷等多く副産品に纏繞あり。また北部は瓦溝嶺山の嶺區の一部に當り金・銀・銅を出す。長承浦は入佐村と通稱し、漁港として著はれ、此地の漁業組合の漁獲高八四萬圓にして郡中の首位を占む。朝鮮汽船會社の定期船寄港し、釜山・統營に至るに便なり。本面の人口は昭和十一年末、内地人八二五、朝鮮人一三、一一九にして、うち内地人の大部分は長承浦に居住す。

【贊浦】 萬葉集に見ゆる古地名。遠江國(靜岡縣)引佐郡贊代郷の海岸なるべしといふ。萬葉・二〇「遠江白羽の磯と爾附乃字良とあひてしあらは言も通はむ 山名郡丈部用相」

【二エガワ】 贊川 長野縣西筑摩郡檜川村の大字。中央本線の贊川驛(明治四十二年設置)を置く。

【二エザキ】 贊崎濱 阿武隈川(三重縣) 贊代 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に濱名郡贊代郷あり、その地今の引佐郡三ヶ日町の邊に當る。

【贊代】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に智多郡贊代郷あり、その地今の知多郡常滑町の附近なるべし。

【二エタ】 熟田村 栃木縣下野國鹽谷郡の東南部。喜連川町の南隣にあり。東に那須郡の一部に隣す。東境附近は低き山地をなすも他は殆ど平地にて農業行は

れ米・麥を主産し特産物には葉煙草・繭あり。舊陸羽街道は北部を東走して喜連川町に通ず。また南部には東走して那須郡島山町に通ずる縣道あり。省線島山線これに沿ひて仁井田驛(大正十二年設置)を置く。此地は和名抄、芳賀郡新田郷の内にして、村名は郷名の訛れるものなるべし。

【二エモン】 仁右衛門島 太海村(千葉縣)

【二オ】 仁尾町 香川縣讚岐國三豐郡の西北海岸。高室村を挟みて觀音寺町の北方にあり。地稍々南北に細長く北部は更に北西方へ延ぶ。西部は備後灘に臨む。東境には山志保山脈連り高尾下山(二七〇米)は東北境に、箱嶺山(四四四米)は東南境に聳ゆ。西部中央に海岸平野發達しこゝに仁尾町市街地あり。その前面に大葛島・小葛島あり。沿岸一帯は砂洲にて小葛島につゞき陸繋島の觀を呈す。海岸一帯には鹽田多く製鹽業は本村の主産業にして、大正八年より海岸の干潟を開拓して造りし面積六〇町歩の大鹽田は讃岐の鹽田として坂出に次ぐものなり。其他特産の産業には煙草・唐辛の栽培並に模造眞珠の製造等あり。唐辛栽培は日清戰爭前頃より起りたるもの、今は年額一六萬圓乃至二〇萬圓をあげ、輸出品として漸次發達する發達をなし、あり。模造眞珠の製造は近年米國向く模造眞珠の製造を試みしが他よりして、製造簡單な

【二キ】 仁岐河 續紀、天平十六年七月、元正上皇この河に御幸の事あり。いま何れの河なるか明らかならざるも、恐らくは河内國を流るる、善大和川の一部の稱ならん。

【二キオカ】 飯岡村 山梨縣甲斐國北都留郡の南部。桂川を境に大月町・猿橋町の北西に接す。西北部に山地連り東南に傾き桂川は南境を、支流葛野川は東境を流れて東南隅にて合流し相模川となる。平地は東部に少しあり。河岸には桑園多く繭・桑を主産物とし、次いで麥・米の耕作行はる。西部山地に西奥山・金山の嶺山あり。桂川の對岸を省線中央本線通じ大月驛へ約二軒。村内各部落は數條の里道にて連絡す。本村は明治八年畑倉・岩殿・強瀬・奥山・淺利の五箇村を合して置けるもの。(岩殿城) 大字岩殿組岩殿山頂に其の城址あり。猿橋の北約二軒の地。山は屹立約四六〇米。形狀洪鐘の如く、前面には笹龍川・桂川を控へ、背後に葛野川あり。三川山下を流れ、山頂は坦平廣潤、兵を收むるに足るの地なり。武田氏の部將小山田氏の居城たり。

るところより急意の發達をなし、一時は生産過剰の恐れありしが、幸にも堅實なる家内工業となり、阪神の間屋との取引盛なり。年額五〇萬圓と言はる。尙ほ極く特殊なるものに煙草用煙丁の製造あり専賣局にて使用する煙丁の大部はこゝより納む。また我國にては愛知縣と本縣とのみより生産する馬毛布の製産あり。一般には米・除蟲菊等も出す。西岸に縣道走り觀音寺町へバスを通ず。又東方へ走る縣道もあり。此地は和名抄、三野郡託間郷の内にして、近世は仁保邑と稱せられし地。大正十三年町制を布く。沖合二軒の地點に表面平坦にして東西一六米、南北一三米の仁尾平石あり、釣魚に適す。(不動護國寺) 大字仁尾にあり。古義眞言宗。大寧山覺城院。同宗仁和寺末。弘仁十年空海の草創に係るといふ。國司橘宿禰定頼・源隆胤等の歸依厚く、應永年間僧塔これを再建すといふ。聖觀音立像一軀(木造)は國寶。

【二オージ】 二王子岳 越後山系飯豊山塊の高峰。越後新發田町の東方約一六軒、新潟縣北蒲原郡黒川村と川東村の境上に在り。標高一四二二米。西斜面より立光川・姫田川・板山川を發し、それら北西流し、加治川支流なる坂井川に合す。

【二オノウミ】 鳩海 近江國(滋賀縣)琵琶湖の異名。湖畔にありし野州郡兩保郷の名によるか。新古今・秋上、鳩

天正十年三月、武田勝頼、織田軍に壓迫せらるるや、小山田信茂は勝頼を欺き、此城に據らむ事を勤む。勝頼これに従ひ新府を燒きて岩殿山に赴かんとせしも、信茂獨り設け兵を篋子峠に備へて、その入るを防ぐ。勝頼道を轉じ天目山に入りて即ち亡ぶ。〔眞藏院〕新義眞言宗智山派。岩殿山と號す。寺傳に和銅年間、行基は東國遊化の途、當山に掛錫し岩窟に一字を營みて自作十一面觀音。毘沙門天像を安置し、併せて七社權現を勧請せしが、のち當寺を建立す。其後、源頼朝・武田信玄等堂宇を再建す。

ニキシ 仁岸 石川縣鳳至郡にありし村。明治四十一年に劍地・阿岸の二村と共に廢せられ、劍地村を置く。

ニキシマ 二木島浦 ↓荒坂村(三重縣)

ニキタ 和名抄に大島郡和名抄あり、爾木多と訓す。其地今の東北郡美木多村・上神谷村・久世村の邊なるべし。

ニキタ 新北村 佐賀縣肥前佐賀郡の東南部。筑後川の西岸に沿ひ佐賀市の東南約三軒に在り。福岡縣三浦郡大川町の對岸にあり。地形平坦、東南境を筑後川西南流し、東南隅にて本流より分るる早津江川が南境を西流し西南境にて南折す。水田よく拓けて米産多し。外に麥・蕎麥を出す。東北部に佐賀市より東南方柳河町方面へ至る省線佐賀線ありて當郡の

業として米の産多し、次いで蕎麥・木炭等の副産物あり。東部を縣道南北に走り柳河町にて社線柳河尾鐵道に連絡す。其他、里道により西の山地を越え長岡市へ通す。本村の一部地域は山本・上北谷・北谷の三箇村の各一部と共に東山嶺山(石油山)の鑛區をなす(東山嶺山參照)。蓋し當村大字比禮の水田よりは明治以前より瓦斯の湧出あり、かくて古へより原始的掘鑿はありしものゝ如し。而して原油の流れ出でたる水を臭水と稱し居たり。明治二十年より同三十年の間に於て近代の稼行起りて比禮の油井は山本村の加津保澤に次ぐ殷盛を極むるに至る。

ニサイ 仁西村 高知縣土佐國吾川郡の東南部。仁流川河口を扼し東南は土佐灣に面し、西は高岡郡に界す。北部に高森(四四米)ありて稍々丘陵起伏するも概して地形平坦にして、西北境に沿ひ南流し來る仁流川は西部中央より村内に入りて東南方に流れ海洋に注ぐ。農業を主とし蕎麥の産著しく、其他米・麥及び胡瓜・茄子・豌豆・里芋・甜瓜・西瓜・メロンの産多し。縣道は村内を西南より東北に走り北方高知市へバスを通す。中世仲村郷と稱す。(八幡宮)大字仁ノに鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命。もと仲村郷の産土神たりしが、仁ノ村・西畑村と分村の後仁ノ村の産土神たり。例祭、八月二日、九月三十日。

ニサカ 荷坂峠 三重縣度會郡大内山

ニサイ——ニシ

〔昭和十年設置〕あり。筑後川に舟運の便あり。此地は和名抄、佐嘉郡城崎郷の内。(新北神社)大字爲重に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・菅原道眞。社傳に、用明天皇の御創建にして嵯峨天皇の御改築にかり、もと鍋島家より營繕修理ありしといふ。例祭、四月十九日。

ニキタツ 熟田津 ↓道後湯之町

ニキフ 二木生村 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西南部。八幡濱市の南方約三軒にありて豊後水道に臨む漁村なり。全村丘陵をなし、西南部に須崎突出して東隣三軒町との間に東北方へ突出する奥池灣を抱く。海岸所々に小低地點在するも平地に乏しく、西方海上には地ノ大島・大島・貝付小島・ビリ島等散在す。農産中蕎麥も多し。八幡濱市へ自動車の便あり。

ニクラー 二宮村 新潟縣佐渡國佐渡郡の西部。金山連峰の西南山麓を占め、眞野灣に面す。西は相川・澤根兩町に接し、南は河原田町を隔てて海に臨む。全村北より南への傾斜面にして東南の一角は國中平野に連る。略中央を石田川南流し南部には耕地開く。農業最も盛にして米産多し、其他、枇杷・麥・甘藷等の農産あり。工業、林業これに次ぎ、牛の放牧・水産業・養蠶等また行はれ多方面に涉る豊かなる産業を示す。南部を縣道貫通し相川町・夷港へバスを便あり。本村の一部地域は相川町・津島町・金泉村、

村と北平堂郡二郷村の境上にある。最高點二四二米。眞野街道(札幌道)に當る。いま省線紀勢東線鐵道を穿ちてここを通す。この峠、延暦式帳には錦坂とあり、太神宮を中心とする神域の西限となせり。峠上より南面すれば眞野灣に沿ふ長島町を俯瞰し、又沖合に浮ぶ大小の島嶼の展望佳なり。

ニサツタイ 爾薩體

〔爾薩體村〕岩手縣陸奥國二戸郡の東北部。福岡町の東に接し、東は九戸郡に境す。東境に折爪岳(八五二米)をなす。馬淵川は西北境を北流しその沿岸に耕地稍拓く。薪炭・木材・米等を主産し、雑穀植林は縣下の模範たり。道路は村の西北部を南北に通じ、西北方東北本線金田一驛及び同線北福岡驛へは各約四軒にして、自動車便あり。村名は往昔馬淵川の全流域を占めし蝦夷の一集窟なる爾薩體に因るものにして、町村制施行の際大字仁佐平を以て古史の爾薩體蝦夷の根據地ならんとし村名を定む。大字堀野に村社武内神社あり、武内宿禰を祀り、大同二年將軍田村麻呂これを再興すといふ。

高千村の各一部地域と共に佐渡嶺山の鐵區をなす(相川町參照)。この地古くは和名抄、雄太郡石田郷の内なり。中世本間氏の居城たりし河原田城は本村の地籍に屬す(河原田町參照)。(二宮神社)大字二宮に鎮座。郷社。祭神、玉島姫命。相殿に應神天皇・素戔鳴尊を祀る。玉島姫命は、順德天皇此國に遷りましてより生れ給へる第二皇女たり。建長元年薨せらる。二宮大明神として領主本間氏之を創祀す。享保十三年再建。例祭、陰曆五月五日。(妙照寺)大字市野澤にあり。日蓮宗。妙法華山と號し當宗四十四本山の一。文永八年日蓮上人佐渡流離の遺蹟にして、其弟子日靜の開基に係る。當宗の本國発刹の濫觴たり。

ニケツ 二結 宜蘭縣の一驛(大正八年設置)。臺灣臺北州羅東郡五結庄二結にあり。

ニケンヤ 二軒屋 小松島嶺の一驛(大正二年設置)。徳島縣徳島市にあり。

ニゴ 二郷村 三重縣紀伊國北牟婁郡の東北部。長島町の東に隣接して眞野灣に臨み、北は度會郡に界す。北及び東は山脈にて圍まれ北境の最高は五三六米を有す。東部山地は南方海上に突出して桃ノ木鼻となり西に長浦を抱く。西南部に狭き沃野開け赤羽川は境界に沿ひて東南流し海に注ぐ。米・蕎麥等の農産物及び林産・工業・畜産あり。眞野街道は北境を貫通し中央を横切り

流域に亘り、いま陸奥國の二戸・三戸二郷の地を稱せしもの如く、いま二戸郡爾薩體村の大字仁佐平は爾薩體の故名を傳ふるものなるべし。

ニシ 爾志郡 北海道渡島國檜山支廳の中央部。日本海に面し渡島半島西部の灣入部の北半を占む。郡内乙部・熊石の二村を含み面積三八三・六方軒。東北は雄針嶽(九九九米)外、國境山脈の高峯連互して膽振郡に界し、西北は白水嶽(一三七米)を以て久遠郡と、東南には乙部岳(一〇一七米)を以て檜山郡と劃せり。郡内は概れ地勢高峻にして諸嶽重疊せるも、見市川・突符川・姫川等の流域に小平地存し、耕作稍々行はる。海岸には小岬小島數多存す。漁業を主とし、海岸に集落集る。米・鮫・鰯・柔魚等の産あり。地方道は海岸に通じ江差町にバスを便あり。また熊石港より江差港・久遠港に汽船往復す。

ニシ 西

〔西岳〕岩手縣の北部、二戸郡小島谷村に峙ち、南西の斜面は岩手縣岩手郡に互る。標高一〇一八米。山體火山岩より成る。南西稜は七時雨山(一〇六〇米)に連り、南東方中山峠附近は溪谷谷を以て知らる。

〔西岳〕安達太郎山(福島縣)の別名。

〔西村〕千葉縣上總國長生郡の西南隅。鷹南町の南隣にて西より南は市原郡及び夷隅郡の一部と隣す。全村丘陵地にて西

長島町へ通す、省線紀勢東線村内を走りて紀伊長島驛(昭和五年設置)あり。

ニゴリカワ 濁川

〔濁川〕北海道北見國紋別郡滝上村の大字。省線清津線の濁川驛(大正十三年設置)あり。

〔濁川村〕新潟縣越後國北蒲原郡の西北部。阿賀野川の右岸。加治川・新井郷川との合流點を占む。西は阿賀野川を境に中蒲原郡に接し、西方約六軒に新潟市あり。西境を阿賀野川、中央を新井郷川、北境を加治川流れ、西北隅にて三河合流す。土地平低にて融雪季氾濫の憂あり。東南部に水田、西北部には桑園・畑地多し。農業を主生業とし米の産額多し、次いで蕎麥・蔬菜を産す。其他諸川には漁業も行はる。國道は東西に貫通し、新潟・新發田・葛塚へ自動車の便及び新井郷川に航漕の便あり。本村は河川多し集り、屢々氾濫する所より濁川の村名起りしものか。明治十一年、明治天皇、北陸・東海御巡幸の際、此地に御小休あらせられ、いま明治天皇時新御小休所として史蹟に指定さる。

ニコロ 荷頃村 新潟縣越後國古志郡の中部。柳尾町の西南に接し刈谷田川の一支流に沿ふ山村。南部・西部に七〇〇米餘の丘陵連互し東北に傾斜す。東部を刈谷田川の支流北流し流域に多少の平地あり。村の西北に東山油田あり年組一〇萬圓餘の石油を産する外、農業を主生

場には野見金山(一八〇米)あり。一帯に森林多し、林産あり。一宮川の支流は南部に發源し北流し、北部にて右折し東流す。川沿ひに狭き平地ありて水田・畑地をなし、米・麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道は膽南町(社線南越鐵道膽南驛あり)及び東方一宮町、南方夷隅郡大多喜町(省線本原線大多喜驛あり)に通す。この地は和名抄、墳墓都横栗郷・河家郷に亘りしもの如く、近世は中原郷と稱す。

〔西山〕伊豆七島に屬する八丈島の西部に噴起する火山。構造・山形共に富士に似るを以て八丈富士の別名あり。標高八五四・二米。その山麓は島周の約三分の一に當る。山腹より上は樹木生ぜず、山頂に火口あり。頂上より遙か北方に富士を眺め、凡そ富士を展望し得らるる南限界をなす。中腹迄には椎・山桃・梅・楠等繁茂し、暖帯南部の林相を呈す。南東方なる東山との中間に鞍部狀の小平地ありて集落はここに集る。

〔西岳〕戸隠山(長野縣)の一峯。

〔西ノ島〕墨坂(奈良縣)の別名。

〔西島〕鳥根縣陸奥列島の一島。東は中井日海峽を以て中島に、南は赤瀬瀬戸を以て知夫里島に對す。行政上は知夫郡に屬し、黒木・浦郷の二村に分る。面積約四六・五平方軒にして、これを西南より望めば恰も片假名のヒ字に似たり。第一畫

は即ち焼火山(四五二米)の形造るところとす。其の東麓に別府灣、西麓に浦郷灣あり。浦郷灣は更に深く陸を刻みて美田灣をなす。而して美田灣と外海との間は著しく狭まりて船越の地味をなす。其幅僅かに二百米餘、今は船引運河を通ず。島内は殆んど山地にして僅かに地味附近に些少の低地あるのみ。焼火山の北方に高崎山(四三五米)あり。これより分水線は南し、更に東に向ふ。地味西側は高度稍々減じ、分水線は島形に應じて弧を描き内側に近く走る。

【西村】 廣島縣備後國沼隈郡の西部。尾道市の北方約一・五軒に在り。東南部に細長く南方へ延びて松永灣岸に達す。全村丘陵地をなすも中央南部より東南部一帯は海岸平野の一部を占めて稍々平地をなす。工業頗る多し蠶業も盛にして外に畜産・林産あり。東南部に山陽道及び省線山陽線通過し、東方約一・五軒に松永驛あり。此地は和名抄、沼隈郡那都郷の内ならんといふ。

【西村】 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の南部。草壁町の西に接し南は内ノ海灣に臨む。北境に約七〇〇米の山地ありて、その南斜面を占め、村内概ね丘陵地を成すも、海岸に僅かに平野あり。農業を主産業とするも、醤油の産額第一位を占む。またオリーブの特産あり。此の地方は地中海の氣候に類似しオリーブの栽培盛にて果實は鹽漬とし又オリーブ油を搾る。

實に日本にて唯一箇所の産地にして、宮内省の御料となり、一流の畫家順次來島して、其狀カンバスに收めらる。縣道は海岸に沿ひて通じ、西方土庄町及び東方坂手村へバスの便あり。この地は近世、草壁庄と稱せし地。而して庄内中最も西部に當りしを以て西村と稱すと。

【西村】 熊本縣肥後國球磨郡の南部。人吉盆地の一部を占めて球磨川の南岸に沿ひ人吉町の東南約一・五軒にあり。稍々西北より東南に細長し。南部を東西に連ぬる國見連嶺の中腹より北麓を占むる地域にして南境に於ける高さ七〇〇餘米なり。北部は人吉盆地の一部の平地廣く開け、北境に沿ひて球磨川西流し、中央に於て山麓を西北流する細流を合す。米・蕎麥の産あり。北部には縣道横斷し其の北に省線前線通じて肥後西村驛(大正十三年設置)あり。この地は古く和名抄、球磨郡西村郷の内とす。

【西村】 石川縣河北郡にありし村。明治四十一年金津村と合し宇ノ氣村を建つ。

【西アキ】 西安岐町 大分縣豊後國東國東郡の南部。兩子山の東南麓を占め東は瀬戸内海との間に安岐町を隔て、西は遠見郡に界す。海拔三〇〇米内外の高地をなす西北方に發する安岐川は西部にて南下する支流を合せて、中央南偏み東

流し東に向つて平野開け、に耕地發達す。農産・林産・畜産あり。武藏町・安岐町へ主要街道通ず。此地は和名抄、國崎郡安岐郷の内。大正十二年町制を布く。【八幡社】 大字瀬戸田に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・武内宿禰神。例祭、十一月十九日。

【西アキル】 西秋留村 東京府武蔵國西多摩郡の東部。五日市町の東方凡そ四・五軒にある小村にして、多摩川の支流秋川に沿ひ、南は南多摩郡の一部と隣す。南境は約二八〇米の山地をなし、北部は臺地をなす。中央は秋川流域の低地にして耕地拓く。農業行はれて、米・蕎麥を産し、養蠶また盛にして繭の産多し。府道は五日市町及び東南方八王子市に通じ、社線五日市鐵道は北部を西走して西秋留(大正十四年設置)・病院前(大正十五年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、多摩郡小川郷の内にして、延喜式に小川牧とあるも此處なるべし。【西秋留清水石器時代住居跡】 指定史蹟。秋川の左岸臺地なる畑の地下約〇・六米の處にあり。各住居跡は皆中央に爐坑を存しその周圍に略形式を同じくせる圓形若しくは半圓形の石敷を有す。大なるは直徑約六米に及ぶ。地域内に石器並びに繩紋土器を出しまた間仕切ある石圍あり。

【西アゴ】 西安居村 福井縣越前國丹生郡の北端。東は日野川を隔てて是郡郡東安居村に對し、北に坂井郡に接す。

【西アツ】 西厚保村 山口縣長門國美禰郡の西南部。厚狭川中流の右岸に位置し、西北隅に聳ゆる古鳥帽子山を始めとし村内殆んど丘陵起伏して山地をなし、東北部に稍平地ありて耕地拓く。米・蕎麥その他の農産物多し。山地は牧場をなし多數の牛を飼育す。また森林多し、林業も盛なり。東北の一部の山地を削り厚狭川曲流しつゝ、南下し、之に平行して省線美禰線通り厚保驛(明治三十八年設置)を設け同驛附近より東西に縣道走り西南方小月町に至る外、南方に走る縣道ありて厚狭町に至る。本村は古く東厚保村と共に厚保と汎稱せし處。【神功皇后神社】 大字厚保本郷に鎮座。郷社。祭神神功皇后。稱光天皇應永三十二年の創祀と傳ふ。神功皇后三韓征伐の時久しく此地に駐まり、多くの壯丁を集め給ひしを以て、もと集村と呼びたるも、のち厚保の郷と改むといふ。

【西アサバ】 西浅羽村 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。原野谷川の左岸、太田川との合流點を占め、袋井町の南方、中泉町の東方いづれも約三軒を隔つ。土地平坦、肥沃にして水田に富み、農業を主産業とし米の産最も多く、次いで養蠶・牧畜行はる。縣道東西に貫通し社線中遠鐵道淺羽・諸井兩驛に近し。中泉町へはバスの便あり。【桑原神社】 大字長溝に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。創立年代詳ならず。もと八幡宮と稱し、江戸時代除地高二石を有せり。明和二年再建す。例祭、七月十五日。

【西アシロ】 西足寄村 北海道十勝國十勝支廳中川郡の北部。十勝國の東北隅に位置し、山脈を以て北は北見國、東北は釧路國に界し、西は河東郡、南は本別町に隣接す。面積九〇〇・七二平方軒。村内は利別川本支流々城地方を占め、北境の東三國山(二二三〇米)・クマネシリ嶽(一五六六米)等の連互せる分水嶺より發したる諸川は何れも傾斜に沿ひて東南流し、東部を南流せる利別川に注ぐ。流域の耕地面積頗る廣大にして、米・大豆・小豆・馬鈴薯・甜菜等を栽培す。北部・西部山地には森林繁茂せり。南部は侵蝕臺地展開し、葉落集れり。省線網走本線は利別川に沿ひて東部を貫通し、足寄(明

治十四年三箇下野守貞久これを再興し寛永十六年現寺號に改む。【通照院】 大字西阿知にあり。古義尊菩薩。御宗末。寛和元年花山天皇の敕願に依り智空開創すと。延久年中、後三條天皇の勅願所に列し、近世は毛利元就・池田氏の祈願所たり。往時は本寺數十を算せしが、今は十八箇寺を統ぶるのみ。國寶、三重塔。

【西アラセ】 西荒瀬村 山形縣羽後國飽海郡の西部。酒田市の北に隣接し、西は日本海に面す。村の西半部は海岸の砂丘南北に連りて高く、東半部は浜内平野に屬して平坦なり。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を南北に通じ、南方羽越本線酒田驛へはバスの便あり。

【西アラライ】 西新井 東京都南足立郡にありし町。昭和七年東京市に入り足立區を成しその町名となる。新義眞言宗の總持寺あり、俗に厄除の大師また西新井大師と稱す。

【西アリエ】 西有家町 長崎縣肥前國南高來郡の南部。島原半島の南岸に位置し有家町の西に隣る。北境には雲仙岳の南方中腹に聳ゆる高岩山(八八一米)ありて南方へ傾斜し中央以南は山麓部にして緩き波狀を呈して下る。南部は平野乏しきも海岸は平直にして多くは遠淺なり。市街地は東海岸にあり。米・蕎麥・蕎麥等を産し牧畜も行はる。海岸に縣道走り、社線日之津鐵道も同じく沿岸を走りて西有家(大正十五年設置)・引無田(昭和七年設置)・龍石(昭和四年設置)の三驛を置く。もと有家と稱せしが、のち東西二町に分れ、東有家町は有家町と改稱す。本町の地は雲仙國立公園の内。(須川名切支丹墓碑) 向濱の墓地にあり。砂岩質の石材を用ひたる蒲鉾形の墓碑にして、長さ一・二四米、幅六四釐の大形の

ものに属し、厚さ三三三あり。この碑は他の一基の粗製なる同形墓碑と共に地中に埋没し居りしものを発掘せしものにて...

ニシアリタ 西在田村

兵庫縣播磨國加西郡の西北部。南西隅の一部は北條町の北隅に接し、西北は神崎郡に界す。

ニシアリタ 西有田村

大分縣豊後國日田郡の北部。日田盆地の東北隅に位置し、西南は日田町に接す。

ニシイヤマ 西祖谷山村

徳島縣阿波國美馬郡の西南隅。吉野川峡谷の右岸に位し祖谷川に跨る。西及び北は三好郡に圍まれ西南隅は高知縣長岡郡に界す。

岡山縣美作國英田郡の東北端。縣の最東北端に位置し、本郡最大の村にして、大原町の北方に隣る。

ニシイウチ 西生口

廣島縣豊田郡にありし村。昭和十二年廢して瀬戸田町に編入す。

ニシイズミ 西出水

鹿児島縣本線の一驛(大正十二年設置)。鹿児島縣出水郡出水町にあり。

ニシイチ 西市町

山口縣長門國豊浦郡の東部。村の東北端に大峠・堂ヶ岳を始めとし二〇〇—三〇〇米の山岳錯雑し中央に傾く。

ニシイワイ 西磐井郡

岩手縣陸奥國の西南部。西は秋田縣、南は宮城縣、東は北上川を隔てて東磐井郡、北は膽澤郡に隣接す。

ニシウスキ 西臼杵郡

宮崎縣日向國の西北部。九州山脈の東斜面を占め、北は大分縣直入郡・大野郡に接し、西は熊本縣阿蘇郡・上益城郡・下益城郡及び球磨郡に界す。

香川縣讃岐國木田郡の西南部。川島町の南に接し、北方約九折に高松市あり。

ニシイバラキ 西茨城郡

茨城縣陸奥國の西部。縣内十四郡の一。東は茨城郡、南は新治郡、西は眞壁郡、北は栃木縣芳賀郡に隣す。

ニシイモカワ 西五百川村

山形縣羽前國西村山郡の南部。西及び南は西置賜郡に隣接す。面積一三六・二一方釐。西境に小朝日嶽(一六四八米)・大朝日嶽(一八七〇米)・御影森山(一五三四米)・北境に伏邊山(一〇一七米)・南境には頭殿山(一一〇三米)あり。

ニシウエタ 西植田村

香川縣讃岐國木田郡の西南部。川島町の南に接し、北方約九折に高松市あり。地形概して山地にして東北部に平地あり。

ニシウスキ 西臼杵郡

宮崎縣日向國の西北部。九州山脈の東斜面を占め、北は大分縣直入郡・大野郡に接し、西は熊本縣阿蘇郡・上益城郡・下益城郡及び球磨郡に界す。

よく開けて農作行はれ米・藁等を産し、また養鶏盛なり。市街は西南部平地に發達し、より南北・東西に縣道を出し又バスを通ず。

ニシイモカワ 西五百川村

山形縣羽前國西村山郡の南部。西及び南は西置賜郡に隣接す。面積一三六・二一方釐。西境に小朝日嶽(一六四八米)・大朝日嶽(一八七〇米)・御影森山(一五三四米)・北境に伏邊山(一〇一七米)・南境には頭殿山(一一〇三米)あり。

ニシイチキ 西市來

鹿児島縣日置郡にありし村。昭和五年市來町と改稱。

ニシウエタ 西植田村

香川縣讃岐國木田郡の西南部。川島町の南に接し、北方約九折に高松市あり。地形概して山地にして東北部に平地あり。

ニシウスキ 西臼杵郡

宮崎縣日向國の西北部。九州山脈の東斜面を占め、北は大分縣直入郡・大野郡に接し、西は熊本縣阿蘇郡・上益城郡・下益城郡及び球磨郡に界す。

ニシウ——ニシウ

村を結び、又各河川に沿ひて村道通ずれど交通不便なり。明治十七年臼杵郡を東西二部に分ちて新置す。

ニシウチ

西内村 長野縣信濃國小縣郡の西部。丸子町の西方約八軒。西は山脈を境に東筑摩郡に接す。北・西・南三境は何れも山岳に圍繞され、西北部に發源せる内村川は略中央を東に流れ谷沿に棄落散在す。村の略中央に、大鹽・鹿教湯・靈泉寺等の温泉湧出す。養蠶・農業行はれ、米・麥等の産あり。この地は和名抄、小縣郡餘戸郷の内なりといふも詳かならず。のち舊平井村・西内村を合して本村となす。村内に細尾流（高さ二〇米、幅一米）あり。〔鹿教湯温泉〕泉質、食鹽泉。療養並びに行樂向。鹿教湯川に臨み、前面は山の中腹の文殊堂と對す。源泉は川の沿岸と河底の岩石の間より湧出す。此湯は文殊堂の文殊菩薩が鹿に化身し此處に湯のあることを教ふと傳ふ。〔靈泉寺温泉〕泉質、食鹽泉。行樂並びに療養向。弘安元年に僧雲峯の開闢と傳へらる。温泉はもと靈泉寺の寺湯なりき。〔西内村杖垂栗自生地〕指定天然記念物。村役場の北二軒、朝日山の山中にあり。この邊一帯は普通の栗も多きも、林中山腹の斜面、各間・山頂に近きところに杖垂栗散生す。

ニシウチハラ

西内原村 和歌山縣紀伊國日高郡の西部。由良村の南に隣り、御坊町の北西方約二・五軒にあり。

ニシウミ

西海村 新潟縣越後國頸城郡の中部。糸魚川町の東南に接し、燒山（二四〇〇米）、天狗原山（二九七米）の西北山麓より海川の流域一帯を含む。東南―西北に長く南は長野縣北安曇郡に接す。東南半には一五〇〇米前後の山岳重疊し、西北に次第に傾斜し、海川は略中央を貫流し西北隅より海に入る。下流僅かに平地あり。農業・養蠶を主とし米の産額最も多し。東部山地には森林繁茂して林業も行はれ、發電所も二、三あり。西北隅を省線北陸本線がすみ糸魚川驛に近く谷沿に一條の縣道來り、姫川上流に續く道路あり。〔雲臺寺〕大字御前山にあり。天台宗寺門派。國聖御前山。一に御前山觀音と稱す。孝徳天皇の朝、法道仙人勸を受けて九澤。

ニシウラカミ

西浦上 長崎縣西彼杵郡にありし村。昭和十三年長崎市に編入さる。ニシウワ 西宇和郡 愛媛縣伊豫國の西部。縣内十二郡の一。西北に佐田岬

ニシウラカミ

北半は二〇〇米前後の山地をなし、南部は低地開けて東北方より來たる日高川の支流西南流してこれを灌溉す。米・繭・柑橘の農産及び畜産・林産・工業・礦産あり。北部には御坊町と北方由良港・湯淺町方面とを結ぶ縣道ありてバス利用多く、南部には東西に横切る縣道あり。省線紀勢西線は此地を通過して紀伊内原驛（東方約〇・五軒）に近し。この地は和名抄、日高郡内原郷に屬す。

ニシウノモト

西鶴ノ本 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年に四箇村と共に廢され、その地域を以て新たに長岡村を置く。

ニシウミ

西海村 新潟縣越後國頸城郡の中部。糸魚川町の東南に接し、燒山（二四〇〇米）、天狗原山（二九七米）の西北山麓より海川の流域一帯を含む。東南―西北に長く南は長野縣北安曇郡に接す。東南半には一五〇〇米前後の山岳重疊し、西北に次第に傾斜し、海川は略中央を貫流し西北隅より海に入る。下流僅かに平地あり。農業・養蠶を主とし米の産額最も多し。東部山地には森林繁茂して林業も行はれ、發電所も二、三あり。西北隅を省線北陸本線がすみ糸魚川驛に近く谷沿に一條の縣道來り、姫川上流に續く道路あり。〔雲臺寺〕大字御前山にあり。天台宗寺門派。國聖御前山。一に御前山觀音と稱す。孝徳天皇の朝、法道仙人勸を受けて九澤。

ニシウラ

西浦 神奈川縣三浦郡にありし村。もと中西浦村と稱せしが明治四十四年に西浦村と改稱、昭和十年に大楠町と改む。〔西浦村〕石川縣能登國羽咋郡の北部。富來町の西北方約五軒。西は日本海に臨み北は鳳至郡に界す。東に丘陵重疊し西海岸に傾斜す。平地乏しく棄落は概ね海岸に集る。漁業を主産業とし、次いで農業行はれ米・繭等を産す。海岸に沿ふ道路及び北部を通り東南方富來町に至る縣道通じバスの便あり。

ニシウワウラ

西上浦村 北から大分縣豊後國南海部郡の東北部。佐伯河に臨み、佐伯町の北方約四軒。全村山地斜面をなし、北境に彦根驛。南岸は屈曲割合に乏しきも西南部に南へ岬が半島狀に突出す。前面海上に彦島浮び更に東南

ニシウ

方に入大島を望み、陸地長し。低地乏しく耕地面積僅少なり。海岸は水産業行はる。海岸には省線日豊本線幾多のトンネルを穿ちて通過し、東北約二軒に淺海井戸あり、海上は發動機船によるも其他の陸上交通不便なり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。此地は和名抄、海部郡穂門郷の内なるべく、村内に狩生鍾乳洞あり。〔狩生鍾乳洞〕指定天然記念物。大字西上浦字狸穴にあり。古生層の石灰岩中に生じたる石灰洞にて、洞の形は東北より西南に走る二條の階層と、之に直交して流れし地下水の作用によりて生じたることを示す。山の中腹と頂上に開口し、一方より入りて他方に出づるを得。本洞は昭和七年の發見にかゝり、洞内の沈澱物なほよく保存せられ、發見當時洞窟の最低部より狼族の完全なる遺骨を採集す。獸骨を石灰洞中より發見せることは本邦に於ては稀なり。

ニシエ

西江 岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣る。本村は低濕なる輪中の一部を占め村内池沼多く散在し、西境には排斐川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・粟米あり。排斐川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る縣道通じ又排斐川は舟運の便あり。〔八幡神社〕大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

ニシエ

西江 岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣る。本村は低濕なる輪中の一部を占め村内池沼多く散在し、西境には排斐川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・粟米あり。排斐川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る縣道通じ又排斐川は舟運の便あり。〔八幡神社〕大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

ニシエ

西江 岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣る。本村は低濕なる輪中の一部を占め村内池沼多く散在し、西境には排斐川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・粟米あり。排斐川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る縣道通じ又排斐川は舟運の便あり。〔八幡神社〕大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

ニシエ

西江 岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣る。本村は低濕なる輪中の一部を占め村内池沼多く散在し、西境には排斐川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・粟米あり。排斐川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る縣道通じ又排斐川は舟運の便あり。〔八幡神社〕大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

西浦村 愛知縣三河國寶飯郡の西南端。形原町の南に隣り、西は幡豆郡幡豆町に接し、西および東南は渥美灣に臨む。村は渥美灣中に突出する御前崎より成り、一〇〇米内外の丘陵連立し御前崎は崖をなして海に臨むも、西北海岸は砂濱をなす。半農半漁にて農業も氣候溫和なるため産物に富み、蔬菜の促成・抑制栽培も行はれ、また水産も盛なり。棄落は西海岸に密集し街道は北方形原町に至りバスを通ず。人口は昭和十年四〇五七人にして一方軒密度は一一・五人の多数を示し最も人口稠密地域をなす。この地は和名抄、寶飯郡形原郷の内にして、附近は海水浴場として知られ、村内に知多本宮山航空燈臺あり。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ——ニシエ

【西浦町】愛知縣尾張國知多郡、知多半島の西岸中部。半田市の西南に隣り、北は常滑町に、東南は武豊町に接し、西は伊勢灣に臨む。東境には知多半島の脊梁をなす第三紀の砂岩・頁岩・泥灰岩・砂

ニシウ

【西浦村】愛知縣三河國寶飯郡の西南端。形原町の南に隣り、西は幡豆郡幡豆町に接し、西および東南は渥美灣に臨む。村は渥美灣中に突出する御前崎より成り、一〇〇米内外の丘陵連立し御前崎は崖をなして海に臨むも、西北海岸は砂濱をなす。半農半漁にて農業も氣候溫和なるため産物に富み、蔬菜の促成・抑制栽培も行はれ、また水産も盛なり。棄落は西海岸に密集し街道は北方形原町に至りバスを通ず。人口は昭和十年四〇五七人にして一方軒密度は一一・五人の多数を示し最も人口稠密地域をなす。この地は和名抄、寶飯郡形原郷の内にして、附近は海水浴場として知られ、村内に知多本宮山航空燈臺あり。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

ニシウ

指定天然記念物。古來水負に栽培せる小蜜柑の巨樹なり。根元より六支幹に分れ根元周圍三・五米、樹高七米、枝葉東西一三米、南北一・二米に達す。蜜柑の巨樹として有数のものなり。〔大瀬神社〕大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀬の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總鎮守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

例祭、陰曆八月十五日。

ニシエバラ 西江原町 岡山縣備中

國後月郡の南部。井原町の東に接し、北は山野上村に、東は荏原村に、南は小田川を隔て、木之子村に界す。全町二百乃至三百米の山地よりなり、何れも南北に山嶺連立して南境を東流する小田川河畔に至りて低下し、麓下に平地を開く。従つてこの附近は耕地拓けて農作行はれ、米・麥・繭等の産多く、また梨・薄荷等の特産あり。南部に國道山陽道東西に通じ西南隅にて南北に縣道を分つ。市街はこゝに發達し、農林産物の集散のみならず、機業・酒造等行はれ市況頗る活潑なり。南約一五軒に笠岡あり、バスを通じ、井原町に接して交通至便なり。此地は和名抄、後月郡那須家郷に屬せしもの如し。小菅城址は那須與一宗高の子孫の居りし處にして近世一橋家の出張陣屋あり、郡役所もまた此處に置かれたり。私立興業館中學校は幕末の鴻儒阪谷朗虛(阪谷芳郎の父)の設立にして、往時閑谷贊と名聲を同じうせるものなり。大正十四年町制を布く。〔道祖溪〕永祥寺の後山一帯をいひ、溪流美に富み、秋の紅葉狩、松茸狩に杖を曳く者多し。〔永祥寺〕曹洞宗。禪湖山と號し總持寺直末たり。建久年間那須肥前守頼資の創建に係り、其祖與一宗高を開基となす。元年中那須遠江守表道大いに伽藍を造營、實業良秀を請じて開山とす。境内に那須與一の墓あり。

ニシオ 西尾

【西尾村】石川縣加賀國能美郡の中部。小松町の東南約五軒の山中。東西兩部共に加賀山脈の餘脈連立し、全村五百六十米の丘陵地帯をなす。大杉川の一支流中部に發源して西北流し、河岸に耕地拓く。農産・林業を主生業とし、米・麥・繭薪炭等を出し、東部山中には尾小屋鐵山あり。小松町より社線尾小屋鐵道を通じ、澤・波佐良・觀音下・倉谷日・尾小屋の五驛(共に大正八年設置)を置く。縣道また南北に貫走し、東へ二三の道路を分岐す。【尾小屋鐵山】本邦重要鐵山の二。鐵區は本村及び鳥越村に跨り、事務所を本村に置く。鐵區は主として郷谷川と大日川との間を隔つる海拔最高五六〇米の山地の兩側に跨り、何れも主として第三紀凝灰岩より成れども、安山岩及び石英粗面岩に貫かる。鐵床は主として北七十五度東及び北六十度西の二方向に走る二組の正規鐵脈にして、その數三十餘條中、第六、第八、第九脈最も著しく、延長最大一〇〇〇米、幅〇・三乃至五米、主として石英・黃鐵礦・黃銅礦より成り、閃亜鉛礦及び方鉛礦を伴ひ、含銅一乃至一二%、平均三%内外に達す。本鐵床は明治十一年橋佐平の發見にかゝり、同十四年横山隆平の所有に歸し、その後鐵況盛衰多く、昭和七年日本鐵業會社の經營に移る。現在これに元山・佐佐羅兩方面より坑道を通じ、鑿岩機を以て採掘し、

カソリン軌道鐵車によりて坑外に搬出して選礦製鍊し、含金銀粗銅となし、之をそのまゝ日立鐵山電氣精鍊場に送りて金銀及び精銅を分離す。その産額一年凡そ二〇〇〇噸(昭和十一年一七〇〇噸)、従業員約六〇〇名。

【西尾町】愛知縣三河國幡豆郡の北部。矢作川左岸。矢作古川の分流による三角洲を占め、北は矢作川本流を境に碧海郡に接す。三河平野の東南部、所謂三河デンマークの名を以て知らるゝ本郡の首邑にて紡織工業を第一に農産・養蠶また盛なり。廣巾綿織物の産額最も多く、年産三〇二萬圓に及び、清酒の一〇萬圓之に次ぎ工産額總額四〇八萬五千圓あり。農産・養蠶の産額八萬五千圓、米・繭を筆頭に鶏卵の産多く、その他養蠶・蠶業・百合根栽培・郷土玩具工芸等の副業が凡て産業組合の活潑なる活動により極めて組織的に經營さる。町内を社線碧海電鐵南北に貫通し、東西に社線名古屋電鐵西尾線貫通し西尾驛(明治十四年設置)にて接続し、前者に中學前(昭和三年設置)、碧海西尾日(昭和五年設置)の二驛を置き、後者に住持驛(昭和四年設置)・久麻久驛(明治十四年設置)を置く。縣道また本町を中心として諸方に通じバスの便よし。この地は和名抄、幡豆郡能東郷の内。舊郡役所のありし所に、幡豆の中心地たり。往昔養蠶と稱す。蓋し海濱にして住民潮を養、多く金儲を産せし故なり。

鎌倉幕府の時に至り、吉良氏の祖、三河の守護足利義氏この地に來り城を築き城下を西城と稱す。備米永祿四年に至るまで十四代三百四十四年間、吉良氏これが城主たり。永祿五年松平氏の將酒井雅樂助正親城主となり、既にして西城を西尾と改稱す。其後、城主屢々交替せしが、明和元年松平和泉守乘佑この地に移封されしより子孫相繼ぎて明治維新に至る。明治二十二年町制を布く。明治三十九年本町及び久麻久村・西野町村・大寶村・奥津村を廢し、新に西尾町を置く。本町は遠州横須賀城主西尾氏の起りし所。大宇今川は清和源氏、足利義氏の子吉良長氏、其子國氏ここに住し今川氏を稱す。九代氏親に至りて勢振ひ、子義元、織田信長に討たるに及び衰へ、子氏眞に至りて亡ぶ。【西尾城】一に西條城といふ。初め吉良氏此處に築き傳へて義昭(一に義隆に作る)に至る。永祿四年、松平氏の將酒井正親、襲うて之を取る。同六年、一向宗徒の亂に正親之を守りて戰ふ。正親の子孫相繼ぎて天正の末年に至る。慶長五年、本多康俊封せられ、明和元年、松平(大給)乘佑これに代りて六萬石を食み、子孫相繼いで明治維新に至る。【荒川城】大字八面にあり。吉良氏の一族、荒川氏の據りしところとす。永祿四年、荒川頼時(又・頼時とす)酒井正親に依り徳川家康に降る。同六年、頼時、一向一揆に黨し、七年二月、正親を西尾に攻む。

家康、水野信正の援を得て、八面を攻めて之を陷る。〔久麻久神社〕大字八ッ面に鎮座。祭神、大雀命・須佐之男命・熱田大神。大寶年中の創建と傳へ、式内社にして、神位は從四位下、社領二十九石を有せり。殿宇中本殿は足利時代後期の様式を傳へ國寶。例祭、八月十五日。【伊文神社】字西尾伊文に鎮座。郷社。祭神建速須佐之男命・文徳天皇。大名奉迎尊。國內神名帳の正三位内母大明神は本社かといふ。古來西尾城下の産土神にして、社領二十三石餘あり、領主吉良氏以下の崇敬篤し。安政元年正一位を授けらる。例祭、六月十六日。

【西尾村】徳島縣阿波國麻植郡の東部。徳島平野の一部を占め、東方島島町と西方川島町とに挟まれ、北は阿波郡八幡町に接し、南は名西郡に界す。南半は山地の北方傾斜地をなし北半は平坦なる平野にして北方約一軒に吉野川東流す。田畑よく拓けて米・麥を産し、養蠶また盛にして繭の産額著し。北部には伊豫街道及び省線徳島線東西に通じ西麻植驛(明治三十二年設置)あり。またバスの便よし。本村の一部は東山村及び名西郡阿野村の各一部地域と共に東山鐵山(含銅硫化鐵礦)の鐵區を成す(東山鐵山参照)。この地は和名抄、麻植郡吳島郷の内にして大字飯尾は三善氏の族、飯尾氏の舊邑なり。〔天神社〕大字飯尾に鎮座。郷社。祭神、大己貴命外二神。例祭、十月十四

日。【龍井寺】大字飯尾にあり。臨濟宗妙心寺派。金剛山。四國八十八所第十一番札所たり。弘仁年間空海の草創と傳へ玄鑑を以て中興開山となす。往古は七堂伽藍備はりて頗る宏壯なりしが、天正中兵火に罹りて炎上せしより振はず。本尊釋迦如來坐像・木造、藤原後期作は國寶なり。御詠歌「色も香も無非中道の藤井寺眞如の浪の立たぬ日もなし」。

ニシオー 西大村

【西大村】長崎縣肥前國東彼杵郡の南部。東方に聳ゆる五家原嶽の西麓を占め、西は大村灣に臨み、南は大村町に接す。東部は緩き傾斜の山地にして中部及び西部は臺地をなせども地形平坦なり、西南海岸に稍低地あり。海岸は單調にして西方海上に箕島横はり其前面にソウダ島・カロー島等浮ぶ。低地は水田拓げ臺地には桑園多し。海岸は漁村發達して水産盛なり。長崎街道西部を南に貫き粟落多く之に並び、省線大村線は其東を走りて竹松驛へ北約〇・五軒、大村驛へは南約一軒なり。此地は和名抄、彼杵郡大村郷の内にして舊大村城下なり。

ニシオーアシ 西大蘆村

【西大蘆村】栃木縣下野國上都賀郡の中部。日光町の南隣、足尾町の東隣にある大村なり。全村山地にして、西境より南境にかけて薬師岳(一四二〇米)・夕日岳(一五二六米)・地藏岳・横根山(一三七三米)・鳴島山(七二五米)等連立し、東境にも亦、六郎地山(一〇九七米)をはじめとして山地連な

り、村の南部は之等兩山地の複合にて、大蘆川東南に流る。山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひの狭き平地には耕地ありて米・麥・繭を産す。粟落は殆んど川沿ひに發達し、縣道又これに沿ひて東南に走り鹿沼町に通じ、バスの便あり。

ニシオーイタ 西大分

【西大分】大分縣大分郡にありし町。明治四十年本町外一町三箇村を合併して大分町を置く。大分町はのち大分市となる。日豊本線の西大分驛(明治四十四年設置)あり。

ニシオーウラ 西大浦村

【西大浦村】京都府丹後國加佐郡の北東部。本村は東大浦村の西に半島狀に突出して東より舞鶴灣の北岸を限り西は灣口を扼す。全村山岳地にして東部に中央分水嶺をへだて小河北流及南流して海に注ぎ、海岸には小低地ありて北岸には三濱・小橋・南岸には平の粟落あり。西部南偏にも細流海に注ぎ沿岸に大丹生粟落あり。山地海岸に迫りて沿岸屈曲稍多く西北部に北へ博奕岬の突出あり、東北部には沖島・磯島・島・アンジャ島等の島嶼浮ぶ。米・蔬菜を産し養蠶盛に行はれて繭の産多く又水産・林産あり。陸上交通不便なれど發動機船によりて舞鶴方面に連絡す。いま村城は要塞地帯に屬す。(おほみづなぎどり蕃殖地)指定天然記念物。本邦沿海の島嶼にのみ蕃殖するものにして、蕃殖地は僅少なり。本島は日本海面に於ける代表的のものなり。

ニシオーサイ 西大在

【西大在】大分縣北海部郡にありし村。明治四十年本村外一村を合し大在村を置く。

ニシオーサキ 西大崎村

【西大崎村】宮城縣陸前國玉造郡の東南部。岩出山町の南に隣り、東は栗原郡、西は加美郡に接す。陸前平野の西部に當り、村の北東部及び南東部は丘陵をなすも、中央部は平坦にして荒川川は中部を南東流して灌漑す。米・繭・麥を産す。道路は中央部を西北より東南に通じ、西北方陸羽東線岩出山驛へは約三・五軒あり。

ニシオージ 西大路

【西大路村】滋賀縣近江國蒲生郡の東南部。日野町の東に接し東と東南は甲賀郡に界す。東境に鈴鹿山脈に屬する綿向山(一一一〇米)あり。西部中央に低地開け綿向山に發する日野川は東部を西南流し南部にて西北流に轉じ日野町に出づ。米作を主とするも山間部にては炭焼・薪炭業行はれ尙ほ關東方面へ商家奉公に出づる者多し。所謂日野商人なり。中部を縣道横斷しバスの便あり。〔蒲生城〕大字音羽にその址あり。また日野城といふ。藤原秀郷の二男千晴の六代の裔蒲生太郎惟俊初めて當城を築き、子孫相繼ぐ。天正十年織田信長討つるや、蒲生氏郷、信長夫人を扶けて日野城に入る。羽柴秀吉光秀を滅ぼすに及び、氏郷の功を賞し五千石を加増す。のち氏郷伊勢松阪城に移るに及びて衰ふ。〔興教寺〕大字西大

ニシオ——ニシカ

寺にあり。真宗大谷派。初め應永二年京...

ニシオ——シマ

西大島 岡山 西大島 岡山...

ニシオ——ツカ

西大塚 山形 西大塚 山形...

東隣の東小国村より来り村の南部を西流...

ニシオ——ツバ

北見国阿部郡の西部。阿部川...

ニシオ——サワ

茨城 茨城 茨城...

北見国阿部郡の西部。阿部川...

ニシオ——タテ

近江国愛知郡の西部。愛知川...

ニシオ——ヤ

省線 省線 省線...

北見国阿部郡の西部。阿部川...

ニシカ——イ

静岡縣遠江 静岡縣遠江...

ニシカ——カ

飛騨山脈の西方 飛騨山脈の西方...

静岡縣遠江 静岡縣遠江...

ニシオ——ニシカ

東隣の東小国村より来り村の南部を西流...

北見国阿部郡の西部。阿部川...

近江国阿部郡の西部。阿部川...

静岡縣遠江 静岡縣遠江...

に沿ひて西南流し西南隅にて本郡をはなれ名古屋市と其西隣海部郡との間を南流して伊勢海に注ぐ。郡内多数の支流或は堀等の水路あり。地味肥え水利よく米・麥・蔬菜等の農産多く名古屋市に隣接せる爲工産も亦少からず。郡内西南部の西枇杷島町・新川町・清洲町の三町外七ヶ村を含み、人口密度は一方軒平均九八五人にて、最高西枇杷島町の二六〇二人より最低補町の三八七人に及ぶ。中央には名古屋市西區より北走して丹羽郡を経て犬山町方面に至る縣道、同じく西北一宮市へ通ずる國道等ある外、道路四通八達し社線名古屋鐵道線は郡内を縦横に走り、西南部には省線東海道線沿線交通の便頗るよし。本郡は明治十三年春日井郡を分けて東西二郡として置けるもの。

ニシカズミ

西加積村 富山縣越中中新川郡の北部。滑川町の東南に接す。西南境を上市川西北に流れ土地平坦にして沃田開く。農業を主産業とし農産の大部分は米なり。其他賣藥・絹織物の産あり。社線富山電鐵の西加積・西滑川の二驛(大正二年設置)あり、縣道滑川町より東南に走り、省線北陸本線滑川驛へ一軒余、バスの便あり。この地はもと堀江庄と稱せし地にして、近世は加積郷の内なり。

ニシカセタ

西加世田 鹿兒島縣川邊郡にありし村。大正十二年改稱村と改稱す。

ニシカタ

西方 福島縣岩代國大沼郡の北部。北は河沼郡に隣接す。村の略々中西部に三坂山(八三二米)あり、全村概ね山地をなして平地に乏しきも、只見川は南境を東北に流れ、その沿岸に僅かに低地ありて樹枝状に耕地稍拓く。米・麥・大豆・蕪炭等を産す。道路は只見川に沿ひて、西方より南を迂回して北方に通じ、北方野深町に至る。只見川の溪谷には早戸温泉あり、泉質鹽類泉。「稻荷神社」大字西方に鎮座。郷社。祭神、倉稻魂命。社傳によれば、貞元二年地頭藤原保祐はじめ當郡鏡森山に鎮祭せしを、のち地頭藤原俊光現地に奉遷す。例祭、九月五日。

ニシカマクラ

西鎌倉 神奈川縣鎌倉郡にありし村。明治二十七年東鎌倉村と合し鎌倉町を置く。

ニシカミヤマ

西上山 高知縣幡豆郡にありし村。昭和三年改稱村と改稱す。

ニシカモ

西加茂 愛知縣十八郡の一。三河國の西北部。矢作川中流に沿ひ、北は岐阜縣美濃國惠那郡・土岐郡に、西は尾張國東春日井・愛知兩郡に、南は碧海郡、東は東加茂郡に界す。面積三五七・六九方軒。郡内木曾山脈の餘波なる山岳、丘陵起伏し、東北部に六十七百米の山あり、次第に西北に傾斜し一〇〇米餘の長久手丘陵となる。矢作川は、東境より東南部を南流し、華母町附近に小盆地を作る。西南部丘陵は幾多小川の水源地をなし、之等流域にも亦平地開け水田發達す。本郡は謂ゆる三河アンマークの一部として各種産業組合による集約的産業組織により農業・養蠶等盛なり。農産物は米・麥・雜卵・雞にて南部に多く、副業の養蠶また盛にて繭・蠶糸の産少からず。西北部山地は濃尾産業地帯に屬し陶土・粘土を産出す。

ニシカラツ

西唐津 省線唐津線の一驛(明治三十一年設置)。佐賀縣唐津市にあり。

ニシカラフト

西樺太山脈 樺太山脈

ニシカ——ニシカ

西北より東南へ細長き村なり。南境に葛城山脈東西に走り、東南隅に葛城山(八五七米)聳え、西南境には高城山(六五一米)あり。山地西北方へ傾斜して中部に近本川西北へ貫流す。西北部は大阪平野の南部を占めて地形低平なり。工業領首位を占め、農産之に次ぎ、林産第三位にあり。外に畜産・水産・鐵産あり。特産に蜜柑あり。中央河谷に沿ひて縣道走り岸和田市へバスを通ず。村名はこの地葛城山の西麓なるより起る。「和泉葛城山ぶな林」指定天然紀念物。本村大字葛原及び東葛城村大字塔原に亘る。葛城街道に沿うて山頂まで長さ三六〇米に餘り、街道の左右に變入せる溪谷にも及び面積約一〇ヘクタール、ぶな樹の数は目通九〇種以上のもの約千八百本と稱せられ、目通二米内外のもの多し。「孝恩寺」木積にあり。淨土宗。俗に木積觀音堂の名を以て著聞す。創建沿革等不明なるも、明暦元年本宗に歸す。境内の木積觀音堂は神龜三年、行基、聖武天皇の勅を奉じ七堂伽藍、二十餘宇の僧房を創建せしものにして、行基建立の近畿四十九院の一なりといふ。釘を使用せぬ構作なるため木積の釘無堂ともいふ。のち數度の兵火に罹りしが僅かに當觀音堂のみ火災を免れたりと傳ふ。大正五年復興の工を起し現に輪奐舊に復し往古の片影を偲ばしむ。觀音堂・文殊菩薩立像一軀(木造)・釋迦如來坐像一軀(木造)、他十二點は國寶。

ニシカツラ

西桂村 山梨縣甲斐國南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、谷村町の西南約四軒。西北隅に三ヶ峠山(七八六米)聳立し、東南部を桂川東北に流れ流域に平野あり。山勢概ね西北より東南に傾斜し、東南部にも一二〇〇米余の山地あり。平地には水田・桑園拓け、米・麥・繭・桑を主産し、機業また盛にして洋服袖裏地の本場として著はれ年産額一七〇萬圓に及ぶ。社線富士山麓鐵道桂川に沿ひて貫通し、小沼驛・暮地驛(昭和四年設置)あり。中山道また之に並走し大月驛・吉田間自動車の便あり。地は和名抄、都留郡賀美郷の内にて明治二十六年桂川を東西に分けて置きしもの。「山ノ神の大蔵」指定天然紀念物。上幕地にあり。日通りの周圍約二米。根廻り二・五米。側にあるいたやかへでの大樹に纏繞し、更にやゝ距りたる柳の大木にも絡まり、天然の藤棚をなし、幹の巨大なること比類少きものにして珍重せらる。「淺間諏訪神社」大字下幕地組に鎮座。郷社。祭神、木花咲耶姬命・建御名方命。古來下幕地村の産土神たり。例祭、七月廿二日。

ニシカツラキ

西葛城村 大阪府和泉國泉南郡の東部。葛城山脈の北斜面を占め、岸和田市の南方約三軒。南は山脈を隔て和泉國泉南郡に接す。村々

ニシカワ

西川 福島縣岩代國大沼郡の北部。河沼郡津村町の西南約一〇軒。東境に海ノ嶽(七二九米)あり、西南境は海抜一〇一三米にして、各々北方に傾斜し、大谷川は中央部を北流し只見川に合す。只見川は村の北境をなして西北に流れ、その西半部は峡谷をなすも、東半部は耕地稍拓く。米・麥・大豆・蕪炭等を産す。道路は北部を東北に通じ、東北方津線津津驛へは約一〇軒あり。大字大登に戰國の終の頃、山内氏の將、渡部長門綱孝居りしが、伊達政宗の爲に追はる。「三島神社」大字宮下に鎮座。郷社。祭神、大山祇命。例祭、九月廿一日。

ニシカモ

西賀茂 京都市上京區の町名。上賀茂の西、賀茂川の右岸。東岩安覺禪師を以て名高き、臨濟宗正傳寺あり。寺後の船山には毎年八月十六日精靈送り火として如意輪の大火字、松崎の妙法と同時に船の形の火を焚く。その他に眞言宗神光院あり、京都三弘法の一。その茶堂は、太田垣運月尼の隱栖せし處なり。

ニシカロリン

群島 Caroline Is. 西カロリン群島

長良川の上流上ノ保川の右岸。八幡町の西北に接し、白鳥町の南方約八軒。西は屏風山脈の一部を以て越前國に西南は武儀郡に界す。村内山岳重疊し上ノ保川東境を東南流す。平地に乏しく河岸僅に耕地あり、米・麥を出し、清流に沿ふ傾斜地には山葵の産あり。其の他養蠶・製炭・美濃紙の手漉等の副業行はる。河岸を一條の里道通じ、對岸を省線越美南線及び越前街道走り、美濃山田・美濃彌富兩驛に近し。この地は和名抄、郡上郡山田郷の内。(七代天神社)大字島に鎮座。郷社。祭神、國常立命・根根命外九神。社傳に元明天皇御宇、靈龜二年三月神異ありしにより、勅許を得て靈龜二年工を起し、養老二年竣工すと。例祭、八月廿五日。

【西川村】 岡山縣美作國久米郡の西部。旭川左岸に沿ひ、北西より南西にかけて眞庭郡に圍まれ、南は御津郡に界す。西北より東南に細長く中央東南偏の地狭部より南は村の幅東北及び西南に擴がる。村内はほぼ東北より西南にのびる山列により埋められ西境に沿ひて旭川曲りつづ東南流す。米・藁・麥の農産を出し酒類・木炭・生柿の特産あり。河川沿岸を縣道通じ南方岡山市及び西北方眞庭郡勝山町へ至るバスの便あり。

す。村内山岳重疊し地形高峻にて、西南半は略々西南より東西に延びる山脈が東西兩境を限り中央は谷をなして河川西南流す。東北半は村全體が稍々東西に長引く爲同じく略々西南より東西に連れる山脈は村を横切り南北隣村へ續く。東北部の中央に東北流する河川あり北方四軒にて物部川に合す。河谷の西に長谷熊王山(七一・九米)の連嶺聳ゆ。米・藁・柑橘・麥等の農産の外、林産・工業及び畜産あり。西南部及東北部にそれ／＼東北より西南に裾合谷を走る縣道あり西南方野市町へバスを通ず。此地は和名抄、香美郡大忍郷の内なるべく、中世は大忍庄に屬す。(兼八王子宮)郷社。祭神、五男三女八柱神。古來より當村の産土神にして、も牛頭天王と稱す。例祭、七月二十八日。

Table with 3 columns: 鎮山名, 鎮區所在地, 年産額. Lists various locations and their annual production values.

十月二十六日。【西川村】 福岡縣筑前國鞍手郡の中央北部。直方市の西北に接し西北部は宗像郡に界す。西部及南部は丘陵をなし、即ち西境には一〇〇—一五〇米の山地南北に連り、東南境には六ヶ岳(三三九米)蟠居す。東北部は遠賀川流域低地の一部を占め地形平坦なり。米・麥等の農産及び林産・蠶産あり。東方植木町と西北方宗像郡赤間町とを結ぶ街道北部を横斷し北方の鹿兒島線より分れて南下する省線室木線中央を通りて新延驛・八尋驛及び終點室木驛(何れも明治四十一年設置)あり。本村の地は筑豊炭田の内なるを以つて至る處に炭礦あり、いま本村に關聯する主なる炭礦をあぐれば左の如し(昭和十年調査)重は重要鐵山、準は準重要鐵山)。

Table with 3 columns: 鎮區坪數, 年産額, 備考. Lists land area, production, and notes for various locations.

敬頗る厚し。例祭、十二月十六日。(長谷寺(觀音堂)) 大字長谷にあり。淨土宗。龜甲山。相模國鎌倉及び大和國の長谷寺と共に日本三長谷寺と稱せらる。寺傳に養老五年春、行基、徳道作の天和長谷寺觀音に模して二體の佛像を作りしが、仁和元年春空海の法弟萬貴その一體を奉持して此地に來り本寺を創す。時に天皇の尊崇厚く美田若干を賜はり堂閣壯麗なりしが、のち悉く炎上す。黒田長政領主となるや五百餘石の地と山林とを寄せて寺運再び興隆せしが、今は僅かに一小堂を存するのみ。本尊十一面觀音立像一軀(木造、傳行基作)は國寶。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

僅に山頂を以て武藏町の西南境に接し、西は長崎縣東彼杵郡に界し南は藤津郡に接す。西北境に杵島山(四四七米)聳え、西南境には桃ノ木越(三二二米)ありて村内概れ山地をなし、その間所々に盆地を形成す。米・麥等の農産を出し養蠶盛にして藁の産多し。東部には武雄町より西南方彼杵村に出づる縣道通じてバスの便あり。中央には之より西に較れて西隣長崎縣東彼杵郡上波佐見村に出づるものあり。此地は和名抄、杵島郡島見郷の内。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

米を産し河川には鮭の漁業あり。村内南北に省線羽越本線貫通し岩船町驛(大正三年設置)あり。國道は南北に、縣道は東西に走り自動車の便もあり。この地は往時加納庄と稱せし地にして、庄名轉訛して神納と稱するに至れり。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

あり。縣道は東西、南北並行によく開けバスの便もあり、また信濃川中ノ日川には舟楫の便ありて交通至便なり。本郡は明治十三年五月蒲原郡を新湯區及び東西中南北の五郡に分けて置けるもの。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

南方初來町へ各バスの便あり。これに並行して當縣道通じ、北方植田驛、南方勿來驛へは各約二軒あり。此地は和名抄、菊多郡河邊郷の内。本村及び勿來町、川部村に跨りて重要鐵山たる勿來炭礦及び準重要鐵山たる東海炭礦あり(東海・勿來を参照)。(熊野神社) 大字大倉に鎮座。祭神、伊那那美命外二神。平城天皇の大同年中、紀伊國熊野神社より分靈して鎮座す。當時御寶殿と稱し平城天皇の勅願所にして、菊田郡(明治二十九年石城郡に合す)の總鎮守たり。往古は祭典執行の際必ず勅使下向ありしが中世以降廢せらる。また祭典には郡内三十三箇村より神事の諸役を勤めたりといへば、以てその盛大なりしを窺ふべし。維新の際まで朱印社領五十石を有せり。例祭、八月一日。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南部。西南部は土佐灣岸本町の東北約四軒を距て南部に東川村を圍みて西南より東北に著しく延び、東南部は安藝郡に接し宗像神社社記に載せられたる神社に

幣を賜はり社頭盛大を極め、一條天皇御宇當國二の宮と定めらる。江戸時代朱印百七十七石餘を附せらる。例祭、四月三日・十一月三日。(南照院)曹洞宗。慈眼山。聖徳太子掛錫の靈跡にして、大同四年空海また當山に留り六面塔を建立せりといふ。降りて慶長年間土家今川義行開基となりて初めて七堂伽藍を建立す。當時寺運甚だ隆盛なりしといふ。

【錦村】三重縣紀伊國北牟婁郡の東北隅。長島町の東約四軒にあり、南は熊野灘に面す。北及び東は三重縣度會郡に界す。東西兩部は山地をなし西境には四〇〇—四五〇米程度の山地連りて村界を限り山地南方海上に突出し、東境には短越山(五〇三米)聳えて南北に山脈連り、南半の山脈は中央を西南方へ突出してメド鼻となり其西に西部山地との間に海を圍む。海岸は多く斷崖をなして小屈曲多き島嶼數多く散在して平瀬島・高ノ島・米島等あり。海東北隅には錦浦ありて浦の長さ南北に約一軒ばかりあり、こゝに部落細長く連なる。中央は北境より錦浦へ通ずる裾合谷をなす。本村の生業狀態は全戸數六一九戸中、農業六〇戸・工業二五戸・商業六九戸・水産業三〇二戸・自由業四〇戸・交通業二六戸・其他九七戸にして水産業は戸數の上より見て約五割を占むるも實際從事する人口の上より見る時は其八割を占むると考へられる位村人の殆んどが此方前に活動し居り本縣

幣を賜はり社頭盛大を極め、一條天皇御宇當國二の宮と定めらる。江戸時代朱印百七十七石餘を附せらる。例祭、四月三日・十一月三日。(南照院)曹洞宗。慈眼山。聖徳太子掛錫の靈跡にして、大同四年空海また當山に留り六面塔を建立せりといふ。降りて慶長年間土家今川義行開基となりて初めて七堂伽藍を建立す。當時寺運甚だ隆盛なりしといふ。

有數の水産地なり。産物は水産物第一位にして鱈・鯖・鰻・伊勢蝦・鮑・一般海藻等、うち特に鱈は昭和十年度に於て約三〇萬尾、此價額八〇萬圓、昭和十一年度に於て約二三萬尾、此價額六五萬圓の漁獲にて全國第一位を占むるに到る。第二位は薪・炭の林産物、第三位は農産物にて藪を主とす。錦浦より北境錦崎を越えて北方へ至る縣道あり、又西方長島町にも道路通省線紀勢東線長島線へは西方約四軒なり。この地は和名抄、志摩國美濃郡二色郷の地にして神武天皇の舟師到着せる丹敷浦は此なるべし。神風抄に志摩國錦ノ御厨とあるは此地にして往古伊勢大神宮の神領なりしもの。

【錦小路】平安京横の通りの名。延暦年間開通する所。もと尿小路と呼びしを改めしもの。四條坊門小路と四條大路との間にあり。いま名稱現存し、慶長以來魚島市場あり。

【錦川】^{イナカ川} 岩國川 鳥郡の南部。藤津郡鹿島町の北方約四軒にありて東南隅は有明海に面す。西部は西北方に聳ゆる杵島山(三四二米)の山地ありて東麓に湖水あり、東大半は平坦なる平野なり。米の産多き麥も出し又藪を産す。中部に縣道縱斷し、東部には省線長崎線ありて南境を南に越えたる地點に肥前龍王驛(龍王村)ありて交通の便あり。(稻佐神社)大字意田に鎮座。例祭。

祭神、天神・聖王神外二神。神祇志料に「稻佐雄神、今杵島郡邊田村にあり、稻佐三所大明神といふ、傳云、百濟の聖明王を祀る」といひ、古來此邊數村の産土神たり。例祭、十月十九日。(福泉寺)大字田野上にあり。臨濟宗東福寺派。飯盛山。寛平二年の創建といふ。中古殆んど廢滅せしが鐵牛圓心再興す。中興開基は北條時頼にして、寺領千石を附し天下の諸山に列せしむ。寺域海拔二百尺の山腹に位し眺望頗る佳なり。

【錦生村】^北 三重縣伊賀國名賀郡の西南隅。名張盆地の一部を占め、名張町の西南に接す。西及び南は奈良縣山邊郡及宇陀郡にそれ〴〵界す。西北境に聳ゆる茶臼山(五三五米)より山脈西南に連りて奈良縣との境をなし、山地東へ急斜す。東南部にも山地婦りて東南境にて五八五米あり。中央に宇陀川ありて東北に流れ、沿岸に平坦なる沃野開く。米・麥を産し又養蠶盛にして藪の産多し。ほかに林産・畜産・鐵産・水産・工業あり。縣道中部を川沿ひに走り社線參宮急行電鐵南部を通過す。(無動寺)大字黒田にあり。眞言宗醍醐派。秀山といふ。寺傳によれば弘仁年中、空海の創建に係り、嵯峨天皇の勅願所たり。天安年中僧實譽坊令等造替し、のち甲賀近江守の新願所となり、供料二百五十石を寄せらる。文祿二年僧惠福の再興、その後藤堂氏の祈願所なり。本尊不顯明王立像(木

祭神、天神・聖王神外二神。神祇志料に「稻佐雄神、今杵島郡邊田村にあり、稻佐三所大明神といふ、傳云、百濟の聖明王を祀る」といひ、古來此邊數村の産土神たり。例祭、十月十九日。(福泉寺)大字田野上にあり。臨濟宗東福寺派。飯盛山。寛平二年の創建といふ。中古殆んど廢滅せしが鐵牛圓心再興す。中興開基は北條時頼にして、寺領千石を附し天下の諸山に列せしむ。寺域海拔二百尺の山腹に位し眺望頗る佳なり。

造、藤原末期作)一軀は國寶なり。

【錦木村】^北 秋田縣陸中國鹿角郡の西部。毛馬内町の南に隣り、西は北秋田郡に接す。村の西南部は山地をなすも東北半部は毛馬内盆地に屬して平坦なり。米代川は村の中部を北流し、北境に於て東方より大湯川を合し西南に流る。米・蔬菜を産す。鹿角街道は中部を南北に通じ、北方毛馬内町、南方花輪町に至る。省線花輪線通じて毛馬内(大正九年設置)末廣・尾去澤(共に大正四年設置)の三驛を置く。毛馬内驛よりは十和田湖行のバス發す。この地に錦木塚あり、男女のロマンスを披ひし傳説あり袖中抄、深澤草及び東遊記等にその記事見ゆ。本村と尾去澤村とに跨りて尾去澤嶺山あり、金銀銅鉛鋅鐵にして重要鐵山に屬す。また本村、毛馬内町及び北秋田郡十二所町・長木村の四箇町村に跨りて小眞木鐵山あり、金銀銅鉛鋅にして之また重要鐵山に屬す。

【錦部村】^北 長野縣信濃國東筑摩郡の中部。松本市の北方約五軒。犀川の一支會田川上流に沿ふ。東は筑摩山脈の一部連互し小縣郡と界す。會田川東部に發源し中部を西流し、北に曲流して會田村に至る。村内概ね丘陵起伏し河津僅に平地あり。養蠶・農業を主とし藪・米・麥を産し林産物も多少あり。河沿の縣道は山を越えて東方上田市、西方豊科町に達し、松本市・會田村へはバスの便あり。此地は會田村・五常村・中川村と共に和名抄、筑摩郡錦部郷の地にして、延喜式に錦部郷馬十五疋とあるは此處なるべし。大字刈谷原には鷹住根城(一に刈屋原城ともいふ)あり、海野小太郎幸繼の五男、刈屋原五郎の居城たり。その後太田(會田)彌助居城す。

ニシキ

【錦部村】^北 長野縣信濃國東筑摩郡の中部。松本市の北方約五軒。犀川の一支會田川上流に沿ふ。東は筑摩山脈の一部連互し小縣郡と界す。會田川東部に發源し中部を西流し、北に曲流して會田村に至る。村内概ね丘陵起伏し河津僅に平地あり。養蠶・農業を主とし藪・米・麥を産し林産物も多少あり。河沿の縣道は山を越えて東方上田市、西方豊科町に達し、松本市・會田村へはバスの便あり。此地は會田村・五常村・中川村と共に和名抄、筑摩郡錦部郷の地にして、延喜式に錦部郷馬十五疋とあるは此處なるべし。大字刈谷原には鷹住根城(一に刈屋原城ともいふ)あり、海野小太郎幸繼の五男、刈屋原五郎の居城たり。その後太田(會田)彌助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

ニシキ

【錦部郷】^北 錦部(郷) 助居城す。

南方に延びるも南部の地は低平、海岸も
た砂濱をなす。氣候温和にて且つ宇部市
に近接するを以て産業よく発達し、米・
麥・蔬菜・豆類・甘藷・薄荷・茶種の農
産物の外に醸造・瓦・煉瓦・木竹製品・
用材・薪炭材あり。漁獲も多く、養蠶・
養鶏・養蜂も盛なり。特に葉煙草・深慮
漬は世に知らる。宇部市に隣接するを以
て交通の便よく、社線宇部線道また貫通
し白土驛(昭和四年設置)・床波驛(大正
十二年設置)常盤驛(大正十四年設置)
を置く。人口は大正九年五二七二人、同
十四年五一五九人、昭和五年五三三三
人、同十年六六二一人にして、昭和五年
より同十年間の増加は一三〇八人にて著
しく、之は宇部市に隣接するによるもの
なるべし。〔長生炭礦〕西岐波村内に鉄
區八十七萬七千坪を占め我國の重要鐵山
に屬す。鐵區の地質は第三紀層に屬する
砂岩と頁岩とより成り、平均すれば走向
は七〇度、傾斜は南東に二度にして七甲
炭層の炭厚一米とす。昭和十年には塊炭
五、二八八噸、粉炭一四、五五四噸、粗炭
三三、五〇八噸、この總價額十七萬餘圓
を出し、同年六月末には使用鐵夫二八四
人とす。本炭礦は宇部鐵道の床波驛より
〇・四軒、また山口市・宇部市間の縣道
より〇・五軒といふ何れも近距離なれば
交通至便にして石炭は貯炭場より直に船
積せらる。本鐵區の一部は豫てより採行
中のところ大正十一年五月海底陥落の爲

ニシク——ニシク

坑内水没し爾來休業中なりし昭和八年
より再び採業せられて今日に至る。〔南
方八幡宮〕宇山村に鎮座。郷社。祭神、
應神天皇。孝謙天皇天平勝寶三年、厚東
武忠の四世白松大夫武綱、豊前國守佐よ
り分靈勧請せしに始まる。例祭、陰曆八
月十五日。
ニシクシヨ 西九條 省線
西成線の一驛(明治三十一年設置)。大阪
市此花區朝日橋通二丁目にあり。
ニシクシラ 西串良 鹿兒島縣肝屬
郡にありし村。昭和七年、串良町と改稱
す。
ニシクニサキ 西國東郡 大分縣
豊後國の東北部。國東半島の西北部を占
め、東隣東國東郡との間の南北の境界を
底邊とする略々二等邊三角形を呈する郡
にして、西北部は周防灘に面す。東境に
兩子火山(七二二米)聳え、放射谷をつ
くりて四周へ傾斜し、數條の細流放射谷
を流れて西北流及び北流す。南境には華
ヶ岳山(五九三米)・田原山(五四三米)等
の連嶺西北より東南に連り、その北に桂
川が中部及南部の水を集めて西北流す。
桂川河口に稍廣き低地あり。米・麥等の
農産を始め林産・水産・畜産等を出し、
檜の特産あり。郡内には海岸に沿ふ高田
町・香々地町二町の外十四ヶ村を含む。
人口密度は高田町は六五二人の多きを算
するも平均密度は一七〇人なり。海岸に
沿ひて縣道走り中部には西部高田町より

ニシク——ニシク

兩子山を越えて東に走るものあり。南部
桂川に沿ひて高田町より延びるものは杵
築町に出づ。社線宇佐參宮鐵道は高田町
より宇佐郡に入りて省線日豊本線に連絡
す。明治十三年國東郡を東西二郡に分ち
て新置す。
ニシクビキ 西頸城郡 新海縣越
後國の西北端。西北は日本海に面し、西
南は飛騨山脈を境に富山縣下新川郡に、
南は長野縣北安曇郡に、東は妙高火山群
の一部を以て中頸城郡に界す。面積八一
四・七一平方軒。東西を富士・御岳兩火山
帯に挟まれ、略中央を北流する姫川の谷
は我が國東西を分つ大地帯の北端に當
り兩山系を明瞭に分つ。富士火山脈中に
ては東南隅の打山(二四六二米)・燒山(二
四〇〇米)等著しく、御岳火山脈中にて
は乗鞍岳(二四三七米)・小連華山(二七六
九米)・雲倉嶽(二六一一米)等あり。其他
郡内山岳重疊し何れも壯年期の嚴しき山
容を呈し、北は日本海に斷絶し富山縣界
に近く親不知の險崖をなす。河川は姫川
を初め早川・能生川・名立川等いづれも南
部山地に發し溪谷・急流をなして海に注
ぐ。下流僅かに平地開け、田畑作らる。
米・麥を主産とし藪を副産とす。南部山
村は概ね林業に従ひ、姫川・早川等の上
流には發電所あり温泉も湧出す。又海岸
に沿ふ青海・糸魚川・能生・名立各町は
いづれも漁村として榮え、往時は北陸道
主要の宿場なりき。北陸道及び省線北陸

線は海沿に並行し名立・市振間に數驛を
置く。糸魚川よりは姫川に沿ひ南へ大糸
北線通じ小湊驛まで開通し、大糸南北線
連絡の曉は信越を結ぶ主要なる一線とな
る所。松本街道は松本平への捷路なり。
郡は名立・能生・糸魚川・青海四町外十
六箇村を含む。明治十三年頸城郡を東・
中・西の三郡に分ちて新置す。
ニシクホ 西久保 豊前線の一驛(大
正十四年設置)。樺太豊原市にあり。
ニシクマネシリ 西クマネシリ
岳 石狩岳(一九八〇米)の東方、音更
川上流中ノ川を距て對峙する群峰の
一。標高一六三八米。東斜面は北海道十
勝支廳中川郡本別町に、西斜面は河東郡
音更村に屬す。北東にクマネシリ岳(一
五八六米)・北西にヒリベツ岳(一六〇二
米)連り、南麓に南クマネシリ岳(一五
六〇米)續く。石狩岳とは北西方三國山
(二五四一米)を経て弧狀に山稜繋がる。
東方一帯は利別川の上源地たり。いま大
雪山國立公園に編入せられ、その東端を
なす。
ニシクリス 西栗栖村 兵庫縣播
磨國井保郡の西北部。龍野町の西北約四
軒にあり、西北は佐用郡三日月町に隣接
し、北は赤松郡に、南は赤穂郡に界す。村
内約四一五百米の山地丘陵起伏し西南境
には三濃山あり。北部中央に僅かに谷あ
りて井保川支流の細流ここを南流して村
を流し中部にて東南へ流れて東栗栖村に

ニシク——ニシク

入る。農業を主とし米・根菜・小麥等の
外、の産多く、其他蔬菜・花卉・食用農
産・果實・鶏卵・蠶製品等あり。中央を
出雲街道東南より西北に横斷し省線姫新
線同じく此地を通過して西栗栖驛(昭和
九年設置)あり。この地は和名抄、排保
郡栗栖郷の内なり。〔河内神社〕大字牧
に鎮座。祭神、應神天皇・天津兒屋
根命。天安三年豊前國守佐宮より勸請せ
るに創まるといふ。往昔、栗栖庄二十四
ヶ村の産土神たり。例祭、十月八日。
ニシクレハ 西吳羽村 富山縣越
中國婦負郡の北部。富山市の西方約二
軒。吳羽山丘陵の西北麓を占め、西は射
水郡に界す。射水平野の一部分に當り土
地平坦肥沃にして水田多し。南東の傾斜
地には茶畑あり。米・茶・繭等の農産物多
く、また織物工場ありて綿織物(年額一五
〇萬圓)を産す。北部を省線北陸本線東
西に走り吳羽驛(明治四十一年設置)を置
く。國道は中部を横切り富山市へパスの
便あり。この地は和名抄、婦負郡日理郷
の内なるべく、中世は五福庄或は御服庄
と稱せられし地なり。明治十一年、明治
天皇、北陸東海御巡幸の時、此地に御小
休あらせられ、いま明治天皇中茶屋御小
休所として史蹟に指定さる。
ニシクロータ 西黒田村 滋賀縣近
江國坂田郡の中部。長濱町の東南方約三
軒。東半は二〇〇米前後の丘陵連互し西
半は近江平野の一部に屬し水田拓く。農

ニシク——ニシク

業を主とし米を主産に、蔬菜・茶種・麥等
を出し養蠶を副産とす。南北・東西に貫
通する縣道ありて長濱町へパスを通ず。
省線北陸本線田村驛まで二軒余を隔つ。
東黒田村と共に中世、黒田莊と稱されし
處。〔名超寺〕大字名越にあり。天台
宗。惠光山常喜院と號し、當國成善提院
末。僧三條の開基に係り、其法弟超修
業の遺場たりといふ。寺傳に後鳥羽上皇
竊に當寺に行幸あり時の住僧禪行に北條
氏誅伐の報策を告げ給ひ、鍛冶工を召し
て刀劍を造らしめ給ふ。禪行四方に奔走
し勤王の士を糾集す。既にして北條氏大
舉して京師を犯し官軍大いに敗る。後村
上天皇正平六年詔して勅願所とせらる。
應永二十四年後小松天皇勅して鳥羽殿を
造營せられ寺領を賜ふ。のち兵火に罹り
て炎上せしが、豊臣秀吉長濱城に入るに
及びて鳥羽殿を再建す。
ニシクロー 西黒部村 三重縣伊
勢國飯南郡の東北部。桶田川河口に跨り
北は伊勢海に臨む。西南約一軒を距てて
松阪市なり。地勢平坦にして桶田川は東
南方より來りて西北へ村を横切りて流れ
河口、伊勢海岸に砂洲多く發達す。農業
を主産とし米・麥・繭の産を主とし海
苔の特産あり。松阪市市街地は西南約四
軒にしてパスの便あり。〔意非多神社〕
大字西黒部に鎮座。祭神、伊弉志
都幣命・豐受姬命・事代主命等八柱。延
喜の制、國幣の小社に列す。例祭、四月

ニシク——ニシク

十一日。
ニシクワナ 西桑名 三重縣
桑名郡にありし町。昭和十二年三月桑名
市に編入す。
ニシクンマ 西群馬(郡) 上野國
(群馬縣)の舊郡名。明治十三年群馬郡
を東西二郡として新置せしが、明治二十
九年一箇村を吾妻縣に割き、他は片岡郡
と共に群馬郡となりて今日に至る。
ニシクロー 西郷 山形縣
【西郷村】 山形縣羽前國北村山郡の中
部。東南は楢岡町に接す。村の中央部に
は低き丘陵南北に連り、東南部及南部に
平地あり。最上川は西境を先行しつゝ北
流す。最上川舟行の難所をなす。主産業
は農にして米・繭を産す。道路は南部を
東西に通じ、西方奥羽本線楢岡驛へは自
動車の便あり。
【西郷村】 山形縣羽前國南村山郡の西南
部。東北は上山町、西は東置賜郡に隣接
す。北に三方山、南に小湯山ありて、東
方に傾斜す。東部は山形盆地の一部をな
して平坦なり。宮川の一支流村の中北部
を東流す。米・繭を産し、干柿の特産あ
り。道路は中北部を略東西に通じ、東北
方上山町、西南方東置賜郡赤湯町へはパ
スの便あり。これに並行して省線奥羽本
線通す。
【西郷村】 山形縣羽前國西田川郡の北部。
鶴岡市の西北方約七軒。西南は加茂町、
南は大山町に接す。村の西部は日本海岸

ニシク——ニシク

の砂丘南北に連りて高く、東部は庄内平
野に屬して平坦なり。大山川は東境を北
流す。主産業は農にして米・繭を産す。
道路は中部を南北に通じ、南方羽越本線
羽前大山驛へは自動車便あり。庄内電
鐵線善寶寺驛(昭和四年設置)を置く。此
此地の青龍寺川の一支出る安川附近は、
天正年中最上義光と本庄越前守重長の戦
ひし所とす。〔相尾神社〕大字馬町に鎮
座。祭神、龍田彦大神・龍田姫大
神外四神。古く大祭には國主親奉幣、
出羽國式内九座神をも臨時に奉請し、羽
州一箇國の總祭を執行せらる。例祭五月
十五日。〔善寶寺〕大字下川にあり。曹
洞宗。龍深山と號し總持寺末。縣内有數
の名刹にして三州豊川妙嚴寺・相州小田
原最乘寺と共に曹洞宗三新禪所と稱せら
る。天慶・天曆の頃、羽州田川郡黄金邑の
妙達、一字を創して龍華寺と稱せしに始
る。天明六年有栖川宮當寺を水く新禪所
と定められ、文化二年善寶寺の扁額を下
賜せらる。爾來堂上貴尊の崇敬厚し。古
來海上安穩、大漁満足の祈願札を授け靈
驗著しといふ。
【西郷村】 福島縣磐城國西白河郡の西
部。白河町の西に隣り、北は岩瀬郡、西
は南會津郡、南は栃木縣に隣接す。面積
一九四・二六方軒の大村。奥羽山脈の東
斜面に屬し、西境に北より、大白森山(一
六五六米)・旭嶽(一八三五米)・三本槍嶽
(一九一五米)あり、東方に傾斜し、阿武

限川は西部山地に發源し諸支流を合せて東流す。南部を東流する谷津田川は東境に於て阿武隈川に合す。村の東部河川の沿岸には耕地拓け米・麥・藁等を産す。中部原野には牧場多く分布し、馬を産す。村の南東部に軍馬補充部白河支部あり。陸羽街道は村の東南端を東北に通じ東方白河町へはバスの便あり。人口密度は一方村につき三八人なり。村内より俗に白河石と稱する岩石を採取す。灰白色の輝石安山岩にして土木建築用材として關東各地に移出す。この地は戊辰の役に會津藩軍の總督西郷頼母奮戦の地なり。村内甲子山の中腹に甲子温泉あり。泉質は鹽類泉。

【西郷】愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村及び千秋村を廢し新に千郷村を置く。

ニシコ——ニシコ 西合志村 熊本市の北境より北へ約三軒を隔つ。西北は鹿本郡に接し南及び西南は鹿本郡に界す。阿蘇山西麓黒石臺地の一部を占め概して地形平坦にして西部に低き辨天山(一四六米)あり。北部には稍々低地あり。低地は田畑拓け農産を主とし外に畜産・工業・林産あり。東部には熊本市より東北方限府町へ通ずる縣道走り其他東西・南北に道路多く走りバス到る所通ぜざるはなく、省線鹿島線横木驛(西方約五軒)へもバスの便あり。この地は和名抄、山本郡殖生

郷の地なるべく、いま村内に農林省種鶏場肥後種雞場あり。村内の鳥栖原は建武三年官軍たる菊池氏の兵と賊軍に與する合志・託磨・小代等の諸氏と戦ひしところとす。

ニシコ——ニシコ 西江州 瀧野湖の西をいふ。京都より若狭・越前に至る道路に通過す。

ニシコ——ニシコ 西興除 岡山縣兒島郡にありし村。明治三十八年東興除村と合併して興除村を建つ。

ニシコ——ニシコ 西高津 大阪府東成郡にありし村。明治三十年大阪府東區に編入す。

ニシコ——ニシコ 西甲良村 滋賀縣近江國犬上郡の西部。彦根市の南方約三軒にして高宮町の南に隣る。地形低平にして鈴鹿山脈より流下し来る犬上川北境を西北流す。米・糠肥用作物・麥・藁・桑葉・茶種・茶等を産す。縣道中央を横斷して西方中山道に通じ西部には社線近江鐵道走りて尼子驛あり。この地は和名抄、犬上郡尼子郷にして、大字尼子は郷名の遺稱なり。戰國時代の出雲の名族尼子氏發祥の地なり。始祖を高久といひ、宇多源氏佐々木京極氏の一流なり。高久の子持久、出雲の守護京極持清の守護代として出雲に赴き、子孫山陰に勢力を振ひしも天正中毛利氏に滅せられ、「甲良村社」大字尼子に遷座。惣社。主祭神、武内宿

禰。相殿神四柱外に合祀五柱。治暦年間(甲良庄の總社に定められ、元祿十四年八月松宮大明神の宣旨を賜ふ。明治五年に現社號に改稱す。社殿中、權殿は室町末期の建築にて現に國寶なり。例祭、四月十六日。〔桂城神社〕大字下之郷に鎮座。惣社。祭神、少彦名命・國常立神外四神。後冷泉天皇の治暦三年佐々木兵部大輔義經の臣、犬上大和介政誠の創建に係る。例祭、四月十六日。

ニシコ——ニシコ 錦織村 宮城縣陳前國登米郡の北部。米谷町の西北に隣り北は岩手縣に接す。東北境に高城山(二九六米)、東境に八森山(三〇二米)あり。何れも西方に傾斜し、北上川は村の西境及南境をなして南流す。西部及南部に耕地拓け、米・藁・麥を産す。西郷街道は南部を東西に通じ、西方仙北鐵道石森驛、南方米谷驛へは各自自動車を通ず。この地は近世大内氏の藩邑なり。

ニシコ——ニシコ 西郡村 大阪府河内國中河内郡の中部。布施市の東に隣り地形平坦にして小河西を南流す。米・蔬菜等の農産多く畜産・工業あり。下駄鼻緒は本村の重要な産物にして其額首位にあり。中部に河内街道南北に貫き東方奈良縣へ至る街道もありて交通至便なり。この地は和名抄、若江郡錦部郷の内なり。大字北辻に木村重成の墓あり、里人無念塚と云ひ、約五米半四方の石垣を築らす。

ニシコ——ニシコ 西五位村 富山縣越中國西礪波郡の北部。小矢部川の左岸にあり、河を隔て、東南は福岡町に對す。西北部に二百米前後の丘陵を負ひ東南部に平地開く。平地は灌溉の便よく水田多し。農業を主生業とし米を主産とす。小矢部川に沿ひ一條の里道あり、省線北陸本線福岡驛へ一軒餘、交通比較的便なり。この地は和名抄、礪波郡意志郷の内にして、中世は五位庄と稱せし地なり。また源平盛衰記に越中國住人向田寛次郎とあるは大字向田の人か。

ニシコ——ニシコ 西古志(郡) 越後國(新潟縣)三島郡の古稱。いまの三島郡は往昔の三島郡の地に非ずして古志郡の西部の地なり。よりて私にこれを西古志郡と稱し、戰國の頃よりまた山東郡と稱す。近世に至り寛文の頃山東を三島に改めし、地城は三島郡の舊地にあらず。

ニシコ——ニシコ 西越村 新潟縣越後國三島郡の西部。南は刈羽郡に界し、西南は刈羽郡石地町、西は出雲崎町を隔て、日本海に接す。西山丘陵の略中部にて南境は島崎川と別山川との分水界をなす。東と西に二三百米の丘陵連なり、略中央を北流する島崎川の細長き谷を挟む。低地には田畑拓け、米を主産とし次で養蠶行はる。中部低地を南北に貫通する縣道及び省線越後線あり出雲崎驛(大正元年

と註す。延喜式兵部省式に信濃國諸縣群々馬十五疋と見ゆるも、本郷の中なるべし。錦部郷は東筑摩郡の北部刈谷原郷・稻倉郷・保福寺郷・立時を以て圍みたる小盆地にして、いま錦部村・會田村の邊に當る。錦織驛址は蓋し錦部村の大字七嵐、赤怒田の邊ならん。

設置)を置く。其他東西に發條の道路貫走し、海岸に沿ひ舊北陸道と信濃川流域とな結び出雲崎・與板間バスの便あり。この地は近世、西越庄と稱せし地なり。本村は西山油田地域の内にして所々に鐵區あり、其内の重なるものは左の通りなるが、中にも別山嶺山は重要鐵山にして尼瀨鐵山は準重要鐵山とす(何れも各項参照)。

- 鐵山名 鐵區所在町村
相田 西越村
尼瀨 刈羽郡石地町
出雲崎 西越村・出雲崎町
稻倉 西越村
小倉別山 西越村・刈羽郡内郷村
勝見 同石地町
草生水 西越村・出雲崎町
郷木 西越村・大津村
常樂寺 西越村
田中 西越村・刈羽郡内郷村
堂山 西越村
永山 西越村・大津村
別山 西越村・刈羽郡内郷村
ニシコバヤシ 西小林 省線吉都線の一驛(昭和四年設置)。宮崎縣西諸縣郡小林町にあり。
ニシコリ 錦部

ニシコ——ニシサ

境を東北流す。農産物多く工業・畜産・木産・林産あり。東部には東高野街道南下し西方を東南走する西高野街道と南方二軒の長野町にて合す。本村南部には兩街道を結ぶものあり。電車線は東部に社線大阪鐵道、西部に社線南海鐵道、それら南走して後者に澁谷驛(明治三十一年設置)を置く。この地は和名抄、錦部郡新居郷の内なるべく、中世、石川源氏の一族、錦織氏あり、此處に居住せしものなるべし。〔石凝寺〕昔、本村にありし寺。僧行基が嘗て修行せし處。光仁天皇寶龜四年寺田を施入し給ひし事あり。今は廢寺。河内志二「古蹟。廢石凝寺、在錦部村」

【錦織】美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に久米郡錦織郷あり。その地今の久米郡三保村・打穴村の邊に當る。

産し、養蠶も行はる。海岸は大部分磯濱をなすも、南部の太平洋岸の東部は平砂浦の一部にて、單調なる砂濱をなす。西端の突出部たる洲崎は展望廣く、燈臺あり。館山北條町に縣道を通じ、省管自動車西陣線通ず。この地は和名抄、安房郡鹽海郷の地にして、大字鹽見は郷の遺稱なり、大字洲崎は海を隔てて神奈川縣三浦郡三崎と相對し、東京灣の門戸をなす。文化五年、この地及び大房村に砲臺を設け、外夷の侵入に備ふ。文政四年、これを取り拂ひ今は全く廢墟となる。〔洲崎神社〕大字洲崎に鎮座。祭神、天比乃理刀咩命。社傳によれば神武天皇御宇に天富命、其の御母天比乃理刀咩命を祀り給ひしを以て創建とす。爾來、源賴朝・里見氏・徳川氏等の崇敬厚く各々社領を寄す。なほ當社は當郡洲宮神社と共に式内社なることを主張して譲らず、明治六年に至り當社を以て式内后神天比乃理刀咩命神社と定めらる。例祭、八月二十一日。

- ニシサキ 西崎 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を廢し寺津町を置く。
ニシサクラジマ 西櫻島村 鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡、櫻島の西北部を占む。櫻島火山山頂を以て東櫻島村と接し、北部より西部は鹿兒島灣に臨み西方に鹿兒島市を望む。東南隅に主峰御岳(一一一八米)・南岳(一〇六〇米)聳えて南岳

は噴煙をばき浅き放射谷をつくりて四周へ傾斜す。極めて急峻なる活火山なり。西部には熔岩が火山中腹より山麓一帯を埋め方崎・北寅崎・南寅崎が海上に突出す。其他の海岸は東北部の割石崎を除き概して單調なり。産物は農産物を主とし徑一尺に余る櫻島大根・甘蔗・さつまいも・蔬菜(南瓜・わらび)等あり、又「島みかん」ありて實は小さきも素晴らしい風味。果實も蔬菜も熔岩流の風化地に適す。これ等は皆對岸鹿兒島に供給して生計を立つ。縣道海岸を廻り鹿兒島市よりは定期連絡船かよふ。この地は和名抄、大隅國嶺南志摩郡に屬す。中世郡界混亂して其所管を失ひ、一時向島と稱し、後再び大隅國に屬するに至る。近年北大隅郡の稱ありしが、明治二十九年薩摩國鹿兒島郡の管下となる。「月讀神社」大字赤水に鎮座。縣社。祭神、月讀命・通々杵尊・彦火・出見尊・豊玉彦命・鶴草尊不合尊。五神を祀れるより五社明神と舊稱せられ、領主島津氏の崇敬社として聞えしも、その創建年代を詳かにせず。例祭、十月二十九日。

本公に出づ。中央を東西に縣道走り西方約三軒の社線近江鐵道櫻川驛へバスを通す。明治二十七年櫻谷村を東西二村に分けて置けるもの。「法光寺」大字北脇にあり。曹洞宗。佛徳山。天平寶字六年稻置三磨の開創に係ると傳へ、はじめて天台宗を奉ず。本尊薬師如来立像(木造)一軀は國寶。

【西里村】 山形縣羽前國西村山部の東北部。谷地町の西に接し、寒河江町の北方約五軒。西北境は海拔五三六米にして東南方に傾斜し、村の西北半部は山地をなすも東南半部は山形盆地に屬して平坦なり。最上川の一支流中部を東流す。米・蕎麥・草履を産す。道路は中南部を略東西に通じ、東方の谷地軌道の各地驛、及び南方の左澤線寒河江驛へは各バスの便あり。此邊はもと湖にして本村はその湖の西端に位せしが故に西ノ里といひ、今の村名を生むに至るといふ。

村・寺迫村・五町村を合して本村を置く。〔釜尾古墳〕指定史蹟。大字釜尾の丘陵端に築かれし圓形墳にして、今墳上に石室保護の目的を以て瓦葺の覆屋設けらる。羨道は狭長にして長さ四米餘、玄室は長さ幅共約三米にて、高さは現存部約三米、四壁は板狀安山岩の小割片を積みて構築せらる。下底より約一・八米の高さまでを朱塗とし、之より上部は白色顏料を以て塗り別く。板石・障屏蓋・欄石等の表面に何れも朱・白・藍の三色の顏料を以て紋様の圓彩色せらる。出土遺物としては管玉・齋瓮・埴土器破片・甲冑及太刀・劍・鐵斧・鞍金具の殘缺等あり。

【西里村】 山形縣羽前國西村山部の東北部。谷地町の西に接し、寒河江町の北方約五軒。西北境は海拔五三六米にして東南方に傾斜し、村の西北半部は山地をなすも東南半部は山形盆地に屬して平坦なり。最上川の一支流中部を東流す。米・蕎麥・草履を産す。道路は中南部を略東西に通じ、東方の谷地軌道の各地驛、及び南方の左澤線寒河江驛へは各バスの便あり。此邊はもと湖にして本村はその湖の西端に位せしが故に西ノ里といひ、今の村名を生むに至るといふ。

【伊太祁曾神社】 大字伊太祁曾に鎮座。官幣中社。祭神、大屋毘古命。紀伊國造の祀れる神にして、續日本紀・大寶二年二月己未の條に「遷伊太祁曾大屋津比賣都麻都姫三神社」とあれば、往古は大屋都比賣神社(いま富田川永村鎮座)及び都麻都比賣神社(いま富田川永村鎮座)の二神と共に合祀されたるを後各地に分祀されしならん。寛永記に和銅六年十月の遷座とあるは、大寶二年官命ありて修造の工竣りて遷座の儀整ひたる年を云ふなるべし。延喜八年二月、正四位上に昇陞し、名神大社に列す。例祭、十月十五日。

【西志】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年本村及び東志村・福米村を合併して高城村を建つ。

【西志】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年本村及び東志村・福米村を合併して高城村を建つ。

【西志】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年本村及び東志村・福米村を合併して高城村を建つ。

【西志】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年本村及び東志村・福米村を合併して高城村を建つ。

座。總社。祭神、素戔嗚尊外二神。白鳳元年出雲大社の分靈を勧請して創祀。武内社。古くより本村の産土神たり。例祭九月二十五日。「前山寺」大字前山にあり。新義眞言宗智山派。獨鈷山。弘仁年中の創建にして初め法藏院と稱す。應永年中長秀法印の再興。時に信州四箇談林の首位たりき。武田氏の歸依厚く寺領十貫四百九十文の寄進あり。當時寺運隆盛にして末寺四十餘箇寺を有せしが、いまは衰微す。國寶、三重塔。「中禪寺」大字前山にあり。新義眞言宗智山派。龍王山。天長年中空海請雨の法を修せし靈蹟に就きて開創せりと傳ふ。永享・寛文の兩度炎上せしが再建せらる。國寶、薬師堂本尊薬師如来坐像(木造)・神將立像一軀(木造)。

【西志方村】 兵庫縣播磨國印南郡の西北部。西隅は姫路市東境との間に四軒餘を距て西北は神崎郡に界す。西部・北部は三〇〇米程度の山地をなし、東南部に廣潤な低地開く。米・裸麥・小麦・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵等を産し工業亦盛にして産額最も多く双物・薬製品等を出し外に畜産・水産養殖等あり。中央を縣道東西に走り西は姫路市へ通じ東は美濃郡三木町方面へ至り、バス往來す。志方村・東志方村と共に中世、志方莊と汎稱せし處。「長樂寺」大字水室にあり。淨土宗西山派。治承二年僧慈心の開基に係り、もと眞言宗たり。

【西志方村】 兵庫縣播磨國印南郡の西北部。西隅は姫路市東境との間に四軒餘を距て西北は神崎郡に界す。西部・北部は三〇〇米程度の山地をなし、東南部に廣潤な低地開く。米・裸麥・小麦・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵等を産し工業亦盛にして産額最も多く双物・薬製品等を出し外に畜産・水産養殖等あり。中央を縣道東西に走り西は姫路市へ通じ東は美濃郡三木町方面へ至り、バス往來す。志方村・東志方村と共に中世、志方莊と汎稱せし處。「長樂寺」大字水室にあり。淨土宗西山派。治承二年僧慈心の開基に係り、もと眞言宗たり。

【西志方村】 兵庫縣播磨國印南郡の西北部。西隅は姫路市東境との間に四軒餘を距て西北は神崎郡に界す。西部・北部は三〇〇米程度の山地をなし、東南部に廣潤な低地開く。米・裸麥・小麦・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵等を産し工業亦盛にして産額最も多く双物・薬製品等を出し外に畜産・水産養殖等あり。中央を縣道東西に走り西は姫路市へ通じ東は美濃郡三木町方面へ至り、バス往來す。志方村・東志方村と共に中世、志方莊と汎稱せし處。「長樂寺」大字水室にあり。淨土宗西山派。治承二年僧慈心の開基に係り、もと眞言宗たり。

名は隣村剣熊村を巴庄と稱し、本村はその西にあるより西庄と名付けしもの。〔榮照寺〕大字下開田にあり。眞宗大谷派。有乳山。寺傳に延暦二年最澄の開創に係る。親鸞流講の際當寺に滞在し、出旅に臨みて「越路なるあうちの山にゆきつかれ、足も血汐に染むるばかりそ」の一首を遺す。〔藥師堂〕大字開田にあり。淨土宗。村内稱念寺所屬。國寶、藥師如來立像(木造、背面に佛師僧源僧光仁沙彌妙源延久六年八月二十五日云々の銘あり。高さ七尺一寸)。

ニシシヨ

【西條】富山縣射水郡にありし村。昭和三年高岡市に編入さる。【西條村】長野縣信濃國埴科郡の東北部。松代町の東南に接し、南は高遠山(一二〇五米)を以て小縣郡に界す。地勢南より北に傾斜せる丘陵性にて北隅に僅に平地あり。養蠶を主生業とし米・麥の産も多少あり。また松代町に接続し製絲業盛なり。社線長野電鐵松代驛へ約二軒バス通じ、また南部を東西に走る縣道あり屋代町に通ず。この地は和名抄、埴科郡大穴郡の内にして、村内の西條山の古城は竹山とも稱し、永祿四年上杉謙信の陣せし所。また養蠶・製絲業に努力し松代製絲の名を以て世界的ならしめし大黒忠一郎(贈從五位)は本村の出身者なり。〔白鳥神社〕縣社。祭神、日本武尊・貞元親王・眞保親王・滋野信之。承應二年(一六二一)創立。

ニシシヨナイ

西庄内村 北は遠見郡由布院村に接す。北境に城ヶ岳(一六八米)・雨乞嶽(一〇七四米)峯え、南方に裾野を引く。南境を大分川東流し、緩傾斜地は耕地よく開け、米・麥等の産多し養蠶も行はれ、また村内に竹林多し竹細工・箱を特産す。縣道は大分川に沿うて東西に走りバスを通じ、省線久大本線は庄内驛(大正十二年設置)を置き交通便なり。この地は和名抄、大分郡阿南郡の内にして大字高岡は大分より玖珠に赴く驛路あり。〔高岡神社〕大字高岡に鎮座。祭神、天御中主命・菅原道真外三神。成務天皇の朝、天穗日命影向あり、時に山頂、光輝天に沖し山谷震動す。村民驚愕し、依りて二月十三日を以て祭祀の禮を執行す。これ本社之濫觴たり。例祭、三月二十三日。

ニシシラカワ

西白川村 岐阜縣美濃國加茂郡の西北部。木曾川の支流飛騨川の左岸。武儀郡金山町の東南對岸にあり、西北の一部は飛騨國益田郡に、西は飛騨川を隔てて武儀郡に界す。村内八〇〇米前後の山地起伏し概して高原性なり。飛騨川は西境を曲流しつつ南下し、東より來り村内を貫流する白川及び南より來る赤川を西南部に合流す。聚落は之等河岸に多く、農・蠶・林業を主生業とし、茶の産地として著はれ繭・木材の産多し。西部河岸を省線高山本線貫通し、下油井驛(昭和三年設置)を置く。縣道は白川の谷に沿ひ東南部を走り、白川街道の一部をなす。〔白山神社〕大字水戸野に鎮座。祭神、菊理姫神。養老二年僧泰澄、當國武儀郡桐洞山宇水品山より勸誘鎮祭せしに創ると傳ふ。古來佐見川川並の總鎮守と崇められ、其氏子三十六箇村に跨れりといふ。神位、寶延元年正一位。現に西白川・佐見二村の産土神たり。例祭、三月二十一日・十一月二十三日。

ニシシラカワ

西白河郡 福島縣磐城國の西南部。東は東白川郡、

ニシシレトコ

西知床郡 中知床郡・東知床郡を以て、中知床郡に編入さる。【西志和村】廣島縣安藝國加茂郡の西北部。廣島市の東北方約一〇軒に位し北は高田郡に西北は安佐郡に南は安藝郡に界す。西北部及び東南部は山地をなし中央に低地あり。即ち西北境には高鉢山(七〇六米)そびえ東北へ山嶺連りて北境には安田山(七三三米)聳立す。東南部は略四一五米の丘陵地をなす。その間は東北より西南に連れる低地にして三篠川支流東北流す。農産・工業・林産・畜産あり。縣道は中央低地を横斷し東南部には山陽道及び省線山陽本線掠めてすぎ八本松驛は東南約二軒なり。此地は和名抄、賀茂郡志芳郷の西部に當る。

ニシシ

西新 福岡縣早良郡にありし町。大正十一年福岡市に編入さる。【西陣】京都府(二一九四頁)

ニシシタチ

西信達村 大阪府和泉國泉南郡の西部。大阪平野の南部に位し、櫻井川の河口を占めて大阪灣に臨む。東北は田尻村を隔てて佐野町なり。面積二・四二方軒の小村。全村、地形低平にして櫻井川東境を西北流す。海岸は遠淺なり。農産・水産あり。人口密度一、六七六人(昭和十年)を算す。海岸に縣道走り、社線南海電車通じて岡田浦驛(大正四年設置)あり。この地は中世の信達莊の西部に當る。

ニシシ

伊豆守信之の勸誘と傳ふ。貞元・眞保兩親王は眞田家の義祖たれば眞田家累代の崇敬殊に厚し。舊社領百石を有せり。例祭、十月三日。〔清水寺〕新義眞言宗智山派。阿彌陀山護國院清水寺と號し、俗に信濃清水又は保科觀音堂と稱す。天平十四年僧行基の草創に係り、のち坂上田村麿堂宇を營むといふ。足利氏の時三重塔及び堂舎三十三坊を建立、寺觀隆盛たりしといふも、今は舊觀を失ふ。國寶に兩界曼荼羅二幅(絹本・繪)・鐵製銀形一箇・聖觀音立像(木造)一軀・千手觀音及び脇侍地藏菩薩像(木造)二軀・阿彌陀如來坐像(木造)一軀等あり。【西條】長野縣東筑摩郡本城村の大字。篠ノ井線の西條驛(明治三十三年設置)を置く。

ニシシ

西津 福井縣越前郡にありし村。昭和十年小濱町に編入さる。【西スガモ】西巢鴨 東京府北豐島郡にありし町。昭和七年東京市に入り本町外三町と共に豊島區を建つ。【西スサ】西須佐村 島根縣出雲國飯石郡の西北部。東は東須佐村に隣り、西は飯川郡窪田・山口二村に接す。東西約三軒、南北約一〇軒に互る細長き形をなす。西境に高度四百米餘の山嶺連り、その北部に三子山(四八九米)聳立し、東境にも四百乃至五百米の山嶺南北に走り北境に黒山(五二五米)あり。北部を神戸川は曲流をなして北に流れ、中部南北に狭長なる谷底あり、米・繭の外に木材・木炭を出す。街道は中部通谷に沿うて南北に走るも交通便ならず。この地は和名抄、飯石郡須佐郷の内なり。明治二十九年須佐村より分離獨立す。

ニシスタ

西角田村 福岡縣豊前國築上郡の中部。國見山の東北斜面を占めて、東北部は周防灘に臨み、北は椎田町に隣る。西南隅に國見山(六三八米)聳えて東北方へ緩かに傾斜し東北部沿岸に低地を有す。米・麥・甘藷等の農産物及び蟹・コノシロ等の水産物を出す。海岸に日向街道通じてバス往來し、省線日豊本線同じく此地を過ぎて椎田驛へは北約二軒、松江驛へは東方約二軒を隔つ。此地は和名抄、築城郡大野郷の内なるべく、中世は角田庄と稱せし地なり。

ニシシ

岡に鎮座。郷社。祭神、天御中主命・菅原道真外三神。成務天皇の朝、天穗日命影向あり、時に山頂、光輝天に沖し山谷震動す。村民驚愕し、依りて二月十三日を以て祭祀の禮を執行す。これ本社之濫觴たり。例祭、三月二十三日。

ニシシ

西隅 島根縣那賀郡にありし村。昭和二年に三隅村と合併して三隅町を建つ。【西瀬村】熊本縣肥後國球磨郡の西南部。人吉町の西南約一軒、南は鹿兒島縣伊佐郡大日村・山野村に接す。村内に九州山地に屬する山嶺聳立し、南部に宮ノ尾山(八七七米)・國見山・鉾立山(七六一米)・木浦山あり、北方末端に近く西浦山(五九〇米)聳ゆ。北部を球磨川西北方に流れ、流域に沖積地を形成し人吉盆地の一部をなす。なほ球磨川沿岸に相良温泉あり。米・麥を産し繭の産も多し、畜産・林産も少からず。村内より珪藻土を産す。縣道は、球磨川の北岸東西に及び東部をほぼ南北に走り人吉町にバスを通じ、省線肥後線また北部を東西に貫通し、人吉驛に近し。この地は和名抄、球磨郡人吉郷の内なり。村内に鹿目八重瀧(高さ五五米、幅一米)あり。〔相良温泉〕泉質、弱アルカリ泉、療養向。球磨川畔景勝の地、舊藩主相良氏の下屋敷跡にあり、創設日向ほほ湯も豊富なる湯あり。

ニシシ

西總社 省線伯備線及び社線中國鐵道の一驛(大正十四年設置)。岡山縣吉備郡總社町にあり。【西贈嶽】大隅國(鹿兒島縣)の古郡名。明治二十年四月贈嶽郡を東西二郡に分けて新設す。同三十年四月桑原・始良二郡と合併して始良郡を立て

ニシシ

石川郡、北は岩瀬郡、西は南會津郡、南は栃木縣に隣接す。面積五六〇・二九方軒。奥羽山脈の東斜面、阿武隈川左岸の地に於て、西境には北より大白森山(一六五六米)旭嶽(一八三五米)・三本槍山(一九一六米)ありて東に緩傾斜し、東部は臺地狀をなす。河川はこの臺地の間に各東流して沿岸に平野開く。阿武隈川は西境に發源し、西部山地より出づる谷津田川その他の支流を合し、郡の中部を東流し東部に於て流路を北に變じ東境をなして北流す。阿武隈川の北には泉川、南には社川、何れも並行して東流し阿武隈川に合す。白河町は郡の略中央部にありて阿武隈川に沿ひ、この地方の中心をなす。附近一帶の地は有名なる産馬地域にして、殊に白河町の西方奥羽山脈斜面の原野は縣下に名だたる放牧地をなし陸軍軍馬補充部白河支部を置く。郡の東部諸河川の沿岸には耕地拓け、米・繭等を産し又甘藷・蒟蒻等も栽培せらる。陸羽街道は郡の中部を西南より北東に通じ、白河町・矢吹町は此街道に沿ひ、此他に白河町より郡の中部を東方に向ふ道路あり。陸羽街道に略並行して東北本線通じ北より矢吹・泉崎・久田野・白河・白坂等の驛あり。社線白羽鐵道は白河町より東南に向ひ、白河・南湖・古關・金山・梁森等の驛あり。本郡は明治十三年白河郡を東白川・西白川の二郡に分けて置けるもの。

ニシシ

石川郡、北は岩瀬郡、西は南會津郡、南は栃木縣に隣接す。面積五六〇・二九方軒。奥羽山脈の東斜面、阿武隈川左岸の地に於て、西境には北より大白森山(一六五六米)旭嶽(一八三五米)・三本槍山(一九一六米)ありて東に緩傾斜し、東部は臺地狀をなす。河川はこの臺地の間に各東流して沿岸に平野開く。阿武隈川は西境に發源し、西部山地より出づる谷津田川その他の支流を合し、郡の中部を東流し東部に於て流路を北に變じ東境をなして北流す。阿武隈川の北には泉川、南には社川、何れも並行して東流し阿武隈川に合す。白河町は郡の略中央部にありて阿武隈川に沿ひ、この地方の中心をなす。附近一帶の地は有名なる産馬地域にして、殊に白河町の西方奥羽山脈斜面の原野は縣下に名だたる放牧地をなし陸軍軍馬補充部白河支部を置く。郡の東部諸河川の沿岸には耕地拓け、米・繭等を産し又甘藷・蒟蒻等も栽培せらる。陸羽街道は郡の中部を西南より北東に通じ、白河町・矢吹町は此街道に沿ひ、此他に白河町より郡の中部を東方に向ふ道路あり。陸羽街道に略並行して東北本線通じ北より矢吹・泉崎・久田野・白河・白坂等の驛あり。社線白羽鐵道は白河町より東南に向ひ、白河・南湖・古關・金山・梁森等の驛あり。本郡は明治十三年白河郡を東白川・西白川の二郡に分けて置けるもの。

ニシソトウミ

西外海村 愛媛縣伊豫國南宇和郡の西南隅。郡の西南に突出せる一牛島にして北の一面を除く外は四周海洋を圍らし附近に島嶼散在し東北約二軒には城邊町あり。北部は東北方城邊町附近より西方へ突出する細長き牛島の南半を占め、其中央より南方へ半島延び頸部は地峽部をなして東・西に灣あり。東面の灣は檜見鼻によりて南灣口を圍まれ灣頭に船越の鑛地あり。檜見鼻は南に突出する笠ハズシと共に一灣を抱き灣頭に福浦の鑛地あり。頸部西面の灣口の南を圍む岬は鹿島・瀬戸によりて鹿島に對し其西方に小横島・横島等浮ぶ。牛島の中央部には權現山・風山等聳え低地に乏し。福浦は風山の東麓に當り山脈圍繞するを以て各方の風を拒ぎ、四時平穩良好の避泊處なり。風山は頂上に樹林ありて晴天には遠距離より望見し得べく航海者の目標となる。水産多く鱈(三九二、二三八圓)・鱒(一四〇、〇六六圓)・鮪(二三、六四九圓)(以上昭和十一年度分)等多く鹽干鱈・煮干鱈・鱈節の特産ありまた繭・麥も産す。城邊町方面へ縣道・バス通じ海上は深浦を経て高知・宇和島に日々汽船便あり。

ニシソノキ

西彼杵郡 長崎縣(肥前國)九郡の一。野母半島と西彼杵半島とを含み、西北方海上に浮ぶ島嶼をも含む。西北方に西彼杵半島細長く突出し東

に大村灣を圍み其尖端は佐世保市に迫りて大村灣口は狭き伊ノ浦瀬戸となる。南部に西南方へ突出せし野母半島は頸部西岸に長崎市を抱きて野母崎に盡き、東は千々石灣に臨む。郡内殆ど山地にて西彼半島には虚空藏山・小松嶽・藤ノ平山・飯盛山・三方山・大山・岩屋山・天笠岳等北より南に並び野母半島には戸町岳・熊ヶ峰・八郎岳等並び山地は海に迫りて海岸風曲に富み、西彼半島東岸には集積ノ浦・川内浦・形上浦・時津港・長嶼浦等あり。其西岸には高港・三重浦等ありて概ね各々好儲地をなし野母半島尖端には野母灣北方より灣入し千々石灣岸には茂木港を有す。海上には大小無数の小島嶼散在し西北部には大島・鵜ノ浦島・寺島・松島・福島・池島・大島等横ばり其遙か西方には大立島、其西に江ノ島、更に西方に平島浮びて平島の西は相崎瀬戸を隔てて南松浦郡五島列島中通島に對す。南部の野母半島西方海上には長崎灣口を占むる薩ノ尾島・香燒島・伊玉島・沖ノ島等、其他無数の島嶼散在し僅か西南に高島あり。野母崎尖端の南方に樺島横ばる。千々石灣奥には牧島あり。郡内平地乏しきも低地は米を産し斜面耕地に麥・甘藷・粟等を作り海岸は水産業盛にして漁民は五島列島・朝鮮近海・南洋近海にも出漁するものあり。沿岸の島々の中、松島・野母島・高島等は炭坑にて名高く其他にも郡内石炭の産多し。郡内茂木

町・崎戸町・瀬戸町の三町外四十箇村を含む。人口割合に稠密にて密度の郡内平均は二六四人にて、高島村の如きは四九四六人に及び外に一〇〇〇人を越ゆるもの四ヶ村あり。最小は雲浦村の七二人なり。長崎街道東北方より來りて長崎市に終り之より縣道北へ走りて西彼半島の周圍を繞り、長崎市より野母半島尖端へ至る縣道もあり。長崎本線は北高來郡より來り東部を長崎市に達す。南部及び北部は要塞地帯に屬す。本郡は明治十三年彼村郡を東西二郡に分ちて置けるもの。ニシノヤマ 西襲山 鹿兒島縣 始良郡にありし村。昭和五年日當山村と改稱す。

ニシタ 西田

【西田村】 福井縣若狹國三方郡の西隅。三方湖に臨み西は若狹灣に面す。遠敷郡小濱町の東北九軒餘にして西南は遠敷郡に界す。南境には約四〇〇米の山脈が東北より西南へ更に西北方へと連りて村境を劃し、其東北部は三方湖南岸に終り西北部は若狹灣に半島狀に突出して岬をなす。中央には北山脈より丁字型に北方へ派出する支脈ありて東部の三方湖・水月湖と西部の若狹灣とを分ち、その北部に梅丈岳(三九五米)を起して水月湖の北を圍みて若狹灣を距て、それより西北方へ山地延びて屈曲多き細長半島をなし尖端を常神岬と云ふ。其西方海上に御神島浮ぶ。水月湖と三方湖は湖の東岸より西

方へ突出する砂嘴狀の小半島によりて距てらる。海岸は山地海に迫りて平地乏しく或は斷崖をなすところもあり。三方湖の西南岸に僅に平野あり。米・麥・蕎麥・水産・林産あり。省線小濱線三方驛へは東方約四軒にて湖上水運・海上舟運の便あれど陸上交通は便ならず。この地は和名抄、三方郡餘戸郷・彌美郷の内なるべし。明治四十年日井村と西浦村を合して本村を置く。大字日井には式内社多山比神社あり。日本書紀、仲哀天皇西征の際に見ゆる砂田門は本村の大字常神浦または山東村の丹生浦の邊なるべし。三方五湖に面する地はいま指定名勝にして、常神の蘇鐵も指定天然記念物たり。

ニシタ 西田

【西田村】 鳥根縣出雲國鹿川郡の北部。東南部は平田町の西に隣り、西北部は日本海に臨み、南方約六軒に今市町あり。全村山地にて北部を鳥根山脈東西に連互して南に緩やかに傾き、西南部は鼻高山脈の北斜面をなし、中部を小河東流す。平地乏しきも、米・蕎麥・木炭を主産物とし芥・松茸等の特産あり。平田町へ自動車を通す。この地は和名抄、楯縫郡沼田郷に屬せしもの如し。

ニシタガ 西多賀 宮城縣名取郡にありし村。昭和七年仙臺市に編入す。ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある運河。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に沿うて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤磐郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。ニシタカヤ 西高屋 【西高屋】 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村ほか一町五箇村を廢し古知野町を置く。【西高屋村】 廣島縣安藝國賀茂郡の東北部。西條町の東北一軒餘に位し、北隅及東南部は豊田郡に界す。村形西北より東南に稍々細長し。西北部及東南部は山地をなし、西北隅に五七五米の山峰あり。中央は平野をなし河川西南流す。農産多く林産・畜産及び工業あり。縣道及び省線山陽本線中央を東西に走り西高屋驛(大正十五年設置)あり。(白鳥神社) 大字郷に鎮座。郷社。祭神、倭姫命・倭武命。橋姫命。景行天皇四十三年詔して諸國に白鳥神社を建立し給ひしが、當社は其一なりと云ふ。もと社領六百五十餘石、中世別當寺を擁し社家・供僧は祭祀の事に當れりと云ふ。例祭、陰曆三月十五日。ニシタガワ 西川川郡 山形縣羽前國の西北部。西は日本海に面し、

南は新潟縣、東は東田川郡・鶴岡市、北は酒田市に隣接す。面積四九六・三七七方軒。郡の南半部は山地をなすも北半部は庄内平野に屬して平坦なり。東境の南半部には北より金峰山(四五九米)・母狩山(七五一米)・湯の澤嶽(九六四米)・三方倉山(九〇五米)・摩耶山(一〇二〇米)等連りて西方に傾斜し、五十川・温海川・小國川・鼠ヶ關川等東境に發源して西流す。南部の海岸には山地迫りて若右海岸をなし加茂・由良・鼠ヶ關等の漁港あり。北部海岸には幅約三軒の砂丘南北に連りて内部平野と境し、海岸線は平直にして砂濱をなす。大山川は南部山地に發源し、北部平野の中央部を北流して最上川の支流赤川に合す。赤川は東田川郡との境をなして北流し、最上川に合して日本海に注ぐ。南部河川の沿岸及び北部平野には農業行はれ、米・蕎麥を産す。本郡の首邑大山町は庄内平野の西南部に位し、製絲・綿織・酒造その他の工業行はる。西部南部海岸地帯には漁業行はれ、春は鱒・小鯛・鯉、秋は鮭、冬は鱈の漁獲多し。夏冬は氣節風の影響により漁獲少く、漁夫の他に出稼する者少からず。羽越街道は西北より來り北部平野を横斷して海岸に出で、南部山岳地帯海岸の隘路をなして南下し新潟縣に入る。この街道に並行して省線羽越本線通じ、北より羽前大山・三瀬温泉・鼠ヶ關等の驛あり。社線庄内電氣鐵道は羽越本線鶴岡驛より分岐し、

西方野濱温泉に至る。明治十三年田川郡を東西二郡に分ちて本郡を新設す。ニシタキサワ 西瀧澤村 北は秋田縣羽後國由利郡の中部。矢島町の北に隣接す。西境には海拔約二百米の山地連りて東方に傾斜し、子吉川は村の略中央部を北流し沿岸に平野を拓く。東南部にもまた山地あり。米を産す。省線矢島線の西瀧澤驛(昭和十二年設置)を置く。矢島街道は村の略中央部を南北に通じ、北方横濱線羽後黒澤驛及び前郷驛へは自動車あり。此地はもと東瀧澤村と共に瀧澤郷と稱せられし地にして、村内の根城館址は由利仲八郎政春の築きしものなり。

ニシタク 西多久村

佐賀縣肥前國小城郡の西南部。杵島郡武雄町の北方約五軒にあり、北は東松浦郡に西及南は杵島郡に界す。北部及南部は山地をなし、即ち西北境に八幡山(七六四米)聳えて、其東には瀬戸木場山(六八六米)ありて北部一帯の山地をなし、南境には徳運山聳る。中央には東方に開く谷ありて六角川支流中津川に發源して東流す。米・麥の外産を出す。中央の谷を縣道東西に走り東方小城町、西方西松浦郡伊萬里町へ自動車往復す。この地は和名抄、小城郡高來郷の内。本村はもと隣村の多久村の一大字にして板屋と稱せしも、明治二十二年町村制實施と共に分離し、西多久村と改稱す。

ニシタケ 西嶺村

宮崎縣日向國北諸縣郡の西部。高千穂峰の東南斜面を占む。北は西諸縣郡に接し西及南は鹿兒島縣始良郡及鴨嶽郡に界す。西北隅に靈峰高千穂峰(一五七四米)聳え山麓の高原東南方へ廣く擴がりその北境高原村との間に御池あり。西南境より南境へは約五〇〇米の山地東南方へ高さを減じて連り城内地勢高峻、西境に發する庄内川上流の千足志川村内の水を集めて南部山地の北麓を東南流し約八軒東方にて大流川に注ぐ。農産多く林産もあり、外に畜産・工業・鑛産・水産あり。千足志川に沿ひて縣道は東南隣庄内町に通じ、バスの便あり。宇荒嶽・戸ノ口・北ノ久保・芋堀・片添の一部は霧島國立公園の内。本村はもと庄内郷の内にして、明治二十四年、庄内村を分割し庄内村と本村を置く。

ニシタケタ 西武田

鹿兒島縣鹿兒島郡にありし村。昭和九年鹿兒島市に編入さる。ニシタツブ 錦多峯 北海道釧路國勇拂郡若小牧町の大字。省線室蘭本線の錦多峯驛(明治三十三年設置)あり。ニシタテ 西館村 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。扇田町の西南に接す。西部及び南部には山地連りて東北方に傾斜し、東北半部は大館盆地に屬して平坦なり。引欠川は南境に發源して北流す。米の産あり。東北方の社線秋田鐵道扇田驛へ近し。自動車の便あり。

ニシタニ 西谷

石川縣加賀國江沼郡の南端。山中町の南に隣り、西南は福井縣に接す。面積八三・七八方軒にして本郡第一の大村。東南境に大日山(一三六九米)・小大日山(一九九米)あり、西部に富士寫ヶ岳(九四二米)聳立して、四周には山岳を繞らし、僅に東南山地に發して中部を西北に流るる大聖寺川の通谷により山中町に出づ。山岳重疊し、且つ冬季積雪多きを以て産業に恵まれず、僅に大聖寺川沿岸の農産、木炭・木材等あるのみ。街道は大聖寺川に沿うて通ずるも交通便ならず。人口は大正九年二三四三人、同十四年二四一〇人と僅に増加せしも、昭和五年二二二九人、同十四年二〇三九人と減少し、同十年の一方新築度は僅に二四人なり。此地は和名抄、江沼郡山背郷の内なるべし。大字九谷は九谷郷の原産地とす。九谷の名稱は此地山嶺く、谷多く、五里四方に互りて九百九十九谷あるを略して九谷と稱せし故なりと。村内に比叢瀧(高さ二一・二米)・布ヶ瀧(高さ一八米)・巾三米)・女郎ヶ瀧(高さ一五米)・巾三米)・一五米)・巾二米)等あり。(栢野の大杉) 指定天然記念物。一株、地上約一・五米の幹開始と九米に達し上部より二大支幹に分る。樹勢雄大、有数なる巨樹とす。【西谷村】 福井縣越前國大野郡の西南隅。西は今立郡に、南は岐阜縣本巢郡及

び掛妻郡に接す。面積一九七・三二方軒にて本郡第一の大村。南境には千二百米余の冠山・若丸山・屏風山等連り其中央に能郷白山(標高山一六一七米)あり。北境に部子山(一四六五米)・銀杏峰(一四四一米)・東北境に道齊山(一一八九米)あり、中部にも姥ヶ嶽(一四五四米)・倉ノ又山(一一二六米)等ありて山岳重疊し、眞名川は本村より發し山間の水を集めて北流するも谷深くして平地に乏し。本村は鑛産に富み中天井鑛山は三菱鑛業に屬し銀・銅・鉛を産出す。農家多きも殆んど鐵夫・養蠶・黃蓮栽培・製紙に従事す。住民中には今なほ樺・糠實を常食とし、土中に穿ちし大穴に火を入れ板にてその上を覆ひ、板上に寝れ蒲團を用ひず爐畔に杉皮を敷きて坐食する者あり。鮫魚・嘉魚・鱒等の水産あり。街道は各溪流に沿うて通ずるも險坂ありて交通便ならず。

【西谷山】 京都府北桑田郡弓削村と知井村の境上に位する山。標高八八〇・七米。この山附近は杉の植林帯をなし、僅に山林の手入の人々のみ入る静寂にして、夏日暑を避くるに適す。南麓八丁部落より八丁川(由良川の上支)を下れば廊下狀の狭谷をなし、キョーア瀧懸り、石楠木の花期は美麗なり。

一〇〇〇米程度の山脈連りて境域を限り其支脈延びて北境を限る。引原川は北方の溪谷を南下して本村中央を南貫し、南方約三軒にて東北方より流れ来る三方川と合し掛保川となりて南下す。沿岸に僅かに低地を有す。米・蕎麥・裸麥・小麥・蔬菜・花卉・果實・食用農産・蒟蒻芋・鶏卵・蠶製品・双物・製茶・沿岸漁獲物・水産養殖等あり。因幡街道中部の谷に沿ひて縦断しバスを通す。(八幡神社)大字安賀に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后等十二柱。例祭、十月二十一日。

【西谷村】 兵庫縣津浦川西郡の西部。西北より東南に細長き山村なり。全村山地丘陵起伏し南部に長尾山嶺主峯大峰山(五五二米)・中山(四七八米)等あり。東境南に鳥居山(四八四米)あり。中部に古室山(四五九米)、西境の中央に大岩嶽(三八四米)、東北境に三蔵山(四二二米)あり。山地の間に細き谷間各々低分水嶺によりて連絡す。西北境には羽東川南流し、西南境には武庫川之に沿ひて東南流す。米・裸麥・小麥・大麥・蔬菜及花卉・食用農産物・果實・鶏卵・林産・水産養殖・沿岸漁獲物・蠶製品等を産す。中部には縣道西北より東に通じ西方三田町へバスを通す。西南部には省線福知山線走りて武田尾驛(明治三十二年設置)あり。此地は和名抄、有馬郡羽東郡の内なるも、のち川邊郡に入る。(八幡神社)

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・裸麥・小麥・果實・製茶・蒟蒻芋等の外水産養殖・鶏卵・双物等の産あり。縣道中央を東西に通じ東北方八鹿町へバスの便あり。本村と隣村關宮村とに跨りて中瀬鑛山あり、鑛區約六十六萬坪、鑛區の地質は古生層に屬する粘板岩及び橄欖蛇紋岩にして、鑛床は主として粘板岩中に發達し裂罅を充填せる含金安賀母尾石英脈とす。昭和十年には金銀額四三八萬、安賀母尾鑛八二萬、此總額八萬六千餘圓なりとす。なほ同年六月末の使用鑛夫四十五人にして重要鑛山に屬す。本鑛山は遠く天正元年の發見に係り、金の産出額甚だ多く一日に七兩を運上すと。當時八木但馬守豊信の領内なりしが、天正五年豊臣秀吉の征伐に遇ひ城を棄て、逃ぐといふ。

内にかけて山嶽重疊し、森林多く、次第に東方に低下し、東境附近より武蔵野臺地となる。多摩川は山梨縣より來り、山間に峽谷をなして東流し、上流にては奥多摩の勝地をなす。青梅町附近より流域に平地開け、東南に向ひて、郡の東南隅にて西より來れる秋川を合す。秋川上流も亦、峽谷をなし風景佳なり。郡の東部、西多摩村内の羽村より、多摩川の水を取入れ村山貯水池に引く。山地一帯は林産物多く、一般に養蠶盛にて、繭・織物の産多し。栗落は郡の東部及び川沿ひに發達す。青梅街道は多摩川沿ひに西走し、立川町より來れる社線青梅電氣鐵道またこれに沿ひ御嶽に至る。秋川に沿ふ府道は五日市町を経て西走し、社線五日市鐵道これに沿ふ。その他東部には省線八高線北走す。一般に府道は東部に多く發達す。本郡は明治十三年多摩郡を東西南北の四郡に分ちて新置せるもの。古くは神奈川縣の管下たりしも、同二十六年以降東京府に屬す。

村に箱根ヶ崎驛を置き、府道通す。本村に玉川上水取入口あり、これ四代將軍家綱の時、老中松平信綱の奉行により築造せしものにして、時に地理と工事に明かなる本村の玉川彦右衛門(贈從五位)・同清右衛門(贈從五位)選ばれて之が工事を完成す。

北は東武多摩郡、北は南安藝郡に接す。面積一八四・五三三平方軒の大郡。東境に御ヶ岳(二九五六米)を初め木曾山脈諸峰連互し、之に相對して西境に御岳火山帯の主峰御嶽山(三〇六三米)屹つ。兩山系の水を聚めて木曾川中央を南流し、木曾谷の峽谷を作り、北部の月夜澤峠・境峠以北の水は奈川となりて北流し犀川の上流をなす。往時の中山道はこの木曾谷に沿ふ長き谷の道中によりしもの。栗落又之に沿ひ、木曾嶺を以て世に知られ美林地帯なるを以て、その伐木・運材に従事するもの多し。米は地形上不足するも谷間は養蠶に主力を注ぎ、麻を作りて麻布を作る小木曾女あり、また木曾漆器も作る。又有名な木曾馬も坂路の多き木曾にはなくてはならぬもの。その頭数は郡總戸數の一萬を超ゆといふ。首邑福島町にて夏秋二回馬市立つ。また木曾御料林支局も此處にあり。北部數原にはお六権の特産あり。妻籠は槍笠の副産盛なり。省線中央本線は木曾谷に沿ひて南北に貫通し、費用以下三留野間敷驛を置く。各御料林へは支谷に沿ひ林用軌道の便あり。中山道また谷沿ひに通じ太平街道を飯田市へ分岐す。明治十三年に筑摩郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。一にニシツカマとも稱す。

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・裸麥・小麥・果實・製茶・蒟蒻芋等の外水産養殖・鶏卵・双物等の産あり。縣道中央を東西に通じ東北方八鹿町へバスの便あり。本村と隣村關宮村とに跨りて中瀬鑛山あり、鑛區約六十六萬坪、鑛區の地質は古生層に屬する粘板岩及び橄欖蛇紋岩にして、鑛床は主として粘板岩中に發達し裂罅を充填せる含金安賀母尾石英脈とす。昭和十年には金銀額四三八萬、安賀母尾鑛八二萬、此總額八萬六千餘圓なりとす。なほ同年六月末の使用鑛夫四十五人にして重要鑛山に屬す。本鑛山は遠く天正元年の發見に係り、金の産出額甚だ多く一日に七兩を運上すと。當時八木但馬守豊信の領内なりしが、天正五年豊臣秀吉の征伐に遇ひ城を棄て、逃ぐといふ。

【西多摩村】 東京府武蔵國西多摩郡の東部。青梅町の東南方約三軒にて、多摩川の東岸にあり。武蔵野臺地の西部を占め畑地多く、麥・甘藷を産し、養蠶盛にて繭を多産す。府道青梅町に通じ、また社線青梅電氣鐵道は西部を西北に走り、羽村・小倉の二驛(共に明治二十七年設置)を設け、省線八高線は東南部を掠めて北走すも村内には驛なく、東隣箱根ヶ崎

【西谷村】 兵庫縣津浦川西郡の西部。西北より東南に細長き山村なり。全村山地丘陵起伏し南部に長尾山嶺主峯大峰山(五五二米)・中山(四七八米)等あり。東境南に鳥居山(四八四米)あり。中部に古室山(四五九米)、西境の中央に大岩嶽(三八四米)、東北境に三蔵山(四二二米)あり。山地の間に細き谷間各々低分水嶺によりて連絡す。西北境には羽東川南流し、西南境には武庫川之に沿ひて東南流す。米・裸麥・小麥・大麥・蔬菜及花卉・食用農産物・果實・鶏卵・林産・水産養殖・沿岸漁獲物・蠶製品等を産す。中部には縣道西北より東に通じ西方三田町へバスを通す。西南部には省線福知山線走りて武田尾驛(明治三十二年設置)あり。此地は和名抄、有馬郡羽東郡の内なるも、のち川邊郡に入る。(八幡神社)

北は東武多摩郡、北は南安藝郡に接す。面積一八四・五三三平方軒の大郡。東境に御ヶ岳(二九五六米)を初め木曾山脈諸峰連互し、之に相對して西境に御岳火山帯の主峰御嶽山(三〇六三米)屹つ。兩山系の水を聚めて木曾川中央を南流し、木曾谷の峽谷を作り、北部の月夜澤峠・境峠以北の水は奈川となりて北流し犀川の上流をなす。往時の中山道はこの木曾谷に沿ふ長き谷の道中によりしもの。栗落又之に沿ひ、木曾嶺を以て世に知られ美林地帯なるを以て、その伐木・運材に従事するもの多し。米は地形上不足するも谷間は養蠶に主力を注ぎ、麻を作りて麻布を作る小木曾女あり、また木曾漆器も作る。又有名な木曾馬も坂路の多き木曾にはなくてはならぬもの。その頭数は郡總戸數の一萬を超ゆといふ。首邑福島町にて夏秋二回馬市立つ。また木曾御料林支局も此處にあり。北部數原にはお六権の特産あり。妻籠は槍笠の副産盛なり。省線中央本線は木曾谷に沿ひて南北に貫通し、費用以下三留野間敷驛を置く。各御料林へは支谷に沿ひ林用軌道の便あり。中山道また谷沿ひに通じ太平街道を飯田市へ分岐す。明治十三年に筑摩郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。一にニシツカマとも稱す。

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・裸麥・小麥・果實・製茶・蒟蒻芋等の外水産養殖・鶏卵・双物等の産あり。縣道中央を東西に通じ東北方八鹿町へバスの便あり。本村と隣村關宮村とに跨りて中瀬鑛山あり、鑛區約六十六萬坪、鑛區の地質は古生層に屬する粘板岩及び橄欖蛇紋岩にして、鑛床は主として粘板岩中に發達し裂罅を充填せる含金安賀母尾石英脈とす。昭和十年には金銀額四三八萬、安賀母尾鑛八二萬、此總額八萬六千餘圓なりとす。なほ同年六月末の使用鑛夫四十五人にして重要鑛山に屬す。本鑛山は遠く天正元年の發見に係り、金の産出額甚だ多く一日に七兩を運上すと。當時八木但馬守豊信の領内なりしが、天正五年豊臣秀吉の征伐に遇ひ城を棄て、逃ぐといふ。

【西多摩村】 東京府武蔵國西多摩郡の東部。青梅町の東南方約三軒にて、多摩川の東岸にあり。武蔵野臺地の西部を占め畑地多く、麥・甘藷を産し、養蠶盛にて繭を多産す。府道青梅町に通じ、また社線青梅電氣鐵道は西部を西北に走り、羽村・小倉の二驛(共に明治二十七年設置)を設け、省線八高線は東南部を掠めて北走すも村内には驛なく、東隣箱根ヶ崎

【西谷村】 兵庫縣津浦川西郡の西部。西北より東南に細長き山村なり。全村山地丘陵起伏し南部に長尾山嶺主峯大峰山(五五二米)・中山(四七八米)等あり。東境南に鳥居山(四八四米)あり。中部に古室山(四五九米)、西境の中央に大岩嶽(三八四米)、東北境に三蔵山(四二二米)あり。山地の間に細き谷間各々低分水嶺によりて連絡す。西北境には羽東川南流し、西南境には武庫川之に沿ひて東南流す。米・裸麥・小麥・大麥・蔬菜及花卉・食用農産物・果實・鶏卵・林産・水産養殖・沿岸漁獲物・蠶製品等を産す。中部には縣道西北より東に通じ西方三田町へバスを通す。西南部には省線福知山線走りて武田尾驛(明治三十二年設置)あり。此地は和名抄、有馬郡羽東郡の内なるも、のち川邊郡に入る。(八幡神社)

北は東武多摩郡、北は南安藝郡に接す。面積一八四・五三三平方軒の大郡。東境に御ヶ岳(二九五六米)を初め木曾山脈諸峰連互し、之に相對して西境に御岳火山帯の主峰御嶽山(三〇六三米)屹つ。兩山系の水を聚めて木曾川中央を南流し、木曾谷の峽谷を作り、北部の月夜澤峠・境峠以北の水は奈川となりて北流し犀川の上流をなす。往時の中山道はこの木曾谷に沿ふ長き谷の道中によりしもの。栗落又之に沿ひ、木曾嶺を以て世に知られ美林地帯なるを以て、その伐木・運材に従事するもの多し。米は地形上不足するも谷間は養蠶に主力を注ぎ、麻を作りて麻布を作る小木曾女あり、また木曾漆器も作る。又有名な木曾馬も坂路の多き木曾にはなくてはならぬもの。その頭数は郡總戸數の一萬を超ゆといふ。首邑福島町にて夏秋二回馬市立つ。また木曾御料林支局も此處にあり。北部數原にはお六権の特産あり。妻籠は槍笠の副産盛なり。省線中央本線は木曾谷に沿ひて南北に貫通し、費用以下三留野間敷驛を置く。各御料林へは支谷に沿ひ林用軌道の便あり。中山道また谷沿ひに通じ太平街道を飯田市へ分岐す。明治十三年に筑摩郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。一にニシツカマとも稱す。

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・裸麥・小麥・果實・製茶・蒟蒻芋等の外水産養殖・鶏卵・双物等の産あり。縣道中央を東西に通じ東北方八鹿町へバスの便あり。本村と隣村關宮村とに跨りて中瀬鑛山あり、鑛區約六十六萬坪、鑛區の地質は古生層に屬する粘板岩及び橄欖蛇紋岩にして、鑛床は主として粘板岩中に發達し裂罅を充填せる含金安賀母尾石英脈とす。昭和十年には金銀額四三八萬、安賀母尾鑛八二萬、此總額八萬六千餘圓なりとす。なほ同年六月末の使用鑛夫四十五人にして重要鑛山に屬す。本鑛山は遠く天正元年の發見に係り、金の産出額甚だ多く一日に七兩を運上すと。當時八木但馬守豊信の領内なりしが、天正五年豊臣秀吉の征伐に遇ひ城を棄て、逃ぐといふ。

ニシタ——ニシツ

四七六

【西多摩村】 東京府武蔵國西多摩郡の東部。青梅町の東南方約三軒にて、多摩川の東岸にあり。武蔵野臺地の西部を占め畑地多く、麥・甘藷を産し、養蠶盛にて繭を多産す。府道青梅町に通じ、また社線青梅電氣鐵道は西部を西北に走り、羽村・小倉の二驛(共に明治二十七年設置)を設け、省線八高線は東南部を掠めて北走すも村内には驛なく、東隣箱根ヶ崎

【西谷村】 兵庫縣津浦川西郡の西部。西北より東南に細長き山村なり。全村山地丘陵起伏し南部に長尾山嶺主峯大峰山(五五二米)・中山(四七八米)等あり。東境南に鳥居山(四八四米)あり。中部に古室山(四五九米)、西境の中央に大岩嶽(三八四米)、東北境に三蔵山(四二二米)あり。山地の間に細き谷間各々低分水嶺によりて連絡す。西北境には羽東川南流し、西南境には武庫川之に沿ひて東南流す。米・裸麥・小麥・大麥・蔬菜及花卉・食用農産物・果實・鶏卵・林産・水産養殖・沿岸漁獲物・蠶製品等を産す。中部には縣道西北より東に通じ西方三田町へバスを通す。西南部には省線福知山線走りて武田尾驛(明治三十二年設置)あり。此地は和名抄、有馬郡羽東郡の内なるも、のち川邊郡に入る。(八幡神社)

北は東武多摩郡、北は南安藝郡に接す。面積一八四・五三三平方軒の大郡。東境に御ヶ岳(二九五六米)を初め木曾山脈諸峰連互し、之に相對して西境に御岳火山帯の主峰御嶽山(三〇六三米)屹つ。兩山系の水を聚めて木曾川中央を南流し、木曾谷の峽谷を作り、北部の月夜澤峠・境峠以北の水は奈川となりて北流し犀川の上流をなす。往時の中山道はこの木曾谷に沿ふ長き谷の道中によりしもの。栗落又之に沿ひ、木曾嶺を以て世に知られ美林地帯なるを以て、その伐木・運材に従事するもの多し。米は地形上不足するも谷間は養蠶に主力を注ぎ、麻を作りて麻布を作る小木曾女あり、また木曾漆器も作る。又有名な木曾馬も坂路の多き木曾にはなくてはならぬもの。その頭数は郡總戸數の一萬を超ゆといふ。首邑福島町にて夏秋二回馬市立つ。また木曾御料林支局も此處にあり。北部數原にはお六権の特産あり。妻籠は槍笠の副産盛なり。省線中央本線は木曾谷に沿ひて南北に貫通し、費用以下三留野間敷驛を置く。各御料林へは支谷に沿ひ林用軌道の便あり。中山道また谷沿ひに通じ太平街道を飯田市へ分岐す。明治十三年に筑摩郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。一にニシツカマとも稱す。

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・裸麥・小麥・果實・製茶・蒟蒻芋等の外水産養殖・鶏卵・双物等の産あり。縣道中央を東西に通じ東北方八鹿町へバスの便あり。本村と隣村關宮村とに跨りて中瀬鑛山あり、鑛區約六十六萬坪、鑛區の地質は古生層に屬する粘板岩及び橄欖蛇紋岩にして、鑛床は主として粘板岩中に發達し裂罅を充填せる含金安賀母尾石英脈とす。昭和十年には金銀額四三八萬、安賀母尾鑛八二萬、此總額八萬六千餘圓なりとす。なほ同年六月末の使用鑛夫四十五人にして重要鑛山に屬す。本鑛山は遠く天正元年の發見に係り、金の産出額甚だ多く一日に七兩を運上すと。當時八木但馬守豊信の領内なりしが、天正五年豊臣秀吉の征伐に遇ひ城を棄て、逃ぐといふ。

ニシツ——ニシト

は高倉森(八二九米)・亂岩ノ森(八八五米)・菱嶺山(八四九米)等あり。各山脈の間には西より追良瀬川・赤石川・中村川各北流し日本海に注ぐ。西部日本海岸は山地迫りて岩石海岸をなし、河川はみな短小にして西流し、内川や、長し。海岸は到る所奇勝に富み、大戸瀬崎の名殊に著る。東北部津輕平野の日本海岸は平直にして砂丘發達し、所々に沼澤あり、その東境には岩木川北流し、多くの三角洲を形成して十三湯湖に注ぐ。湖の水は細き水路によりて日本海に通ず。東北部平野には米・林檎を産し、北津輕郡五所川原町は其集散地をなす。海岸地方には漁業に従事する者ありて、毎年北海道方面へ出稼をなす。道路は東南部山地海岸の峽隘を南北に通ずるもの、及び東北部平野の中央部を南北に通ずるものあり。前者に略並行して省線五能線通じ、大間越・松神・陸奥岩崎・陸奥津邊等の數驛あり。また岩木川は舟楫の便あり。明治十三年津輕郡を東西中南北の五郡に分ち本郡を新置す。

低地に沿ひて縣道走り、同じく、を省線關西本線過ぎて新堂驛(大正十年設置)あり。村内に靈山寺航空燈臺あり、燈臺自熱電燈連閃自青交光、燭光二六六萬燭光、光達距離晴天の暗夜約七五軒。此地は和名抄、阿拜郡折原郷の内なり。大字館岡は、延文中吉野朝廷の士恩地(遠志)入道この地に據り伊賀國守橋成忠と戦ひて敗るといふ。

ニシツケ 西柘植村 三重縣伊勢國阿山郡の東北部。布引山脈の西斜面に位し上野町の東北六軒餘にあり。東には布引山脈連亘して最高七六六米を呈し、西北部にも小丘陵あり。中央西偏は平地にして折原川西南流す。農業を主とし全戸數六一九戸中四七八戸之に従事す。副業には養蠶・蘆葦製造及び林業行はる。依りて再興、是如の法道法發揚せしむ。

ニシツノ 西津野 高知縣高岡郡にありし村。明治四十五年橋原村と改む。ニシテババオ 西テババオ社 臺灣東端大武社にある番社。巴望嶺溪左岸に位す、パイワン族の太麻里番に屬する高砂族の部落。戸數一七、人口六四(昭和十一年調査)。

ニシツケ 西柘植村 三重縣伊勢國阿山郡の東北部。布引山脈の西斜面に位し上野町の東北六軒餘にあり。東には布引山脈連亘して最高七六六米を呈し、西北部にも小丘陵あり。中央西偏は平地にして折原川西南流す。農業を主とし全戸數六一九戸中四七八戸之に従事す。副業には養蠶・蘆葦製造及び林業行はる。依りて再興、是如の法道法發揚せしむ。

ニシツキ 西陶器村 大阪府和泉國泉北郡の東北部。堺市の東南方約五軒。全村臺地狀の丘陵に於て南部に高く約二〇〇米の高さを有す。中央に小河西北に貫流し約一・五軒先に石津川支流に合す。田畑よく拓けて米・麥・蔬菜等の農産物多く畜産・林産・水産もあり。近年工業盛に行はれ、その産出主位を占む。東方約四軒の社線南海電道高野橋北野田驛へバス通ず。この地は中世阿蘇郡野田郷に屬す。

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトトリ 西鳥取村 大阪府和泉國泉南郡の西部。大阪平野の西南隅を占め、大阪灣に臨む。面積一・九〇方軒の小村。南部は臺地をなし北部は低地なり。海岸東北より西南に延びて平直なり。米を多く出し、水産も多く其他畜産・林産等あれど大阪灣岸工業地帯の西南隅を占めて工場多く工業額主位を占めて著し。人口密度も多く一方軒一、三一四人を算す。海岸に縣道及社線南海電線走り後者の鳥取莊驛(大正八年設置)あり。此地は和名抄、日根郡鳥取郷の西部に當る。

ニシトナミ 西礪波郡 富山縣越中國の西部。縣内八郡の一。西は寶達山脈南北に連亘し加賀・能登兩國に界し、北は水見郡、東は射水・東礪波兩郡に接す。面積四三六・四一方軒。南北に細長く、北部・南部及西部一帯に山岳・丘陵起伏し東部一帯に肥沃なる礪波平野開け、小矢部川は幾多の小支流を合して北へ流れ瀧瀬網發達す。平野には農業盛にして

米の産額は縣下第一にしてその年産額は七百萬圓を突破す。東部平野の石動・戸出・津澤・福光・福岡の各町は附近産物の集散地なるのみならず織物業盛にして麻・絹織物等の産多し。其他藥品・福光町の木製玩具・運動具或は水島村附近の柿等の特産物あり。省線北陸本線は北部を東西に貫通し、福岡・石動兩驛を置くと外、省線中越線は東部を掠め、戸出・福光兩驛あり、又石動町より津澤町を経て東礪波郡に至る社線加越鐵道も通ず。國道は北部を南北に走り各町を中心に縣道四通八達しバスも通じ交通便なり。明治二十九年礪波郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。

ニシトマタ 西吉田 岡山縣吉田郡にありし村。昭和四年津山市に編入す。ニシトマリ 西泊灣 瀬代灣ニシトモチ 西砥用 熊本縣下益城郡にありし村。大正十三年本村を廢し砥用町を置くと。

ニシトヤマ 西富山 高山本線の一驛(昭和二年設置)。富山市寺町にあり。ニシトヨタ 西豊田村 茨城縣下總國結城郡の東部。鬼怒川の西岸にあり。東北は眞壁郡の一部と隣す。全村平地にして、農業を主とし、村民の約九割は農業に従事す。米・麥・烟草を産し、養蠶行はれて繭の産あり。縣道は中央を東西に走り、東は眞壁郡下妻町に通じ、バス便あり。この地は和名抄、豊田郡大方

莊の西部に當る。(高倉寺(修惠寺))大字高藏寺にあり。古義眞言宗。修惠山。慶雲二年僧行基の開創と傳ふ。天平年中勅して伽藍を建營し寺田を寄進鎮護國家の道場とせらる。徳川氏の時、小出氏廟墓を山内に營み大いに寺觀を興隆す。

ニシトキタ 西外城田村 三重縣伊勢國多氣郡の東部。北は相可町の東南に接し東及南は度會郡に界す。東南境に國東山(三七五米)ありて南部一帯は山地をなし西北部にも處々に小丘陵横はる。西南方より來る宮川は西南境に沿ひて暫く流れ、間もなく村境をばなれて東南折す。米・麥・繭・茶・鶏卵等を産し果實の特産あり。和歌山別街道中央を横斷し、東北部を省線參宮線通過してその相可日驛(北約二軒)に近し。この地は和名抄、度會郡田部郷に屬す。後世城田郷に合併せられ外城田と呼ばる。

ニシトゴウ 西都甲村 大阪府豊後國西國郡の中部。兩子火山西部中腹を占め、高田町の東に接す。稍々東西に細長く西部は南方へ擴がる。東北部に兩子火山麓え村は全體に西方に低く東部に屋山(五四三米)あり。中央西部には東方より流れ来る桂川西流し、西に開く谷ありて沿岸に耕地發達す。農産・林産を出し、村内竹林多くして竹細工・箱等を産す。縣道河内谷に沿ひて東西に走り高田町及び東國郡國東町へバス通ず。高田町(八幡社)大字築地に鎮座。惣社。

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトヤマ 西富山 高山本線の一驛(昭和二年設置)。富山市寺町にあり。ニシトヨタ 西豊田村 茨城縣下總國結城郡の東部。鬼怒川の西岸にあり。東北は眞壁郡の一部と隣す。全村平地にして、農業を主とし、村民の約九割は農業に従事す。米・麥・烟草を産し、養蠶行はれて繭の産あり。縣道は中央を東西に走り、東は眞壁郡下妻町に通じ、バス便あり。この地は和名抄、豊田郡大方

ニシトマタ 西吉田 岡山縣吉田郡にありし村。昭和四年津山市に編入す。ニシトマリ 西泊灣 瀬代灣ニシトモチ 西砥用 熊本縣下益城郡にありし村。大正十三年本村を廢し砥用町を置くと。

ニシトヤマ 西富山 高山本線の一驛(昭和二年設置)。富山市寺町にあり。ニシトヨタ 西豊田村 茨城縣下總國結城郡の東部。鬼怒川の西岸にあり。東北は眞壁郡の一部と隣す。全村平地にして、農業を主とし、村民の約九割は農業に従事す。米・麥・烟草を産し、養蠶行はれて繭の産あり。縣道は中央を東西に走り、東は眞壁郡下妻町に通じ、バス便あり。この地は和名抄、豊田郡大方

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・梶ヶ森(一四〇〇米)等屹立す。また中部には西方より來る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻嶒なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひ國道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讚線走りて大田口驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には瀧の瀧(高一〇五米、巾一〇米)・眞名瀧(高三〇米、巾一米)・岩木の瀧(高五〇米、巾二米)・龍王の瀧(高五五米、巾八米)・愛名の瀧(高七三米、巾三米)・天王瀧(高八〇米、

ニシト——ニシト

ニシナ——ニシナ

村内より富田石(紀州砂岩または紀州砥といふ)を採掘す。石質は中世代に属する岩石にして、荒砥・青砥の二種に區別し、前者は淡黄色の硬質砂岩にして建築石材に使用せらる。然し今は専ら砥石として採石し、その年産額は十萬圓以上に達すといふ。

ニシナ 仁科村

静岡縣伊豆國賀茂郡の西海岸。松崎町の北に接し、背後に天城山脈縦走し、前面に駿河湾を控ふ。ほぼ中央を東北より西南に一條の河川流れ山谷を形成す。下流沿岸に僅に平地あり。聚落は海岸及びこの山谷に散在し海岸は水産業、山地は林業を以て主産業とす。農産物等に次いで行はれ米・蕎麦の外に山菜・茶の特産あり。他に工・織・畜産も多少あり。海岸及び谷沿に縣道通じ松崎町へバスの便あり、また海上舟運の便もあり。この地は和名抄、那賀郡那賀郷の内にして、中世仁科庄と稱せし地なり。元禄十一年、仁科谷の築地崩壊せし際、この地の被害甚大なりといふ。大字濱の海岸は指定天然記念物たり。また堂々島天窓洞は指定天然記念物たり。また村内に二階ノ瀨あり。高さ四八米、巾七米。(堂々島天窓洞)指定天然記念物。

ニシナカウラ

豊後國南海部郡の東部。佐伯灣に臨み佐伯町の東に隣る。全村山地をなして北岸へ山地迫りて幾多の岬突出し中央に野崎鼻、東部には切ノ鼻等ありて其間に瀨浦を抱き海上八島・三栗島・濃地島等の小島嶼散在し眺望良し。農産・水産・林産あり。海岸を村道横走する外陸上交通は便ならず、海上發動船を以て連絡す。附近町村と共に要塞地帯の一部に屬す。

ニシナガオカ

西長岡 長野縣 戸村(群馬縣新田郡) 西シナガクラ 西長倉村 長野縣 信濃國北佐久郡の東部。輕井澤町の西に

ニシナカドリー

西中通村 新潟縣越後國刈羽郡の西部。柏崎町の東北に接し、鯖石川と別山川の合流點に跨る。西南部僅に西山丘陵の末端部を含む外、概ね土地低平にして水田多し。鯖石川は中部にて東北より来る別山川を合して西に流れ荒濱村より日本海に入る。農業を主産業とし米の産多く、養蠶・漁業を副業とす。また西南部柏崎町に接する部分は工業興り。西部を省線越後線貫通し西中通線(大正元年設置)あり、縣道柏崎町より北及び東北へ走り、自動車を通ず。交通概して便なり。本村と刈羽村とに跨りて高野油田あり、重要鐵山に屬す(高野油田参照)。

ニシナサン

仁科三湖 長野縣の西北部にありて、南北に連る青木・中綱・木崎の三湖をいふ。

ニシナスノ

西那須野町 栃木縣 下野國那須郡の西部。西北は鹽谷郡の一部と隣す。那須野ヶ原の一部を占め、開墾の中心地にして農場多し。水稻・陸稻・大麥・小麥・園藝農産物を産し、養蠶も行はる。陸羽街道は中部を東北に走り、省線東北本線またこれに沿ひ、西那須野驛(明治十九年設置)を置く。同驛は鹽原温泉への門戸にして、これより同温泉へ

ニシナ——ニシナ

一洞窟をなす。右方の洞窟は幅廣くして長さ一四七米に達するも天井の陥落して生じた直孔ありて恰も天窓を穿たる如く、且つ東方に開口するを以て洞内明るく、燈火を用ひずして自由に舟行するを得。左方の洞窟は幅狭くして暗く、東北方に向つて額洞ありて長さ一丈洞分岐す。波蝕洞窟としては其構造頗る複雑なると、斷層關係の頗る明瞭なるとは本洞の特色とする所なり。(佐波神社)大字濱田に鎮座。郷社。祭神、稚羽八重事代主命。延喜の制、小社に列す。舊稱を三島明神といひ仁科五村の總鎮守たり。例祭十一月六日。

ニシナカ

西那珂 茨城縣西茨城郡にありし村。大正十四年、岩瀬町と改稱す。

ニシナカウラ

西中浦村 大分縣 豊後國南海部郡の東部。佐伯灣に臨み佐伯町の東に隣る。全村山地をなして北岸へ山地迫りて幾多の岬突出し中央に野崎鼻、東部には切ノ鼻等ありて其間に瀨浦を抱き海上八島・三栗島・濃地島等の小島嶼散在し眺望良し。農産・水産・林産あり。海岸を村道横走する外陸上交通は便ならず、海上發動船を以て連絡す。附近町村と共に要塞地帯の一部に屬す。

ニシナカシマ

西中島 大阪府西成郡にありし町。もと西中島村と云ひしが大正十二年町制を布く。同十四年大阪府東淀川區に編入す。

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナカシマ

西中島村 大阪府西成郡にありし町。もと西中島村と云ひしが大正十二年町制を布く。同十四年大阪府東淀川區に編入す。

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナヨロ

西名寄 省線南線の一驛(昭和十二年設置)。北海道上川郡名寄町にあり。

ニシナリ

西成 愛知縣尾張國丹羽郡の西部。一宮市の東に隣り東北は古知野町・布袋町に界し、西北は栗栗郡淺井町に接す。一望沃野開け、米・麥・蕎麦を産す。一宮市より東北方古知野町及び犬山町方面に通

接す。北隅に淺間山聳立し、南へ引ける裾野は追分原の曠野をなし、東南は南經井澤一帯を含み、上信國境なる八風山(三一五米)等の連峰により群馬縣北甘樂郡に接す。全村高原性にて草原多く略中央を湯川東西に貫流す。淺間山噴出物と淺間風に患され米・麥の産少く、蕎麦の耕作、炭焼の渡世を爲すもの多かりしも近時は避暑地として次第に開け、殊に東南部には別荘多し。省線信越本線は略中部道分を東西に貫き信濃道分驛(大正十二年設置)あり、國道又之に並走して自動車の便よし。又東南部をかすめ上州に至る縣道もあり。此地は延喜式の佐久郡長倉收の地にして、大字道分は近世木曾路と善光寺路との分岐點に當り、その宿驛として頗る繁榮したり。かの俗語道分節は當驛の馬子唄より起るといふ。明治十一年九月六日、明治天皇、北陸東海道御巡幸の際、ここに御泊あらせられ、いま明治天皇道分行在所として史蹟に指定せらる。

ニシナガシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣 伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある。西は郡界瀬戸を隔てて怒和島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。可航

ニシナルセ

西成瀬村 秋田縣 後國雄勝郡の東北部。北は平鹿郡増田町及び山内村に隣接す。村の東、南、西の三境には山地連りて中央に傾斜し成瀬川の支流は南境に發源して中部を北流し、成瀬川に入る。成瀬川は北部を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は半農半織にして、北部耕地には米を産し、吉乃鐵山には銅鐵の産額少からず。西北方奥羽本線十文字驛へは約六軒。バスの便あり。

ニシナルセ

西成瀬村 秋田縣 後國雄勝郡の東北部。北は平鹿郡増田町及び山内村に隣接す。村の東、南、西の三境には山地連りて中央に傾斜し成瀬川の支流は南境に發源して中部を北流し、成瀬川に入る。成瀬川は北部を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は半農半織にして、北部耕地には米を産し、吉乃鐵山には銅鐵の産額少からず。西北方奥羽本線十文字驛へは約六軒。バスの便あり。

ニシナー—ニシノ

臨を産し、鐵石は主に發盛鐵山に發致して合併製鐵せらる。本鐵山の宇土澤の邊は享保五年、熊ノ澤の邊は安永五年の開坑といふ。現在は大日本鐵業株式會社の經營に屬し、昭和十年六月末の使用鐵夫五一九人とす。なほ鐵山名に本村大字吉野に因む。

ニシナンゴ—西南郷村

靜岡縣遠江國小笠郡の西部。掛川町の南に接し南は磐田郡に接す。南隅に小笠山ありて、二〇〇米前後の丘陵北方へ傾斜す。北部には太田川の支流南掛川の沖積による平地開く。農業を主生業とし米・茶の産多く、次で牧畜盛なり。北部を東西に省線東海道本線走り掛川驛(掛川町)に近く、また東海道は北境に沿ひて走る。(利神社) 大字下俣に鎮座。郷社。祭神、大年神・宇迦之御魂命。景行天皇御宇の鎮座とす。式内小社。例祭、九月九日。

ニシネ—西根

【西根村】 宮城縣磐城岡伊具郡の西北隅。角田町の西北に隣り、北は柴田郡、西は刈田郡に接す。阿武隈山地の北端に位し、西境及北境に山地連り東方に傾斜す。東部は角田盆地の西北隅にしてや、平坦なり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は村の略中央部を東西に通じ、省管自動車中線本村を通りバスの便よし。北方東北本線大河原驛へもバス通す。この地は和名抄、伊具郡磐城郡内にして近世は

ニシノオモテ—西之表町

鹿大隈國熊毛郡種子島の北端。南は中種子村に接し、東北西の三方は海に臨む。面積二〇六・八七方軒。第三紀の砂岩・粘板岩・礫岩等より成る小丘相連り、海岸には海蝕段丘が發達し、一般に海崖及び砂丘の連る所多きも西岸に西之表(赤尾木)港あり。港は西北に向ひて半圓狀に開き男女用これに注ぎ、もと水淺く碇泊に不便なりしが近年築港工事が施され面目を一新し内務省指定港たり。産業は比較的よく發達し、甘藷・甘蔗を主要農産物とし、黒砂糖の産も多し。畜産は一般に馬と豚が飼養され、飛魚・鰯等の漁獲も多し。なほ西之表港は移出總額は六六九千圓、移入總額は六一千圓。移出品の主なるものは木炭・小麦・木材・甘藷・砂糖・牛・馬にて仕向先は鹿兒島を主とし大阪・長崎等にて、移入品は絹及び綿織物・内地米・肥料・煙草・礦油等にして鹿兒島より移入す。縣道南北に縦貫し中種子村に通じ、西之表港より鹿兒島及び屋久島に定期船あり。支廳は此地に置き、縣立種子島中學校・縣立種子島農林學校あり。人口は大正九年一八一五四人、同十四年一九二九四人、昭和五年二〇九三三人、同十年二二二一人と増加し、同十年の一方軒密度は一〇二人なり。この地は和名抄、熊毛郡熊毛郷の内なり。もと北種子村と稱せしが大正十五年西之表町と改稱す。熊毛支廳の所在

ニシノ—ニシノ

は伊具庄に屬す。(高藏寺(阿彌陀堂)) 大字高倉にあり。新義真言宗智山派。高倉山または勝樂山。嵯峨天皇弘仁十年徳一の開創と傳へ、治承年中聖圓中興す。同年中、藤原秀衡諸堂を造營し朱印三十石を寄す。建武二年北畠顯家また大修理を加ふ。近世寺領沒收せられ寺勢衰ふ。阿彌陀堂及び同堂安置の本尊阿彌陀如来坐像(木造)一軀は國寶なり。

【西根村】 山形縣羽前國西村山郡の東部。寒河江町の東北に隣り、東南は東村山郡に接す。面積八・〇二方軒。山形盆地の西部に位し、寒河江川は北部を東南に流れ、最上川に合す。最上川は東南境を北流す。全村平坦なり。米・蕎麥・草履を産す。道路は西部を南北に通じ、南方省線左澤線寒河江驛へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき五二七人。

【西根村】 山形縣羽前國西置賜郡の東部。長井町の西北に接し、北は西村山郡に接す。越後山脈の東斜面に屬し、北境に葉山(一三三〇米)、中西部に安部ヶ館山(二〇五五米)あり、斷崖をなして東方に傾斜し、東部は長井盆地に屬して平坦なり。野川は南境を峡谷をなして、南東に流れ、盆地に出て、東北に流路を變ず。米・蕎麥・木炭を産す。東方約二軒に省線長井線羽前成田驛あり。

【西野村】 山形縣甲斐國中野郡の中部。甲府市の西方約七軒。釜無川の支流野動地たり。赤尾木港は天正十三年ギョトオの人の始めて築港せし港として名高し。(うとうま) 指定天然記念物。種子島に飼養せらるる馬の一型にして、鬣なく特異の尾を具ふ。(伊勢神社) 郷社。祭神、天照大御神・豐受姫神。社記に延喜年中大隅國の地頭某の創建と傳ふれど詳ならず。例祭、九月十六日。

【西之口】 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年本村ほか二村を廢し鬼崎村を置く。

【西久保】 東京の地名。現今芝區の西部。麻布の丘に隣接し、愛宕山との中間一帯の谷地を稱す。神谷町・城山町・八幡町・廣町・巴町・明船町・櫻川町が之に屬す。通言總稱「けふ」此比はいたこやかい深ではやる時分、さうへ田ぞろいにゆかたを下タ着、こび茶さやの袖くち、もへぎさなだのうら付でとんだあやまるなり、西のくぼのがせんぼう谷や、本所のわりげすいあたりで見かけるてあ。

【西氣村】 兵庫縣但馬國城崎郡の西部。美方郡村岡町の西南部につづき、東方約一二軒に豊岡町あり。東南隅の一部を除き四週約八九百米の山脈に圍まれ南境に蘇夫嶽(一〇七五米)屹つ。西北部に源流する圓山川の一支流は中央を東南流し東南隅より清瀧村に入る。沿岸に低地開く。平地は田畑發達し米・蕎麥の産多く蔬菜・花卉・食用農産・果實の

使用扇狀地の一部を占め、地勢東南方に緩傾斜す。村内概ね桑園にして養蠶業を主生業とし蕎麥・桑の産多し。村内を東西に縣道通す。また甲府・韭崎間のバスも通す。いま在家塚村・今諏訪村と組合村をなし役場を本村に置く。

【西野村】 廣島安藝國豊田郡の南方海上にある大崎上島の西部を占め、西は瀬戸内海に臨む。南部には二〇〇米程の丘陵連りて西方は海に終り北部には稍々低地あり。西北部には七々見島ありて砂洲によりて続き、その先端を塚崎と言ふ。西方の津久賀島、西方に來島等をへだてて遙かに本島を望み、西方の來島等、西方には大崎下島・豊島・三角島・上浦列島等の大小島嶼横はる。農産・工業・水産・畜産・林産あり。本島東岸木ノ江町、北方賀茂郡竹原町、尾道糸崎港及び愛媛縣今治市に發動汽船の便あり。

【西野】 廣島縣御調郡にありし村。昭和十一年三原市に編入す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 萬葉集に見ゆる地名。平城京の西の市、即ち右京の市にして、いま生駒郡山町九條の邊にその跡ありといふ。萬葉・七、西の市にたたり出て眼蓋す買ひにし胡し商じこりかし。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

【西野】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年本村ほか三村を合併して甲奴村を新設す。

流れ入りて剣尾山と東城山地の間を南下す。西部には西北境に發する山邊川ありて中央を東南流し南部にて大路川に會し西境に發する山田川その約一軒南にて同河に會す。山地大部を占め、僅に諸川に沿ひて狭長なる平地を形成し各部落點在す。以上三川に沿へる平地は沖積地にて多く米作に適し、山は赤松の自然林多くまた樺の植林に適す。米・蕎麥の農産及び工業・林産・畜産・鑛産・水産あり。山邊川の谷に沿ひ南方池田町に通ずる縣道ありてバスを通ず。村名はこの地古への能勢郡の西部に當るより起る。もと西郷根根の二村なりしが、昭和六年二村を合併して昭和村とし、同七年昭和村を西能勢村と改稱す。西郷は和名抄、能勢郡能勢郷の西郷なるべし。根根は中世の莊名にして、和名抄、能勢郡根根郷の地なり。大字宿野は古への來狭々の地ならんといふ。來狭々は書紀雄略紀に土師連吾筒、攝津國久狭々村等の私民部を賦し贊土師部と名づけたる由見え、また玖左佐に作り、和銅六年河邊郡より能勢郡を割きし時、能勢郡の郡家を置きし處といふ。中古源滿仲の多田に居するやその弟滿政は根根莊に分家居住して此の地方を領しそのち滿政の子孫及び多田源氏より出でたる郷士所々を分領す。近古に及び一時補氏の所領たりしことありしがのち歸屬轉々として定まらず、再び多田源氏の末流なる能勢氏及びその一族の所領とな

り、天文年間より元龜・天正の頃に及びて北丹波八上城主波多野秀治及び南多田山下城主鹽川國滿等の侵略に遇ひ屢々兵を交ふ。天正八年に至り遂に鹽川國滿の併吞する所となれり。織田・豊臣を経て徳川氏に及び一旦没落したる能勢氏は再び接頭し、能勢頼次は關原役の功に依り舊領地たる能勢地方を賜はる。元和八年に至り一旦徳川氏代官の支配下となりて能勢氏の手を離れ、更に諸藩に分屬せらるるものを生じ以て明治維新に及ぶ。大字片山に城址あり、鹽山肥前守景信の據りし處といふ。大字大里の西北にある劍尾山は萬葉に見ゆる下槿山・下槿山ならんといふ。萬葉・九・白玉の：下槿山下ゆく水の 上に出でず 吾が念ふ情安からぬかも (久佐佐神社) 大字宿野に鎮座す。郷社。祭神、加茂別雷神・猿田彦神・素戔鳴尊。もと草々明神・宿野大明神と稱す。例祭、五月十六日。(岐尼神社) 大字森上に鎮座。郷社。祭神、瓊々杵尊・天兒屋根命・源滿仲・猿田彦神。延喜の制、小社に列す。一名杵宮。例祭、十月十五・十六日。

ニシノタニ 西ノ谷 西ノ谷和歌山縣西牟婁郡にありし村。大正十三年田邊町に編入す。

ニシノトイーン 西洞院 北山と平安京の南北に通ずる大道の一。油小路と町尻小路との間の大路にして幅八丈、また洞院西大路ともいふ。今京都市にそ

の名稱残り、釜通と小川通との間にあり。好色二代男・一「母は今の都の若後家、西洞院のひとつ前と、浮世の立名かくれなし」大經師昔曆・上「まだ面倒なその猫め、ぎやあくとほえるが能で、鼠一疋取りはせず、牡猫見てはびるびると、屋根も垣もたまらぬ、重ねて屋根でさかつたら、四つ足くくつて西の洞院へながしてくりよ」

ニシノトロ 西能登呂岬 近藤

ニシノマチ 西野町 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村外一町三村を廢し西野町を置く。

ニシノマツバラ 虹ノ松原 佐賀縣唐津市より東松浦郡鏡村・濱崎町に互る松原。延長約四・五軒、幅約〇・五軒乃至一軒。其間數百年を経たる幾萬株の老松を列ね、弓形を成せる白砂の長汀と相映じて優麗極まりなし。名稱はその形虹の如きより起ると。松の樹勢の最も美なるは松原を縦貫せる道路の南側にし、特にその中部二軒茶屋附近には幹圓目通二米乃至三米のもの十數本を數へ、樹幹必ずしも大ならざれども、その幹枝は起伏屈曲し頗る姿態の雅致を極め、傘松・根上り松・伏松など園藝的樹勢を呈せるもの多く、虹ノ松原の風景價値を高む。二軒茶屋の東數百米のところに一叢の小松林あり。松樹は何れも低く地に這うて上へ伸びず頗る奇觀を呈す。これは

ニシノミチ 西道 書紀崇神天皇紀四道將軍派遣の條に吉備津彦命を西道に派遣せらるるとあり。後の謂ゆる山陽道なり。吉備津彦命を祀れる神社は、備中賀陽郡眞金村の國幣神社吉備津神社をばじめ、備後廣島郡引村の國幣小社吉備津神社、備前御津郡一宮村の國幣小社吉備津神社等あり、以て吉備津彦命の山陽地方に其の恩威を布きしを想ふべし。

ニシノミヤ 西宮市 兵庫縣五市の一。攝津國の東南部にあり。北は六甲山地を距て、有馬郡に接し、東は武庫郡の鳴尾・瓦木・甲斐・真元の諸村に接し、南は大阪灣に面し、西は精進村に隣る。

面積二二・二四九平方軒、人口九四、四〇九人(昭和十一年末現在)。土地は略南に狭長にして九・五軒、東西四・五軒なり。北は深く六甲山地に入り、東川(御手洗川)・夙川の二川この間に發源、南流して海に入る。市はその扇狀地上に發達す。海岸は古くは御前濱と稱し平滑なれども、東川の河口近く西宮港(今津港を含む)を控ゆ。市は尼崎市と共に大阪・神戸間の工業都市にして、殊に釀酒を以て著れる。試みに昭和十一年度の統計を基礎として之を擧げんに、清酒、樽詰一三、九〇五、六一一圓、樽詰四、四九三、〇九四圓、計一七、三九八、七〇五圓、實に本邦總生産額の約四分の一を占む。抑本市酒造の發達は池田・伊丹と共に古く、現在に於ては斷然これ等を凌ぎ灘五郷の中心をなす。いま造高一萬石以上の銘柄をあぐれば、最も多きは白鹿にて三一、六三九石、日本盛二七、五八七石、大關一八、七一五石、東自慢一三、三九六石、白鷹義政正宗一〇、三二六石なり。以上の外二十有餘の銘柄の釀造高を合算すれば實に十六萬四千餘石となり、實に釀酒都市と稱すべきなり。釀造の時使用する井戸より汲み上げた水にて、その水質酒造に最も適するを以てかく異常の發達を遂げたるものなりといふ。この宮水はひとり本市内に使用するに止らず遠く廣島縣の邊まで送り出すといふ。この

外工業としてその産額の多きは植物油の一六、九〇五、八二四圓、ビートルの六、九二四、八四六圓、植物性糖の三、三八〇、八三九圓、清涼飲料の三、二五、四五八圓なり。このビートル・清涼飲料はこの地に大日本麥酒會社の西宮工場あるによる。以上の如く本市は工業都市たるを以て工業は市の總生産額の九七%を占め、他のものは殆んど云ふに足らず。

工業	六七、一四三、四九六
畜産	一、〇〇五、八九二
水産	四五〇、八八九
農産	三四九、三六一
鑛産	二、五三一
林産	七〇〇
合計	六八、九五二、八六七

本市を横斷せる新國道は市の南部にあり、この以南の平坦部は工場地帯にして本市の主要なる工場は概ねこの區域にあり、國道以北は六甲山麓の緩傾斜地帯なるを以て阪神間の住宅地として樞要的の位置を占め、殊に苦樂園・甲陽園附近は其の位置高燥なるを以て眺望に富む。本市は阪神二市間の略中央に位置するを以て頗る交通運輸の便に恵まれる。まづ阪神間を結ぶ交通運輸の大系は、新裝の國道と省線東海道本線を最とす。前者には私線阪神電車と國道線通すると共に自動車の往復頻る繁く、後者には西宮驛(明治七年設置)ありて物資の吞吐極めて盛なり。

東海道本線と並行して北に私線阪神急行電車あり、夙川・今津二驛を置き、新國道の南には阪神電車の本線通じて數驛を置きなほ阪神急行は北方甲陽園に支線を出し、阪神電車はその今津驛より北に支線を出して西宮北口驛に至り、阪神急行の今津線に合す。この外市内はバスの發達著しく、新國道舊國道にも東西に走る外、循環バス・西賣バス等ありて交通の便極めて良し。これ等の外、西宮港(今津港を含む)より油脂及蠟(價格一、一四一萬圓)・飲食物及烟草(二二二萬圓)・肥料(二〇三萬圓)等を移出し、穀物及種子(九六二萬圓)・礦物及同製品(三七四萬圓)・油脂及び種子(二六二萬圓)等を移入す。本市は未だ一の専門學校を有せず、中等學校として僅に私立の甲陽中學・市立高女市立商業等に過ぎざるは遺憾なれども早晚工業都市としての教育機關を具備するの期至るべし。幸にも市には相當の設備を有せる市立圖書館あり、甲子園球場に匹敵すべき球場あり、公園としては夙川の兩岸に設備せられたる夙川公園、海濱には香榎園海水浴場等ありて修養・體育・運動・スポーツに關する設備よく整ふ。本市は攝津國原郡の式内社大國主西神社、同武庫郡の式内名神大社廣田神社の鎮座の地にして早く拓けたるもの、如く、和名抄の武庫郡廣田郷・津門郷の地なるべし。天正年中豊臣秀吉の直轄地となりしも、江戸時代に至れば

社(戎宮) 社家町に鎮座。縣社。祭神、蛭子大神・天照大神・須佐之男大神・大國主大神。創建年代詳かならざるも平安時代大治の頃より社名・祭神名は諸書に出づ。古來皇室の尊崇厚く、治承四年高倉院殿鳥行幸の際に御使をして奉幣せらる。また武門の崇敬も淺からず。社殿中、本殿(三連春日造)は寛文三年の建造、表大門(四脚門)は慶長九年造營にて共に國寶とす。例祭、九月二十二日。この外に一月十日は俗に十日戎祭と云ひ賽者數十萬を算し、全市も亦祭禮氣分横溢す。〔福應神社〕市内今津水波に鎮座。縣社。祭神、事代主命。社傳によれば後陽成天皇より福應の神號を賜ふと。古來今津方面の産土神として崇敬篤し。例祭、十月十三日。〔海清寺〕六波寺にあり。臨濟宗妙心寺派。巨鯨山。應永年中無因禪師の開創に係る。當地禪林の名刹。〔昌林寺〕津戸字西ノ口にあり。淨土宗。松原山と號し俗に頼光寺と云ふ。惠心僧都の開創と稱す。木造阿彌陀如來立像一軀は室町時代の作と推せられ善導大師坐像一軀と共に國寶なり。〔苦樂園〕六甲山の東腹と甲山との間の丘阜にあり、地面積約百ヘクタール、六甲縦走路中央を貫通し、松林の間に運動場・遊園地散在す。地は本市を下敷し、住宅地として理想的の保健地なり。〔西宮舊砲臺〕指定史蹟。西濱の海岸にある三層の石造砲臺。高さ約十二米、徑約十七米。幕末、野義邦(安房)

の建議により文久三年起工、慶應初年竣工、明治十七年火災に罹り木造構造物を焼失す。昭和十一年保護屋根を設く。
ニシノモリ 西ノ森 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか一町二箇村を廢し蟹江町を設く。
ニシハカタ 西伯方村 愛知縣伊豫國越智郡の東北方海上にある伯方島の西北半を占む。東南部を除くほかは瀬戸内海に臨む。中央には寶殿山(三〇四米)あり。その周圍に平野をつくり、更に周圍海中に、恰も龜の頭・足の延びるが如く小丘陵所々に突出し東北部に大夫殿鼻あり。西北部には大長崎延びてその西は鼻栗瀬戸を距てて大三島嶺はり、西南方には大島、北方には生口島等浮びて四周を圍む。米・麥を産し藪もあり。交通は發動船による。〔喜多浦八幡大神社〕大字北浦に鎮座。郷社。祭神、息長帶日賣命・品陀和氣命外十三神。社傳に據るに、白鳳二年博多の箱崎より勸誘、故に當島を伯方島と稱す、古來伯方島の總社たり。例祭、三月廿一日。
ニシハタ 西畑村 千葉縣上總國夷隅郡の西部。大多喜町の西南隣にあり。北は市原郡の一部と隣す。全村丘陵地にて二〇〇米前後の丘陵連り森林・草地多く、夷隅川の支流は村内に發源して東流し、その流域には積平地ありて米を産し藪・麥もも行はる。縣道は北部を横斷し省縣木原線はこれに沿ひて東より西

畑(昭和十三年設置)を置き、また社線小湊鐵道は西より來り、終點驛上總中野驛(昭和三年設置)を設く。南走する縣道は奥津町に通ず。この地は和名抄、夷霧郡白羽郷の内なるべく、近世西畑郷と稱せし地。
ニシバタ 西畑 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか六箇村を廢し明治村を設く。
ニシハタノ 西泰野村 神奈川縣相模國中郡の西部。泰野町の西隣にして、西より南は足柄上郡上泰野村と隣す。北端には丹澤山の連峰塔ヶ嶽(一四九一米)聳え、村の北半はその南斜面の一部にして森林・草地あり。南半は泰野盆地の一部を占めて農業行はれ麥・蕎麥・甘藷・粟等を産し藪も行はる。縣道は南部を横走して泰野町に通じ、社線小田原急行鐵道またこれに沿ひ湯澤驛(昭和二年設置)を置く。
ニシハチジョー 西八條 茨城縣平安京の八條大路の、朱雀大路より西の稱。平清盛の西八條の邸ありしを以て著はる。いま京都市下京區八條町の邊。
ニシハマ 西濱 大阪府西成郡にありし町。明治二十九年大阪府内に編入す。
【西濱村】 兵庫縣但馬國美作郡の西北部。日本海に臨み、濱坂町の西に接し、西は鳥取縣岩美郡に界す。北部海岸を除く外約五〇〇米程度の山脈を繞りし、村内山

地起伏し山麓北岸に迫りて低地乏しく、東部に小河北流して海に注ぐところ諸奇港を抱き、總じて岩石海岸をなす。沿岸は小島・奇岩・怪石散在す。産物は藪の産物最も多く米・食用農産・蔬菜・花卉・大麥・果實・櫻・小麥・大麻等もあり。海岸漁業盛にて水産製造物多し。外に鶏卵・双物も産す。北岸に縣道走り其南に省線山陰本線通過して居組驛(明治四十四年設置)あり。大字居組はもと伊舎に作れるを後世居組に作る。中世これを大藏莊と云ふは延喜式の大藏神社に鎮座するを以てなりと。大字諸寄は小嶺地にて土俗雪白濱といふ。六帖に「但馬なる雪の白濱もろよせば思ひしものを人のとや見ん」とあるは此地を指せるものとす。〔大藏神社〕大字居組に鎮座。縣社。祭神、大年神・御年神。創建年代詳ならずれども延喜式内の舊社なり。所藏の棟札によれば、永享二年十一月足利義教の時に社殿再建あり。例祭、十月九日。
【西濱村】 鳥根縣出雲國飯川郡の西部。日本海に臨み、大社町の南方約八軒にあり。南北に細長し。臺地狀の丘陵中部及南部にあり東北部に平野開け神西海に面す。南部に湖沼散在し西岸は東北より西南に連り單調なるも聚落は多く西岸にあり。地味肥沃にて農産物に富み特に藪の産物。近海は魚類の棲息多く漁業盛なり。外に蕎麥・産・林産あり。省線山陰本線江南線は東方約一牛軒にてゲラスを越

宇。海岸には縣道走る。〔彌久賀神社〕大字大池に鎮座。郷社。祭神、天御中主神・宇賀御魂命。延喜の制、小社に列し、神門郡二十七座の一たり。例祭、十月十七日。
ニシハラ 西原 廣島縣安佐郡にありし村。大正九年原村と合併して更に原村を建つ。
ニシハラ 西原村 沖繩縣中頭郡の南端。首里市及び島尻郡南風原村・大里村の北に接し、東は中城灣に臨む。面積一八・五方軒。西部は第三紀層の臺地、東部沿海は沖積地にして、なほ海岸には珊瑚發達す。農を主生業とし米・甘藷・甘藷の産多く、沖繩製糖會社工場ありて分蜜糖等を出す。また農事試験場の試験地設けられ製糖・甘藷栽培に関する試験調査等行はる。東部低地と西部とに縣道通じバスの便あり、また東部の小那覇より首里市へ至る道路等ありて、交通不便ならず。字嘉手苜には尙圓王(金丸)の舊宅なる内間御殿の址あり、附近海岸には脱衣岩の史蹟あり。
ニシハル 西春村 愛知縣尾張國西春日井郡の西部。名古屋市の北方約四軒にあり北は丹羽郡岩倉町に接す。全村、地形低平にして北境には庄内川支流西南流し、東南境にも同河支流西南へ流る。米・麥・藪を産す。東部に南北に通ずる縣道あり、其東に之と並行に社線名古屋鐵道通じ、徳重・西春(以上は大正元年

設置)・九之坪(大正二年設置)の三驛あり。この地はもと拾箇庄と稱せし地にして、明治三十九年上拾箇・下拾箇・九之坪の三村を廢して本村を置く。〔國靈社〕大字徳重に鎮座。郷社。祭神、大國魂命。奉唱國內神名帳に「從三位國玉天神」と見ゆるものこれなり。例祭、八月二十三日。
ニシハルチカ 西春近村 長野縣信濃國上伊那郡の西部。天龍川西岸に沿ひ伊那町の南に接す。胸ヶ岳(二九五六米)の東山麓を占め、西より東へ傾斜す。東部河岸には水田・桑園拓げ農産盛なり。生糸・藪の産物最も多く、米・麥これに次ぐ。東部を南北に社線伊那電鐵及び三州街道貫走し、前者の下島・深渡・赤木(何れも大正二年設置)の三驛を置く。この地は和名抄、伊那郡小村郷の内なるべく、近世春近庄と稱せしが、いま東西二村に分る。
ニシヒラタ 西平田村 山形縣羽後國飽海郡の西南部。酒田市の東南に接し南は最上川を隔てて東田川郡に接す。面積六・三二方軒。庄内平野の略中央部に位し、全村平坦なり。最上川は南境を西流す。庄内米の産多し。道路は北部を東西に通じ、西方省線羽越本線酒田驛へは約三軒。東方砂越驛へは約四軒あり。此地は和名抄、飽海郡秋田郷の内なり。
ニシヒラナイ 西平内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。小湊町の西に接

し、西は青森津に面す。南境に西より高森山(三八七米)・高地山(三六六米)・前高森山(三四三米)・東北境に北より笹森山(二四一米)・水ヶ澤山(三二三米)ありて中央に傾斜し、全村概ね山地をなす。盛田川は南部に發源し東北に流る。西部海岸は山地迫りて岩石海岸を爲し奇勝に富む。米の産あり。道路及び省線奥羽本線は中央部を東西に通じ、東方奥羽本線小湊驛へは約四軒あり。この地は津輕侯の御番所ありし所。明治天皇、明治九年奥羽巡幸の時、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際この地に行幸あらせらる。
ニシヒツジマ 西枇杷島町 愛知縣尾張國西春日井郡の西南部。庄内川の右岸に沿ひ東及南は川を隔てて名古屋市の西北部に對す。地形平坦にして東及南の境界に沿ひ庄内川西南流す。西境には一支流ありて西南に流れ約二軒先に庄内川に合す。米・麥・蔬菜等を産し特に枇杷島大根は有名なり。南部には名古屋市より西西北方一宮市方面へ通ずる國道あり聚落之に街村狀に並びて市街地をなす。其東部には之より北走する縣道あり丹羽郡岩倉町・布袋町方面に出づ。省線東海道本線中央を横切りて枇杷島驛(明治三十九年設置)あり。東部には社線名古屋鐵道の西部本線南北に走り、下小田井(大正元年設置)・枇杷島橋(明治四十五年設置)の二驛を置く。毎朝立つ枇杷

島の蔬菜の市場は風に世に知られ、蔬菜間屋數十戸は頗る盛況を呈し、熱田の魚市場と併稱され、集菜園は濃美平野の西春日井・中島・海部・葉栗・丹羽の諸郡の産は悉くこの市場に集まり、特殊なる野菜・果實類は西は九州、北は東北地方及び北海道産のものも集まる。名古屋を第一の販賣園とし、京阪神及び東京地方へも移出す。本町はもと下小田井と稱す。近年商工の家集集して名古屋市の枇杷島町に連接するを以て一市街をなす。舊郡役所の所在地たり。
ニシフ 西府村 東京府武藏國北多摩郡の南部。府中町の西隣にて、多摩川の北岸。南は川を隔てて南多摩郡多摩村・七生村と相對す。全村平地にして北半は如地多く、南半は水田をなす。養蠶・農業行はれて藪・米・麥を産す。甲州街道は村の中央を西走し、社線京王電氣鐵道は東南部をかすめて西走し、中河原驛を置く。また社線南武鐵道は中央を西走して、本宿(昭和六年設置)・西府(昭和四年設置)の二驛を置く。〔小野神社〕大字本宿に鎮座。郷社。祭神、天下春命・瀨織津比咩命。元慶八年五位上を授けられたる式内小野神社に充てらる。中世府中大國魂神社より社務を攝行せりといふ。例祭、九月十五日。
ニシフ 西保村 山梨縣甲斐國東山梨郡の西部。甲府市の東北方約八軒。南北に細長く、北隅は國師ヶ嶽(二五九二

米を境に長野縣南佐久郡に、西北は中五
摩郡に、西南は山梨郡に隣接す。北よ
り西南にかけ、金峰山脈の一支脈連立し
地勢高峻にして山林に富む。聚落は概ね
南部にあり養蠶・林業に従事す。繭・桑
を主産物とし、北部山林へは林用手押軌
道を通じ木材を伐出す。その他麥・米の
産も多少あり。またライオン鐵を産す。里
道によりて省線中央本線下部驛へ約十
軒、交通便ならず。此地は中世牧場とな
りしにして、東鑑に「建久五年三月、
甲斐國武河御牧駒八匹參着、被_レ經_レ御覽
可_レ被_レ進_レ京都」とある武河牧は即ち夫
れなり。村内に存する城址は安田遠江守
義定の要害なり。

ニシフクロ 西袋村 福島縣岩代國

岩瀬郡の東部。須賀川町の西北に隣る。
全村概ね丘陵地をなし、北部に滑川の一
支東流して滑川に合す。西南部には釋迦
堂川東北に流れ、須賀川町に入りて阿武
隈川に合す。米・繭・麥・大豆・粟・粟草等
を産す。道路は村の中央部を西北より東
南に通じ、東南方須賀川町、西北方白方
村へはバスの便あり。本村はもと西川村
袋田村を合せしもの。(米山寺經塚)指定
史蹟。大字西川字坂ノ上米山寺にある村
社日枝神社の裏山に存す。ほぼ圓形にし
て高さ〇・七五米、徑約二・四二米あり。
明治十七年發掘し頂上より約一・五一米
にして方約〇・七五米の組合せ廣室を發
見、内部よりは銅製短筒・鏡蓋・刀身等

を檢出す。同時にその地獄きの土中より
多數の遺品を出せるが中に米山寺施入在
路の經筒あり。共に昭和十一年九月國寶
に指定せらる。遺址は略原形の儘保存せ
られ、藤原末期の經塚の構造を徴するに
足る。

ニシフジシマ 西藤島村 福島縣

井藤越前國吉田郡の西南端。福井市の西
北に隣り、東は中藤島村に、南は足羽郡
東安居村に、西は坂井郡本郷村及び丹生
郡西安居村に隣接す。西部に三〇〇米餘
の山地あるも他は殆んど土地低平、越前
平野の中心部に當る。九頭龍川は北境を
西流し、西部山地の東麓に近く日野川北
流し西北端にて九頭龍川に合す。平地は
灌漑の便よく地味肥え米・麥・西瓜等の
産多く特産に蠟・蘆草あり、西部山中の
大字深谷は薪・松茸の産も少からず。縣
道は東北を南北に延び西南部を通じ、福
井市にバス通じ、社線三國蘆原電鐵また
貫通し田原町驛(昭和十二年設置)・西福
井驛・八ツ島驛・新田塚驛(以上昭和十
年設置)を置く。この地は和名抄、足羽
郡川合郷の地にして、舊藤島郷の西の一
部分を占め藤島保の名は鎌倉時代より史
上に見え、黒丸の城をも藤島城と稱せ
りともいふ。この黒丸の城は藤原の足羽
七城又は黒丸五城の一と稱せられ、その
跡わづかに遺る。大字三郎丸は昔は祇王
の里と稱し平相河清盛に召されし白拍子
祇王祇女の屋敷地あり今も尙祇王堂を發
見す。大字深谷は糸魚川の藩祖松平直聚の
隠家のありし所として有名なり。今は深
谷の何處に在るか定からず。元來直聚は
松平光通の男なるに何故か父子の對面す
ら許されず當國に隱居す。のち越前國を
忍び出で一族但馬守直良を頼みて關東に
降り父の卒後越前守の男なる由を訴へ延
寶三年五月十八日將軍に謁しつち越後糸
魚川一萬石を領す。(新田塚)大字三ツ
屋にあり。境内六百有餘坪。三國街道の
側面、田中の一小森にあり。新田義貞の
戦死せし地なりと傳ふるも新田義貞の戦
歿地は中藤島村なるべし。(藤島神社御
旅所)大字牧ノ島にあり。福井市藤島神
社址。明治十四年より同三十四年迄同社
の社殿を存せしが、同年五月福井市の現
地へ遷坐し此の地を御旅所として永く保
存せらる。(小黒丸城址)大字黒丸に在
り。足羽七城の一。足利高經の居城。延
元四年七月十六日官軍東西の諸手相集り
六千餘人、黒丸の五ヶ城を差狭めて攻め
たりしが河合孫五郎降人となりて烟の手
に屬す。乃ち此勢を合せ十六日足羽の乾
なる小山によりて夜もすがら圍を作り後
陣の勢あつたらば攻入らんと見せしに足
利高經城に火をかけ加賀に落ちぬ。のち
朝倉廣景之に住す。土人中に丸に二を入
れたる紋所を使用する者多し。皆足利高
經の末孫也と稱す。(土橋城址)大字土
橋にあり。甲斐八郎の居城にして朝倉放
登に攻落さる。(長安寺)大字牧ノ島に

ニシフタミ 西二見 三重縣度會郡

大字小川寺にあり。古義眞言宗・小川山。
高野山金剛峯寺末。もと當村小川寺塔頭
の一。小川寺は聖武天皇天平十八年行基
の開創に係る。歴朝の御數倍厚くその勸
願所として屢々繪旨・勸額等を賜ひしが、
近世衰頹著しく、いま僅に舊小川寺塔頭
光學坊・蓮藏坊等ありて當寺と共に僅に
その舊址を止む。

ニシフトミ 西太美村 富山縣越中

國西礪波郡の南部。射水川の一支出矢部
川左岸。福光町の西南方約三軒にあり。
西は醫王山(九三九米)を境に石川縣河北
郡に隣す。地勢西より東へ傾斜し、東
部を小矢部川北流す。平地は東北部に開
け水田をなす。米を主産物とし、次いで
繭・藥品の産あり。河沿ひに一條の道路
通じ省線中越線福光驛へ約五軒。バスの
便あり。

ニシフン 西分

【西分村】香川縣讚岐國綾歌郡の中部。
讚岐山脈北麓に位し仲多度郡琴平町の東
方約九軒にあり。全村山地をなし東南境
に陣ヶ峯(四一〇米)、西南境に城山(四
三一米)聳え、中央には高鉢山あり。總
じて北部に低し。米・麥等を産するも林
産多し。山間の僻村なるため村道四方へ
通ずるも交通不便なり。此地は和名抄、
阿野郡山田郷の内。

あり。寛永十四年松平忠昌の創建。舊藩
の頃射技を習はせし所。十一面觀音は寛
永年中底喰川の流より出現し、何事にて
も一日祈願すれば叶はずと云ふ事なし故
に一口觀音の稱あり。宗旨眞言。境内に
鷹を彫せし燈籠あり。寛政八年藤原由首
の作にて種々の傳説ありて有名なり。

ニシフワラ 西藤原町 三重縣

伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈の東
斜面を占め、阿下喜町の西北約三軒にあ
り、西は滋賀縣愛知郡に界す。西南境の
藤原嶽を主として山脈西北に走つて西境
を劃し東北へ傾斜面をなす。東北部は伊
勢平野東北隅の平坦地開け員辨川に注ぐ
細流東へ流る。農を主業とし全戸數二六
六戸中一九〇戸之に従ひ副業として養蠶
行はれ繭の産多し。其他、生石灰製造と
木炭製造等の工業二八戸、雜貨商・飲食
店・文房具・旅館(一七戸)等の商業その
他自由業あり。社線三岐鐵道の終點驛西
藤原驛(昭和六年設置)あり。この地は和
名抄、員辨郡石加郷の内なり。

ニシフセ 西布施村 富山縣越中

下新川郡の西北部。魚津町の東方三軒
餘。片貝川の支流布施川の左岸。立山火
山群の末端をなす四一五米の丘陵地帯
東南より西北に傾斜し、北境を布施川西
に流る。平地は河岸に僅に開け水田をな
す。農業を主とし米・西瓜等を産す。副
業として養蠶行はれ繭の産多少あり。省
線北陸本線魚津驛へ約四軒。(心蓮寺)

ニシヘイジョー 西平壤 朝鮮總督府

鐵道京義本線の一驛(昭和四
年設置)。平安南道平壤府仁興里にあり。
【西別】古郡名。明治十三年五月閉伊郡
を東西中南北に分けしとき置く。明治三
十年四月南閉伊郡と合して上閉伊郡とな
りて今日に至る。

ニシヘツ 西別

【西別川】北海道根室國の南部の川。根
室國西境西別嶽(八〇〇米)の東南麓に發
し、ポンベツ・オンベツ・シカルンナ
イ等の諸川を合して野付郡内を東流し根
室灣に注ぐ。流程約八〇軒。上流地方は
概ね丘陵地にして、中下流は低濕なる平
地を小蛇行す。河口には別海村發達す。
流域は未開地多きも、近時殖民施設漸
次興りて農收盛んなり。

ニシヘツイン 西別院村 京都府

都府丹波國南桑田郡の西南部。龜岡町の
西南約四軒にあり、西及南は大坂府豐能
郡に界す。全村山地。丘陵處々に蟠り、
中央南部に鴻龜山(六七九米)あり。東南
境は湯谷ヶ嶽(六二二米)の山地をなし、
北部は雲ヶ嶽(五三六米)の山地なり。
その間所々に僅小なる谷あり。西北部に
は大例川北流し、雲ヶ嶽の北を繞りて

ニシホ 西保村 石川縣能登國鳳至

郡の西北部。外浦海岸に面す。輪島町の
西南約五軒。鳳至山地の末端部を占め全
村二一三百米の丘陵にして、二小流西北
に流れ海岸は概ね岩石海岸にして平地に
乏し。漁業・農業・林業等行はれ、米・
繭・漆等を産す。海沿ひに一條の里道通
じ他の一條は大屋村に至る。交通概して
便ならず。この地は和名抄、鳳至郡小屋
郷の内。

ニシホタカ 西穂高村 長野縣信

濃國南安曇郡の北部。穂高嶽の東北方常
念嶽(二六六二米)の東斜面を占め、穂高
町の西に接す。西部より中央へかけて山
岳重疊し、東部僅に平坦となり松本平に
續く。村内に發源せる二小河は東南境を
なす烏川に會し、東北に流れて犀川に入
る。聚落は東部に散在し、養蠶を主生業
とし次いで農業行はる。繭・米・麥の物
産あり。省線大糸南線の相矢町驛(大正
四年設置)あり。この地は和名抄、安曇
郡八原郷の内にして、中世穂高庄と稱せ
し地なり。水利家として名ある等々力孫
一郎(贈從五位)は松本市に生れ、本村の
等々力家の養嗣となる。

ニシホリエ 西堀江

愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を合併し桃栗町を置く。桃栗町は同年外一町二村と合し新川町を置く。

ニシホノメ 西本梅村

京都府丹波國船井郡の南部。東北方園部町との間に摩氣村を挟み、南は南桑田郡に接し西南は大坂府豊能郡の北側に界し、西は兵庫縣多紀郡に隣る。東南境に牛國山(七七四米)、西境には深山(七九二米)あり、村内處々に山地丘陵起伏して其間に稍廣闊な谷間が低分水嶺によりて各谷連り北部には東西に互る谷あり。西北部には岡部川の支流東北流し東北部の谷には河川西北流するありて中央北部を北流する小河を入れ北方約四軒にて之に合す。米・麥・繭・木材・工業あり。北部の谷に縣道東西に走り中部及西部には之より分れ各河川に沿ひて北へ向ひ岡部町に至る縣道ありバスの便あり。「琉璃溪」指定名勝。溪の深さは左迄なきも美しき溪流岩に激し、處々奔瀾飛瀑をなし、鳴瀧・千秋瀧・座禪石・雙龍瀧・玉走盤・水晶簾・會山巖等の勝あり。

ニシマイズル 西舞鶴

京都府舞鶴市の別稱。東方の東舞鶴市に對する稱呼。

ニシマキ 西馬城村

大分縣豊前國宇佐郡の中央東部。宇佐町の南に接し東南は遠見郡に界す。東・南・西の三面は御許山・雪ヶ嶽(六五四米)・米神山・火藏

ニシマズル 西水橋町

富山縣越中府新川郡の西北部にありし村。大正四年本村ほか七箇村と合併して大正村を建つ。

ニシミカワ 西三川村

新潟縣佐渡國佐渡郡の西南部。小佐渡の西海岸を占め、南は小水町に東北は眞野村に接す。背後に山脈を負ひ二〇〇米前後の

ニシマシズ 西益津村

静岡県縣駿河國志太郡の東南部。瀬戸川下流の左岸にあり、東は焼津町、西は藤枝町に接す。大井川アルタの北部に當り、土地肥沃にして氣候よく農業盛なり。米を主産とし次いで茶・繭その他工業物・畜産物も多少あり。縣道東西に走り、焼津町へ約二軒、バスの便あり。この地は和名抄、益頭郡益頭郷の内にして、中世は益頭庄に屬す。大字田中には田中城址あり。また比較的主計長にして黄海大海戦に功を樹てたる石塚鑄太(贈正五位)はこの地の人。「田中城」大字田中にあり。舊名を徳乃一色といふ。永祿年中今川氏の臣長谷川正長本城を守る。元龜元年武田氏これを奪ひ、田中城と稱す。天正十年武田氏滅亡の後、徳川氏の臣高力清長入りて守る。中村一氏當國を領するに當り、其將横田村詮を置く。慶長五年駿府の番城となり、寛永十年松平忠重封ぜらる。尋で水野忠喜・松平忠晴・北城氏重・西尾忠照・酒井忠能・土屋政直・太田資直・内藤一信・土岐頼殷等交々封ぜられ、享保十五年本多正矩これを領し、四萬石を

ニシマタマ 西眞玉村

大分縣豊後國西國東部の西部。兩子山西麓を占め、西北は周防灘に面す。東部及び南部は山

ニシマツウラ 西松浦郡

佐賀縣八郡の一。肥前國の西部。北は伊萬里灣に臨み西は長崎縣北松浦郡に界す。西境には國見山・西岳を中心として南北に山脈連りて長崎縣との境界をなし、其他郡内處々に山地・丘陵起伏し東境より南境には八幡山(七六四米)・眉山(五一八米)・黒岳(三七二米)・青螺山・黒髮山(五一八米)・杵島山(四四七米)等の山地概ね各々單獨に聳り、中部には大陣山(二六九米)・國見岳(一一七米)・大野岳(四二四米)・大平山(二一八米)・腰嶽(四八八米)等各處に懸居し其間に低地・盆地をつくる。西部には西境山地の東麓に稍廣闊な

ニシマチ 西町

石川縣鳳至郡にありし村。明治四十一年本村ほか二村と共に町野村を建つ。

ニシマツカ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミナミカタ 西南方村

鹿児島縣薩摩國川邊郡の西南隅。薩摩半島の西南端に位し西及南は東支那海に臨み、東は枕崎町に北は加世田町に界す。數列の丘陵村内を東北より西南に連りて海上に延びて半島狀に突出し、北に唐ノ碑、中央に細代鼻、南に峰ヶ崎、坊ノ碑あり、其間に久志浦・泊浦・坊ノ浦等の深き稍廣闊なる灣を抱き、その灣頭に夫々同名の聚落あり。灣岸に低地開けたるも概して平野乏し。水産業發達してその産額多

ニシミナト 西湊

石川縣能登國鹿島郡の中部。七尾灣南灣に面す。東南は七尾町に西は和倉町に接す。鹿島半島の東半部を占め、東へ大杉崎を突出す。全村概ね一〇〇米前後の丘陵地帯をなし東北部に稍平地あり、漁業及農業を主産業とす。東北部を省線七尾線及縣道並走し、和倉驛に近し。七尾・和倉間のバスも通す。この地は和名抄、能登郡加島郷の内。大字赤浦附近は鮮新統に屬する赤浦層の發達せる所。大字津向附近は洪積統又は下部沖積統に屬する津向貝層發達す。「長崎寺」曹洞宗。初號、寶圓寺。俗稱、山の寺。天正六年前田利家の建立。國寶、絹本前田利奉像。

ニシミナツカ 西宮輪村

長野縣信濃國上伊那郡の西部。伊那町の西北方約三軒。木曾山中、經ヶ岳(二二九六米)の東南麓を占む。西北部は山林・草原多く、東部は段丘狀緩傾斜地にして桑園多し。桑園又東部に散在し、養蠶業を主産業とし、米・麥の耕作これに次ぐ。中央を南北に里道通じ、東方へ數條の道路を分岐す。社線伊奈電鐵の北段、伊那北兩驛へはいづれも四一五軒を隔つ。

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミズハン 西水橋町

富山縣越中府新川郡の西北隅。東西を白岩川・常願寺川の河口に扼され、東は白岩川を隔てて東水橋町に接し、西は常願寺川を境に上新川郡に隣し北は富山灣に面す。土地平低にして南部には水田あり海岸は砂濱をなす。古來泊舟地として榮え、製菓業と漁業を以て生命とす。農業は殆ど米作なり。國道に沿ひ、縣道四通し交通至便にして富山市・東水橋町へバスの便あり。省線北陸本線水橋驛は町の

ニシミズハシ 西水橋町

富山縣越中府新川郡の西北隅。東西を白岩川・常願寺川の河口に扼され、東は白岩川を隔てて東水橋町に接し、西は常願寺川を境に上新川郡に隣し北は富山灣に面す。土地平低にして南部には水田あり海岸は砂濱をなす。古來泊舟地として榮え、製菓業と漁業を以て生命とす。農業は殆ど米作なり。國道に沿ひ、縣道四通し交通至便にして富山市・東水橋町へバスの便あり。省線北陸本線水橋驛は町の

ニシミズノコ 西箕輪村

長野縣信濃國上伊那郡の西部。伊那町の西北方約三軒。木曾山中、經ヶ岳(二二九六米)の東南麓を占む。西北部は山林・草原多く、東部は段丘狀緩傾斜地にして桑園多し。桑園又東部に散在し、養蠶業を主産業とし、米・麥の耕作これに次ぐ。中央を南北に里道通じ、東方へ數條の道路を分岐す。社線伊奈電鐵の北段、伊那北兩驛へはいづれも四一五軒を隔つ。

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

地にして東南部に約二五〇米の高さを有す。西北部は沿岸低地開け海岸は平直にて遠淺なり。農産・林産を出す。西部低地に縣道走り南北にバスの便あり。海運は不便なり。この地は和名抄、岡部郡津守郷の内か。弘安岡田帳に「眞玉莊七十町宇佐彌勒寺領眞玉次郎能信跡」とあり、即ち眞玉莊の内にして近世この莊を上中眞玉、東西眞玉の四村に分ち、明治二十二年西眞玉・大平の二村を以て本村を置く。「八幡神社」大字西眞玉に鎮座。郷社。祭神、足仲彦尊外二神。社記に元正天皇の養老年中の創立なりと傳ふ。例祭九月廿五日。

ニシマツウラ 西松浦郡

佐賀縣八郡の一。肥前國の西部。北は伊萬里灣に臨み西は長崎縣北松浦郡に界す。西境には國見山・西岳を中心として南北に山脈連りて長崎縣との境界をなし、其他郡内處々に山地・丘陵起伏し東境より南境には八幡山(七六四米)・眉山(五一八米)・黒岳(三七二米)・青螺山・黒髮山(五一八米)・杵島山(四四七米)等の山地概ね各々單獨に聳り、中部には大陣山(二六九米)・國見岳(一一七米)・大野岳(四二四米)・大平山(二一八米)・腰嶽(四八八米)等各處に懸居し其間に低地・盆地をつくる。西部には西境山地の東麓に稍廣闊な

ニシマチ 西町

石川縣鳳至郡にありし村。明治四十一年本村ほか二村と共に町野村を建つ。

ニシマツカ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシミヤナガ 西宮永村

福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

り。地形極めて平坦にして西約一軒に沖ノ端川西南流す。米産多し。柳河町に近き爲交通便なり。「八幡神社」大字吉富に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。もと舊藩主立花邸内に鎮座ありしを、後西院天皇寛文年間柳川城主忠茂、この地を選びて社殿を新築しこれに遷座す。例祭、十一月十一日。

ニシムカイ

西向町 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南部。古座川河口の西岸に位して熊野灘に臨み、川を挟んで古座町・高池町に對し西は西牟婁郡串本町なり。西北部最も高く北境には重疊山(三〇二米)あり。村は其山地の東南斜面をなし南部海岸に山麓迫り砂濱所々に連る。東境には古座川東南流し熊野灘に注ぐ。米・繭・柑橘等の農産及び工業・水産・畜産あり。縣道海岸に沿ひて走り古座町に通ずるバスの便あり。省線紀勢中線海岸を通過して古座・紀伊姫(共に昭和十一年設置)の二驛あり。昭和十年町制施行。古へは今の古座町と共に古座浦の汎稱を以て呼ばれし處。

ニシムゲ

西武藝村 岐阜縣美濃國武儀郡の西部。武儀川に沿ふ。美濃町の西方約八軒。西及び南は山縣郡に界す。東北部・西南部に四一五米の丘陵を負ひ、村内略中央を武儀川東南に流れ流域に多少の平地開く。農業・製紙・養蠶業盛なり。武儀川に沿ひ東方美濃町及び南方岐阜市へ縣道通じバスの便あり。この地

は和名抄、武藝郡跡部郷の内に於て、近世は佐野郷・富永郷と稱せし地なり。

ニシムサシ

西武藏村 大分縣豊後國東國東郡の西部。兩子山の東南斜面を占め、西北は山頂を隔てて西國東郡に界し、東南は西安岐町に接す。西北より東南に細長き村なり。西北境に兩子山(七二二米)聳え、それより二條の山嶺東南方に延びて東西兩境を限り、中央に淺き谷開け安岐川支流東南流す。西岸に水田を見、西側傾斜地には畑地及び山林あり。米・繭・麥等の農産及び木材・木炭の林産あり、特産に竹材・椎茸あり。北部には東西に縣道通じ中央の谷沿ひに走る街道は東南方安岐町へ出で社線國東鐵道安岐驛へ通じ自動車の便あり。此地は和名抄、國崎郡武藏郷の内に於て、奈良朝・平安朝の頃迄は宇佐宮領、のち大友氏の臣、吉弘氏の所領、文祿中は杵築藩領、幕末は松平氏の封邑たり。「八坂社」大字小久保に鎮座。村社。祭神、健甕須佐之男命・大己貴命・少彥名命。天承二年の勳請と傳へられ、古來糸永・恒清二ヶ村の産土神たり。江戸時代、領主松平氏歴代の崇敬あり。例祭、七月二十八日。

ニシムタ

西牟田村 福岡縣筑後國三潁郡の東部。久留米市の南方約四軒にして南は八女郡羽犬塚町に接す。筑紫平野の一部を占むるため、全村地形平坦なり。米の産多し。街道四方に通じ東部には省線鹿兒島本線南下し西牟田驛(昭和十三年設置)あり。西部は和歌山縣に屬す。明治十三年五月和歌山縣に屬する分を東・西牟婁の二郡とし、三重縣に屬する分を南・北牟婁の二郡として今日に至る。※牟婁(郡)

ニシメ

西目村 秋田縣羽後國由利郡の西部。本莊町の南に接し、西は日本海に面す。東南境に天拜山(三五七米)あり。西北方に傾斜し、西目川は天拜山麓に發源して西北に流れ、村の北部に於て日本海に注ぐ。北部海岸は砂濱をなし、南部は山地迫る。村の中央部には耕地拓けて米を産す。酒田街道は北部より南に海岸の狹隘を南下す。省線羽越本線の西目驛(大正十一年設置)あり。この地は和名抄、飽海郡由利郷の内に於て、近世は西目郷と稱せらる。濱館は山利氏の古跡なり。本村及び院内村・平澤町に鐵區跨りて重要鐵山たる旭院内鐵山(石油)あり。※院内村

ニシメヤ

西目屋村 青森縣陸奥國中津輕郡の西南隅。弘前市の西南約一五軒。西は西津輕郡、南は秋田縣に接す。面積二四五・三〇方軒の大村。南境には西より脈森嶽(九八七米)・小岳(一〇四三米)・冷水嶽(一〇四三米)・尻高森(九七七米)あり。西境には四兵衛森(六四二米)・高倉森(八二九米)あり、東北方に傾斜す。南境よりは大川・大澤川・湯ノ澤、西境よりは暗門川各發源し、合して岩木川となり東北に流る。全村概ね山地

十二年設置)を置く。この地は和名抄、三潁郡田家郷の内なり。西牟田氏は伊豆彌次郎家綱入道行西の高孫にして此地に在名を稱せしもの。

ニシムモ

西武茂 栃木縣那須郡にありし村。明治二十八年武茂村と改稱。古地名。和名抄に球磨郡西村郷と見ゆ。その地今の球磨郡西村の邊に當る。

ニシムラサキ

西紫 福岡縣全救郡にありし村。明治四十一年本村を廢し大字蒲生及び今を全救村に、大字篠崎・小字蒲生を板橋村に合併す。全救村は大正六年町制を布き、昭和十二年九月小倉市に合併し、板橋村は大正十一年町制を布きしも、同十四年八幡市及小倉市に編入す。

ニシムラヤマ

西村山郡 山形縣羽前國の中部。西北は東田川郡、北は最上郡、東は北村山郡・東村山郡、南は西置賜郡に隣接す。面積九三三・八九方軒。越後山脈の東斜面に屬し、西北境に月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)、西境には赤見堂嶽(四四六米)・大楡原山(三三六六米)・陣子ヶ嶽(一四八一米)、西南境に寒江山(二六九五米)・龍門山(一六五七米)・西朝日嶽(一八一四米)・大朝日嶽(一八七〇米)、北境に葦草森山(一〇二七米)・葉山(一四六二米)あり。東方に傾斜し東北部は山形盆地に屬して平坦なり。最上川は郡の南部より東北部に向ひて流る。寒河江川は西部山地に發源し郡

ニシメラ

西米良村 宮崎縣日向國兒湯郡の西部。日向山脈の東斜面に位し一ツ瀬川の上流地を占む。北は西臼杵郡に隣り南は東諸縣郡及び西諸縣郡に接し西は熊本縣球磨郡に界す。面積二七二・三八方軒を有する山村。西境には市房山(一七三二米)・牧良山(九九六米)等の高峰聳えて村界をなし、北境の石堂山(一五四七米)よりは山嶺東南方へ連り烏帽子嶽・赤嶽山等を起し次第に高さを減じて東北境を限り、南境にも掃部嶽(一二二三米)・國見山等聳えて、村内峻嶽重疊す。一ツ瀬川は北方僅かの地點に發して市房山と石堂山との間の急角度の巒谷を南下し村を東南に貫きて迂曲曲折す。西境に發する一支流流下して中央にて之に合し東部には石堂山に源流する小川川東

の北部を東流して最上川に合す。兩河の中間には月布川東流し最上川に合す。寒河江・月布・最上の三河谷には各耕地拓く。全部に互り米・繭の産多し、東北部寒河江川の扇狀地には草履表の産多し。道路には最上・月布・寒河江の三河谷を通ずるもの及び西北部を南北に通ずるものあり。左澤町・寒河江町・谷地町は此等道路の會點に當る。東北部に省線左澤線通じ寒河江・羽前高松・左澤等の諸驛あり。羽前高松驛よりは社線三山電氣鐵道分岐し、寒河江川に沿ひて、羽前宮田・海味・間澤等の諸驛あり。郡の東北端谷地町へは省線奥羽本線神町驛より社線谷地軌道通す。本郡は明治十三年五月村山郡を東西南北の四郡に分ちて置けるもの。

ニシムロ

西牟婁郡 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。紀伊半島南端の西岸を占め東北隅は僅に奈良縣吉野郡に接す。全部略東北より西南に走れる紀伊山系に屬する山岳連立し、北境には果無山脈ありて東より千丈山・安塔山・和田森・笠塔山(以上一〇〇〇米以上)・特平山・虎ヶ峰等の峻嶽聳ゆ。此等の山地より發する河川は峡谷をなして西南に向つて流れ海に入る。即ち西北部には今津川ありて田邊灣に入り、富田川は東北隅安塔山に源流して果無山脈の南を西南流し、其南の分水嶺(千丈山・大塔山・悪四郎山・政城山・分領山・大尾嶺・夢野森山・城山・行徳山・鹽津山等東北より西南に

ニシム

前流して一ツ瀬川に合す。東東嶽嶽を以て耕作地とせしが明治中期以來、木材の値生すると共に愛山の念起り植林思想普及するに及び焼畑作自から減少し、河岸其他に帶廣程の平地あれば之を開き田畑として食料の自給を計る。然し、村中約五分の一は今尙造林を目的とし焼畑作をなす者あり。氣風一般に放漫なる點あり。舊藩時代は菊池氏の領なりしが山民一千戸悉く士族を以て遇せし所なるを以て山知行其まゝ今日及び村内に官山なし。山民、皆山よりの収入によりて生活し比較的生活安定なり。特産には茶・椎茸・楮皮・コンニャク・木炭・木材等あり。中央を東西に横斷する縣道西は山地を越えて熊本縣に及び東は省線妻線杉安驛方面に通じてバスの便あり。もと米良村と稱せしが、いま東西二村に分る。掌櫃の志士、甲斐右膳(贈正五位)・同大藏(贈正五位)は共に本村の人。「天包鐵山」海拔七五四米のところに位す。硫化アソチモニーを出す。「米良神社」大字小川に鎮座。郷社。祭神、大山祇命・岩長姫命。社傳に磐長姫この地の御池淵に投じて死し給ひしを以て、之をこの地に祀る。往時神寶として毛髮を存せしが、元祿十六年大洪水の際流失せりといふ。例祭、陰曆十一月二十五日。

ニシモズ

西百舌鳥 大阪府泉北郡にありし村。大正八年本村及び中百舌鳥村を廢し百舌鳥村を建つ。

並ぶ)を距てて日置川が東北部千丈山に發して西南流す。東部中央は那智山脈西部の山地にして大塔山・法師山・入道山・百間山・半作嶺・高嶺山・大森山・赤土森山・水垣内山等の高峰屹立して西に流下する幾多の河川は日置川に注ぐ。那智山脈の東南部海岸近くは東西に連る一連の山脈は釜山脈にして其西部には周參見川西南流す。郡の東南部に突出せる潮岬は實に本州島の最南端をなし、海岸は五岩・怪石海に臨み或は斷崖をなし太平洋の怒濤岩をかみ雄大な風景を展開す。其西南端に燈臺あり。山脚海岸に迫りて平地なく、小屈曲に富めども好箇地乏しく、西北部の田邊灣に田邊港、東南端に串本港あるのみなれど、臨海温泉地帯にて白濱・湯崎・椿等の有名な温泉多く南國情緒を滿喫するに絶好の地なり。産業は林業を主とし所謂木の國にして沿岸は耕地なき代り南海型の無霜・無雪地帯にして養蠶盛なる所なり。又水産漁獲も多し。交通は概して便ならず、海岸には能登街道通じ、東方へ北部には田邊町より河谷を縫ひ或は峠を越えて走る熊野中邊路あり。富田川に沿ひて西北部にて兩者を結ぶ朝來街道、東南部には周參見川に沿ひ東方に走る古座街道等あり。省線紀勢西線は西岸に沿ひて南下し周參見町まで開通せり。東南部は串本町よりは同紀勢中線東北に延ぶ。北部は山中には林用軌道線もあり。牟婁郡は明治の初より二分し

ニシモナイ 西馬音内町 秋田縣

羽後國雄勝郡の西北部。湯澤町の西方約八軒。地勢南部に高く北方に傾斜し、南半部は山地をなすも、北半部は横手盆地の一部をなして平坦なり。西馬音内川は北部を東北に流る。町民の六割餘は農業にて、米・蕎麥を産し、酒の醸造行はる。道路は町の北部より北方及び東方に通じ、東南方の湯澤町へはバス頻繁に通ふ。奥羽本線湯澤驛へは約九軒あり。社線雄勝鐵道西馬音内驛(昭和三年設置)を置く。この地は和名抄、雄勝郡雄勝郷の内にして、明治三十三年町制を布く。當町と山田村とに跨りて重要鑛山なる松岡鐵山あり、鑛種は金・銀・銅・鉛・亜鉛なるが、昭和十年には金銀鑛三一、一〇一處を産す(松岡鐵山参照)。(佐藤信淵)本村の人。農政學者。字は元海。信季の子。學古今東西に涉り經濟民衆を説き、航海貿易の大利、海防外交を論じて一世の耳目を驚かす。のち幕府の忌諱に觸れて江戸を遁放せらる。著書三百種に及ぶ。嘉永三年八十二歳にて歿す。(佐藤信淵)本村の人。農政學者。信淵の祖父。農政・博物究理を修む。専ら心を經世にひそめ利用厚生を説く。享保十七年歿、年五十九。贈從五位。主著、土性論・山相學。

ニシモロカタ 西諸縣郡 宮崎縣

日向國の西南部。國見山脈の東南及南斜面より霧島火山群に亘る一帯の地域を占め北は熊本縣球磨郡に接し西は鹿児島縣

伊佐郡及姶良郡に界す。國見山脈に屬する小白髮岳(一一八三米)・國見山(一一一七米)・ジョーゴ岳(九八〇米)・萬年青ノ平(九四七米)・國見山(八六一米)・百貫山(六九三米)・瀧下山(七九〇米)等の峻嶺々々東北より西西南に連りて北部山地をなし、東部には其山地が東南方へ擴がりて西ノ俣山・國見山・大森岳・七熊山等の峻嶺多く、その間に大淀川支流綾南川・楠園川等東南流す。西部には國見山連嶺の南に東西に稍細長き廣潤な盆地開け、こゝに川内川西流す。西南部は霧島火山一帯の地にして高千穂峰(一五七四米)・韓國嶽(一七〇〇米)・獅子戸嶽・白鳥山・矢岳・夷守嶽・瓶岳・栗野岳等群居し、火山には火口湖多し。その裾野高原北方及東方へ擴がりて東北山麓(村の中央)に小林町の盆地ありて岩瀨川北部より南下する支流を入れて東南流し、東南境に出でて大淀川に合し東に下り東方宮崎市を流れて日向灘に注ぐ。霧島火山には白鳥官林、東部山地には内山官林・楠園官林・重永官林等ありて村内森林に恵まれ林業發達す。盆地は農産物多し。又原野廣き爲牧畜も發達す。其他鑛物・水産物等もあり資源豊富なり。郡内小林町・高原町の二町外五ヶ村を含み、小林町の如く人口密度一四五人を算する所もあれど多く山村なれば平均密度は八八人に過ぎず、東北部の須木村の如きは一人に過ぎず、東北部は中央盆地を流れて横斷し東方宮崎縣道に中央盆地を流れて横斷し東方宮崎

ニシヤ 西谷 神奈川縣都築郡

市と西北方熊本縣人吉盆地を結び、又南方へ分れて鹿兒島縣へ出づるものも數條あり。省線吉都線霧島火山の北を繞りて西南部に走り南方都城市と西方肥後線吉都驛とを結ぶ。諸縣郡は二分して一は鹿兒島縣に入り南諸縣郡と稱し、一は宮崎縣に入り北諸縣郡と稱す。明治十七年一月北諸縣郡を北西東の三郡に分けし時本郡を新置して今日に至る。(※諸縣郡)ニシヤ 西谷 神奈川縣都築郡にありし村。昭和二年横濱市に編入さる。何鹿郡の中部。綾部町の東北に接し南北に細長き村にして中部は東西の約一軒に狹まり北部及び南部にて巾を增す。全村丘陵處々に横はり其間處々に小低地あり。北部に發する小河南へ貫流し南部にて西南折し西約二軒にて由良川に合す。田畑よく拓け米・麥を産し養蠶また盛にして蕎麥を出し外に鶏及卵、飲食器其他の工産品及び薪・木材・畜産・水産あり。南部に縣道走りて綾部町と北方舞鶴市方面へ通じ北部にも四方へ通ずる縣道あり。省線舞鶴線南部を走りて綾部驛(西南方約二・五軒)に近し。和名抄に何鹿郡八田郷とあるは本村及び東八田村に當る。(鳥萬神社)大字中筋に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴命。相殿、大那牟遲命・少那彦命。式内の鳥萬神社に充てらる。例祭、十月十一日。(岩玉寺)大字七百石にあり。古義尊音宗。高野山寶城院本。

ニシヤツシロ 西八代郡 山梨縣

(甲斐國)九郡の一。富士川の左岸に沿ひ、北隅は笛吹・釜無兩河の合流點を占め中央原郡に接し、西は富士川を境に南五原郡に、東北は東八代郡・南都留郡に、東南半は御坂山脈を以て駿河國富士郡に接す。面積四一〇・三六方軒。南北に長く北半は中廣く南半は狹し。北部市川大門町附近は甲府盆地の西南端を占め多少の平地あるほか郡内山岳重疊す。富士川は西境に沿ひ富士狭隘二十餘軒を急流し河岸見るべき沖積地なし。東北には本栖・精進兩湖を湛へ富士西南麓青木ヶ原を含む。農業・養蠶・林業等を主産業とするも産額多からず。蕎麥主産物とす。次いで木材・木炭等を出し西部諸村には

ニシヤマ 西山

盛岡市の西約一三軒、西北は秋田縣仙北郡田澤村に接す。面積一九四・三三方軒の大村。岩手山(二〇四一米)の西南麓に位し、北境には鬼ヶ城山(一七〇六米)・黒倉山・犬倉山・大松倉山・三ツ石山・八瀬森等の一五〇〇米余の山嶺連り、西境に曲崎山・大白森・小白森山・烏帽子嶽(乳頭山)・三角山あり、この末端に平ヶ倉山(一〇六六米)・高倉山(一四〇九米)・小高倉山(一一二二米)聳ゆ。平ヶ倉山の支葛根田川は西北山地に發し、東南部駒木野にて分流を分ちて南流し、黒澤川は東南境を南流し平ヶ倉川に合す。平ヶ倉山の東部山中に平ヶ倉沼あり。北・西部は山岳重疊するも、東南部は駒木野の原にて廣き原野連り、葛根田川・黒澤川流域の沖積地には水田發達す。昭和十一年の産業總額は四三一五四一圓にて、うち農産額は三〇九千圓、畜産額は一九千圓、林産額は九千圓、工産額は五千圓なり。農産は米を第一とし大小豆・牧草お

まび野草・麥類(大麦・小麦・燕麥)あり、外に雜穀・蔬菜等あり。林産には用材・木炭・薪炭材等あり。街道は各河川沿ひに通ずるも交通便ならず。(網張温泉)泉質、硫酸黄。一名帝釋温泉とも稱し、岩手山に連る湯ノ嶽の網張なる地より二・三軒餘間を引湯す。硫黄湯とて以前は網を張りて入浴を禁じ居りしを以て網張の稱あり。(葛根田玄武洞)北上川の支流平ヶ倉川に注ぐ葛根田川の北岸、柱狀節理の發達せる玄武岩の絶壁下部に位し、高さ九米、幅五〇米、奥行一五米の洞窟にして、洞内無數の燕棲息す。

【西山村】

山形縣羽前國西村山郡の北部。白岩町の西に隣り、左澤町の西北約七軒。北部は最上郡に接す。北境には草草森山(二〇二七米)を初め山地連りて、南方に傾斜し、南境を寒河江川東流す。全村概ね山地をなす。米・蕎麥・木炭を産し、また銅・亞鉛等の鑛産あり。道路は南部を東西に通じ、東方省線左澤線羽前高松驛へはバスの便あり。この道路に並行して社線三山電氣鐵道通じ、石田・陸合・海味(以上は昭和十五年設置)・西海味・間澤(以上は昭和三年設置)の五驛あり。村内にウツリ瀧(高さ一五米、巾五米)・稻荷瀧(高さ一五米、巾五米)・金山瀧(高さ一五米、巾五米)等あり。村内に四十八萬餘坪の鑛區を有する三永鑛山あり、鑛種は金銀銅亞鉛なるが、昭和十年には金銅鑛二、三〇六處、この價額十七萬五千圓

ニシヤマ 西山

をだし重要鑛山に屬す。また村内に鑛區二十二萬餘坪を有する小山鑛山あり、鑛種は金銀銅にて昭和十年には金銀八四八處、この價額三萬六千餘圓を出し重要鑛山たり。なほ本村と白岩町とに跨り鑛區九十一萬餘坪を有する幸生鑛山あり、鑛種は金銀銅亞鉛とす。本鑛山また重要鑛山に屬し、白岩町と最上郡八藏村とに跨る永松鑛山と合併施業せらる。

ニシヤマ 西山

【西山油田】 越後(新潟)油田五區の内最も大規模なる油田。名稱は信濃川を中心とし、その東方にある諸山丘を東山といふに對し、西方の諸山丘を西山と稱すとも、また一説に長岡市の西なるゆゑ西山といひ、東なるを東山と稱すといふ。油田は凡そ北方、三島郡出雲崎町附近より南方、刈羽郡柏崎町附近に至る日本海に近き地域にて、之を系統上更に長嶺・宮川・尼瀨・高町・中央・七日市の六油田に區分せらる。現在産油せらるる地域は、省線越後線の石地驛より西山驛に至る線路と略並行しその西方に横はる。即ち此處に二條の並行する油田ありて、その東方なるを鎌田長嶺油田、西方なるを後谷宮川油田と云ひ、前者を更に便宜上、灰爪・伊毛・鎌田・長嶺・入和田・瀧谷の六油田にわち、後者を西ヶ崎・後谷・宮川の三油田に分つ。地質は第三紀にて鎌田長嶺油田の地層は西方に下降し、油井の深度は一五〇一、七〇〇米、後谷宮川油田の

地層は東方に急降し油井の深度は二〇〇七〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘にて鑛井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米國式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其概概して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽鑛山を中野興業會社が、鎌田鑛山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。【西山鑛山】 ↓ 二田村(新潟縣)新潟縣刈羽郡二田村にあり。【西山村】 山梨縣甲斐國南五原郡の西北隅。富士川の一支出早川上流に沿ふ。西は赤石山脈の主脈白根山諸峯を境に静岡縣安倍郡に、北より東は一分脈を境に中五原郡に隣接す。村内山岳重疊し地勢高峻、早川は中央を稍東寄りに南北に貫流し峡谷をなす。聚落谷沿に散在し里道を以て連絡す。古來外部との交通不便なりしたため産業文化の發達遅々たりし村の

中部にある西山温泉発見するに及び次第に開發せらる。養蠶・農耕・製炭等値かに行はる。社線富士身延鐵道下山波高島驛にて下車、富士川を渡船にて渡りその上流原村まで自動車の便あり、それより早川に沿ひ廿三軒、隣村三里村まで工場用軌道あり、更に七八軒は徒歩による。交通今なほ不便なり。この地はもと奈良田村と稱せしが明治二十五年西山村と改稱す。〔西山温泉〕泉質、弱食鹽泉。療養向。古くは山梨縣第一の温泉にして古湯・新湯の二泉に分れ、日本南アルプス白峯三山への登山口に當る。

【西山村】三重縣紀伊國南牟婁郡の西部。北山川に沿ひ新宮市の北方約一六軒にあり。北方は川を隔てて東牟婁郡飛地に界す。南境には白倉山(七〇六米)、東境には大入平山(六六八米)ありて地勢概して東南部に高く、村内も山岳重疊し高峻なり。北山川は東南境に發する村内の水を入れて北境に沿ひ迂曲しつゝ西南流す。沿岸峡谷をなし低地に乏し。寒落は南部に多く、赤木・長尾・平谷の三大字あり。赤木・長尾は農を主とし平谷は大部分日傭人なり。山間の僻村にして交通不便なり。この地は古の大和國吉野郡北山郷の入口に當るより俗に北山郷と呼ばれし處。北部の大字小森は、いま吉野野國立公園に屬す。

より西國街道へ出づる道を西山街道といふにて知らる。粟生にある光明寺を眞宗西山派といひ、善養寺の山號を西山といひ、眞宗久遠寺を西山御坊と稱する類はこれより起りしものなり。世俗西山巡りと稱するはこれ等乙訓郡にある名刹舊蹟を訪ねることにて、即ち大原野・花の寺・小鹽・善峯・三箇寺・粟生光明寺・柳谷・長岡より山崎の天王山に至る間をいふ。

【西山村】岡山縣備前國赤磐郡の南部。岡山市の東北五軒余に位す。西部及び南部は四〇〇—四五〇米の山地をなすも北及び東は平坦な低地開け、東境に吉井川支流南流す。米・麥・蕎麥を産し、清酒の産多く生柿・薄荷の特産あり。東部に縣道縱斷し岡山市へバスを通す。この地は和名抄、赤坂郡鳥取郷に屬せしものとす。

あり。〔片庭姫奉禰發生地〕指定天然記念物。古來姫奉禰の發生地として著名なり。姫奉禰は大神とも稱し東洋區系に屬するものにして本邦に於ては極めて稀なり。毎年七月上旬より下旬に互り多數發生し椎の老樹に集りて合唱す。〔稻田神社〕大字稻田に鎮座。縣社。主祭神、奇稻田姫命。相殿神、經津主命外四神。俗に姫宮といひ、古くは稻田姫社、井上神、握神、國主遠祖神とも稱す。往昔新治國造某その祖の祭れる奇稻田姫命を遷祀せるをその創建と傳ふ。式内大社に列し、往昔は社領多く社運隆昌たりしも、中世兵火に罹りてより稍々衰頹、元祿年中に至りて徳川光圀は本社を崇敬せられ除地四石餘のほか種々奉納する所ありしと。例祭、十一月十七日。〔西念寺(稻田禪房)〕大字稻田にあり。眞宗大谷派。稻田御坊・稻田草庵ともいひ、古來親鸞東國教化の根本地として著名なり。稻田の領主たりし稻田親重が從弟賢從法師を遣はして越後國分寺に配流されし親鸞を招じて、吹雪谷に黒木の草庵を作りて住せしむ。これより嘉禎元年歸洛の時まで親鸞ここに住すること十數年、その間「教行信證」の著述に従ひ、元仁元年脱稿するや謂ゆる筆止めの名號を書き、親鸞の歸洛後、妻惠信尼はここに留りて親重房教養(親重)の子、法興房教念と共に大いに教養を蒙る。萬治三年東本願寺末となる。

ニシヤマダチ 西山口村 静岡縣遠江國小笠郡の中部。掛川町の東に隣接し、東北は東山口村に接す。北部及び南部には二百米以下の丘陵性山地あり、中部を窪川西南に流れて、流域に沖積地あり。中部低地は田畑よく開け米・麥・蕎麥を産し丘陵地は茶を栽培す。國道東海道は窪川に沿うて通じ、東海道本線は南部を貫通し掛川驛(掛川町地内)にバス通す。この地は和名抄、佐野郡山日郷の内。

ニシヤマシロ 西八代 佐賀縣肥前國西松浦郡にありし村。昭和十一年山代と改め同時に町制を布く。

ニシヤマナシ 西山梨郡 山梨縣(甲斐國)九郡の一。縣の中部。荒川の左岸一帯の地にして、南は笛吹川との合流點に及び、中に甲府市を抱く。南北に細長く、東は國師ヶ嶽より分岐せる一條の山脈を以て東山梨郡に、西は荒川を境に中五郎郡に、南は笛吹川を以て東八代郡に界す。面積僅か九八・三六方軒の小郡にして甲府市により南北に切斷さる。北部は山岳重疊し西境荒川の谷に迫り御嶽鼻仙峽の勝景をなす。南部は荒川・笛吹川の沖積により肥沃なる平野開け甲府盆地の略中央を占む。北部山地には森林繁茂し南部平地には水田多く山麓部には養蠶盛なり。省線中央本線は中央甲府市を東西に貫通し、南西へ社線富士身延鐵道を分岐す。國道は肥前國に横切し、之に交關し南北に走る縣道は昇仙峽上流に

ニシヤマウチ 西山内村 茨城縣

常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の一部を占め、南境に吾國山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の都合にして細き平地をなし、米・麥を産す。また大理石の産地として有名なり。縣道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を設く。この地は和名抄、新治郡五神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

まで通じバスの便もあり。郡内九箇村を含む。本郡は明治十三年五月山梨郡を東西二郡に分けて置きしもの。

も亦これに因る。金州に起る社線金福鐵道は西南部十三里屯にて遠東線と交叉し、東北に向ひ、會の東部に廣寧寺驛を設け、道路また四通し交通便なり。

城郡富田村と大府南河内郡山田村に跨る圓錐形活火山。雄岳・雌岳及び白銀峯より成る。前二岳は頂上部の鐘狀丘にして、雄岳は雌岳の北東に續き、第三峯は北側の寄生丘なり。最高點五七五米。基底は片麻岩質花崗岩より成る。この火山は第三紀末より洪積期に互りて活動し、瀝青岩・含栝榴石乃至黒雲母安山岩・古銅石安山岩等を順次噴出し、雌岳・雄岳及び白銀峯は最も新しき讃岐岩より形成さる。山中に觀岩・抱岩・岩窟等の奇岩あり。また所々に瀑布懸る。雌岳の中腹には島山氏の據りしと云ふ城址残る。雄岳・雌岳の中間に通ずる山道は岩屋越と云ひ、險阻なる道なり。今は主として雌岳の南方鞍部を東西に横斷する竹ノ内峠(最高點二八九米)の山路に依りて交通行はる。

南は應見郡に接し、西は山日縣河武郡に界し須佐町は西六軒餘にあり。村内山地丘陵到るところ起伏し西南境に最も高くして五五七米の山峯あり。東北部及び西部に稍狭長なる低地あり。米・蕎麥・用材・木炭・畜産及び瓦等の工業を産す。北部に東西に道路走り東は中西村に入りて北走し益田町へバスを通す。この地は和名抄、美濃郡美濃郷に屬せしものといふ。〔八幡宮〕大字上黒谷に鎮座。郷社。祭神、磐田別命外二神。豊前國宇佐宮の分靈を勧請せりと傳ふ。例祭、十月二日。

西八幡 鹿兒島本線の驛(昭和二年設置)。福岡縣八幡市にあり。

ニシヤマノ 西山野 山野東郷の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣伊佐郡山野村にあり。

ニシユサ 西遊佐村 山形縣羽後國飽海郡の西部。酒田市の北方約一〇軒。西は日本海に面す。全村に互り海岸の砂丘南北に連りて耕地少なし。蕎麥・米を産す。秋田街道は東部を南北に通じ、南方の酒田市へはバスの便あり。羽越本線遊佐驛へは東方約三軒あり。この地は和名抄、飽海郡遊佐郷の内にしてもと茫茫たる砂濱なりしが領主酒井氏砂防の設備をなし、溝を通じ田圃を拓きしより住民安定す。

ニシヨカ 西與賀村 佐賀縣肥前國佐賀郡の南部。北は佐賀市に接し南は有明海に臨む。全村地形低平にして埋砂の如き平野をなし西境に沿ひて本庄江南流して海に入る。米の産多く外に麥・蕎麥の産もあり。佐賀市へ縣道通じバスの便あり、尙ほ同市へ通ずる國道敷設計畫あり。この地は和名抄、佐嘉郡城崎郷の内。

ニシヨコノ 西横野村 群馬縣上野國碓氷郡の南部。松井田町の南隣にして、妙義山の東北麓を占め、南は北甘樂郡の一部と隣す。妙義山の東北の山裾を占め、北境に碓氷川東流す。川沿ひに耕地ありて米・麥を産し、また養蠶盛にて蕎麥を産す。縣道松井田町に通じ、同町にて中山道に合す。また省線信越線は北部を西走するも村内に疎なく、松井田町に松井田驛を置く。この地は和名抄、碓氷

ニシヤワタ 西八幡 鹿兒島本線の驛(昭和二年設置)。福岡縣八幡市にあり。

ニシヨ 二上山 奈良縣大和國北葛城郡の西部。金剛山脈の東斜面に位し、高田町の西北方約四軒。西は山嶺を隔てて大阪府南河内郡にあり。西部は山地にて西境には寺山(二九四米)聳え、南部は南隣富麻村の西境に屹立する二上山の山麓をなし地形概ね高燥にして東部に耕地拓けたり。米・麥・蕎麥を産す。縣道南部に西北より東南に走り北部に社線大阪鐵道線東西に通過し南部には同じく支線東西に通す。この地は和名抄、葛下郡賀美郷の地ならんといふも詳かならず。〔大坂山神社〕村社。祭神、大山祇命。式内大社。例祭、八月二十五日。

ニシヨ 二城 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し守山町を置く。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二上 奈良縣北葛城郡の西部。金剛山脈の東斜面に位し、高田町の西北方約四軒。西は山嶺を隔てて大阪府南河内郡にあり。西部は山地にて西境には寺山(二九四米)聳え、南部は南隣富麻村の西境に屹立する二上山の山麓をなし地形概ね高燥にして東部に耕地拓けたり。米・麥・蕎麥を産す。縣道南部に西北より東南に走り北部に社線大阪鐵道線東西に通過し南部には同じく支線東西に通す。この地は和名抄、葛下郡賀美郷の地ならんといふも詳かならず。〔大坂山神社〕村社。祭神、大山祇命。式内大社。例祭、八月二十五日。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

ニシヨ 二條 山陰本線の一驛(明治三十年設置)。京都市中京區西ノ京梅尾町にあり。〔二條大路〕平安京の東西に通ぜる大路の一。大内裏の南。幅十七丈。朱雀大路に次ぐ幅廣き大路。今京都市中原區に二條通としてその名稱残り往時の二條大路の内を通る。二條城・二條家などの名はこれに因む。

郡磯部郷の内。大字人見の邊を人見原と稱し、この原より東南、礫米・甘藷・片岡の郡界に渉れる山野を横野原と稱し、和歌の名所なり。弘治三年武田信玄、礫米峠を越えて、上野に入る。北武蔵・西上野の諸將、長野信濃守を大将とし、四月、大に飯尻の地に戦ひ、遂に長野の軍敗北して箕輪に退けり。この飯尻の地或は横野原の地なるべし。

ニシヨコボリ 西横堀 大阪の川名。

西横堀川の略。土佐堀川と道頓堀川とを南北に通じ、東横堀川と並行し、現今、東區、南區と西區とを縦斷す。冥土の飛脚・上「金懷中に羽織の紐、結ぶ霜夜の門の口、出馴れし足の癖になり、心は北へ行く思ひながらも身は南、西横堀をうか／＼と、氣に染み付きしよれが事、米屋町まで歩み来て」

ニシヨコヤマ 西横山 大阪府泉北郡にありし村。明治三十六年東横山村と合併して横山村を建つ。

ニシヨシタ 西吉田 省線越後線の一驛(大正元年設置)にして彌彦線の接続點。新潟縣西蒲原郡吉田町にあり。

ニシヨシトツト 西吉富村 福岡縣豊前國築上郡の東部。中津市の西南約一軒にありて東北より西南に細長し。西南部は西南方に聳ゆる飯坂山(八〇七米)より延びる一山脚の北麓をなし、西南境に約四〇〇米の高度を有す。東北部に中津平野の一部を占めて地形平坦なり。西北

ある河原平野に位す。西北部に三〇〇米程度の丘陵あれども、其他は肥沃なる低地にして、加古川は東境及び南境に沿ひて曲流し、西南隅に合す。農産物を主とし米・裸麥・小麥・蔬菜・花卉・葉煙草・果實・鶏卵等を産し、其他木製品・針・双物・皮革製品・瓦・醬油・履物・蠶・蠶製品・製茶及び沿岸漁獲物あり、水産養殖行はれ、また古來播州織を以て名高し。西南部に南北に通ずる縣道あり、それより分れて中部を東北に貫通する道路との分岐點に市街地發達す。社線播丹鐵道中部を東北に貫き新西脇驛(重春村内)あり、また南方野村より一支線出でて西部を北上し西脇驛(大正二年設置)あり。本村は郡中面積最小なれども人口九、八四六人を擁して最も多く、人口密度一、二九七人にして、本郡平均(一六四人)に比し甚だ稠密なり。大字津萬附近には播磨風土記に應神天皇の故事を傳へたる鈴堀山あり。この地は播磨風土記に見ゆる都麻里にして、同書に播磨刀賣と丹波刀賣とが國を擧する時、播磨刀賣この地に至りて井水を汲みて之を飲み、云はく此水に味ありと故にこの地を都麻里(都麻は字麻に通ず)と名づく。明治二十二年町村制施行の際、津萬村と云ひしが、大正六年町制施行の際、西脇町と改む。〔大津神社〕 津萬に鎮座。郷社。祭神、品陀別命・氣長足姬命・大津乃命。延喜

ニシワ——ニシワ

境内沿ひ佐井川の清流東北流し北隣東吉宮村を流れて海に注ぐ。村内池沼多し。低地は田畑よく拓けて米・麥等の産多く外に林産あり。低地は交通開け社線宇ノ島鐵道東北部を西北より東南に横斷す。

ニシメツ 西吉見村 埼玉縣武蔵國比企郡の東北部。松山町の東隣にて、北は大里郡の一部と隣接す。大部分は低き丘陵地をなすも、東境附近より南部にかけては平地開け、南境には荒川の支流市ノ川東南方に流る。農業行はれて米・麥を産し養蠶も盛にて繭を多産す。松山町及び北方の北足立郡吹上町に縣道を通じ、松山町には東武鐵道東上線の武州松山驛、吹上町には省線高崎線の吹上驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、横見郡高生郷の内にして大字田甲は郷名の遺稱なるべし。村内に松山城址・吉見の百穴・百穴の光輝等あり。〔松山城〕 大字北吉見に址あり。いま其の地を根小屋と稱す。應永年中、扇谷の臣、上田左衛門尉の創業に係る。天文六年七月、上杉朝定、北條氏綱のために其の居城川越城陥り、逃れて當城に入る。當時、城には扇谷の被官たる難波田彈正善時居る。同十四年十月より足利晴氏の兩上杉と合して川越城を圍む時、當城を根城とせしが、十五年四月、戦ひ敗れ上杉朝定・難波田善時等討死す。北條氏康の軍、勝に乗じて之を略し、堀和利部少輔を置く。時に太田資時、若槻城にあり、上田政廣と謀り、

同年八月夜襲して後、之を取り、政廣及び太田下總守・廣澤尾張守を置く。責時の歿後、上田は北條氏に通じ、再び北條氏の有に歸し上田を以て城代となす。永祿五年、太田資正、上杉輝虎に應じ、復た此城を略し、上杉謙勝を置く。同十二月、北條氏康・武田信玄と共に之を陥れ、また上田氏をして守備せしむ。小田原の役に、留守居の將士難波田木呂子等、前田利家・上杉景勝のために圍まれ、四月降る。次いで徳川家康、當城を松平家廣に與へしが、慶長六年、家廣の遠江濱松城に移るに及び、城遂に廢城となる。城の崖壁に有名なる吉見の百穴あり。〔吉見百穴〕 指定史蹟。松山城址の北方丘陵の西側面に二百餘箇の横穴、凝灰岩の岩肌を露出せし傾斜面の殆ど全面に互り相重なる如く密接して營まる。大きき何れも一米乃至三米四方、天井は多く穹窿型にして高さ二米を有し、上古の墓地なり。人骨の外、玉類・直刀・刀子・鐵鏝・齋瓮等發見せらる。〔吉見百穴光輝發生地〕 指定天然記念物。光輝は百穴の一に發生し盛に光輝を放つ。本植物は本邦中部以北の山地にのみ知らるゝが斯く關東平野に發生せるは分布上著しき事實に屬す。〔横見神社〕 大字御所に鎮座。郷社。祭神、健甕須佐男命・櫛田比賣命。式内小社に列し、當國四十四座の一。中世は附近七村の鎮守にして、飯坂水川神社とも稱せり。例祭、四月二十日。〔伊波比

式内の舊社なるも、創建年代おぼし由緒等を詳にせず。明治六年十一月郷社に列せらる。例祭、十月十七日。

ニシワキノ 西脇野村 和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。和歌山市の西北方約八軒、南は紀伊水道に臨む。北境には和泉山脈連し西方加太町に延びて加太の瀬戸に終り、西北隅に四國山、東北隅に甲山あり。東南部は平坦地をなし海岸は西北より東南に連りて平直なる砂濱をなし、東南海岸を二里ヶ濱と言ふ。藩を主として柑橘・米の農産及び綿織物等の工業あれど、水産類第一位を占め、畜産之に次ぐ。南部に加太町・和歌山市を結ぶ縣道走り其の南に社線加太電氣鐵道通じて西庄驛(昭和五年設置)・二里ヶ濱驛・磯ノ浦驛(共に明治四十五年設置)あり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。明治二十二年、西庄・本脇・磯崎・日野の四箇村を合併して村制施行の際各一字を取り西脇野村と名付く。〔木本八幡宮〕 大字西庄に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・日靈大神。創建年代を詳かにせず。日靈大神の鎮座に神武天皇御宇と云ふ。神功皇后三尊より御凱陣の砌この海邊に鎮宮を造り暫く駐紮し給へる遺址に、飲明天皇の朝、詔に依り一祠を營みしを當社の草創と云ふ。或は南部大安寺八幡宮を勧請鎮祀せるものならんとも考へらる。天正十三年兵燹の災を蒙りて今その沿革を詳かにせず。文久元年孝

同年八月夜襲して後、之を取り、政廣及び太田下總守・廣澤尾張守を置く。責時の歿後、上田は北條氏に通じ、再び北條氏の有に歸し上田を以て城代となす。永祿五年、太田資正、上杉輝虎に應じ、復た此城を略し、上杉謙勝を置く。同十二月、北條氏康・武田信玄と共に之を陥れ、また上田氏をして守備せしむ。小田原の役に、留守居の將士難波田木呂子等、前田利家・上杉景勝のために圍まれ、四月降る。次いで徳川家康、當城を松平家廣に與へしが、慶長六年、家廣の遠江濱松城に移るに及び、城遂に廢城となる。城の崖壁に有名なる吉見の百穴あり。〔吉見百穴〕 指定史蹟。松山城址の北方丘陵の西側面に二百餘箇の横穴、凝灰岩の岩肌を露出せし傾斜面の殆ど全面に互り相重なる如く密接して營まる。大きき何れも一米乃至三米四方、天井は多く穹窿型にして高さ二米を有し、上古の墓地なり。人骨の外、玉類・直刀・刀子・鐵鏝・齋瓮等發見せらる。〔吉見百穴光輝發生地〕 指定天然記念物。光輝は百穴の一に發生し盛に光輝を放つ。本植物は本邦中部以北の山地にのみ知らるゝが斯く關東平野に發生せるは分布上著しき事實に屬す。〔横見神社〕 大字御所に鎮座。郷社。祭神、健甕須佐男命・櫛田比賣命。式内小社に列し、當國四十四座の一。中世は附近七村の鎮守にして、飯坂水川神社とも稱せり。例祭、四月二十日。〔伊波比

明天皇は御願の旨ありて正一位を授け寶鏡を進奉し給ふ。例祭、十月十五日。

ニシワサ 西和佐村 和歌山縣紀伊國海草郡の中部。和歌山市の東に隣り紀ノ川の左岸。南部に小丘陵ある外は凡て平坦なる沃地にして、紀ノ川東北部をかすめて西北流し紀伊村に入る。藩・米の農産物及び畜産・工業あり。外に特産として柑橘を出す。省線和歌山線は北部を通過して田井ノ瀬驛(明治三十一年設置)あり。北部を大阪街道・大和街道走り、南部には龍神街道あり、交通便なり。此の地は和佐村と共に中世の和佐莊の地なり。〔岩橋千塚〕 指定史蹟。大字岩瀬、前山にあり。山頂より北斜面に互りて約二軒の間に、大小の圓形古墳約五百基存す。石柙は竇穴式・横穴式の二種あり、構造には往々複雑奇なるものあり、玉類・石製品・鏡・金環・銅鐵・甲冑・馬具・直刀・齋瓮、その他の副葬品を出土せり。

ニシワサタ 西植田 大分縣大分郡にありし村。明治四十年植田村と合し新たに植田村を置く。

ニシワタ 西和田 省線根室本線の一驛(大正九年設置)。北海道根室國根室郡和田村にあり。

ニシワツカ 西和東村 京都府山城國相樂郡の中部北偏。加茂町の北に隣接し、北の一部は綴喜郡に界す。北部及び南部は山地をなし東南境に油屋ノ山(三

八二米)聳ゆ。水津川の支流市川川は中部を西南流し西南部に僅少な低地あり。河成段丘上にも耕地よく發達す。米・麥・茶の産あり。川に沿ひて縣道走り、西南約三軒の省線關西線加茂驛へバスの連絡あり。此地は東和東・中和東と共に中世和東莊と總稱す。萬葉・卷三に安積皇子の薨じ給へる時、内舍人大伴宿禰家持の作れる歌「かけまくもあやにかしこし言はまくもゆゆしきかも……舍人装ひて和豆香山御立たして云々」の和豆香山は和東の地の山を總稱せるものと云ふ。

ニシワラ 西和良村 岐阜縣美濃國郡上郡の南部。八幡町の東方約三軒を隔つ山村にして南は武儀郡に界す。村内五〇〇—八〇〇米の山岳起伏し二川を源流す。一は東流して和良川に、一は南流して神保川に合流す。粟落はこの二川の谷沿に散在す。土壤は粘土質にして農耕に適し、米・麥の耕作、養蠶等行はれ、製炭を冬季副業とす。村内に大山椒魚棲息地あり。八幡町より和良川上流に至る縣道東西に貫通し、省線越美南線羽安驛へバスの便あり。この地は和名抄、郡上郡安都郷の内なるべく或は同郡和良郷の内かともいふ。いま村内に鬼谷スキー場あり、冬季スキー客多し。〔大山椒魚棲息地〕 指定天然記念物。大山椒魚は東亞特産にして、本邦にては本土の西南地方即ち美濃より中國・九州の高地溪流中に棲息す。近時漁獲の結果その蕃殖を害し

減少の傾向あり。和良川支流の水域は其の北限地なり。

ニスイー 一水庄 臺灣臺中員林郡二街七庄の一。郡の南端部、濁水溪流域に位する面積三〇方軒余の小さき庄。西北より東南に延びたる狭長なる地形をなし、東北は南投郡名間庄、西南は北斗郡溪洲庄、西北は田中庄に接し、南は濁水溪を隔て竹山郡及び臺南州斗六郡に對す。東北部に八卦山脈の南端部横はり、西南部に平野を展開す。二水・大丘園・鼻頭・過期・十五の五大字に區分し、庄役場を大字二水に置く。人口一萬二千七百餘。西部平野は地味肥沃にして水利の便に恵まれ、水田よく發達し、純農村を形成す。米・甘藷・煙草・芭蕉・甘蔗・蔬菜・落花生・柑橘・鳳梨・黃麻等を主要農産物とし、副業に豚・鶏・鶯・鶯等の飼育行はる。工業は鳳梨罐詰製造の外見るべきものなし。縦貫線は中央部を縱走し、二水驛(明治三十八年設置)あり、同驛より東方新高郡方面に入る集々線を分岐す。兩鐵道線路に沿ひ夫々指定道路開通し、共に乗合自動車の便を有す。管内はもと總て東螺東堡に屬し、開拓の端緒を開かれし清の乾隆年間(一七三六)に二水は現行制度施行の際、二八水を改稱せしものにして、二條の川が八の字に流れるとの意に出で、濁水溪の一流頭の名より庄名に轉せしものにして、同流の名は乾隆二十九年に成りし臺灣府志(舊纂)に

見え、また道光十二年に成りし彰化縣志に、「二八水渡、一に香檳渡と名づく、沙連と往來通津」とあれば、此頃より同地を起點として濁水溪に瀕り、東方なる沙連の蕃界に舟路を通せしもの、如し。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的大改革と共に、清領時代より存続し來りし堡を廢し、二八水を二水と改稱し、前記五大字(もと各々庄と稱す)を一括して二水庄となり、臺中州員林郡に編入せられたり。

ニセー 二西面 朝鮮全羅南道和順郡の北部。同福面の西隣にて、北の一部は潭陽郡に、西は光山郡に接す。東西約一二軒、南北凡そ六軒。西境に無等山(一六七米)、東境に慶城山(五七三米)屹然として對峙し、余脈域内に連互して平地に乏しく、その間に山間盆地あり。寶城江支流同福川は東部山地を穿入蛇曲流し、無等山に發して城内を東流する支谷を併せ南流す。その慶城西西麓の險崖下を流る處は勝景揚子江の赤壁に勢驚たるを以て赤壁と稱し、朝鮮八景の一に推さる。その上流三軒には勿染の佳景あり。耕地及び聚落は同福川沿岸に多く集まる。産物には米・大麥・大豆・麻布・蜂蜜等あり。僻地に在るを以て道路惡しく交通便ならず。主邑野沙里の東、道石里に定期に開く市場あり。又無等山は湖南の名山にて、西部の永坪里

より登路を通じ、頂に近く地蔵庵あり。

ニセーカウシュベ 一山 大雪山の北方約一二軒、石狩川を距て對峙する山。北海道上川支廳上川郡愛別村に屬す。山峯鋭し。ニセイはアイヌ語にて斷崖を云ひ、山名は断崖を意味す。近年に於ては大正十五年、スキーにて登高試みられ、昭和四年夏、スキーにて成功せり。登山は多く石狩川支流留邊蘆川の枝澤、茅刈別川を南東方に進行す。

ニセコアンヌプリ 一山 北海道、羊蹄山(蝦夷富士、一八九三米)の北西方約一三軒、尻別川を距て對峙する山。後志支廳虻田郡狩太村と倶知安町の境上に在り。標高一三〇九米にして、北枝はイロオメプリ山(硫黄山、一一五四米)に連る。尻別川は東・南麓を廻りて西流し、流域に多くの開拓農場あり。全山笹山なれど、冬季は良好なるスキー地をなす。頂上には岩堆積山あり、硫黄を出す。山麓にニセコアンヌ温泉湧出す。

が後ち合して一となれり。河口また北方、現在の臺南州新豐郡永寧庄喜樹にありし如く、續修臺灣府志卷一に記して「合岡山、紅毛寮二溪、由喜樹港入海、臺風分界處、溪北屬臺南、溪南屬鳳山」と云へり。

ニタ 仁田 長崎縣對馬國上縣郡の西部。西は朝鮮海峡に臨み、仁田灣を抱く。北境には御嶽・トウ坂等の山嶺連りて西岸に迫り、田里生崎・伊奈崎等西南方へ突出して仁田灣の北口を扼す。南境にも木山・高野山・山田山・鹿ノ内山等の連嶺延びて西岸に唐ノ崎北方へ突出して仁田灣の南を擁す。東部には東北方よりつづく鳴瀧山・丸倉山等ありて村内の水を分ち、北麓の水は仁田川となりて西南流し、南麓の河川は西流し河口近くにて之と合して仁田灣に注ぐ。この山地の西麓は仁田灣頭にしてラッパ状に灣口を西に開く。海岸は斷崖をなすも屈曲に富み、仁田灣奥の仁田川河口に仁田港、仁田灣の南部には鹿見港あり。鹿見港は朝鮮貿易のための特別開港なり。林産・水産多し。村道多く通ずれど陸上交通は不便なり。鹿見港より南方鶴知村及び北隣佐須奈村へ定期船の便あり。此地は和名抄、上縣郡伊奈郷の内。

【仁田灣】 仁田村(長崎縣) 【仁田港】 鹿見港(長崎縣對馬島)の別名。 【丹田】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。

和名抄に秩父郡丹田郷あり。その地いまだ詳かならざるも秩父郡野上村・白鳥村の邊なり。

ニタ 仁多郡 鳥根縣出雲國の東端。鳥根縣十三郡の一。斐伊川源流地を占め東は鳥取縣と界し南は廣島縣に接す。郡形略々四角形を呈す。南境に中國山脈連りて毛無山・斐政山(一六八八米)・鳥帽子山・三國山等そびえ、三國山より北方へ連る山脈は船通山・玉峰山等起して東境を限り更に西方へ延びて北境をなし三郡山等あり。西境にも銅ノ巢山(一〇二六米)其他の山峯連り北方へ高さを減す。殆ど山地をなすも總じて西南部に低し。東南境に斐伊川上流室原川發して中央を西北流し途中東北に發する支流を併せ中央西北偏に於て南境に發し西北流する馬木川を合し西北境に出でて北流す。河川流域の處々に僅少なる低地あるも殆ど見るべき平地なし。稍々東部横田附近に盆地あり。米・繭・生牛の産あり。郡内一〇箇村を含み山地にある郡なる爲、人口密度も極めて小さく平均六八人にて最も多き横田村の一四八人を算するに過ぎず。道路は東部に横田村を過ぎてほぼ南北に通じ途中分れて西北方に走り大原郡大東町方面に出で、又西部を南北に走るもの等あれど、概して交通不便を免れず。和名抄は仁以田と註し三處・布勢・漆仁・三澤・阿位・横田の六郷を管す。後世ニタと訓す。出雲風土記に見ゆる仁

多郡は現在仁多郡の地域及び能義郡南西の一部を含みしもの如し。

ニタオ 仁田尾村 熊本縣肥後國八代郡の東部。隔山村の別天地として有名な五家莊の一部。北は下益城郡砥用町に接し、東は葉木村、東南は樺木村・椎原村、西は柿迫村に隣る。千米以上の山地鑿立し、雁岳(一三二五米)・大金峰(一三九六米)・小金峰(一三三七米)ほぼ中部を南北に連互す。川邊用の上流は東南境を西南に流れ溪流を合せるも、山深く平地に乏し。道路は露川に沿うて通ずるも交通便ならず。人口は大正九年四二三人なりしも同十四年三七七人と減少し、以後やや増加し昭和五年には四二七人、同十年五三三人となり、一方耕密度は僅に一六人とす。いま柿迫村・栗木村・久連子村・椎原村・葉木村・樺木村と共に組合町村をなし役場を柿迫村に置く。

ニタク 二竹面 朝鮮京畿道安城郡の東部。郡邑安城の東約一五軒。大部分は低山性の山地にして、西境に徳成山(五一七米)・七賢山・七長山、東境に白雲山・竹林山等連なり、北境には飛鳳山あり、余脈域内に及び、中部の意味峴を分水嶺として北に清美川支流、南に美湖川上支流れ、特に清美川流域には肥沃なる耕地拓く。産物は米・麥・大豆・棉等を主とし、養蠶・果樹栽培行はる。北部には社線京南鐵道京畿線走り、竹山(昭和二年開業)・竹山邑内(昭和六年開業)・梅山(昭和二年開業)の三驛あり、竹山邑を中心として安城・長湖院・龍仁・鎮安の各地へ何れもバスを通じ、交通至便なり。竹山邑は清美川支谷の盆地の中心をなし、米の集散を以て著る。此地は大正三年まで竹山郡廳の置かれし地。邑の北一軒に梅城あり城中に宋將軍の廟あり。附近を山城臺と稱し、將軍宋某が高麗高宗の時蒙古軍の來襲を防ぎ戦死せし地なり。七長山(四九一米)の中腹には曾慧碧の創建にかかる名刹七長寺あり。

ニチケツ 日月面 日向(朝鮮)ニチナン 日南 臺灣鐵道縱貫線の一驛(大正十一年設置)。臺中州大甲郡大甲庄にあり。

ニチハラ 日原村 鳥根縣石見國鹿足郡の北端。津和野町の東北約五軒、北は美濃郡高城村・豊川村・眞砂村・匹見下村に隣接す。面積一二四・五一方軒にて本郡第二の大村。東部に安藏寺山(一〇五六米)ありて最も高く、北部には三子山(八〇〇米)・赤石山等あり。津和野川及び吉賀川は大甲日原にて合し高津川となり西北に流る。なほ中部の山脈は小分水嶺となり須川谷は北流し北境を西流する高津川の一支出見川に入る。概ね山地にして平地に乏しく、河川流域に僅に沖積地ありて田畑開け、木材・木炭も産す。國道山陰道は高津川・津和野川に沿うて走りバスを通す。この地は和名抄、鹿足郡鹿足郷に屬せし地なりといふ。昭和十年日原村・須川村を合併して今日の日原村を建つ。「春日神社」大字日原に鎮座。郷社。祭神、經津主神・武甕土神外二神。古老の口碑に、古くより此地にありし古祠を、寛文十二年三好九郎右衛門なるもの神託を蒙りて社殿を造營すといふ。例祭、四月十三日。「八幡宮」大字瀧元(鎮座。郷社。祭神、多岐理毘賣命外五神。豊前國宇佐八幡宮よりの勸請と傳ふ。例祭、九月十五日。「八幡宮」大

宇池に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二神。古老の口碑によれば、水津運興家祖題門大夫なるもの、治暦元年鎌倉鶴ヶ岡より勤請し小祠を建て、祭り来りしに、のち津和野三本松城主吉見三河守弘信、社殿を營みて累代の氏神として社領五十石餘を寄すと。例祭、九月十五日。

ニツカ 日下面

【日光町】栃木縣下野國上都賀郡の北部。東照宮の鳥居前町として發展せる一大觀光都市にして、古來日光を見ずして結構と云ふ勿れと云はれし程の、その壯麗無比の建築美と、男體山・中禪寺湖・華嚴瀧等の秀麗なる山水美とを併有し、天下の名勝たるの名を恣にし、今やその名海外に著はれ、一年の登見人員七十萬人、社寺參拜人員約四十萬人と稱せらる。面積二六八・〇一方軒の廣大なる地域を含み、東西三二軒、南北一四軒。人口約二萬二千。【地理】北は鹽谷郡の一部、西は群馬縣利根郡の一部と隣接す。西北部には那須火山脈に屬する諸火山ありて日光火山群を形成し、男體山(二四八四米)を中心として、北境には赤難山・女峯山・大眞名子山・小眞名子山・太郎山・山王帽子山等の諸山相連り、西境には白根山(二五七八米)あり。男體山麓には堰塞湖の中禪寺湖(幸ノ湖)あり。東端より流出して華嚴瀧となり大谷川の清流となる。男體山と白根山との中間に戰場ヶ原の草

原をなし、一部は濕原にして高山植物多く、南部には白樺原生林あり。戰場ヶ原の北端には湯ノ湖あり。湯ノ川はそれより出でて、湯瀧・龍頭ノ瀧をつくりて中禪寺湖にそそぐ。湯ノ湖の北方にも蓼ノ湖・切込湖等の湖沼多し。町の南境にも黒檜山(一九四五米)・薬師岳・鳴蟲山等の諸山連なり、町の南部はこれと日光火山群との都合にて、大谷川は多くの支流を集め齋谷をなして東流し、棄落はこれに沿ひて發達す。市街は大谷川の齋谷に沿ひて東西に展び海抜五九三・七米、東西兩部に分れ、西部を西町または入町と稱へ、大谷川の北岸段丘上にありて神城及び住宅地帯をなす。即ち東照宮を始め二荒神社、徳川三代將軍家光を祀れる大猷廟、輪王寺等あり、上記諸神奉仕の職員住宅及び田母澤御用邸・高松宮御用邸その他東京人の別荘あり、含瀧淵に近く東京帝國大學植物園附屬日光植物園あり。東部は東町或は出町と稱へ、神橋を南に渡りたる大谷川南岸の段丘上に位置し、日光停車場より神橋に至る約二軒の參道の兩側に發達せし眞の鳥居前町にして、多數の旅館・茶店・土産物店・交通業等が軒を連れ、殊に省線及び東武電鐵との各停車場前及び町役場附近は鳥居前町の特色一層顯著なり。今や本町は國立公園に編入せられ、且つ前記の如く高野的位置にあるため、夏期と雖も冷涼にして外交團或は京領人士の好む避暑地たり。

り。省線日光線は大谷川に沿うて來り、終點日光驛(明治二十三年設置)を大字日光に置き、社線東武鐵道日光線これに沿うて來り東武日光驛(昭和四年設置)を置く。省線日光線前より大字細尾馬返まで九・七軒間には社線日光自動車電車、馬返より明智平まで一・二軒間には社線日光登山鐵道(ケーブルカー)あり、更に明智平より展望臺間の〇・三軒には空中ケーブルを設く。上野より日光線まで一四六・四軒、二時間半乃至三時間廿分にて達し、宇都宮市より約一時間にて達す。日光街道は大谷川沿ひに來り、更に足尾町及び中禪寺湖に沿うて奥日光方面に街道通じ、自動車の便もよく、日光驛より馬返行・中禪寺行・湯元行・鬼怒川行のバスあり。交通の便極めてよく發達す。【沿革】日光は一に二荒に作り、或は之を訓みてフタラとし補陀洛の字を充つるものあり。稱徳天皇の天平神護二年、下野國芳賀郡の人、僧勝道(俗姓若田氏)大谷川を涉りて北岸に達す。翌年始めて日光山(一に二荒山ともいふ。最高峰を男體山と稱す)の跋渉を企てしが雲霧のため登る能はず、のち十五年、天應元年再び試みてまた失敗し、明年即ち延暦元年春季、更に發願起誓、遂に山頂を極め、ここに四本龍寺・本宮神宮等を創建す。而して四本龍寺の側に一祠を起し二荒山神を祀る、これ後の二荒山神社なり。遂て弘仁元年勅して瀧尾寺の號を賜ひ、

八年勝道の徒教を以て座主職に任ず。これより先、下野國守伊公、任滿ちて京都に歸るに當り、勝道託するに日光山碑文起草を空海に依頼せんことを以てす。弘仁五年十月、空海乃ち求めに應じて撰せしが有名なる「補陀洛山碑文」にして、同十一年に至り空海は徒弟眞濟・幹海などを從へて日光に登山し、勝道の徒、道珍・教安などに迎へられて四本龍寺に掛錫、また山中の勝區を巡覽、龍生瀧には五佛の像を造立、歌の濱には吉祥・彌勒の像を造立、菩提寺・四條寺・寂光寺・瀧尾寺の諸院を創創し、辟除の法、理趣三昧の法を寺主道珍に授けて毎月初中末の三時にその法を修せしめ、つひに二荒の山號を改めて日光と稱せしむ。越えて仁明天皇の嘉祥元年四月、叡山の僧圓仁もまた登嶽、山中を遊觀し三佛・常行・法華の三堂を創立し、爾後逐年支坊を建立して三十六を成すに至り、その總號を一乘實相院と稱し、以て國家鎮護の道場とせり。桓武天皇後三代を通じて采地六十六郷の御寄進あり、治元年開源朝また采地若干を寄附し、七十一郷十八萬石餘、山勢最も盛んにして、山中の寺坊、大坊三十六寺、小坊三百餘舎に達す。仁治元年第二十二世の座主辨覺新に一寺を建立し寺號を光明院と賜ふ。のち應永廿七年座主致玄の報職以後、座主職中絶これより座主職の住職代、被別當と稱して山務を兼當するに至る。天正十八年豐

區秀吉寺領を再建、支院宇相次で復興せられ、家光三代將軍となるに及び天下の力を極めて之を改造し、寛永十一年の幕頃に著手、同十三年四月に竣工す(從前寛永元年起工、同十三年竣工とされしがこれは誤なり)。此時の造營に係るもの三十五所、經費五十六萬八千兩、銀百貫目、米千石なりしといふ。正保以後は毎年四月の大祭には京都より例幣使の下向あり、幕府は日光奉行を置き一山の事を掌らしめ、日光町の庶政、兼て上野・下野の公事訴訟悉く沒收し改めて足尾郷六百石を寄進せしが、爾後山勢漸次衰退し慶長の末年には僅に九箇院を存するに過ぎざるに至る。慶長十八年天海僧正徳川家康の命を以て當山に住し座主第四十八世となりて中興の祖と稱され、越えて元和三年四月徳川家康の遺骸を駿州久能山よりここに遷し、東照大權現と崇め、四年社殿造營、以後、廢を興し絶を繼ぎ、諸舊社皆な美觀を添へ、七年更に本坊を光明院の廢地に造らしむ。歴代の將軍の參詣あるや、その式森嚴莊重を極めたり。慶安四年四月、家光薨するや遺命によりまた此地に葬る。明治元年、幕府の脫走兵大島圭介・沼間新次等、宇都宮に敗れこの地に據る。官軍日光廟を焼いて敵を逐はんとせしも、時に官軍の參謀板垣退助、堅くこれを停め、日光は爲に兵燹を免る。(東照宮)大字日光に鎮座。別格官幣社。祭神、徳川家康。元和二年徳川

家康廟に遷するや、その遺骸を駿河國久能山に葬りしが、遺命に從ひ更にその廟宇を下野國日光山に營み、翌年に至りて其工成るや、朝廷より賜はりし東照大權現の神號を廟前に告ぐ。寛永十一年三代將軍家光、父祖の業を永く後代に傳へんとして大に土木を起し祖廟を修造す。同十三年に至り造營の工成り、その構造の壯麗なる海内無雙と稱せらる。その社領は二代將軍秀忠五千石を寄せしが、四代將軍家綱に至りて更に一萬石に加増せり。元和三年特旨を以て正一位の神階を宣下され、次で奉幣使發遣の事あり、爾來これを日光例幣使と稱し毎年下向の制となる。二代將軍秀忠以降十二代將軍家慶の天保十四年の社參に至るまで、將軍親ら、或はその名代に參拜し、久能山と共に徳川家の二大宗廟として尊崇せらる。社殿の華麗、善美を盡せるは言ふを要せず、すべてこれ精緻を極め妙技を盡す。造營に當り奉行は松平正綱・秋元春朝、大棟梁は甲良宗廣これにあたる。建築の様式に於ては徳川初期といへ、その細部に前代の形式を踏襲せるものあるは、名工平内正信の手に成るもの多きが故にて、彼の祖父爲吉は秀吉の聚樂第の建築に従事し、父吉政また京都方廣寺・豊國神社にその神技を揮ひて名あり。我國佛寺建築と神社建築の折衷をなしたる謂ゆる權現造は之に初まり、社殿の全部はすべて朱塗の極彩色にて、金銀珠玉を鏤

め、精巧なる彫刻を施し、金碧輝耀として眼を射る。一度が廟前に立てば其角の權を握ること三百年、三百の諸侯を脚下に跪かせし徳川氏の榮華と勢威とを眼のあたり見る心地す。社殿の全部は明治四十一年國寶に指定せらる。當社附近の諸街道の並木は、松平正綱が紀州熊野より苗木を取り廿年を費して移植せられたるものにて、大正十一年史蹟に指定せられ、廣潤四萬七千坪の境域と共に更に森嚴を添ふ。當社所藏の寶物また頗る多く、二荒山神社・輪王寺の重寶と共にいま東照宮博物館に出陳せられ、舉て數ふべからず。國寶指定のもののみを舉ぐれば、社殿の全部及び石鳥居、並びに石鳥居内の參道を始めとし、紙本着色東照宮緣起(畫探幽筆)三卷・東照宮緣起三卷(上巻後水尾天皇宸筆)外太刀七口等なり。例祭、六月一日。【二荒山神社】大字日光に鎮座。國幣中社。祭神、二荒山神。僧勝道當山開創に當り、延暦年間四本龍寺の側に一祠を起し二荒神を祀りしに始る。式内名神大社に列す。もと四本龍寺に接して稻荷川の西にありしが洪水の度毎に東岸崩潰せしを以て、嘉祥三年佛光山の南岸に遷座す。此の時より當社を新宮と號し、四本龍寺の舊跡を本宮と名付く。のち更に現地に移す。元和三年當社境内に東照宮の社殿を建て、神主、社僧等兩社に兼務せしが、明治維新の後ち當社及び東照宮、輪王寺の二社一寺に分離

す。此地は東照宮に接し來園翠林の妙麗しく高野嶽・三本杉等の巨木その中に聳ゆ。別宮本宮は神橋の對岸上にあり、別宮瀧宮神社は本社北にありて、本社と共に日光三所權現といふ。中宮祠はこの三社を一社に合祀せるものにして、中禪寺湖畔に鎮座し、奥宮は男體山の頂上にありて眺望最もよく、こゝにも二荒山神社・太郎山神社・瀧尾神社あり。殿宇中、本殿・拜殿は國寶。他の社寶中、國寶に指定せらるるもの、銅燈籠一基を始め太刀九口あり、中一日を除くほか何れも銘を有す。例祭は四月十三日より同十七日まで、俗に日光祭と稱せられ官祭なり。【大猷院廟】大字日光にあり。徳川家光の靈廟にして輪王寺の所轄に係る。慶安四年家光薨するや其の遺命によりて酒井忠勝監督のもとに三年の時日を費して承應二年竣工す。堂塔の配置、様式、手法は殆ど東照宮と同様なれど、規模稍々小さく裝飾また簡素なり。その建造物は一括して國寶に指定せられ輪奐壯麗を極む。(輪王寺)大字日光にあり。天台宗。一に日光門跡といひ舊瀧尾寺本坊たり。天平神護二年勝道の山内に四本龍寺を創建せしに始る。弘仁元年瀧尾寺の勅號を賜はり爾來一山の總稱となす。のち空海こゝに來りて二荒山の稱を改めて日光山とせしといはれ、圓仁また來錫して昌禪と共に坊舎三十六を興し、一山の總號を一乘實相院と改む。その後延應二年

座主辨覺、本坊光明院を建立す。元和三年徳川家康の遺骸を久能山より日光山に遷し東照大権現と稱してより一山の勢威大いに振ふに至る。承應三年後水尾天皇の第三皇子一品守禮法親王、公海の後を繼ぎてこれを管領し、詔によりて輪王寺宮を稱し給ひ、爾來本坊光明院を輪王寺と呼ぶに至る。堂宇中の一、立木觀音堂は中禪寺湖畔にあり、別に補陀落山中禪寺と號し坂東三十三所第十八番の札所たり。堂宇中、國寶に指定せらるるものに三佛堂・相輪棟あり。立木觀音堂本尊千手觀音像(木造)一軀は國寶、他の寺寶中、東照權現像八幅(紙本着色)を初め十四點の國寶を藏す。輪王寺三佛堂の前に金剛樓と呼ばるる櫻一株あり、根廻約五・七米根元より三大支幹に分る。黄芽白花芳香あり山櫻の珍しき品種にして天然記念物に指定さる。〔華嚴瀑及中禪寺湖〕華嚴瀑・中禪寺湖。〔金剛樓〕日光町輪王寺。〔湯元温泉〕日光町立公園。〔日光並木街道〕指定史蹟。日光東照宮への參道は三方面に分たれ、北よりするものを會津街道(縣道今市若松線)、東よりするものを御成街道(縣道宇都宮今市線)、南よりするものを例幣使街道(縣道鹿沼今市線)と稱す。この三街道はいづれも日光の東約四軒なる今市にて會し、日光街道となり日光町に入り山内に達す。この街道の並木はその起原相當古く、東照宮創建以前にして、そのう

ちの或るものは恐らく二荒山神社參道の殘存物をも含めるもの如し。而し現在見る杉並木の大部分は東照宮建立後、寛永の初年に家康以來將軍の近臣なりし大河内正綱によりて植樹せられたるものなり。正綱幼少より家康に仕へ並々ならぬ恩顧を受けしを以て、その薨後は送葬改葬の際をばじめ、社參及び山内の事務に携はり、報恩的行爲を示せしも、その最も顯著事例として杉並木寄進を思ひ立つに至れり。かくして前記三街道の兩側並に山内に延長十里の植樹をなし、爾後二十餘年の星霜を経て成就するに至れり。而して山内及び街道の起點三箇所各々正綱の名による奉納文を刻せる碑を立てたり。そのうち山内神橋にあるもの全文次の如し。自下野國日光山菅橋至同國都賀郡小倉村同河内郡大津村同國郡大桑村歷二十餘年植杉於路邊左右并山中十餘里以奉寄進。東照宮。慶安元年戊子四月十七日。從五位下松平右衛門大夫源正綱。他の三碑もほぼ同文なり。街道の幅員は凡そ三間に互る路面の左右に並木敷を設け、その幅員各々一方に於て狭きば二間より廣きは十三間に及ぶ。その高さ路面と等しきものあり、また高く堤防形をなして數町の長きに達するものもあり、そこに立つ並木は殆ど全部杉樹なるも、後年植樹のため若干の檜・松等も混在す。その數約一萬八千本を數へ今に美觀を呈するも、就中日光・今市間及び

例幣使街道に於て顯著なり。次に前述の寄進碑は俗に境石ともいひ、しばしば多少舊位置を移動す。山内のもの最も大にして、高さ九尺五寸・縱一尺五寸・横二尺三寸五分、他の三碑はいづれも同形、高さ五尺一寸五分・縱一尺三寸五分・横一尺五寸、共に臺石を添ふ。大正十一年三月、街道並びに寄進碑とも史蹟に指定せらる。〔明治天皇馬返御小休所〕指定史蹟。明治天皇、明治九年、奥羽御巡行の際、六月九日ここに御小休あらせらる。〔明治天皇七日御小休所〕指定史蹟。明治九年、奥羽御巡幸の際、六月六・九日の二回ここに御小休あらせらる。〔明治天皇日光行在所〕指定史蹟。明治九年、明治九年奥羽御巡幸の際六月六・七・八日の三日間ここに御泊あらせられたり。〔日光植物園〕日光驛の西二軒半の地點にあり。東京帝國大學理學部に屬し、園内にアスナロ・シラベ・シラビソ・ハビヤクサン・コメツガ・ツガ等の樹木を植ふ、その間にジャクナゲ・ナカカマド・トウキボウシ・サハゲルミ等あり、凡べて名稱を記せるにより、日光附近の植物名を知るに便なり。五月一日より十一月末日まで觀覽を許す。園内に御用邸の御庭石を下賜せられて作れる大正天皇行幸記念碑あり。〔日光細尾スケート場〕日光驛の西方五軒にあり。總面積二〇〇〇アール、結氷面積一三〇〇アール、夜間照明の設備あり。近年主なる

スケート大會殆んど此處にて開かる。日光町にはこの外金谷ホテル内・清瀧精製所構内等にスケートリンクあり、スケートの町と稱せらる。〔日光國立公園〕栃木・群馬・福島・新潟の四縣に跨り、面積約五六、九〇〇ヘクタール(約五七、四〇〇町歩)を占め、土地は大部分御料林・國有林・私有地・社寺有地にして一部に公有地を含む。昭和九年十二月四日、國立公園に指定せらる。本國立公園の區域は本邦有數なる山岳地帯たる謂ゆる日光火山群及び白根火山群の占むる領域にして、鬼怒川・只見川・片品川等諸川の水源地方を構成す。山岳に於ては白根山を始め男體山・女體山・太郎山・燧石・玉佛山等の高峯峻岳重疊し、その間中禪寺湖・湯ノ湖・菅沼・尾瀬沼等の堰塞湖は各々特色ある湖景を展開し、之等山峯を點綴して戰場ヶ原・尾瀬ヶ原・鬼怒沼・菅沼等の温泉それぞれ特色を發し、全區域に亘りて山腹・山麓を蔽ふ森林は頗る多種類におよび、山頂には高山植物の御花畑を載す。更に之等を飾るに華嚴瀧・三條の瀧・霧降瀧を始め多數の名瀑を懸くる等優秀なる風景要素を具へ、且つ變化に富めるは本公園の一大特徴にして到底他の追隨し得ざるところなりとす。而して自然美に加ふるに日光東照宮の建築物の如き世界的に著名なる人工美を以てし、眞に自然と人工の融和を發せり。更に斯々に懸

富なる温泉を湧出して利用の好根據地をなすは本公園の價値を尙一段と高むるものと謂ふべし。本公園の利用方面としては自動車觀光・史蹟社寺巡禮・ハイキング・登山野營・舟遊・釣魚・温泉浴の外動植物・地質等學術上貴重なる資料を藏する一大寶庫として自然研究に於て特に優れた素質を有せり。尙ほ冬期はスキー・スケートの好適地として近年頗る名聲を高むるに至れり。本公園はかくの如く各方面に於て利用價値を有し而も帝都に近く交通亦至便なるは國立公園として最も重要な強味なりとす。

主なる勝地

〔日光山内一帯〕大谷川の清流に朱色鮮に染する神橋一帯を以て本公園東部の入口とす。神橋の背景をなす蒼鬱たる老杉の森林に圍まれて東照宮・二荒山神社・輪王寺・大猷廟その他の建築物輪奐の美を競へり。↓日光町

に開れば清瀧の工場街を過ぎて湯元に至る。湯元は奥日光探勝の要衝に當り中禪寺湖畔に至るに二途あり。一は劍ヶ峯を攀づる羊腸なる自動車道により一はケールカーにて明智平に至り更に自動車専用道路により湖畔に至る。華嚴瀧は本邦有數の名瀑にて直下約一〇〇米、瀧壺の深二五米、男體山熔岩の噴出により形成せらる。觀瀑には先づ瀧崖上の瀧見茶屋より俯瞰して後瀧崖を下り白雲瀧を経て瀧壺前の五郎平茶屋に至る。瀧見茶屋より五郎平茶屋まで地下ケールカーの便あり。

〔男體山と中禪寺湖〕男體山(二四八四米)は本公園の東南部に位し、中禪寺湖の北に聳立す。湖面を抜くこと一二〇〇米、コニテ型の端麗なる火山にして頂上に略々圓形の火口壁を有す。山腹は全部森林を以て蔽はれ、所々に藪と稱する放射谷發達せり。山頂より關東一帯の展望頗る雄大を極む。最も一般の登山道は南山麓より通ずるも他に志津小屋方面よりコースあり。北方に大眞名子山(二二七五米)・小眞名子山(二二二五米)および太郎山(二二六八米)の諸火山を従ふ。中禪寺湖(一名幸ノ湖)は男體山と共に日光に於ける風景の核心をなす。本湖は男體山の熔岩により生ぜる堰塞湖にて東西の長さ六・五軒、南北一・八軒、面積一二方軒、最深部一七二米を數ふ、水色濃藍色にして美觀を呈す。湖の東南部陸

に近く上野島の小島群並ぶ。湖中島を産す。湖邊一帯夏期清涼にして避暑に適し古くより外國使臣の別荘多し。東隅大尻川の落口に臨む中宮祠は交通・宿泊等觀光の一要地にして旅舎・賣店軒を並べ、舟遊・釣魚の設備あり。男體山登拜・湖上舟遊・華嚴瀧見物・スキー等の根據地たり。東岸歌ヶ濱には中禪寺(俗稱立木觀音)あり、延暦年間勝道上人の創建にかゝる。本堂に國寶千手觀音を安置す。湖畔の一勝地にて男體山を眺むる風景は夙に人口に誦はる。湖畔の歩道を更に南すれば八町出島・阿世湯を経て阿世湯畔に至る。男體山・中禪寺湖の大觀に接するを得。二荒山神社は湖の北岸に位し、中宮を祀る。湖の北岸に沿ひ懸着たる瀧葉樹の樹間を西すれば菅沼ヶ濱に達す、旅舎・賣店軒を並べ觀光の一要地たり。帝室林野局所屬の養鱒場あり。附近に湯ノ湖より注ぐ湯川の落日あり、菅沼ヶ濱の西北の華麗なる龍頭瀧を懸く。湖の西岸は千手ヶ原の平地地をなして湖邊を千手ヶ濱と稱し、男體山を望む風光は絶佳なり。濱の南方に勝道上人建立の千手觀音安置せり。千手ヶ原の西端に西ノ湖あり。原始林に圍繞せられ翠水を湛ふ。徑五〇〇米、水深一九米。中禪寺湖一帯は四季共に賞すべきも特に新緑・紅葉の候はその勝景天下に著はれ旅客夥し。〔戰場ヶ原・湯ノ湖・湯元温泉〕戰場ヶ原は男體山の西方に展る廣大なる湖原に

六八〇越を出し、以上二嶺山は何れも重要嶺山に属す。以上の外なほ本村内に亞炭嶺あり、積々見るべきものに愛知嶺山あり、こは本村及び長久手村・猪高村に跨り昭和十年には二、〇八九越を出す。本村は明治三十九年、香久山村・白山村・岩崎村を廢して置けるものなり。〔岩崎城〕 大字岩崎にありし城。天文年中、丹羽氏清の築きて子孫相繼ぎこれに居りしが、天正十二年長久手の役に西軍の池田勝人・森長可等に攻落され城主氏重以下二百餘人死す。〔白山神社〕 大字本郷に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・菊理姫命。大山祇命等四柱を合祀す。創立年代詳ならず。地方の古社にして、大永三年丹羽氏清祭祀を興行せしむ。例祭十月二十七日。

ニツシン 日新

【日新】 朝鮮咸鏡北道咸鏡南面の洞名。總督府鐵道咸鏡本線の日新驛(大正十三年設置)あり。【日新面】 朝鮮黃海道海州郡の東南部に向つて突出する半島の頸部を占め、海州邑の東南二〇余軒。西は海州灣に、東は花陽江口の成す一灣に臨む。城内頗る低平にして、中部を南北に連なる丘陵も標高五〇米を數ふるに過ぎず、田畑よく拓く。産物は米・小麦・大豆・棉を主とし海州灣沿岸には蝦・鯛・石首魚の漁獲あり。城内に幹線道路を通過す、海岸また交通に便し、交通便ならず。

ニツタ 仁田岳 河内岳とも云ふ。赤石山脈の一峯。標高二五二四米。北は茶臼岳(二六〇〇米)・上河内岳を経て聖岳・赤石岳(三二二〇米)へ、南は易老岳(二三九米)を経て、大無間山(二三二九米)へ連なり、東南は急勾配を以て大井川上流の深谿に臨む。北斜面は長野縣下伊那郡木澤村に、南斜面は靜岡縣安倍郡井川村に属す。山體古生層より成る。茶臼岳との中間に仁田池を湛ふ。

ニツタ 新田

【新田村】 宮城縣陸前國登米郡の西端。佐沼町の西方約五軒、西北は栗原郡畑岡村・玉澤村に、西南は同藤里村に隣接す。西部に高度七〇余米の丘陵あり、連岡は東北に延び、東南境の長沼、北境の伊豆沼の間に丘陵地帯をなす。概ね丘陵をなすも丘陵間に低地・低地あり、低地には耕地開く。米・麥・大豆を産し副業製品に菓加工品あり。縣道は南部を掠め、省線東北本線は中部を貫通し、新田驛(明治二十七年設置)を置く。本村は和名抄、新田郡山沼郷の内にして、續日本紀、天平九年の條に多賀城の支領として、玉造・杜鹿・新田の欄に兵を分戍せること見ゆ。新田欄は西は玉造欄と呼應し、南は杜鹿欄と連系せり。のち伊治城を起すに及び本城欄を廢せり。即ち本村は新田欄のありし所にして、現在の村名は新田欄及びも新田郡と稱せし遺唱なり。

【新田郡】 群馬縣上野國の東南部、利根川の北岸にあり。群馬縣十一郡の一。東より北は邑樂郡・山田郡、西は佐波郡に接し、南は利根川を隔てて埼玉縣大里郡と相對す。東境には茶臼山附近に起りて東南南に延ぶる二百米臺の丘陵あり、余勢更に南に走りて金山(二三三米)を起すも、此等を除きては殆んど平地にして、特に南部の利根川氾濫原は地味肥沃にして、水田・畑地遠く連なる。而して水田が概して南中に多きに反し、北半は桑園と潤葉雜木林が入り交る所多し。養蠶は甚だ盛にて殆ど主生業の觀あり、米・麥等の産も多し。省線兩毛線は北半を東北・西南に走りて桐生市・伊勢崎町を繋ぎ、社線東武鐵道の伊勢崎線は南部を東西に走り、東端の太田町に起る同鐵道の桐生線は東部を南北に縱走す。道路は西南部を前橋・深谷(埼玉縣)間の國道掠むる外、太田町を中心とし伊勢崎町・境町・桐生市・足利市・館林町・熊谷市の各地に通ずる縣道放射狀に出で、交通至便なり。郡内を太田・尾島・木崎の三町、ほか十箇村に分つ。本郡の地は和名抄は爾布太と註するも萬葉集上野歌に爾比多山とあれば、爾比多が正音なるべし。而して和名抄は津野・石西・祝人・淡甘・新田の五郷及び藤家一を管す。郡の北部の笠懸野は元弘の昔、新田莊に居りし新田義貞が義兵を擧げし地。本郡は明治の初め附近の山田・邑樂の二郡と共に栃木縣

の所管なりしが明治九年八月以後群馬縣に入る。【新田山】 ↓新田山(下野國)。【新田】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に朝夷郡新田郷あり、爾布多と訓す。その地はいまの安房郡健田村の邊にあたる。

【新田村】 神奈川縣武藏國都筑郡の東北端。横濱市の西北に隣り、川崎市の西南に接す。西北部には多摩丘陵の東部末端なる百米以下の丘陵あり、南東部には鶴見川が流れ南部低地はその沖積地なり。北部には鶴見川の一支が東南流し、沿岸は卑湿地をなす。低地には水田よく拓けて米・麥・甘藷・蔬菜等を産出す。横濱市・川崎市に隣接するを以て交通便利なり。此地古くは和名抄、橋高田郷の内なり。

【新田村】 兵庫縣但馬國城崎郡の東部。圓山川の東岸に沿ひ西北は川をへだてて豊岡町に接し東は出石郡に界す。東部に二〇〇米程度の低き丘陵ある外は極めて平坦にして、西境に沿ひて圓山川北流し東部丘陵麓に沿ひて北流する小河は北部にて西北流し約〇・五軒西北にて圓山川に合す。土地肥沃にて田畑よく拓け米・麥の産多く、その他蔬菜・花卉・果實・採集・小麦・小麥等の農産及び瓦・灰物・薬製品・鴉羽・柘柳等の産あり。西南部に縣道走りて豊岡町及び東南方出石郡出石町へパスの便あり。この地古くは新田

【和名抄】 爾布多と訓すに作り、中世は新田莊といふ。大田文に「長講堂領、新田庄百六十四町、領家三條太政入道殿御子女」と見え、康正二年造内引付には「四貫二百文、大和彌九郎殿、但馬國新田庄段錢」とあり。

ニツタギ 日立木村

福島縣磐城國相馬郡の東北部。中村町の東南約四軒。阿武隈山地の太平洋斜面沿道にあり、村の南部及び北部に山地あり、中部は平坦にして、川は中央部を東流し、飯豊村に出でて松川浦に注ぐ。米・藁を産す。陳前濱街道は中部を南北に通じ、北方中村町、南方鹿島町へはパスの便あり。街道の西に省線常磐線通じ日立木驛(大正十一年設置)を置く。

ニツチユー 日中線

線の一部。福島縣郡内を通ず。磐城西線の喜多方驛(喜多方町)に起り、加納を経て熱塩驛(熱塩村)に至る一・六軒。を経て熱塩驛(熱塩村)に至る一・六軒。

ニツテ 仁手村

埼玉縣武藏國兒玉郡の東北部。本庄町の北隣にある小村にて利根川の南岸にあり。北は川を隔て、群馬縣佐波郡の島・豊受・名和の三村と相對す。全村平地にして米・麥を産し、養蠶行はれて繭の産多し。縣道本庄町に通じ同町にて中山道に合し、省線高崎線本庄驛に出づるに便なり。この地は和名抄、賀美郡新田郷の内なり。本村は往時上野國那波郡に入りしことあり。

ニツトー 入東(郡)

武藏國

ニツタ——ニツホ

【埼玉縣】の古郡名。入間郡を中世、私に東西に分ちて入東・入西といふ。入東郡の稱は鶴岡社の正嘉元年の文書、久米の水源寺應永二十九年の鐘銘等に見えたり。近世に至りて入間郡に復す。

ニツトー 日東

【日東鐵山】 ↓平取村(北海道) 栃木縣内郡の篠井村と宮屋村とに跨る金銀銅山。鐵區六十七萬餘坪にして、昭和十年には金銀銅鐵一、一五〇越、汰物三五四越、この總價額七萬三千餘圓を出す。同年六月末の使用鐵夫九七人、現在重要鐵山とす。

ニツバシ 日橋

【日橋村】 福島縣岩代國河沼郡の東部。若松市の東北約六軒にあり。北および東は耶麻郡、南は北會津郡に隣接す。地勢中部に高く、西方は斷崖をなして會津盆地に傾斜し、東方は猪苗代盆地に傾斜す。日橋川は猪苗代湖に發し、村の東境をなして北に流れ、ついで北境を西流す、村の西部は會津盆地に属して平坦なり。米・麥・大豆等を産す。道路は中央部及び

西部を南北に通じ南方若松市に至る。村の西部を省線磐城西線南北に通じ、廣田驛(明治三十二年設置)あり。此地は和名抄、會津郡會津郷の内なり。村内に阿賀川水系の日橋川を利用せる猪苗代第一發電所(出力三七、五〇〇キロワット)、同第二發電所(出力二四、〇〇〇キロワット)、同第三發電所(出力一四、〇〇〇キロワット)あり。大字藤倉に延命寺あり。その地蔵堂は國寶。猪苗代湖畔の戸ノ口は湖水の自然排水口にして、吐口に十六橋水門あり。その左右に各一箇の用水堰の取入口あり、西なるは有名なる戸ノ口堰(元禄六年竣工、水路延長三〇軒)にて會津盆地の灌漑に充て、また若松の壕に導きしもの、東なるは布庭堰にて猪鹿ヶ岳南麓の平野に導かる。は附近一帯戊辰戦役の史蹟と風光とに著はる。

ニツポー 日豊

【日豊線】 省線。日豊本線・田川線・宮床線・日ノ影線・細島線・妻線・吉都線・志布志線・古江線及び油津線の總稱。主に九州東半部を走る鐵道。【日豊本線】 省線日豊線の幹線。九州北端に近き省線鹿兒島本線小倉驛より發して南に向ひ中津・別府・大分・白杵・延岡・宮崎等の東海岸に沿ふ諸驛を過ぎて西に屈し、都城・牟婁人等を經て鹿兒島本線鹿兒島驛に至る四六二・〇軒。この線は九州東部縱貫鐵道として西部縱貫線たる鹿兒

ニツポン 日本

【日本】(領土) 日本帝國の領域はアジアの東部と大洋洲の西北部とに互り東西・南北各約五七〇〇軒(約一四五〇里)の間に擴がる。その主要部をなすはアジア大陸の東縁を北東より南西に延び長さ約四七〇〇軒に及ぶ日本列島と、大陸の一部なる朝鮮半島にて、外に租借地の關

東州、委任統治地の南洋諸島あり。日本列島は北東部の千島弧、中央部の本州弧、南西部の琉球及び臺灣弧の三島列より成り、いづれも太平洋側に突出し、大陸との間にそれぞれオホーツク海、日本海、東支那海の諸縁海を挟む。朝鮮半島は大陸の一部にして南方に突出すること約一〇〇軒、東は日本海を限り、西は中華民国との間に黄海を隔て、南は本州弧の西端部と一帯帯水の朝鮮海峡を挟み、恰も大陸に向つて架せる橋梁たるの觀を呈す。關東州は黄海を隔て、朝鮮の西方に位し滿洲國南端の門戸に當り、南洋諸島は北太平洋の西南部に散在しマリヤナ・カロリンおよびマーシャルの三群島を含む。かくて日本の境界は緯度が北緯五〇度線によりて臺灣領に、朝鮮が鴨綠・豆滿の兩江によりて滿洲及び蘇聯領と境する外は海洋によりて圍まる。試に帝國の四極を見るに、極東は南洋諸島・ミレ島の東經一七二度七分、極西は臺灣澎湖諸島花嶼の東經一一九度一八分、極南は南洋諸島グアニー島の北緯一度四分、極北は千島阿留度島の北緯五〇度五分にていづれも島嶼の先端なり。日本列島の大部分を占むる千島・北海道本島・本州・四國・九州・琉球及びその附屬島嶼は一に内地といひ實に帝國の本土なり。この内地球は明治五年に、小笠原諸島は同八年に、千島列島も同年日露兩國間の千島樺太交換條約によりて我が版圖に入りしも

地方	面積(方軒)	千分比
内地	382,545	566
北海道	88,775	131
	230,532	341
	18,773	28
	42,079	62
樺朝	36,090	53
	220,741	327
帝國總計	35,974	53
	675,350	1,000
南洋	3,462	
關東	2,149	

のなり。爾來産業の發達、人口の増加は國力の進展を助け、明治二十七年(日清)戰役によりて臺灣を加へ、明治三十七八年(日露)戰役の結果樺太島南半を割かしめ、又關東州の租借權を繼承し、明治四十三年日韓併合の約成りて韓國を併せ、これを朝鮮と改稱し、更に大正十一

時代の既に大いに植民地の擴大に努力せるため多くは本國に比して數倍乃至數十倍に達する海外領土を有す(獨逸はその全部を喪失せり)然れども今や未開發の資源の多くを有する善隣滿洲國建設せられ、これと不可分の親善友交關係を確立するあり、また我が領土は廣範圍に點在する島嶼より成るもその間少しも他國領に中斷せらるゝことなく、更に物資資源の無盡藏なるアジヤ大陸に近通する等の點に於て頗る有利の地位にありといふべし。

最も高く中生層・第三紀層と次第に低下し、殊に第三紀層の部分には海成段丘の原形を遺存す。南緯外帯の最東部は赤石山系にて東は糸魚川・靜岡の斷層線によりて斷たれ、西は東北・西南の方向を走る中央斷層線に限られ、諏訪湖を頂點とし遠州灘・駿河灣岸を基底とする謂ゆる赤石楔狀山塊をなし、その北部には高度三〇〇〇米内外の甲斐駒・白峰・赤石等の雄峯連立し、南日本アルプスと稱せらるゝ高山地帯をなすも、南部は次第に低下して太平洋に没し、駿・遠・三の三國沿岸には安倍・大井・天龍・豊川等の諸川の沖積平地と山麓臺地を始め濱名湖の如き溺谷をも有す。伊勢灣と紀伊水道の間は即ち紀伊山塊の地にて、他の外帯地塊と同じく中生代末には一旦波狀の準平原と化し、後再び隆起して現形を形成せるものにて大臺ヶ原山・高野山等に存する高原性波狀面はその準平原面の殘存部と考へられ、この山塊の中央部を南流する熊野川の上流たる十津川・北山川等の蛇行谷はまた準平原面上に生ずる曲流が其まゝ嵌り入せるものなり。この二川の間にある大臺山脈は一七〇〇—一九〇〇米の高さを有する大天井・山上・彌山・釋迦ヶ岳等南北に連り、夙く役ノ行者によりて開かれて修驗道の靈場となり、近くは大和アルプスの名を以て聞ゆ。これら大臺・大臺ヶ原兩山より東西に進めば山地は次第に低夷し河流も亦樺田川・宮川・

有田川・日高川の如くに東西の流路をとる。東岸の二見浦・鳥羽・英虞灣、無野浦の鬼ヶ城・湖ノ岬・大島、西岸の田邊灣・和歌ノ浦等の海岸美、熊野川・古座川等の齧谷美は紀伊山塊に於ける景勝地として著る。四國にては北部の讃岐・高繩兩半島を除く大部分は外帯に屬する四國山脈にして、地層の帶狀配列の最も整然たる部分となし、地形は大體紀伊山塊に類し、最高峰は東の劍山(一九五五米)、西の石鏡山(一九二二米)なるも、後者は隆起準平原面上に噴起せる火山岩の峰頭なり。河流は概ね地層の走向に平行して東西に流るゝも吉野川はその中流に於て三波川層を横斷して謂ゆる大歩危・小歩危の深溪をつくり、仁淀川も上流にて古生層を横きりて横谷をなし、四万十川・畷川は縱谷或は横谷を流れて複雑なる流向をとる。西部豊後水道の沿岸は標式的沈降海岸をなし八幡濱・宇和島・宿毛等の良鋪地を擁す。九州の中部即ち大分・八代斷層線以南は明かに外帯に屬するもその九州山脈中にて三波川層は東北部の佐賀關半島に露はるゝのみなるに古生層・中生層は頗るよく發達して東北・西南の層向を示し中部に於て五家ノ莊の山地を包含す。祖母山(一七五五米)・市房山(一七二二米)等を最高峯とするも共に石英斑岩の峯頭たり。また九州南部の宮崎・川内線以南の中生層は主として南北の層向を示し、地形もまた南北の方

向に走り、構造上は率る琉球弧の一部なるが如し。〔南日本の内帯。外帯の北側を略東西に連り全體に外帯よりも幅廣き地帯を占め、東部に於て最も廣く且つ高きも、西するに従ひ次第に狭く且つ低下す。外帯と同じく古生層・中生層より成るも第三紀以前に於ける削磨作用を受くること特に甚だかりためその上層部は削磨し盡され、曾てその下底より進入凝固して岩盤となれる花崗岩至る處に露出し、特に中國山塊に於ては古生層・中生層に不規則なる輪廓をなして花崗岩類の間に殘存するに過ぎず、また外帯に於て少く第三紀層の分布多く、地層は頗る複雑を極め、東北より西南に貫く構造線は外帯に於けるよりも顯著に發達し塊狀或は板狀をなす幾多の地塊に分たる。内帯の東端をなせる飛騨山塊は南北に延びて東は姫川谷・松本平斷層線によりて斷たれ、西は飛騨高原に隣る。大部分は花崗岩より成り槍ヶ岳(三、一八〇米)を主とし高度三千米内外の峻峯を連れて謂ゆる日本北アルプスと稱せられ、北部は我國第一の深峽黒部峽谷によりて立山・後立山二山脈に分けらる。この山塊の東南には木曾駒の連峯をなす地壘山脈、その西には高原性の木曾山塊ありて共に槍・樺等の良材を産するを以て聞ゆ。また飛騨山塊の西には主として古生層・中生層より成る飛騨(濃飛)の高原あり、濃・飛・加・越の四國に互りて展開した良材を産す。

謂ゆる糸魚川・靜岡斷層線と稱せられ、この東側に沿ひて噴出せる妙高・黒姫・八ヶ岳・富士等の富士火山帯ありて南北兩帶即ち北日本(東北日本)・南日本(西日本)の兩山系に分たる。本州弧南緯即ち南日本は内外二帯の平行構造の最も顯著なる部分にて、その境界をなす中央斷層線は諏訪平にて糸魚川・靜岡線より岐れ、天龍川東側の支流三峯川・遠山川・水窪川の谷を經、豊川谷より瀧美灣に出で、紀伊半島にては樺田川・紀ノ川、四國にては吉野川・佐野川に沿ひ高繩半島の南麓より松山に達し、更に九州にては大分より西南方の八代に至り、別にその北方には大分・伊萬里の斷層線ありてこの間に長崎三角地塊を挟む。以上の界線の南に横はる外帯は温美・伊勢の兩灣・紀伊水道・豊後水道の陥没によりて、赤石・紀伊・四國・九州の四山地に分かるるも新舊の地層の整然たる帶狀配列を失はず。内外帯を分つ斷層線に直接して我國最古の岩石たる三波川層の結晶片岩、その外側には御荷鐘層(輝石片岩・千枚岩等)・秩父層(珪岩・角岩・石灰岩・凝灰岩・砂岩・粘板岩・千枚岩等)の古生層、更にその外側に三疊紀・侏羅紀・白垩紀に互る中生層(砂岩・粘板岩・石灰岩等)が、次に最外側に第三紀層(砂岩・礫岩・頁岩・凝灰岩等)順次に配列し、廣狹種々の礫をなす。かかる整然たる地層の配列は地形にも影響し、古生層の部分

その北に富山平野、西北には加賀平野あり、また飛騨高原の南、木曾山塊の西には木曾・長良・揖斐三大川の沖積によりて成生せる濃尾平野横はる。飛騨高原・濃尾平野・伊勢灣以西の内帯は畿内(近畿)地塊・瀬戸内陥没地帯・丹波高原・中國山塊・筑紫山塊となる。畿内地塊には東に鈴鹿、中部に笠置、西に金剛(葛城)の南北に延びし三地壘あり、その間には伊賀・奈良(大和)の二盆地を挟む。瀬戸内陥没地帯は若狭灣に起りて琵琶湖(近江)盆地・山城(京都)盆地・大阪平野を経て大阪灣に出で、西方周防灘に達する瀬戸内海をつくり、その西端は九州北部におよぶ。この地帯は略東・西・東北・西南・西北・東南等種々の方向に走る斷層線ありて大小多數の地塊に分れ、それらが斷續的に沈降せしめられたるものにて、沈降度の大小により或は琵琶湖・大阪灣・播磨灣・備後灣・安藝灣・伊豫灘・周防灘等の海面となり、或は若狭山地・宇治隈田丘陵・淡路島・小豆島・藝伎群島・筑紫山塊等の山地・島嶼となれり。而して四國北部の讃岐・高繩兩半島も亦内帯の一部にしてこの瀬戸内地帯に屬するものなり。この陥没地帯の北を東西に延びて大半島をなす部分の東端は丹波高原にて主として古生層より成り、殆ど第三紀末の水平のままに隆起せしめ保津川・山良川等は曲折蛇行してその間に著しき分水嶺を認めず、川筋には龜

岡・岡部・綾部・福知山・篠山等の小盆地を有す。この高原の西に續く中國山塊は古生層とこれに進入せし花崗岩を主とし、中生層と第三紀層は所々に發達し更に第三紀末より第四紀に亘りて噴出せし石英粗面岩・安山岩等またこれを被ふ。且つ地盤は東北—西南の斷層とこれに直交、若くは斜交する多くの斷層により多數の小地塊に分たれ、また大體は一旦準平原となりて後東西に走る北寄りの軸に沿ひ屋根形に隆起せるものにて河流は多くこの軸と直角に南若くは北に流る。これらの河流が堅硬なる花崗岩・石英粗面岩上を流るる處は三段峽・豪溪・長門峽・斷魚溪の如き、また石灰岩の地には帝釋峽・神代峽の如き峽谷をつくる。海岸は沈降海岸特有の島嶼・峽灣に富み、特に北岸に於ては日本海の波濤の浸蝕をうけ若狭の蘇洞門・但馬の御火之浦・因幡の浦富海岸・出雲の美保ノ北浦・日ノ御崎・石見の壘ヶ浦・長門の須佐浦・青海島等の洞門・斷崖の奇勝をつくる。九州北部の筑紫山塊は地質上は中國山塊に續き、地形上は瀬戸内陥没地帯の一部に屬す。その古生層・花崗岩より成る山地の間には第三紀層發達し石灰の埋藏多く筑豊炭田を以て知らる。筑紫山塊の南、即ち大分—伊萬里線、大分—八代線の間には在する長崎の三角地塊はまた瀬戸内海に續く陥没地帯にして、第四紀に入りて雨子・由布・九重・阿蘇・金峯等の諸火山

群噴出して陸地となり、また雲仙・多良の火山噴出して西彼杵島も半島となりしものなり。而して三池・唐津・佐世保・松島・高島等に炭田を有することは筑紫山塊に類す。〔北日本の外帯。本州弧北緯、即ち北日本(東北日本)山系も亦南緯(南日本)山系の如く内外二帯より成るも、彼の層向のほぼ東西なるに比し、これは寧ろ南北の方向を辿り、しかも外形の比較的單純なるに似ず構造には甚だ複雑なるものあり。北日本外帯の南端をなすは關東山塊にして、糸魚川—靜岡斷層線を隔てて南日本外帯の東端をなす赤石山塊に對立し、地層の配列も同一なるも層向は大いに異り、赤石山塊の略南北なるに反し、これは北西より東南東にて殆ど東西に近き方向を示す。その東北端即ち利根川斷層に接して三波川層その南に御荷餘層、更にその南に秩父層・中生層あり、また山塊の西南部に金峰山(二五九五米)を中心として花崗岩のかなり廣き露出あり、二千米以上の高峯群起し、河流これを解析し到るところ斷谷をつくり、東北部に漸く低下しその中央部に第三紀層の秩父盆地を擁す。關東山塊の南には、相模川の斷層谷を隔て、丹澤山塊あり、第三紀層とこれを貫きて噴出せる石英閃綠岩より成る。これらの山塊は寄居—飯能—八王子—厚木の線によりてその東端を斷たれ、その東に本州最大の關東平野展く。この平野は武蔵野臺地・多

摩丘陵・相模野臺地等の洪積層とその東に續く利根・荒・多摩等の諸川の沖積地より成る。平野の南東には東京灣を隔て、房總半島あり。大部分は對岸の三浦半島と同じく第三紀層の丘陵にて北部は洪積層の兩總臺地に續く。この臺地の東北端には銚子の小半島あり、ここに關東山塊の延長と見るべき古生層・中生層の斷片再び露出す。外帯山系はここに一旦海中に没するも、更に九〇度以上の轉回をなし、再び北方の牡鹿半島より起りて北上山塊となり北方に連ること約二五〇軒、南部には三〇〇米内外の準平原をのこし、中部以北には早池峯山(一九一六米)を最高とし、一〇〇〇—一二〇〇米の準平原をなす。北上山塊の西方には北上川・馬淵川の斷層ありて内帯の奥羽山塊と境し、東岸は種々の方向の斷層によりて斷たれ沈降海岸の特相を示す。外帯の古生層の北端は再び津輕海峽に沈むも、三度北海道南端の糖業時に現はれ、北方に走りて中軸山脈(日高山脈・北見山脈)となる。中軸山脈の西には夕張山脈とその延長たる隆起帶、更にその西には豐平・増毛・留萌の山塊あり、前二者の間には富良野・旭川・名寄の三盆地をつなぐ凹地帯、後二者の間には千歳・石狩の二平野、石狩川支流の雨龍溪谷の凹地帯等あり、石狩平野の一部は西方の豐平・増毛兩山塊の中間に據がる。樺太島にては東南部の鈴杵山脈、北東部の東北

山脈(北樺太東岸山脈)は中間のタライカ灣によりて斷たるも北海道の中軸山脈に續くべきものにして、西の樺太山脈(樺太西岸山脈)との間には南に豐原、北に幌内の兩地溝帯をばさむ。關北日本の内帯。關東山塊の北に主として古生層より成る足尾山塊、花崗岩多き帝釋山塊あり。足尾山塊の東には鬼怒川平野と那須野原を隔て、また主として古生層より成る八溝山塊及び主として花崗岩に披はるる筑波地臺あり、八溝山塊の東北には久慈川谷・阿武隈川流域の安積盆地・福島盆地を挟みて阿武隈山塊南北に延び、阿武隈山塊は主として花崗岩及びその變成岩たる花崗片麻岩より成り、南部には古生層、北部には中生層の小露出あり、東西の縁邊に第三紀層の丘陵帯ありてその南部には常磐炭田の含炭層を有す。全體に高原性の準平原にして中央西側部は三—五百米、東するに従ひ次第に高く七—八百米の平均高度を有し、その一部に大瀧根山(一九三三米)・天玉山(一〇五八米)・矢大臣山(九六五米)等の高峯あり、これらは岩質の相違或は環狀斷層等によりて特に隆起せる殘丘に過ぎず。阿武隈川より北上川に續く斷層谷を境としその西方には、西は日本海に連し、北は津輕海峽に至る廣大なる内帯地塊は第三紀層とこれを破りて噴出せる火山岩より成り、東の奥羽山脈、西の越後山脈・出羽丘陵の二條の隆起帶をなす。奥羽山脈

は南北約五〇〇軒に連互し、太平洋・日本海兩斜面の分水界をなすも、火山の頂きを除けば一般に低く、最高の和賀岳も一四四〇米に過ぎず。出羽丘陵は隆起の程度更に少なく、緩漫に褶曲せる第三紀層の平行斷層を伴ひて隆起せるものにして、大部分は丘陵性を呈す。たゞ南端部は第三紀層の基底に横はる花崗岩・古生層等を各所に露出し、山勢峻峻なる越後山脈となり會津駒ヶ岳(二二二二米)の高峰を起す。三國山脈も亦その延長と認めらる。奥羽山脈と出羽丘陵・越後山脈との中間には南北に一連の凹地帯ありて岩木・能代・御物・最上・阿賀等の諸川の上流地帯をなし弘前・大館・毛馬内・横手・大曲・山形・米澤・會津等の諸盆地をなし、岩木川は北流し、その外は皆出羽丘陵・越後山脈を截り、西流若くは西北流して日本海に注ぐ。また關東山塊の西に發し三國山脈の西を繞り、北流して日本海に注ぐ信濃川の上流には佐久平・善光寺平の盆地、下流には越後平野あり。四千島弧と琉球弧。千島弧はカムチャツカ半島をなす褶曲山脈の延長部にして、北海道本島の中央部に於て本州弧の北緯(北日本山系)に結合するものなり。また内外二帯より成るも、外帯に屬する部分は釧路附近より根室半島を経てその東北海上に浮ぶ水晶島・志賀島・色丹島等の數小島にて絶え、他は全く海中に没す。その内側の西南より東北に連る國後島・

樺太島以下東北端の古守島に至る礫石堆をなす多數の島嶼は内帯に當り、主として第三紀層より成り、上に幾多の火山を戴けるものなり。従つて低地乏しく氣候また寒冷にて水産以外には産業上見るべきものなし。琉球弧は南日本外帯の西南端と臺灣をつなぐものにて、また褶曲山脈の頂部が所々に海上に現はれ一連の島列をなすものなり。種子島・屋久島・大島(奄美大島)・徳之島・沖永良部島・沖繩島・宮古島・石垣島・西表島等はその外帯に屬し、種子島の新第三紀層の段丘なるに比し、西南の屋久島は中生層を貫ける花崗岩より成り、中央部に時つ八重岳の最高峰宮之浦岳は標高一九三五米に達す。大島と沖繩島の東北部國頭地方は古生層にして海拔五百米以下の高原性をなし、沖繩島西南部の島尻地方をばじめ、爾餘の島嶼は隆起珊瑚礁に被はれて琉球弧の特色を示す。以上諸島の内側に位置する土噺諸島・鳥島・粟國島・久米島・尖閣諸島等は内帯にして何れも火山島なり。〔關東山脈。臺灣も一箇の褶曲山脈にてまた内外の二帯より成るも、本州弧・琉球弧等とは反對に外帯は内側に、内帯は太平洋側に位置す。その境界をなすは花蓮港—臺東間の凹地帯なり。外帯には始生層・古生層・中生層・第三紀層と舊より新の諸層が東より西に並び錯綜をなして略南北に走り、東西の分水界をなす脊梁(臺灣)山脈は休羅・白雲の中生層にして

我が國の最高峯新高山(三九五〇米)を始め、秀姑巒山(三三三三米)・丹大山(三三七一米)・龍高山(三三九九米)・壽業主山(三三〇五米)・合歡山(三三九四米)・南湖大山(三三九七米)などの高峯を戴き、高度に於て帝國第一の大山脈をなす。西側には次高山脈・阿里山脈、更に岳麓段丘あり、その西には臺灣平野及び主要産業地帯をなす。東岸に沿ふ臺東山脈は内帯にて、第三紀層と之を貫ける火山岩より成り、長さも短く幅も狭く、高度も亦低くして一千米に及ばず。〔朝鮮。朝鮮は古く大陸の一部にて始生代末以來既に陸地たりし處、その後も局部的には海面下に没せし處あるも大部分はたゞ隆起と削磨を繰り返せるのみなれば褶曲山脈の特徵たる隆々たる山容を示すもの少く、その一部は既に殆ど全く準平原と化せるを見る。是等の古き地盤も中生以後の大變動のため幾多の斷層によりて斷たれ今日の地形を呈するに至りしものにて、東岸に於ては東朝鮮灣の中部なる永興灣以南の北西—南南東、以北の南西—北東東の二大斷層線ありて南北朝鮮の二大地域に分つ。北鮮の主要褶曲山脈は南西—北東東に走りて東に高く西に低し、略中部に高度千米以上の蓋馬高原あり、その南邊を限る赴嶺山脈の東南側は東朝鮮灣岸に急下し、東には北嶺に時つ靈峯白頭火山より延びし熔岩臺地の摩天嶺山脈南北に連る。摩天嶺山脈の東には、

小長白山脈略南北に走りて冠帽山(二五四一米)の如き高山を戴き朝鮮第一の峻嶺をなす。北鮮の西部には葱嶺・狄隴嶺・妙香等の低山脈南西に並走し、次第に低下して西朝鮮半島東部の平野に達す。その南方、即ち北鮮の西南部は古生代・中生代に海面下に没せし部分にて略東西の層向を有する石灰岩・石炭層等に蔽はれ緩漫なる起伏面を有す。南鮮に於ては東西の分水界をなして高度千五百米を有する大白山脈北西—南東東の斷層線に沿ひ、日本海に偏して隆起し、東側は直に水深五百米以上の海底に急下し、西側は西南に向ひ緩く傾き、車嶺・蘆嶺・小白等の數箇の支山脈を派生す。大白山脈の北部には花崗岩より成る金剛山(一六三八米)塊あり、奇峰・怪岩・溪谷・森林の美を兼備し東洋第一の景勝地と稱せらる。大白山脈と小白山脈間には洛東江流域の低地、小白山脈と蘆嶺山脈との間には榮山江・熊津江上流の平地、蘆嶺山脈と車嶺山脈の間には錦江流域の平地あり。山地は主として片麻岩・花崗岩等より成り、小白山脈の南部には智異山(一九一五米)の如き殘丘の高峯あるも地勢一般に緩漫にして高山を認めず、低地帯にも波狀の丘陵地を見るのみ。南岸は山地の尖端沈降せる處にして半島港灣の出入、島嶼の散布頗る多く朝鮮多島海の稱あり。西岸も沈降海岸にて島嶼出入に富み、且つ大河の河口には沙濱・砂洲發達

ニッホ——ニッホ

し、湖沼干満の差多きと相俟ちて遠淺の泥海廣き特色となす。西南海上に位する濟州島は中央に聳ゆる漢拿山(一九五〇米)等の噴出によりて熔岩臺地性を呈し、北緯北境の白頭山と共に全鮮中の二火山岩地帯をなす。(七)火山帯。我國は太平洋沿岸火山帯の一部に當り、世界有数の火山國にしてその數約三百座に上る。これら火山の殆ど全部は内帯にのみ噴出してその山脈に偉容を添ふるもの多し。いまその分布によりて分てば十數の火山帯に分つを得べし。(一)千島火山帯。東北端の古守島より北海道本島中央部の大雪火山群に至る内帯諸島に噴出し、約六十座を數へ、その中、阿頼度・千倉・計吐夷・新知・得撫富士・茂世路・知床硫黄・十勝の諸山は活火山なり。(二)那須(磐梯)火山帯。北日本内帯に於ける最も著名のものにて、南西端なる信越國境の淺間山に起り、日光・高原兩火山群を経て奥羽山脈に伴ひ、更に北海道西部の諸火山となり樺太の鶴城火山群に及び、その數約六十。淺間山(二五四二米)・日光白根山(二五七八米)・那須岳・安達太郎山・磐梯山・吾妻山・藏王山(刈田岳)・岩手山(二〇四一米)・恐山(燒山)・駒ヶ岳・有珠山・樺前山等は其主要なる活火山たり。中にはまた十和田湖・洞爺湖・支笏湖の如きカルデラ湖を伴ふものあり。磐梯山の如きは明治二十二年大爆裂をなし山麓の北部を破壊し、山谷を埋めて樹原

湖その他の堰塞湖を生成せるを以て著はる。(三)島海火山帯。越後山脈・出羽丘陵に伴ふものにして島海山(二二三〇米)を盟主とし、北方には月山・岩木山、南方には苗場山(二四五五米)・岩菅山(二二九五米)・草津白根山(二六二二米)等十數座に及び、島海・日光白根はともに活火山に屬す。(四)寒風火山帯。男鹿半島の寒風山(三五五米)、北海道の大島に至る小火山帯。(五)富士火山帯。本州弧をなす南北兩山系接合部の中間に噴起し南方は太平洋中のマリヤナ群島に向ふ大火山帯なり。即ち日本海にちかき妙高山(二四四六米)・黒姫山(二〇五三米)等に始り、櫻科山(二五三〇米)・八ヶ岳(二八九九米)・茅ヶ岳などを經て靈峰富士山(三七七六米)、二重式の標式火山たる箱根山あり、天城より伊豆七島の諸火山、更に南方の青ヶ島・島島を過ぎ硫黄列島に及び。富士山・三原山(大島)・雄山(三宅島)・西山(八丈島)・島および南硫黄島附近の海底火山等はこの火山帯中の活火山なり。(六)乗鞍(御嶽)火山帯。飛騨山脈に伴ひ南北に並ぶものにて御嶽(三〇六三米)・乗鞍岳(三〇二六米)・燒岳(硫黄ヶ岳、二四五八米)・立山(二九二九米)などを數へ、多くは三千里内外の高度に聳ゆ。(七)白山(大山)火山帯。飛騨高原の西部より山陰道中部を東西に並び、更に九州北部に噴起せるもの。即ち白山(二七〇二米)、その南西方の大日

岳、若狭の青葉山(七三二米)、但馬の間鍋山、播磨境上の米ノ山、中國第一の高山たる伯耆の大山(七一三米)、雲石嶺の三瓶山、石見の青野山、九州北東端國東半島の兩子山、別府西方の鶴見岳・山布岳、その西南の九重火山群、熊本の西方にある金峯山、島原半島の雲仙岳、その北なる多良岳等をいふ。(八)瀬戸内火山帯。南日本内帯の南部に當るもの。三河の風來寺山(六八四米)、大和の室生火山群、金剛山脈中の二上山、讃岐の小豆島・五島山・屋島・飯野山(四二二米)、伊豫の興居島等これに屬す。いづれも小型にて二上山以外には火口を有する成層火山なきも古銅輝石安山岩・石榴石・雲母安山岩・石英雲母安山岩の如き珍らしき熔岩を有するを特色とす。(九)霧島火山帯。九州中部以南より琉球弧の内側を傳ふもの。阿蘇山に始り日隅境に跨る霧島火山群、鹿兒島灣内の櫻島、薩南火山群を經て琉球弧に入り屋久島・吐噶喇諸島・島島・粟國島・久米島等をなす。北端の阿蘇山は霧島・白山・瀬戸内三火山帯の交叉點に位するもの、最高點は中央火口丘の最高峯高岳の一五九二米に過ぎざるも、典型的の二重式火山なること、舊火口の内徑は東西一六軒、南北二三軒に達し世界最大のものなること、有史以來屋活動し、今なほ盛に噴煙せること等を以て著はる。その他霧島山・櫻島・日之永島・粟國島・諏訪之瀬島・島島等も近年

屋活動せる火山なり。(一〇)大屯火山帯。霧島火山帯の西南部に近く、東支那海中の小嶼高尾嶼・彰化嶼、臺灣の北端の大屯山(一〇四五米)より澎湖島におよぶ。(一一)臺東火山帯。臺灣の内帯にあたる臺東山脈中の無名火山より東南海上の火燒島・紅頭嶼となり、更にフィリッピン群島の火山帯に終るものなり。(温泉)我國は世界有数の温泉國にして既に知られたる温泉の數は千二十餘ヶ所の多數に上る。温泉は火山と密接の關係を有するを以てその分布も火山地方を主とし、關東・奥羽・北海道・中部・九州の地方に多く近畿・中國・四國・臺灣・朝鮮に少なく、樺太・琉球等には極めて稀なり。今その主なる温泉地方を擧ぐれば、關東地方には箱根・日光・鹽原・那須・吾妻の地方、奥羽地方には吾妻安達太郎山・飯坂・會津・藏王山・玉造・花巻・十和田八甲田・大鵬の地方、北海道には定山溪・登別・湯川・層雲峽・弟子屈・川湯等、中部地方には諏訪・平穩・妙高・日本北アルプス・山中山代のほか熱海・伊東・谷津・下賀茂・狩野川・田邊・九州には別府・由布院・久住・雲仙・阿蘇・霧島・指宿地方を主なるものとし、中國地方には山陰の各所に、四國地方には道後温泉あり。(氣候)我が國は南北に長くその極南は北緯二一度四十分、臺灣恒春郡七星岩南

緯、極北は北緯五〇度五分(千島阿留度島北端)に位し、緯度二九度一〇分の間に互るを以て、地域によりて亞寒帶・溫帶・亞寒帶の氣候を有す。従つて、氣温・降水量も概して南に高く多く、北するに従ひて低く且つ少きを普通とす。試みに南・中・北の三地につき平均氣温・降水量を表示すれば次の如し。

Table with 3 columns: Location (台北, 東京, 東京), Highest (最高), Lowest (最低), Average (平均). Values range from 15.6 to 25.0.

また我國は幅狭き島國なれば海洋と海流のために氣温を調節せらるること少からず、西隣の中華民國・滿洲國の如き大陸國に比すれば遙に溫和性を有す。然れども又アジア大陸の東縁に位するにより大陸と太平洋との關係より起る季節風の影響を受けること甚だ多く西歐諸國の同緯度の地に比し冬季は著しく寒冷に、夏季は著しく炎熱なり。(一)季節風。毎年十月頃に至ればツペリヤのバイカル湖地帯を中心とする大高氣壓部發生して太平洋に向ふ氣流を起し、樺太に於ては西乃至南西、九州以北にては北西、琉球以南にては北乃至北東の季節風となり一月末まで優勢を持續し、風力強大にして且つ連日の荒天打續くを常とす。ためにこれが障礙となる方向の山系ある地域は陰曇なるか驟雨若くは降雪を見、その背面の地は寒冷晴朗となり、地形的天候を起す。ま

ニッホ——ニッホ

四月頃にはこれと反對に、北太平洋中部に大高氣壓部を生じ、蒙古及び西蔵高原に大低氣壓部を生ずるもの、これに向つて流入する氣流起り、臺灣附近にては南西、九州以北にては南東の季節風となる。但しこの季節風は冬のものに比すれば風力甚だ微弱にて且つ多量の濕氣を含むも既に陸地は著しく高温となれるを以て太平洋側を北上する黒潮、日本海を流るる對馬海流あり。寒流に千島の東南岸を南西下する親潮、樺太東岸を南流する樺太海流あり。この中對馬海流は冬の季節風により日本海沿岸地域の氣温を高め降水量を多からしむるを以て著はれ、親潮は初夏北海道の太平洋岸に、樺太海流は夏季樺太東岸に作用して陰曇の天候を起さしむ。また黒潮は夏季に、季節風と共に太平洋岸の氣温・降水量に多少の影響を及ぼすもの、如し。(三)氣温。氣温に就て見れば冬季に於ては概ね緯度の高低に反比例をなすは當然なるも同緯度の地に於ては日本海岸は太平洋海岸よりも稍高温を示す。又十月には全國中未だ水點下に降る處なきも十一月には樺太と朝鮮北部の内陸部とは既に水點下となり、更に十二月となれば北海道・朝鮮中部以北はみな水點下に降り一月には奥羽も亦

Table with 12 columns: Month (十月, 十一月, 十二月, 一月, 二月, 三月, 四月, 五月, 六月, 七月, 八月, 九月). Rows list various locations and their monthly precipitation/temperature data.

Table with 12 columns: Month (十月, 十一月, 十二月, 一月, 二月, 三月, 四月, 五月, 六月, 七月, 八月, 九月). Rows list various locations and their monthly precipitation/temperature data.

た冬季の最低気温を示せば旭川に於て明治三十五年一月二十五日に氷點下四一度、帯廣にては翌日零下三八・二度を示せることあり。而して冬季の酷烈なる寒威は主に大陸高気圧の影響によるものなり。夏季に於ては気温は必ずしも緯度の高低と反比例せず、等温線は内地内陸に於ては著しく北方に凸出し、たゞ奥羽以北は九州・中国・關東に比してや、低温なり。夏季気温の最高極を示せば臺東にて大正三年七月二十七日三九度に上りしことあるも、本州にては三五度内外、北海道にては三三度内外をその高度とす。四降水量。降水量の多寡を來す主なる因子は季節風・海流・梅雨・颱風等なり。十月より三月までは冬の季節風の時期にて、北西風は日本海上を吹渡り對馬海流の濕氣を運び中央部山嶺の向風地域に陰曇の天候と饒多の雨雪を降す。北陸・山陰・北越等はこの間に梅雨季と共に降水量の極大値を現はし、概ね雪となるを以て積雪多く、特に加賀・北越方面に於て著し。臺灣にては多く東北風なれば北部・東北部に降雨多く、臺灣山脈西側は晴燥なり。朝鮮にては一般に甚だ降水量減少なり。四月より九月までは夏の季節風の時期なるもその勢弱く地形性の降雨の原因となること少きは既に述べたり。たゞこの間に梅雨と颱風ありて至る處に降水量を増加せしむ。梅雨は南支那・揚子江流域に連綿して起る低気圧が相次いで東

北に進行するに對し、北海の海水の澄澈によりて勢力を擴大せる親潮が東方洋上に延びて高気圧部を起さしめ、低気圧の東進を阻止するより起るものにて、琉球にては五月頃、内地にては六月中旬より七月上旬に、朝鮮に於ては七月中旬より起り陰鬱濕潤の雨天づくを常とす。七月より九月に至る間は雷雨または颱風性の降雨屢至りて各地に豪雨を降すことあり。一年間の降水量最も多きは臺灣・沖縄・九州東岸・四國・近畿の南岸及び北陸にして二〇〇〇耗を超え、關東・奥羽より以北は次第に減少し樺太にては七〇〇耗となる。また瀬戸内沿岸は冬季の北西風が中國山脈により、夏季の南東風は四國山脈に遮らるゝ故に一般に天氣晴朗にて降水量は一五〇〇耗を超ゆる處少し。爲に灌漑用には池塘の設け多く、又製鹽盛に行はる。朝鮮も亦冬の季節風は水分を齎さず、降雨は夏季に多きも全年の降水量は多くは一〇〇〇耗以下なり。〔交通〕我國が最近の約半世紀間に文化的經濟的の異なる發展を遂げ東亞の安定勢力としてその指導的地位を獲得せる本質的原因は種々あるべし。その國土が一方大陸に近通し他方大洋に臨みて世界交通上の要樞に位置せることも儘にその一重要因子なり。我が國の陸地は狭長にして山脈縱走し起伏多きも山間に間隙、沿岸に低地ありて必ずしも交通を妨げず。他方水陸の交通に當りて海軍は

降水量(單位耗)

Table with columns for months (October, November, December, January, February, March, April, May, June, July, August, September) and rows for various locations (e.g., 臺北, 那霸, 宮崎, 高知, 濱松, 東京, 石巻, 宮古, 根室, 福岡, 境, 金澤, 新潟, 秋田, 札幌, 大泊, 敷香, 岡山, 大坂, 山形, 旭川, 釜山, 仁川, 雄基, 中江). The table shows precipitation values in units of '耗' (100mm) for each location and month.

〔道路〕昭和十年末の總延長約九七一、四〇〇軒、このうち國道は八、四六三軒(〇・九%)、府縣道約一一〇、六〇〇軒(一一・四%)、市道は約四五、〇〇〇軒(四・六%)、町村道約八〇七、四〇〇軒(八三%)あり。國道は首都東京と各府縣廳・師團司令部・鎮守府・主要開港・伊勢神宮を連絡し道路の幹線をなす。江戸時代よりの重要街道たりし東海道・中山道・奥州街道等をはじめ、北陸・山陰・山陽道、鹿兒島街道・宮崎街道等を改修されしものに係る。府縣道は府縣廳と府縣下の主要都邑及び隣接府縣とを繋ぎ、市・町村道は各市町村内の道路なり。大都市内の市道及び距離は短きも京濱・靜清・京阪・阪神・神明等の諸國道は近時の築造にかゝり車道・人道を區別し幅員廣く舗裝完備し列強の主要道路に比して遜色なき模範道路たり。道路上の交通機關に馬車・牛車・荷車・人力車・自轉車等あり。積載量の少きと速力の鈍き點より人力車・牛馬車・荷車等は年々減少の傾向著しきもなほ人力車二萬臺、牛車一萬臺、馬車二九萬臺を數ふ。自轉車は輕快と小荷物の運搬に便に價格また低廉なるため非常に増加し自動自轉車は五萬臺、通常自轉車は實に七三〇萬臺の多數に上る。これと共に近年急激に増加しつつあるは自動車にして八萬臺を超え貨物運搬と共にバスは全國主要道路の大部分に運轉せらる。〔鐵道〕鐵道は明治五年

ニッホ——ニッホ

東京横濱間に敷設せられしに始る。その後年と共に順次建設延長され、昭和十年末の總延長約三、〇〇〇軒に近く、うち内地約二四、〇〇〇軒(國有約一七、〇〇〇軒、私營約七、〇〇〇軒)、朝鮮約四、八〇〇軒(國有約三、四〇〇軒、私營一、四〇〇軒)、臺灣一、五〇〇軒(國有一、〇〇〇軒、私營五〇〇軒)、樺太國有三四三軒、關東州私營一、二九軒なり。鐵道はもと官營の外私營も多かりしが政治軍事上の重要意義を有すにより日露戰役後政府は主要私營線を買収し今や國有線路は全延長の六八%以上に達せり。その幹線たる東北・東海道・山陽の三本線は表日本を、羽越・信越・北陸・山陰の各本線は裏日本を縦貫し、その北端青森より北青函連絡汽船によりて北海道の函館本線に連り、更に宗谷本線にて稚内に、それより連絡船にて樺太の東海岸線に繋がり、西南端の下關よりは一は關門連絡船にて九州に他は關釜連絡船によりて朝鮮に連る。九州には門司に起る鹿兒島本線ありて南に走り途中長崎本線を分ち、本線は鹿兒島に達し、小倉より岐れ九州東側を貫く日豊本線と合し循環路線をなす。朝鮮にては京釜・京義の二本線ありて南北に貫き鴨綠江の國際鐵橋を渡りて滿鐵の安奉線に連り島内の幹線たるのみならず、日本・滿洲及び歐亞連絡幹線の一部をなす。その京城よりは別に京元・咸鏡・北鮮の三線を経て滿洲國有の京

國線にも連絡す。これら諸幹線を連接する多數の支線ありて今や内地は殆ど鐵道の通過せざる地區稀なる状態に至れり。しかも近時自動車漸く普及し鐵道支線の建設に代へ、道路を改修してバスによりて幹支線間の連絡に便せんとする機運にあり。その外大都市内の道路には多くは電車の運轉行はれ更に郊外の都邑を繋ぐ電車路線亦少なからず、即ち東京・名古屋・京阪神等を中心とするこれらの電車網は可なり發達して交通頗る便利なり。〔海上交通〕我が國の本土は四面環海の列島にて朝鮮併合後の今日も尙ほ海國の實を失はず、世界列國との交通は主として海路による。而して海上の交通並に通商機關たりし船舶特に汽船は近時頗るその機構を改良し、航海の安全度、積載力と速力の増加を示し、今や商船の活躍は單に交通・通商機關たるに留らず海上運送の一大産業と化するに至れり。昭和十年度の我國の船舶總數は約七二、〇〇〇艘、噸數五六七萬噸あり。内汽船は約九二〇〇艘(内地七八九二艘、外地一三一二艘)噸數四二三萬噸(内地三九一萬噸餘、外地三二萬噸餘)にして英・米兩國に次ぎ世界第三位を占む。その主要商船の活躍は全世界の海洋に互り、主として日本郵船・大阪商船をはじめ國際汽船・近海郵船・三井物産等々の諸會社によりて營業し、殊に日本郵船・大阪商船の二大會社所有の汽船にて總噸數の三分の一以上